

志木市の文化財 第54集

城山遺跡第71地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

埼玉県志木市教育委員会

はじめに

志木市教育委員会
教育長 尾崎 健市

ここに刊行する『城山遺跡第 71 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、平成 23 年度に受託事業として、教育委員会が発掘調査を実施した成果をまとめたものです。

城山遺跡については、今までの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時代にわたる複合遺跡であることが判明しています。遺跡内には、市指定文化財の「城山貝塚」、大石信濃守の居城跡と考えられる「柏の城」をはじめ、市内最古の土器群に位置付けられる「爪形文系土器」が発見されるなど、注目を浴びています。さて、今回報告する第 71 地点の調査成果ですが、旧石器時代から近世に亘る遺構・遺物が発見されました。遺構については、旧石器時代の遺物集中区 2 基、弥生時代の住居跡 2 軒、古墳時代後期の住居跡 1 軒、奈良・平安時代の住居跡 4 軒、掘立柱建築遺構 1 棟、溝状遺構 6 条、そして柱穴が多数見つかりました。特に、南北に延びる規模の大きな溝状遺構は、「柏の城」の内堀と考えられ、「柏の城」の実態解明に近づく重要な発見と言えます。遺物については、旧石器時代の石器、縄文時代の土器、弥生時代後期から古墳時代前期の土器、古墳時代後期の土師器、平安時代の土師器・須恵器、中世以降の陶磁器などが出土しました。

このような貴重な成果が得られ、志木市の歴史にまた新たな 1 ページを追加することができました。今後もこうした新発見が、郷土の歴史研究に、ひいては幅広い学術研究に役立てられることを切に願うものです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた土木工事主体者並びに土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げる次第です。

例 言

1. 本書は、平成 23 年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する城山遺跡第 71 地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、分譲住宅建設に伴う記録保存のための発掘調査として、工事主体者である個人から委託を受け、志木市教育委員会が調査主体者として実施した。
3. 埋蔵文化財保存事業の実施にあたり、発掘作業・整理作業・報告書刊行作業を共和開発株式会社（代表取締役 加藤直秀）に支援業務として委託した。
4. 発掘作業は平成 23 年 8 月 8 日から 12 月 22 日まで行い、引き続き、整理作業・報告書刊行作業を平成 25 年 3 月 31 日まで行った。
5. 本書は尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡が監修し、編集は加藤夏姫が行った。執筆は第 1 章を尾形則敏、第 2 章第 1 節を大久保聡、第 2 節を中山哲也・二瓶秀幸、第 4 章を稲村太郎、それ以外を加藤夏姫が担当した。
6. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターに一括して保管している。
7. 調査組織は以下の通りである。

【志木市教育委員会組織】

調 査 主 体 者	志木市教育委員会
教 育 長	白 砂 正 明（平成 20 年 4 月～平成 24 年 6 月）
〃	尾 崎 健 市（平成 24 年 7 月～）
教 育 政 策 部 長	丸 山 秀 幸（平成 24 年 4 月～平成 24 年 9 月）
教 育 政 策 部 次 長	菊 原 龍 治（平成 24 年 10 月～）
生 涯 学 習 課 長	土 岐 隆 一（平成 21 年 4 月～平成 24 年 3 月）
	谷 口 敬（平成 24 年 4 月～）
生 涯 学 習 課 副 課 長	松 井 俊 之（平成 23 年 4 月～）
生 涯 学 習 課 主 査	尾 形 則 敏（平成 21 年 4 月～）
生 涯 学 習 課 専 任 主 査	武 井 香 代 子（平成 24 年 4 月～）
生 涯 学 習 課 主 任	松 永 真 知 子（平成 22 年 4 月～）
生 涯 学 習 課 主 事	徳 留 彰 紀（平成 22 年 4 月～）
生 涯 学 習 課 主 事 補	大 久 保 聡（平成 24 年 4 月～）
志木市文化財保護審議会	井上國夫（会長）
	高橋長次・高橋 豊・上野守嘉・深瀬 克（委員）

【共和開発株式会社】

中山哲也（調査担当者）

二瓶秀幸・白谷珠美・愛川弘樹・岩下啓介・上田徳彦・扇田義嗣・大津美依里・柏原康晴・斉藤正毅・酒井真之・高橋豊治・高橋広行・高森裕一・中島良太・中山弘人・野村雅美・早坂雅義・細田昭彦・松澤 匡・松本雄三・本山真一・矢野聖次

整理作業参加者

岩澤朋子・大賀秀実・沼田厚子・小林佐恵子・田中歩・田村久美子・中村いわね・中村智美・中村真理・長谷川大輔・本望礼子・松本和延・三上加奈子

8. 発掘作業及び整理作業・報告書刊行作業には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立埋蔵文化財センター・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館・（株）パリノ・サーヴェイ

浅野晴樹・石塚宏明・越前谷理・江原 順・大久保淳・加藤秀之・川畑隼人・亀田直美・隈本健介・小出輝雄・斉藤 純・齋藤欣延・斯波 治・渋谷寛子・鈴木一郎・谷口 榮・照林敏郎・根本 靖・野沢 均・橋本真紀夫・早坂廣人・堀 善之・前田秀則・松本富雄・両角まり・柳井章宏・山田尚友・山本 龍・和田晋治・渡辺邦仁

9. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については下記のとおりである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）／平成 23 年 8 月 9 日付け 教生文第 5 - 479 号

○埋蔵物の文化財認定について／平成 24 年 2 月 27 日 教生文第 7 - 288 号

凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第 1 図 1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第 2 図 1：2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成 15 年 8 月発行
株式会社ゼンリン

2. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
3. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。
4. ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位は cm である。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。
5. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
6. 遺構挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内にその内容を示したが、遺物挿図版中のスクリーントーンは、土器の赤彩・黒色処理・施釉範囲、石器・石製品の磨面・砥面を示す。
7. 遺構の略記号は、以下のとおりである。

Y = 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡 H = 古墳時代後期～奈良・平安時代の住居跡

M = 溝状遺構 T = 掘立柱建築遺構 D = 土坑 P = ピット

目 次

はじめに

例 言

凡 例

目 次

挿図目次

表 目 次

図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2節 遺跡の概要	8
第2章 発掘調査の概要	10
第1節 調査に至る経緯	10
第2節 調査の方法と経過	10
第3節 基本層序	15
第3章 検出された遺構と遺物	20
第1節 旧石器時代	20
(1) 概 要	20
(2) ブロック	20
(3) 礫 群	30
(4) 旧石器時代の遺構外出土石器	44
第2節 縄文時代	55
(1) 概 要	55
(2) 土 坑	55
(3) ピット	58
第3節 弥生時代	61
(1) 概 要	61
(2) 住居跡	61
第4節 古墳時代	67
(1) 概 要	67
(2) 住居跡	67
第5節 奈良・平安時代	70
(1) 概 要	70
(2) 住居跡	70
(3) ピット	75
第6節 中世遺構	76
(1) 概 要	76
(2) 溝 跡	76
(3) 井戸跡	89

(4) 土 坑	93
(5) 掘立柱建築遺構	141
(6) ピット	144
第7節 遺構外出土遺物	164
第4章 調査のまとめ	189
[付編] 城山遺跡 71 地点の自然科学分析	203
図 版	
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図	市域の地形と遺跡分布 (1 / 20,000)	2
第2図	城山遺跡の調査地点 (1 / 3,000)	7
第3図	第71 地点確認調査状況 (1 / 400)	11
第4図	調査区画図 (1 / 2000)	12
第5図	基本層序設定位置 (1 / 400)	16
第6図	基本層序1 (1 / 100)	17
第7図	基本層序2 (1 / 100)	18
第8図	遺構分布図 (1 / 400)	19
第9図	旧石器時代遺構分布図 (1 / 400)	21
第10図	1ブロック器種別分布図 (1 / 60)	22
第11図	1ブロック母岩別分布図 (1 / 60)	23
第12図	1ブロック出土遺物1 (2 / 3)	24
第13図	1ブロック出土遺物2 (2 / 3)	25
第14図	1ブロック出土遺物3 (2 / 3)	26
第15図	1ブロック出土遺物4 (2 / 3)	27
第16図	2ブロック器種別分布図 (1 / 60)	28
第17図	2ブロック母岩別分布図 (1 / 60)	29
第18図	2ブロック出土遺物 (2 / 3)	29
第19図	礫群1 微細図 (1 / 60)・組成グラフ	32
第20図	礫群1 重量別分布図 (1 / 60)	33
第21図	礫群1 A・1 B 微細図 (1 / 30)・組成グラフ	34
第22図	礫群1 B・1 C・1 D 微細図 (1 / 30)・組成グラフ	35
第23図	礫群1 D・1 E 微細図 (1 / 30)・組成グラフ	36
第24図	礫群1 F 微細図 (1 / 30)・組成グラフ	37
第25図	礫群2 微細図 (1 / 60)・組成グラフ	40
第26図	礫群2 重量別分布図 (1 / 60)	41
第27図	礫群2 A・2 B 微細図 (1 / 30)・組成グラフ	42
第28図	礫群2 B・2 C 微細図 (1 / 30)・組成グラフ	43
第29図	遺構外出土旧石器時代遺物 (2 / 3)	44
第30図	縄文時代遺構分布図 (1 / 400)	56
第31図	縄文時代土坑・出土遺物1 (1 / 60・1 / 3)	57
第32図	縄文時代土坑・出土遺物2 (1 / 60・1 / 3・1 / 4)	58

第33 図	縄文時代遺物出土ピット (1 / 60)	59
第34 図	縄文時代ピット出土遺物 (1 / 3・1 / 4)	59
第35 図	弥生時代遺構分布図 (1 / 400)	62
第36 図	5号住居跡・遺物出土状態・掘り方・出土遺物 (1 / 30・1 / 60・1 / 3・1 / 4)	63
第37 図	6号住居跡・出土遺物 (1 / 60・1 / 2・1 / 3)	64
第38 図	6号住居跡掘り方 (1 / 60)	65
第39 図	6号住居跡粘土板炉 (1 / 30)	66
第40 図	285号住居跡 (1 / 60)	67
第41 図	古墳時代遺構分布図 (1 / 400)	68
第42 図	285号住居跡出土遺物 (1 / 4)	69
第43 図	奈良・平安時代遺構分布図 (1 / 400)	71
第44 図	281号住居跡・出土遺物 (1 / 60・1 / 4)	72
第45 図	282号住居跡 (1 / 60)	73
第46 図	282号住居跡カマド (1 / 30)	73
第47 図	282号住居跡出土遺物 (1 / 2・1 / 3・1 / 4)	73
第48 図	283号住居跡 (1 / 60)	74
第49 図	283号住居跡カマド・出土遺物 (1 / 30・1 / 4)	74
第50 図	284号住居跡・出土遺物 (1 / 60・1 / 4)	75
第51 図	中世遺構分布図 (1 / 400)	77
第52 図	近世遺構分布図 (1 / 400)	78
第53 図	58号溝跡1 (1 / 100・1 / 150)	79
第54 図	58号溝跡2	80
第55 図	59号溝跡南側1 (1 / 150)	81
第56 図	59号溝跡南側2 (1 / 100)	82
第57 図	59号溝跡南側3	83
第58 図	59号溝跡南側4	84
第59 図	59号溝跡北側 (1 / 100・1 / 150)	84
第60 図	61号溝跡 (1 / 100・1 / 150)	85
第61 図	62号溝跡 (1 / 100・1 / 150)	86
第62 図	61号・62号溝跡出土遺物分布図 (1 / 150)	87
第63 図	60号溝跡 (1 / 100・1 / 150)	88
第64 図	63号溝跡 (1 / 100・1 / 150)	89
第65 図	溝跡出土遺物 (1 / 2・1 / 3・1 / 4)	90
第66 図	井戸跡 (1 / 60)	92
第67 図	井戸跡出土遺物 (1 / 4)	93
第68 図	中世以降土坑全体図 (1 / 400)	94
第69 図	土坑A群2類 (1 / 60)	95
第70 図	土坑B群2類1 (1 / 60)	96
第71 図	土坑B群2類2 (1 / 60)	100
第72 図	土坑B群2類3 (1 / 60)	103
第73 図	土坑B群2類4 (1 / 60)	107
第74 図	土坑B群2類5 (1 / 60)	112
第75 図	土坑B群2類6 (1 / 60)	113
第76 図	土坑B群3類1 (1 / 60)	115

第77 図	土坑B群3類2 (1 / 60)	118
第78 図	土坑C群1 (1 / 60)	121
第79 図	土坑C群2 (1 / 60)	123
第80 図	土坑D群1 (1 / 60)	128
第81 図	土坑D群2 (1 / 60)	129
第82 図	土坑D群3 (1 / 60)	130
第83 図	B群・C群・D群土坑出土遺物 (1 / 2・1 / 3・1 / 4・4 / 5)	131
第84 図	土坑E群1類834号土坑 (1 / 60)	133
第85 図	土坑E群1類834号土坑出土遺物 (1 / 2)	133
第86 図	土坑E群1類845号土坑1 (1 / 60)	134
第87 図	土坑E群1類845号土坑出土遺物 (1 / 3・1 / 4)	134
第88 図	土坑E群1類845号土坑2	135
第89 図	土坑E群1類846号土坑 (1 / 60)	136
第90 図	土坑E群1類864号土坑 (1 / 60)	137
第91 図	土坑E群1類864号土坑出土遺物 (1 / 2・1 / 3・1 / 4)	137
第92 図	土坑E群1類878号土坑 (1 / 60)	139
第93 図	土坑E群1類904号土坑 (1 / 60)	140
第94 図	土坑E群1類904号土坑出土遺物 (1 / 3・1 / 4)	140
第95 図	9号掘立柱建築遺構1 (1 / 60)	142
第96 図	9号掘立柱建築遺構2 (1 / 60)	143
第97 図	9号掘立柱建築遺構出土遺物 (1 / 4・4 / 5)	143
第98 図	柱穴列跡 (1 / 60)	144
第99 図	柱穴列跡出土遺物 (1 / 3)	144
第100 図	中世以降遺物出土ピット (1 / 30・1 / 60)	145
第101 図	中世以降ピット出土遺物 (1 / 2・1 / 3・1 / 4・4 / 5)	146
第102 図	中世以降ピット全体図 (1 / 400)	148
第103 図	中世以降ピット1 (1 / 100)	149
第104 図	中世以降ピット2 (1 / 100)	150
第105 図	中世以降ピット3 (1 / 100)	151
第106 図	中世以降ピット4 (1 / 100)	152
第107 図	中世以降ピット5 (1 / 100)	153
第108 図	中世以降ピット6 (1 / 100)	154
第109 図	中世以降ピット7 (1 / 100)	155
第110 図	遺構外出土石器1 (2 / 3・1 / 3)	165
第111 図	遺構外出土石器2 (1 / 3)	166
第112 図	遺構外出土石器3 (1 / 3)	167
第113 図	遺構外出土石器4 (1 / 3)	168
第114 図	遺構外出土石器5 (1 / 3)	169
第115 図	遺構外出土石器6 (1 / 3)	170
第116 図	遺構外出土縄文土器1 (1 / 3・1 / 4)	173
第117 図	遺構外出土縄文土器2 (1 / 3・1 / 4)	174
第118 図	遺構外出土縄文土器3・弥生～古墳時代土器1 (1 / 3・1 / 4)	175
第119 図	遺構外出土弥生～古墳時代土器2・奈良～平安時代土器・中世以降土器・陶磁器1 (1/3・1/4)	176
第120 図	遺構外出土中世以降土器・陶磁器2・土製品 (1 / 4)	177

第121 図	遺構外出土金属製品・銭貨・鍛冶炉関連遺物 1 (1/2・1/3・1/4・4/5)	179
第122 図	遺構外出土鍛冶炉関連遺物 2 (1/3)	180
第123 図	遺構外出土鍛冶炉関連遺物 3 (1/3)	181
第124 図	城山遺跡検出溝状遺構断面図 1 (1/60)	194
第125 図	城山遺跡検出溝状遺構断面図 2 (1/60)	195
第126 図	城山遺跡検出溝状遺構断面図 3 (1/60)	196
第127 図	城山遺跡検出溝状遺構位置図 (1/3000)	197
第128 図	城山遺跡周辺の航空写真と溝状遺構	198
第129 図	マルタニシ殻高分布	205
第130 図	鉄滓 No.183 の外観および表面マクロ	207
第131 図	鉄滓 No.193 の外観および表面マクロ	207
第132 図	鉄滓 No.188 の外観および表面マクロ	208
第133 図	鉄滓 No.185 の外観および表面マクロ	208

表 目 次

第1 表	志木市埋蔵地文化財包蔵地一覧	1
第2 表	城山遺跡第 71 地点発掘調査工程表 1	13
第3 表	城山遺跡第 71 地点発掘調査工程表 2	14
第4 表	1 ブロック出土石器	45
第5 表	2 ブロック出土石器 1	45
第6 表	2 ブロック出土石器 2	46
第7 表	礫群 1 A 礫観察表	46
第8 表	礫群 1 B 礫観察表	46
第9 表	礫群 1 C 礫観察表 1	47
第10 表	礫群 1 C 礫観察表 2	48
第11 表	礫群 1 D 礫観察表 1	49
第12 表	礫群 1 D 礫観察表 2	50
第13 表	礫群 1 E 礫観察表 1	50
第14 表	礫群 1 E 礫観察表 2	51
第15 表	礫群 1 F 礫観察表 1	51
第16 表	礫群 1 F 礫観察表 2	52
第17 表	礫群 2 A 礫観察表	52
第18 表	礫群 2 B 礫観察表 1	52
第19 表	礫群 2 B 礫観察表 2	53
第20 表	礫群 2 B 礫観察表 3	54
第21 表	礫群 2 C 礫観察表	54
第22 表	遺構外出土旧石器時代遺物	54
第23 表	縄文時代ピット計測表	60
第24 表	縄文時代土坑出土遺物	60
第25 表	縄文時代ピット出土遺物	60
第26 表	弥生時代住居跡出土土器	66
第27 表	弥生時代住居跡出土金属製品	66

第28表	古墳時代住居跡出土土器	69
第29表	奈良・平安時代ピット計測表	75
第30表	奈良・平安時代住居跡出土土器	75
第31表	奈良・平安時代住居跡出土石製品	75
第32表	奈良・平安時代住居跡出土金属製品	75
第33表	土坑集計表	93
第34表	中世以降ピット計測表 1	156
第35表	中世以降ピット計測表 2	157
第36表	中世以降ピット計測表 3	158
第37表	中世以降ピット計測表 4	159
第38表	中世以降ピット計測表 5	160
第39表	中世以降ピット計測表 6	161
第40表	中世以降遺構内出土土器・陶磁器 1	162
第41表	中世以降遺構内出土土器・陶磁器 2	163
第42表	中世以降遺構内出土土製品	163
第43表	中世以降遺構内出土金属製品	163
第44表	中世以降遺構内出土石器・石製品	163
第45表	中世以降遺構内出土銭貨	163
第46表	遺構外出土縄文時代以降石器	182
第47表	遺構外出土縄文土器 1	183
第48表	遺構外出土縄文土器 2	184
第49表	遺構外出土弥生・古墳時代土器	185
第50表	遺構外出土奈良・平安時代土器 1	185
第51表	遺構外出土奈良・平安時代土器 2	186
第52表	遺構外出土中世以降土器・陶磁器 1	186
第53表	遺構外出土中世以降土器・陶磁器 2	187
第54表	遺構外出土中世以降土器・陶磁器 3	188
第55表	遺構外出土土製品	188
第56表	遺構外出土金属製品	188
第57表	遺構外出土銭貨	188
第58表	遺構外出土鍛冶炉関連遺物	188
第59表	城山遺跡検出溝状遺構 1	193
第60表	城山遺跡検出溝状遺構 2	194
第61表	検出動物分類群一覧	203
第62表	骨貝類同定結果	205

図版目次

- 図版 1 調査区全景
- 図版 2 1. 1 区全景 2. 2 区全景
- 図版 3 1. 4 区全景 2. 施行前全景 3. 基本層序 1 (南北南側) 4. 基本層序 1 (南北北側)
5. 基本層序 1 (東西) 6. 基本層序 2 (東西) 7. 基本層序 2 (南北北側)
8. 基本層序 2 (南北南側)

- 図版 4 1. 基本層序 5 (東西北側) 2. 基本層序 5 (東西南側) 3. 基本層序 5 (南北)
4. 基本層序 3 (南北) 5. 基本層序 3 (東西東側) 6. 基本層序 3 (東西西側)
- 図版 5 1. 基本層序 4 (東西南側) 2. 基本層序 4 (南北南側) 3. 基本層序 4 (南北北側)
4. 基本層序 4 (東西北側) 5. 旧石器礫群 1 6. 旧石器礫群 1
7. 旧石器礫群 2 (1面) 8. 旧石器礫群 2 (2面)
- 図版 6 1. 868 号土坑 2. 871 号土坑 3. 896 号土坑 4. 924 号土坑 5. 947 号土坑
6. 5号住居跡 7. 5号住居跡遺物出土状況 8. 6号住居跡
- 図版 7 1. 6号住居跡粘土板炉 2. 6号住居跡粘土板炉 sec 3. 6号住居跡粘土板炉完掘
4. 6号住居跡掘り方 5. 285号住居跡遺物出土状況 1 6. 285号住居跡遺物出土状況 2
7. 285号住居跡 8. 281号住居跡
- 図版 8 1. 282号住居跡遺物出土状況 2. 282号住居跡カマド袖 3. 282号住居跡
4. 283号住居跡 5. 283号住居跡カマド sec 6. 283号住居跡カマド掘り方
7. 284号住居跡 8. 58号溝跡遺物出土状況
- 図版 9 1. 58号溝跡東側 2. 58号溝跡西側 3. 59号溝跡北側 4. 59号溝跡南側
5. 59号溝跡南側 sec 6. 61号溝跡遺物出土状況 1 7. 61号溝跡遺物出土状況 2
8. 62号溝跡遺物出土状況
- 図版 10 1. 61・62号溝跡 2. 61・62号溝跡 3. 60号溝跡 4. 63号溝跡 5. 41号井戸跡
6. 41号井戸跡足掛け穴 7. 42号井戸跡 8. 43号井戸跡
- 図版 11 1. 44号井戸跡貝検出状況 2. 44号井戸跡 3. 45号井戸跡 4. 46号井戸跡
5. 47号井戸跡 6. 47号井戸跡足掛け穴 7. A群2類 881号土坑
8. A群2類 882号土坑
- 図版 12 1. B群2類 835号土坑 2. B群2類 836号土坑 3. B群2類 837号土坑
4. B群2類 839号土坑 5. B群2類 841号土坑 6. B群2類 842号土坑
7. B群2類 843号土坑 8. B群2類 850号土坑
- 図版 13 1. B群2類 866号土坑 2. B群2類 880号土坑 3. B群2類 885号土坑
4. B群2類 891号土坑 5. B群2類 898号土坑 6. B群2類 912号土坑
7. B群2類 917号土坑 8. B群2類 920・921・922号土坑
- 図版 14 1. B群3類 847号土坑 2. B群3類 856号土坑 3. B群3類 858号土坑
4. B群3類 893号土坑 5. B群3類 895号土坑 6. B群3類 925号土坑
7. B群3類 927号土坑 8. B群3類 949号土坑
- 図版 15 1. C群 853号土坑 2. C群 855号土坑 3. C群 876号土坑 4. C群 888号土坑
5. C群 897号土坑 6. C群 908号土坑 7. C群 909号土坑 8. C群 941号土坑
- 図版 16 1. C群 943号土坑 2. C群 945号土坑 3. D群 849号土坑 4. D群 859号土坑
5. D群 865号土坑 6. D群 865号土坑 7. D群 867号土坑 8. D群 869号土坑
- 図版 17 1. D群 861号土坑北側 2. D群 861号土坑南側 3. D群 887号土坑
4. D群 889号土坑 5. D群 913号土坑 6. D群 931号土坑南側
- 図版 18 1. E群1類 834号土坑 2. E群1類 834号土坑 3. E群1類 834号土坑坑底
4. E群1類 834号土坑竪坑検出 5. E群1類 845号土坑砂利検出状況
6. E群1類 845号土坑 7. E群1類 845号土坑 8. E群1類 845号土坑
- 図版 19 1. E群1類 846号土坑 2. E群1類 846号土坑 3. E群1類 864号土坑

4. E群1類864号土坑 5. E群1類864号土坑坑底 6. E群1類864号土坑竪坑
7. E群1類878号土坑 8. E群1類878号土坑
- 図版20 1. E群1類878号土坑 2. E群1類878号土坑 3. E群1類878号土坑坑底
4. E群1類878号土坑坑底 5. E群1類904号土坑 6. E群1類904号土坑
7. E群1類904号土坑竪坑 8. E群1類904号土坑竪坑
- 図版21 1. 147号ピット遺物出土状況上層 2. 147号ピット遺物出土状況中層
3. 147号ピット遺物出土状況下層 4. 147号ピット 5. 165号ピット貝出土状況
6. 165号ピット 7. 作業風景 8. 現地中学生の現場見学
- 図版22 1. 1ブロック出土遺物 2. 1ブロック接合資料(SH1-1) 3. 1ブロック接合資料(SH1-2)
4. 1ブロック接合資料(SH1-3)
- 図版23 1. 1ブロック接合資料(CH1-1) 2. 1ブロック接合資料(CH1-2)
3. 1ブロック接合資料(CH2-1) 4. 1ブロック接合資料(CH3-1) 5. 2ブロック出土遺物
6. 遺構外出土旧石器時代遺物
- 図版24 1. 868号土坑 2. 871号土坑 3. 924号土坑 4. 214号ピット 5. 526号ピット
6. 621号ピット 7. 924号ピット 8. 929号ピット 9. 594号ピット
10. 5号住居跡 11. 6号住居跡
- 図版25 1. 285号住居跡 2. 281号住居跡 3. 283号住居跡 4. 284号住居跡
5. 282号住居跡
- 図版26 1. 59号溝跡 2. 61号溝跡 3. 62号溝跡
- 図版27 1. 43号井戸跡 2. D群931号土坑 3. B群2類836号土坑 4. B群2類839号土坑
5. C群855号土坑 6. D群859号土坑 7. B群2類874号土坑
- 図版28 1. B群2類875号土坑 2. B群2類884号土坑 3. B群2類885号土坑
4. C群888号土坑 5. B群2類890号土坑 6. B群2類900号土坑
7. B群2類917号土坑 8. C群920号土坑 9. D群938号土坑
10. B群2類939号土坑 11. B群2類944号土坑 12. B群2類948号土坑
13. E群1類834号土坑 14. E群1類845号土坑
- 図版29 1. E群1類864号土坑 2. E群1類904号土坑 3. 9号掘立柱建築遺構 4. 柱穴列跡
5. 32号ピット 6. 326号ピット 7. 147号ピット 8. 328号ピット
- 図版30 1. 479号ピット 2. 602号ピット 3. 674号ピット 4. 749号ピット
5. 897号ピット 6. 遺構外出土石器1
- 図版31 遺構外出土石器2
- 図版32 遺構外出土石器3
- 図版33 遺構外出土石器4
- 図版34 遺構外出土石器5
- 図版35 遺構外出土縄文土器1
- 図版36 遺構外出土縄文土器2・弥生～古墳時代土器1
- 図版37 遺構外出土弥生～古墳時代土器2・奈良～平安時代土器・中世以降土器・陶磁器1
- 図版38 遺構外出土中世以降土器・陶磁器2・土製品・金属製品・銭貨
- 図版39 遺構外出土鍛冶炉関連遺物
- 図版40 遺構出土骨・貝類

第1章 遺跡の立地と環境

1 節 市域の地形と遺跡

(1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりを持ち、面積は 9.06 km²、人口約 7 万 2 千人の自然と文化の調和する都市である。

地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が広がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の 3 本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新 邸 遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	63,370 m ²	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中、近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	79,280 m ²	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、铸造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、铸造関連遺物等
5	中道	50,500 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中、近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800 m ²	林	古墳？	古墳？	古墳？	なし
7	西原大塚	163,930 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080 m ²	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前～後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 m ²	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	65,000 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	7,100 m ²	宅地	集落跡	弥（後）～古（前）	住居跡	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800 m ²	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 m ²	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 m ²	田	館跡	中世	溝跡・井桁状構造物	木・石製品
15	市場裏	13,800 m ²	宅地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡・方形周溝墓・土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700 m ²	宅地	不明	近世以降？	溝跡	なし
	合計	481,860 m ²					

平成 24 年 12 月 28 日 現在

第 1 表 志木市埋蔵地文化財包蔵地一覧



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1 / 20,000)

平成24年12月28日現在

と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）のように自然堤防上に存在する遺跡も明らかにされつつあり、将来的には新たな遺跡が相次いで発見される可能性がある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した12遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた14遺跡である（第1図）。

（2）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6（1994）年度には2ヶ所、平成7年（1995）度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からも立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。

平成13（2001）年に発掘調査が実施された城山遺跡第42地点では、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2ヶ所で石器集中地点が確認され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの抉入石器・剥片など32点が出土している。

平成20・21（2009・2010）年度にかけては、城山遺跡第62地点の発掘調査が実施され、1ヶ所の石器ブロックが検出されている。

平成22（2010）年3月～5月にかけて発掘調査が実施された城山遺跡第63地点では、5ヶ所の試掘坑を設定し調査を実施したところ、立川ローム層の第Ⅵ層を中心とする3ヶ所の石器集中地点が確認され、黒曜石の二次加工剥片・石核などが20点ほど出土している。

2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6（1994）年に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2007）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とす

る東側でやや多く出土する傾向がある。また、富士前・新邸・城山遺跡からは、撚糸文系土器が数点出土し、条痕文系土器は、中野・田子山遺跡では炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で黒浜式期、城山遺跡では諸磯式期の住居跡が検出されている。そのうち、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。また、平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で180軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が1軒確認されるのみである。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1ヶ所が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、下層から称名寺I式期の土器、上層からII式の特徴をもつ土器が出土している。西原大塚遺跡第54地点でも2基の土坑が検出されている。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、現時点において、前・中期の遺跡は検出されていないが、後期末葉から古墳時代前期と考えられる遺跡が数多く検出されている。中でも、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が550軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見されている。この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土器をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から

古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に7世紀前半から中葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、7世紀前半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5 mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で200軒を越え、次いで中野遺跡で約50軒、中道遺跡で約15軒、田子山遺跡で約10軒、新邸遺跡で1軒を数える。

住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7 mの不整形で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。

また、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点の調査を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33 mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられている。

5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例で貴重な資料である。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。最新では、平成20～21（2008～2009）年の城山遺跡第62地点の調査により、平安時代の住居跡から皇朝十二銭の一つである「富壽神寶^{ふじゆしんぼう}」が2枚出土しており、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点から、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸軛が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群の前内出製品と鳩山製品の須恵器坏が1点ずつ出土し、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。

城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『たてむらきゆうき館村旧記』（註1）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。最新では、『かいこくざつき廻国雑記』（註2）に登場する『おおいしなののかみのやかた大石信濃守館』が「柏の城」に相当し、『おおつかじゆうぎよくぼう大塚十玉坊』についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。

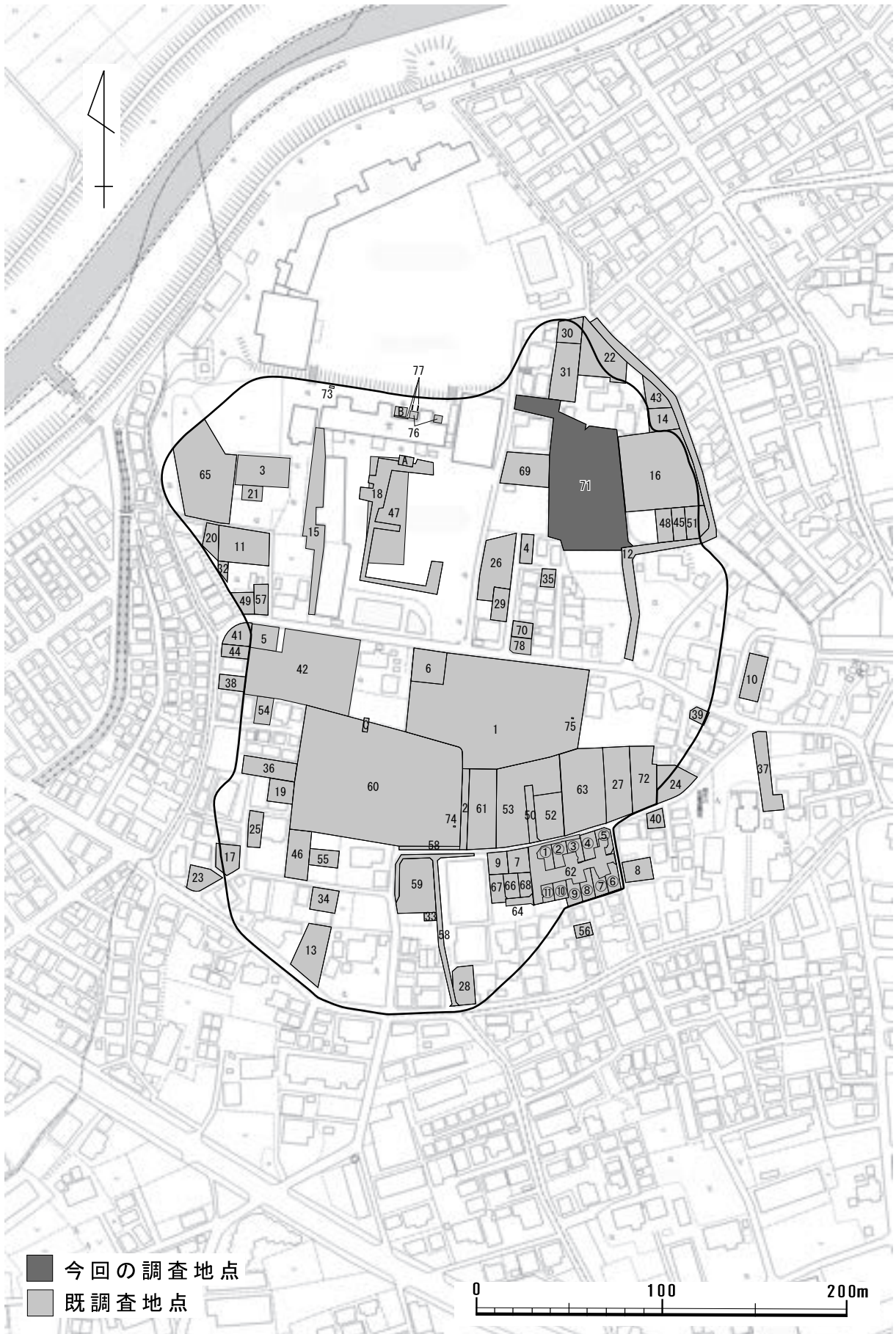
また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点では、鑄造関連の遺構も検出されている。130号土坑については鑄造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鑄型、三叉状土製品、砥石などが出土している。また平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、『よろい きね鑑の札である鉄製品1点と鉄鍬1点』が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑が検出されている。その他、ピット列・土坑・溝跡などが検出されていることから、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する施設ではないかと考えられる。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、『しょうりんざんかんのんじだいじゆいん松林山観音寺大受院』関連遺構として、今後は体系的な究明



第2図 城山遺跡の調査地点（1 / 3,000）

平成24年12月28日現在

が必要とされるであろう。

7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第2節 遺跡の概要

ここで、今回本書で報告する城山遺跡について概観することにする。

城山遺跡は、志木市柏町3丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約1.2km、柳瀬川駅の東約0.8kmに位置している。本遺跡は、柳瀬川右岸の台地上に立地しており、標高は約12m、低地との比高差は約5mである。

遺跡の周辺を眺めてみると、小学校や神社・墓地などが存在する閑静な住宅地と言えるが、最近では、平成18・19（2006・2007）年の福祉施設建設に伴う第58・60地点、平成19～21年度（2008・2009）年には、分譲住宅建設に伴う第62地点、平成21～22年度には、共同住宅建設に伴う第63地点、さらに平成23年度には、共同住宅建設に伴う第72地点や分譲住宅建設に伴う第71地点と毎年のように小・中規模に相当する開発行為に伴う発掘調査が実施され、僅かに残る緑地や畑地にまで各種開発の波が押し寄せている状況となっている。

さて、城山遺跡は、これまでに78回の調査（平成24年12月28日現在）が実施され、旧石器時代、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

以上、城山遺跡における今までの調査成果をまとめると、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・平安時代・中・近世の複合遺跡であり、また、複合する密度も散在的ではなく、市内では最も濃密な地区であることが判明してきている。

最後に、本遺跡の特色を時代別にまとめると、以下のとおりである。

- 旧石器時代 石器ブロックは第42地点から2ヶ所、第62地点から1ヶ所が検出されている。第71地点から礫群2ブロックが検出される。
- 縄文時代 第16・22地点から草創期の爪形文系土器1点ずつ出土。第21地点から草創期の多縄文系土器3点が出土。市指定文化財「城山貝塚」。平成3（1991）年3月29日指定。前期の斜面貝塚。前期の諸磯式期の住居跡が昭和49（1974）年の市史編さん事業における調査において1軒、第59地点から1軒が検出されている。また、第46地点から詳細時期は

決定できなかったが、前期末葉の住居跡1軒が検出されている。

第4地点から中期の住居跡1軒。加曾利EⅡ式期。

- 弥生時代 後期の住居跡4軒。第71地点から住居跡2軒が検出されている。
- 古墳時代 前期の住居跡2軒。
中期から後期の大集落。5世紀中葉から7世紀後葉にかけての住居跡が現在、約200軒を超えて検出されている。
- 奈良時代 検出される住居跡は大部分が平安時代に比定されるものであり、今のところ検出されていない。
第42地点の1号ピットから偏行唐草文の軒平瓦片1点出土。
- 平安時代 9世紀前半から10世紀にかけての住居跡約30軒。
第35地点128号住居跡から、印面に「富」と書かれた銅印が出土。
第42地点から方形区画の溝を伴う遺構が検出され、溝跡からは中国・同安窯系の青磁碗1点（13世紀前半）出土している。
第62地点241号住居跡から、富壽神寶2とその周辺から鉄鎌1点と土錘1点が出土しており、当地における古代銭貨の受容を示す一例につながった。
- 中・近世 「柏の城」関連の大堀を含めた溝跡・井戸跡・土坑が多数検出されている。第71地点では、南北に延びる「二の丸」曲輪に関連する中規模の堀跡が検出されている。
第29地点の127号土坑は馬の埋葬土坑。
第35地点からは鑄造関連遺構が検出されている。130号土坑は鑄造土坑。134号土坑は溶解炉と考えられる。第71地点でも第35地点の鑄造関連遺構に関係する遺物が多数出土している。

[註]

- 註1 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒なぬしみやほらなかえもんなかつねが、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。
- 註2 『廻国雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）6月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのぼし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

[引用文献]

- 神山健吉 1988 「廻国雑記」に現れる 大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察『郷土志木』第7号
2002 「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号

第2章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経緯

平成22年12月、あさか野農業協同組合より志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ土木工事計画地内における埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。工事計画は志木市柏町3丁目・2599-12、2603-2、2605-9、2611-2（面積1,971.84㎡）に分譲住宅の建設を行うものである。

教育委員会は、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である城山遺跡（コード11228-09-003）に該当するため、概ね下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施した上で、当該地における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 確認調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、保存措置を講ずること。また、現状保存及び盛土保存が不可能である場合については、記録保存（発掘調査）を実施する必要があること。
3. 城山遺跡における埋蔵文化財の分布状況については、周辺での調査結果に基づき、市内でも最も密集していることが判明していると説明する。

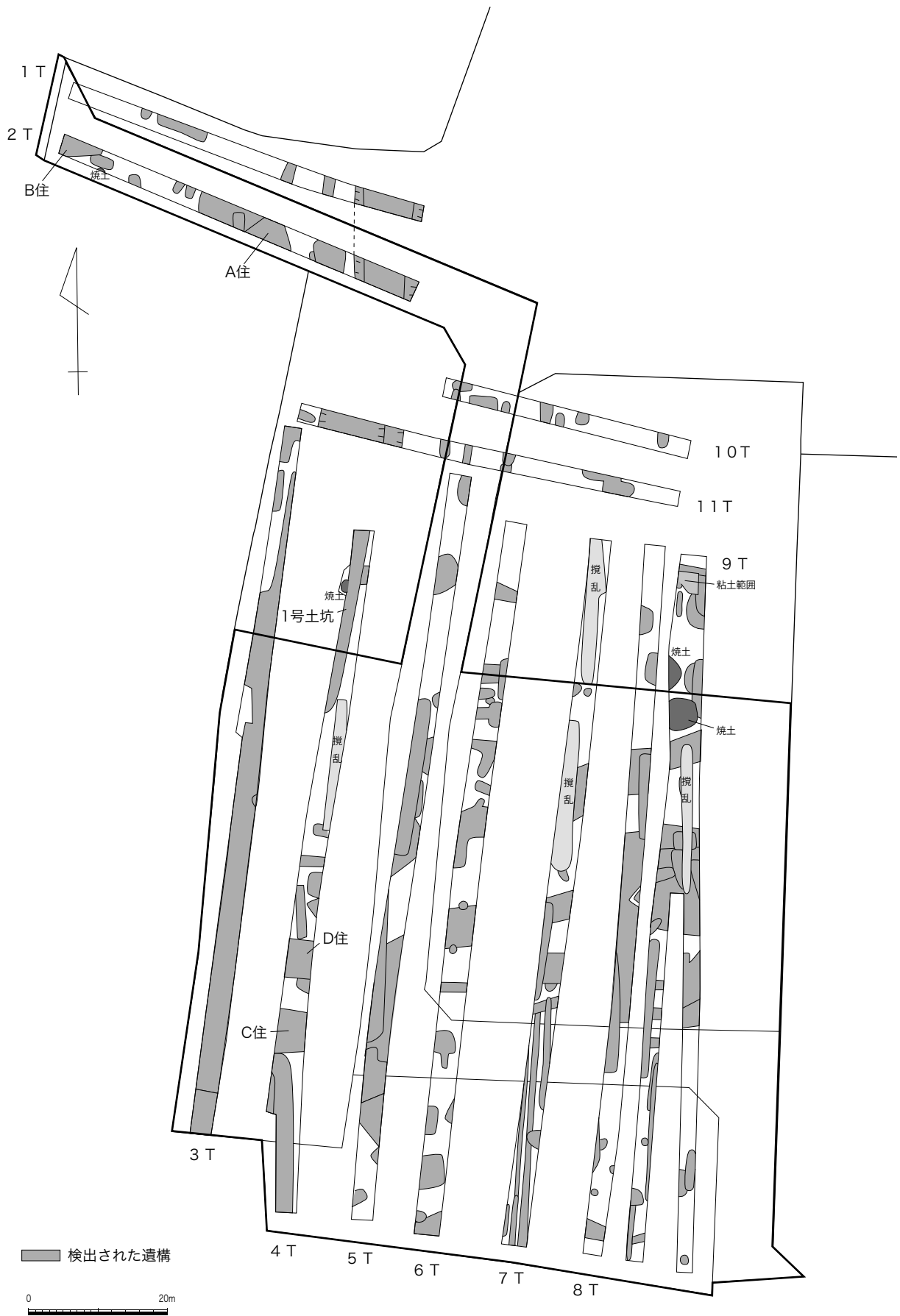
平成23年2月、教育委員会は、工事主体者から確認調査依頼書を受理し、3月1日から10日にかけて確認調査を実施した。11本のトレンチを設定し、バックホーで表土を剥ぎ、遺構確認作業を行った。その結果、古墳時代の住居跡7軒、中・近世の土坑30基、中・近世の地下室2基、中・近世の溝跡3本、ピット群多数を確認した。（第3図）。教育委員会は直ちにあさか野農業協同組合に確認調査の結果を報告し、同時に埋蔵文化財の保存措置を要請した。7月22日、保存措置に関する協議を行った結果、敷地全域において十分な保護層が確保できないため、記録保存（発掘調査）として取り扱うこととした。これを受けて教委教育委員会は、平成23年7月25日付で埋蔵文化財発掘調査の通知を埼玉県教育委員会に提出した。

平成23年8月、志木市埋蔵文化財保存事業取扱要綱に基づき、志木市（市長 長沼 明）と工事主体者との間で委託契約を締結した。調査主体者となる教育委員会は、発掘調査の実施にあたり、民間調査組織の支援を受けることとし、競争入札を行った。その結果、支援を依頼する民間調査組織が共和開発株式会社（代表取締役 加藤 直秀）に決定し、委託契約を締結した。

以上により、教育委員会を調査主体に、平成23年8月8日より発掘調査を実施した。

第2節 調査の方法と経過

発掘調査は、平成23年8月8日より開始し、平成23年12月22日を以って終了した。調査に当たり、発生土積み置き箇所確保や円滑な業務進行を図るため、事前協議の結果、調査範囲を4区画に分けて調査を実施した（第4図参照）。可能な場合は各区の調査を併行して行ったため、実施期間は一部重複する。調査経過については、第2・3表にまとめ、以下に日付順に説明する。



第3図 第71地点確認調査状況(1/400)

第2章 発掘調査の概要

平成 23 年

8月8日(月)～8月11日(木)：

現地発掘調査準備を行う。調査区の除草作業・資機材搬入等を開始した。

8月12日(金)～8月15日(月)：

夏季休業期間。

8月16日(火)：

調査区西側に1区調査位置を設定し、表土除去を開始した。

8月17日(水)～8月27日(土)：

1区表土除去作業を継続し、測量基準点を設置した。住居・溝・土坑などの遺構を確認した。

8月29日(月)～10月18日(火)：

1区の発掘調査を開始し、検出遺構の掘り下げ・精査・測量・写真撮影などを行った。

10月19日(水)：

1区全景空撮写真を撮影後、住居跡掘り方・地下室の調査を行った。

10月20日(木)～10月28日(金)：

1区住居跡掘り方・地下室の調査を継続し、1区の調査を終了した。2区への反転作業準備を行った。

10月25日(火)～10月26日(水)：

1区の南側に3区調査位置を設定し、表土除去作業を開始した。土坑などの遺構を確認した。

10月27日(木)～11月9日(水)：

3区の発掘調査を開始し、検出遺構の掘り下げ・精査・測量・写真撮影などを行った。

11月2日(水)～11月14日(月)：

調査区東側に2区調査位置を設定し、表土除去作業を開始した。住居・溝・土坑などの遺構を確認した。3区の埋め戻し作業を開始した。

11月15日(火)～11月18日(金)：

調査区南側に4区調査位置を設定し、表土除去作業を行った。

11月21日(月)～12月13日(火)：

2区・4区の発掘調査を開始し、検出遺構の掘り下げ・精査・測量・写真撮影などを行った。

12月14日(水)：

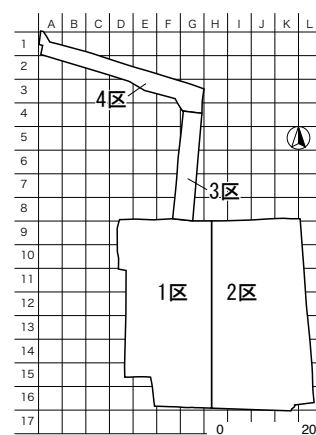
2区・4区全景空撮写真を撮影後、2区の旧石器ブロック・礫群、4区住居跡掘り方を調査した。

12月15日(木)～12月21日(水)：

2区の旧石器ブロック・礫群の調査を終了し、調査区の埋め戻し作業を行った。

12月22日(木)：

現地発掘調査を完了し、機材等の撤収作業を行った。



第4図 調査区画図 (1/2000)

	8月	9月	10月	11月	12月
表土剥ぎ作業	8.16				
5Y			10.6		
6Y			10.12		
281H		9.27			
282H			10.11		
283H			10.12		
284H					12.7
285H					12.10
834D		9.6			
835D	8.31				
836D	8.31				
837D	8.31				
838D	8.31				
839D	9.5				
840D	9.5				
841D	9.5				
842D		9.6			
843D		9.6			
844D		9.7			
845D		9.16			
846D		9.29			
847D		9.30			
848D		10.3			
849D		9.30			
850D		9.30			
851D		9.30			
852D		9.30			
853D			10.6		
854D			10.6		
855D			10.6		
856D			10.8		
857D			10.8		
858D			10.11		
859D			10.7		
860D			10.11		
861D			10.11		
862D			10.11		
863D			10.11		
864D			10.12		
864D			10.19		
865D			10.12		
865D			10.25		
866D			10.13		
867D			10.14		
868D			10.14		
869D			10.14		
870D			10.14		
871D			10.26		
872D			10.27		
873D			10.27		
874D			10.27		
875D			10.27		
876D			10.28		
877D			10.28		
878D			10.31		
879D			10.31		
880D			10.31		
881D			11.2		
882D			11.2		
883D			11.4		
884D			11.4		
885D				11.8	
886D				11.8	
887D				11.8	
888D				11.9	
889D				11.8	
890D				11.8	
891D				11.10	
892D				11.10	
893D				11.14	
894D				11.14	
895D				11.14	
896D				11.14	
897D				11.18	
898D				11.18	
899D				11.18	
900D				11.18	

第2表 城山遺跡第71地点発掘調査工程表1

第2章 発掘調査の概要

	8月	9月	10月	11月	12月
901D				11.18	
902D				11.18	
903D				11.18	
904D				11.18	
905D				11.18	
906D				11.18	
907D				11.18	
908D				11.18	
909D				11.18	
910D				11.18	
911D				11.21	
912D				11.22	
913D				11.24	
914D				11.24	
915D				11.24	
916D				11.25	
917D				11.21	
918D				11.21	
919D				11.21	
920D				11.21	
921D				11.21	
922D				11.21	
923D				11.21	
924D					12.5
925D				11.22	
926D				11.25	
927D				11.25	
928D				11.29	
929D				11.29	
930D				11.29	
931D				11.24	
932D				11.29	
933D				11.29	
934D				11.29	
935D				11.25	
936D				11.25	
937D				11.30	
938D				11.29	
939D				11.29	
940D				11.29	
941D				11.30	
942D					12.1
943D					12.1
944D				11.29	
945D				11.29	
946D					12.5
947D					12.11
948D				11.29	
949D					12.5
58M	9.1				
59M		9.12			
60M		9.13			
61M		9.13			
62M		9.13			
63M					12.5
41W	8.31				
42W				11.21	
43W				11.21	
44W				11.21	
45W				11.21	
46W				11.21	
47W				11.22	
旧石器					12.12
基本土層					12.16
埋め戻し・撤収					12.15

第3表 城山遺跡第71地点発掘調査工程表2

第3節 基本層序

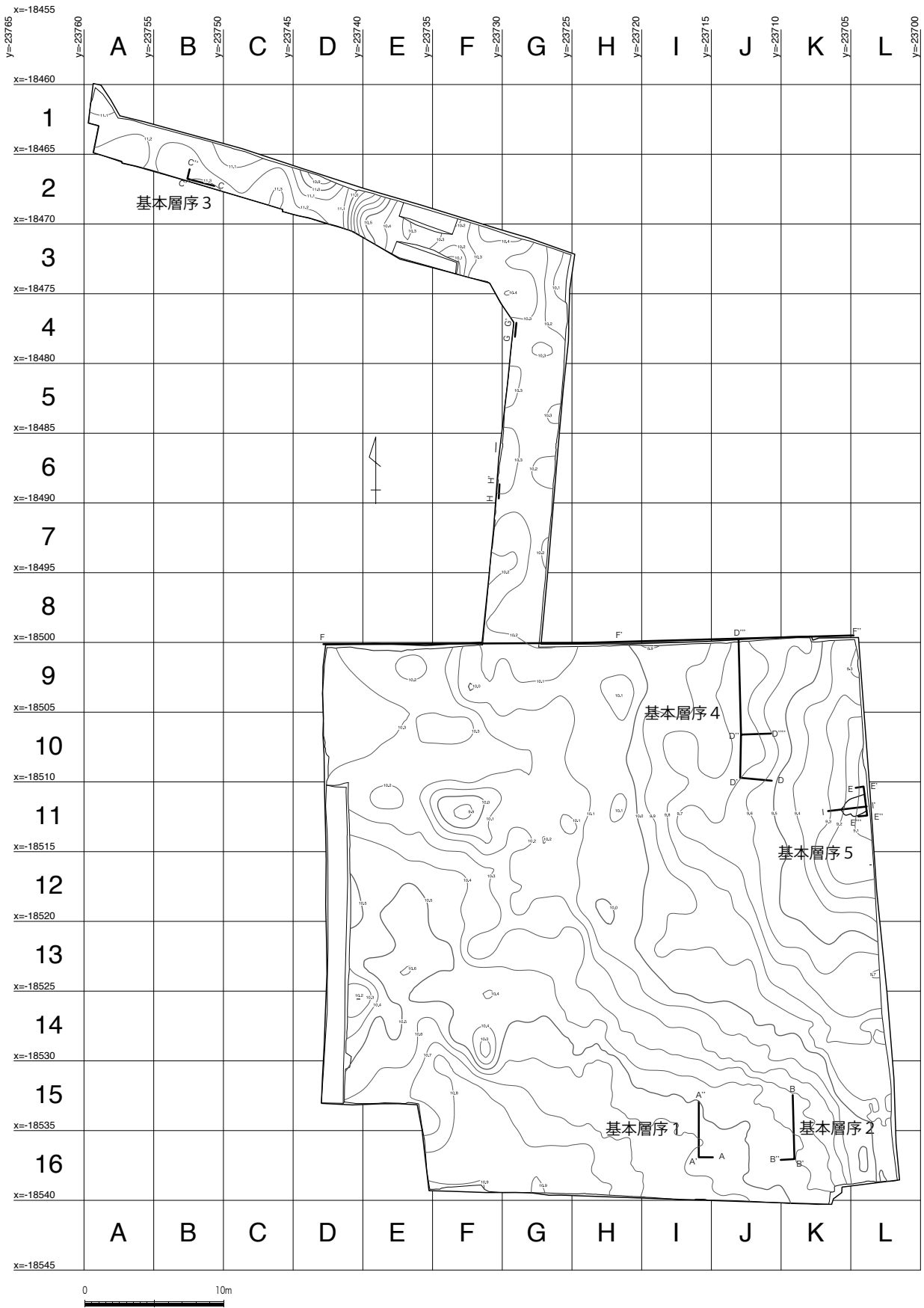
本調査地点では、調査区北部西側で1ヶ所、中央部東側で2ヶ所、南部東側で2ヶ所に基本層序を設定した。旧石器時代の文化層は中央部で1ヶ所、南部でそれぞれ2ヶ所確認することができた。中央部ではIX層まで、北部・南部ではX層を確認した。

調査地点内の微地形としては、基本層序5の地点が最も低く、基本層序1・2の地点では北東に向かって、基本層序4の地点では南東に向かってそれぞれ低くなっていく傾向が認められる。旧石器時代の調査区で見るとA区で北東方向、B区で南東方向に下がるということになる。これらのことから、基本層序1・2と基本層序4の間には非常に浅い谷状の地形が存在する可能性が考えられる。また、中世遺構の61号溝跡についてもこの地形を利用して構築していると考えられる。

基本層序1～4

- Ia層 粘性中、締り中、ロームブロック（1～3 cm、少量）、小砂利（1～2 cm、微量）を含む黒褐色土（10YR3/3）。現代の整地盛土。
- Ib層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（1～2 mm、少量）、ロームブロック（1～2 cm、微量）を含む暗褐色土（10YR3/3）。近世・近代の畝跡。
- III層 粘性強、締りやや弱、黒褐色スコリア粒子（1 mm、微量）、黒褐色スコリア粒子（1～2 mm、微量）、暗赤褐色スコリア粒子（1～2 mm、ごく微量）を含む褐色土（7.5YR4/4）。所謂、ソフトローム層。
- IV層 粘性強、締り強、黒褐色スコリア粒子（2～4 mm、多量）、明赤褐色スコリア粒子（1～3 mm、多量）を含むにぶい黄褐色土（10YR5/4）。
- V層 粘性強、締り強、黒褐色スコリア粒子（1～3 mm、中量）、明赤褐色スコリア粒子（1～2 mm、中量）、青灰色スコリア粒子（0.5 mm、ごく微量）を含む褐色土（10YR4/4）。第I黒色帯であるが、黒色の発色がほとんどみられない。
- VI層 粘性中、締り強、黒褐色スコリア粒子（1～2 mm、微量）、明赤褐色スコリア粒子（1～2 mm、微量）を含むにぶい黄褐色土（10YR5/4）。A T準層。
- VII層 粘性中、締り中、ロームブロック（1～3 cm、少量）、黒褐色スコリア粒子（1～2 mm、少量）、明赤褐色スコリア粒子（1～2 mm、微量）を含む褐色土（10YR4/4）。第II黒色帯上部であるが、黒色の発色がほとんどみられない。
- IX層 粘性強、締り中、黒色スコリア粒子（0.5 mm、ごく微量）、黒褐色スコリア粒子（0.5～3 mm、多量）、明赤褐色スコリア粒子（1～2 mm、中量）を含む黒褐色土（2.5YR3/2）。第II黒色帯上部であるが、黒色の発色が弱い。
- Xa層 粘性強、締り強、黒褐色スコリア粒子（1～2 mm、中量）、赤褐色スコリア粒子（0.5～1 mm、中量）を含む褐色土（10YR4/6）。
- Xb層 粘性強、締り強、褐色スコリア粒子（0.5～1 mm、中量）、赤褐色スコリア粒子（2～4 mm、多量）を含むにぶい黄褐色土（10YR4/4）。
- Xc層 粘性強、締り強、黒褐色スコリア粒子（0.5～1 mm、中量）、赤褐色スコリア粒子（2～4 mm、中量）を含むにぶい黄褐色土（10YR4/3）。

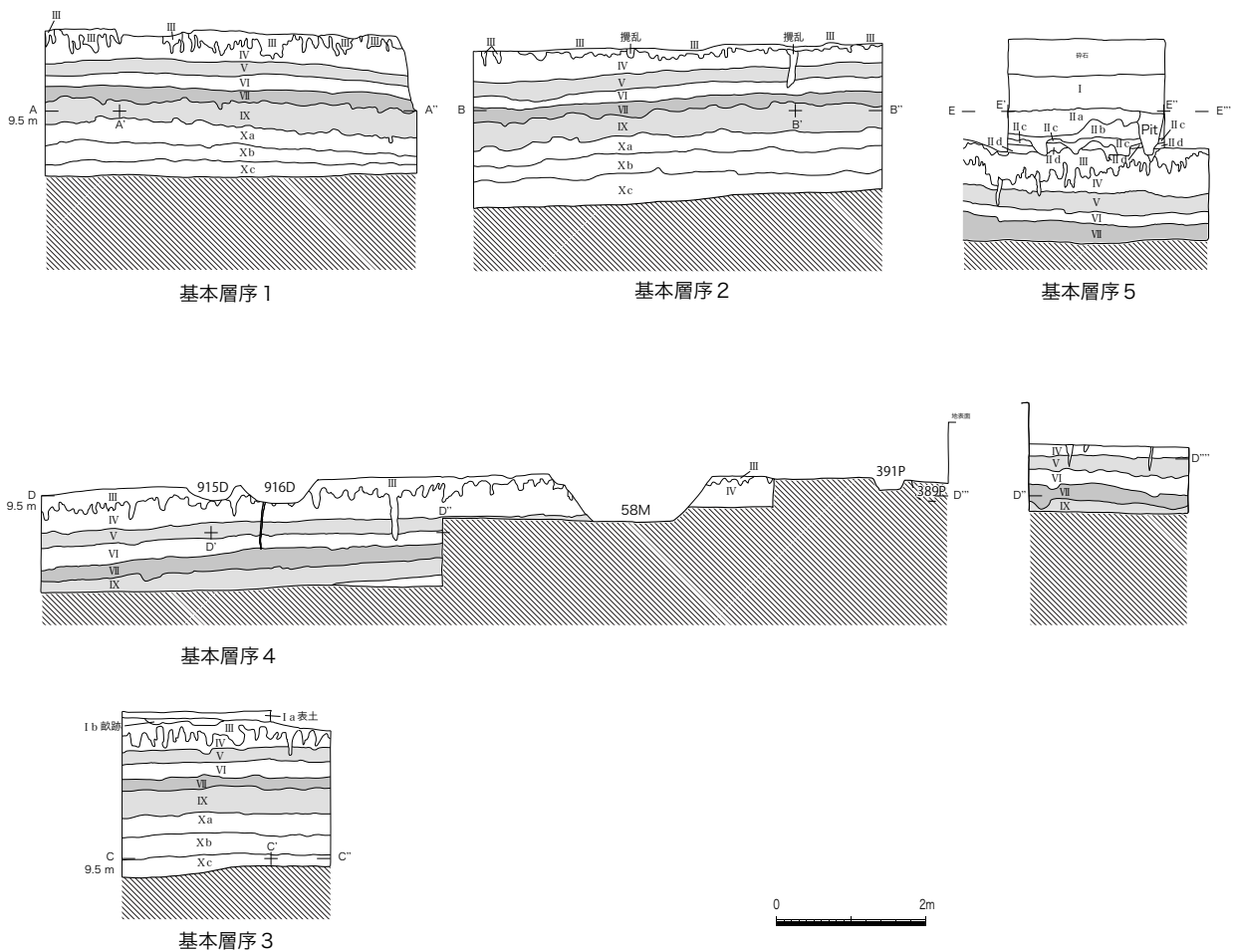
第2章 発掘調査の概要



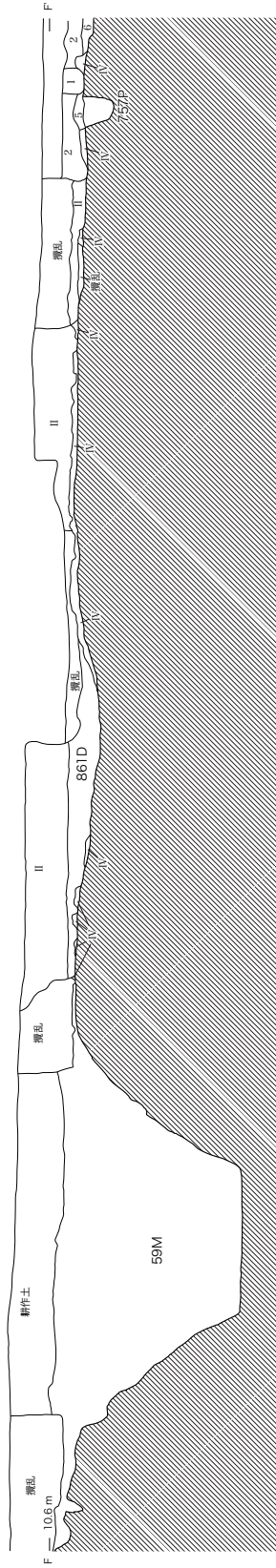
第5図 基本層序設定位置 (1 / 400)

基本層序5

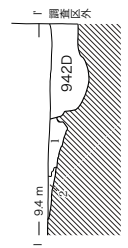
- I層 粘性強、締まり強、暗褐色土（10YR3/4）。現代の整地盛土。
 - II a層 粘性やや強、締まりやや強、ローム粒子（1～3 mm、少量）を含む暗褐色土（10YR3/4）。
 - II b層 粘性やや強、締まりやや強、ローム粒子（1～3 mm、少量）、ロームブロック（1 cm、少量）を含む黒褐色土（10YR3/2）。谷部堆積土。
 - II c層 褐色土（10YR4/4）。ローム漸移層上部。
 - II d層 明黄褐色土（10YR7/6）。赤色スコリアとガラス質の粒子混入。ローム漸移層下部。
- 以外1～4に準拠。
- III層 黄褐色土（10YR5/8）。ソフトローム層。
 - IV層 黄褐色土（10YR5/8）。ハードローム層。
 - V層 黄褐色土（10YR5/6）。第I黒色帯。
 - VI層 黄褐色土（10YR5/8）。A T層。
 - VII層 黄褐色土（10YR5/6）。第II黒色帯。



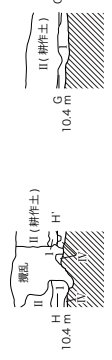
第6図 基本層序1（1 / 100）



- I 層 粘性やや強、縮まりやや弱、ローム粒子(2~5mm、少量)、炭化物粒子(2~3mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。※現代の耕作土。
- II 層 粘性中、縮まりやや強、ローム粒子(1~2mm、微量)、炭化物粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。※現代の耕作土。
- I 層 粘性中、縮まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、少量)、ロームブロック(1cm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/1)。※耕作に伴う近世~近代の掘り込み。
- 2 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子(1~2mm、中量)、ロームブロック(2~5cm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 3 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子(5~6mm、少量)、ロームブロック(1~2cm、少量)、焼土ブロック(径1~2cm)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 4 層 粘性中、縮まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、少量)、ロームブロック(1~3cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 5 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子(1~2mm、少量)、ロームブロック(1cm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 6 層 粘性やや強、縮まりやや弱、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1~4cm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 7 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子(2~5mm、多量)を含む褐色土(10YR4/4)。
- 8 層 粘性中、縮まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、少量)、ロームブロック(2~3cm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/2)。
- 9 層 粘性中、縮まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。

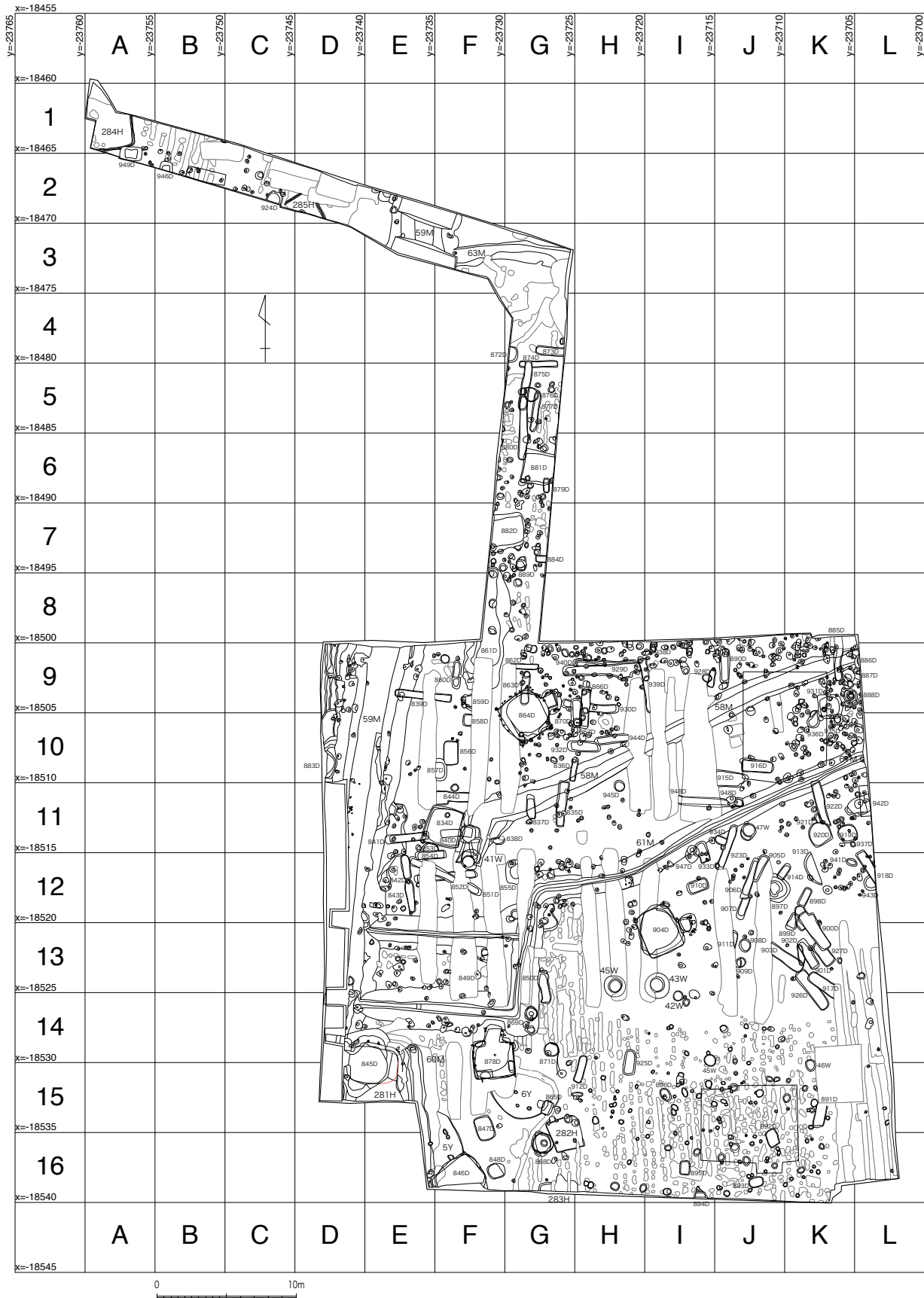


- I 層 粘性中、縮まりやや強、ローム粒子(1~3mm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/2)。
- 2 層 粘性中、縮まりやや強、ローム粒子(1~3mm、多量)を含む黄褐色土(10YR5/6)、ローム主体。



- II 層 粘性中、縮まりやや強、ローム粒子(1~2mm、微量)、炭化物粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。 ※現代の耕作土。
- I 層 粘性中、縮まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、少量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。

第7図 基本層序2 (1 / 100)



第8図 遺構分布図 (1 / 400)

第3章 検出された遺構と遺物

本調査地点で確認された遺構・遺物は旧石器時代から近代以降に及ぶ。旧石器時代は石器ブロック2基、礫群9基、縄文時代は前期～後期の土坑・ピット、弥生時代は後期の住居、古墳時代は後期の住居が検出された。中世は、城館「柏城」の大堀との関連が推測される溝跡の他、土坑・ピット、近世は井戸・地下室・土坑・掘立柱建築遺構・ピットが確認された。近代以降は土坑・ピットの他溝跡も確認されたが、境界溝などであった。

以下、時期ごとに記述する。なお、遺構外出土遺物については第7節において時期ごとに記述する。

第1節 旧石器時代

(1) 概要

本調査地点の旧石器時代遺構・遺物は、上層の発掘調査時に遺構底面から礫群の礫が出土したことから、2地点に深掘部を設定して調査した(A区・B区)。A区からは、散漫な分布を示す石器ブロック1基(1ブロック)と6カ所の視覚的集中部を示す礫群(礫群1A～1F)が検出された。B区からは、散漫な分布を示す石器ブロック1基(2ブロック)と3カ所の視覚的集中部を示す礫群(礫群2A～2C)が検出された。遺構全体での石器総点数は61点(989.7g)、礫総点数は595点(83,841.2g)である。

(2) ブロック

本調査地点からは、深掘りを実施した2地点において、それぞれやや散漫な石器ブロックが検出された。これらは分布の濃密の差はあるものの漸移的で単位をとらえることが困難であるため、A区を1ブロック、B区を2ブロックとして報告する。

出土石器総点数は61(70)点で、1ブロック49点、2ブロック12点の内訳となる(他に遺構外から9点が出土している)。器種の内訳は、スクレイパー3点、二次的剥離のある剥片2点、不規則剥離のある剥片4点、剥片31点、調整剥片6点、碎片3点、石核12点である(遺構外からはナイフ形石器1点、錐形石器1点、二次的剥離のある剥片1点、不規則剥離のある剥片1点、剥片5点である)。石材の内訳は、頁岩17点、チャート43点、黒曜石1点である(遺構外からはチャート6点、黒曜石3点である)。

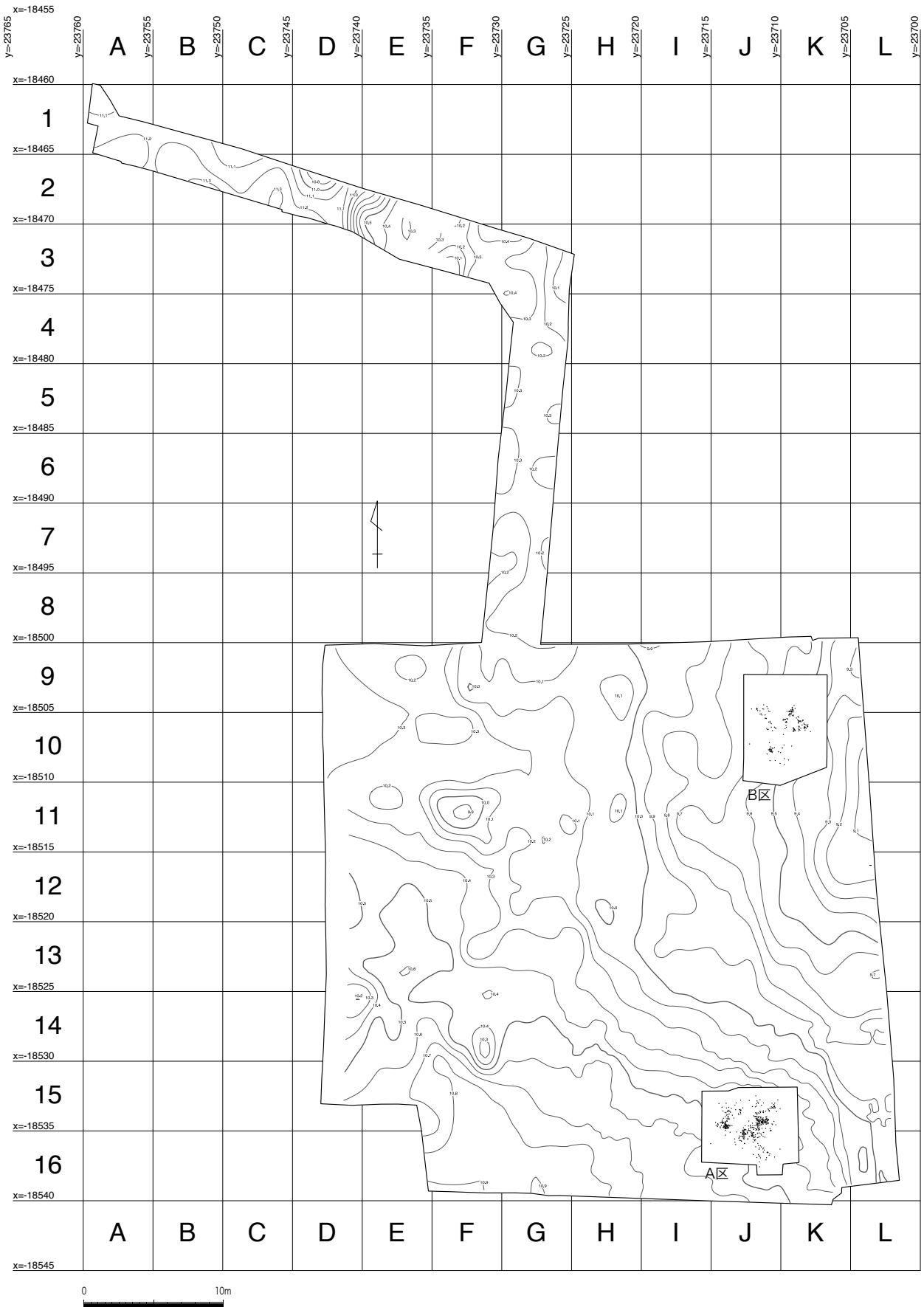
1ブロック

遺 構 (第10・11図)

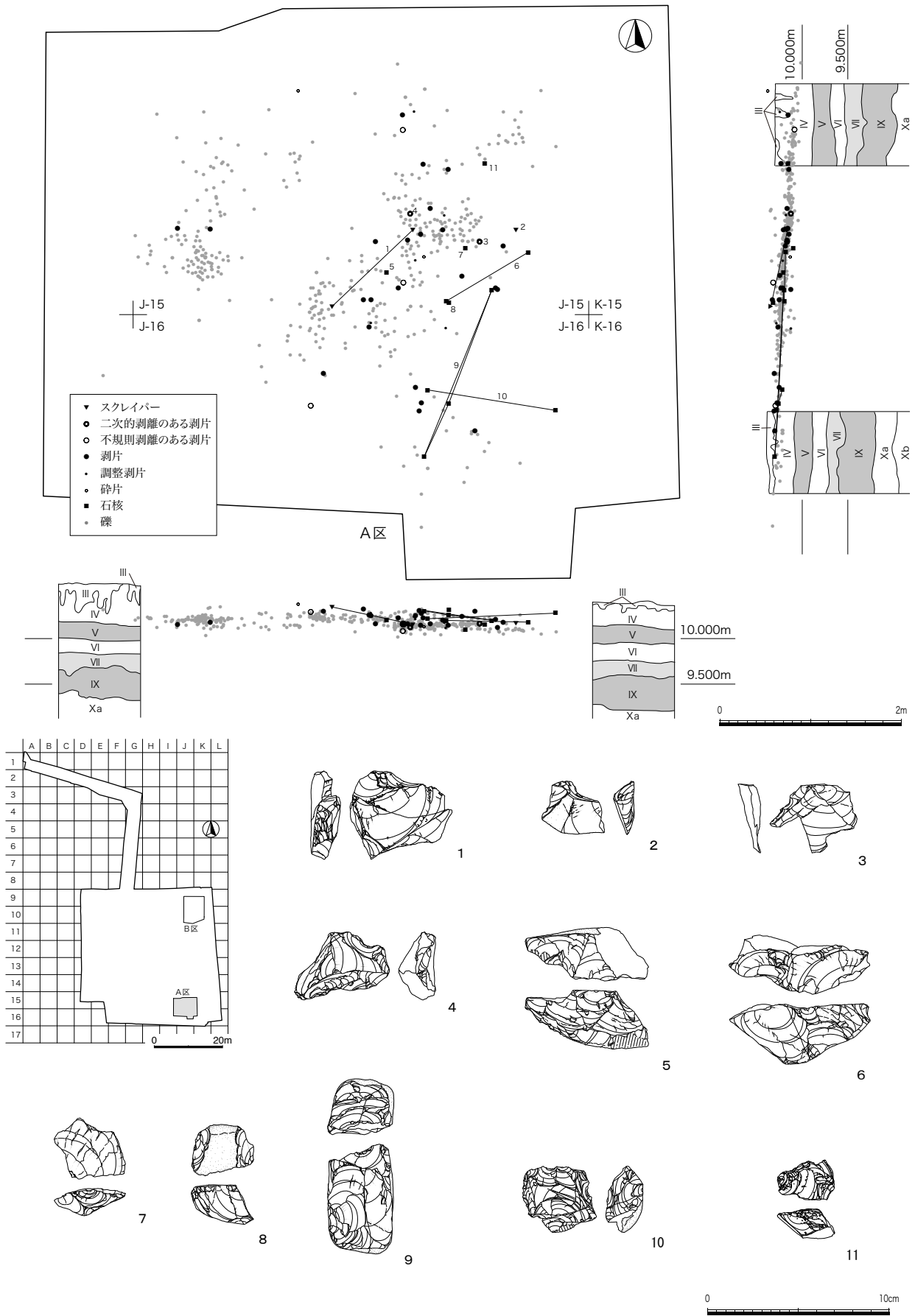
[位 置] I-16、J-15・16グリッド。

[平面分布] 南北5.1m、東西5.0m(散漫：礫群1全体の平面分布にほぼ重なる)。

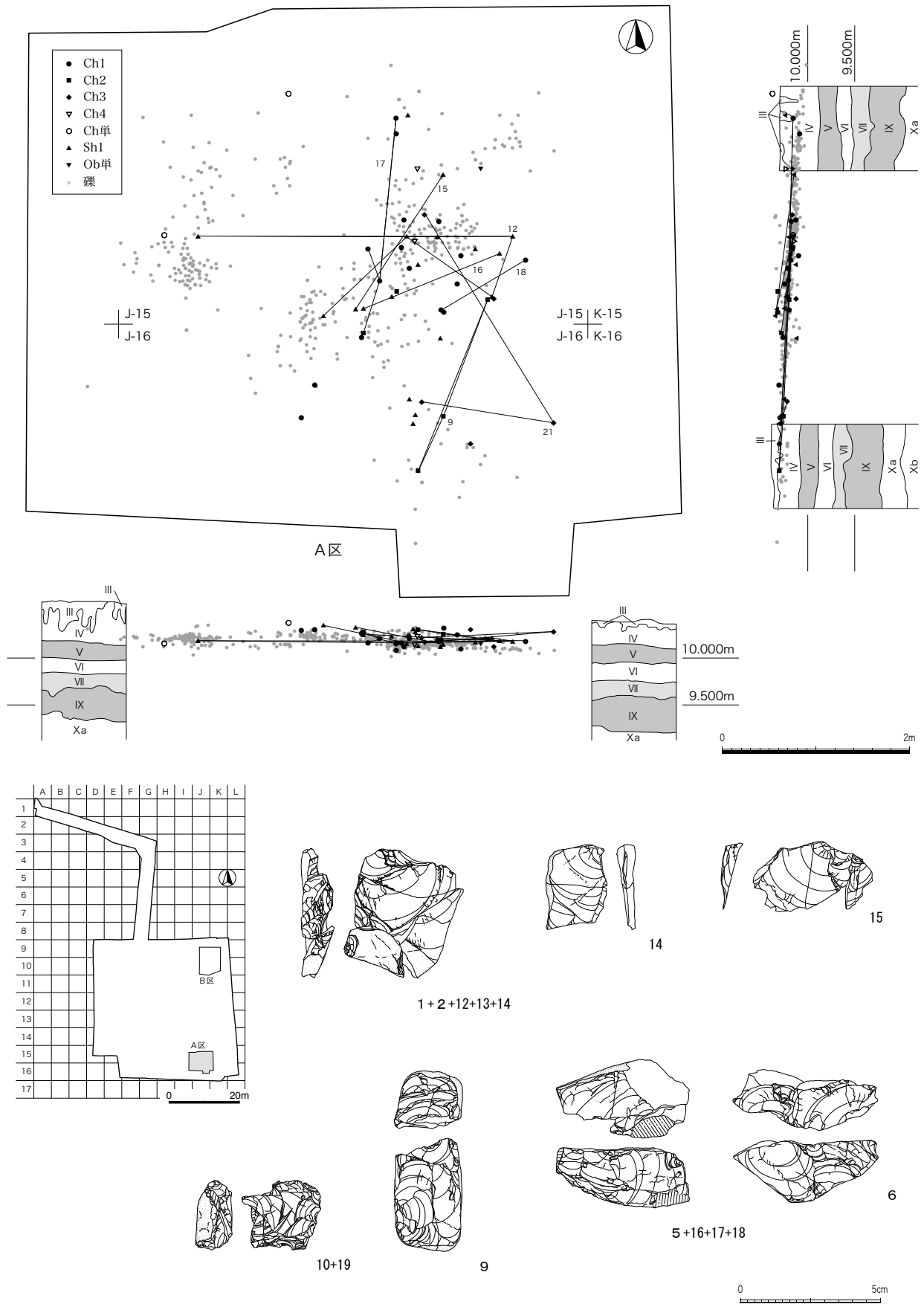
[出土層位] V層上部～IV層下部(安定：礫群1全体の垂直分布にほぼ重なる)。



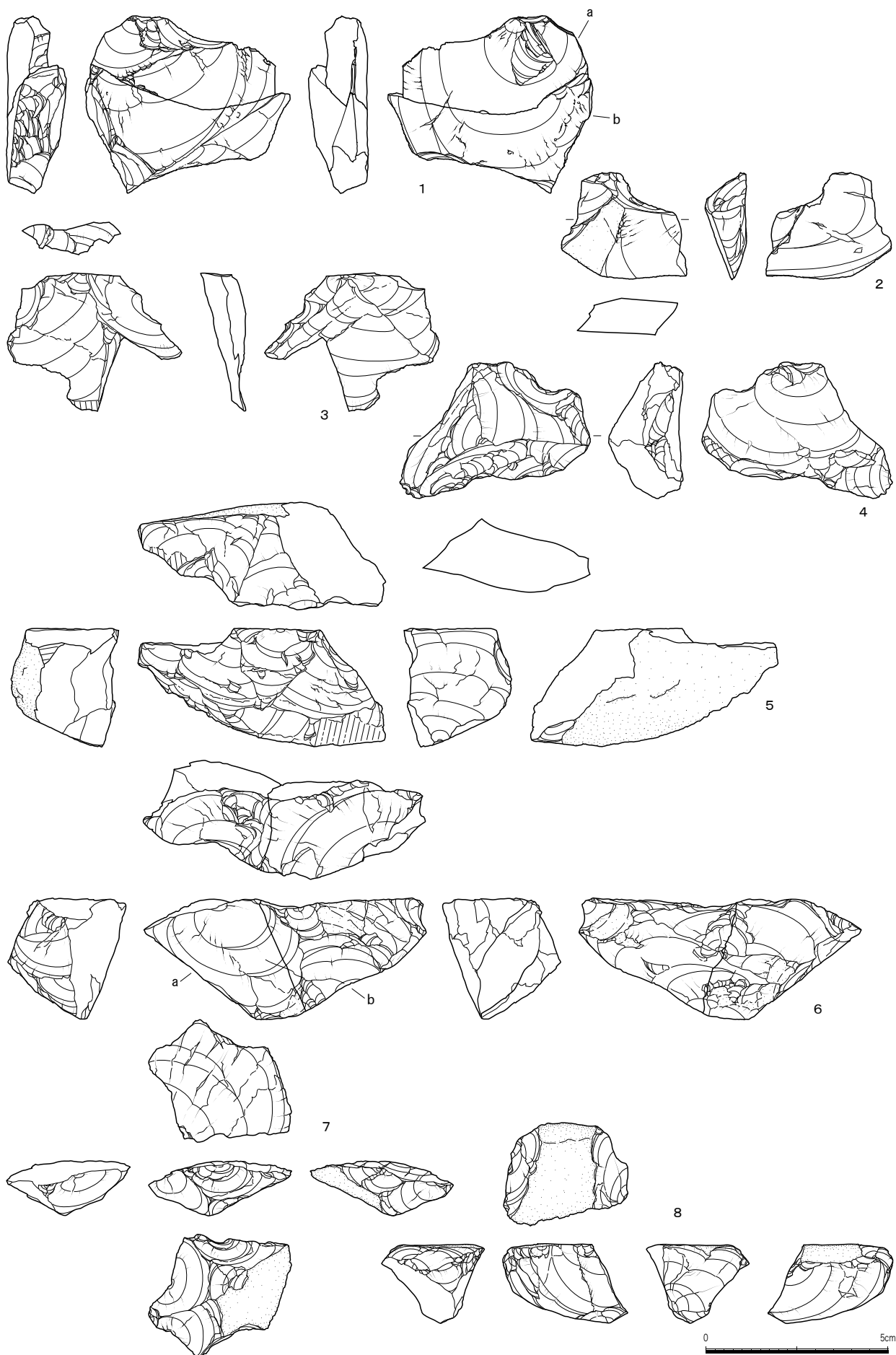
第9図 旧石器時代遺構分布図 (1 / 400)



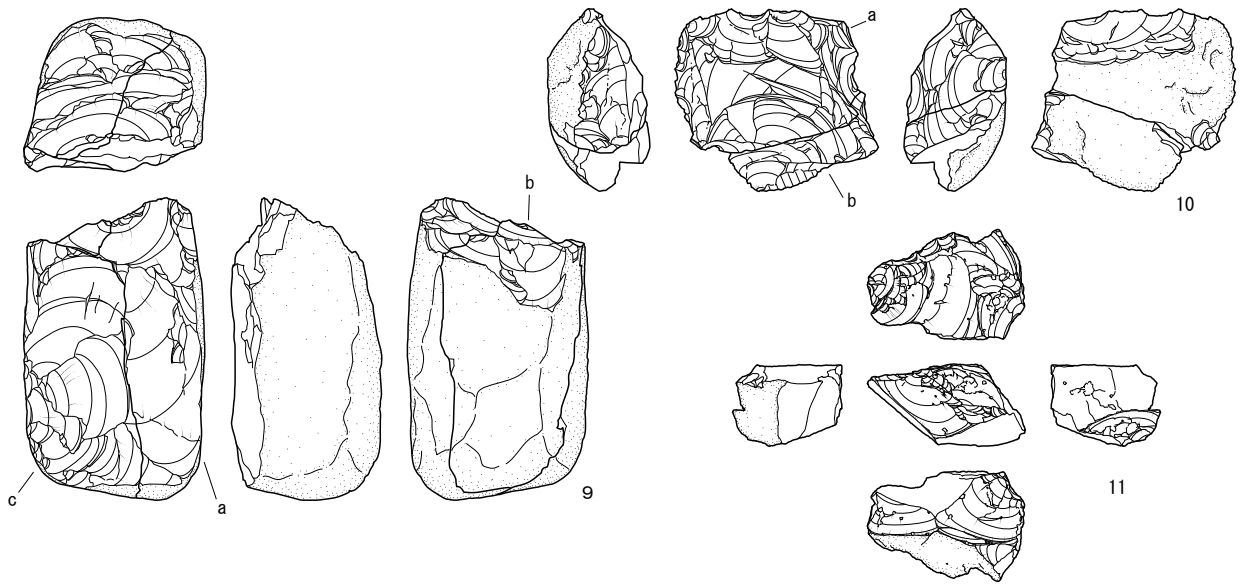
第10図 1ブロック器種別分布図(1/60)



第11図 1ブロック母岩別分布図(1/60)

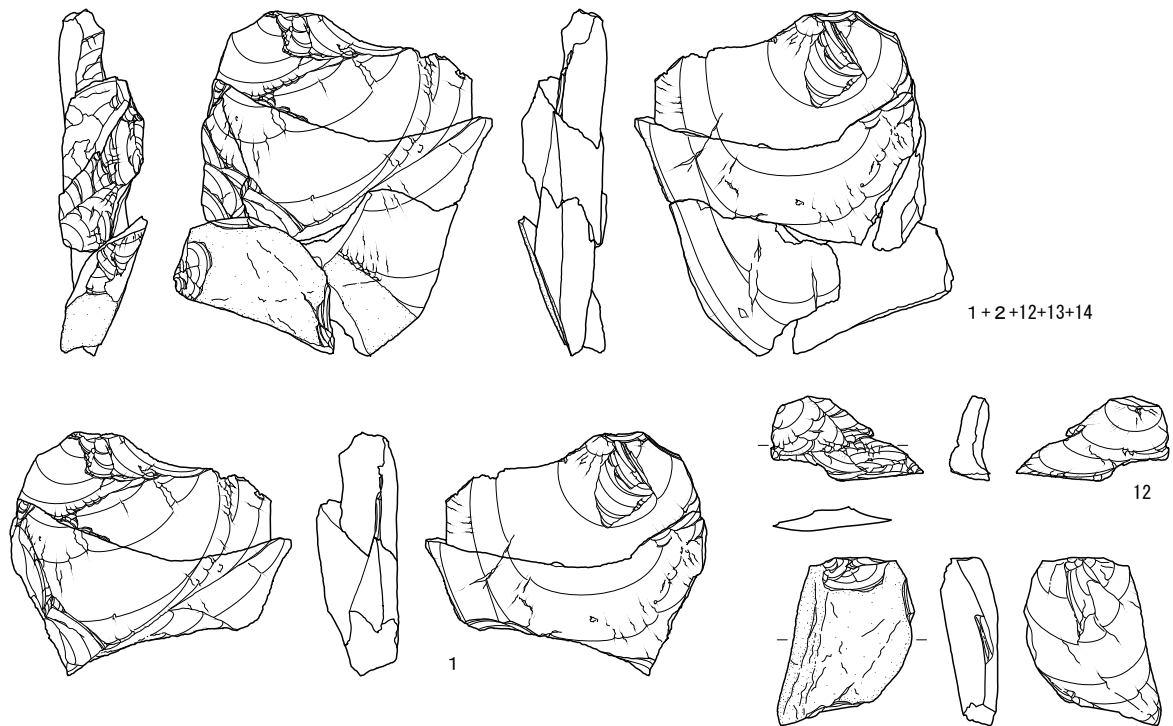


第12図 1ブロック出土遺物1 (2/3)

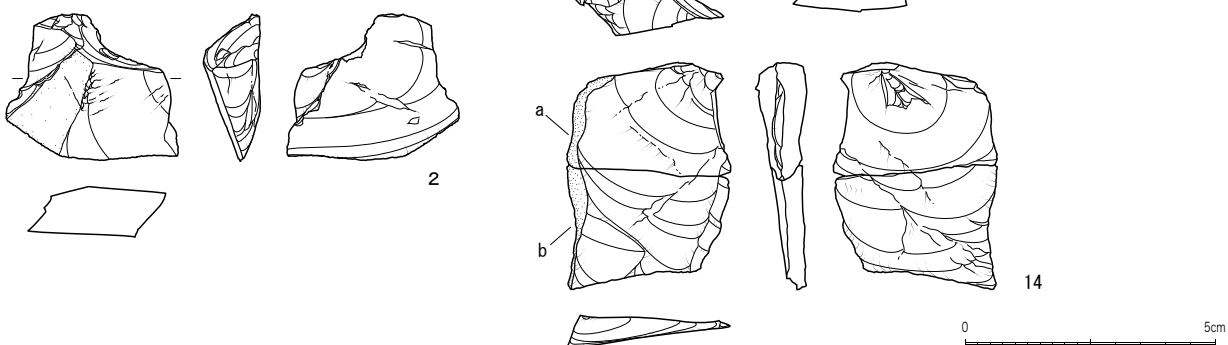


【接合資料】

【頁岩（個体 SH1-1）】

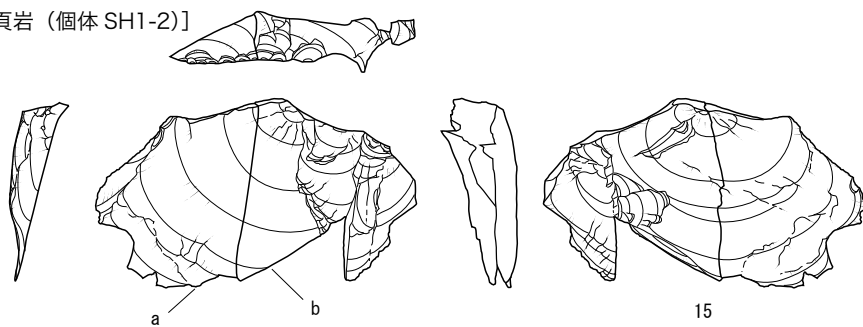


【頁岩（個体 SH1-2）】

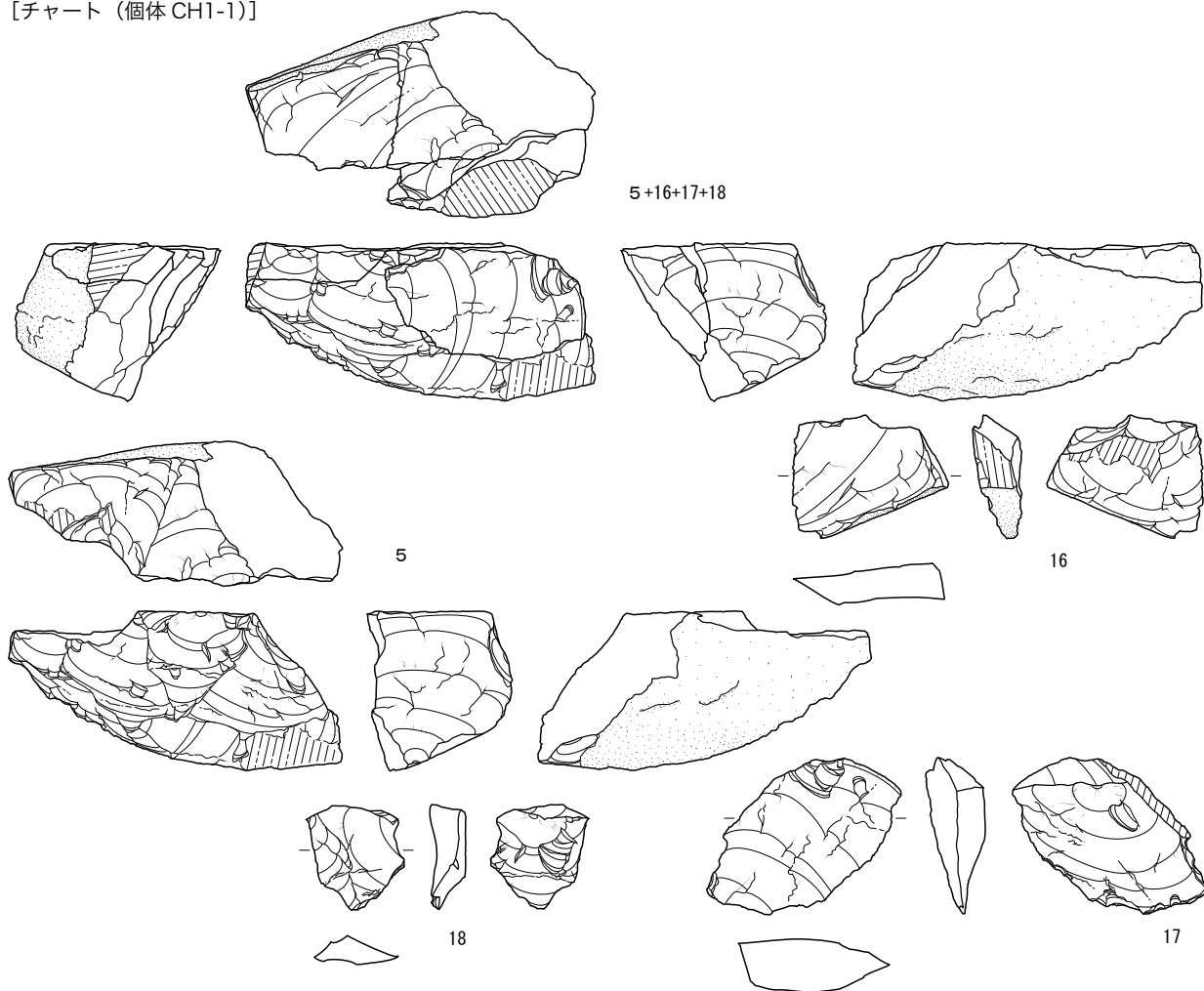


第13図 1ブロック出土遺物2 (2/3)

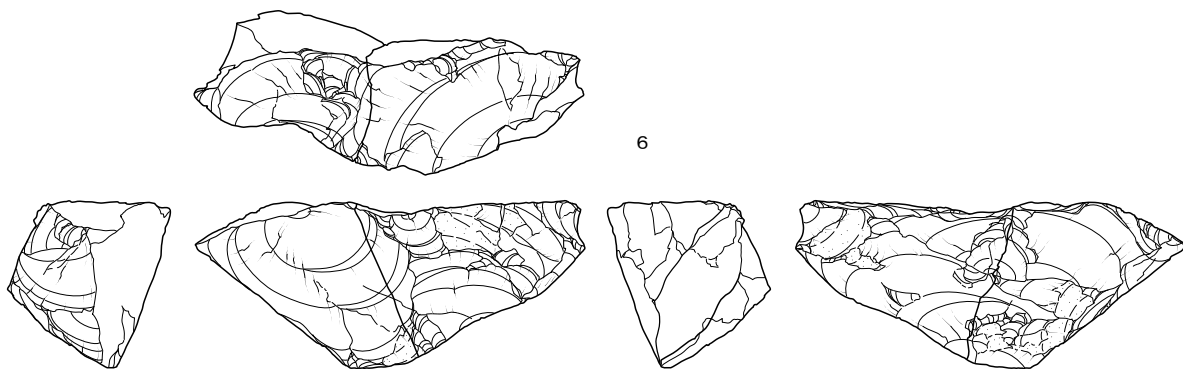
[頁岩 (個体 SH1-2)]



[チャート (個体 CH1-1)]



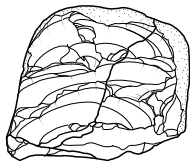
[チャート (個体 CH1-2)]



0 5cm

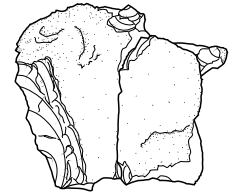
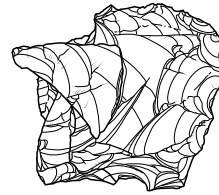
第14図 1ブロック出土遺物3 (2/3)

[チャート (個体 CH2-1)]

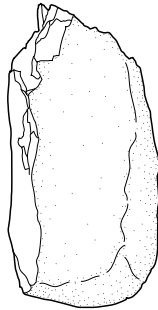


9

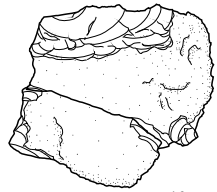
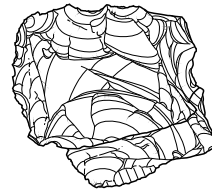
[チャート (個体 CH3-1)]



10+19



19



10



第15図 1ブロック出土遺物4 (2/3)

[地 形] 西→東方向にかすかな傾斜、南→北方向に緩い傾斜が認められる。

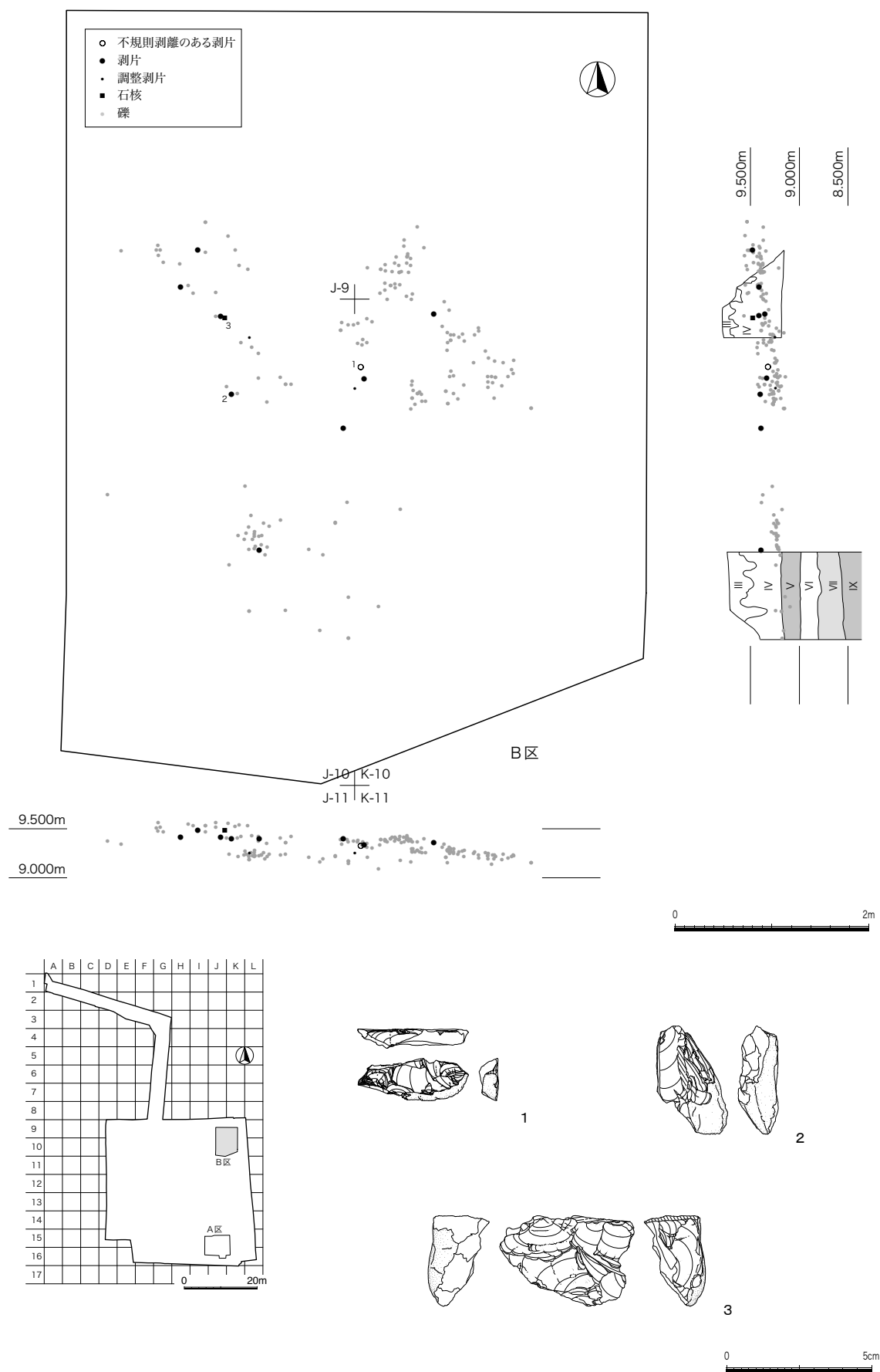
石器は礫群全体に分布するものの、礫群1C・1E・1Fの分布範囲に密度が高い傾向が認められる(南東部)。接合関係についてもこれらの中でやや頻繁に認められる。

1ブロック出土石器の総点数は49点(819.2g)である。器種の内訳は、スクレイパー3点、二次的剥離のある剥片2点、不規則剥離のある剥片3点、剥片23点、調整剥片4点、碎片3点、石核11点である。石材の内訳は、頁岩17点、チャート31点、黒曜石1点である。

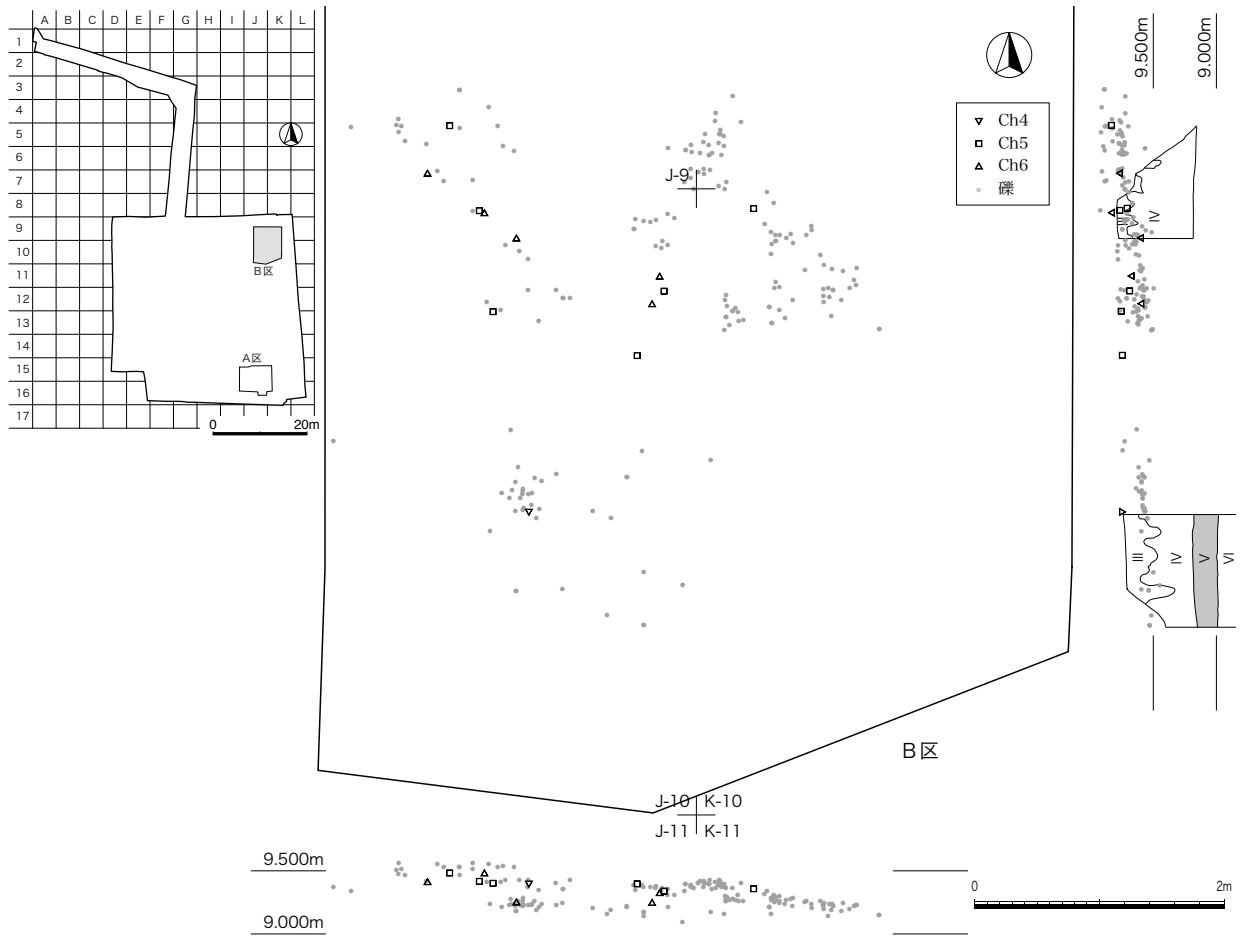
遺 物 (第12～15図、第4表)

[器 種] 1・2は頁岩製のスクレイパーである(SH1)。1は左側縁に急角度剥離(91°)が加えられ直線状の鋸歯縁となる縁辺を形成している。2は打面方向を横断するように抉入状の急角度剥離(84°)が加えられている。3・4は二次的剥離のある剥片である。3は頁岩製で右側縁裏面に60°前後の鋸歯縁を形成する剥離が加えられているが、連続性に乏しい。4はチャート製で右側縁上半に抉入状となる剥離が加えられているが、単発的である。5～11は石核である。5～10はチャート製、11は黒曜石製である。いずれも最終的には打面が固定されているように見えるが、他の面に様々な方向からの剥離面が認められ、複雑な打面転移を繰り返していることがうかがえる。14～19は剥片である。14・15は頁岩製、16～19はチャート製である。打面は平坦打面と複剥離打面が認められ、打点径2.7～5.6mm、剥離角は110～124°、打瘤は通常あるいは弱い発達を示す。

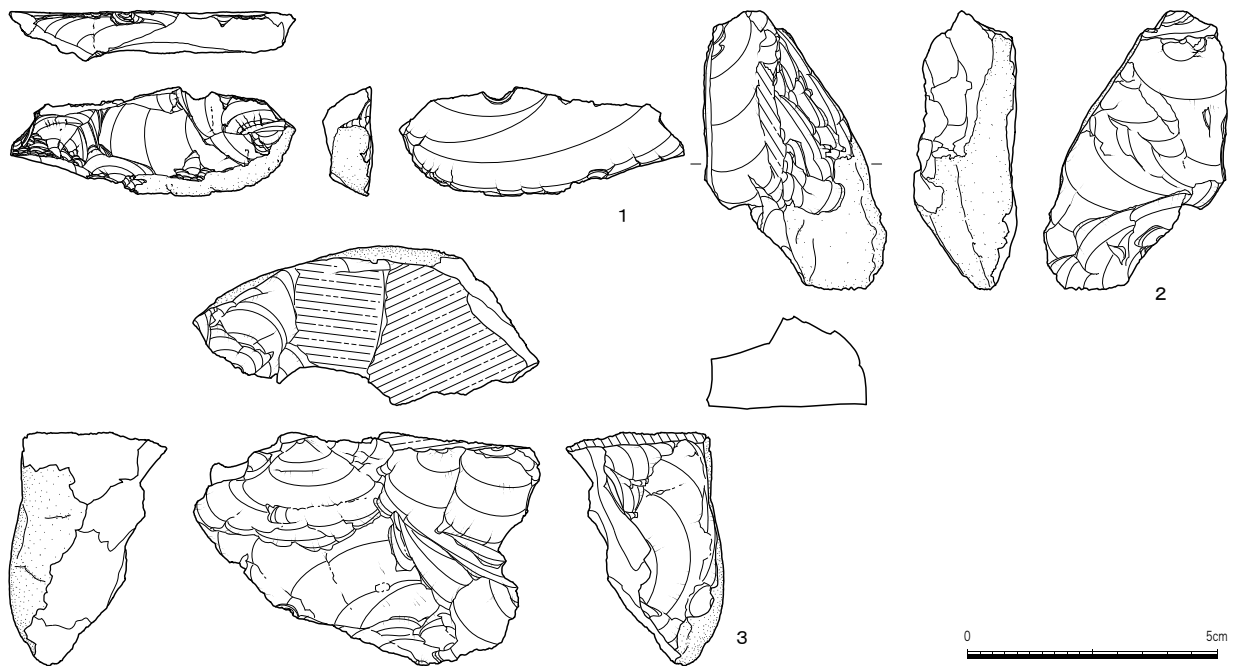
[母岩と個体] 1ブロックの構成母岩は頁岩1母岩(SH1)、チャート4母岩(CH1～4)、単独はチャートで4点、黒曜石で1点が認められた。SH1は最も多く17点で構成され、3個体が認められた。SH1-1は、スクレイパー3点、剥片1点、調整剥片1点の接合関係である。SH1-2は寸詰りの縦長剥片の折れ面接合である。SH1-3は幅広の剥片の折れ面接合で、剥離時の縦同時割れであると考えられる。CH1は



第16図 2ブロック器種別分布図(1/60)



第17図 2ブロック母岩別分布図 (1 / 60)



第18図 2ブロック出土遺物 (2 / 3)

15点で構成され、2個体が認められた（さらにブロック外に3点が認められた）。CH1-1は、剥片3点、石核1点の接合関係である。CH1-2は、石核の折れ面接合で、剥片剥離時の同時割れであると考えられる。CH2は5点で構成され、1個体が認められた。CH2-1は、石核の破損資料3点の接合関係で、剥片剥離時の同時割れであると考えられる。CH3は5点で構成され、1個体が認められた。CH3-1は剥片1点と石核1点、石核の碎片1点の接合関係である。

2 ブロック

遺 構（第16～17図）

〔位 置〕 I-16、J-15・16グリッド。

〔分 布〕 南北5.1m、東西5.0m（散漫）。

〔出土層位〕 V層上部～IV層下部。

〔地 形〕 地形面は、西→東方向に緩い傾斜が認められる。

2ブロック出土石器の総点数は12点（170.5g）である。器種の内訳は、不規則剥離のある剥片1点、剥片8点、調整剥片2点、石核1点である。石材は、いずれもチャートである（12点）。

遺 物（第18図、第5・6表）

〔器 種〕 1は頁岩製の不規則剥離のある剥片である。素材打面は折れと不明の剥離によって欠落する。不規則剥離は折れ面と末端辺に非連続に認められる。2はチャート製の剥片である。打面は平坦打面で、打点はコーンが発達し、打点径3.3mm、剥離角は116°となる。末端は先行する割れ円錐の影響で剥離と同時に壊れていると考えられる。3はチャート製の石核である。表面に原礫面を残す分厚な剥片あるいは分割礫を素材としている。上面に打面を固定し、連続的に剥片が生産されている。

〔母岩と個体〕 2ブロックの構成母岩はチャート3母岩（CH4～6）が認められた。このうちCH4は接合関係はないものの1ブロックと共有する唯一の母岩である。CH5は6点で構成され、CH6は5点で構成される（CH6は他に遺構外で2点が認められる）。ブロック内外での接合関係は認められなかった。

（3）礫群

本遺跡調査区からは、大きく2カ所で礫群が検出された。出土礫総点数は595点（83,841.24g）で、礫群1（A区）が422点、礫群2（B区）が173点の内訳となる。石材の内訳は砂岩473点（79%）、チャート113点（19%）、ホルンフェルス9点（2%）となる。重量別の組成は、50g未満が162点（27%）、50～100gが149点（25%）、100～250gが217点（36%）、250～1,000gが59点（10%）、1,000g以上が8点（1%）となり、250g未満の小礫が90%近くを占める。

礫群1（第19・20図）

〔位 置〕 I-16、J-15・16グリッド。

〔平面分布〕 南北5.1m、東西5.0m（南東で密な部分が多い）。

〔出土層位〕 V層上部～IV層下部。

〔地 形〕 西→東方向にかすかな傾斜、南→北方向に緩い傾斜が認められる。

これらは視覚的に7つの単位に分けられる(礫群1A～1F、単独1点)。

出土礫の総点数は422点(60,085.6g)で、完形礫161点(38%)、破碎礫261点(62%)の内訳となる。破碎礫の接合関係は74個体で認められた。石材の内訳は、砂岩338点(80%)、チャートが80点(19%)、ホルンフェルス4点(1%)となる。重量別の組成は、50g未満が111点(30%)、50～100gが101点(27%)、100～250gが164点(43%)、250～1,000gが40点(9%)、1,000g以上が6点(1%)となり、250g未満の小礫が90%を占める。礫表面の状態は、全面が赤化するもの162点(38%)、黒色を呈する煤状の付着物が付着するもの311点(74%)が確認された。

以下、視覚的集中単位ごとに報告する。

a. 礫群1A(第21図、第7表)

[位置] J-15グリッド。

[平面分布] 南北1.4m、東西1.7m。

[垂直分布] 10.045～10.357m(0.312m間):ピーク10.110～10.227m(43点/0.117m間)。

構成礫の総点数は46点で、完形礫11点(24%)、破碎礫35点(76%)の内訳となる。石材の内訳は、砂岩が36点(78%)、チャートが10点(22%)である。重量別の組成では、50g未満が29点(64%)、50～100gが7点(15%)、100～250gが8点(17%)、250～1,000gが2点(4%)、1,000g以上が0点(0%)となる。礫表面の状態としては、全面が赤化するもの18点(39%)、黒色を呈する煤状の付着物が付着するもの26点(57%)が確認された。

破碎礫の接合関係は10個体確認され(破碎礫25点)、礫群内で6個体、礫群間では1C間で1個体、1D間で4個体の内訳となる。

b. 礫群1B(第21・22図、第8表)

[位置] J-15グリッド。

[平面分布] 南北0.8m、東西1.0m。

[垂直分布] 10.023～10.267m(0.244m間):ピーク10.057～10.083m(6点/0.026m間)。

構成礫の総点数は11点で、完形礫2点(18%)、破碎礫9点(82%)の内訳となる。石材の内訳は、砂岩が10点(91%)、チャートが1点(9%)である。重量別の組成では、50g未満が7点(64%)、50～100gが0点(0%)、100～250gが2点(18%)、250～1,000gが2点(18%)、1,000g以上が0点(0%)となる。礫表面の状態は、全面が赤化するもの7点(64%)、黒色を呈する煤状の付着物が付着するもの10点(91%)が確認された。

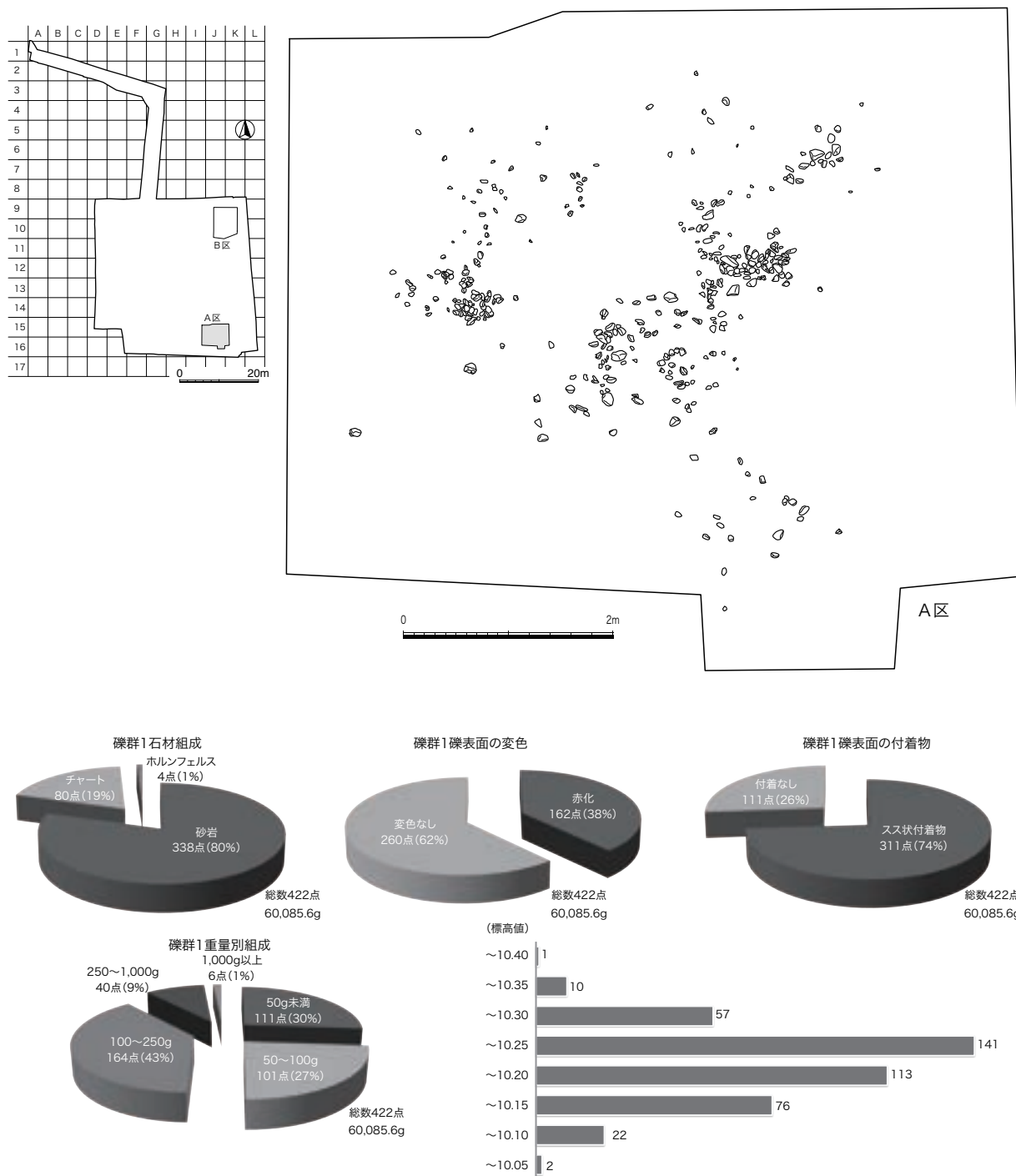
破碎礫の接合関係は4個体確認され(同一番号内での接合を除く)、礫群内では認められず、礫群間では1C間で3個体、1E間で1個体が認められた。

c. 礫群1C(第22図、第9・10表)

[位置] J-15グリッド。

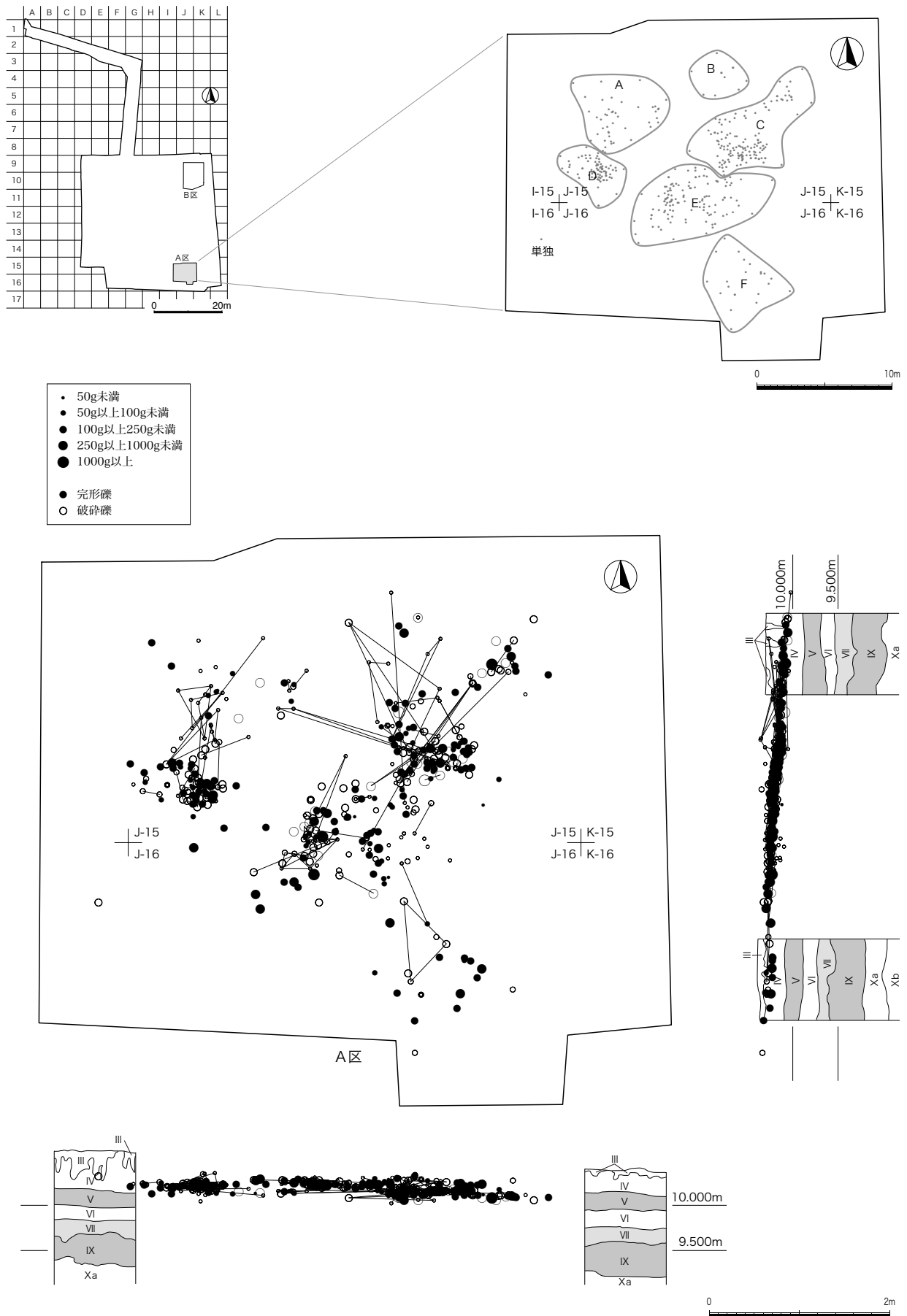
[平面分布] 南北2.0m、東西2.3m(南側に密度の高い集中、他は散漫)。

[垂直分布] 10.054～10.307m(0.253m間):ピーク10.101～10.199m(134点/0.098m間)。



第 19 図 礫群 1 微細図 (1 / 60) ・ 組成グラフ

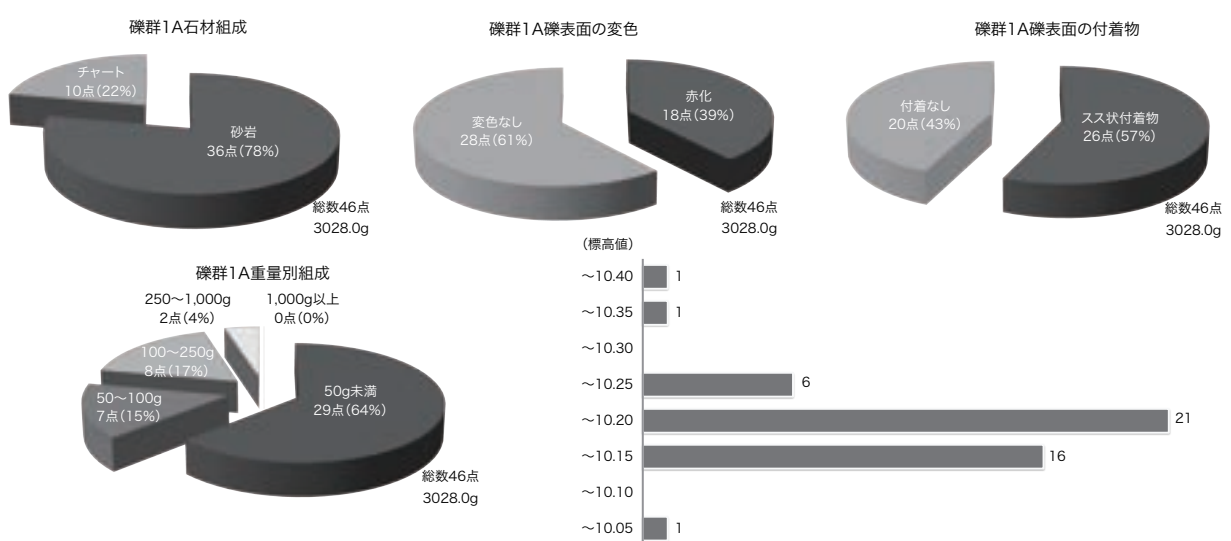
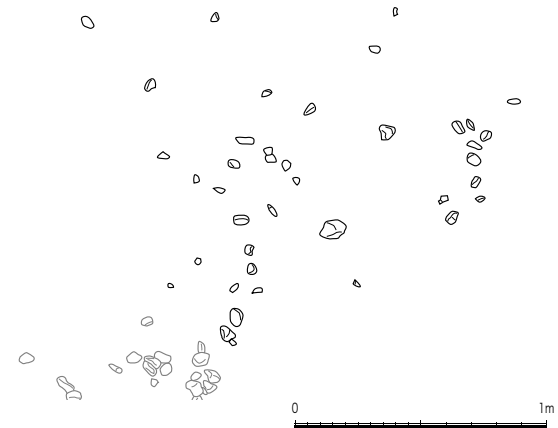
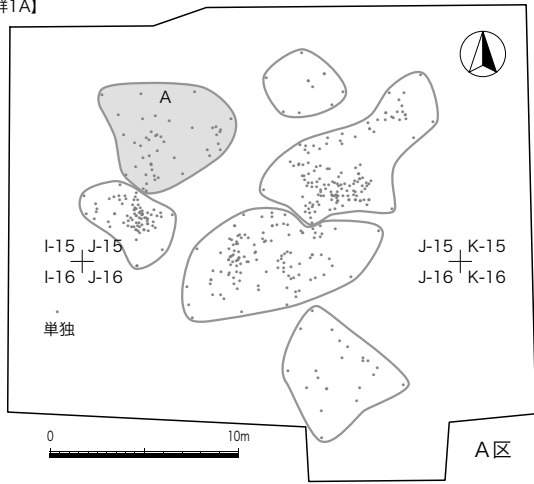
構成礫の総点数は 140 点で、完形礫 57 点 (41%)、破碎礫 83 点 (59%) の内訳となる。石材の内訳は、砂岩が 111 点 (80%)、チャートが 27 点 (19%)、ホルンフェルスが 2 点 (1%) である。重量別の組成は、50g 未満が 29 点 (21%)、50 ~ 100g が 31 点 (22%)、100 ~ 250g が 62 点 (44%)、250 ~ 1,000g が 14 点 (10%)、1,000g 以上が 4 点 (3%) となる。礫表面の状態は、全面が赤化するもの 44 点 (31%)、黒色を呈する煤状の付着物が付着するもの 109 点 (78%) が確認された。



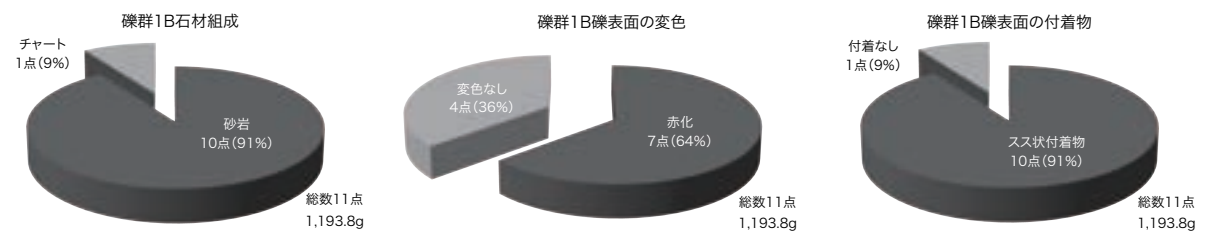
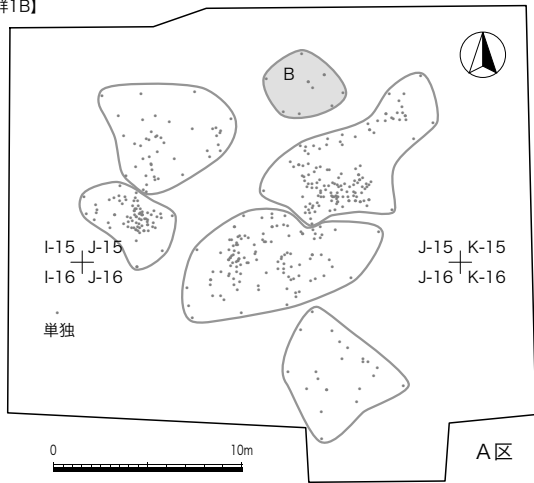
第20図 礫群1重量別分布図(1/60)

第3章 検出された遺構と遺物

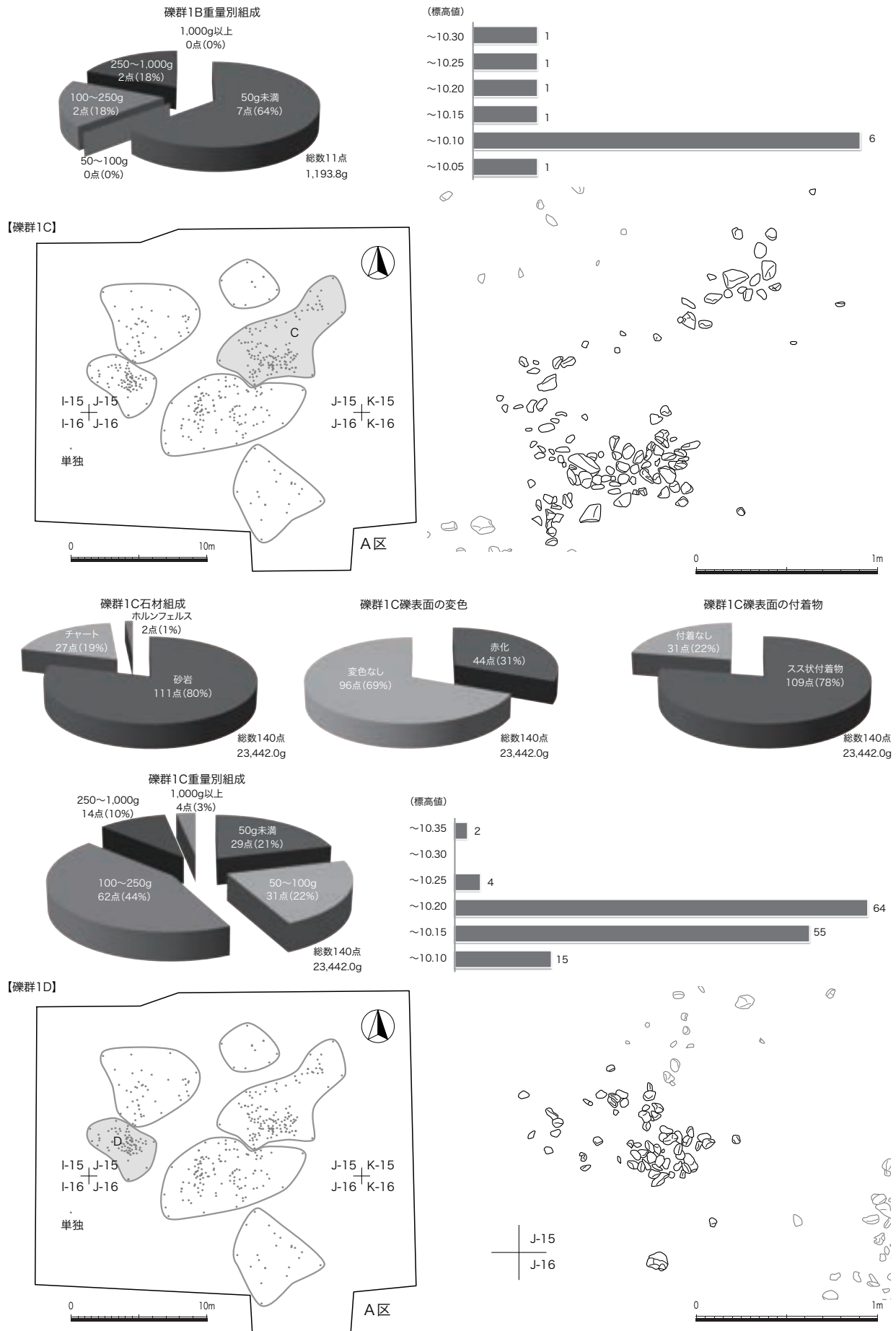
【礫群1A】



【礫群1B】

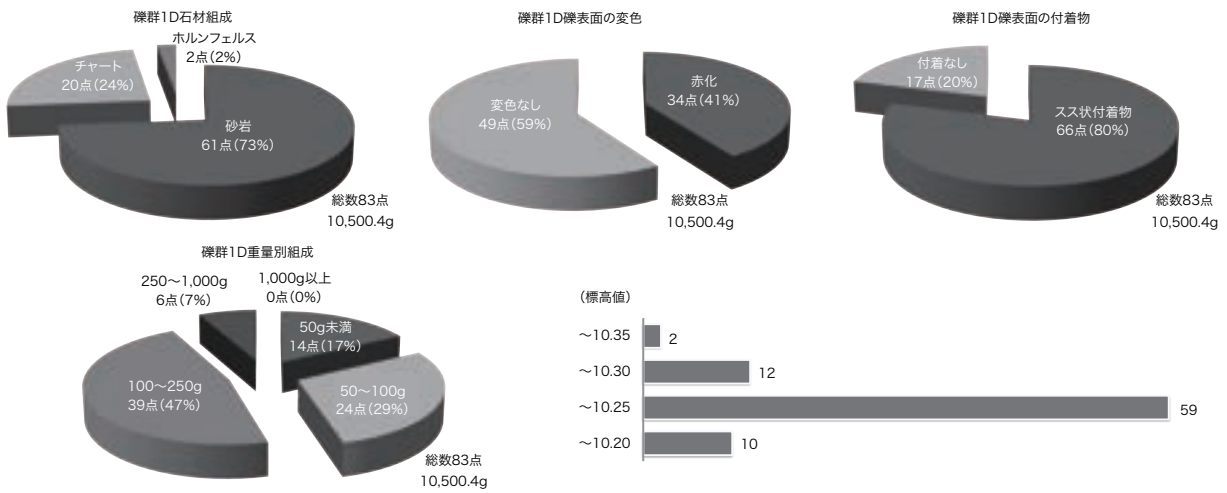


第21図 礫群1A・1B微細図(1/30)・組成グラフ

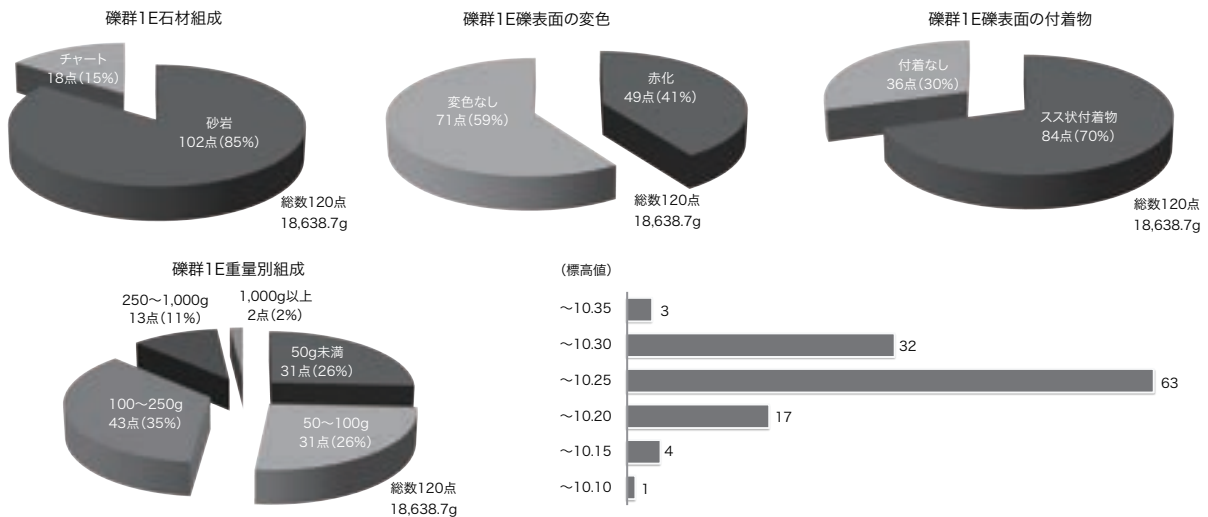
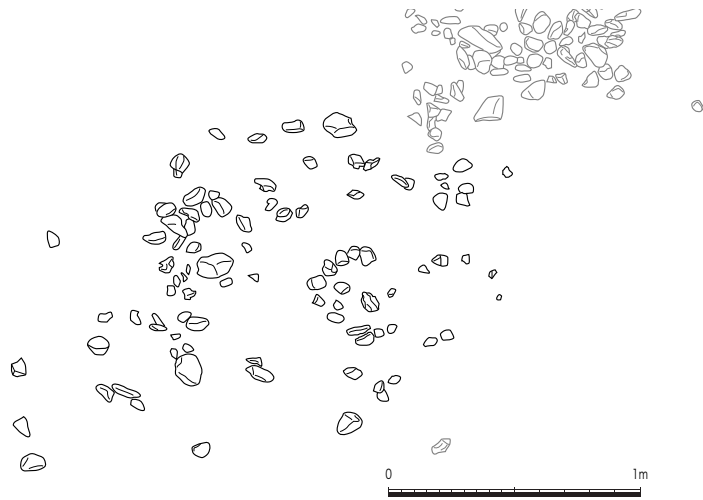
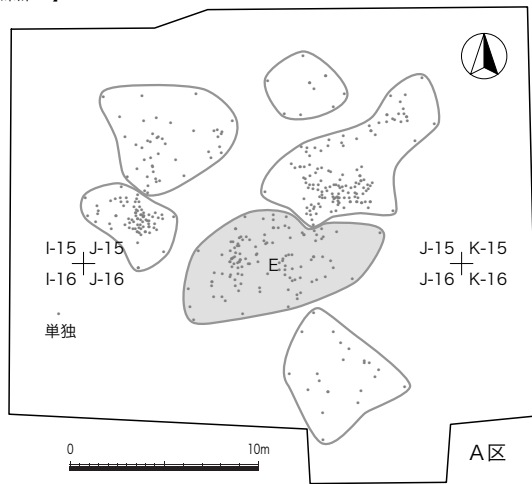


第22図 礫群1B・1C・1D微細図(1/30)・組成グラフ

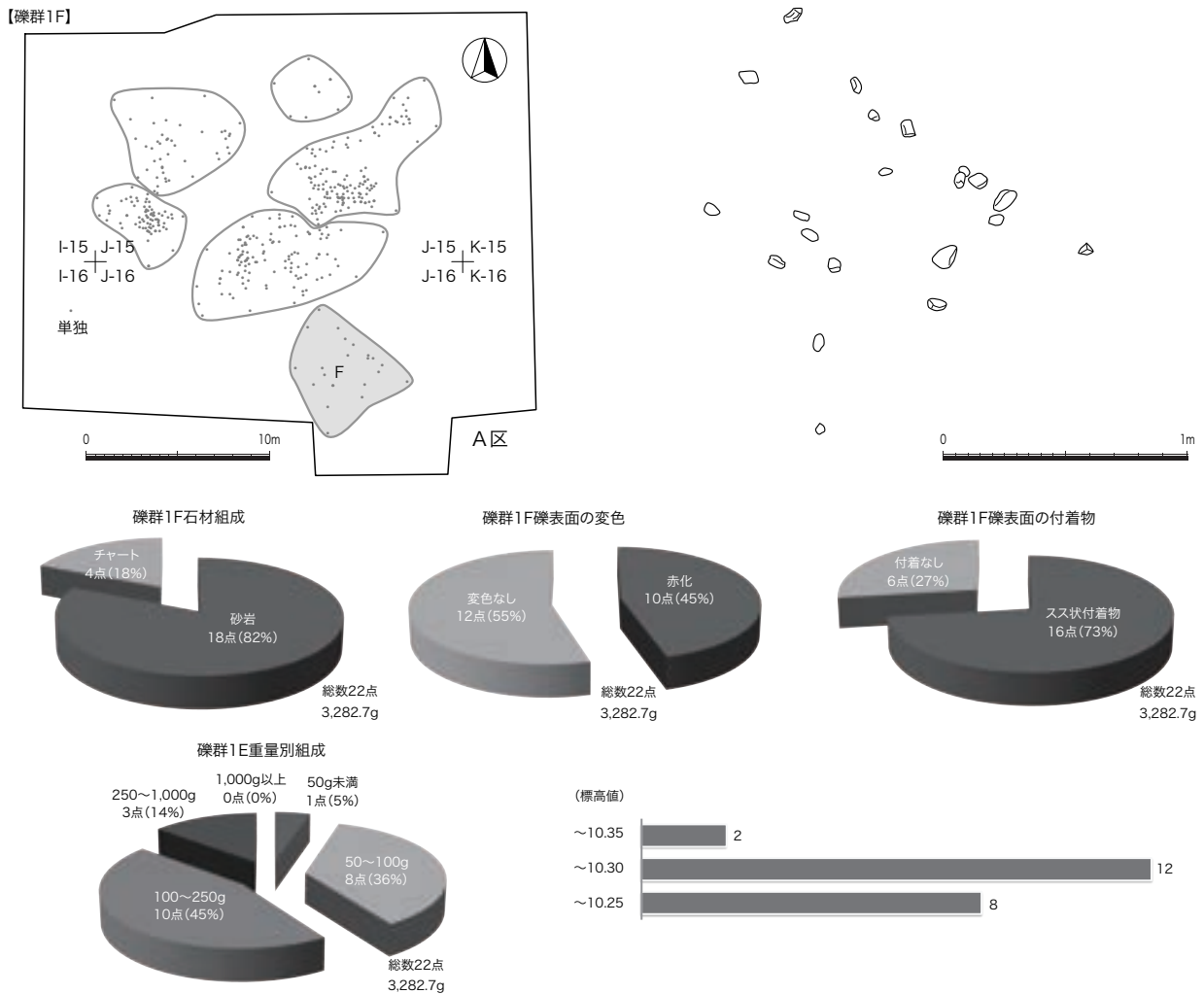
第3章 検出された遺構と遺物



【礫群1E】



第23図 礫群1D・1E微細図(1/30)・組成グラフ



第24図 礫群1F微細図(1/30)・組成グラフ

破碎礫の接合関係は19個体確認され(同一番号内での接合を除く)、礫群内で12個体、礫群間は1A間で1個体、1B間で3個体、1E間で3個体が認められた。

d. 礫群1D(第22・23図、第11・12表)

[位置] J-15・16グリッド。

[平面分布] 南北1.1m、東西1.2m(東側に密度の高い集中、他は散漫)。

[垂直分布] 10.158~10.344m(0.186m間):ピーク10.204~10.250m(59点/0.046m間)。

構成礫の総点数は83点で、完形礫35点(42%)、破碎礫48点(58%)の内訳となる。石材の内訳は、砂岩が61点(73%)、チャートが20点(24%)、ホルンフェルスが2点(2%)である。重量別の組成は、50g未満が14点(17%)、50~100gが24点(29%)、100~250gが39点(47%)、250~1,000gが6点(7%)、1,000g以上が0点(0%)となる。礫表面の状態は、全面が赤化するもの34点(41%)、黒色を呈する煤状の付着物が付着するもの66点(80%)が確認された。

破碎礫の接合関係は12個体確認され(同一番号内での接合を除く)、礫群内で8個体、礫群間は1A間で4個体が認められた。

e. 礫群 1 E (第 23 図、第 13・14 表)

[位置] J-15・16 グリッド。

[平面分布] 南北 1.7m、東西 2.5m。

[垂直分布] 10.097～10.307m (0.210m 間)：ピーク 10.201～10.249m (63 点/0.048m 間)。

構成礫の総点数は 120 点で、完形礫 43 点 (36%)、破碎礫 77 点 (64%) の内訳となる。石材の内訳は、砂岩が 102 点 (85%)、チャートが 18 点 (15%) である。重量別の組成は、50g 未満が 31 点 (26%)、50～100g が 31 点 (26%)、100～250g が 43 点 (35%)、250～1,000g が 13 点 (11%)、1,000g 以上が 2 点 (2%) となる。礫表面の状態は、全面が赤化するもの 49 点 (41%)、黒色を呈する煤状の付着物が付着するもの 84 点 (70%) が確認された。

破碎礫の接合関係は 17 個体確認され (同一番号内での接合を除く)、礫群内で 12 個体、礫群間は 1 B 間で 1 個体、1 C 間で 3 個体、1 F 間で 1 個体が認められた。

f. 礫群 1 F (第 24 図、第 15・16 表)

[位置] J-16 グリッド。

[平面分布] 南北 1.7m、東西 1.6m。

[垂直分布] 10.221～10.335m (0.114m 間)：ピーク 10.254～10.299m (12 点/0.045m 間)。

構成礫の総点数は 22 点で、完形礫 13 点 (59%)、破碎礫 9 点 (41%) の内訳となる。石材の内訳は砂岩が 18 点 (82%)、チャートが 4 点 (18%) である。重量別の組成は、50g 未満が 1 点 (5%)、50～100g が 8 点 (36%)、100～250g が 10 点 (45%)、250～1,000g が 3 点 (14%)、1,000g 以上が 0 点 (0%) となる。礫表面の状態は、全面が赤化するもの 10 点 (45%)、黒色を呈する煤状の付着物が付着するもの 16 点 (73%) が確認された。

破碎礫の接合関係は 17 個体確認され (同一番号内での接合を除く)、礫群内で 1 個体、礫群間は 1 E 間で 1 個体が認められた。

礫群 2 (第 25・26 図)

[位置] J・K-9・10 グリッド。

[平面分布] 南北 4.4m、東西 4.4m。

[出土層位] V 層上部～IV 層下部。

[地形] 西→東方向に緩い傾斜が認められる。

これらは視覚的に 3 つの単位に分けられる (礫群 2 A～2 C、単独 1 点)。

出土礫の総点数は 173 点 (23,755.60g) で、完形礫 53 点 (31%)、破碎礫 120 点 (69%) の内訳となる。破碎礫の接合完形は 30 個体で確認された。石材は砂岩が 135 点 (78%)、チャートが 33 点 (19%)、ホルンフェルスが 5 点 (3%) である。重量別の組成は、50g 未満が 51 点 (29%)、50～100g が 48 点 (28%)、100～250g が 53 点 (31%)、250～1,000g が 19 点 (11%)、1,000g 以上が 2 点 (1%) となり、250g 未満の小礫が 88% を占める。礫表面の状態は、全面が赤化するもの 72 点 (42%)、黒色を呈する煤状の付着物が付着するもの 140 点 (81%) が確認された。

以下、視覚的集中単位ごとに報告する。

a. 礫群2 A (第27図、第17表)

[位置] J-9・10グリッド。

[平面分布] 礫の分布は南北1.9m、東西1.8m

[垂直分布] 9.344～9.567m (0.223m間)、ピーク9.405～9.433m (8点/0.028m間) /9.509～9.543m (9点/0.034m間)

構成礫の総点数は29点で、完形礫6点(%)、破碎礫23点(%)の内訳となる。石材の内訳は、砂岩が23点(79%)、チャートが6点(21%)である。重量別の組成は、50g未満が13点(45%)、50～100gが6点(21%)、100～250gが7点(24%)、250～1,000gが3点(10%)、1,000g以上が0点(0%)となる。礫表面の状態は、全面が赤化するもの12点(41%)、黒色を呈する煤状の付着物が付着するもの17点(59%)が確認された。

破碎礫の接合関係は17個体確認され(同一番号内での接合を除く)、礫群内で2個体、礫群間は2B間で1個体が認められた。

b. 礫群2 B (第27・28図、第18～20表)

[位置] J・K-9・10グリッド。

[平面分布] 南北2.1m、東西2.0m

[垂直分布] 9.142～9.433m (0.291m間)、ピーク9.253～9.298m (28点/0.045m間) /9.354～9.397m (30点/0.043m間)

礫の総点数は107点で、完形礫40点(37%)、破碎礫67点(63%)の内訳となる。石材の内訳は、砂岩が82点(77%)、チャートが24点(22%)、ホルンフェルスが1点(1%)である。重量別の組成は、50g未満が28点(26%)、50～100gが29点(27%)、100～250gが37点(35%)、250～1,000gが12点(11%)、1,000g以上が1点(1%)となる。礫表面の状態は、全面が赤化するもの46点(43%)、黒色を呈する煤状の付着物が付着するもの90点(84%)が確認された。

破碎礫の接合関係は9個体確認され(同一番号内での接合を除く)、礫群内で8個体、礫群間は2A間で1個体が認められた。

c. 礫群2 C (第28図、第21表)

[位置] J・K-10グリッド。

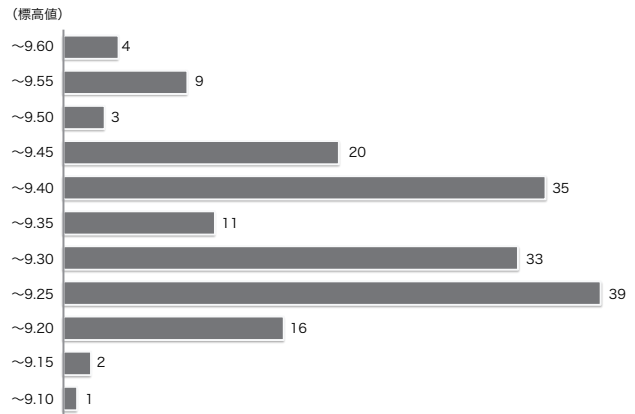
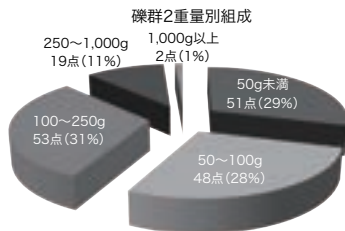
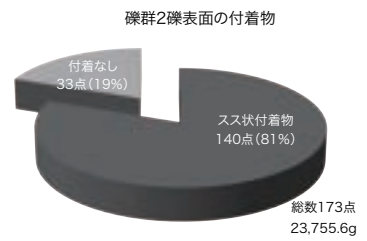
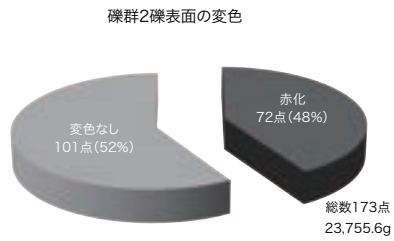
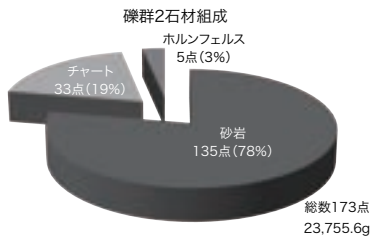
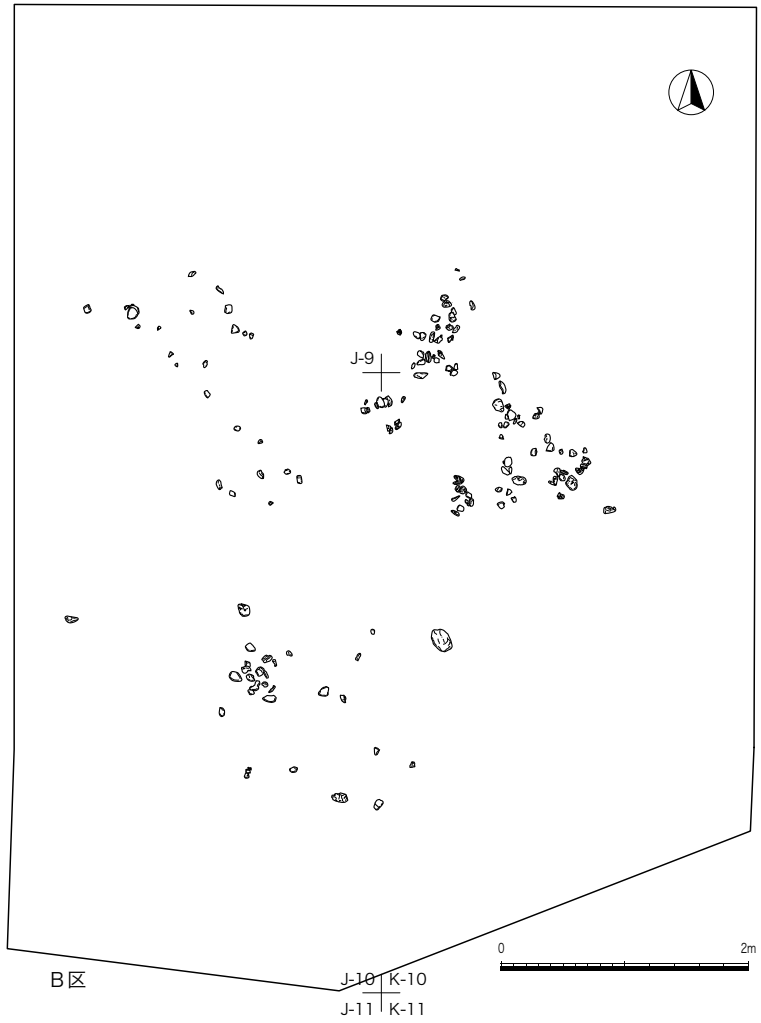
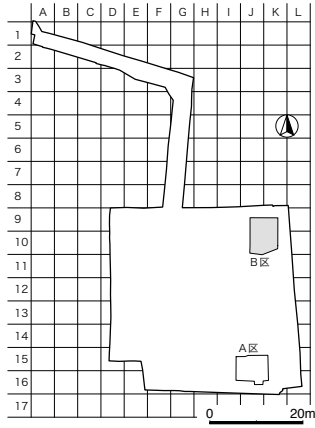
[平面分布] 南北1.6m、東西1.8m

[垂直分布] 9.094～9.389m (0.295m間)、ピーク9.208～9.242m (20点/0.034m間)。

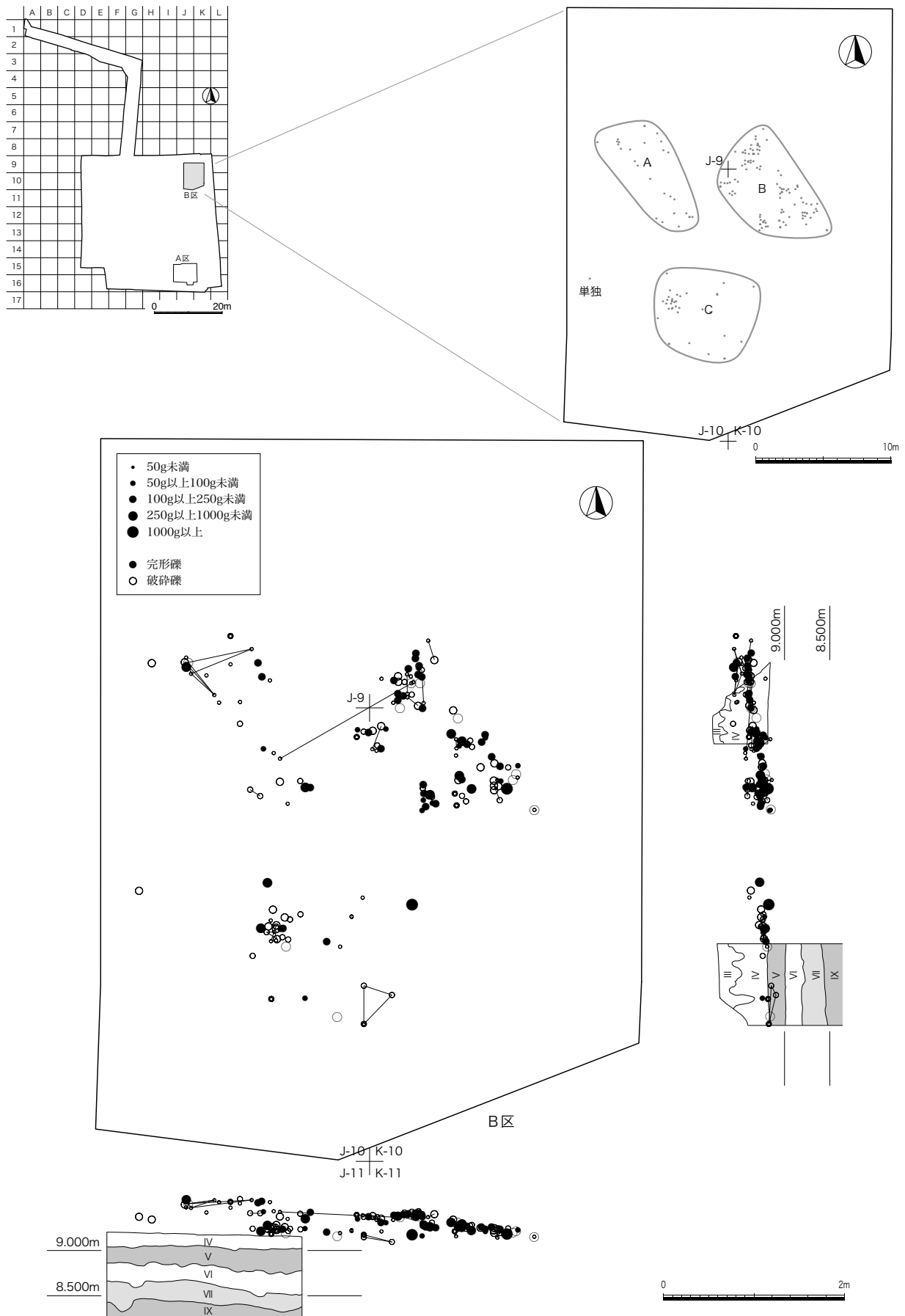
礫の総点数は36点で、完形礫7点(19%)、破碎礫29点(81%)の内訳となる。石材の内訳は、砂岩が29点(81%)、チャートが3点(8%)、ホルンフェルスが4点(11%)である。重量は、50g未満が10点(28%)、50～100gが13点(36%)、100～250gが8点(22%)、250～1,000gが4点(11%)、1,000g以上が1点(3%)となる。礫表面の状態は、全面が赤化するもの14点(39%)、黒色を呈する煤状の付着物が付着するもの32点(89%)が確認された。

破碎礫の接合関係は礫群内で4個体(同一番号内での接合を除く)が認められた。

第3章 検出された遺構と遺物



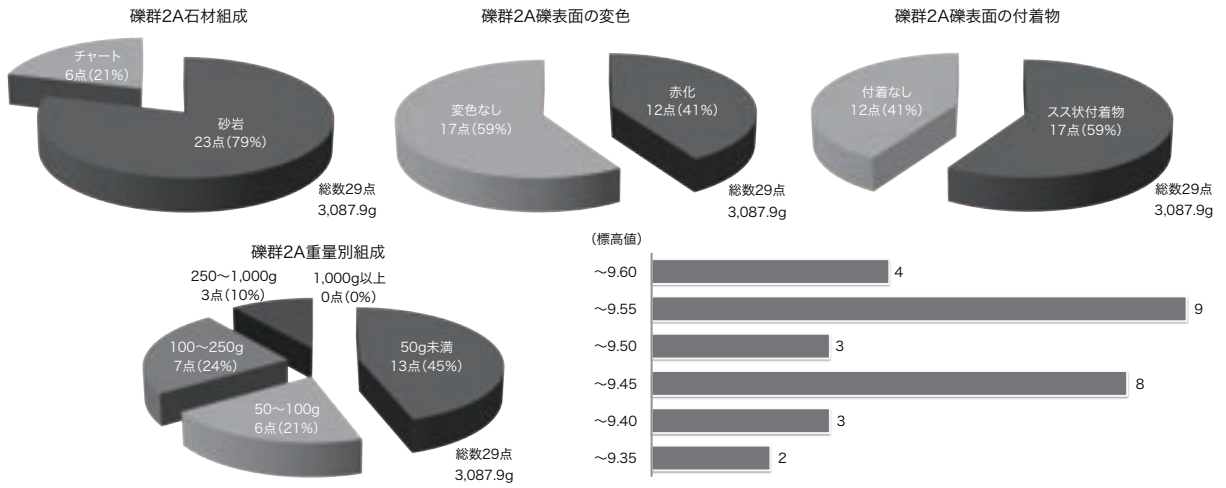
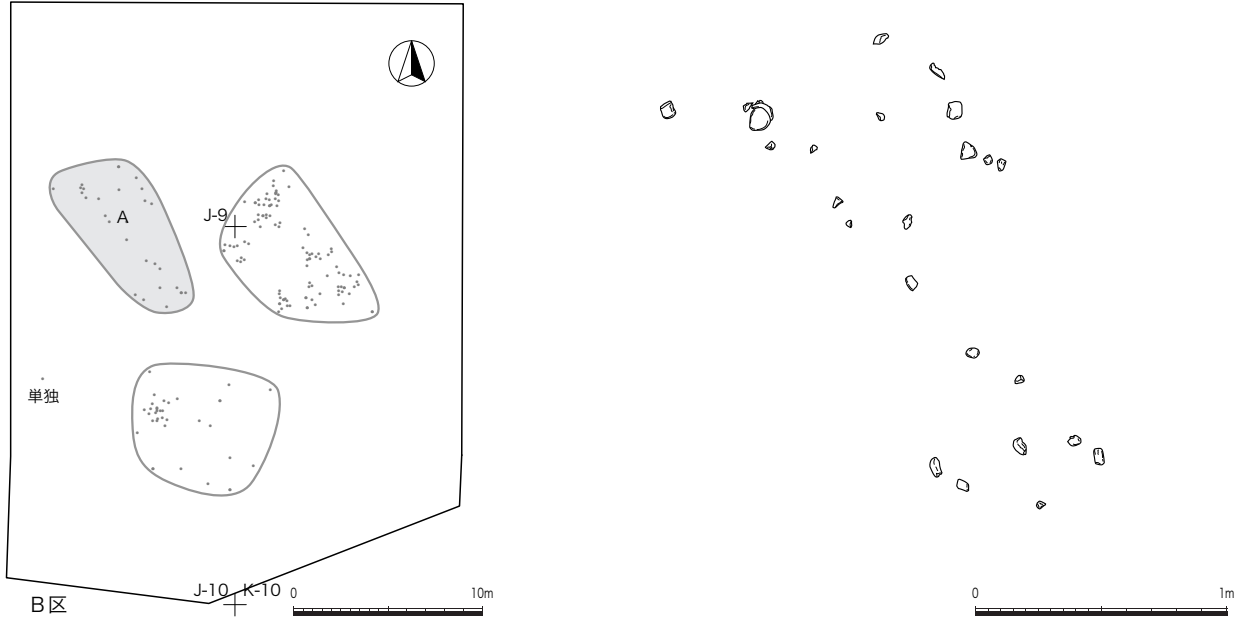
第25図 礫群2微細図(1/60)・組成グラフ



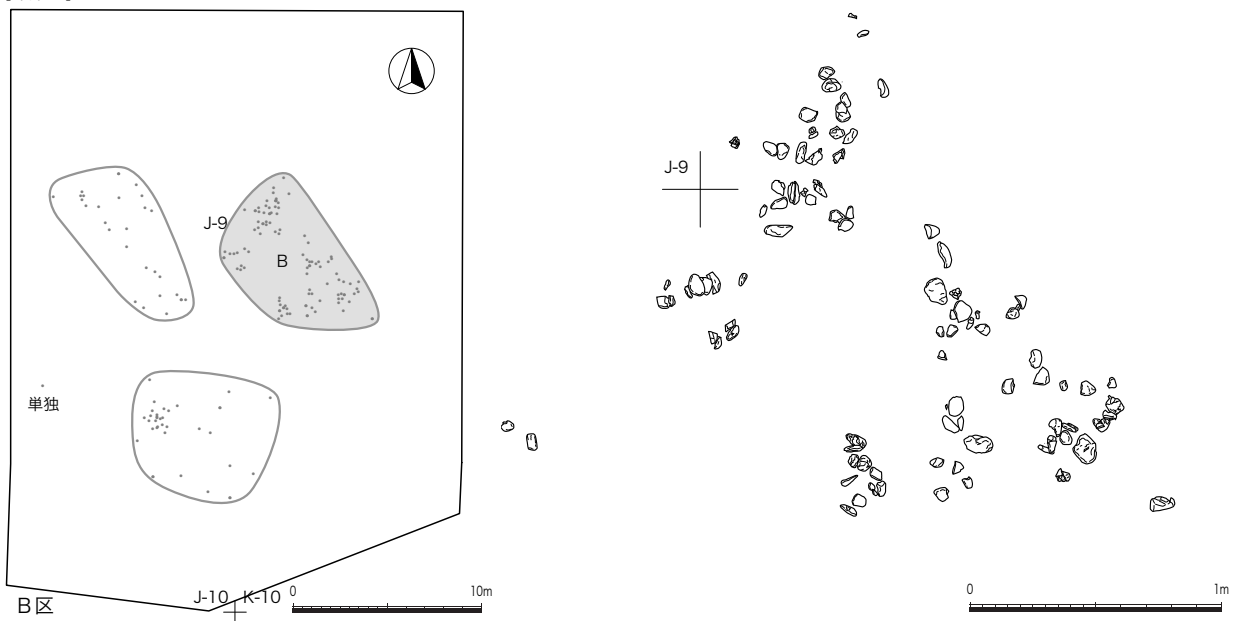
第26図 礫群2重量別分布図(1/60)

第3章 検出された遺構と遺物

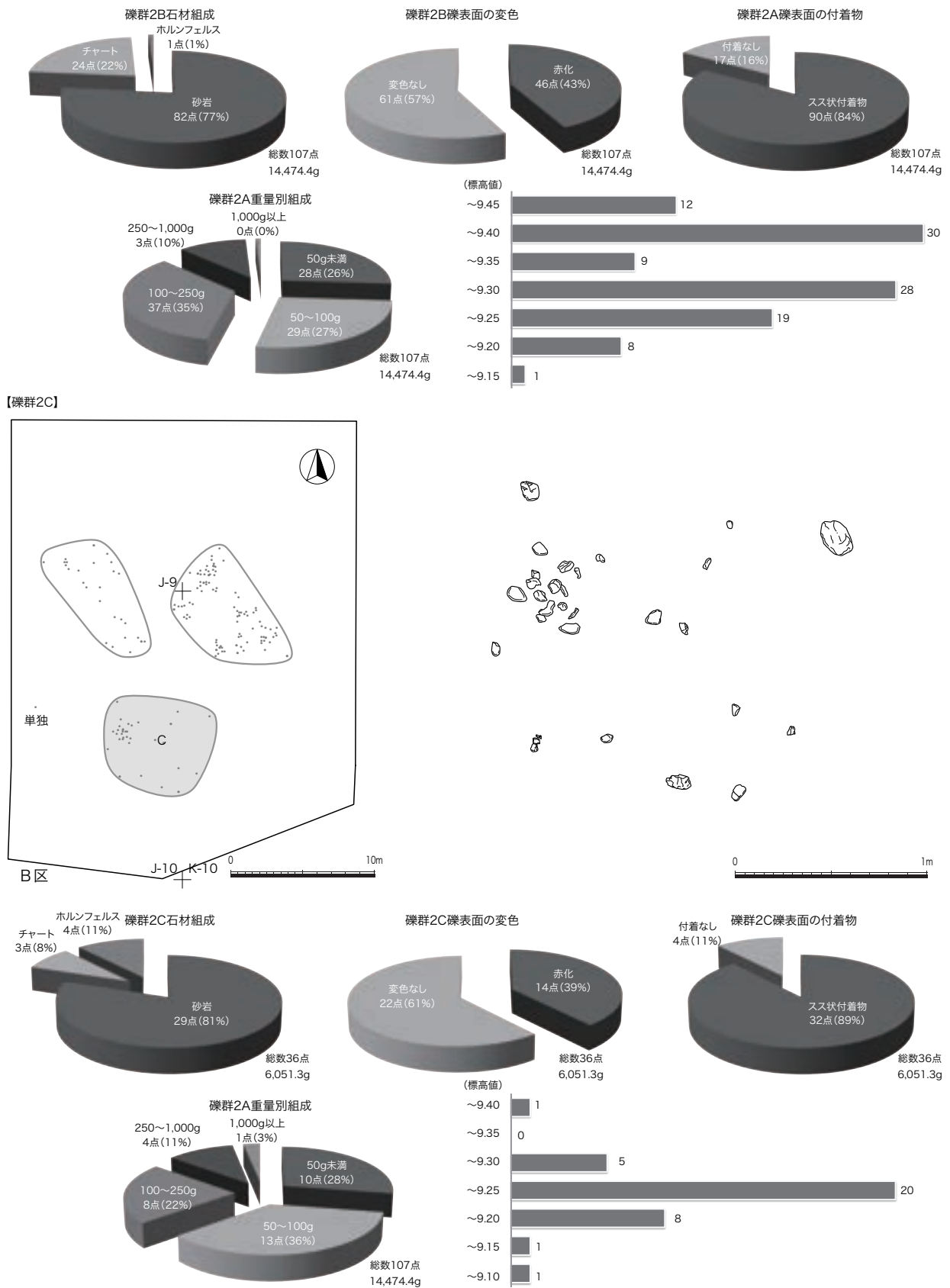
【礫群2A】



【礫群2B】



第27図 礫群2A・2B微細図(1/30)・組成グラフ



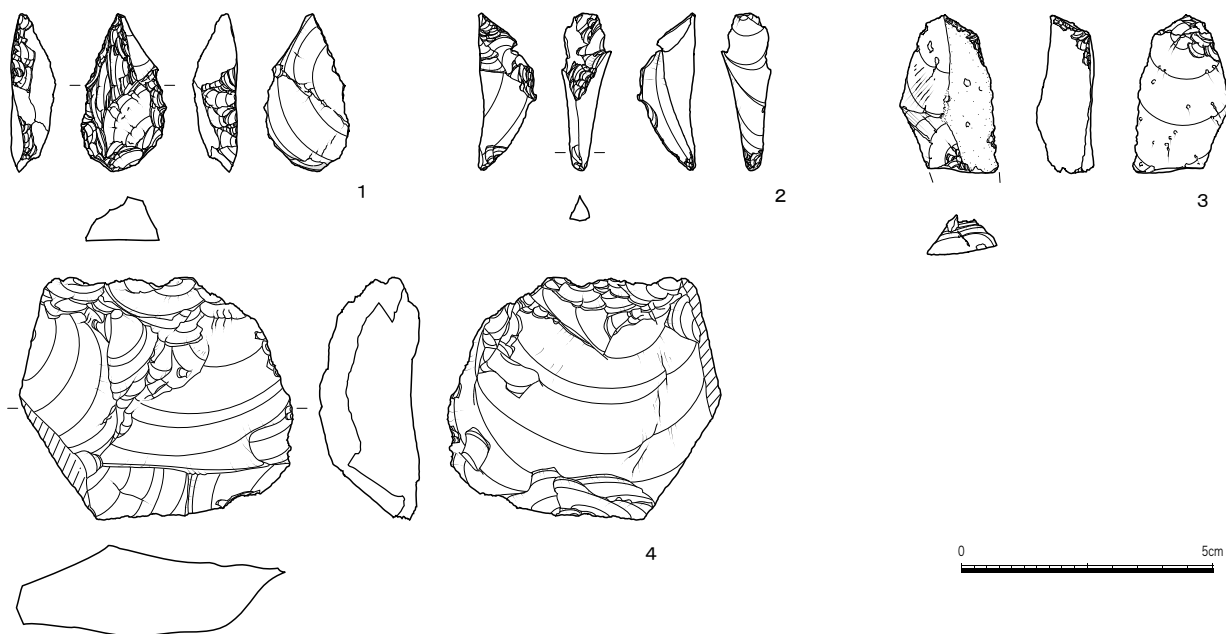
第28図 礫群2B・2C微細図(1/30)・組成グラフ

(4) 旧石器時代の遺構外出土石器 (第29図、第22表)

遺構外出土石器のうち、旧石器時代に帰属すると考えられる石器は9点(92.5g)確認できた(第22表)。器種の内訳は、ナイフ形石器1点、錐形石器1点、二次的剥離のある剥片1点、不規則剥離のある剥片1点、剥片5点である。石材の内訳は、チャート3点、黒曜石6点となる。

1～4は旧石器時代に帰属すると考えられる石器である。縄文時代以降の遺構覆土や攪乱などからそれぞれ出土したものである。

1は、チャート製のナイフ形石器である。剥片を横位に用い、素材打面部方向の縁辺を刃先角77°前後の急角度連続剥離を加えて、素材打面が除去されている。素材末端部方向下半は刃先角73°前後の急角度連続剥離で、やや鋸歯縁状に成形されている。右側縁状半に残される刃部は刃先角71°となる。2は、黒曜石製の錐形石器である。削片状の剥片を素材として、その末端部に左右縁辺→裏面方向、稜上剥離によって、断面三角形の錐部が作られている。先端は若干潰れている。3は、黒曜石製の不規則剥離のある剥片である。素材打面は平坦打面で(幅12.1mm・厚さ9.0mm)、打点は明瞭(径2.6mm)、打瘤は弱い発達となる。末端は裏面から表面に向かって折れている。不規則剥離は右側縁に多く認められ、打面近くに顕著である。4は、チャート製の二次的剥離のある剥片である。分厚な剥片を素材として、素材打面部と末端部にこれらを横断する裏面方向への二次的剥離が加えられている。刃先角は打面部で最大82°と急角度となり、打面は完全に除去されている。末端部の刃先角は76°前後となり、やはり急角度である。両端に二次的剥離が加わることで楔状の形態をなすが、両端ともに潰れ状の痕跡は認められない。



第29図 遺構外出土旧石器時代遺物 (2/3)

柄図番号	出土遺構	遺物番号	石材	母岩	個体	接合様態	器種	詳細	長さ (mm)	最大幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	図	残存	破損様態	部位	備考
第12図1a	1ブロック	227	頁岩	SH1	1	折れ	スクレイパー		26.21	51.30	11.03	11.22	△	0.5	折れ	先端~体部	
第12図1b	1ブロック	359	頁岩	SH1	1	折れ・剥離面	スクレイパー	直線状	35.11	56.76	13.44	19.27	△	0.5	折れ	体部	
第12図2	1ブロック	336	頁岩	SH1	1	剥離面	スクレイパー		29.17	34.27	11.34	8.84	○	1	339の折れ後: 二次的剥離	完形	
第12図3	1ブロック	339	頁岩	SH1			二次的剥離のある剥片		37.81	47.70	12.35	10.84	○	1		完形	
第12図4	1ブロック	360	チャート	CH1			二次的剥離のある剥片		37.31	52.08	20.32	25.98	○	1		完形	
第12図5	1ブロック	107	チャート	CH1	1	剥離面	石核		32.36	67.67	29.41	58.27	○	1		完形	接合状態+単品
第12図6a	1ブロック	338	チャート	CH1	2	折れ	石核		35.51	35.92	21.92	30.63	△	0.5	折れ	先-末端・半	
第12図6b	1ブロック	365	チャート	CH1	2	折れ	石核		32.87	44.88	24.07	29.89	△	0.5	折れ	先-末端・半	図・写真:接合状態 (338+365)
第12図7	1ブロック	431	チャート	CH1			石核		15.01	39.11	33.83	13.38	○	1		完形	
第12図8	1ブロック	342	チャート	CH1			石核		21.70	34.16	28.14	17.79	○	1		完形	
第13図9a	1ブロック	142	チャート	CH2	1	縦同時	石核		61.17	30.14	21.51	43.50	△				図・写真:接合状態 (142+158+341)
第13図9b	1ブロック	158	チャート	CH2	1	縦同時	石核	碎片(剥離時同時割れ)	34.51	57.63	19.49	33.15	△			完形	
第13図9c	1ブロック	341	チャート	CH2	1	縦同時	石核	碎片(剥離時同時割れ)	22.57	52.78	18.85	20.86	△				
第13図10a	1ブロック	344	チャート	CH3	1	剥離面・節理面	石核		29.03	37.07	18.84	23.30	△			完形	
第13図10b	1ブロック	348	チャート	CH3	1	節理面	石核		22.63	30.15	9.29	7.23	△				
第13図11	1ブロック	331	黒曜石	OB単			石核		16.42	31.43	21.82	9.32	○	1		完形	
第13図12	1ブロック	340	頁岩	SH1	1	剥離面	剥片		16.91	30.33	8.05	2.18	○			完形	
第13図13	1ブロック	423	頁岩	SH1	1	剥離面	剥片		33.46	27.34	11.43	8.86	○	0.75	折れ	先-体部	
第14図4b	1ブロック	332	頁岩	SH1	2	折れ	剥片		25.01	32.44	5.94	3.24	△	0.5	折れ	末端	
第14図4a	1ブロック	355	頁岩	SH1	2	折れ	剥片		22.65	32.75	8.28	6.71	△	0.5	折れ	先端	
第14図5a	1ブロック	337	頁岩	SH1	3	縦同時	剥片		40.33	32.07	8.92	6.09	△	0.5	縦同時	先-末端・半	
第14図5b	1ブロック	354	頁岩	SH1	3	縦同時	剥片		36.08	38.93	10.79	11.47	△	0.5	縦同時	先-末端・半	
第14図16	1ブロック	358	チャート	CH1	1	剥離面	剥片		24.99	31.70	10.00	6.46	○	1		完形	
第15図17	1ブロック	335	チャート	CH1	1	剥離面	剥片		31.81	39.46	12.08	11.14	○	1		完形	
第15図18	1ブロック	427	チャート	CH1	1	剥離面	剥片		21.20	19.87	7.35	2.42	○	1		完形	
第15図19	1ブロック	361	チャート	CH3	1	剥離面	剥片		22.31	18.64	6.59	1.33	○			完形	
	1ブロック	333	チャート	CH4			剥片		39.34	26.94	11.27	11.64				完形	
	1ブロック	334	頁岩	SH1			調整剥片		25.42	23.42	6.07	2.49				完形	
	1ブロック	343	チャート	CH1			剥片		49.42	34.22	13.72	23.06		1		完形	打点(図2)ノブ範囲
	1ブロック	345	チャート	CH3			剥片		27.42	36.41	5.75	3.74				完形	
	1ブロック	346	頁岩	SH1			剥片		28.92	47.92	12.25	15.06		不明	折れ	末端	
	1ブロック	347	頁岩	SH1			剥片		48.93	46.37	15.09	27.14		0.5	縦同時	先-末端・半	
	1ブロック	349	頁岩	SH1			剥片		40.26	42.49	8.52	12.53		1		完形	
	1ブロック	350	チャート	CH単			不規則剥離のある剥片		97.75	89.07	23.39	237.51		1		完形	
	1ブロック	351	チャート	CH1			剥片		29.54	42.49	11.76	10.84		1		完形	
	1ブロック	352	チャート	CH1			剥片		44.14	43.00	10.24	12.11		1		完形	
	1ブロック	353	チャート	CH2			調整剥片		11.05	14.31	5.06	0.58				完形	
	1ブロック	356	頁岩	SH1			剥片		20.45	14.60	6.63	1.42				先-体部	
	1ブロック	357	チャート	CH1			調整剥片		15.16	17.71	3.60	0.81				完形	
	1ブロック	362	頁岩	SH1			剥片		26.95	17.20	7.25	2.67				先-末端・半	
	1ブロック	363	チャート	CH1			調整剥片		16.16	10.72	1.64	0.20				末端	
	1ブロック	364	チャート	CH単			破片		13.48	26.78	7.10	1.76				破片	
	1ブロック	425	チャート	CH単			剥片		20.59	10.05	4.58	0.61				先-末端・半	
	1ブロック	426	チャート	CH1			不規則剥離のある剥片		28.92	17.44	6.71	3.01		0.5	縦同時	先-末端・半	
	1ブロック	429	チャート	CH4			剥片		22.27	26.61	6.74	3.16				完形	
	1ブロック	430	頁岩	SH1			破片		16.53	13.12	4.14	0.62				破片	
	1ブロック	432	チャート	CH2			不規則剥離のある剥片		34.54	30.80	8.70	8.40		1		完形	
	1ブロック	433	チャート	CH3			剥片		22.82	28.18	13.89	7.27				完形	
	1ブロック	437	チャート	CH単			破片		11.95	14.85	10.65	2.20				破片	

第4表 1ブロック出土石器

掲載番号	出土遺構	遺物番号	石材	母岩	個体	接合様態	器種	詳細	長さ (mm)	最大幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	図	残存	破損様態	部位	備考
第18図1	2ブロック	120	チャート	CH6			不規則剥離のある剥片		21.80	56.85	10.01	11.83	○	1		完形	
第18図2	2ブロック	111	チャート	CH5			剥片		55.74	36.57	20.61	35.88	○	1		完形	
第18図3	2ブロック	123	チャート	CH6			石核		46.56	69.19	31.48	84.25	○			完形	
	2ブロック	102	チャート	CH6			剥片		23.13	23.47	10.46	3.75		0.25	折れ	先端	
	2ブロック	116	チャート	CH4			剥片		15.08	23.19	6.68	1.70				完形	
	2ブロック	117	チャート	CH5			剥片		40.48	16.13	8.30	3.50		0.25	折れ	先-末端・半	

第5表 2ブロック出土石器1

第3章 検出された遺構と遺物

掲載番号	出土遺構	遺物番号	石材	母岩	個体	接合様態	器種	詳細	長さ(mm)	最大幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	図	残存	破損様態	部位	備考
	2ブロック	118	チャート	CH6			調整剥片		14.97	20.83	5.05	0.98		1		A	
	2ブロック	119	チャート	CH5			剥片		33.64	15.81	9.40	3.30		1		A	
	2ブロック	121	チャート	CH5			剥片		14.02	31.68	7.35	3.46		0.5	折れ	P	ポジ×ポジ
	2ブロック	122	チャート	CH5			剥片		32.83	28.08	12.14	10.44		0.5	折れ	E	
	2ブロック	162	チャート	CH5			剥片		24.61	33.77	13.20	10.38		1		A	
	2ブロック	163	チャート	CH6			調整剥片		26.89	16.23	3.90	1.03		1		A	

第6表 2ブロック出土石器2

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量(g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
398		礫片	A	砂岩	36.2	破碎	11	破碎礫	399・43・46	C	-	○	-	-	
399		礫片	A	砂岩	8.9	破碎	11	破碎礫	398・43・46	C	-	○	-	-	一部赤化
377		礫片	A	砂岩	60.8	破碎	48	破碎礫	251・252・273	D	○	○	-	-	節理
419		礫片	A	砂岩	27.3	破碎	50	破碎礫	259	D	○	○	-	-	節理
443		礫片	A	砂岩	46.3	破碎	56	完形礫	266	D	○	◎	-	-	
318		礫片	A	砂岩	15.8	破碎	66	破碎礫	312・405・416	D	○	-	-	-	
405		礫片	A	砂岩	4.9	破碎	66	破碎礫	312・318・416	D	○	-	-	-	
416		礫片	A	砂岩	26.7	破碎	66	破碎礫	312・318・405	D	○	-	-	-	
316		礫片	A	砂岩	204.8	破碎	67	破碎礫	401	内	-	○	-	-	
401		礫片	A	砂岩	6.9	破碎	67	破碎礫	316	内	-	○	-	-	
319		礫片	A	砂岩	8.7	破碎	68	破碎礫	320・411・415	内	-	-	○	-	
320		礫片	A	砂岩	9.7	破碎	68	破碎礫	319・411・415	内	-	-	○	-	
411		礫片	A	砂岩	38.6	破碎	68	破碎礫	319・320・415	内	-	-	○	-	
415		礫片	A	砂岩	33.3	破碎	68	破碎礫	319・320・411	内	-	-	○	-	
321		礫片	A	チャート	22.1	破碎	69	破碎礫	322・421・422	内	○	-	△	-	表面変色は片側のみ
322		礫片	A	チャート	36.7	破碎	69	破碎礫	321・421・422	内	○	-	△	-	表面変色は片側のみ
421		礫片	A	チャート	11.9	破碎	69	破碎礫	321・322・422	内	○	-	△	-	表面変色は片側のみ
422		礫片	A	チャート	7.0	破碎	69	破碎礫	321・322・421	内	○	-	△	-	表面変色は片側のみ
378		礫片	A	砂岩	122.1	破碎	70	破碎礫	418・420	内	-	○	○	-	
418		礫片	A	砂岩	12.4	破碎	70	破碎礫	378・420	内	-	○	○	-	
420		礫片	A	砂岩	3.0	破碎	70	破碎礫	378・418	内	-	○	○	-	
379		礫片	A	砂岩	45.3	破碎	71	破碎礫	394	内	-	-	○	-	
394		礫片	A	砂岩	40.8	破碎	71	破碎礫	379	内	-	-	○	-	
393		礫片	A	砂岩	12.7	破碎	74	破碎礫	396	内	-	○	○	-	
396		礫片	A	砂岩	67.2	破碎	74	破碎礫	393	内	-	○	○	-	
317		礫片	A	砂岩	194.3	破碎					○	○	○	-	
323		礫片	A	砂岩	4.9	破碎					-	-	○	-	
380		礫	A	チャート	131.5	完形					○	○			一部白化か
395		礫	A	砂岩	94.4	完形					○	○			一部白化か
397		礫	A	チャート	56.9	完形					○	○			
400		礫片	A	砂岩	216.3	破碎					○	○	○		
402		礫片	A	チャート	342	破碎					○	○	△	-	
403		礫片	A	砂岩	313.4	破碎					-	○	-	-	表面剥落
404		礫	A	砂岩	48.9	完形					-	○			
406		礫片	A	砂岩	26.3	破碎					-	○	○	-	
407		礫	A	砂岩	128.8	完形					-	-			
408		礫	A	砂岩	122.6	完形					-	-			
409		礫片	A	砂岩	28.2	破碎					-	○		-	
410		礫	A	砂岩	74.8	完形					-	-			
412		礫	A	砂岩	43.2	完形					-	-			
413		礫	A	チャート	90.2	完形					○	○			
414		礫	A	チャート	55.8	完形					-	○			
417		礫	A	砂岩	102.8	完形					-	◎			
423		礫	A	砂岩	12.1	破碎					-	○	○	-	
441		礫	A	砂岩	9.8	破碎					○	-	○	-	
442		礫	A	チャート	20.7	破碎					-	-	-	-	

第7表 礫群1A 礫観察表

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量(g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
196		礫	B	砂岩	49.2	破碎	19	破碎礫	79・384	C	○	○	○	-	
384		礫	B	砂岩	15.1	破碎	19	破碎礫	79・196	C	○	○	○	-	
200		礫	B	砂岩	14.8	破碎	20	完形礫	81・201	C	-	○			
201		礫	B	砂岩	9.9	破碎	20	完形礫	81・200	C	-	○			
440		礫	B	砂岩	22.8	破碎	22	破碎礫	96	E	○	○	○	-	
392		礫	B	砂岩	115.6	破碎	39	完形礫	202・212・439	C	-	○			表面赤化は半面
381 a		礫	B	砂岩	372.3	破碎	72	破碎礫		内	○	○	○	-	
381 b		礫	B	砂岩	12.4	破碎	72	破碎礫		内	○	○	○	-	
383 a		礫	B	砂岩	159.5	破碎	73	完形礫		内	○	◎			
383 b		礫	B	砂岩	26.6	破碎	73	完形礫		内	○	◎			
382		礫	B	チャート	395.6	完形					-	-			

第8表 礫群1B 礫観察表

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
4		礫	C	砂岩	167.0	破碎	1	完形礫	14	内	-	○			
14		礫	C	砂岩	132.6	破碎	1	完形礫	4	内	-	○			
6	a	礫	C	砂岩	94.8	破碎	2	完形礫		内	-	○			
6	b	礫	C	砂岩	153.8	破碎	2	完形礫		内	-	○			
7		礫	C	砂岩	92.4	破碎	3	破碎礫	88	内	-	○		○	
88		礫	C	砂岩	32.4	破碎	3	破碎礫	7	内	-	○		○	
11	a	礫	C	砂岩	1660.6	破碎	4	完形礫		内	○	◎			
11	b	礫	C	砂岩	43.4	破碎	4	完形礫		内	○	◎			
18	a	礫	C	砂岩	205.8	破碎	5	破碎礫	16・87・89・92・93	内	-	-	△	-	
18	b	礫	C	砂岩	51.8	破碎	5	破碎礫	16・87・89・92・93	内	-	-	△	-	
16		礫	C	砂岩	66.6	破碎	5	破碎礫	18・87・89・92・93	内	-	-	△	-	
87		礫	C	砂岩	100.5	破碎	5	破碎礫	16・18・89・92・93	内	-	-	△	-	
89		礫	C	砂岩	73.5	破碎	5	破碎礫	16・18・87・92・93	内	-	-	△	-	
92		礫	C	砂岩	125.2	破碎	5	破碎礫	16・18・87・89・93	内	-	-	△	-	
93		礫	C	砂岩	130.7	破碎	5	破碎礫	16・18・87・89・92	内	-	-	△	-	
23	a	礫	C	砂岩	54.1	破碎	6	破碎礫	20	内	-	○	△	-	
23	b	礫	C	砂岩	64.5	破碎	6	破碎礫	20	内	-	○	△	-	
20		礫	C	砂岩	36.4	破碎	6	破碎礫	23	内	-	○	△	-	
24	a	礫	C	砂岩	53.6	破碎	7	完形礫		内	-	○			
24	b	礫	C	砂岩	41.2	破碎	7	完形礫		内	-	○			
35	a	礫	C	砂岩	107.0	破碎	8	完形礫		内	-	○			表面一部橙化
35	b	礫	C	砂岩	163.1	破碎	8	完形礫		内	-	○			表面一部橙化
37	a	礫	C	チャート	132.2	破碎	9	完形礫		内	-	◎			
37	b	礫	C	チャート	40.8	破碎	9	完形礫		内	-	◎			
39		礫	C	砂岩	121.2	破碎	10	破碎礫	42	内	○	◎	△	-	
42		礫	C	砂岩	87.4	破碎	10	破碎礫	39	内	○	◎	△	-	
43		礫	C	砂岩	27.1	破碎	11	破碎礫	46・398・399	A	-	○		-	
46		礫	C	砂岩	39.8	破碎	11	破碎礫	43・398・399	A	-	○		-	
45	a	礫	C	砂岩	70.4	破碎	12	破碎礫		内	-	○	-	○	表面一部赤化
45	b	礫	C	砂岩	42.5	破碎	12	破碎礫		内	-	○	-	○	表面一部赤化
50		礫	C	砂岩	298.4	破碎	13	破碎礫	71	内	○	○	○	-	
71		礫	C	砂岩	1076.6	破碎	13	破碎礫	50	内	○	○	○	-	
56		礫	C	砂岩	163.0	破碎	14	破碎礫	63・108	E	○	○		-	表面剥落
63		礫	C	砂岩	1556.5	破碎	14	破碎礫	56・108	E	○	○		-	表面剥落
60	a	礫	C	ホルンフェルス	110.0	破碎	15	完形礫		内	-	○			
60	b	礫	C	ホルンフェルス	41.1	破碎	15	完形礫		内	-	○			
73		礫	C	砂岩	55.1	破碎	16	完形礫	369	内	-	○			
369		礫	C	砂岩	47.7	破碎	16	完形礫	73	内	-	○			
77		礫	C	砂岩	78.2	破碎	17	破碎礫	391	内	-	○	○	-	
391		礫	C	砂岩	20.0	破碎	17	破碎礫	77	内	-	○	○	-	
78		礫	C	砂岩	75.2	破碎	18	完形礫	438	内	-	○			
438		礫	C	砂岩	36.7	破碎	18	完形礫	78	内	-	○			
79		礫	C	砂岩	29.2	破碎	19	破碎礫	196・384	B	○	○	○	-	
81		礫	C	砂岩	213.5	破碎	20	完形礫	200・201	B	-	○		-	
82		礫	C	砂岩	13.5	破碎	21	破碎礫	330	内	-	-	○	-	
330		礫	C	砂岩	65.8	破碎	21	破碎礫	82	内	-	-	○	-	
211		礫	C	砂岩	117.5	破碎	27	破碎礫	125	E	-	○		-	
195		礫	C	チャート	35.1	破碎	38	破碎礫	202	内	-	-		-	
202		礫	C	チャート	18.6	破碎	38	破碎礫	195	内	-	-		-	
203		礫	C	砂岩	24.0	破碎	39	完形礫	212・392・439	B	-	○			表面赤化は半面
212		礫	C	砂岩	76.3	破碎	39	完形礫	203・392・439	B	-	○			表面赤化は半面
439		礫	C	砂岩	12.7	破碎	39	完形礫	203・212・392	B	-	○			表面赤化は半面
208		礫	C	砂岩	13.1	破碎	40	破碎礫	374	内	-	○	○	○	
374		礫	C	砂岩	80.6	破碎	40	破碎礫	208	内	-	○	○	○	
213		礫	C	砂岩	27.9	破碎	41	破碎礫	222・224・228	E	○	○	○	-	周縁赤化の破面もあり。E区扱
1		礫	C	砂岩	115.8	破碎					○	○	○	-	
2		礫	C	砂岩	151.6	完形					-	◎			
3		礫	C	砂岩	9.9	破碎					○	-	○	-	
5		礫	C	砂岩	451.2	完形					-	○			
8		礫	C	砂岩	231.8	完形					-	○			
9		礫	C	チャート	311.8	破碎					○	◎	○	○	
10		礫	C	チャート	391.1	破碎					○	◎	○	-	
12		礫	C	砂岩	217.1	破碎					-	◎	○	○	
13		礫	C	チャート	124.3	破碎					-	-	-	-	表面僅かに橙
15		礫	C	砂岩	452.0	破碎					○	◎		-	
17		礫	C	砂岩	105.6	完形					○	○			
19		礫	C	砂岩	195.1	完形					-	○			
21		礫	C	チャート	90.2	破碎					○	○	-	-	
22		礫	C	砂岩	147.5	破碎					○	○	○		-
25		礫	C	砂岩	106.6	完形					-	○			
26		礫	C	砂岩	130.6	破碎					-	◎	○	-	
27		礫	C	砂岩	112.6	完形					-	◎			表面一部橙化
28		礫	C	チャート	222.7	完形					○	○			
29		礫	C	砂岩	137.6	完形					-	○			

第9表 礫群1C礫観察表1

第3章 検出された遺構と遺物

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
30		礫	C	砂岩	135.8	完形					-	◎			
31		礫	C	砂岩	96.5	完形					-	-			
32		礫	C	砂岩	77.2	完形					-	○			
33		礫	C	チャート	135.1	完形					-	○			
34		礫	C	砂岩	706.7	破砕					-	○	○	-	
36		礫	C	チャート	172.8	破砕					○	○			
38		礫	C	砂岩	162.2	完形					○	○			
40		礫	C	砂岩	250.5	破砕					-	○	-	-	
41		礫	C	チャート	41.2	破砕					○	○	○	-	
44		礫	C	砂岩	72.6	完形					-	-			
47		礫	C	砂岩	109.8	完形					-	○			表面剥落
48		礫	C	砂岩	103.1	破砕					-	-	○	-	
49		礫	C	砂岩	275.5	破砕					○	○	-	-	
51		礫	C	チャート	378.7	完形					-	-			
52		礫	C	砂岩	249.3	破砕					-	○		○	
53		礫	C	砂岩	313.2	完形					-	○			
54		礫	C	砂岩	78.4	破砕					-	-		-	
55		礫	C	チャート	198.0	破砕					-	◎	○	-	表面一部橙
57		礫	C	砂岩	122.1	破砕					-	◎	○	○	
58		礫	C	砂岩	84.4	破砕					○	○	○	-	
59		礫	C	砂岩	145.9	完形					○	○			
61		礫	C	砂岩	155.1	完形					-	○			
62		礫	C	チャート	242.0	完形					○	○			
64		礫	C	チャート	505.4	破砕					○	◎	○	○	
65		礫	C	砂岩	106.0	破砕					-	○	○	-	
66		礫	C	砂岩	155.1	完形					○	◎			
67		礫	C	砂岩	92.5	完形					○	-			内面周縁赤化
68		礫	C	チャート	104.9	完形					-	○			
69		礫	C	砂岩	386.8	破砕					○	○	○	-	表面赤化は半面
70		礫	C	砂岩	205.5	完形					-	◎			
72		礫	C	チャート	39.4	破砕					-	-	-	-	表面一部橙化か
74		礫	C	砂岩	99.5	完形					-	-			
75		礫	C	砂岩	1045.1	破砕					-	◎		○	断面に煤が多量に付着
76		礫	C	砂岩	119.4	完形					○	○			赤化は半面
80		礫	C	砂岩	527.8	完形					-	○			
83		礫	C	砂岩	17.2	破砕					-	-		-	
84		礫	C	チャート	135.1	完形					-	-			
85		礫	C	砂岩	84.0	破砕					-	-	-	○	表面剥落
86		礫	C	砂岩	49.6	破砕					○	◎	-	-	表面剥落
90		礫	C	チャート	131.4	完形					○	○			
91		礫	C	チャート	100.7	完形					○	◎			
94		礫	C	チャート	94.0	完形					○	○			
95		礫	C	チャート	144.0	完形					-	○			
191		礫	C	砂岩	91.9	破砕					○	○	○	○	
192		礫	C	砂岩	164.4	完形					-	○			
193		礫	C	砂岩	116.7	完形					○	○			
194		礫	C	チャート	136.3	完形					-	○			
197		礫	C	チャート	39.9	破砕					-	○		-	
198		礫	C	砂岩	113.9	完形					-	-			
199		礫	C	砂岩	191.1	破砕					-	○	○		
204		礫	C	砂岩	10.2	破砕					-	-	○	-	
205		礫	C	砂岩	8.0	破砕					-	-	△	-	
206		礫	C	砂岩	201.8	完形					○	◎			
207		礫	C	砂岩	137.3	完形					○	○			
209		礫	C	砂岩	103.3	破砕					○	◎	○	-	
210		礫	C	砂岩	100.7	破砕					-	○	△	○	
329		礫	C	砂岩	56.4	完形					-	-			
367		礫	C	砂岩	34.1	破砕					-	○	○	-	
368		礫	C	砂岩	327.0	完形					-	○			
370		礫	C	砂岩	89.2	破砕					○	-	○	○	
371		礫	C	チャート	244.5	完形					-	◎			
372		礫	C	砂岩	63.9	完形					-	-			表面一部赤化か
373		礫	C	砂岩	98.6	完形					-	○			
375		礫	C	砂岩	215.9	破砕					○	○	○	○	
376		礫	C	砂岩	102.9	完形					○	○			内部赤化
385		礫	C	チャート	140.7	完形					○	○			

第10表 礫群1C 礫観察表2

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
246	a	礫	D	チャート	642.9	破砕	47	完形礫		内	○	○			
246	b	礫	D	チャート	181.7	破砕	47	完形礫		内	○	○			
251		礫	D	砂岩	176.5	破砕	48	破砕礫	252・273・377	A	○	○	-	-	節理
252		礫	D	砂岩	70.7	破砕	48	破砕礫	251・273・377	A	○	○	-	-	節理
273		礫	D	砂岩	58.4	破砕	48	破砕礫	251・252・377	A	○	○	-	-	節理
254		礫	D	砂岩	33.2	破砕	49	破砕礫	280	内	-	○	○	-	
280		礫	D	砂岩	101.9	破砕	49	破砕礫	254	内	-	○	○	-	
259		礫	D	砂岩	198.6	破砕	50	破砕礫	419	A	○	○	-	-	節理
260	a	礫	D	砂岩	102.1	破砕	51	完形礫		内	-	○			
260	b	礫	D	砂岩	41.1	破砕	51	完形礫		内	-	○			
261	a	礫	D	チャート	68.9	破砕	52	完形礫		内	-	-			
261	b	礫	D	チャート	104.9	破砕	52	完形礫		内	-	-			
262		礫	D	ホルンフェルス	102.4	破砕	53	破砕礫	324	内	-	○	-	○	
324		礫	D	ホルンフェルス	38.5	破砕	53	破砕礫	262	内	-	○	-	○	
263		礫	D	チャート	164.8	破砕	54	破砕礫	308	内	○	○	○	○	
308		礫	D	チャート	52.7	破砕	54	破砕礫	263	内	○	○	○	○	
264	a	礫	D	チャート	237.2	破砕	55	破砕礫		内	○	○	○	-	
264	b	礫	D	チャート	17.2	破砕	55	破砕礫		内	○	○	○	-	
266		礫	D	砂岩	74.1	破砕	56	完形礫	443	A	○	◎			
275	a	礫	D	砂岩	57.6	破砕	57	完形礫	285	内	-	○			
275	b	礫	D	砂岩	62.3	破砕	57	完形礫	285	内	-	○			
285		礫	D	砂岩	29.4	破砕	57	完形礫	275	内	-	○			
276	a	礫	D	砂岩	71.3	破砕	58	完形礫		内	-	○			
276	b	礫	D	砂岩	41.1	破砕	58	完形礫		内	-	○			
282	a	礫	D	砂岩	190.2	破砕	59	破砕礫		内	-	○	○	○	
282	b	礫	D	砂岩	29.0	破砕	59	破砕礫		内	-	○	○	○	
284		礫	D	砂岩	107.0	破砕	60	破砕礫	294	内	-	○	○	○	
294		礫	D	砂岩	14.6	破砕	60	破砕礫	284	内	-	○	○	○	
287		礫	D	砂岩	124.1	破砕	61	破砕礫	424	内	-	○	-	-	
424		礫	D	砂岩	15.3	破砕	61	破砕礫	287	内	-	○	-	-	
290	a	礫	D	砂岩	165.1	破砕	62	完形礫		内	○	○			
290	b	礫	D	砂岩	31.1	破砕	62	完形礫		内	○	○			
299		礫	D	チャート	64.5	破砕	63	破砕礫	301	内	○	○	○	○	周縁は赤化
301		礫	D	チャート	80.5	破砕	63	破砕礫	299	内	○	○	○	○	周縁は赤化
300	a	礫	D	砂岩	89.7	破砕	64	破砕礫		内	○	○	○	-	
300	b	礫	D	砂岩	13.6	破砕	64	破砕礫		内	○	○	○	-	
303		礫	D	砂岩	52.3	破砕	65	完形礫	304		-	○			
304		礫	D	砂岩	99.8	破砕	65	完形礫	303		-	○			
312		礫	D	砂岩	100.5	破砕	66	破砕礫	318・405・416	A	○	-			
247		礫	D	砂岩	240.1	破砕					-	-		-	
248		礫	D	砂岩	104.4	完形					○	○			
249		礫	D	砂岩	93.5	破砕					○	-	○	-	
250		礫	D	砂岩	130.0	完形					○	○			
253		礫	D	砂岩	162.0	破砕					-	○	-	○	一部赤化
255		礫	D	砂岩	539.0	完形					-	○			一部白化か
256		礫	D	砂岩	291.4	完形					-	◎			白化か
257		礫	D	砂岩	151.8	破砕					-	-	-	-	
258		礫	D	チャート	133.8	完形					○	-			
265		礫	D	チャート	137.9	完形					-	○			
267		礫	D	チャート	172.8	破砕					○	◎	○	○	
268		礫	D	砂岩	164.3	破砕					-	○	-	○	表面剥落
269		礫	D	チャート	174.9	完形					-	-			
270		礫	D	砂岩	123.1	破砕					-	○	○	-	
271		礫	D	砂岩	88.1	破砕					-	○	-	-	
272		礫	D	砂岩	151.6	完形					○	○			
274		礫	D	砂岩	21.3	破砕					-	-	-	-	
277		礫	D	砂岩	215.4	破砕					-	-	△	-	
278		礫	D	砂岩	154.8	完形					-	○			
279		礫	D	砂岩	267.7	完形					-	◎			
281		礫	D	砂岩	253.94	完形					○	○			
283		礫	D	チャート	86.8	破砕					○	-	△	○	表面は半面白化
286		礫	D	砂岩	159.2	完形					-	○			一部橙化
288		礫	D	砂岩	95.3	破砕					-	○		-	
289		礫	D	チャート	150.5	完形					○	-			-
291		礫	D	チャート	78.3	完形					-	-			
292		礫	D	砂岩	216.2	完形					-	○			
293		礫	D	砂岩	154.3	破砕					○	○	○	○	
295		礫	D	砂岩	168	完形					-	○			
296		礫	D	砂岩	88.1	完形					-	-			
297		礫	D	砂岩	87.1	完形					-	○			
298		礫	D	チャート	95.4	完形					○	○			
302		礫	D	砂岩	23.1	破砕					-	-	○	-	
305		礫	D	砂岩	192.8	完形					○	○			一部白化か
306		礫	D	チャート	214.1	完形					-	○			橙化は半面
307		礫	D	砂岩	153.3	完形					○	○			赤化は半面

第11表 礫群1D 礫観察表1

第3章 検出された遺構と遺物

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
309		礫	D	砂岩	87.8	完形					○	○			
310		礫	D	砂岩	263.6	完形					-	○			
311		礫	D	砂岩	121.7	完形					○	○			内部まで赤化浸透か
313		礫	D	砂岩	127.0	完形					-	○			
314		礫	D	砂岩	88.0	破碎					-	○	-	-	一部橙化
315		礫	D	砂岩	105.6	破碎					-	-	-	-	
325		礫	D	砂岩	65	完形					-	○			表面剥落
390		礫	D	チャート	0.6	破碎					○	-	-	-	小破片

第12表 礫群1D 礫観察表2

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
108		礫	E	砂岩	477.8	破碎	14	破碎礫	56・63	C	○	○		-	表面剥落
96		礫	E	砂岩	32.5	破碎	22	破碎礫	440	B	○	○	○	-	
103	a	礫	E	砂岩	95.7	破碎	23	完形礫		内	○	○			
103	b	礫	E	砂岩	25.0	破碎	23	完形礫		内	○	○			
104		礫	E	チャート	20.3	破碎	24	破碎礫	328	内	○	○	○	-	
328		礫	E	チャート	67.0	破碎	24	破碎礫	104	内	○	○	○	-	
105	a	礫	E	砂岩	35.8	破碎	25	破碎礫		内	-	◎		-	
105	b	礫	E	砂岩	24.0	破碎	25	破碎礫		内	-	◎		-	
117		礫	E	砂岩	60.8	破碎	26	破碎礫	232・235・236・237・326	内	-	○		○	
232		礫	E	砂岩	105.5	破碎	26	破碎礫	117・235・236・237・326	内	-	○		○	
235		礫	E	砂岩	21.4	破碎	26	破碎礫	117・232・236・237・326	内	-	○		○	
236		礫	E	砂岩	93.1	破碎	26	破碎礫	117・232・236・237・326	内	-	○		○	
237		礫	E	砂岩	62.7	破碎	26	破碎礫	117・232・235・236・326	内	-	○		○	
326		礫	E	砂岩	40.3	破碎	26	破碎礫	117・232・235・236・237	内	-	○		○	
125		礫	E	砂岩	36.6	破碎	27	破碎礫	211	C	-	○		-	
134		礫	E	砂岩	44.4	破碎	28	完形礫	141	F	-	○		-	
140		礫	E	砂岩	440.7	破碎	30	破碎礫	164	内	○	○		-	
164		礫	E	砂岩	147.4	破碎	30	破碎礫	140	内	○	○		-	
173	a	礫	E	チャート	60.1	破碎	32	完形礫	174a	内	○	○		-	
173	b	礫	E	チャート	66.9	破碎	32	完形礫		内	○	○		-	
174	a	礫	E	チャート	80.4	破碎	32	完形礫	173	内	○	○		-	
174	b	礫	E	砂岩	31.9	破碎	33	破碎礫	175・177	内	-	○	○	-	表面一部橙化
175		礫	E	砂岩	48.6	破碎	33	破碎礫	174b・177	内	-	○	○	-	表面一部橙化
177		礫	E	砂岩	17.8	破碎	33	破碎礫	174b・175	内	-	○	○	-	表面一部橙化
178		礫	E	砂岩	51.6	破碎	34	破碎礫	180	内	-	-	○	-	
180		礫	E	砂岩	22.3	破碎	34	破碎礫	178	内	-	-	○	-	
179		礫	E	砂岩	216.2	破碎	35	破碎礫	366	内	-	○		-	
366		礫	E	砂岩	79.7	破碎	35	破碎礫	179	内	-	○		-	
186		礫	E	砂岩	147.5	破碎	36	破碎礫	187・188	内	-	-	○	-	
187		礫	E	砂岩	61.5	破碎	36	破碎礫	186・188	内	-	-	○	-	
188		礫	E	砂岩	235.0	破碎	36	破碎礫	186・187	内	-	-	○	-	
189		礫	E	砂岩	521.8	破碎	37	破碎礫	190	内	○	○	○	-	
190		礫	E	砂岩	113.6	破碎	37	破碎礫	189	内	○	○	○	-	
222	a	礫	E	砂岩	22.7	破碎	41	破碎礫	213・224・228	C	○	○	○	-	周縁赤化の破面もあり
228	a	礫	E	砂岩	68.7	破碎	41	破碎礫	213・222・224	C	○	○	○	-	周縁赤化の破面もあり
222	b	礫	E	砂岩	40.9	破碎	41	破碎礫	213・224・228	C	○	○	○	-	周縁赤化の破面もあり
228	b	礫	E	砂岩	79.1	破碎	41	破碎礫	213・222・224	C	○	○	○	-	周縁赤化の破面もあり
224		礫	E	砂岩	260.5	破碎	41	破碎礫	213・222・228	C	○	○	○	-	周縁赤化の破面もあり
215	a	礫	E	砂岩	227.7	破碎	42	破碎礫	216	内	○	○		-	
215	b	礫	E	砂岩	20.9	破碎	42	破碎礫	216	内	○	○		-	
216		礫	E	砂岩	28.7	破碎	42	破碎礫	215	内	○	○		-	
218	a	礫	E	砂岩	120.6	破碎	43	破碎礫		内	○	-	○	○	
218	b	礫	E	砂岩	75.1	破碎	43	破碎礫		内	○	-	○	○	
225		礫	E	砂岩	83.3	破碎	44	完形礫	327	内	○	○		-	
327		礫	E	砂岩	116.6	破碎	44	完形礫	225	内	○	○		-	
230		礫	E	砂岩	37.7	破碎	45	破碎礫	245	内	○	○	○	○	
245		礫	E	砂岩	187.3	破碎	45	破碎礫	230	内	○	○	○	○	
238	a	礫	E	砂岩	135.0	破碎	46	破碎礫		内	-	-		-	周縁赤化
238	b	礫	E	砂岩	144.2	破碎	46	破碎礫		内	-	-		-	周縁赤化
97		礫	E	砂岩	9.5	破碎					-	○	○	-	
98		礫	E	砂岩	192.7	破碎					-	○	○	○	一部周縁
99		礫	E	砂岩	138.1	破碎					-	○	○	○	
100		礫	E	砂岩	64.1	破碎					○	-	△	○	
101		礫	E	砂岩	137.6	完形					○	○			
102		礫	E	砂岩	86.3	完形					-	○			

第13表 礫群1E 礫観察表1

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
106		礫	E	砂岩	28.8	破碎					-	○	△	-	
109		礫	E	砂岩	169.0	破碎					-	-	-	-	一部橙化
110		礫	E	チャート	95.9	完形					-	-	-	-	
111		礫	E	チャート	103.9	完形					○	○	-	-	
112		礫	E	チャート	67.7	破碎					-	-	△	-	
113		礫	E	砂岩	103.4	破碎					-	○	-	-	一部橙化
114		礫	E	砂岩	207.8	破碎					-	○	-	-	
115		礫	E	砂岩	45.0	完形					-	○	-	-	
116		礫	E	砂岩	59.9	完形					-	○	-	-	
118		礫	E	砂岩	107.4	完形					-	○	-	-	
119		礫	E	砂岩	118.1	完形					○	○	-	-	
120		礫	E	チャート	95.4	完形					-	-	-	-	
121		礫	E	チャート	154.0	完形					-	○	-	-	
122		礫	E	砂岩	113.6	完形					-	-	-	-	
123		礫	E	砂岩	78.2	完形					-	○	-	-	
124		礫	E	砂岩	148.4	完形					-	○	-	-	
126		礫	E	砂岩	153.6	完形					-	◎	-	-	
127		礫	E	チャート	327.3	完形					○	◎	-	-	
128		礫	E	砂岩	46.8	破碎					-	-	-	-	
129		礫	E	砂岩	83.0	破碎					-	○	△	○	
130		礫	E	チャート	173.8	完形					-	-	-	-	
131		礫	E	砂岩	78.6	完形					-	○	-	-	
132		礫	E	砂岩	45.3	破碎					-	○	-	-	
133		礫	E	砂岩	91.1	破碎					○	-	-	-	表面剥落
135		礫	E	チャート	120.5	完形					○	-	-	-	
136		礫	E	チャート	43.2	完形					-	-	-	-	
137		礫	E	砂岩	68.8	完形					-	-	-	-	
138		礫	E	砂岩	54.3	完形					-	◎	-	-	
163		礫	E	砂岩	120.4	破碎					-	-	-	-	
165		礫	E	砂岩	55.5	破碎					-	○	-	-	
166		礫	E	砂岩	2029.0	完形					-	-	-	-	
167		礫	E	砂岩	109.8	破碎					○	-	○	-	
168		礫	E	砂岩	225.5	破碎					○	○	-	-	
169		礫	E	砂岩	108.8	完形					-	○	-	-	
170		礫	E	砂岩	150.3	破碎					○	-	○	-	
171		礫	E	チャート	86.4	完形					-	-	-	-	
172		礫	E	チャート	98.9	完形					○	-	-	-	
176		礫	E	チャート	1412.2	完形					○	○	-	-	
181		礫	E	砂岩	132.9	完形					○	○	-	-	
182		礫	E	砂岩	370.5	完形					-	○	-	-	周縁赤化
183		礫	E	チャート	194.4	完形					○	-	-	-	
184		礫	E	砂岩	280.7	破碎					○	○	○	-	表面剥落
185		礫	E	砂岩	176.7	破碎					○	○	△	-	
214		礫	E	砂岩	153.0	完形					-	○	-	-	
217		礫	E	砂岩	202.5	破碎					○	-	○	-	
219		礫	E	砂岩	12.1	破碎					-	-	-	-	
220		礫	E	砂岩	212	完形					-	-	-	-	
221		礫	E	砂岩	665.3	完形					-	◎	-	-	
223		礫	E	砂岩	261.5	破碎					○	○	-	-	周縁赤化。表面剥落
226		礫	E	砂岩	214.5	完形					-	○	-	-	
229		礫	E	砂岩	233.4	破碎					-	-	-	○	
231		礫	E	砂岩	496.7	破碎					○	○	-	-	
233		礫	E	砂岩	60.5	破碎					○	-	△	○	
234		礫	E	砂岩	18.8	破碎					○	-	○	-	
239		礫	E	砂岩	121.9	完形					-	◎	-	-	
240		礫	E	砂岩	128.0	完形					○	○	-	-	周縁赤化
241		礫	E	砂岩	414.7	完形					-	◎	-	-	
242		礫	E	砂岩	147.4	完形					-	◎	-	-	
243		礫	E	砂岩	496.2	完形					-	○	-	-	
244		礫	E	砂岩	360.8	完形					-	○	-	-	
386		礫	E	砂岩	14.4	完形					-	-	-	-	
387		礫	E	砂岩	17.2	破碎					-	○	-	○	
388		礫	E	砂岩	2.4	破碎					-	○	-	-	
389		礫	E	砂岩	0.8	破碎					-	-	-	-	
436		礫	E	砂岩	6.6	破碎					-	-	○	-	

第14表 礫群1 E 礫観察表2

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
141		礫	F	砂岩	71.4	破碎	28	完形礫	134	E	-	○	-	-	
139		礫	F	砂岩	114.8	破碎	29	破碎礫	144・159	内	○	○	○	○	
144		礫	F	砂岩	205.5	破碎	29	破碎礫	139・159	内	○	○	○	○	
159		礫	F	砂岩	97.0	破碎	29	破碎礫	144・139	内	○	○	○	○	
156	a	礫	F	砂岩	65.4	破碎	31	破碎礫		内	-	○	○	○	
156	b	礫	F	砂岩	45.0	破碎	31	破碎礫		内	-	○	○	○	

第15表 礫群1 F 礫観察表1

第3章 検出された遺構と遺物

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
143		礫	F	砂岩	58.1	破碎					-	-	-	-	
145		礫	F	チャート	129.6	完形					○	◎			
146		礫	F	砂岩	98.1	完形					-	◎			
147		礫	F	砂岩	196.9	完形					-	○			
148		礫	F	砂岩	220.7	完形					-	-			
149		礫	F	チャート	422.7	完形					○	○			
150		礫	F	砂岩	124.6	完形					○	○			
151		礫	F	砂岩	364.1	完形					○	○			
152		礫	F	砂岩	137.9	完形					○	○			
153		礫	F	砂岩	54.4	破碎					○	-			
154		礫	F	砂岩	79.5	破碎					-	○	○	○	
155		礫	F	チャート	132.5	完形					-	-			
157		礫	F	チャート	116.9	完形					-	-			
160		礫	F	砂岩	133.2	破碎					-	○	○	-	被熱具合が異なる
161		礫	F	砂岩	95.8	完形					○	-			
162		礫	F	砂岩	318.6	完形					-	○			

第16表 礫群1 F 礫観察表2

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
89	a	礫	A	砂岩	58.8	破碎	18	破碎礫		内	○	-	△	-	
89	b	礫	A	砂岩	7.2	破碎	18	破碎礫		内	○	-	△	-	
90		礫	A	砂岩	36.6	破碎	19	破碎礫	96・98・99・101	内	-	○	○	-	
96		礫	A	砂岩	28.1	破碎	19	破碎礫	90・98・99・101	内	-	○	○	-	
98		礫	A	砂岩	519.0	破碎	19	破碎礫	90・96・99・101	内	-	○	○	-	
99		礫	A	砂岩	219.9	破碎	19	破碎礫	90・96・98・101	内	-	○	○	-	
101		礫	A	砂岩	37.1	破碎	19	破碎礫	90・96・99・101	内	-	○	○	-	
108		礫	A	砂岩	31.3	破碎	20	破碎礫	125	B	-	○	-	-	
110		礫	A	砂岩	94.6	破碎	21	破碎礫	112	内	-	○	○	-	
112		礫	A	砂岩	56.3	破碎	21	破碎礫	110	内	-	○	○	-	
126	a	礫	A	砂岩	251.6	破碎	23	完形礫		内	○	○			
126	b	礫	A	砂岩	157.9	破碎	23	完形礫		内	○	○			
91		礫	A	チャート	195.3	完形					○	-	-	-	
92		礫	A	砂岩	138.7	完形					-	○			表面剥落
93		礫	A	砂岩	35.6	破碎					-	○	○	-	
94		礫	A	砂岩	17.0	破碎					-	-			
95		礫	A	チャート	20.0	破碎					○	-	○		
97		礫	A	砂岩	442.7	完形					○	○		-	
100		礫	A	砂岩	16.7	破碎					○	-		-	
103		礫	A	砂岩	8.2	破碎					-	-	○		
104		礫	A	砂岩	17.9	破碎					-	-	-	-	
105		礫	A	砂岩	66.0	破碎					○	-	○	-	
106		礫	A	砂岩	64.3	完形					-	○	-	-	
107		礫	A	砂岩	46.2	破碎					-	-			節理面
109		礫	A	チャート	147.4	破碎					○	○	○	-	
113		礫	A	チャート	47.0	破碎					-	-	○		
114		礫	A	チャート	90.3	破碎					○	○	○	-	
115		礫	A	チャート	132.0	完形					○	○	-	-	
161		礫	A	砂岩	104.3	破碎					-	-	-	-	

第17表 礫群2 A 礫観察表

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
1		礫	B	砂岩	26.7	破碎	1	破碎礫	2		-	○		-	
2		礫	B	砂岩	104.9	破碎	1	破碎礫	1		-	○		-	
11	a	礫	B	砂岩	269.4	破碎	2	破碎礫			-	○			
11	b	礫	B	砂岩	8.0	破碎	2	破碎礫			-	○			
14	a	礫	B	砂岩	114.7	破碎	3	完形礫			-	◎			
14	b	礫	B	砂岩	30.3	破碎	3	完形礫			-	◎			
17		礫	B	砂岩	8.6	破碎	4	破碎礫	21		-	-		-	
21		礫	B	砂岩	5.1	破碎	4	破碎礫	17		-	-		-	
20	a	礫	B	チャート	168.4	破碎	5	完形礫			-	-	○	-	
20	b	礫	B	チャート	57.8	破碎	5	完形礫			-	-	○	-	
22		礫	B	砂岩	31.7	破碎	6	破碎礫	28		-	◎	○		
28		礫	B	砂岩	121.1	破碎	6	破碎礫	22		-	◎	○		
26		礫	B	砂岩	28.8	破碎	7	破碎礫	127		-	○			
127		礫	B	砂岩	58.7	破碎	7	破碎礫	26		-	○			
32		礫	B	砂岩	30.9	破碎	8	破碎礫	129		-	○	○	○	
129		礫	B	砂岩	39.5	破碎	8	破碎礫	32		-	○	○	○	
34	a	礫	B	砂岩	43.3	破碎	9	完形礫			○	◎			
34	b	礫	B	砂岩	67.6	破碎	9	完形礫			○	◎			
46	a	礫	B	チャート	70.1	破碎	10	破碎礫			-	○	○	-	
46	b	礫	B	チャート	37.6	破碎	10	破碎礫			-	○	○	-	
49	a	礫	B	砂岩	71.3	破碎	11	破碎礫			○	○	○	○	

第18表 礫群2 B 礫観察表1

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量(g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
49	b	礫	B	砂岩	18.1	破碎	11	破碎礫			○	○	○	○	
61	a	礫	B	砂岩	70.6	破碎	12	完形礫	131		-	○			一部赤化
61	b	礫	B	砂岩	34.6	破碎	12	完形礫	131		-	○			一部赤化
131		礫	B	砂岩	36.9	破碎	12	完形礫	61		-	○			一部赤化
64		礫	B	砂岩	118.0	破碎	13	破碎礫	66		○	○	○	-	
66		礫	B	砂岩	57.4	破碎	13	破碎礫	64		○	○	○	-	
71	a	礫	B	砂岩	35.4	破碎	14	完形礫			○	○			
71	b	礫	B	砂岩	78.3	破碎	14	完形礫			○	○			
72	a	礫	B	砂岩	47.6	破碎	15	完形礫			-	○			
72	b	礫	B	砂岩	78.7	破碎	15	完形礫			-	○			
78		礫	B	砂岩	33.0	破碎	16	破碎礫	87		○	○	△	-	
87		礫	B	砂岩	148.8	破碎	16	破碎礫	78		○	○	△	-	
82	a	礫	B	チャート	73.3	破碎	17	破碎礫			○	○	○	-	
82	b	礫	B	チャート	18.5	破碎	17	破碎礫			○	○	○	-	
125		礫	B	砂岩	46.0	破碎	20	破碎礫	108		-	○		-	A区扱い
124	a	礫	B	砂岩	75.7	破碎	22	完形礫			-	◎	○	○	
124	b	礫	B	砂岩	8.5	破碎	22	完形礫			-	◎	○	○	
132	a	礫	B	砂岩	402.7	破碎	24	破碎礫			○	○	○	-	表面剥落
132	b	礫	B	砂岩	18.3	破碎	24	破碎礫			○	○	○	-	表面剥落
3		礫	B	砂岩	111.4	完形		完形礫			○	◎			
4		礫	B	砂岩	172.0	完形		完形礫			-	○			
5		礫	B	砂岩	179.3	完形		完形礫			-	-			
6		礫	B	砂岩	88.1	破碎		破碎礫			-	○	○	○	
7		礫	B	チャート	129.9	完形		完形礫			-	○			
8		礫	B	チャート	101.0	完形		完形礫			○	-			
9		礫	B	チャート	152.8	完形		完形礫			○	-			
10		礫	B	砂岩	281.8	破碎		破碎礫			-	◎	○	○	表面・断面剥落
12		礫	B	砂岩	75.0	破碎		破碎礫			-	○	△		
13		礫	B	砂岩	215.4	破碎		破碎礫			○	○	○	-	
15		礫	B	砂岩	139.4	破碎		破碎礫			-	○	-	-	断面周縁一部赤化
16		礫	B	砂岩	7.1	破碎		破碎礫			-	○	-	-	
18		礫	B	チャート	109.1	完形		完形礫			○	○			
19		礫	B	砂岩	167.6	完形		完形礫			-	-			
23		礫	B	砂岩	56.4	破碎		破碎礫			-	○	-	-	
24		礫	B	砂岩	45.9	破碎		破碎礫			-	○	○		
25		礫	B	砂岩	274.3	破碎		破碎礫			○	○	○		
27		礫	B	チャート	126.8	完形		完形礫			○	○			
29		礫	B	砂岩	185.6	破碎		破碎礫			○	○			
30		礫	B	砂岩	407.2	破碎		破碎礫			○	○		-	
31		礫	B	チャート	595.3	完形		完形礫			○	○			
33		礫	B	砂岩	30.5	破碎		破碎礫			-	○	△		
35		礫	B	砂岩	341.1	完形		完形礫			○	◎			
36		礫	B	チャート	114.8	完形		完形礫			○	◎			一部白化
37		礫	B	砂岩	62.6	破碎		破碎礫			○	-	○	○	
38		礫	B	砂岩	76.2	破碎		破碎礫			○	○	○	○	
39		礫	B	チャート	184.0	完形		完形礫			○	-			
40		礫	B	チャート	88.1	完形		完形礫			-	○			一部赤化
41		礫	B	砂岩	142.9	完形		完形礫			-	○			
42		礫	B	砂岩	31.4	破碎		破碎礫			-	○	○	-	
43		礫	B	チャート	333.3	完形		完形礫			○	○			
44		礫	B	砂岩	137.2	破碎		破碎礫			-	◎			
45		礫	B	砂岩	137.7	完形		完形礫			-	○			表面剥落。一部赤化
47		礫	B	砂岩	56.3	破碎		破碎礫			-	○		-	
48		礫	B	砂岩	713.9	完形		完形礫			-	○			表面剥落
50		礫	B	砂岩	68.0	破碎		破碎礫			○	○	○	-	
51		礫	B	砂岩	172.1	破碎		破碎礫			-	-	△		表面一部赤化
52		礫	B	チャート	234.6	完形		完形礫			○	-			
53		礫	B	砂岩	192.3	破碎		破碎礫			○	○	○	○	
54		礫	B	砂岩	172.7	完形		完形礫			-	○			
55		礫	B	砂岩	60.7	破碎		破碎礫			○	○	○	-	
56		礫	B	砂岩	95.5	完形		完形礫			-	○			
57		礫	B	砂岩	396.1	破碎		破碎礫			○	○	△	-	
58		礫	B	砂岩	29.3	破碎		破碎礫			○	○		-	
59		礫	B	砂岩	308.8	破碎		破碎礫			-	○			
60		礫	B	チャート	1365.8	完形		完形礫			○	○			
62		礫	B	チャート	126.8	破碎		破碎礫			○	○			
63		礫	B	砂岩	230.8	破碎		破碎礫			○	○	○	○	
65		礫	B	ホルンフェルス	113.0	破碎		破碎礫			-	○	-	-	
67		礫	B	チャート	135.5	完形		完形礫			-	○			
68		礫	B	砂岩	81.3	完形		完形礫			-	○			
69		礫	B	砂岩	126.7	完形		完形礫			-	○			
70		礫	B	チャート	91.6	破碎		破碎礫			○	-	△	-	
73		礫	B	砂岩	258.5	完形		完形礫			-	◎			
74		礫	B	砂岩	150.8	完形		完形礫			-	○			

第19表 礫群2 B 礫観察表2

第3章 検出された遺構と遺物

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
75		礫	B	砂岩	71.6	破碎		破碎礫			-	○	△	○	
76		礫	B	チャート	248.5	完形		完形礫			○	○			
79		礫	B	砂岩	36.8	破碎		破碎礫			-	○	○	-	
80		礫	B	チャート	62.0	破碎		破碎礫			○	-	○	-	
81		礫	B	砂岩	113.7	完形		完形礫			-	-			表面一部橙化
83		礫	B	チャート	64.5	完形		完形礫			○	-			
84		礫	B	砂岩	201.2	完形		完形礫			○	○			
85		礫	B	砂岩	92.3	破碎		破碎礫			-	-		-	表面一部橙化
86		礫	B	砂岩	143.3	破碎		破碎礫			○	○		-	
88		礫	B	砂岩	83.3	完形		完形礫			-	○			
128		礫	B	砂岩	20.9	破碎		破碎礫			○	-	○	○	
130		礫	B	砂岩	59.3	完形		完形礫			-	○			表面剥落

第20表 礫群2 B 礫観察表3

遺物番号	枝番号	種別	礫群	石材	重量 (g)	礫状態	個体	個体様態	接合対象	接合関係	変色	付着物	破断面変色	破断面付着物	備考
134		礫	C	砂岩	34.6	破碎	25	破碎礫	164		-	◎		-	
164		礫	C	砂岩	20.0	破碎	25	破碎礫	134		-	◎		-	
137		礫	C	ホルンフェルス	85.2	破碎	26	破碎礫	138・139		-	○	-	-	
138		礫	C	ホルンフェルス	72.5	破碎	26	破碎礫	137・139		-	○	-	-	
139	a	礫	C	ホルンフェルス	63.5	破碎	26	破碎礫	137・138		-	○	-	-	
139	b	礫	C	ホルンフェルス	26.5	破碎	26	破碎礫	137・138		-	○	-	-	
146		礫	C	砂岩	175.9	破碎	27	破碎礫	153		○	○	○	-	
153		礫	C	砂岩	16.7	破碎	27	破碎礫	146		○	○	○	-	
151		礫	C	砂岩	57.1	破碎	28	破碎礫	152・167		-	○	○	○	
152		礫	C	砂岩	117.2	破碎	28	破碎礫	151・167		-	○	○	○	
167		礫	C	砂岩	23.0	破碎	28	破碎礫	151・152		-	○	○	○	
159	a	礫	C	砂岩	59.2	破碎	29	破碎礫			○	○		-	表面剥落か
159	b	礫	C	砂岩	37.9	破碎	29	破碎礫			○	○		-	表面剥落か
77		礫	C	砂岩	12.5	破碎		破碎礫			-	-	○	-	
133		礫	C	砂岩	1636.6	完形		完形礫			-	○			表面剥落
135		礫	C	砂岩	36.2	破碎		破碎礫			-	○	△	○	
136		礫	C	砂岩	248.1	完形		完形礫			-	○			一部橙化
140		礫	C	砂岩	598.1	破碎		破碎礫			○	○		-	
141		礫	C	砂岩	529.9	完形		完形礫			-	○			
142		礫	C	砂岩	197.9	破碎		破碎礫			○	-		-	
143		礫	C	砂岩	102.3	破碎		破碎礫			○	○	○	○	
144		礫	C	砂岩	56.1	破碎		破碎礫			-	○		○	
145		礫	C	チャート	76.4	破碎		破碎礫			-	○	△		
147		礫	C	砂岩	128.7	完形		完形礫			○	○			
148		礫	C	砂岩	63.0	破碎		破碎礫			-	○	○	-	
149		礫	C	砂岩	67.5	破碎		破碎礫			-	○	△	○	一部赤化
150		礫	C	砂岩	259.9	破碎		破碎礫			○	◎		-	
154		礫	C	砂岩	165.3	破碎		破碎礫			○	○	○	○	
155		礫	C	砂岩	44.4	破碎		破碎礫			○	-	○		
156		礫	C	砂岩	523.4	完形		完形礫			-	-			
157		礫	C	砂岩	50.5	破碎		破碎礫			○	○	○	-	
158		礫	C	チャート	72.0	完形		完形礫			-	○			
165		礫	C	砂岩	97.4	破碎		破碎礫			-	◎	○	○	
166		礫	C	チャート	84.0	完形		完形礫			-	◎			
168		礫	C	砂岩	32.4	破碎		破碎礫			○	◎	○	-	表面剥落。断面周縁赤化
169		礫	C	砂岩	179.4	破碎		破碎礫			○	○	○	○	

第21表 礫群2 C 礫観察表

掲載番号	出土遺構	遺物番号	石材	母岩	個体	接合様態	器種	詳細	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	図	残存	破損様態	部位	備考
第29図1	683P		チャート	CH単			ナイフ形石器		31.31	16.91	8.87	4.00	○	1		完形	
第29図2	59M		黒曜石	OB単			錐形石器	P>P剥片, 削片素材か	31.22	9.77	11.50	1.69	○	不明		先端	
第29図3	I区攪乱		黒曜石	OB単			剥片		31.41	19.51	11.39	5.10	○	0.5	折れ	先-体部	
第29図4	869D		チャート	CH6			二次的剥離のある剥片		48.13	54.29	19.87	56.47	○	1		完形	
	45W		チャート	CH1			剥片		26.62	22.74	7.32	3.10		1		完形	
	5Y	17	黒曜石	OB単			剥片		12.28	8.57	5.06	0.47		1		完形	
	60M		チャート	CH1			剥片		16.89	23.20	11.97	4.26		0.25		先端	
	691P		チャート	CH1			剥片		14.33	37.12	6.86	3.01		1		完形	
	K-9		チャート	CH6			不規則剥離のある剥片		64.57	29.29	10.90	14.42		1		完形	

第22表 遺構外出土旧石器時代遺物

第2節 縄文時代

(1) 概要

縄文時代の遺構は、土坑5基、ピット30基が検出されている。

遺物の出土量は少量であるが、第6節で報告する遺構外出土の遺物も含めると、縄文時代早期から晩期にかけて各時期の土器が出土している。ピットは遺物が出土した遺構を中心に報告し、その他の詳細については表に示す(第23表)。遺物が出土しない遺構の時期については、覆土の状況で判断している。

(2) 土坑

868号土坑

遺構(第31図)

[位置] G-15・16グリッド。

[構造] 壁面が底部にかけて広がる。中央部で径50cm、深さ25cm、平面円形のピットが検出された。平面不整楕円形、断面袋形。規模：1.66×1.47m。深さ：190cm。長軸方位：N-12°-W。覆土：14層に分層。ローム・赤色粒子を含む暗褐色土を基調とする。壁面ではローム主体層が検出された。下層は炭化物や粘土粒を含む。

[遺物] 縄文時代前期・後期の土器が出土した。

[時期] 縄文時代後期と考えられる。

遺物(第31図、第24表)

諸磯a式(1)・諸磯b式(2)・称名寺I式(3)の深鉢胴部である。

871号土坑

遺構(第31図)

[位置] G-14グリッド。

[構造] 皿状の掘り込み。平面円形、断面皿形。規模：1.07×1.03m。深さ：41cm。長軸方位：N-39°-E。覆土：5層に分層。ローム・焼土を含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文時代前期・後期の土器が出土した。

[時期] 縄文時代後期と考えられる。

遺物(第31図、第24表)

黒浜2式(1)・諸磯a式(2)の深鉢胴部、称名寺I式の深鉢口縁部(3)・胴部(4)である。

896号土坑

遺構(第31図)

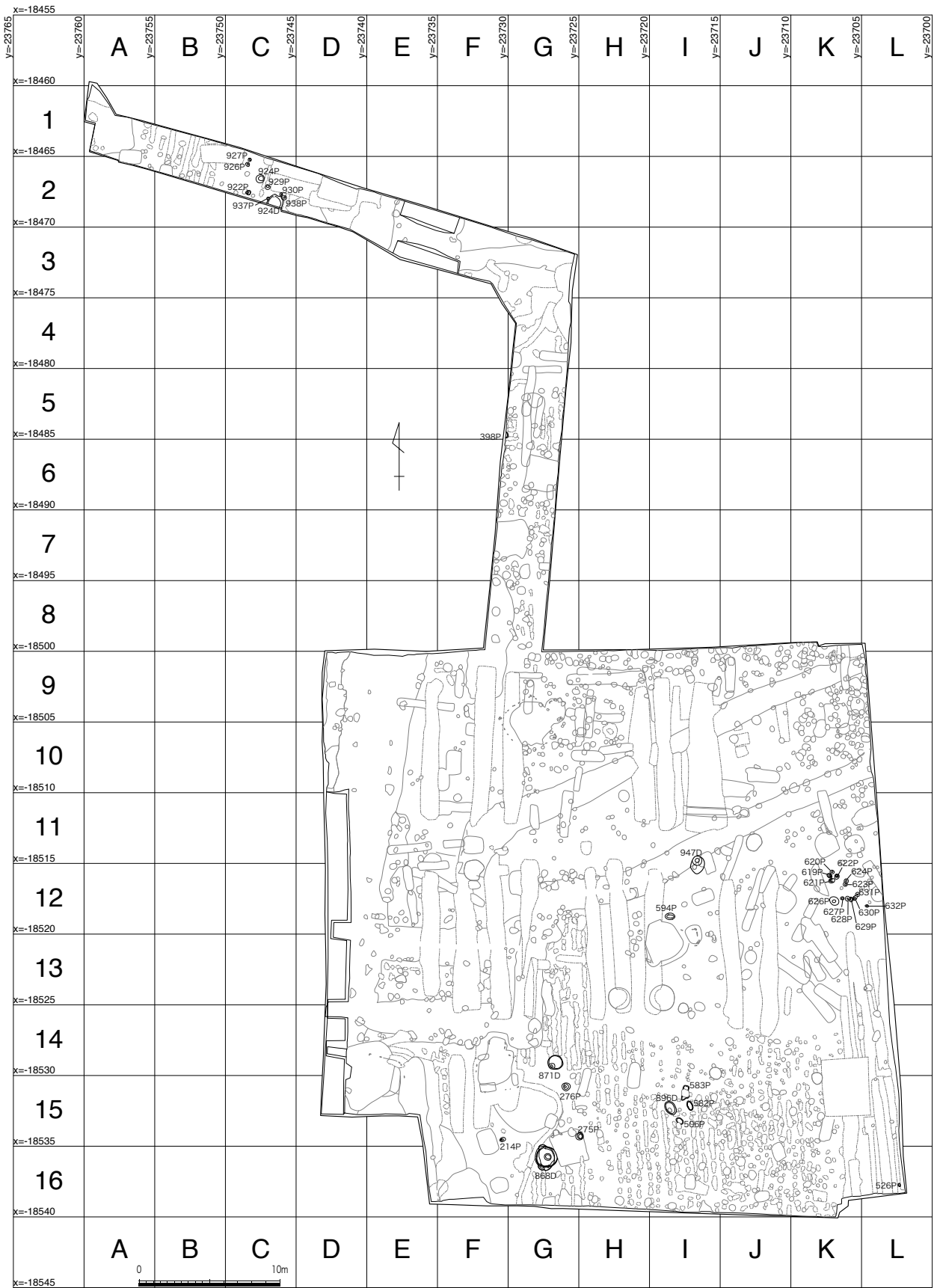
[位置] I-15グリッド。

[構造] 中世の518号ピットと重複。皿状の掘り込み。平面楕円形、断面皿形。規模：1.03×0.7m。深さ：13cm。長軸方位：N-30°-W。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。上層は黒色土粒子を含み、赤色スコリアが混入する。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 縄文時代。

第3章 検出された遺構と遺物



第30図 縄文時代遺構分布図（1 / 400）

924号土坑

遺構 (第32図)

[位置] C-2グリッド。

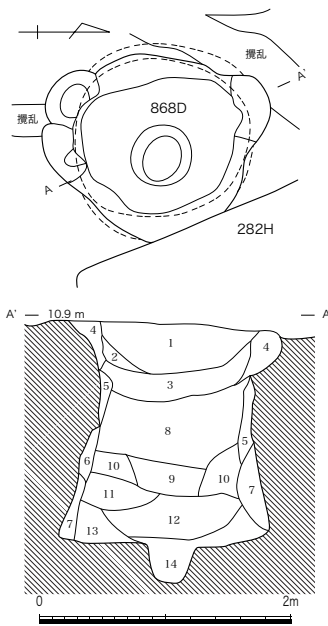
[構造] 南側は調査区外、縄文時代の937号・938号ピットを切る。平面楕円形か、断面箱形。規模：不明×1.09m。深さ：46cm。長軸方位：N-19°-E。覆土：4層に分層。上層はロームを含む暗褐色土、下層はロームを含む褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文時代早期・前期の土器が出土した。

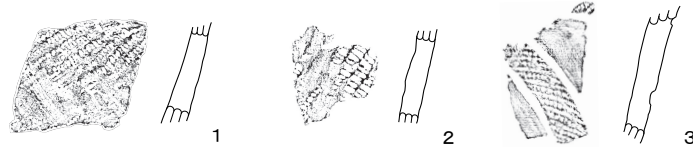
[時期] 縄文時代前期と考えられる。

遺物 (第32図、第24表)

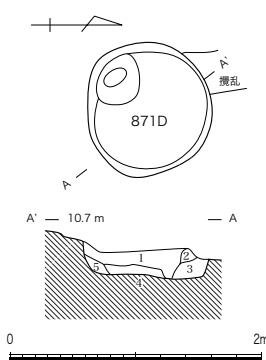
条痕文系の深鉢胴部(1)、黒浜2式(2)・諸磯a・諸磯b式(3~8)の深鉢胴部、諸磯式の深鉢底部(9)である。



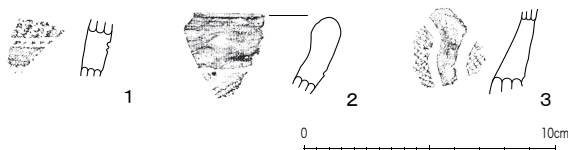
- 1層 粘性中、締まり強、ローム粒子(2~5mm、微量)、赤色粒子(1~2mm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。
- 2層 粘性強、締まり強、ローム粒子(1~2mm、中量)、赤色粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 3層 粘性中、締まり強、ローム粒子(2~5mm、中量)、赤色粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 4層 粘性強、締まり強、ローム粒子(1~2mm、中量)、ロームブロック(1~2cm、少量)、赤色粒子(1~2mm、微量)を含むにぶい黄褐色土(10YR4/3)。
- 5層 粘性強、締まり中、ローム粒子(1~2mm、少量)、ロームブロック(2~5cm、多量)、赤色粒子(1~2mm、微量)を含むにぶい黄褐色土(10YR5/4)。壁の崩落土で、ロームブロック主体。
- 6層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(2~3cm、中量)を含むにぶい黄褐色土(10YR3/4)。壁の崩落土で、ローム主体。
- 7層 粘性強、締まり弱、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(1~3cm、多量)、炭化物粒子(1mm、微量)を含む褐色土(10YR4/4)。壁の崩落土で、ローム主体。
- 8層 粘性中、締まり強、ローム粒子(1~2mm、多量)、赤色粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 9層 粘性強、締まり中、ローム粒子(2~3mm、少量)、赤色粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 10層 粘性強、締まり中、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、微量)、赤色粒子(1mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 11層 粘性強、締まり中、ローム粒子(1~2mm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。
- 12層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、微量)、炭化物粒子(2~3mm、微量)、赤色粒子(1mm、微量)を含む暗褐色土(10YR4/3)。
- 13層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、多量)、灰色粘土粒子(1~2mm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。灰色粘土粒子が見られる。
- 14層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、中量)、炭化物粒子(1mm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。



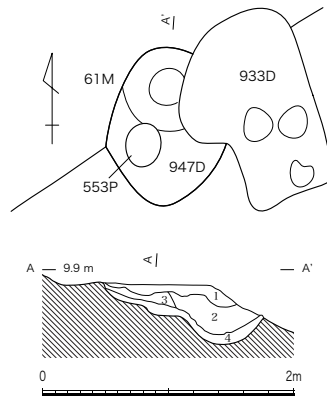
868号土坑・出土遺物



- 1層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、中量)、焼土粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 2層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、中量)、ロームブロック(1cm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 3層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 4層 粘性中、締まり強、ローム粒子(1~3mm、中量)、ロームブロック(1cm、少量)、焼土粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子(1~3mm、中量)、ロームブロック(1~3cm、中量)を含む褐色土(10YR4/4)。

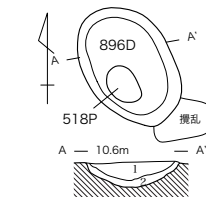


871号土坑・出土遺物



- 1層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 2層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。赤色スコリア微量混入。
- 3層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、少量)、ロームブロック(1cm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。赤色スコリア微量混入。
- 4層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、中量)、ロームブロック(1cm、中量)を含む褐色土(10YR4/4)。赤色スコリア微量混入。

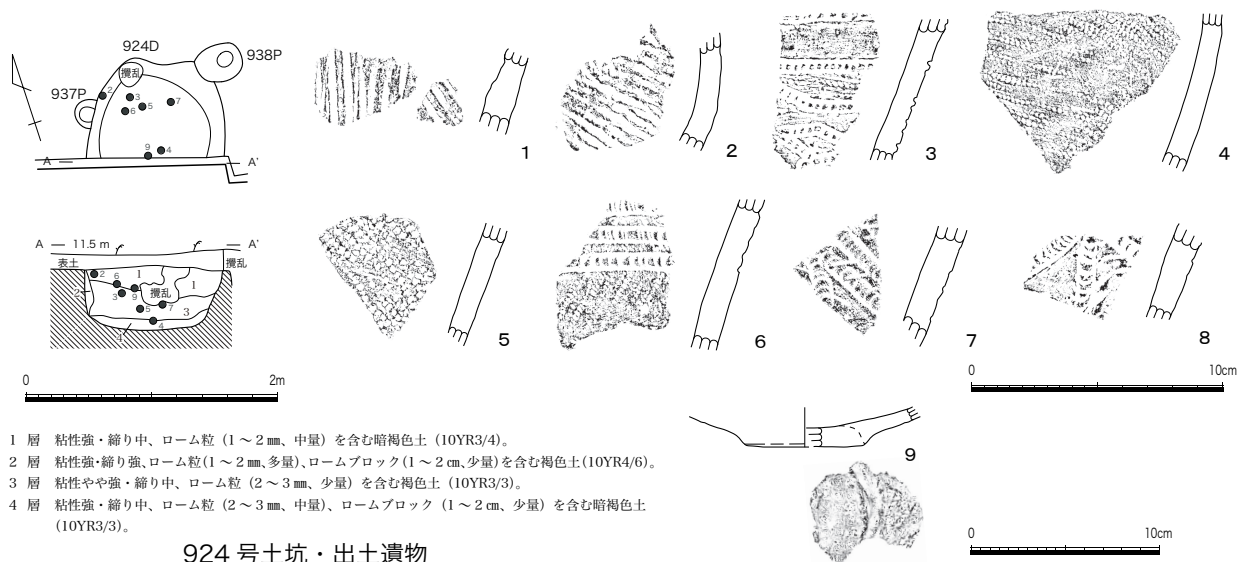
947号土坑



- 1層 粘性中、締まり強、ローム粒子(1~2mm、微量)、黒色土粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。赤色スコリア微量混入。
- 2層 粘性中、締まり強、ローム粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。

896号土坑

第31図 縄文時代土坑・出土遺物1 (1/60・1/3)



924号土坑・出土遺物

第32図 縄文時代土坑・出土遺物2 (1/60・1/3・1/4)

947号土坑

遺構 (第31図)

[位置] I-11・12グリッド。

[構造] 北側を中世の61号溝跡に、東側を中世の946号土坑に切られ、近世の553号ピットが重複する。皿状の掘り込み。平面隅丸方形、断面皿形。規模：1.26×0.95m。深さ：44cm。長軸方位：N-2°-E。覆土：4層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。赤色スコリアが混入する。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 縄文時代。

(3) ピット

214号ピット

遺構 (第33図)

[位置] F-15グリッド。

遺物 (第34図、第25表)

黒浜2式土器の深鉢胴部 (1) である

526号ピット

遺構 (第33図)

[位置] L-16グリッド。

遺物 (第34図、第25表)

称名寺式土器の深鉢胴部 (1) である。

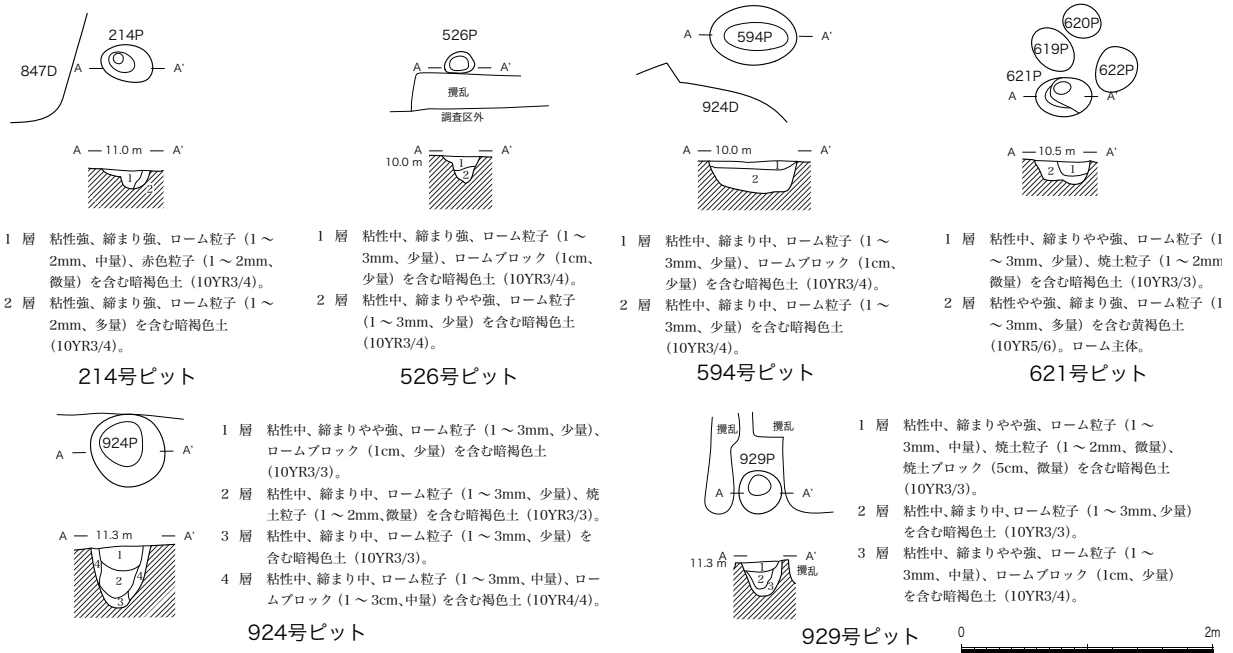
594号ピット

遺構 (第33図)

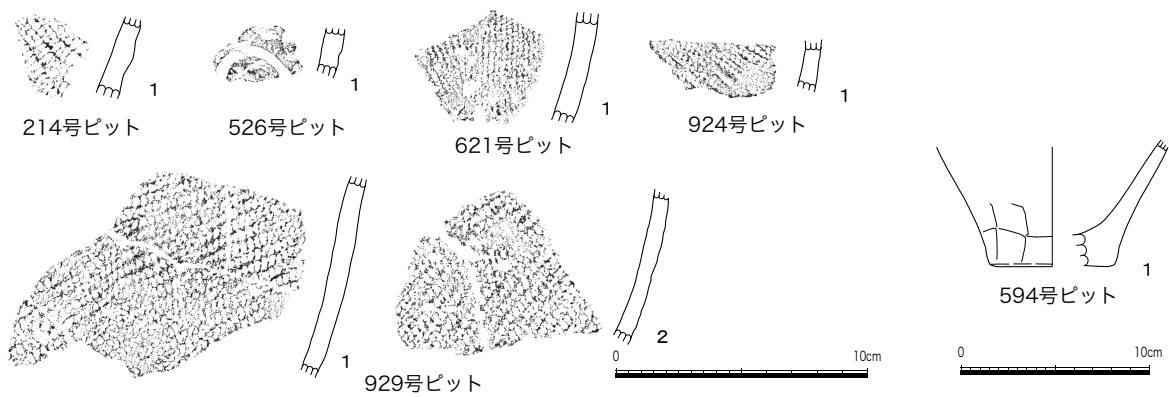
[位置] I-12グリッド。

遺物 (第34図、第25表)

諸磯式土器深鉢の深鉢底部 (1) である。



第33図 縄文時代遺物出土ピット (1/60)



第34図 縄文時代ピット出土遺物 (1/3・1/4)

621号ピット

遺構 (第33図)

[位置] K-12 グリッド。

遺物 (第34図、第25表)

諸磯 a 式土器の深鉢胴部 (1) である。

924号ピット

遺構 (第33図)

[位置] C-2 グリッド。

遺物 (第34図、第25表)

諸磯 a 式土器の深鉢胴部 (1) である。

929号ピット

遺構 (第33図)

第3章 検出された遺構と遺物

[位置] C-2 グリッド。

遺物 (第34図、第25表)

諸磯b式土器の深鉢胴部 (1・2) である。

遺構名	位置	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	分層
P214	F-15	楕円	42	29	28	2層
P275	GH-15	円	54	50	97	5層
P276	G-15	円	60	57	81	4層
P398	F-5	楕円か	-	-	22	2層
P506	I-15	楕円	57	38	19	2層
P526	L-16	不整楕円	24	18	22	2層
P582	I-15	楕円	70	40	12	2層
P583	I-15	不整	108	49	30	2層
P594	I-12	楕円	69	47	24	2層
P619	K-12	楕円	39	29	24	2層
P620	K-12	円	31	27	40	2層
P621	K-12	楕円	45	31	33	2層
P622	K-12	楕円	38	33	35	2層
P623	K-12	楕円	31	31	12	1層
P624	K-12	円	30	29	10	1層

遺構名	位置	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	分層
P626	K-12	楕円	69	58	24	2層
P627	K-12	楕円	27	23	52	2層
P628	K-12	楕円	34	31	30	2層
P629	K-12	不整楕円	34	21	21	2層
P630	K-12	楕円	-	27	54	2層
P631	K-12	不整円	30	29	40	2層
P632	L-12	楕円	24	18	15	1層
P922	C-2	不整円	36	32	53	2層
P924	C-2	円	59	57	50	4層
P926	C-2	円	31	26	36	1層
P927	C-2	円	24	23	42	2層
P929	C-2	円	35	35	33	3層
P930	C-2	円	24	21	45	1層
P937	C-2	円か	-	23	27	2層
P938	C-2	楕円	37	30	76	3層

第23表 縄文時代ピット計測表

挿図番号	出土遺構	部位	時期	型式	文様・特徴	形状・特徴	色調	胎土含有物							備考	
								角閃石	雲母	長石	石英	橙粒	砂粒	礫		他
第31図1	868D	胴部	前期後半	諸磯a	縄文LR 多条横方向		5YR5/4 (にぶい赤褐)			○	○	○	○			
第31図2	868D	胴部	前期後半	諸磯b	縄文RL 縦方向		10YR6/4 (にぶい黄橙)	○				○	○			
第31図3	868D	胴部	後期前半	称名寺I	(M字文沈線区画)→縄文RL 充填→沈線区画→無文部ミガキ/内面斜位ミガキ		10YR7/4 (にぶい黄橙)			○			○			
第31図1	871D	胴部	前期後半	諸磯a	縄文LR 斜方向→平行沈線押引文		10YR7/4 (にぶい黄橙)	○		○			○	○		
第31図2	871D	口縁部	後期前半	称名寺I	(沈線区画)→縄文LR 横方向→沈線区画→無文部ミガキ/内面横位ミガキ	肥厚・くびれ・平口縁か	10YR7/4 (にぶい黄橙)					○	○	○		
第31図3	871D	胴部	後期前半	称名寺I	(沈線区画)→縄文RL 充填→沈線区画→無文部ミガキ		5YR4/6 (赤褐)			○			○	○		
第32図1	924D	胴部	早期後半	条痕文系	内外面貝殻条痕文		7.5YR5/4 (にぶい褐)							○		
第32図2	924D	胴部	前期後半	黒浜2	縄文RR 横方向/内面化粧土→斜位ナデ		10YR5/4 (にぶい黄褐)			○			○			繊維
第32図3	924D	胴部	前期後半	諸磯a	(沈線区画)→縄文2段合燃R 充填→平行沈線区画		10YR4/6 (褐)	○		○			○			
第32図4	924D	胴部	前期後半	諸磯a	縄文RL 斜方向		10YR3/4 (暗褐)	○		○			○			
第32図5	924D	胴部	前期後半	諸磯a	縄文RL 横方向		10YR3/4 (暗褐)	○					○			
第32図6	924D	胴部	前期後半	諸磯b	縄文LR 横方向→平行沈線の押引文/内面斜位ミガキ		7.5YR6/8 (橙)	○				○	○			
第32図7	924D	胴部	前期後半	諸磯b	平行沈線の押引文		10YR7/4 (にぶい黄橙)	○		○			○			
第32図8	924D	胴部	前期後半	諸磯b	押引文・爪形刺突→沈線・押引文→沈線→平行沈線		10YR5/4 (にぶい黄褐)	○					○			
第32図9	924D	底部	前期後半	諸磯a-b	縄文RL 横方向か/無文部ミガキ	平底	10YR4/6 (褐)			○			○	○		浅鉢

第24表 縄文時代土坑出土遺物

挿図番号	出土遺構	部位	時期	型式	文様・特徴	形状・特徴	色調	胎土含有物							備考	
								角閃石	雲母	長石	石英	橙粒	砂粒	礫		他
第34図1	214P	胴部	前期後半	黒浜2	縄文RLR 縦方向		10YR4/2 (灰黄褐)						○			繊維
第34図1	594P	底部	前期後半	諸磯	縦位ナデ→横位ナデ	平底	7.5YR6/6 (橙)						○			黒色粒子
第34図1	621P	胴部	前期後半	諸磯a	縄文RL 縦方向→斜方向		5YR5/6 (明赤褐)			○	○		○			
第34図1	924P	胴部	前期後半	諸磯a	縄文RL 横方向		10YR6/4 (にぶい黄橙)						○			
第34図1	929P	胴部	前期後半	諸磯b	縄文LR 横方向		10YR5/4 (にぶい黄褐)						○	○		
第34図2	929P	胴部	前期後半	諸磯b	縄文LR 横方向		10YR5/5 (にぶい黄褐)						○	○		
第34図1	526P	胴部	後期前半	称名寺	沈線区画		2.5Y7/4 (浅黄)						○			

第25表 縄文時代ピット出土遺物

第3節 弥生時代

(1) 概 要

弥生時代の遺構は住居が2軒検出されている。いずれも他遺構や攪乱に大半を壊されているが、うち1軒からは粘土板炉が確認された。

帰属時期はいずれも弥生時代後期のものと考えられる。

(2) 住居跡

5号住居跡

遺 構 (第36図)

[位 置] E-16、F-15・16 グリッド。

[住居構造] 西側を中世の61号溝跡、南側を中世の846号土坑に切られ、住居北東部のみが残存。南北に長軸を持つ住居と推定される。平面形：楕円形か。規模：不明。主軸方位：N-20°-W。壁高：4～9cmを測る。壁溝：検出されなかった。床面：一様ではないが住居の南部と北西部が硬化している。貼床は4～22cmを測る。また南側では55×38cmの粘土範囲、東側では30×23cmの砂範囲を検出。粘土と床面の間に間層が入るため、住居廃絶後に廃棄されたと考えられる。柱穴：4基検出された。P3のみ支柱穴の可能性がある。炉：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。覆土：5層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。焼土・粘土粒を微量に含む。備考：住居内ピットが6基、うち2基は掘り方から検出された。

[遺 物] 弥生土器が出土した。

[時 期] 遺物の様相から弥生時代後期と考えられる。

遺 物 (第36図、第26表)

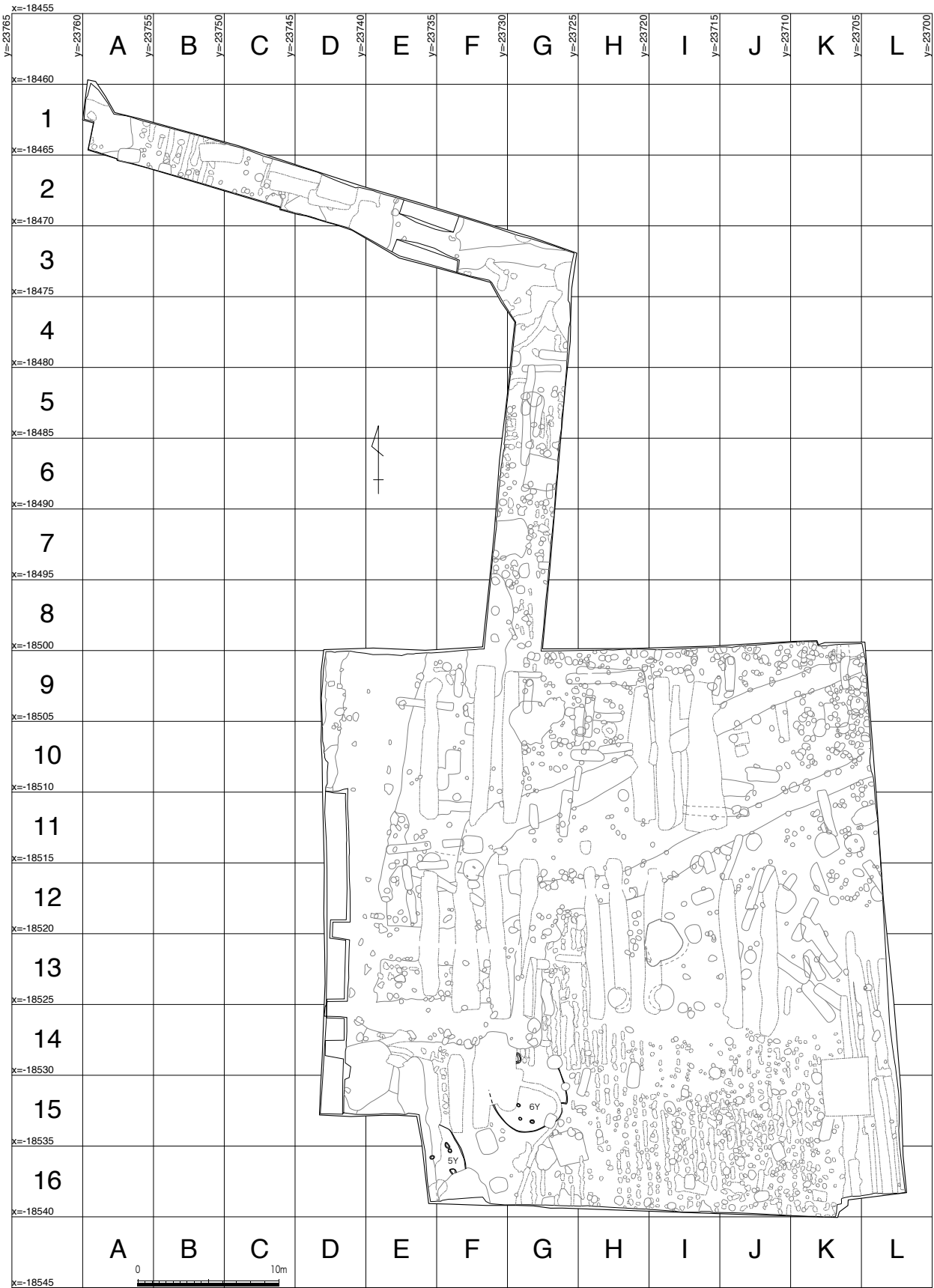
台付甕(1)、壺口縁部(2)・胴部(3～5)である。4・5には赤彩が施されている。

6号住居跡

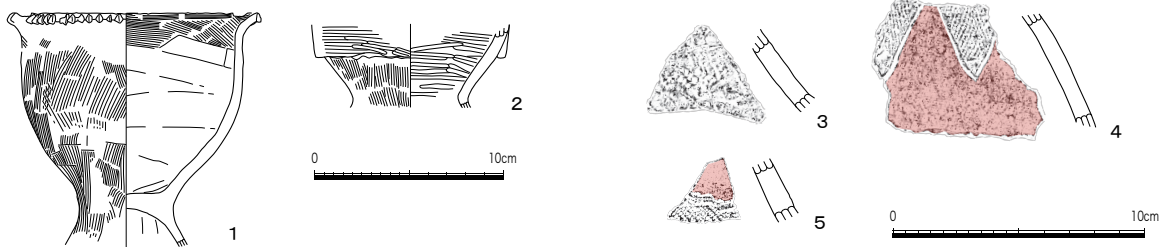
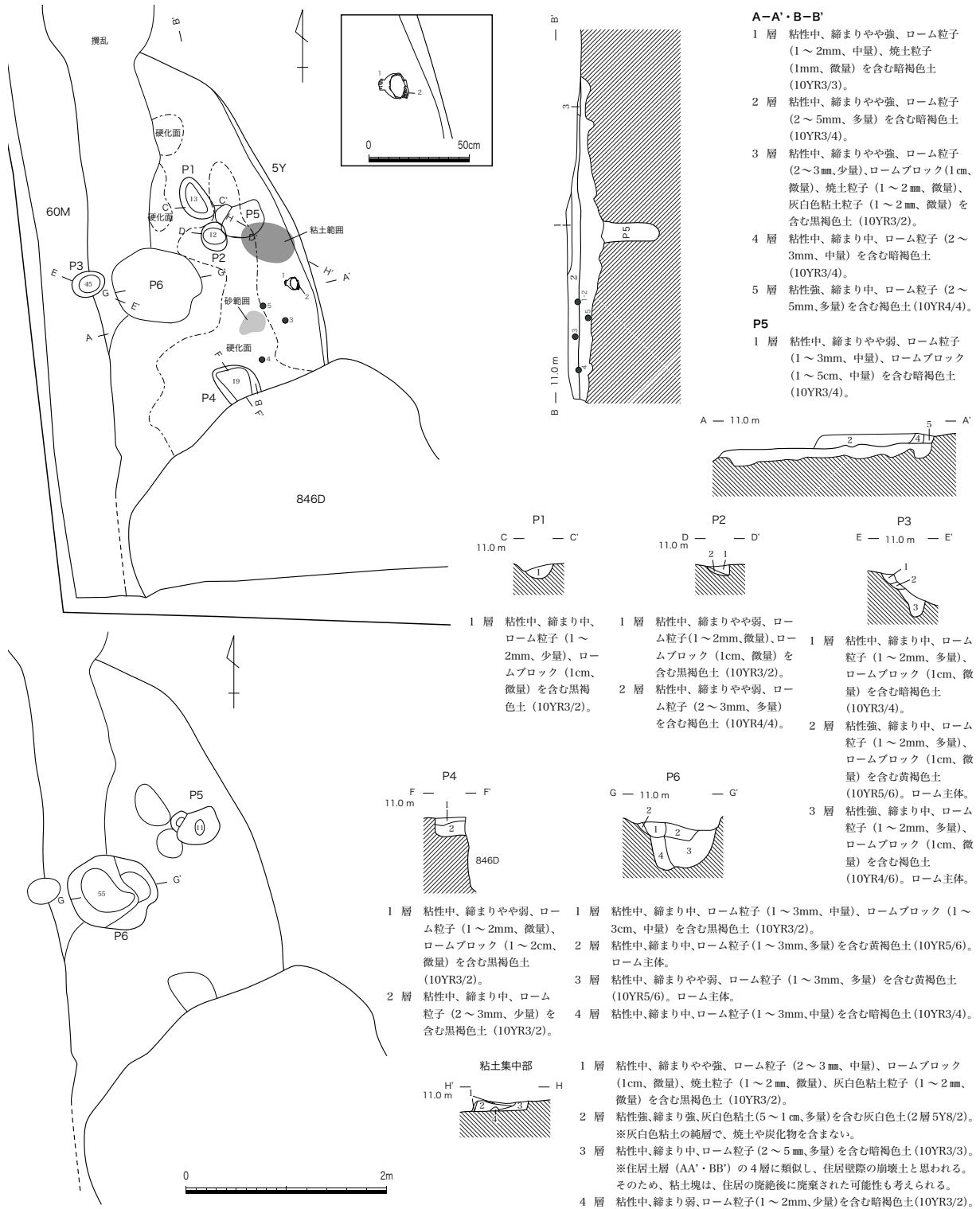
遺 構 (第37～39図)

[位 置] F・G-14・15 グリッド。

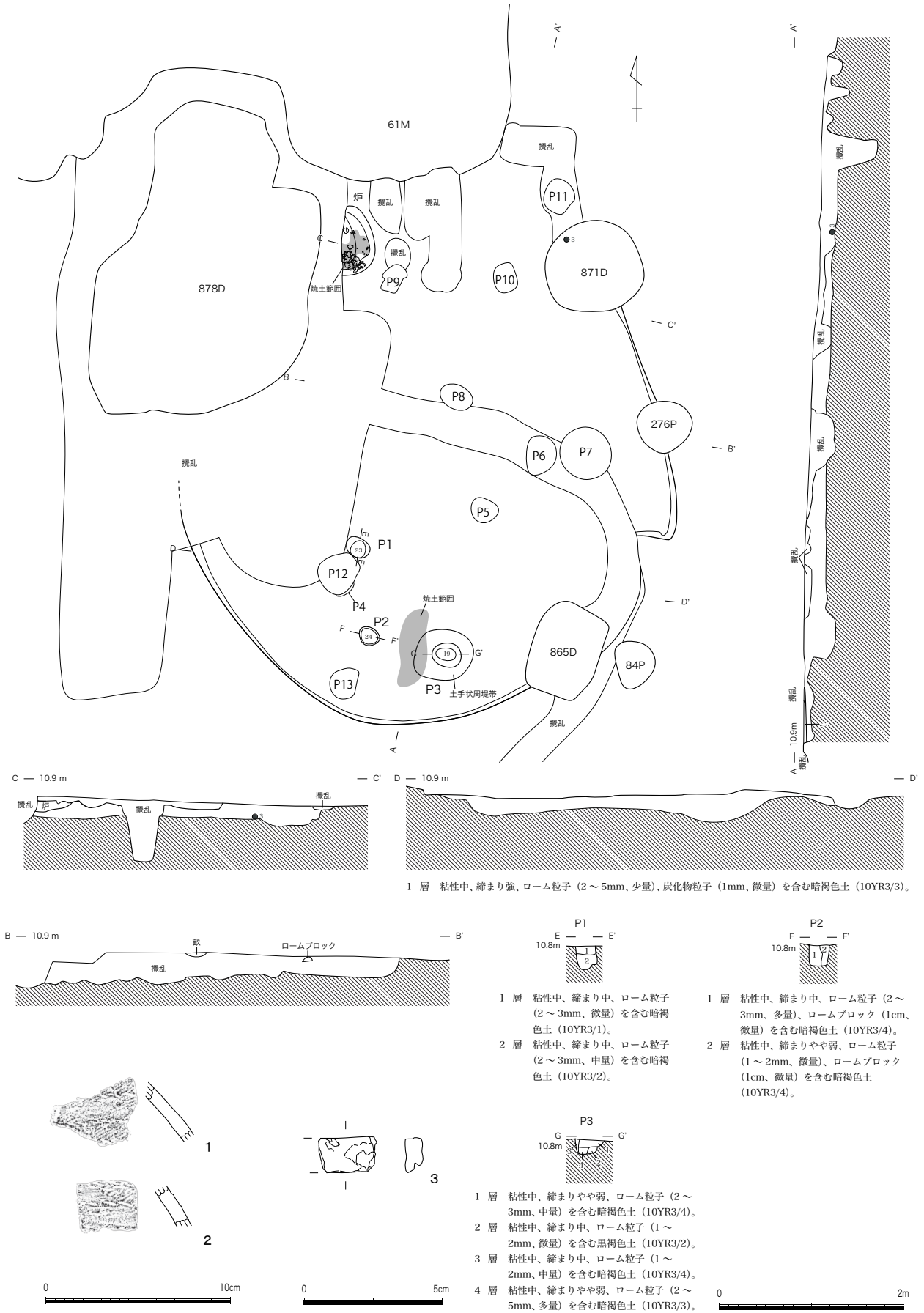
[住居構造] 縄文時代の871号土坑、276号土坑を切る。北側を中世の61号溝跡、西側を近世の地下室878号土坑、南側を近世の865号土坑に切られる。北北東に長軸を持つと推定される。南側で幅23～11cm、高さ3cm前後の土手状周堤帯が検出された。平面形：楕円形か。規模：不明。主軸方位：N-30°-W。壁高：4～8cmを測る。壁溝：検出されなかった。床面：硬化面は検出されなかった。貼床は6～14cmを測る。溝状の掘り方を検出、上幅37～61cm/下幅32～39cm/深さ3～18cmを測る。南側で88×31cmの焼土範囲を検出。柱穴：4基検出された。柱間からいずれも支柱穴とは考えにくい、P1は柱穴の可能性がある。P4は周堤状の高まりと南側に設置されることから入り口ピットの可能性が考えられる。炉：住居の西側で粘土板炉を検出。878号土坑に西半部分を切られる。76cm×不明、深さ13cm。粘土板は残存部で厚さ5.5cmを測る。貯蔵穴：検出されなかった。覆土：1



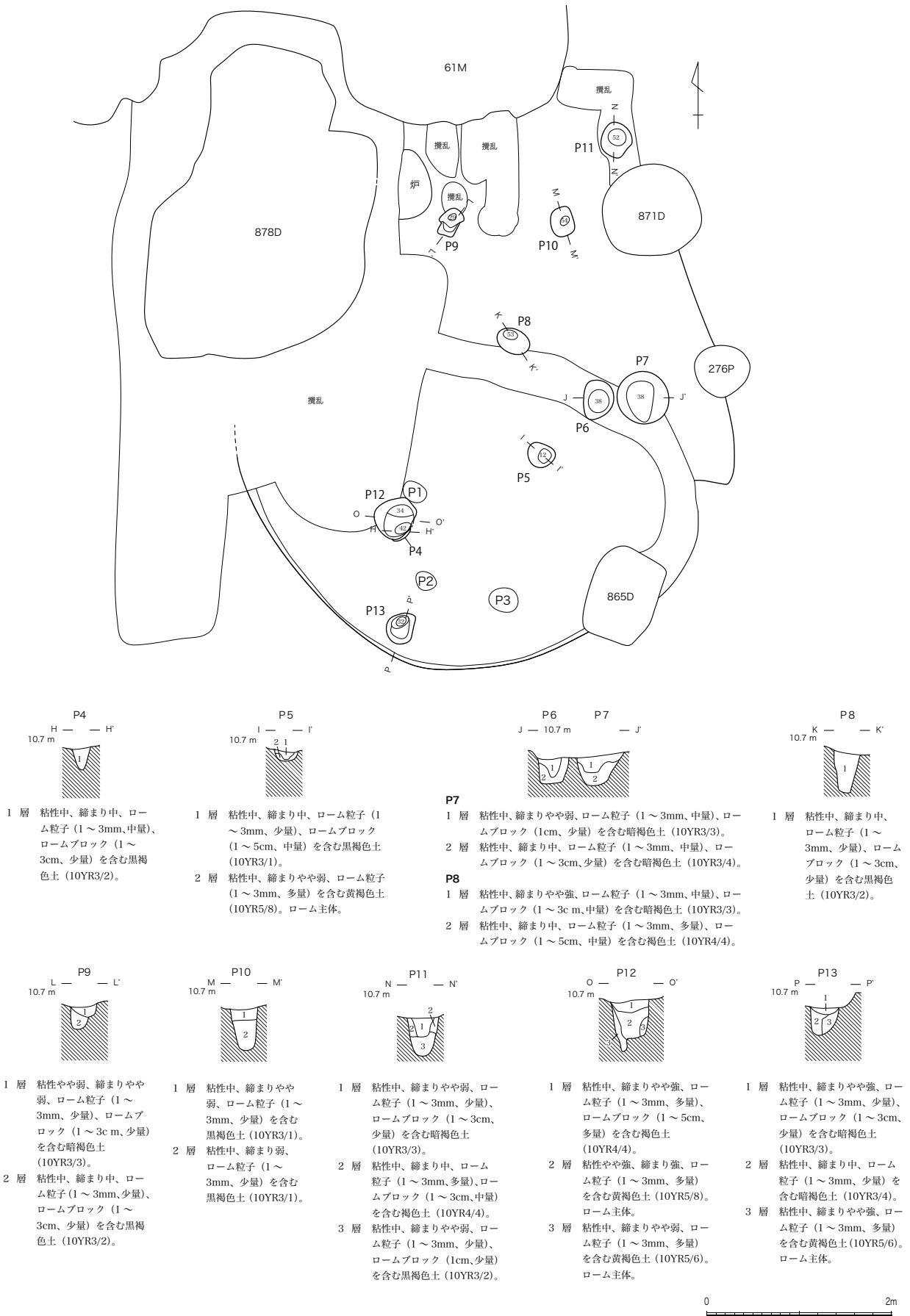
第35図 弥生時代遺構分布図（1 / 400）



第36図 5号住居跡・遺物出土状態・掘り方・出土遺物(1/60・1/30・1/3・1/4)

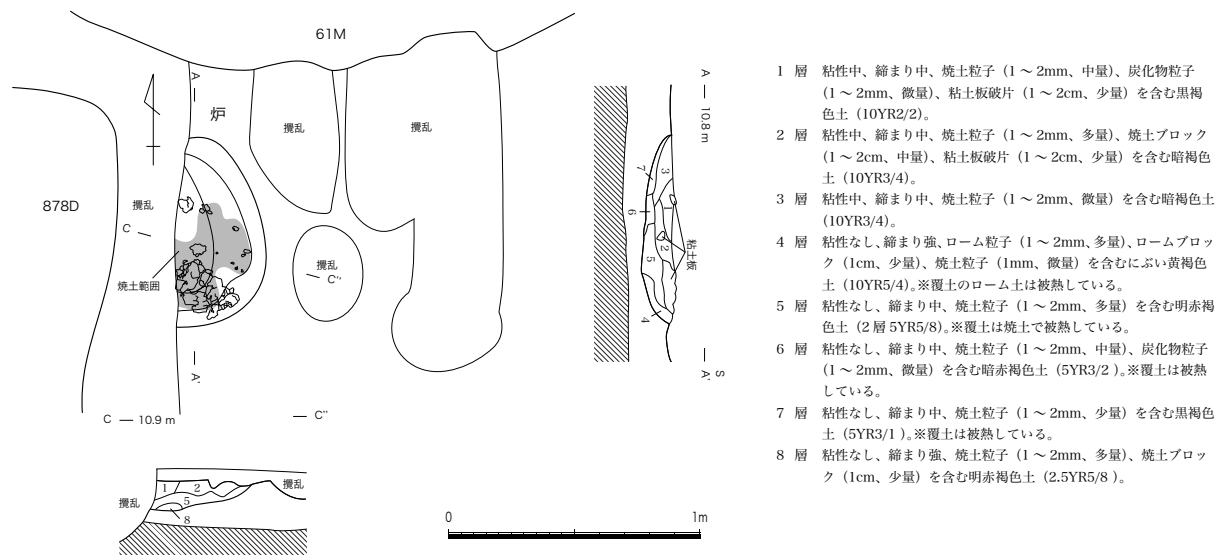


第37図 6号住居跡・出土遺物 (1/60・1/2・1/3)



第38図 6号住居跡掘り方 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



第39図 6号住居跡粘土板炉(1/30)

層のみ残存。ローム・炭化物を含む暗褐色土である。備考：住居内ピットが14基、うち10基は掘り方から検出された。

【遺物】 弥生土器・鉄製品が出土した。

【時期】 遺物の様相から弥生時代後期と考えられる。

遺物 (第37図、第26・27表)

壺の胴部(1・2)、鉄製刀子(3)と考えられる。

挿図番号	出土遺構	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	時期	形状・特徴	装飾・特徴	外面調整	内面調整	色調	胎土							備考	
													角閃石	雲母	長石	石英	橙粒	砂粒	礫		他
第36図1	5Y	台付甕	口縁・台部	130	-	123	後期	平頭・外反	口縁部にキザミ	[調整] 胴部上半斜位ハケ→胴部下半縦位ハケ→台部縦位ハケ→口縁部横位ナデ	[調整] 底部放射状ナデ・口縁部斜位ハケ→胴部横位ナデ	7.5YR4/6 (褐)								乳白色粒子	
第36図2	5Y	壺	胴部	-	-	-	後期	有段口縁・段部直立		[調整] 頸部縦位ハケ→段部貼付→段部横位ナデ, [器面調整] 横位ミガキ	[調整] 横位ナデ, [器面調整] 横位ミガキ	10YR5/8 (黄褐)								頸部	
第36図3	5Y	壺	胴部	-	-	-	後期		鋸歯文沈線区画→縄文RL充填→無文部赤彩	[器面調整] 斜位ミガキ	[調整] 横位ナデ→斜位ナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○			○	○				
第36図4	5Y	壺	胴部	-	-	-	後期		縄文RL横方向→結節縄文LZ区画	[調整] 横位ナデ	[調整] 斜位ナデ, [器面調整] 横位ナデ	10YR5/4 (にぶい黄褐)	○			○	○				
第36図5	5Y	壺	胴部	-	-	-	後期		外面無文部赤彩	[器面調整] 縦位ミガキ	[調整] 横位ナデ	10YR6/4 (にぶい黄橙)						○			
第37図1	6Y	壺	胴部	-	-	-	後期		縄文RL横方向→結節縄文RS区画	[調整] 横位ナデ	[調整] 横位ナデ	7.5YR5/6 (明褐)						○	○		
第37図2	6Y	壺	胴部	-	-	-	後期		縄文RL縦方向→結節縄文RZ区画	[調整] 横位ナデ	[調整] 横位ナデ	7.5YR5/6 (明褐)						○	○		

第26表 弥生時代住居跡出土土器

掲載No.	出土遺構	材質	遺物種別	長さ (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存部	備考
第37図3	6Y	鉄	刀子か	(21.0)	12.5	6.1	3.9	-	

第27表 弥生時代住居跡出土金属製品

第4節 古墳時代

(1) 概要

古墳時代の遺構は、住居1軒が検出されている。

住居の時期は出土した土器の様相から7世紀前葉と考えられる。

(2) 住居跡

285号住居跡

遺構 (第40図)

[位置] C・D-2グリッド。

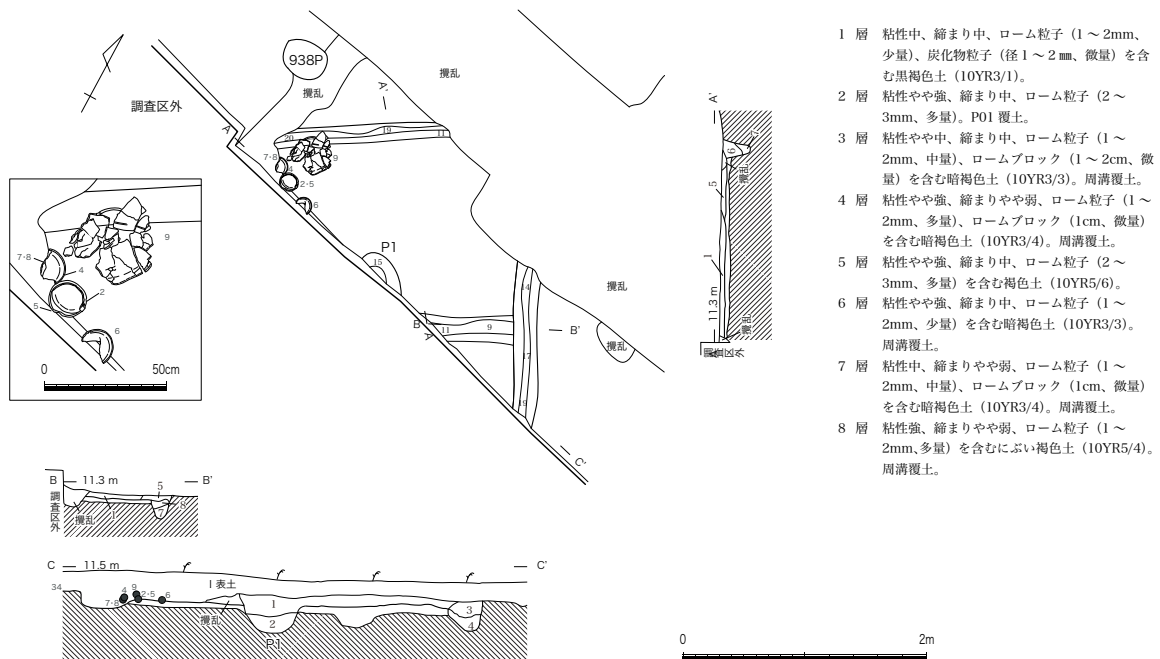
[住居構造] 床面付近まで削平をうける。北側は攪乱に壊され、南側は調査区外である。北西・北東壁の中央付近が残存。平面形：方形か。規模：不明。主軸方位：N-58°-E。壁高：削平され確認できなかった。壁溝：残存部では全周する。上幅12~20cm/下幅3~6cm/深さ11~20cmを測る。床面：貼床は3~10cmを測り、硬化面は確認できなかった。床面レベル：11.19~11.28m。カマド：検出されなかった。柱穴：1基検出された。主柱穴と考えられる。貯蔵穴：検出されなかった。覆土：8層に分層。うち2層が住居覆土。住居覆土はロームを含む黒褐色土を基調とする。炭化物が含まれる。周溝覆土はロームを含む暗褐色土を基調とする。備考：東壁で間仕切りを検出した。

[遺物] 土師器が出土した。

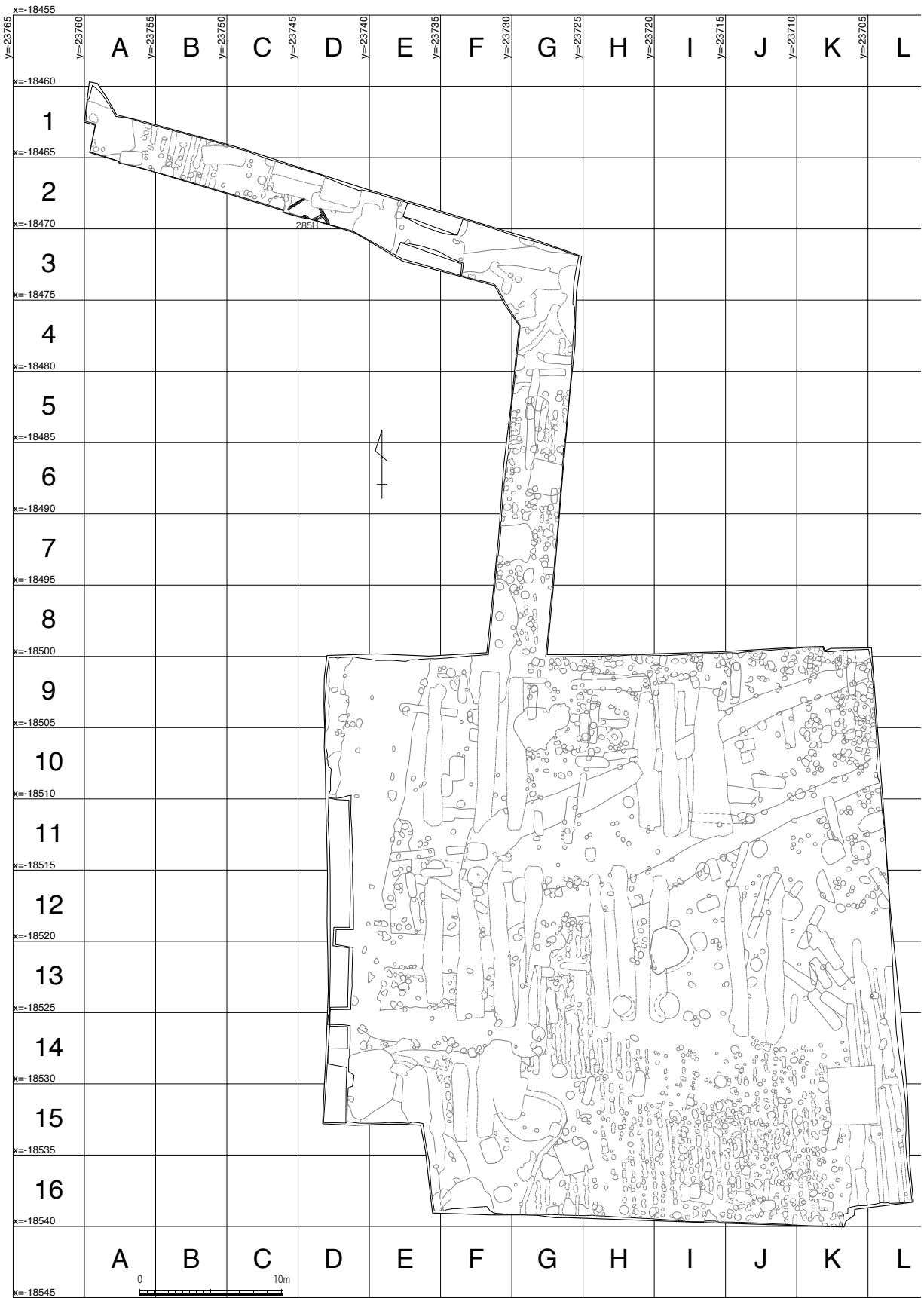
[時期] 遺物の様相から7世紀前葉と考えられる。

遺物 (第42図、第28表)

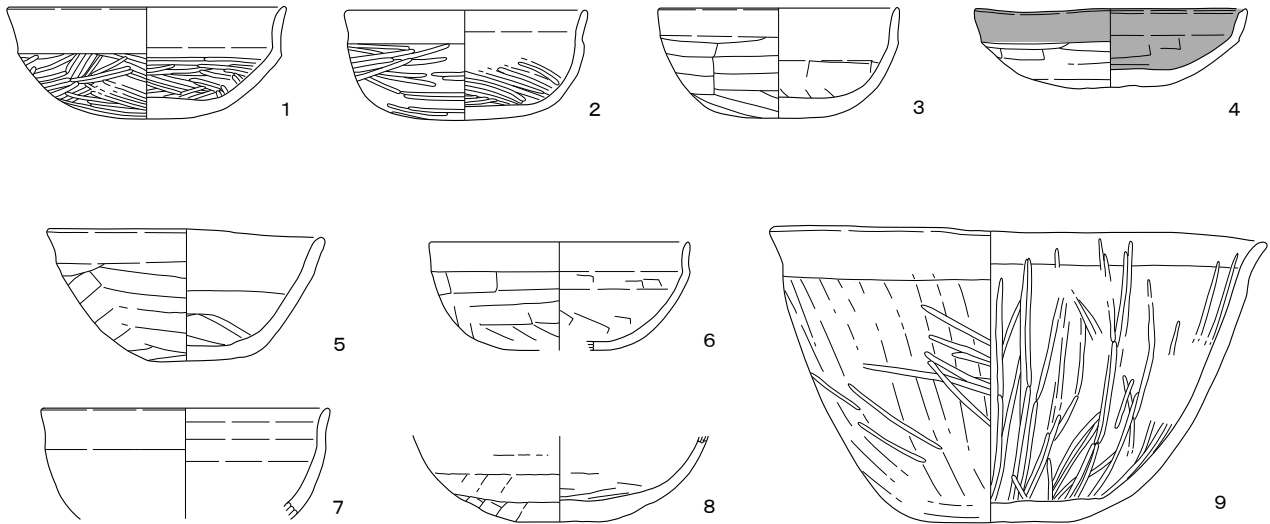
土師器杯(1~7)、土師器鉢(8・9)である。4は外面口縁部と内面に赤彩が施される。



第40図 285号住居跡(1/60)



第41図 古墳時代遺構分布図(1/400)



第42図 285号住居跡出土遺物(1/4)



挿図番号	出土遺構	種別	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時期	形状・特徴	成形・外面調整	内面調整	色調	胎土								備考
													角閃石	雲母	長石	石英	橙粒	砂粒	礫	他	
第42図1	285H	土師器	坏	口縁・底部	14.0	-	5.7	7C前葉	[口縁部] 円頭・有段・外反, [底部] 丸底	[調整] 口縁部横位ナデ→体部横位ヘラケズリ→底部多方向ヘラケズリ, [器面調整] 底部放射状ミガキ→体部斜位ミガキ→口縁部横位ナデ	[調整] 口縁部横位ナデ→体部横位ナデ, [器面調整] 底部多方向ミガキ→体部横位ナデ	10YR6/6 (明黄褐)	○	○	○	○	○	○			
第42図2	285H	土師器	坏	口縁・底部	12.1	-	5.6	7C前葉	[口縁部] 円頭・有段・外反, [底部] ほゞ丸底	[調整] 口縁部横位ナデ→体部横位ヘラケズリ→底部多方向ヘラケズリ, [器面調整] 底部多方向ミガキ→体部横位ミガキ→口縁部横位ナデ	[調整] 口縁部横位ナデ→体部横位ナデ, [器面調整] 底部多方向ミガキ→体部横位ミガキ	10YR5/4 (明黄褐)		○	○	○	○			内面底部付着物、赤彩か。	
第42図3	285H	土師器	坏	口縁・底部	12.0	-	5.6	7C前葉	[口縁部] 尖頭・有稜・直立, [底部] ほゞ丸底	[調整] 体部斜位ヘラケズリ→底部多方向ヘラケズリ→体部横位ナデ→口縁部横位ナデ	[調整] 底部多方向ナデ→体部横位ナデ→口縁部横位ナデ	10YR7/6 (明黄褐)	○		○	○	○				
第42図4	285H	土師器	坏	口縁・底部	(13.7)	-	4.1	7C前葉	[口縁部] 円頭・有稜・直立, [底部] 丸底	[調整] 体部横位ナデ→口縁部横位ナデ・底部多方向ヘラケズリ, [器面調整] 体部斜位ナデ→口縁部横位ナデ	[調整] 口縁部横位ナデ→体部横位ナデ, [器面調整] 底部放射状ミガキ→口縁部横位ナデ	10YR6/4 (にぶ黄橙)	○		○	○	○			内外面赤彩	
第42図5	285H	土師器	坏	口縁・底部	13.8	5.3	6.7	7C前葉	[口縁部] 円頭・有稜・外反, [底部] ほゞ平底	[調整] 体部横位ヘラケズリ→斜位ナデ→底部多方向ヘラケズリ→ナデ・口縁部横位ナデ	[調整] 底部横位ナデ→体部斜位ナデ→口縁部横位ナデ	10YR7/6 (明黄褐)			○	○	○	○			
第42図6	285H	土師器	坏	口縁・底部	13.0	-	5.5	7C前葉	[口縁部] 尖頭・有段・直立, [底部] ほゞ丸底	[調整] 口縁部横位ナデ→体部斜位ナデ→横位ナデ→底部多方向ヘラケズリ, [器面調整] 体部ナデ→口縁部横位ナデ	[調整] 口縁部横位ナデ→体部斜位ナデ→底部多方向ナデ, [器面調整] 体部ナデ	10YR6/6 (明黄褐)	○		○	○	○	○			
第42図7	285H	土師器	坏か	口縁部	(14.4)	-	(5.6)	7C前葉	円頭・有稜・外反	[調整] 体部横・斜位ナデ→口縁部横位ナデ	[調整] 体部横位ナデ→口縁部横位ナデ, [器面調整] 体部斜位ナデ→口縁部横位ナデ	7.5YR7/6 (橙)	○	○	○	○	○	○			
第42図8	285H	土師器	鉢か	体部・底部	-	4.6	(4.4)	7C前葉	平底	[調整] 体部→斜位ヘラケズリ→斜位ナデ→底部→横位ヘラケズリ	[調整] 体部横位ナデ→底部横位ナデ	7.5YR7/8 (黄橙)	○		○	○	○	○			
第42図9	285H	土師器	鉢	体部・底部	14.8	15.1	(8.0)	7C前葉	[口縁部] 円頭・有稜・外反, [底部] 平底	[調整] 胴部縦位ヘラケズリ→斜位ナデ→口縁部横位ナデ・底部ナデ, [器面調整] 胴部斜位ミガキ→口縁部横位ナデ・底部ナデ	[調整] 胴部縦位ナデ→横位ナデ→口縁部横位ナデ・底部ナデ, [器面調整] 口縁部横位ナデ→胴部縦位ミガキ→底部ナデ	10YR5/3 (にぶ黄橙)	○			○	○				

第28表 古墳時代住居跡出土土器

第5節 奈良・平安時代

(1) 概要

奈良・平安時代の遺構は、住居4軒、ピット5基が検出されている。

住居の時期は出土した土器の様相から主に9世紀代と考えられる。削平を受けており、住居覆土の大半が残存していない。

ピットからの遺物出土は無く、覆土の状況により奈良～平安時代の遺構と判断した。詳細は表に示す。(第29表)

(2) 住居跡

281号住居跡

遺構 (第44図)

[位置] D・E-14・15グリッド。

[住居構造] 床面付近まで削平をうける。西側を中世の59号溝跡・近世の845号土坑に、東側を現代の60号溝跡に切られる。平面形：方形か。規模：不明。主軸方位：不明。壁高：不明。壁溝：不明。床面：住居の南側で硬化面が確認された。床面レベル：10.66～10.76m。カマド：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。覆土：住居覆土は検出されなかった。

[遺物] 重複する845号土坑との境界付近から須恵器が出土した。

[時期] 遺物の年代から9世紀代と考えられる。

遺物 (第44図、第30表)

須恵器坏の底部(1)で、9世紀初頭の東金子産と考えられる。

282号住居跡

遺構 (第45・46図)

[位置] G・H-15・16グリッド。

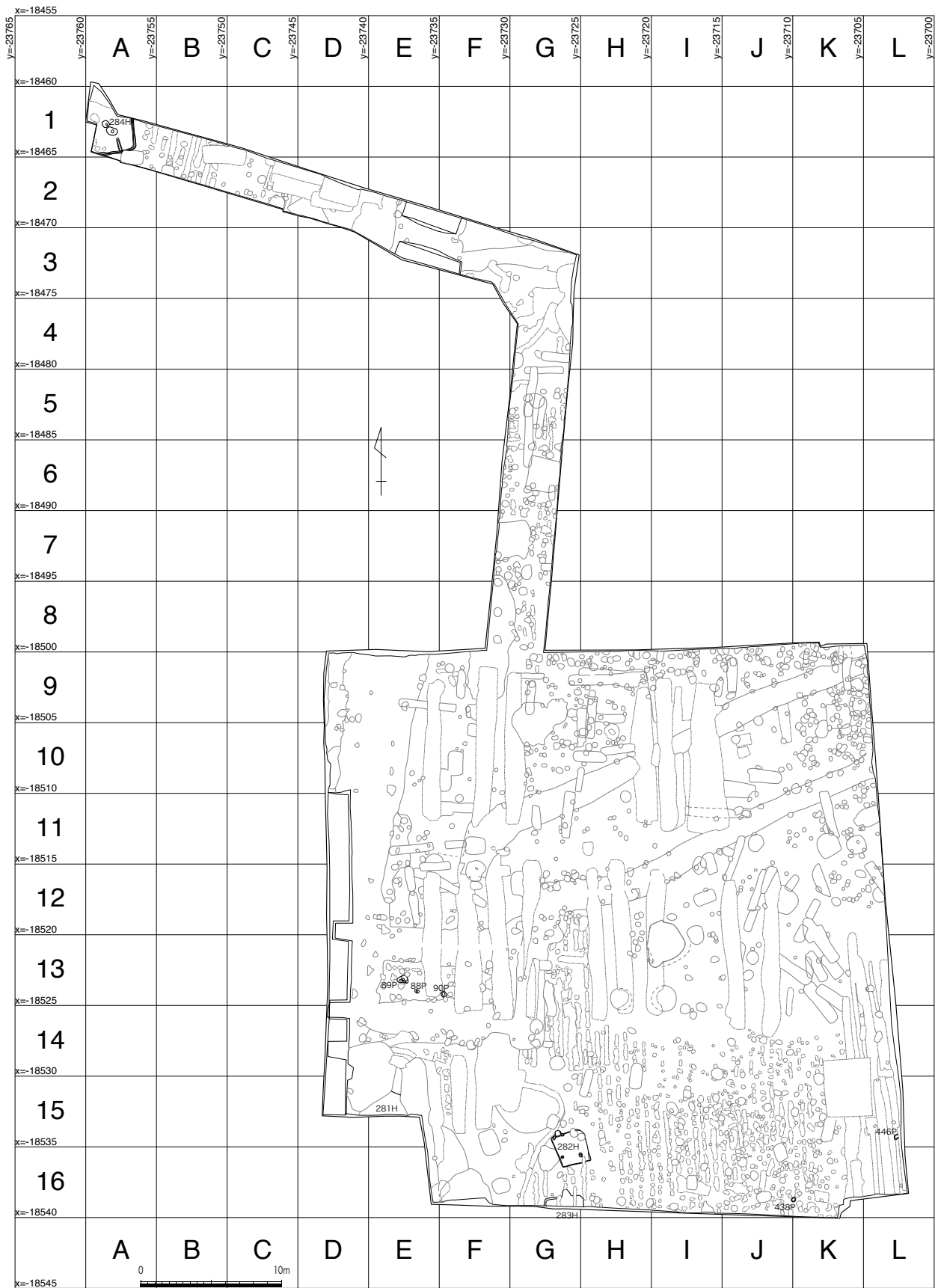
[住居構造] 床面付近付近まで削平をうける。縄文時代の868号土坑、275号ピットを切り、近世の199号ピットに切られる。平面形：方形。規模：2.34×2.06m。主軸方位：N-19°-W。壁高：残存部分で10cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝：残存部では検出されなかった。床面：貼床は残存部で4～18cm。住居の南側で硬化面を確認。カマド付近で炭化材がまとまって出土した。床面レベル：10.68～10.76m。カマド：南壁の北西コーナー付近に位置する。火床は削平されている。長さ不明・幅41cm・壁への掘り込み38cmを測る。柱穴：住居南側で2基検出されたが、北側で対応する柱穴は検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。覆土：5層に分層。ローム・炭化物を含む暗褐色土を基調とする。一部に焼土・粘土粒を含む。

[遺物] 土師器・須恵器・石製品・鉄製品が出土した。

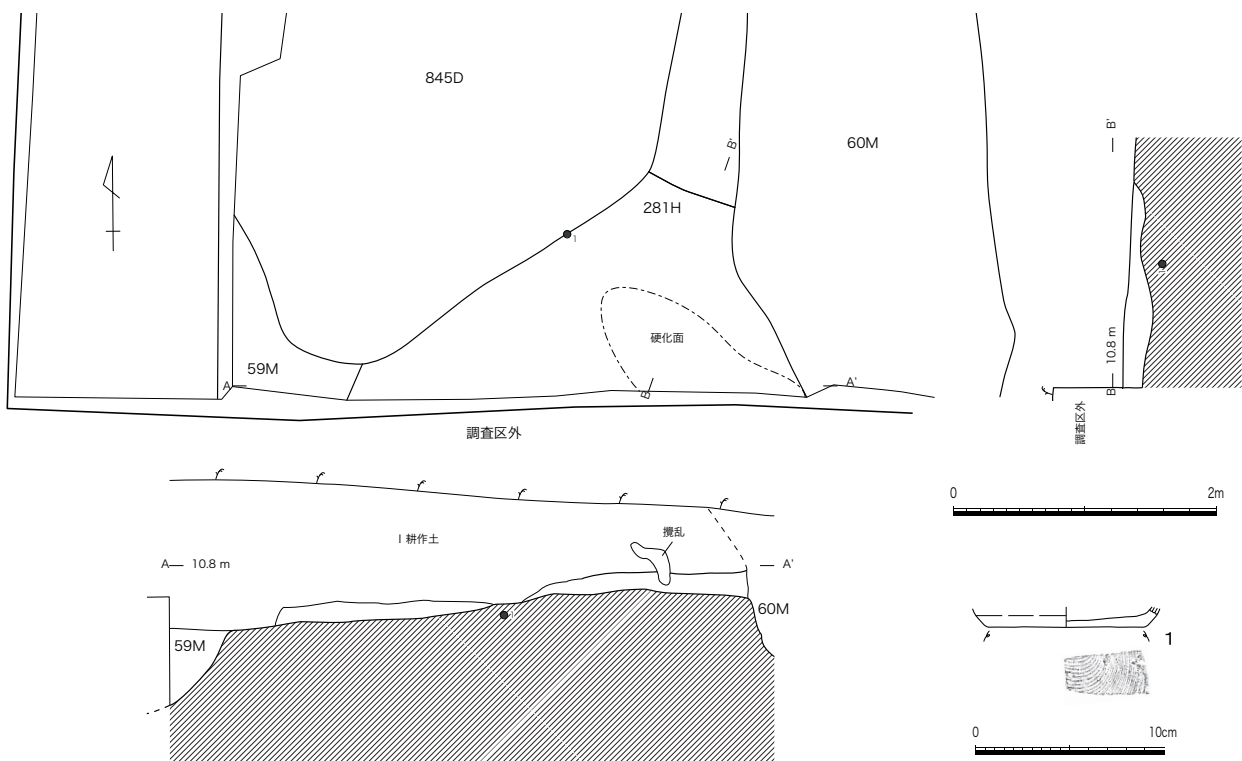
[時期] 遺物の年代から9世紀代と考えられる。

遺物 (第47図、第30～32表)

須恵器坏の口縁部(1)で、9世紀代の南比企産と考えられる。紡錘車(2)は透閃石岩製で全体に変色し、一部被熱によるハジケを伴う。鉄製品(3)は鎌と考えられる。土師器は図示し得なかった。



第43図 奈良・平安時代遺構分布図 (1 / 400)



第44図 281号住居跡・出土遺物（1/60・1/4）

283号住居跡

遺構（第48・49図、第30表）

〔位置〕 G・H-16 グリッド。

〔住居構造〕 床面付近まで削平をうける。平面形：不明。規模：不明×2.80m。主軸方位：N-3°-W。壁高：削平され確認できなかった。壁溝：残存部では検出されなかった。床面：貼床は床残存部で8～14cmを測り、硬化面はカマド前面で確認された。床面レベル：10.80～10.88m。カマド：北壁の中央部に位置する。削平のため規模は不明。柱穴：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった覆土：1層のみ残存。ローム・焼土・粘土を含む暗褐色土である。

〔遺物〕 土師器・須恵器が出土した。

〔時期〕 遺物の様相から8世紀中葉と考えられる。

遺物（第49図、第30表）

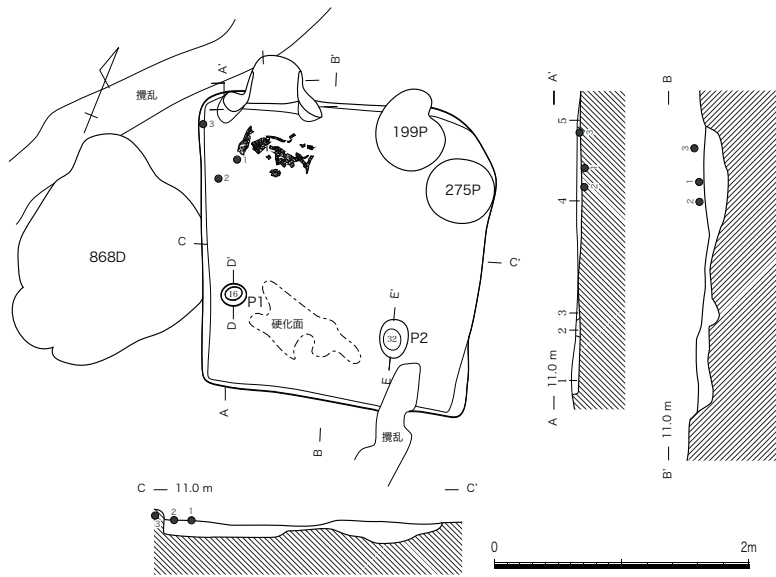
須恵器坏で、8世紀第2四半期、鳩山窯Ⅲ期の東金子産である。土師器は図示し得なかった。

284号住居跡

遺構（第50図）

〔位置〕 A-1 グリッド。

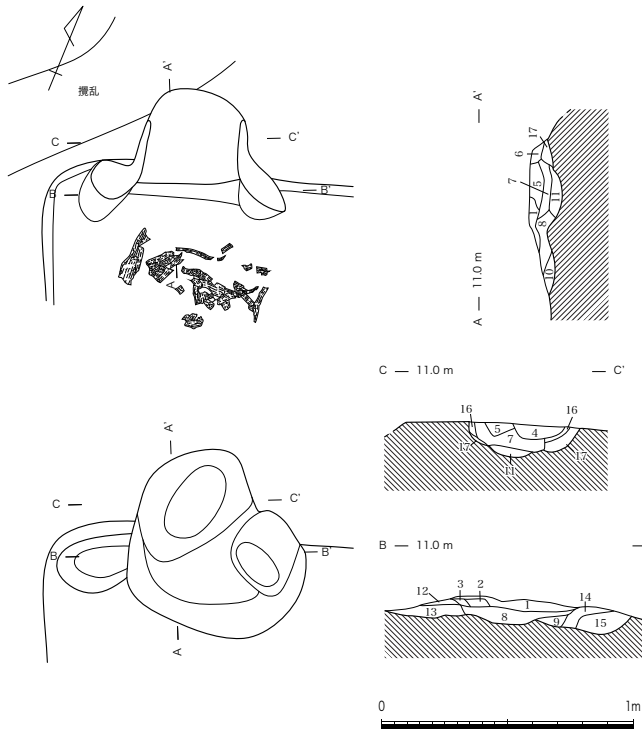
〔住居構造〕 床面付近まで削平をうける。住居北側・西側は調査区外で、南側の一部を中世の949号土坑に切られる。平面形：方形か。規模：不明。主軸方位：N-7°-W。壁高：削平され確認できなかった。壁溝：残存部では全周する。上幅13～19cm/下幅4～10cm/深さ10～21cmを測る。床面：貼床は床残存部で8～15cmを測り、硬化面はカマド前面で確認された。床面レベル：11.24～11.28m。カマド：検出されなかった。柱穴：床下で2基検出された。主柱穴と考えられる。貯蔵穴：検出されなかった。覆土：周溝の覆土のみ残存。5層に分層。ロームを含む黒褐色土を基調とする。備考：



第45図 282号住居跡(1/60)

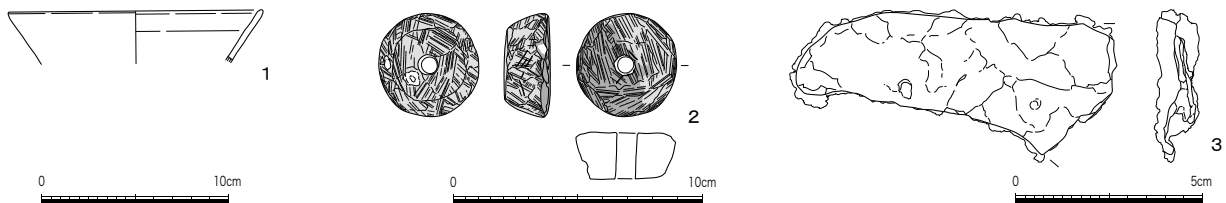
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、少量)、炭化物粒子(2~5mm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 2層 粘性強、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)、炭化物粒子(2~3mm、微量)、炭化物ブロック(1cm、微量)を含む褐色土(10YR4/6)。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、微量)、焼土粒子(2~3mm、微量)、炭化物粒子(2~5mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/2)。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、中量)、ロームブロック(1cm、微量)、焼土粒子(2~3mm、微量)、炭化物粒子(3~8mm、少量)、灰白色粘土粒子(2~3mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 5層 粘性強、締まりやや強、ローム粒子(2~3mm、少量)、炭化物粒子(3~8mm、少量)、灰白色粘土粒子(2~3mm、微量)を含む灰黄褐色土(10YR4/2)。*粘土によりやや灰色かか。

- 1層 ローム粒子(2~3mm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。
- 2層 粘性強、締まり中、ローム粒子(2~5mm、多量)を含む褐色土(10YR4/6)ローム主体。



第46図 282号住居跡カマド(1/30)

- 1層 粘性強、締まり強、焼土粒子(2~5mm、多量)、焼土ブロック(1cm、少量)、灰白色粘土粒子(2~5mm、少量)、炭化物粒子(5~6mm、少量)を含む暗褐色土(7層5YR3/4)。
- 2層 粘性強、締まり強、焼土粒子(2~5mm、少量)、灰白色粘土粒子(1~2mm、多量)、炭化物粒子(2~5mm、少量)、炭化物ブロック(1~2cm、少量)を含む暗褐色土(7層5YR3/4)。
- 3層 粘性強、締まり強、ローム粒子(1mm、少量)、灰白色粘土粒子(1~2mm、少量)、炭化物粒子(1~2mm、微量)を含む褐色土(7層5YR4/3)。
- 4層 粘性強、締まり強、焼土粒子(2~5mm、多量)、焼土ブロック(1cm、微量)を含む灰褐色土(10YR4/1)。
- 5層 粘性強、締まり強、ローム粒子(1mm、多量)、焼土粒子(5~6mm、少量)、灰白色粘土粒子(1mm、微量)、炭化物粒子(2~5mm、微量)を含む明黄褐色土(10YR6/6)。ローム主体。
- 6層 粘性強、締まり強、ローム粒子(1mm、多量)、焼土粒子(1~2mm、少量)、灰白色粘土粒子(1~2mm、少量)、炭化物粒子(2~3mm、微量)を含むいぶい黄褐色土(10YR4/3)。
- 7層 粘性強、締まり強、焼土粒子(1~2mm、少量)、灰白色粘土粒子(1~2mm、多量)、炭化物粒子(2~3mm、少量)を含む灰褐色土(10YR4/1)。
- 8層 粘性強、締まり強、焼土粒子(1~2mm、少量)、灰白色粘土粒子(2~3mm、少量)、灰白色粘土ブロック(1cm、微量)を含む黒褐色土(5YR3/1)。
- 10層 粘性強、締まり強、ローム粒子(1~2mm、中量)を含むいぶい黄褐色土(10YR4/3)。
- 11層 粘性強、締まり強、焼土粒子(2~3mm、中量)、焼土ブロック(1cm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/1)。
- 12層 粘性強、締まり強、焼土粒子(1~2mm、少量)、灰白色粘土粒子(1~2mm、中量)、炭化物粒子(2~5mm、微量)を含む灰黄褐色土(10YR4/2)。
- 13層 粘性中、締まり中、ローム粒子(1~2mm、多量)、灰白色粘土粒子(1mm、微量)、灰白色粘土ブロック(1cm、微量)を含む褐色土(10YR4/6)。ローム主体。
- 14層 粘性強、締まり強、ローム粒子(1~2mm、多量)、灰白色粘土粒子(2~3mm、中量)、炭化物粒子(2~3mm、微量)を含む灰黄褐色土(10YR4/2)。ローム土と粘土の混合土。
- 15層 粘性強、締まり強、焼土粒子(2~3mm、微量)、灰白色粘土粒子(1~3mm、少量)、灰白色粘土ブロック(1~2cm、微量)を含む灰褐色土(7層5YR4/2)。
- 16層 粘性強、締まり強、焼土粒子(1~2mm、微量)、灰白色粘土粒子(2~5mm、多量)を含む灰褐色土(5YR4/2)。被熱した灰白色粘土主体。
- 17層 粘性強、締まり強、灰白色粘土粒子(2~5mm、多量)を含む褐色土(5YR6/1)。灰白色粘土主体。



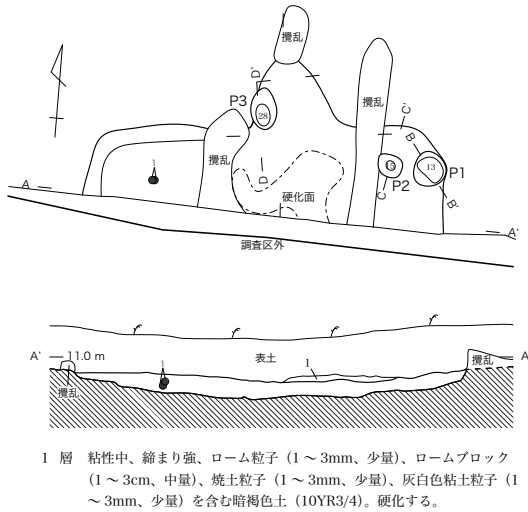
第47図 282号住居跡出土遺物(1/2・1/3・1/4)

南壁で間仕切りを検出した。

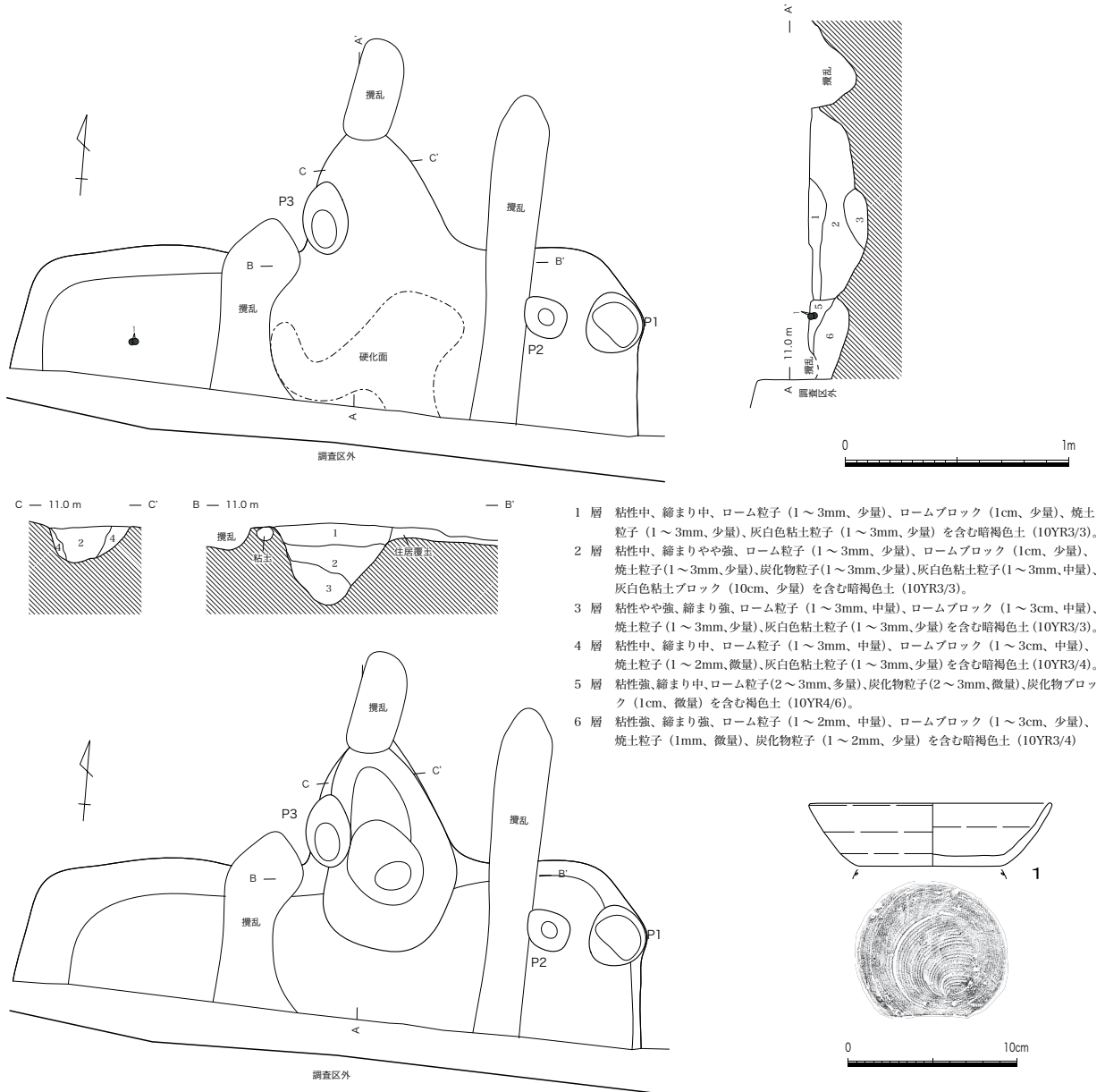
【遺物】土師器が出土した。

【時期】詳細な時期を推定できる遺物は確認できなかった。

第3章 検出された遺構と遺物



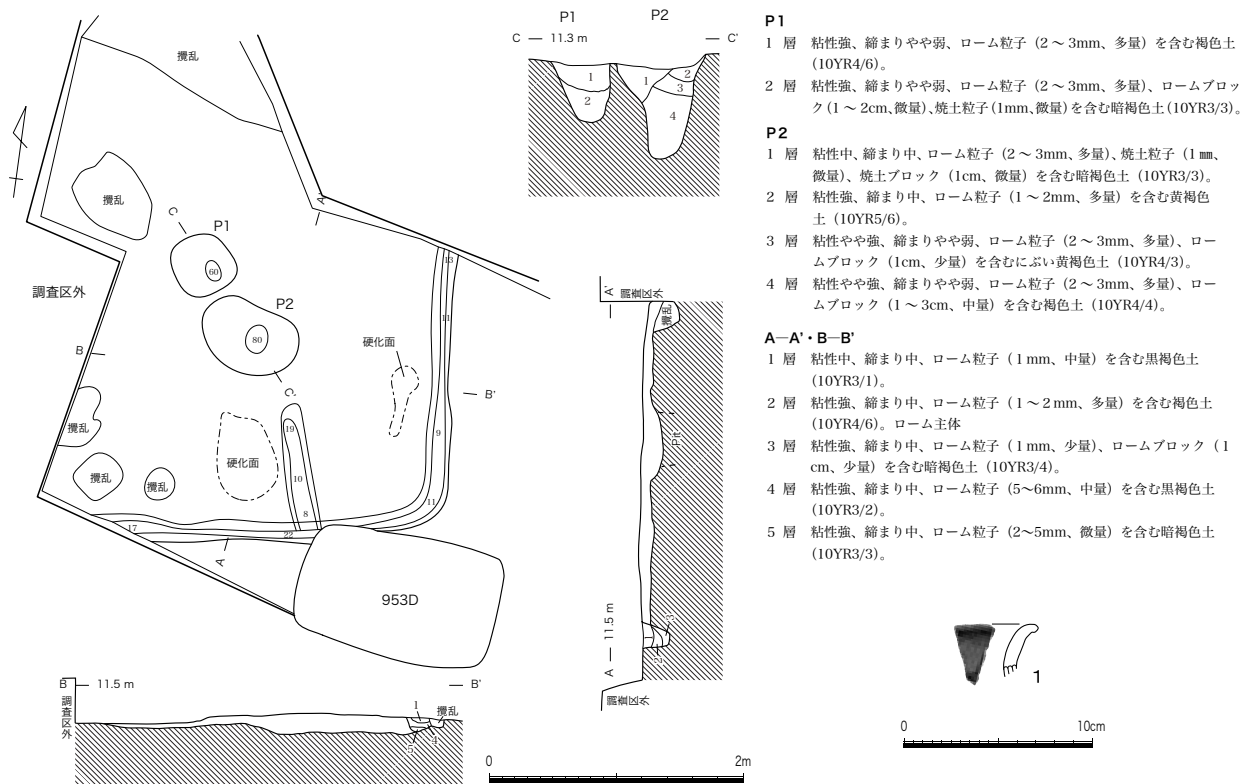
第 48 図 283 号住居跡 (1 / 60)



第 49 図 283 号住居跡カマド・出土遺物 (1 / 30・1 / 4)

遺物 (第50図、第30表)

土師器甕の口縁部(1)のみ図示し得た。



第50図 284号住居跡・出土遺物(1/60・1/4)

(3) ピット

遺構名	位置	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	分層
P88	E-13	不整楕円	32	24	48	1層
P89	E-13	不整	79	53	37	1層
P90	E・F-13	不整楕円	44	35	22	1層

遺構名	位置	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	分層
P438	J・K-16	楕円	34	33	17	1層
P446	L-15	不整	-	28	19	1層

第29表 奈良・平安時代ピット計測表

挿図番号	出土遺構	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	時期	形状・特徴	成形・外面調整	内面調整	色調	胎土							備考
													角閃石	雲母	長石	石英	橙粒	砂粒	礫	
第44図1	281H	須恵器	杯	底部	-	(8.2)	(1.1)	9C初	平底。内底径86cm	轆轤(右回転)→底部回転糸切。[調整]底部無調整→体部下端回転ヘラケスリ	-	25Y7/3 (浅黄)								東金子産。底部糸抜き痕残存
第47図1	282H	須恵器	杯	口縁部	(13.4)	-	(2.8)	9C代	円頭・直立	轆轤(右回転)	-	25Y5/1 (黄灰)								南比企産
第49図1	283H	須恵器	杯	口縁・底部	(13.9)	8.6	3.7	8C中葉	[口縁部]尖頭・外反,[底部]平底。内底径82cm	轆轤(左回り)→回転糸切	-	25Y6/2 (灰黄)								東金子産。煤付着
第50図1	284H	土師器	甕	口縁部	-	-	-	-	円頭・外反・口唇部外反	[調整]横位ナデ	[調整]横位ナデ	75YR7/6 (橙)				○	○	○	○	

第30表 奈良・平安時代住居跡出土土器

掲載No.	出土遺構	材質	遺物種別	長さ (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	残存部	備考
第47図3	282H	鉄	鎌	(7.8)	3.6	0.4	25.3	刃部	

第31表 奈良・平安時代住居跡出土石製品

掲載No.	出土遺構	遺物種別	石材	長さ (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
第47図2	282H	紡錘車	透閃石岩か	4.1	4.0	1.9	47.1	穿孔は内側6.4×6.6mm、表面径8.1mm前後、裏面8.5×8.7mm。被熱。

第32表 奈良・平安時代住居跡出土金属製品

第6節 中世以降

(1) 概要

中世以降の遺構は、溝跡6本(中世4本・近代以降2本)、井戸7基(近世)、土坑105基(中世7基・近世96基・近代以降2基)、地下室6基(近世)、ピット903基(中世379基、近世523基、近代以降1基)である。溝については、59号溝跡と柏城の大堀との関連が推測される。またピットのうち、企画性をもって並列するものがあり、掘立柱建築遺構1基と柱穴列跡1基を抽出した。その他のピットについては、遺物が出土した遺構を中心に報告し、計測値等は表に示す。

(2) 溝跡

58号溝跡

遺 構 (第53・54図)

[位 置] F～L-9～12グリッド。

[構 造] 中世の823～842号・881号ピットを切る。このうち823～842号ピットは本遺構に伴う可能性がある。また中世の13・15号ピット、近世の834～836・885・886号土坑、41号井戸、10～12・709号ピットに切られる。**平面形**：南西から北東に向かって直線的に延びる。南西端で南方向に屈折し、先端で井戸に切られる。**断面形**：北半は箱形を呈する。南半は緩やかなU字形から皿形に移る。**規模**：上幅1.08～2.15m／下幅0.71～1.26m。**深さ**：60～66cm。南端、北端に近い範囲は40cm前後とやや浅くなる。溝底の標高は北側の方が低く、高低差は51cmを測る。**走行方位**：N-66°-E。調査区域内では32.51mを測る。**硬化面**：硬化面は確認できなかったが、屈折部でローム範囲が確認された。**覆土**：自然堆積。ローム粒子、ロームブロックを含む暗褐色土を基調とする。

[遺 物] 馬の顎下骨や歯・礫の他、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・鉄製品が出土したのみであった。

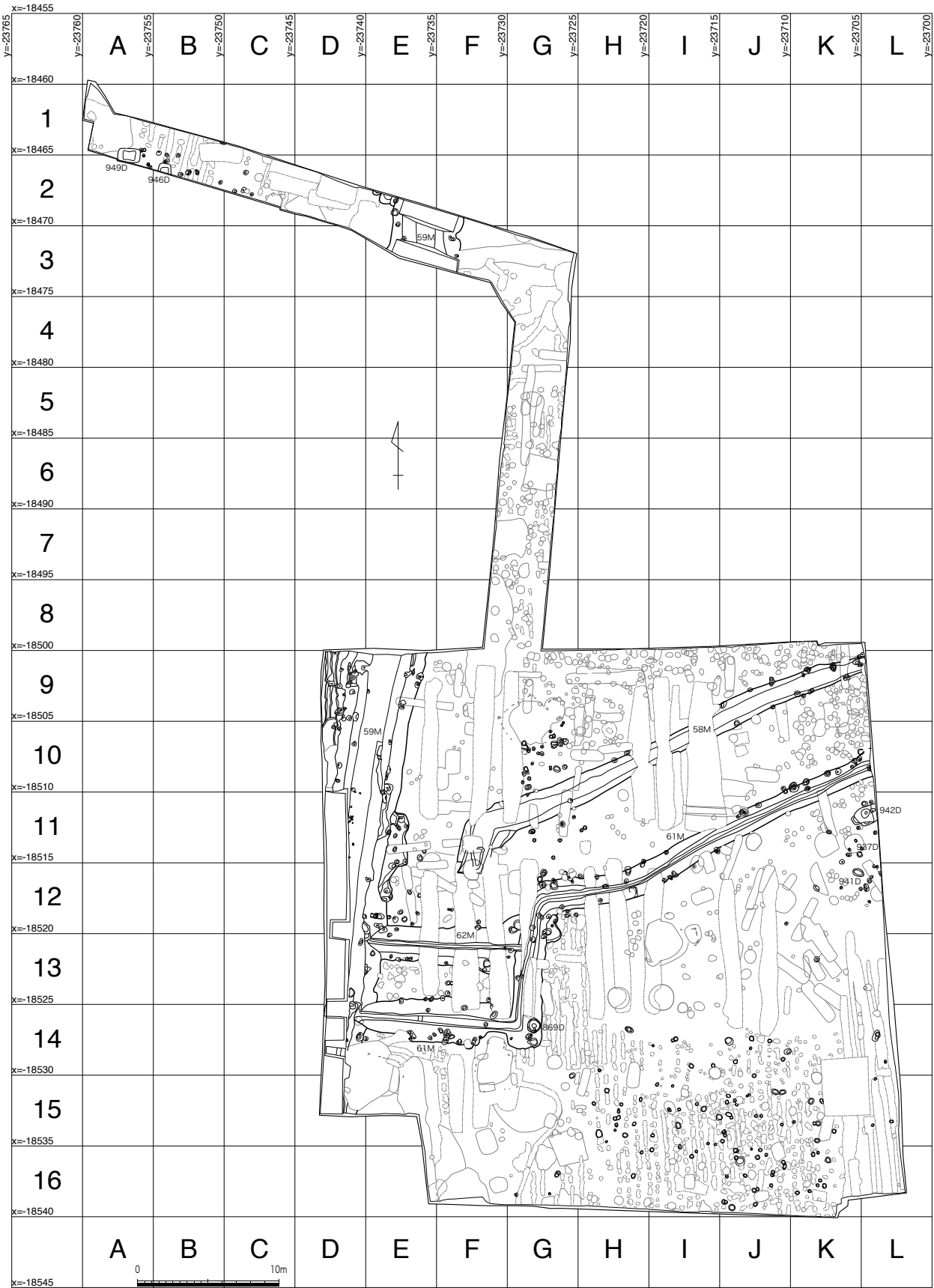
[時 期] 中世。

59号溝跡

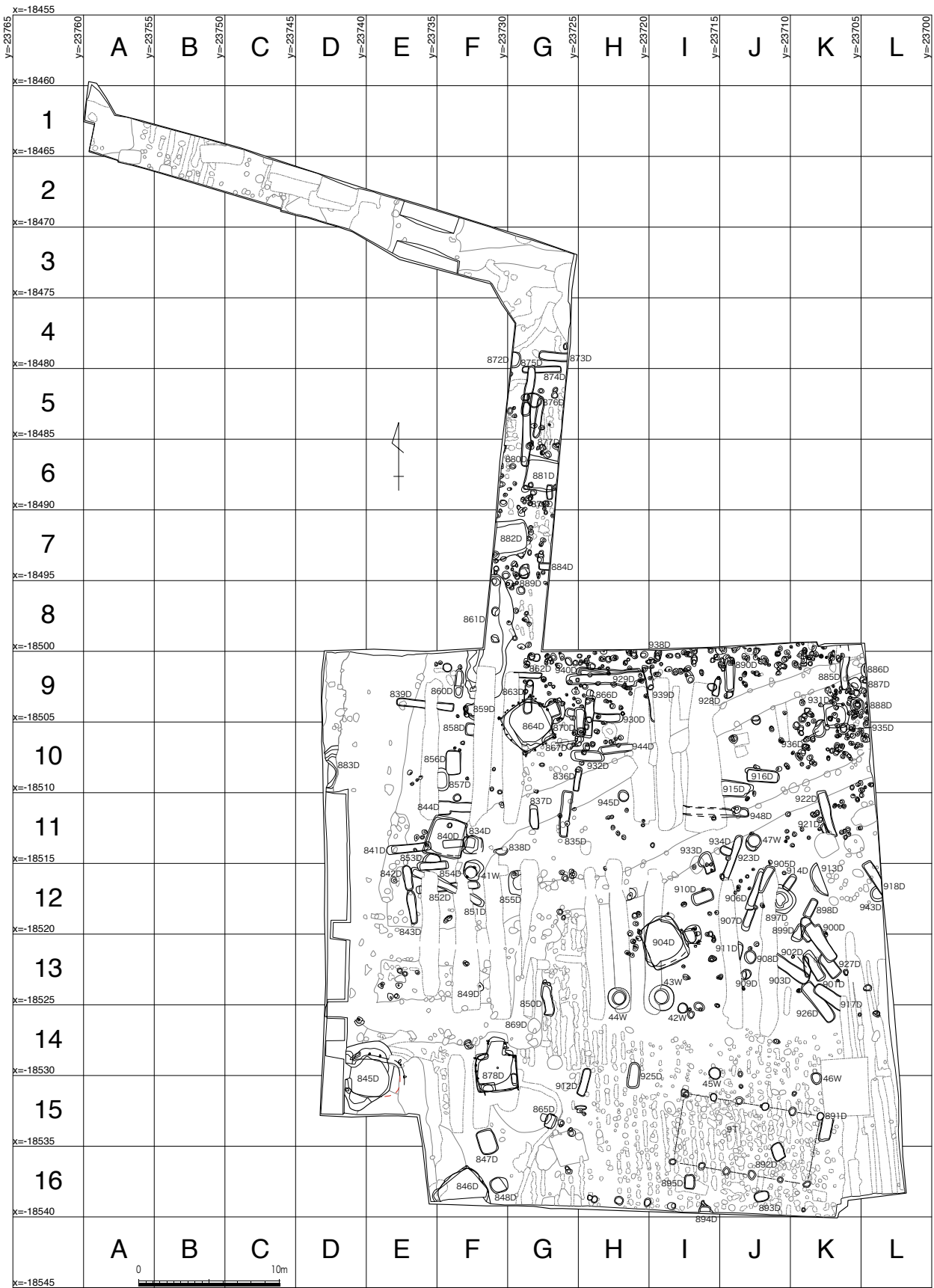
遺 構 (第55～59図)

[位 置] E・F-2・3、D・E-9～13、D-14・15グリッド。

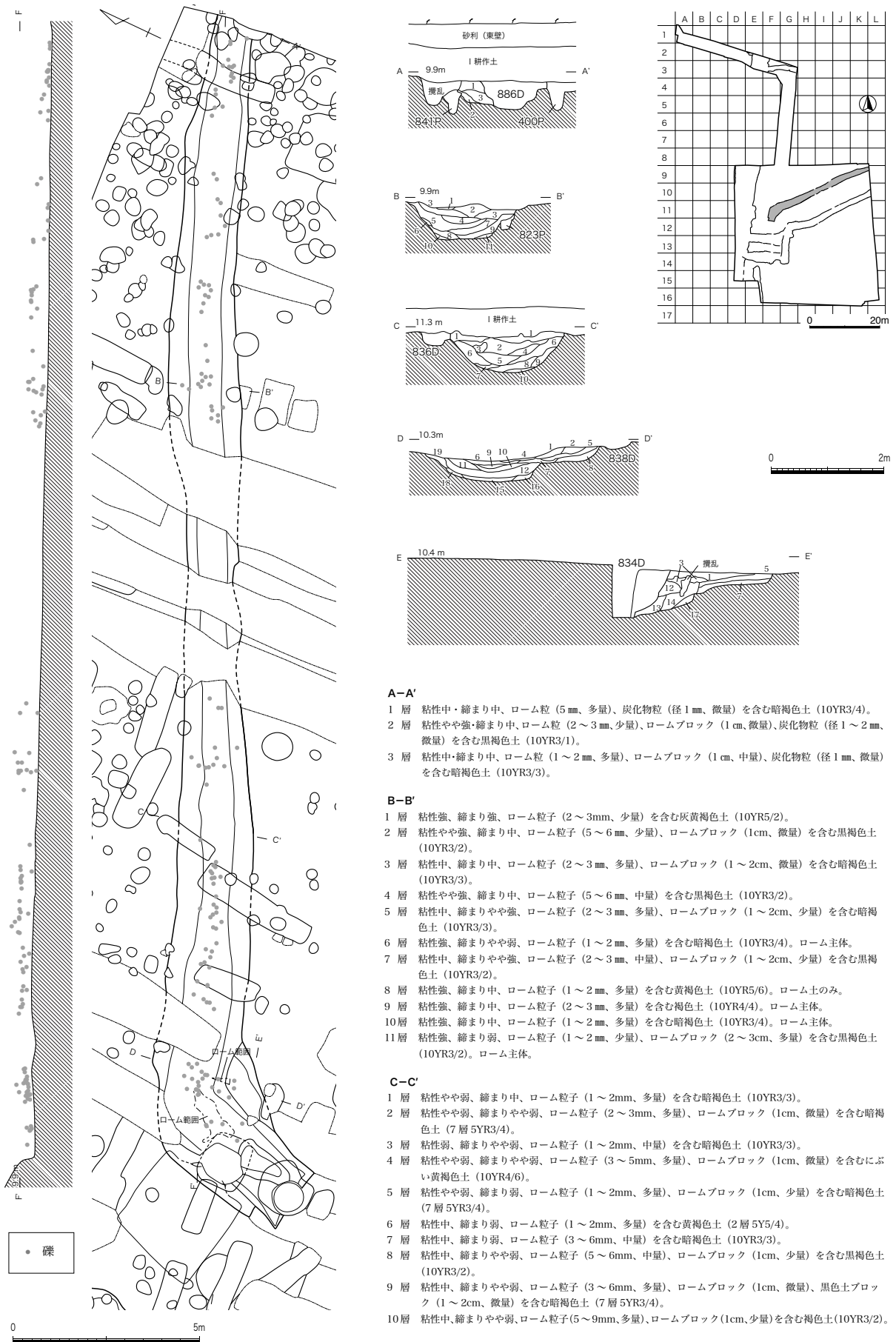
[構 造] 調査区域の北部と南部でそれぞれ検出された。中世の61・62号溝、215～256号・273号・274号ピットを切る。これらのピットは本遺構に伴う可能性がある。近世の839号・845号土坑、16・17・277・278・410号ピットに切られる。両端部・南部の西側は調査区外である。下端検出のため調査区南西端で拡張調査を行った。**平面形**：北から南に向かって直線的に延びる。北側の調査区外で西側に屈折すると推測される。**断面形**：概ね逆台形を呈する。**規模**：上幅5.04m～7.03m・下幅1.31～1.94m。**深さ**：220cm。南下するにつれ緩やかに深くなり、南側では240cm前後になる。溝底はほぼ平坦。標高は南側がやや低く、高低差は29cmを測る。**走行方位**：N-7°-E。調査区域内では36.95m。調査区外の範囲も含めると64.5mを測ると推測される。**硬化面**：硬化面が小範囲で2カ所確認された。一方の硬化面の周辺ではローム範囲も確認された。**覆土**：溝底から1m前後の高



第51図 中世遺構分布図(1/400)



第52図 近世遺構分布図（1 / 400）



第53図 58号溝跡1 (1/100・1/150)

第3章 検出された遺構と遺物

D-D'・E-E'

- | | | | |
|----|---|-----|---|
| 1層 | 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、中量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む褐灰色土(7層5YR4/1)。 | 10層 | 粘性中、締まり中、ローム粒子(3~5mm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。 |
| 2層 | 粘性中、締まり中、ローム粒子(1~2mm、少量)、ロームブロック(1cm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/1)。 | 11層 | 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。 |
| 3層 | 粘性やや強、締まりやや強、ローム粒子(2~3mm、中量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/1)。 | 12層 | 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~6mm、多量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。 |
| 4層 | 粘性やや強、締まり中、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。 | 13層 | 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(5~6mm、多量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む黄褐色土(10YR4/3)。 |
| 5層 | 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~6mm、少量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/1)。 | 14層 | 粘性やや強、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、中量)、ロームブロック(2~5cm、微量)を含む黄褐色土(10YR4/3)。 |
| 6層 | 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(1~3cm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。 | 15層 | 粘性やや強、締まりやや弱、ローム粒子(5~9mm、多量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。 |
| 7層 | 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(3~5mm、多量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。 | 16層 | 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(2~5mm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。 |
| 8層 | 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。ローム主体。 | 17層 | 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、中量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む黄褐色土(10YR4/4)。 |
| 9層 | 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(2~4cm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。ローム主体。 | 18層 | 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。 |
| | | 19層 | 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1cm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。 |

第54図 58号溝跡2

さまでは自然堆積と考えられるが、その後少なくとも1回は人為的に掘削か埋め戻しが行われた可能性がある。北半部分では、それに近い層でロームを主体とした層が確認でき、壊した土塁の構築土を埋めたものとも考えられる。

【遺物】磁器・陶器・炆器(常滑産甕)・かわらけ・板碑・礫の他、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器が出土した。

【時期】中世。

遺物(第65図、第40・44表)

染付皿口縁部(1)、青磁碗(2)、瀬戸産平碗(3・4)、かわらけ(6)、板碑の基部(7)を図示した。染付皿は明からの搬入品と考えられる。

61号溝跡

遺構(第60・62図)

【位置】D~G-13~14、G~I-12、I~K-11、K・L-10グリッド。

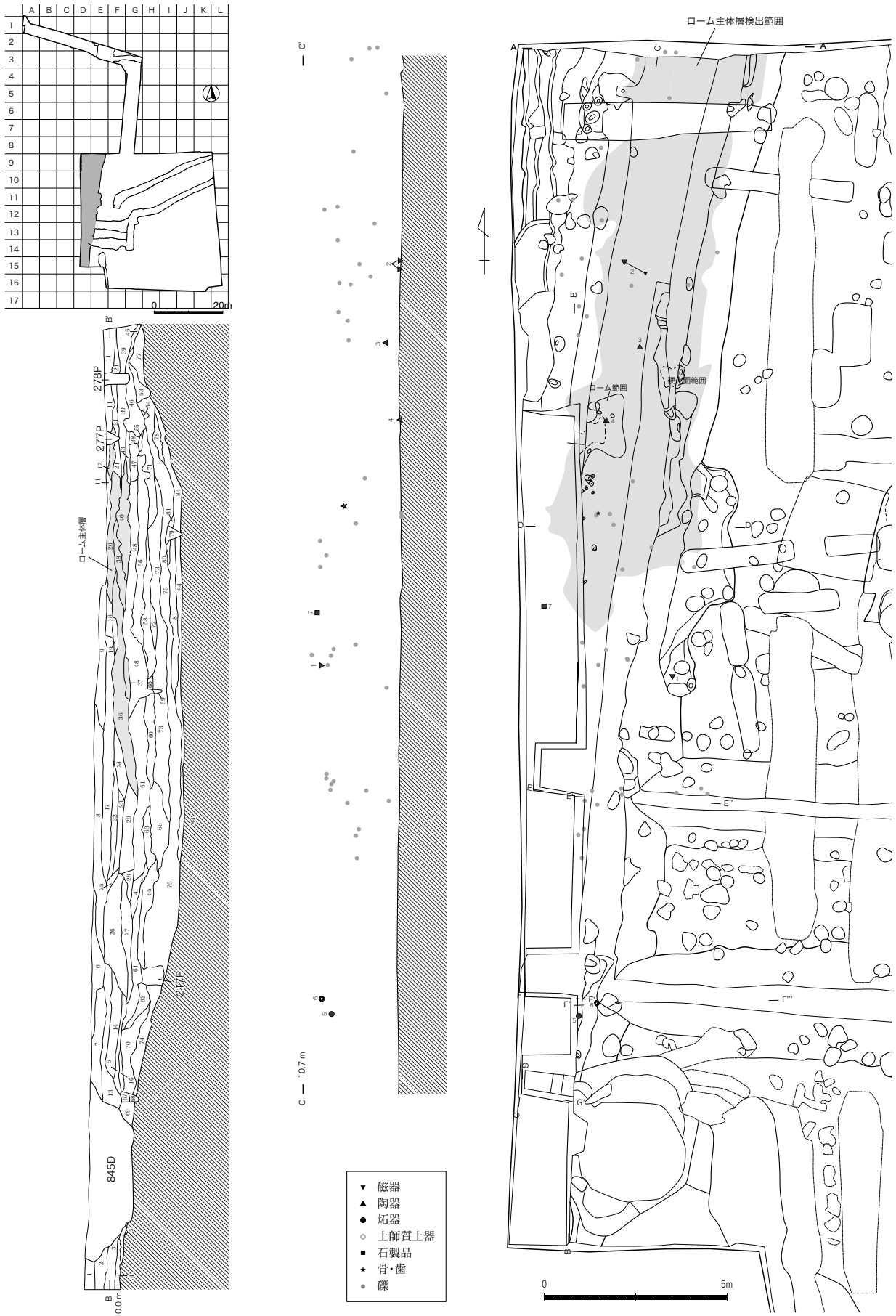
【構造】中世の62号溝跡、26~49・65・66・822・843~870号ピットを切る。このうち822号・843号~869号ピットは本遺構に伴う可能性がある。また中世の59号溝跡、近世の933・934・948号土坑、25・665・715・821号ピットに切られる。両端は調査区外である。平面形：概ね3方向に分けられる。調査区域西側からほぼ真東に延び、北方向に屈折する。10m程北上し、北東方向に屈折し、調査区外まで延びる。中世の58号溝跡とほぼ平行する。断面形：薬研形を呈する。南側では溝底が更に細く掘り込まれるが、北側では壁面の立ち上がりが緩やかになる。規模：南側に比べ北側は細くなる。上幅1.50~3.30m・下幅0.06~0.47m。深さ：東西方向の溝は113~123cm、南北方向の溝は38~100cm、北東へ延びる溝は71~93cm。溝底の標高は北側の方が低く、標高差は98cmを測る。走行方位：N-5°-E(東西方向)、N-9°-E(南北方向)、N-65°-E(北東方向)。調査区域内では46.67mを測る。硬化面：東西方向の溝の中央部分と、北東方向への屈折部分で硬化面が確認された。覆土：自然堆積。ローム粒子、ロームブロックを含む暗褐色土を基調とする。

【遺物】陶器・炆器(甕)・土師質土器・かわらけ・鉄製品・砥石・瓦・馬歯・マルタニシを主体とする貝類・礫の他、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器が出土した。

【時期】中世。

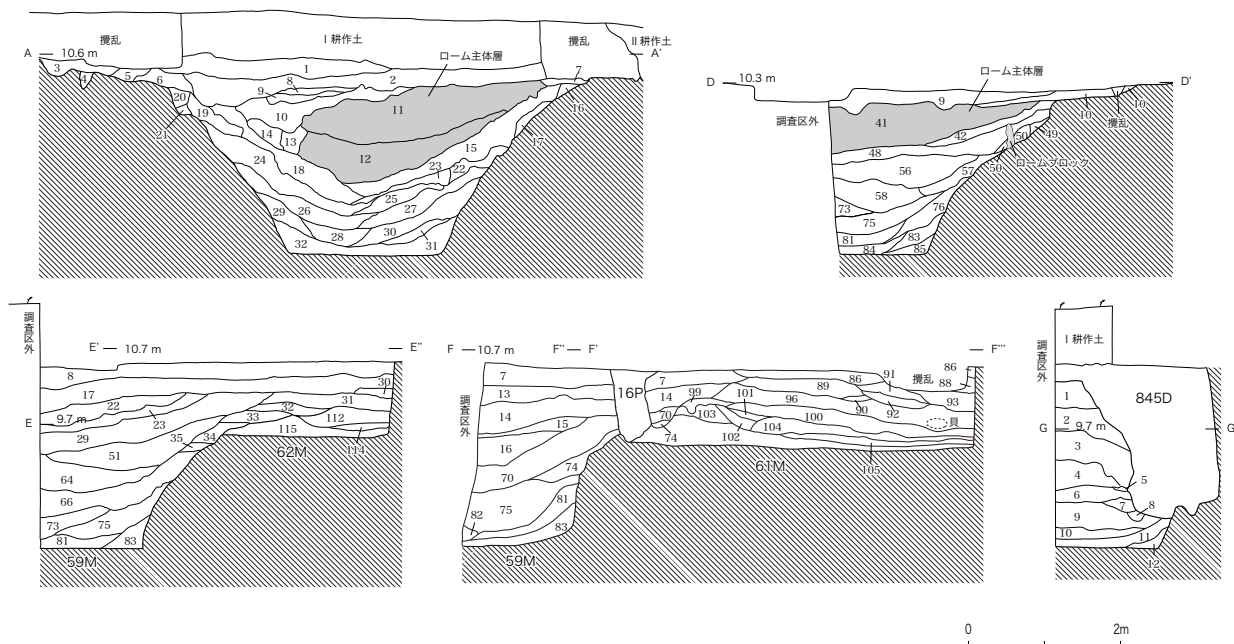
遺物(第65図、第40・42~44表)

瀬戸産花瓶胴部(1)、かわらけ底部(2)、常滑産甕胴部(3)、土師質土器(焙烙か)底部(4)、



第55図 59号溝跡南側1 (1/150)

第3章 検出された遺構と遺物



59M 南側 A-A'

- 1 層 現代の耕作土。粘性やや強、締まりやや弱、ローム粒子 (2~5mm、少量)、炭化物粒子 (2~3mm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。※現在の耕作土。
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~6mm、多量)、ロームブロック (1cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 2 層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子 (2~5mm、中量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~6mm、多量)、ロームブロック (1~5cm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 4 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、多量)、ロームブロック (1cm、中量) を含む黄褐色土 (10YR5/4)。ローム土のみ。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~3mm、微量)、ロームブロック (1cm、中量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~3mm、多量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 7 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (2~3mm、多量)、ロームブロック (1cm、少量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。
- 8 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (5~6mm、中量) を含む暗褐色土 (7層 5YR3/4)。締まり強いが、硬化面ではない。
- 9 層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (5~6mm、多量)、ロームブロック (2~3cm、中量) を含む褐色土 (10YR4/6)。締まり強いが、硬化面ではない。
- 10 層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子 (5~9mm、少量)、ロームブロック (2~3cm、微量) を含む褐色土 (10YR4/3)。
- 11 層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、多量)、ロームブロック (2~10cm、多量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。ローム土とロームブロックのみ。
- 12 層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2~3mm、多量)、ロームブロック (1~2cm、多量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。ローム土とロームブロックのみ。
- 13 層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (5~6mm、中量)、ロームブロック (1~2cm、少量) を含む褐色土 (10YR4/4)。ローム主体。
- 14 層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (2~3mm、多量)、ロームブロック (1~2cm、多量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。ローム土とロームブロックのみ。
- 15 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2~5mm、少量)、ロームブロック (1~2cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 16 層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子 (2~3mm、多量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。ローム主体。

- 17 層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、多量) を含む褐色土 (7層 5YR4/4)。
- 18 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、中量)、ロームブロック (1cm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。ローム主体。
- 19 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (2~5mm、多量)、ロームブロック (2~3cm、中量) を含む褐色土 (10YR4/4)。
- 20 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。ローム土とロームブロックのみ。
- 21 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、多量)、ロームブロック (1cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR4/6)。ローム主体。
- 22 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、多量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。ローム主体。
- 23 層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子 (5~6mm、多量) を含む黒褐色土 (10YR2/2)。
- 24 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2~5mm、多量)、ロームブロック (1cm、微量) を含む褐色土 (10YR3/4)。
- 25 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (2~5mm、多量)、ロームブロック (2~5cm、少量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。ローム主体。ロームブロックが入ってやや硬く締まるが硬化面ではない。
- 26 層 粘性やや弱、締まりやや弱、ローム粒子 (2~3mm、多量)、ロームブロック (1~2cm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。ローム主体。
- 27 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、多量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。ローム主体。
- 28 層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子 (2~3mm、多量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。ローム主体。
- 29 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2~5mm、多量)、ロームブロック (1cm、微量) を含む褐色土 (10YR4/4)。ローム主体。
- 30 層 粘性強、締まりやや強、ローム粒子 (2~5mm、多量)、ロームブロック (1cm、少量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。ローム主体。
- 31 層 粘性やや強、締まり弱、ローム粒子 (5~6mm、多量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。ローム主体。ロームは粒状のロームが堆積している。
- 32 層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、多量)、ロームブロック (1cm、少量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。ローム主体。

59M 南側 B-B'・D-D'・E-E'・F-F'・61ME-E'・62MA-A'・B-B'

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、微量)、黒褐色土粒子 (2~3mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~3mm、少量)、黒褐色土粒子 (2~3mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~3mm、中量)、ロームブロック (2~3cm、微量)、炭化物粒子 (1mm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 4 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、中量)、炭化物粒子 (1mm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 5 層 粘性強、締まり弱、ローム粒子 (2~3mm、多量)、炭化物粒子 (1mm、微量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。ローム主体。壁の崩落土。
- 6 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (2~5mm、中量)、ロームブロック (1cm、少量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。
- 7 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2~3mm、多量)、ロームブロック (3~5cm、少量) を含む黄褐色土 (10YR5/4)。ローム主体。

- 8 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~3mm、中量)、ロームブロック (1~2cm、微量)、黒褐色土粒子 (2~3mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 9 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、中量)、ロームブロック (1~2cm、少量)、黒褐色土粒子 (2~3mm、少量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。
- 10 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、多量)、ロームブロック (1~3cm、多量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。1区 59M C-C'東西土層。
- 11 層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (2~3mm、中量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 12 層 粘性やや強、締まりやや弱、ローム粒子 (5~6mm、中量)、ロームブロック (2~3cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。ローム主体。
- 13 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、中量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。
- 14 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、少量)、ロームブロック (1~3cm、微量) を含む黄褐色土 (10YR5/4)。
- 15 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (5~6mm、少量)、ロームブロック (1~3cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。

第56図 59号溝跡南側2 (1/100)

- 16層 粘性中、締まり強、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、少量)を含む黄褐色土(10YR5/6)。ローム土のみ。
- 17層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(5~6mm、中量)、炭化物粒子(1~3mm、微量)、黒褐色土粒子(2~3mm、少量)、を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 18層 粘性中、締まり強、ローム粒子(5~9mm、中量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。
- 19層 粘性強、締まり強、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(1~5cm、少量)を含む黄褐色土(10YR5/6)。ローム主体。
- 20層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、多量)を含む褐色土(10YR4/6)。ローム土のみ。
- 21層 粘性中、締まり強、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(2~5cm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。締まって硬いが、硬質面ではない。
- 22層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(5~9mm、少量)、ロームブロック(1cm、微量)、炭化物粒子(2~5mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 23層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(5~6mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 24層 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~6mm、中量)、ロームブロック(1~2cm、少量)、黒褐色土粒子(2~3mm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 25層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、微量)、を含むぶい黄褐色土(10YR4/3)。
- 26層 粘性やや弱、締まり中、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(3~10cm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 27層 粘性強、締まり中、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1cm、少量)を含むぶい黄褐色土(10YR4/3)。ローム主体。
- 28層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、中量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。
- 29層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子(5~6mm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 30層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(1~3cm、少量)を含む褐色土(10YR4/4)。59M・62M B-B'。
- 31層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。59M・62M B-B'。
- 32層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(5~6mm、中量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/1)。59M・62M B-B'。
- 33層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子(2~5mm、中量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。59M・62M B-B'(図№18)
- 34層 粘性強、締まり弱、ローム粒子(2~5mm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。59M・62M B-B'。
- 35層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、中量)、ロームブロック(1~2cm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。59M・62M B-B'。
- 36層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(1~4cm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 37層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1~3cm、微量)を含むぶい黄褐色土(10YR5/4)。ローム主体。
- 38層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1cm、中量)を含む褐色土(10YR4/4)。ローム土のみ。
- 39層 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~6mm、少量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 40層 粘性強、締まり強、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(3~10cm、多量)を含むぶい黄褐色土(10YR5/4)。ローム土のみ。
- 41層 粘性強、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(2~4cm、多量)を含む黄褐色土(10YR5/6)。ローム土とロームブロックの混合土でロームの純層で、壊した土層の構築土を埋めたものと思われる。1区59M C-C'東西土層。
- 42層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~5mm、少量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/2)。1区59M C-C'東西土層。
- 43層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(5~6mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 44層 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~9mm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 45層 粘性やや弱、締まり弱、ローム粒子(1~2mm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。
- 46層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1~3cm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 47層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 48層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、少量)、ロームブロック(1cm、微量)、黒褐色土粒子(2~5mm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/1)。ローム主体。
- 49層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、少量)を含む黄褐色土(10YR5/6)。ローム土のみ。1区59M C-C'東西土層。
- 50層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~5mm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。1区59M C-C'東西土層。
- 51層 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~6mm、微量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 52層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、中量)を含む暗褐色土(10YR4/3)。
- 53層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(5~6mm、多量)、ロームブロック(1cm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 54層 粘性やや強、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 55層 粘性中、締まり中、ローム粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 56層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~5mm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 57層 粘性強、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(2~4cm、中量)、炭化物粒子(3~4mm、微量)を含むぶい黄褐色土(10YR4/3)。ローム主体。1区59M C-C'東西土層。
- 58層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、少量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。ローム主体。壁の崩壊土。
- 59層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 60層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、中量)を含む褐色土(10YR4/4)。ローム主体。
- 61層 粘性強、締まり強、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1~4cm、中量)を含む黄褐色土(10YR5/6)。ローム土のみ。締まり強いが、ぼろぼろしている。
- 62層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、少量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 63層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子(2~5mm、中量)、ロームブロック(2~3cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。締まりやや強いが、硬質面ではない。
- 64層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、中量)、ロームブロック(2~3cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 65層 粘性強、締まり中、ローム粒子(2~5mm、中量)、ロームブロック(1~5cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 66層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、中量)、ロームブロック(2~3cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 67層 粘性やや弱、締まりやや弱、ローム粒子(5~6mm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 68層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(5~6mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 69層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。
- 70層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、中量)、ロームブロック(1cm、微量)、炭化物粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 71層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む黄褐色土(10YR5/6)。ローム主体。
- 72層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、中量)を含む褐色土(10YR4/4)。
- 73層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。ローム主体。
- 74層 粘性やや強、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含むぶい黄褐色土(10YR5/4)。ローム主体。
- 75層 粘性強、締まり中、ローム粒子(2~5mm、多量)、ロームブロック(1~3cm、少量)を含む黄褐色土(10YR5/6)。ローム土のみ。
- 76層 粘性強、締まり弱、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含むぶい黄褐色土(10YR5/4)。ローム土のみ。1区59M C-C'東西土層。
- 77層 粘性やや強、締まりやや弱、ローム粒子(2~5mm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 78層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。
- 79層 粘性やや強、締まり弱、ローム粒子(2~5mm、中量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/4)。
- 80層 粘性やや強、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。
- 81層 粘性強、締まり中、ローム粒子(1~2mm、多量)を含む褐色土(10YR4/4)。ローム土。
- 82層 粘性強、締まり弱、ローム粒子(2~5mm、多量)を含む褐色土(10YR4/4)。ローム主体。
- 83層 粘性強、締まり弱、ローム粒子(2~3mm、多量)を含む褐色土(10YR4/4)。ローム主体。1区59M C-C'東西土層。
- 84層 粘性強、締まり弱、ローム粒子(1~2mm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。ローム主体。
- 85層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。1区59M C-C'東西土層。
- 86層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(3~5cm、中量)を含む褐色土(10YR3/4)。59M・61M A-A'。
- 87層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子(2~3mm、少量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。61M A-A'。
- 88層 粘性やや弱、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む褐色土(10YR4/6)。ローム主体。59M・61M A-A'。
- 89層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(1~2mm、中量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。59M・61M A-A'。
- 90層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子(1~2mm、中量)、ロームブロック(2~5cm、少量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。59M・61M A-A'。
- 91層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子(2~3mm、中量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む褐色土(10YR3/4)。59M・61M A-A'。
- 92層 粘性中、締まり中、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(2~3cm、少量)を含む褐色土(10YR4/4)。59M・61M A-A'。
- 93層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(1~5cm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。59M・61M A-A'。
- 94層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、少量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。61M A-A'。
- 95層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、少量)、ロームブロック(1~2cm、少量)を含む黄褐色土(10YR5/6)。61M A-A'。
- 96層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。土層中位付近からマルタニシの殻が集中して出土。明確な掘り込みは認められないため、埋没時又は埋め戻し時に一括して廃棄又は埋置されたものである。59M・61M A-A'。
- 97層 粘性中、締まり中、ローム粒子(3~5mm、中量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/2)。61M A-A'。
- 98層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む褐色土(10YR4/4)。61M A-A'。
- 99層 粘性中、締まり中、ローム粒子(3~5mm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。59M・61M A-A'。
- 100層 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~6mm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。59M・61M A-A'。
- 101層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。59M・61M A-A'。
- 102層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。59M・61M A-A'。
- 103層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~3mm、多量)を含む褐色土(10YR4/4)。59M・61M A-A'。
- 104層 粘性やや強、締まりやや弱、ローム粒子(1~2mm、多量)、ロームブロック(2~3cm、微量)を含む黄褐色土(10YR5/6)。ローム主体。59M・61M A-A'。
- 105層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。59M・61M A-A'。
- 106層 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~6mm、中量)、ロームブロック(1~2cm、微量)を含む黒褐色土(7層5YR3/2)。1区62M B-B'。
- 107層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、多量)を含む褐色土(10YR3/1)。1区62M B-B'。
- 108層 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~6mm、中量)、ロームブロック(2~3cm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。1区62M B-B'。
- 109層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(2~3mm、少量)、ロームブロック(1cm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。1区62M A-A'。
- 110層 粘性やや弱、締まりやや弱、ローム粒子(2~3mm、多量)を含むぶい黄褐色土(10YR4/3)。

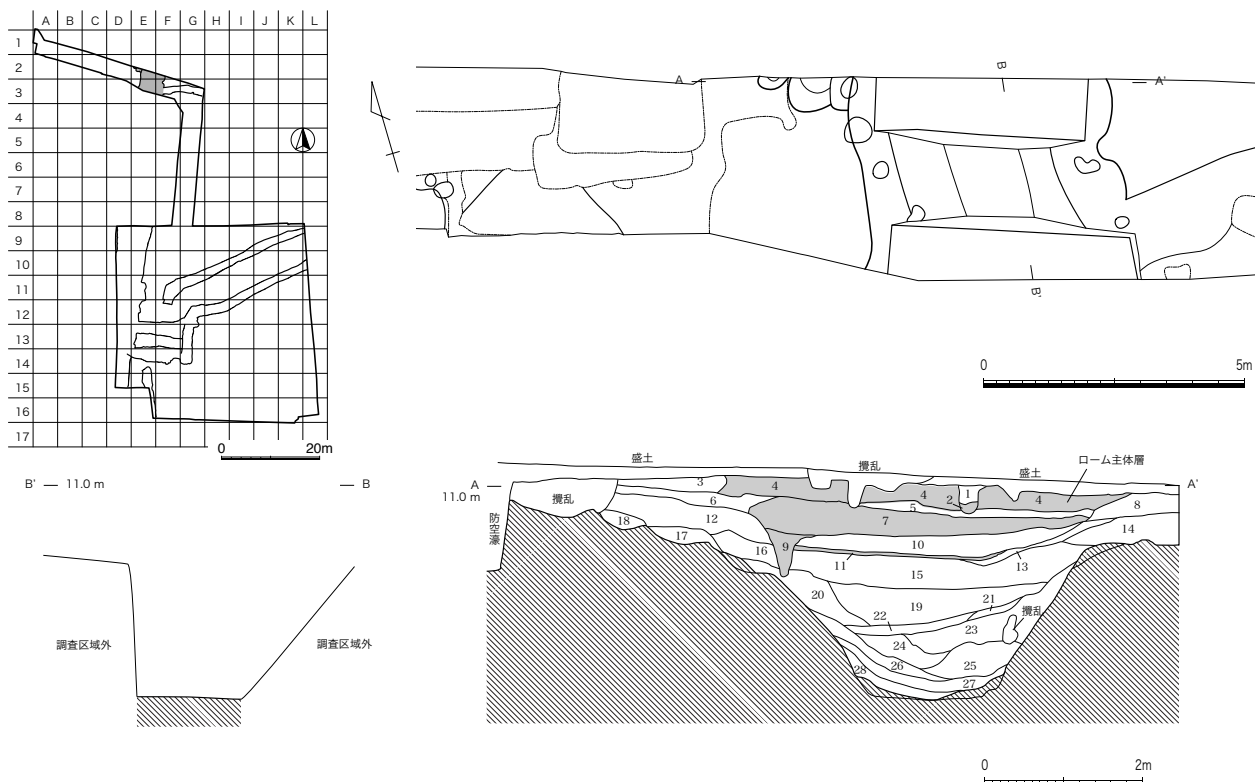
第57図 59号溝跡南側3

第3章 検出された遺構と遺物

59MG-G'

- 1層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (5~6mm、中量)、ロームブロック (1~2cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。59M 南北土層の13層に相当する。
- 2層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、多量)、ロームブロック (1cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。59M 南北土層の15層に相当する。
- 3層 粘性強、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、多量)、ロームブロック (1~3cm、中量) を含む褐色土 (10YR4/4)。ローム主体。59M 南北土層の16層に相当する。
- 4層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、多量)、ロームブロック (1~3cm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。59M 南北土層の66層に相当する。
- 5層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2~3mm、多量) を含む褐色土 (10YR4/6)。
- 6層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、微量) を含む黒褐色土 (10YR3/1)。
- 7層 粘性強、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、多量) を含む褐色土 (10YR4/4)。ローム主体。
- 8層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、中量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。ローム主体。
- 9層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (2~3mm、多量) を含む褐色土 (10YR4/4)。ローム主体。59M 南北土層の75層に相当する。
- 10層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (2~3mm、多量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。ローム主体。59M 南北土層の81層に相当する。
- 11層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、多量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。59M 南北土層の84層に相当する。
- 12層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、少量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。

第58図 59号溝跡南側4



59M 北側 A-A'

- 1層 粘性強、締まり強、ローム粒子 (5~6mm、多量)、ロームブロック (1~2cm、少量) を含む褐色土 (10YR4/4)。近・現代の掘り込み。
- 2層 粘性強、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、少量)、ロームブロック (2~3cm、多量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。近・現代の掘り込み。
- 3層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2~3mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 4層 粘性強、締まり強、ローム粒子 (2~5mm、多量)、ロームブロック (1~2cm、多量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。ローム土で埋め戻している。
- 5層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、中量)、ロームブロック (1~3cm、中量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。
- 6層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 7層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、中量)、ロームブロック (2~5cm、多量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。ローム土のみ。
- 8層 粘性中・締まり中、ローム粒 (5~6mm、中量)、ロームブロック (1~2cm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。近世以降の整地・耕作土層。
- 9層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (2~3mm、少量)、ロームブロック (2~3cm、多量) を含む褐色土 (10YR4/6)。ロームブロックを主体とするローム土で埋め戻している。
- 10層 粘性中・締まり強、ローム粒 (2~5mm、中量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 11層 粘性強・締まり強、ローム粒 (2~5mm、多量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。
- 12層 粘性中・締まり弱、ローム粒 (1~2mm、微量)、ロームブロック (1~2cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 13層 粘性中・締まり強、ローム粒 (2~5mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 14層 粘性中・締まりやや弱、ローム粒 (5~6mm、中量)、ロームブロック (1~2cm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。近世以降の整地・耕作土層。

- 15層 粘性中・締まり中、ローム粒 (2~5mm、中量)、ロームブロック (1~2cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 16層 粘性やや強・締まり弱、ローム粒 (2~3mm、中量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 17層 粘性中・締まりやや弱、ローム粒 (1~2mm、多量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。
- 18層 粘性やや強・締まり弱、ローム粒 (2~5mm、多量)、ロームブロック (1~2cm、少量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。
- 19層 粘性やや強・締まり中、ローム粒 (5~6mm、中量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 20層 粘性中・締まり中、ローム粒 (1~2mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 21層 粘性中・締まりやや弱、ローム粒 (1~2mm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 22層 粘性中・締まり中、ローム粒 (1~2mm、少量)、炭化物粒子 (1mm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 23層 粘性強・締まり弱、ローム粒 (2~3mm、多量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。ローム土のみ。
- 24層 粘性中・締まりやや弱、ローム粒 (2~5mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 25層 粘性強・締まりやや弱、ローム粒 (1~2mm、多量)、ロームブロック (1cm、少量) を含む黄褐色土 (10YR5/4)。ローム土のみ。
- 26層 粘性強・締まりやや弱、ローム粒 (2~5mm、多量) を含む褐色土 (10YR4/6)。ローム土のみ。
- 27層 粘性強・締まりやや弱、ローム粒 (2~5mm、多量)、炭化物粒子 (2~3mm、微量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。ローム主体。
- 28層 粘性中・締まり中、ローム粒 (2~3mm、少量)、ロームブロック (1cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 29層 粘性強・締まり中、ローム粒 (1~2mm、多量) を含む暗褐色土 (10YR4/6)。ローム土のみ。

第59図 59号溝跡北側 (1/100・1/150)

土師質瓦（5）、須恵質瓦（6）、凝灰岩製・砂岩製砥石（7・8）、鉄製釘（9）を図示した。

62号溝跡

遺 構（第61・62図）

〔位 置〕 E～G-12・13グリッド。

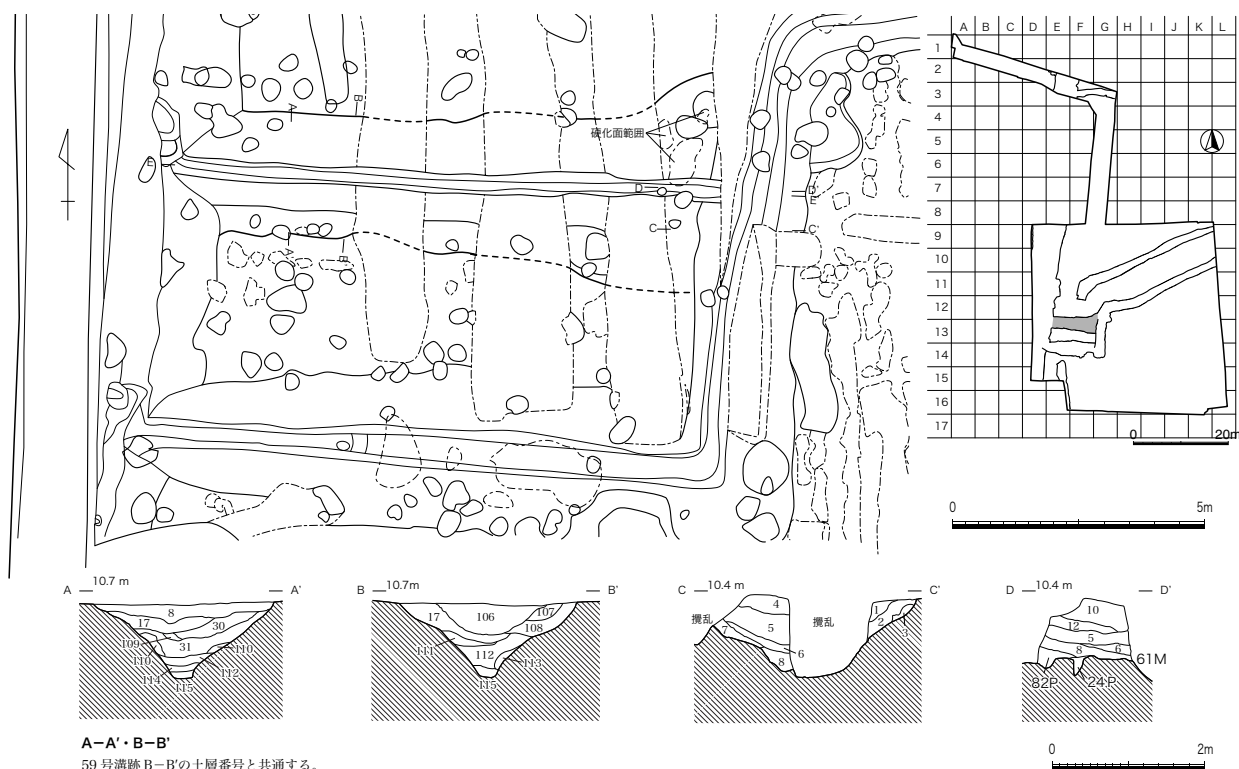
〔構 造〕 中世の51～57・59～61・63・64・70～81・95・269・270号ピットを切る。両端を中世の59・61号溝跡、近世の22号ピットに切られる。中世の24・58・82号ピットとともに重複するが新旧関係は不明である。平面形：東西方向に直線的に延びる。断面形：葉研形を呈する。溝底が更に細く掘り込まれる。規模：上幅2.43～2.78m・下幅0.20m。深さ：79～100cm。走行方位：N-93°-E。残存部で11.0mを測る。硬化面：確認できなかった。覆土：自然堆積。ローム粒子、ロームブロックを含む黒褐色土を基調とする。

〔遺 物〕 炆器（甕）・かわらけ・鉄滓・礫の他、縄文土器・土師器・須恵器が出土した。

〔時 期〕 中世。

遺 物（第65図、第40表）

常滑産甕胴部（1）・かわらけ底部（2）を図示した。



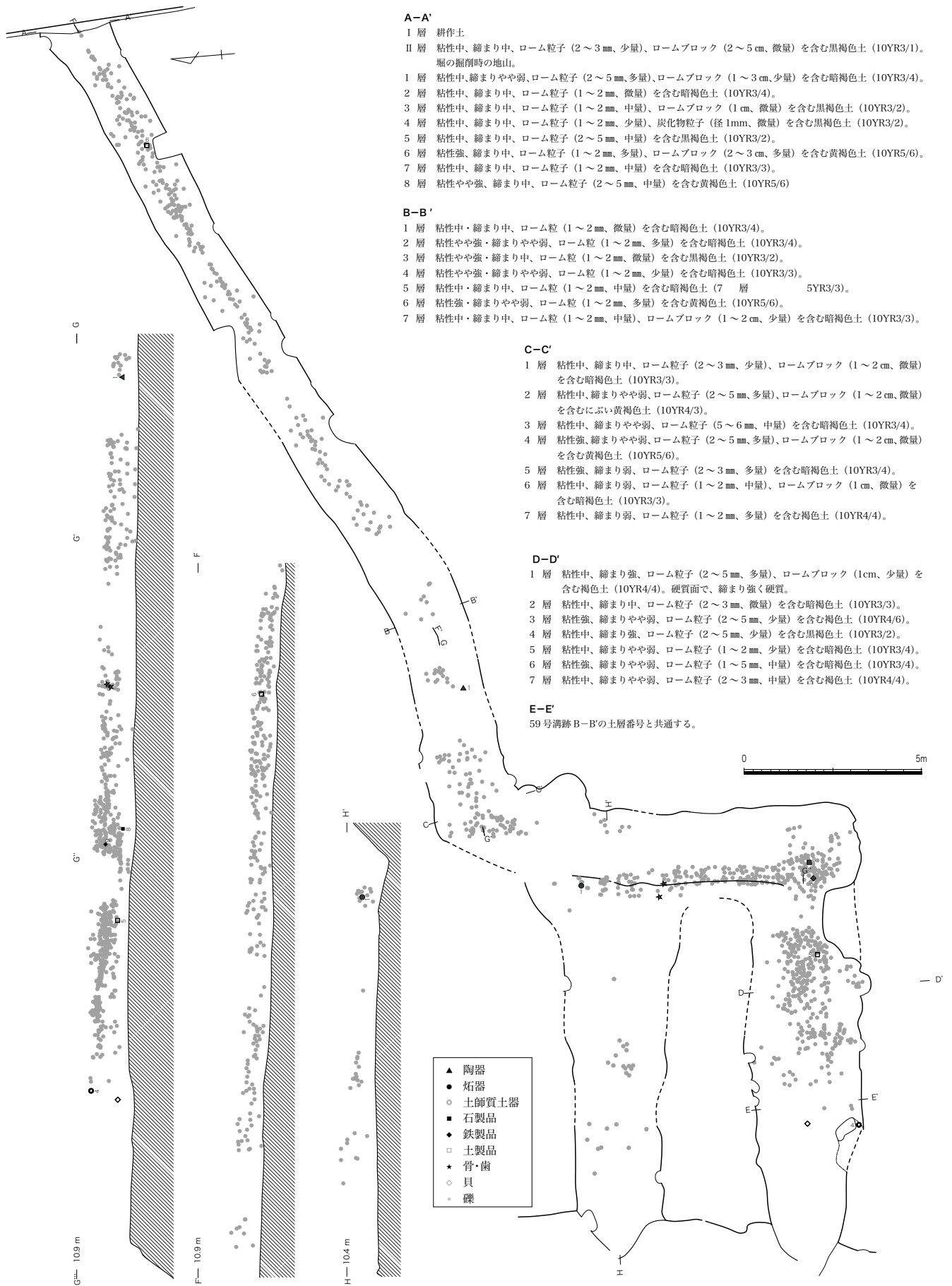
A-A'・B-B'

59号溝跡B-B'の土層番号と共通する。

C-C'・D-D'・E-E'

- 1層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子（2～3mm、微量）を含む黒色土（10YR2/1）。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2～5mm、多量）を含む黒褐色土（10YR3/1）。ローム主体。
- 3層 粘性強、締まり強、ローム粒子（1～2mm、少量）、ロームブロック（1～2cm、少量）を含む黄褐色土（10YR5/6）。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子（5～6mm、少量）、ロームブロック（1cm、微量）を含む黄褐色土（10YR4/3）。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2～3mm、微量）、ロームブロック（1cm、微量）を含む黒褐色土（10YR2/2）。
- 6層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（2～3mm、微量）を含む黒褐色土（10YR3/2）。
- 7層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子（1～2mm、多量）、ロームブロック（2～3cm、少量）を含む黒褐色土（10YR3/2）。ローム主体。
- 8層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2～3mm、多量）、ロームブロック（1～5cm、微量）を含む暗褐色土（7層5YR3/4）。黒色土とローム土の混合土。
- 9層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1～2mm、中量）、ロームブロック（2～5cm、多量）を含む暗褐色土（10YR3/4）。
- 10層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2～5mm、多量）を含む黄褐色土（10YR4/3）。
- 11層 粘性中、締まり中、ローム粒子（5～6mm、多量）、ロームブロック（1～2cm、微量）を含む暗褐色土（10YR3/3）。
- 12層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2～3mm、微量）、ロームブロック（2～3cm、中量）を含む暗褐色土（10YR3/4）。
- 13層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（2～3mm、中量）、ロームブロック（3～5cm、微量）を含む褐色土（10YR4/4）。※62M E-E'の82P-1層の覆土。
- 14層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（2～3mm、少量）を含む暗褐色土（10YR3/3）。※62M E-E'の24P-1層の覆土。

第61図 62号溝跡（1/100・1/150）



第62図 61号・62号溝跡出土遺物分布図 (1 / 150)

60号溝跡

遺 構 (第63図)

[位 置] E-14～16グリッド。

[構 造] 根切り溝と境界溝を兼ねて地主が掘ったもので、南側は調査区外である。平面形：北から南に向かってほぼ直線的に延びる。断面形：不整形で凹凸が著しい。規模：上幅 1.98～1.48m・下幅 0.77m。深さ：23～58cm。走行方位：N-6°-W。調査区域内では 10.45m を測る。硬化面：確認できなかった。覆土：ローム粒子、ロームブロックを含む暗褐色土を基調とする。

[遺 物] 焙烙・鉄製品の他、縄文土器が出土した。

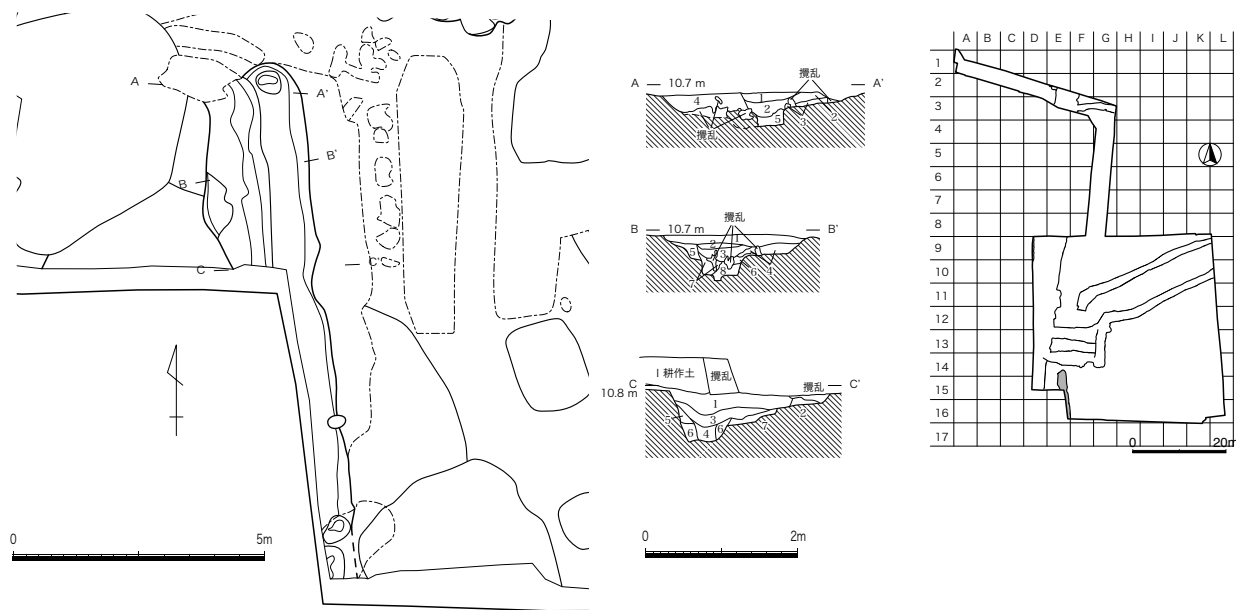
[時 期] 近代以降。

63号溝跡

遺 構 (第64図)

[位 置] F・G-3グリッド。

[構 造] 中世の 59号溝跡、近世の 936号ピットを切る。両端は調査区外である。平面形：東西方向にほぼ直線的に延びる。断面形：概ね逆台形を呈する。規模：上幅 1.09～1.57m・下幅 1.02～0.35m。深さ：22～36cm。溝底が中央部で大きく隆起するが、形状は平坦である。走行方位：N-1°-E。調査区域内では 8.21m を測る。硬化面：確認できなかった。覆土：ローム粒子、ロームブロックを含む



A-A'

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～3mm、多量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (3～8mm、多量)、ロームブロック (1cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 3 層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子 (3～8mm、多量)、ロームブロック (2～3cm、中量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (3～5mm、多量)、ロームブロック (1cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 5 層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子 (2～5mm、多量)、ロームブロック (1～2cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。

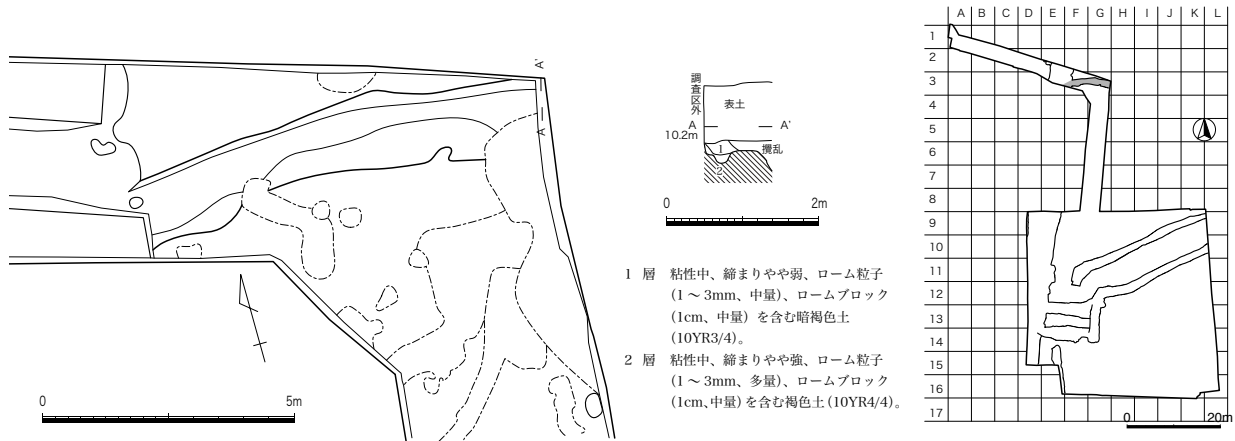
B-B'

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5～6mm、少量)、ロームブロック (1～3cm、微量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5～9mm、多量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 3 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (3～8mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 4 層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子 (3～8mm、多量)、ロームブロック (2～3cm、中量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- ※A-A'の3層と同じ層
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～5mm、多量)、ロームブロック (1～4cm、中量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 6 層 粘性やや強、締まりやや弱、ローム粒子 (1～2mm、多量)、ロームブロック (1～2cm、中量) を含む褐色土 (10YR4/6)。
- 7 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～3mm、中量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。
- 8 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2～5mm、多量)、ロームブロック (1～3cm、少量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。

C-C'

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5～6mm、少量)、ロームブロック (1cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 2 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1～2mm、中量)、ロームブロック (2～3cm、少量) を含む褐色土 (10YR4/6)。ローム主体。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (3～8mm、多量)、ロームブロック (1cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。※A-A'の2層と同じ層。
- 4 層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子 (2～5mm、多量)、ロームブロック (1～2cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 5 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2～5mm、中量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。
- 6 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (3～8mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 7 層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子 (3～8mm、多量)、ロームブロック (2～3cm、中量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。※A-A'の3層と同じ層。

第63図 60号溝跡 (1/100・1/150)



第64図 63号溝跡 (1 / 100・1 / 150)

む暗褐色～褐色土を基調とする。

[遺物] 磁器・鉄製品・炆器（播鉢）の他、縄文土器・弥生土器・土師器が出土した。

[時期] 近代以降。

(3) 井戸跡

41号井戸跡

遺構 (第66図)

[位置] F-11・12 グリッド。

[構造] 中世の58号溝跡を切る。事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から2.4m下までにとどめた。平面形：不整楕円形。断面形：上部は下部に比べ不整形に外に張り出すが、深さ50cm以下は径0.9mの円形に推移し、ほぼ垂直に垂下する。壁面では足掛け穴と思われる小横穴が6カ所検出された。規模：開口部径1.48～1.32m・下幅0.95m。深さ：未掘のため不明。覆土：ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土。上層でローム土とロームブロックの混合土が確認され、人為的埋め戻しの土層と考えられる。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

42号井戸跡

遺構 (第66図)

[位置] I-13・14 グリッド。

[構造] 事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から1.3m下までにとどめた。平面形：円形。断面形：ほぼ垂直に垂下する。規模：開口部径0.73m・下幅0.77m。深さ：未掘のため不明。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

43号井戸跡

遺構 (第66図)

[位置] I-13・14 グリッド。

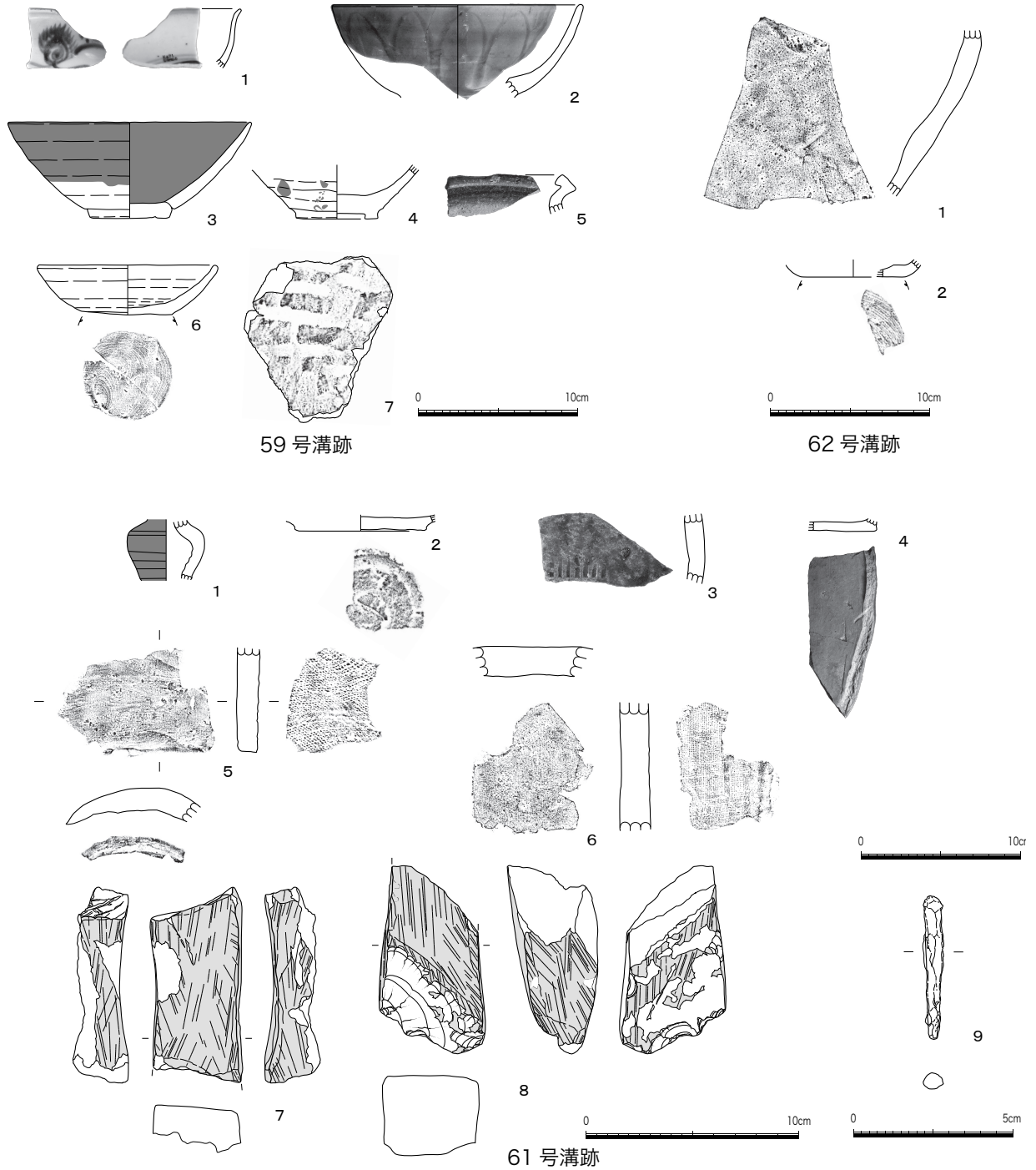
[構造] 上部の西側半分は攪乱に壊される。事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から2m下までにとどめた。平面形：円形。断面形：漏斗状。規模：開口部径1.82m・下幅0.9m。深さ：未掘のため不明。覆土：ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土。上層に1～3cmの礫が帯状に分布。

[遺物] 板碑片が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第67図、第44表)

板碑片(1～4)である。判読できた文字はいずれもキリクであった。



第65図 溝跡出土遺物 (1/2・1/3・1/4)

44号井戸跡

遺構 (第66図)

[位置] H-13・14 グリッド。

[構造] 上部の東側半分は攪乱に壊される。事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から 1.6m 下までにとどめた。壁面では足掛け穴と思われる小横穴が 1 カ所検出された。平面形：円形。断面形：漏斗状。規模：開口部径 1.02m・下幅 0.83m。深さ：未掘のため不明。覆土：ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土。確認面から 0.9m 下にマルタニシを主体とする貝の堆積がみられ、厚さは 60 cm を測る。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

45号井戸跡

遺構 (第66図)

[位置] I・J-13・14 グリッド。

[構造] 中世の 587 号ピットを切る。事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から 1.3m 下までにとどめた。平面形：円形。断面形：ほぼ垂直に垂下する。壁面では足掛け穴と思われる小横穴が 5 カ所検出された。規模：開口部径 0.82m・下幅 0.78m。深さ：未掘のため不明。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

46号井戸跡

遺構 (第66図)

[位置] K-14・15 グリッド。

[構造] 事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から 1.2m 下までにとどめた。平面形：楕円形。断面形：開口部付近のみ緩やかに広がり、下部はほぼ垂直に垂下する。壁面では足掛け穴と思われる小横穴が 6 カ所検出された。規模：開口部径 0.83～0.72m・下幅 0.74m。深さ：未掘のため不明。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

47号井戸跡

遺構 (第66図)

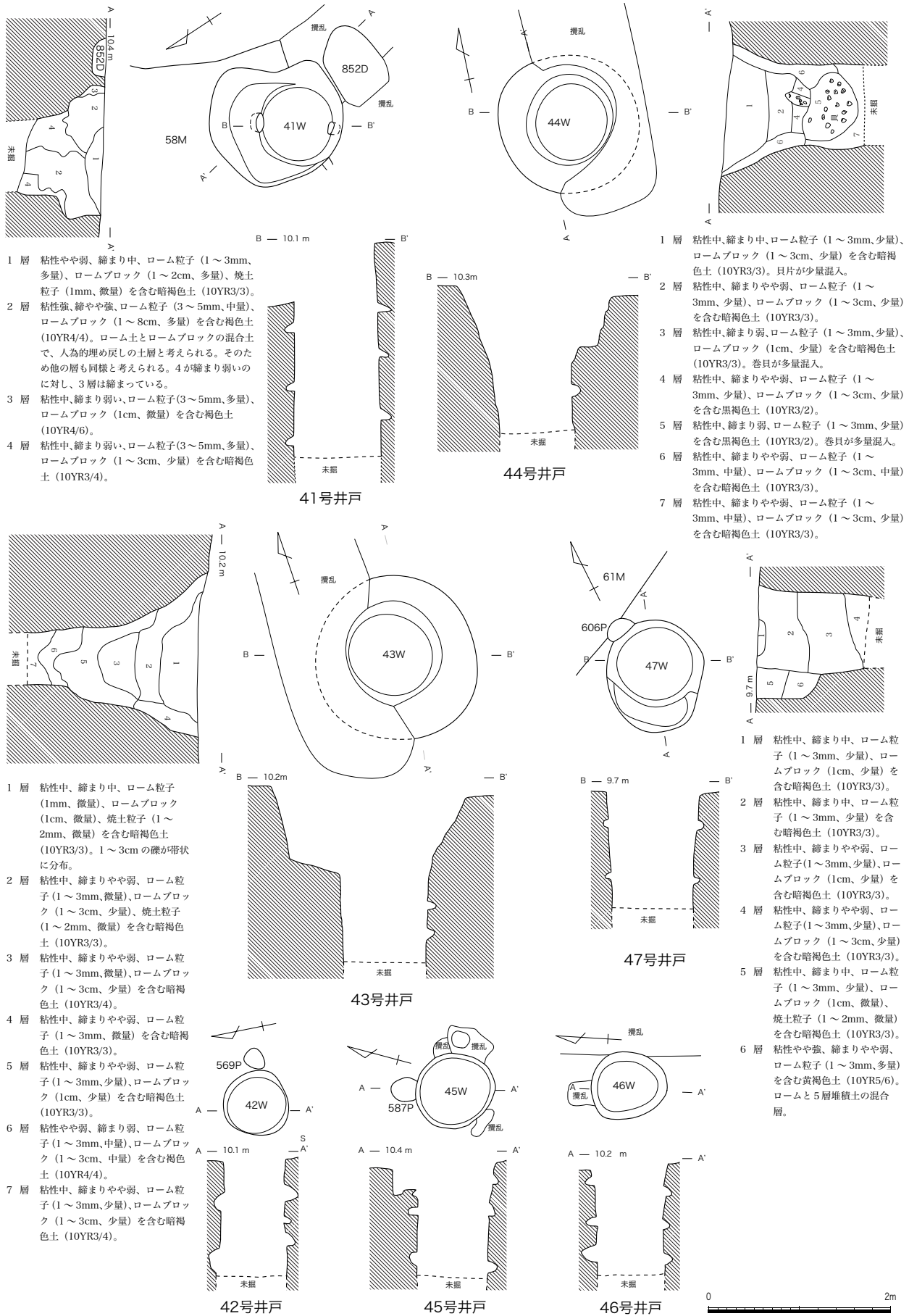
[位置] J-11 グリッド。

[構造] 中世から近世の 606 号ピットを切る。事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から 1.3m 下までにとどめた。平面形：楕円形。断面形：南側深さ 0.7m 前後に幅 0.3m 程の段が形成される。下部はほぼ垂直に垂下する。壁面では足掛け穴と思われる小横穴が 4 カ所検出された。規模：開口部径 1.22～1.05m・下幅 0.86m。深さ：未掘のため不明。覆土：ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土。

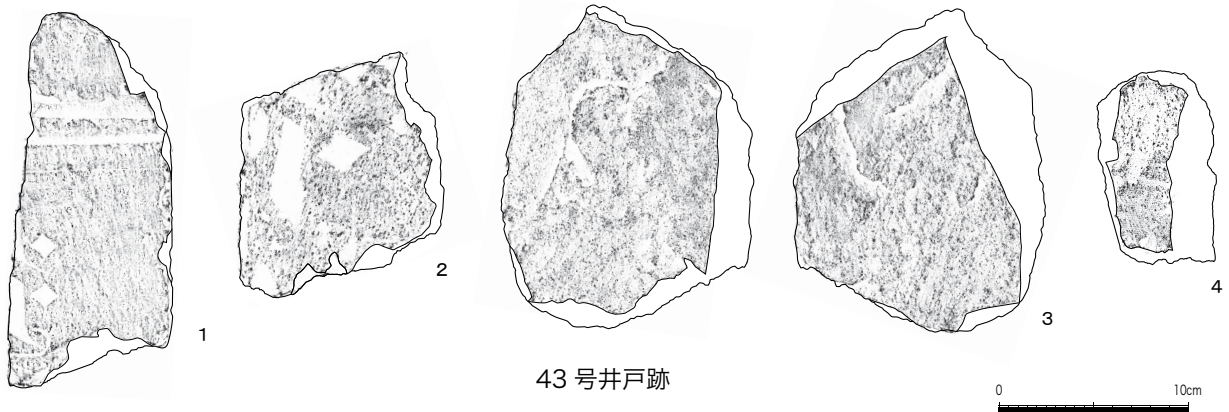
[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

第3章 検出された遺構と遺物



第66図 井戸跡 (1/60)



43号井戸跡
第67図 井戸跡出土遺物（1／4）

(4) 土坑

中世以降の土坑は、時期を確定し得る遺物の出土が少ないため、帰属時期の認定は覆土の特徴に拠るところが大きい。ここでは形態による分類を行い、そのグループごとに報告する。分類については、本遺跡第42地点の調査報告書（尾形・深井編 2005）に準拠する。以下、分類項目と該当遺構を示す。

A群 平面方形の土坑

- 1類 袋状の構造を呈する（本調査地点では該当遺構無し）
- 2類 袋状ではなく、単純構造を呈する

B群 平面長方形の土坑

- 1類 溝状の土坑（本調査地点では該当遺構無し）
- 2類 幅狭の長方形土坑
- 3類 幅広の長方形土坑

C群 平面円形・楕円形の土坑

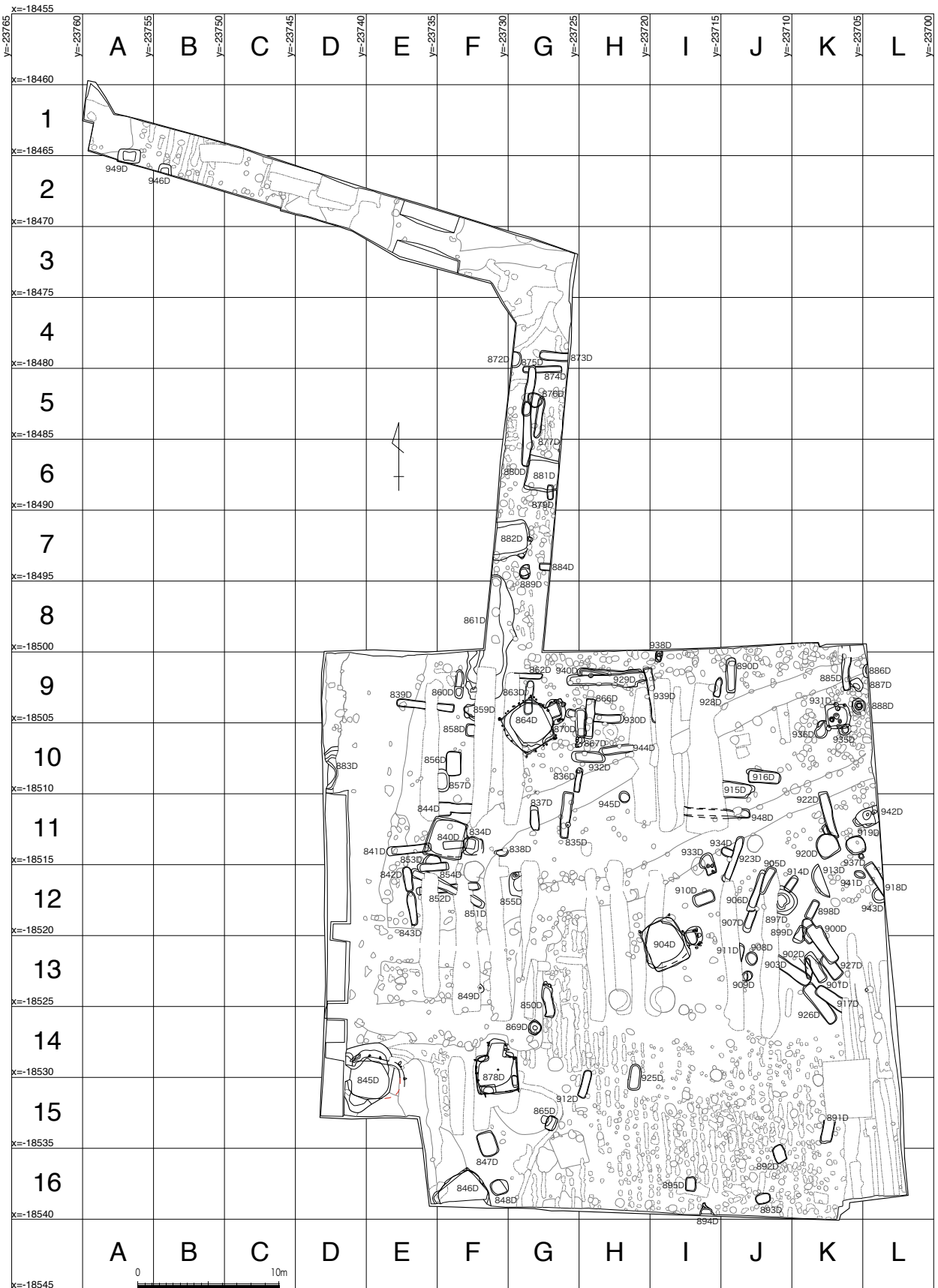
D群 不整形の土坑

E群 地下室・地下坑

- 1類 1 豎坑1 主体部タイプ
- 2類 1 豎坑複数主体部タイプ（本調査地点では該当遺構無し）

分類	形状	数量	該当土坑番号
A群1類	平面方形	袋状	0
A群2類		単純構造	2 881・882
B群1類	平面長方形	溝状	0
B群2類		幅狭長方形	56 835・836・837・839・840・841・842・843・844・850・851・852・854・860・862・863・866・870・873・874・875・877・879・880・884・885・890・891・898・900・901・902・903・905・906・907・911・912・914・915・916・917・918・921・922・923・926・928・929・930・932・934・939・940・944・948
B群3類		幅広長方形	12 847・856・858・892・893・895・899・910・925・927・946・949
C群	平面円形・楕円形	14	838・848・853・855・857・872・876・888・897・908・909・941・943・945
D群	不整形	19	849・859・861・865・867・869・883・886・887・889・894・913・931・933・935・936・937・938・942
E群1類	地下室・地下坑	単一主体部	6 834・845・846・864・878・904
E群2類		複数主体部	0
計			109

第33表 土坑集計表



第 68 図 中世以降土坑全体図 (1 / 400)

A群 方形の土坑

2類 単純構造

881号土坑

遺構 (第69図)

[位置] G-6 グリッド。

[構造] 近世の348号・349号・350号ピットを切り、近世の879号・880号土坑に切られる。348号・349号・350号ピットは当遺構に伴う掘り込みの可能性がある。東側は調査区外である。壁面が一部ハングする。882号土坑と形状が類似。地下室作成時に放棄したか。平面方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：不明×2.34m。深さ：62cm。長軸方位：N-80°-W。覆土：3層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器・土師器・須恵器が出土したのみである。

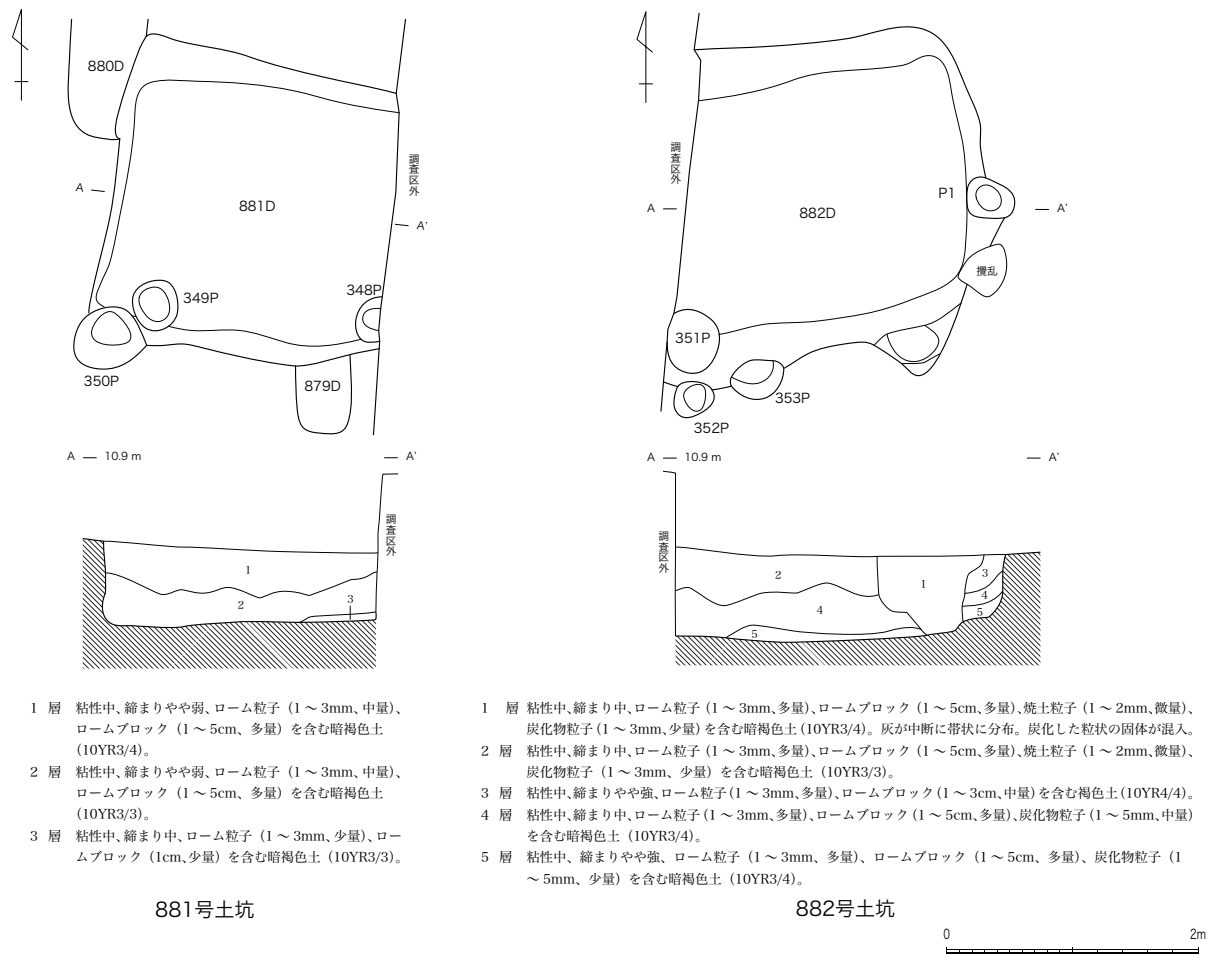
[時期] 近世。

882号土坑

遺構 (第69図)

[位置] F・G-7 グリッド。

[構造] 近世の351号・352号・353号ピットを切る。西側は調査区外である。352号・353号ピット



第69図 土坑A群2類 (1 / 60)

トは当遺構に伴う掘り込みの可能性はある。壁面が一部ハングする。881号土坑と形状が類似。地下室作成時に放棄したか。平面不整形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：不明×2.41m。深さ：73cm。長軸方位：N-84°-E。覆土：5層に分層。ローム・炭化物を含む暗褐色土を基調とする。上層は焼土を含む。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

B群 長方形の土坑

2類 幅狭長方形土坑

835号土坑

遺構 (第70図)

[位置] G-11 グリッド。

[構造] 中世の58号溝跡、近世の12号ピット、中世の13号・109号ピットを切る。東側に37×33cm、深さ21cmの円形のピットを検出。平面長方形、断面概ね逆台形。規模：3.28×0.57m。深さ：10cm。長軸方位：N-6°-E。覆土：単層。ローム含む暗褐色土である。

[遺物] 弥生土器が出土したのみである。

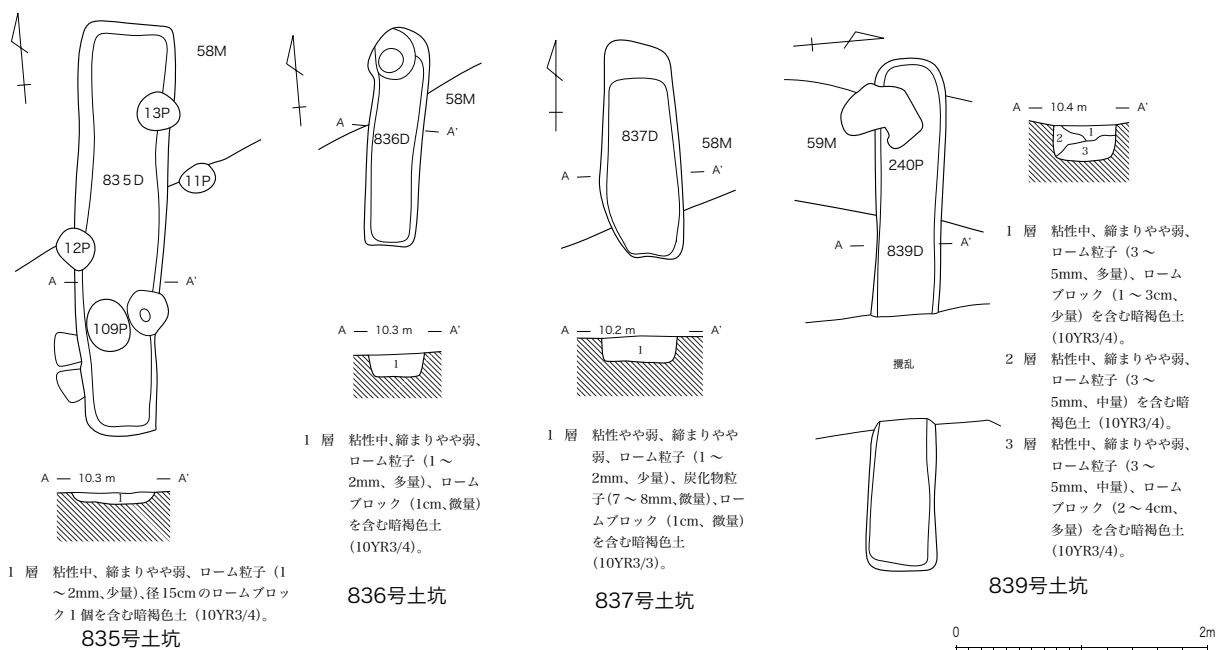
[時期] 近世。

836号土坑

遺構 (第70図)

[位置] G・H-10・11 グリッド。

[構造] 中世の58号溝跡を切る。北側に41×32cm、深さ42cmの円形のピットを検出。平面不整形長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：1.74×0.43m。深さ：37cm。長軸方位：N-9°-E。覆土：



第70図 土坑B群2類1 (1/60)

単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 磁器・金属製品が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第40・43表)

磁器口縁部(1)・煙管は真鍮製で雁首(2)である。

837号土坑

遺構 (第70図)

[位置] G-11 グリッド。

[構造] 平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：1.73×0.43m。深さ：20 cm。長軸方位：N-5°-W。覆土：単層。ローム・炭化物を含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器・弥生土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

839号土坑

遺構 (第70図)

[位置] E・F-9 グリッド。

[構造] 中世の59号溝跡、240号ピットを切る。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：4.07×0.53m。深さ：35 cm。長軸方位：N-83°-W。覆土：3層に分層。ローム含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 磁器が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第40表)

磁器口縁部(1)である。

840号土坑

遺構 (第71図)

[位置] F-11 グリッド。

[構造] 近世の地下室834号土坑と重複するが、新旧関係は不明。平面長方形、断面不明。規模：1.49×0.5m。深さ：不明。長軸方位：N-85°-E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった

[時期] 近世。

841号土坑

遺構 (第71図)

[位置] E-11 グリッド。

[構造] 中世の59号溝跡、122号ピット、近世の154号・155号ピットを切る。近世の地下室834号土坑と重複するが、新旧関係は不明。154号・155号ピットは当遺構に伴う掘り込みの可能性

がある。平面不整長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：3.14×0.56m。深さ：45 cm。長軸方位：N－83°－E。覆土：2層に分層。ロームを含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 中世のかわらけ・縄文土器・土師器・須恵器が出土したのみである。

[時期] 近世。

842号土坑

遺構 (第71図)

[位置] E-12 グリッド。

[構造] 近世の843号土坑を切る。平面不整長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：1.77×0.57m。深さ：22 cm。長軸方位：N－10°－W。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

843号土坑

遺構 (第71図)

[位置] E-12 グリッド。

[構造] 中世の100号・101号・119号ピットを切り、近世の842号土坑に切られる。平面不整長方形、断面概ね箱形。規模：2.43×0.52m。深さ：33 cm。長軸方位：N－8°－W。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

844号土坑

遺構 (第71図)

[位置] E・F-11 グリッド。

[構造] 東西両側を攪乱に壊される。平面不整長方形、断面概ね逆台形、坑底は凹凸著しい。規模：不明×0.63m。深さ：22 cm。長軸方位：N－88°－E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器・土師器が出土したのみである。

[時期] 近世。

850号土坑

遺構 (第71)

[位置] G-13・14 グリッド。

[構造] 北側に56×34 cm、深さ13 cmの双円形のピットを検出。平面不整長方形、断面概ね箱形。規模：2.54×0.62m。深さ：19 cm。長軸方位：N－5°－W。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

851号土坑

遺構 (第71図)

[位置] E-12、F-12 グリッド。

[構造] 西側を近世の842号土坑に切られ、中央部を攪乱に壊される。平面長方形、断面概ね箱形。規模：5.71×0.67m。深さ：34cm。長軸方位：N-63°-W。覆土：3層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

852号土坑

遺構 (第71図)

[位置] E-12、F-12 グリッド。

[構造] 中世の118号ピットを切り、中央部を攪乱に壊される。平面長方形、断面不明。規模：4.52×0.54m。深さ：29cm。長軸方位：N-86°-E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

854号土坑

遺構 (第71図)

[位置] E・F-11・12 グリッド。

[構造] 近世の851号・853号土坑を切る。平面長方形、断面概ね箱形、坑底はほぼ平坦。規模：2.2×0.53m。深さ：32cm。長軸方位：N-87°-E。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

860号土坑

遺構 (第71図)

[位置] F-9 グリッド。

[構造] 平面不整長方形、断面概ね逆台形。規模：2.04×0.58m。深さ：29cm。長軸方位：N-1°-W。覆土：2層に分層。ロームを含むにぶい黄褐色土を基調とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

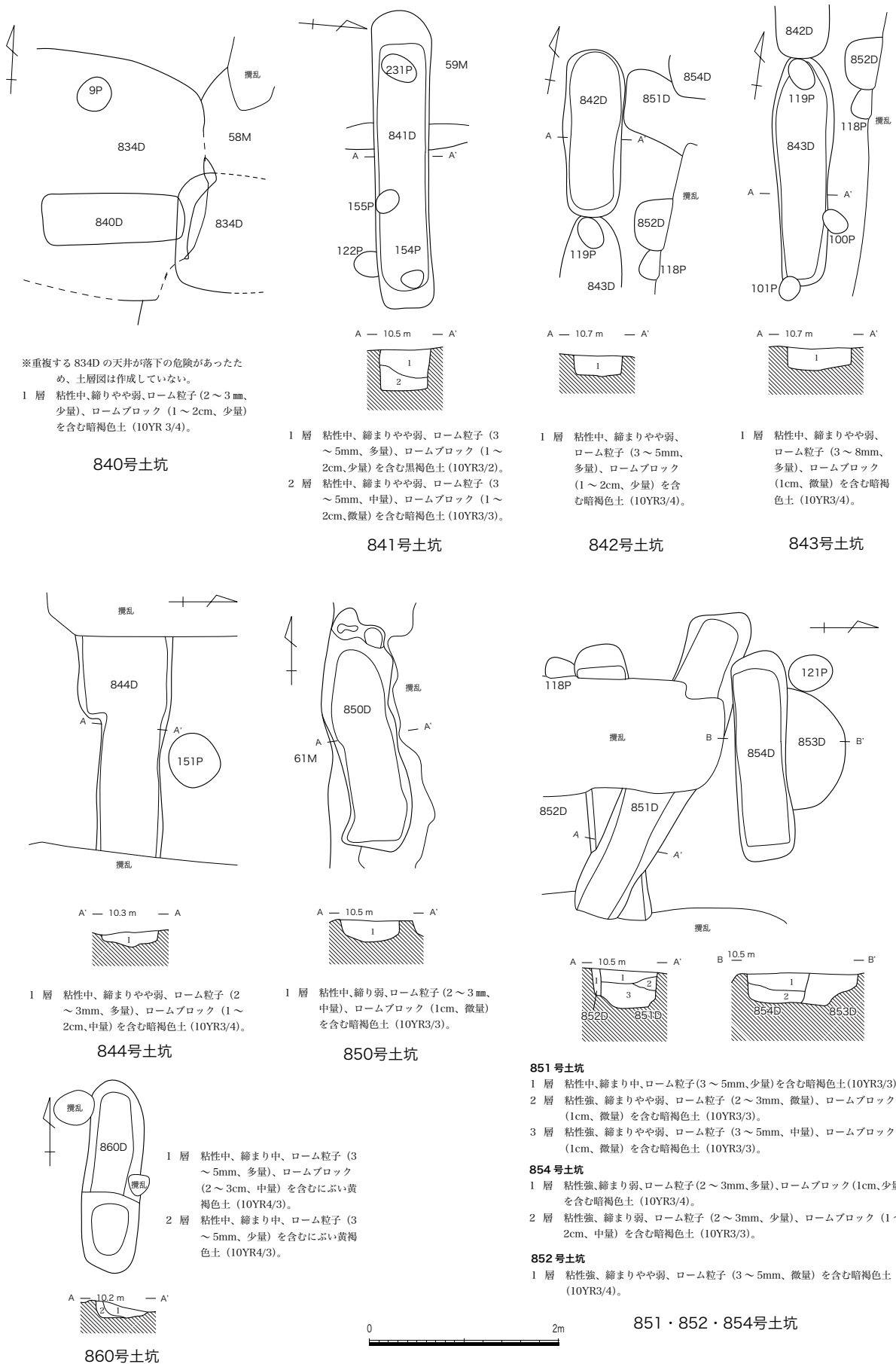
862号土坑

遺構 (第72図)

[位置] G-9 グリッド。

[構造] 西側を攪乱に壊される。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：不明×0.39m。深さ：

第3章 検出された遺構と遺物



第71図 土坑B群2類2(1/60)

14 cm。長軸方位：N－88°－W。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

863号土坑

遺構 (第72図)

[位置] G-9 グリッド。

[構造] 近世の197号ピットを切り、近世の171号ピットに切られる。近世の地下室864号土坑と重複するが、新旧関係は不明。197号ピットは当遺構に伴う掘り込みの可能性がある。平面長方形、断面概ね逆台形、坑底はほぼ平坦。規模：2.43×0.57m。深さ：11 cm。長軸方位：N－7°－E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

866号土坑

遺構 (第72図)

[位置] H-9・10 グリッド。

[構造] 近世の870号・930号土坑、260号・261号・262号・263号ピットを切る。261号・262号・263号ピットは当遺構に伴う掘り込みか。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：2.8×0.64m。深さ：28 cm。長軸方位：N－6°－E。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

870号土坑

遺構 (第72図)

[位置] G・H-9・10 グリッド。

[構造] 近世の867号土坑、210号・267号・268号ピットを切る。近世の866号土坑、266号ピットに切られる。268号ピットは当遺構に伴う可能性がある。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：2.08×0.84m。深さ：54 cm。長軸方位：N－3°－W。覆土：3層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。上層は焼土を含み、下層にはロームが帯状に分布する。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

873号土坑

遺構 (第72図)

[位置] G-4 グリッド。

[構造] 東側は調査区外。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：不明×0.62m。深さ：13 cm。長軸方位：N－85°－W。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

874号土坑

遺構 (第72図)

[位置] G-4・5グリッド。

[構造] 近世の875号土坑に切られる。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模:2.76×0.45m。深さ:32cm。長軸方位:N-89°-E。覆土:2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 陶器が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第40表)

瀬戸・美濃産陶器皿の底部(1)である。

875号土坑

遺構 (第72図)

[位置] G-4・5グリッド。

[構造] 近世の874号・876号・880号土坑、341号ピットを切る。平面長方形、断面概ね逆台形、坑底はほぼ平坦。規模:3.6×0.59m。深さ:30cm。長軸方位:N-9°-E。覆土:単層。ロームを含む黒褐色土である。

[遺物] 土製品が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第40表)

環状土錘(1)である。

877号土坑

遺構 (第72図)

[位置] G-5グリッド。

[構造] 近世の876号土坑、394号・395号ピットを切る。平面長方形、断面概ね逆台形。規模:2.96×0.45m。深さ:7cm。長軸方位:N-8°-E。覆土:単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

879号土坑

遺構 (第72図)

[位置] G-6グリッド。

[構造] 近世の881号土坑を切る。平面長方形、断面概ね箱形、坑底はほぼ平坦。規模:1.03×0.41m。深さ:22cm。長軸方位:N-2°-E。覆土:単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

880号土坑

遺構 (第72図)

[位置] G-5・6グリッド。

[構造] 近世の881号土坑、342号・395号ピットを切り、近世の875号・876号土坑に切られる。平面不整長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：4.58×0.52m。深さ：44cm。長軸方位：N-39°-W。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

884号土坑

遺構 (第72図)

[位置] G-7グリッド。

[構造] 近世の310号ピットを切る。東側は調査区外である。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：不明×0.51m。深さ：11cm。長軸方位：N-89°-E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 陶器が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第40表)

瀬戸・美濃産陶器底部(1)である。

885号土坑

遺構 (第73図)

[位置] K-9グリッド。

[構造] 中世の58号溝跡、837号・838号ピット、近世の879号・882号・883号ピットを切る。北側は未検出。平面長方形、断面概ね逆台形、坑底は平坦。規模：不明×0.52m。深さ：17cm。長軸方位：N-6°-W。覆土：単層。ローム・焼土・炭化物を含む黒褐色土である。

[遺物] 磁器が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第40表)

染付碗口縁部(1)である。

890号土坑

遺構 (第73図)

[位置] J-9グリッド。

[構造] 近世の710号・782号・783号・784号・890号ピットを切る。710号・890号ピットは当遺構に伴う掘り込みの可能性がある。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：2.48×0.65m。深さ：46cm。長軸方位：N-1°-E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 古銭が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第45表)

古銭(1)は4ヶ所の凹みがあり銭文の跡と考えられるが、風化が著しく、詳細は不明。

891号土坑

遺構 (第73図)

[位置] K-15 グリッド。

[構造] 中世の427号・429号ピットを切る。北側は調査区外である。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：不明×0.77m。深さ：28cm。長軸方位：N-12°-E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

898号土坑

遺構 (第73図)

[位置] K-12 グリッド。

[構造] 近世の900号土坑を切る。平面長方形、断面概ね箱形、坑底はほぼ平坦。規模：1.44×0.57m。深さ：22cm。長軸方位：N-27°-E。覆土：3層に分層。ローム・焼土・を含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

900号土坑

遺構 (第73図)

[位置] K-12・13 グリッド。

[構造] 近世の899号・927号土坑、近世の535号ピットを切る。平面不整形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：3.75×0.85m。深さ：13cm。長軸方位：N-37°-W。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 陶器が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第40表)

徳利胴部(1)である。

901号土坑

遺構 (第73図)

[位置] K-13 グリッド。

[構造] 中世の819号ピットを切り、近世の902号土坑に切られる。平面長方形、断面概ね逆台形、

坑底はほぼ平坦。規模：2.31×0.66m。深さ：21 cm。長軸方位：N－32°－W。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 須恵器が出土したのみである。

[時期] 近世。

902号土坑

遺構 (第73図)

[位置] K-13 グリッド。

[構造] 近世の901号・903号土坑を切る。平面不整長方形、断面概ね逆台形、坑底はほぼ平坦。規模：不明×0.47m。深さ：8 cm。長軸方位：N－6°－W。覆土：単層。ローム・焼土を含む暗褐色土である。

[遺物] 土器片が出土したのみである。

[時期] 近世。

903号土坑

遺構 (第73図)

[位置] J・K-13 グリッド。

[構造] 近世の902号土坑に切られ、西側を攪乱に壊される。平面長方形、断面概ね逆台形、坑底はほぼ平坦。規模：1.55×0.77m。深さ：15 cm。長軸方位：不明。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

905号土坑

遺構 (第73図)

[位置] J-12 グリッド。

[構造] 近世の906号土坑を切る。平面不整長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：2.04×0.65m。深さ：21 cm。長軸方位：N－23°－E。覆土：単層。ローム・焼土を含む黒褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

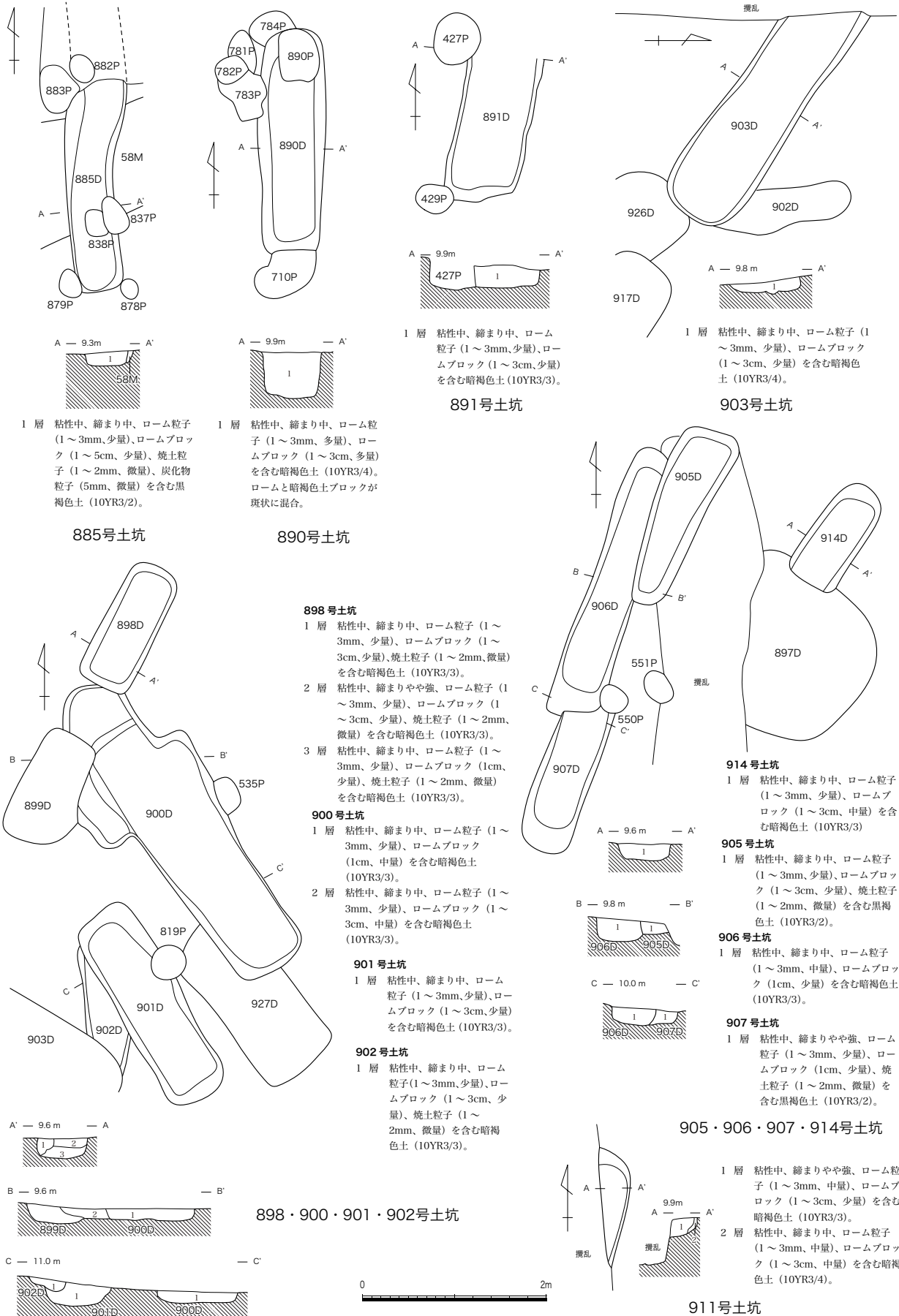
906号土坑

遺構 (第73図)

[位置] J-12 グリッド。

[構造] 近世の907号土坑を切り、近世の905号土坑、550号ピットに切られる。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：3.08×0.51m。深さ：34 cm。長軸方位：N－20°－E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 土師器が出土したのみである。



第73図 土坑B群2類4 (1/60)

[時期] 近世。

907号土坑

遺構 (第73図)

[位置] J-12 グリッド。

[構造] 近世の906号土坑、550号ピットに切られる。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：不明×0.55m。深さ：26cm。長軸方位：N-30°-E。覆土：単層。ローム・焼土を含む黒褐色土である。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

911号土坑

遺構 (第73図)

[位置] J-13 グリッド。

[構造] 西側を攪乱に壊される。断面の形状と層位からB群2類と判断。平面楕円形、断面不明。規模：不明×不明m。深さ：17cm。長軸方位：N-10°-E。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

912号土坑

遺構 (第73図)

[位置] G-15、H-14・15 グリッド。

[構造] 平面長方形、断面不整形、坑底はほぼ平坦。規模：2.01×0.58m。深さ：14cm。長軸方位：N-16°-E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

914号土坑

遺構 (第73図)

[位置] J・K-12 グリッド。

[構造] 近世の897号土坑に切られる。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：1.23×0.57m。深さ：16cm。長軸方位：N-33°-E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

915号土坑

遺構 (第74図)

[位置] J-10・11 グリッド。

[構造] 西側を攪乱に壊される。平面不整長方形、断面概ね逆台形。規模：不明×1.19m。深さ：29 cm。長軸方位：N－83°－W。覆土：4層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

916号土坑

遺構 (第74図)

[位置] J-10 グリッド。

[構造] 近世の714号ピットを切る。平面不整長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：2.39×0.98m。深さ：27 cm。長軸方位：N－84°－W。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

917号土坑

遺構 (第74図)

[位置] K-13・14 グリッド。

[構造] 近世の926号土坑を切る。東側を攪乱に壊される。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：不明×0.87m。深さ：8 cm。長軸方位：N－33°－W。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 磁器が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第40表)

染付碗(1)である。

918号土坑

遺構 (第74図)

[位置] L-11・12 グリッド。

[構造] 中世の943号土坑、813号・814号・816号ピットを切る。東側は調査区外である。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：不明×0.72m。深さ：31 cm。長軸方位：N－34°－W。覆土：2層に分層。ロームを含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 中世のかわらけと焙烙が出土したのみである。

[時期] 近世。

921号土坑

遺構 (第74図)

[位置] K-11 グリッド。

[構造] 中世の820号ピットを切り、近代の920号土坑、近世の922号土坑に切られる。平面

長方形、断面概ね逆台形、坑底はほぼ平坦。規模：不明×0.41m。深さ：16 cm。長軸方位：N－30°－W。覆土：単層。ロームを含む黒褐色土である。

[遺物] 土器片が出土したのみである。

[時期] 近世。

922号土坑

遺構 (第74図)

[位置] K-10・11 グリッド。

[構造] 中世の61号溝跡、820号ピット、近世の921号土坑を切り、近代の土坑920号土坑に切られる。平面長方形、断面概ね逆台形、坑底は平坦。規模：3.38×0.72m。深さ：23 cm。長軸方位：N－15°－W。覆土：単層。ローム・焼土を含む暗褐色土である。

[遺物] 中世のかわらけが出土したのみである。

[時期] 近世。

923号土坑

遺構 (第74図)

[位置] J-11・12 グリッド。

[構造] 中世の61号溝跡、近世の934号土坑、552号ピットを切る。近世の716号ピットに切られる。南側を攪乱に壊される。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：3.41×0.53m。深さ：13 cm。長軸方位：N－21°－E。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 土器片が出土したのみである。

[時期] 近世。

926号土坑

遺構 (第74図)

[位置] K-13・14 グリッド。

[構造] 近世の903号土坑・917号土坑に切られる。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：3.33×0.94m。深さ：20 cm。長軸方位：N－39°－W。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

928号土坑

遺構 (第74図)

[位置] I・J-9 グリッド。

[構造] 近世の892号ピットを切る。近世の891号ピットと重複。平面不整長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：1.35×0.46m。深さ：17 cm。長軸方位：N－11°－E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

929号土坑

遺構 (第75図)

[位置] G・H-9 グリッド。

[構造] 近世の940号土坑、791号・792号・793号・794号・795号・798号・898号・900号・901号ピットを切る。近世の939号土坑に切られる。平面不整長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：5.56×0.75m。深さ：36cm。長軸方位：N－87°－E。覆土：6層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

930号土坑

遺構 (第72図)

[位置] G-9、H-9・10 グリッド。

[構造] 近世の267号ピット、737号・741号ピットを切り、近世の866号・870号土坑、738号ピットに切られる。737号ピットは当遺構に伴う掘り込みの可能性がある。平面長方形、断面概ね逆台形、坑底は平坦。規模：4.1×0.63m。深さ：18cm。長軸方位：N－84°－W。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

932号土坑

遺構 (第74図)

[位置] G・H-10 グリッド。

[構造] 近世の944号土坑、近世の727号・789号ピットを切る。789号ピットは当遺構に伴う掘り込みの可能性がある。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：2.38×0.77m。深さ：36cm。長軸方位：N－87°－W。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

934号土坑

遺構 (第74図)

[位置] J-11 グリッド。

[構造] 中世の61号溝跡を切り、近世の923号土坑、716号ピットに切られる。皿状の掘り込み。平面隅丸方形、断面概ね逆台形、坑底は平坦。規模：不明×0.6m。深さ：11cm。長軸方位：N－68°－W。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

939号土坑

遺構 (第75図)

[位置] H・I-9 グリッド。

[構造] 近世の929号土坑、近世の745号・746号・898号・899号ピットを切る。746号・899号ピットは当遺構に伴う掘り込みの可能性がある。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模:3.93×0.57m。深さ:20cm。長軸方位:N-7°-W。覆土:単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 磁器が出土した他、中世の陶器・かわらけが出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第40表)

染付碗口縁部(1)である。

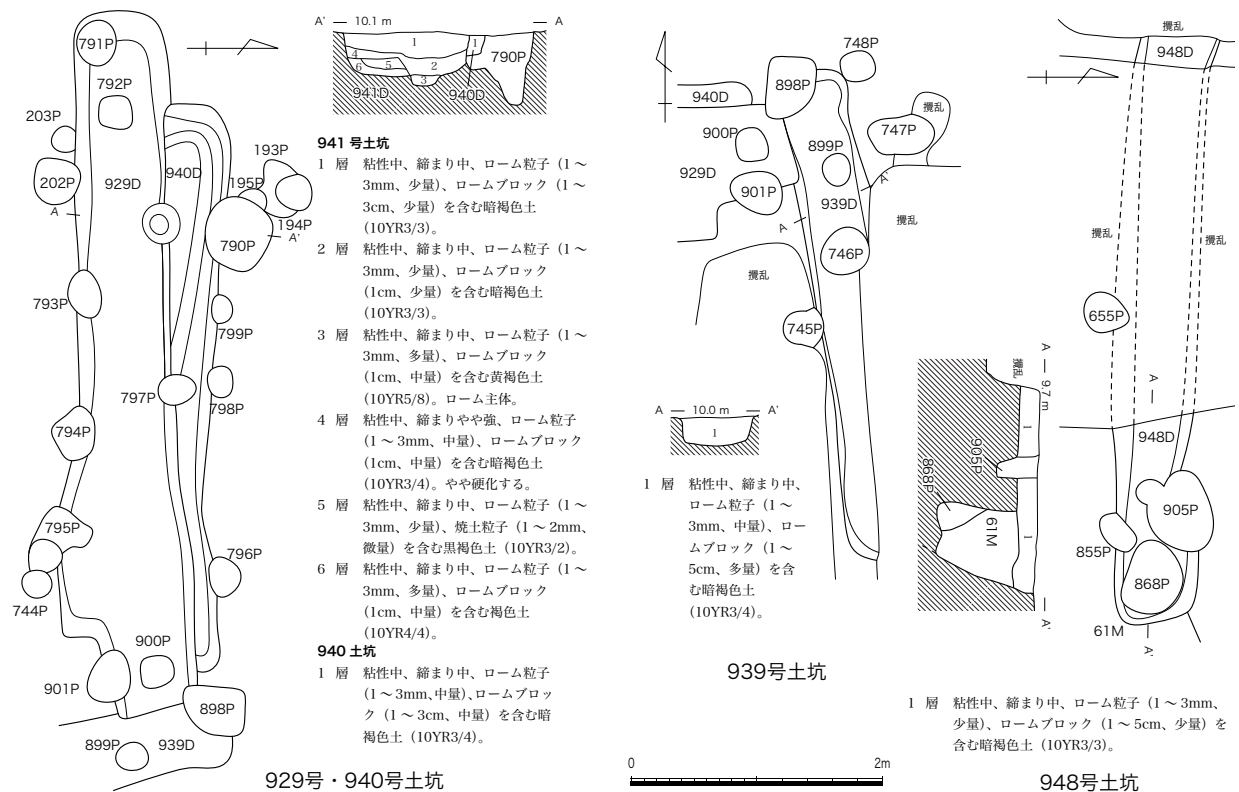
940号土坑

遺構 (第75図)

[位置] G・H-9 グリッド。

[構造] 近世の790号・796号・797号・798号・799号ピットを切り、近世の941号土坑に切られる。平面不整長方形、断面不明。規模:4.51×0.75m。深さ:18cm。長軸方位:N-89°-W。覆土:単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 中世の陶器が出土したのみである。



第75図 土坑B群2類6(1/60)

[時期] 近世。

944号土坑

遺構 (第74図)

[位置] H-10 グリッド。

[構造] 近世の734号ピット、近世の943号土坑に切られる。東側は攪乱に壊される。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：不明×0.61m。深さ：31cm。長軸方位：不明。覆土：4層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 陶器が出土したが図示し得なかった。

[時期] 近世。

遺構 (第83図、第41表)

瀬戸産碗胴部(1)である。

948号土坑

遺構 (第75図)

[位置] I・J-10 グリッド。

[構造] 中世の61号溝跡、855号・868号ピット、近世の905号土坑を切る。中央部と西側は攪乱に壊される。平面長方形、断面不明、坑底は平坦。規模：不明×0.65m。深さ：17cm。長軸方位：N-83°-E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 転用砥石が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第42表)

常滑産甕胴部を用いた転用砥石である。主に内面と、側面の一边を使用したと考えられる。

3類 幅広長方形土坑

847号土坑

遺構 (第76図)

[位置] F-15・16 グリッド。

[構造] 皿状の掘り込み。平面隅丸方形、断面概ね逆台形。規模：1.78×1.28m。深さ：11cm。長軸方位：N-16°-W。覆土：2層に分層。ロームを含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器・土師器が出土したのみである。

[時期] 近世。

856号土坑

遺構 (第76図)

[位置] F-10 グリッド。

[構造] 近世の857号土坑と重複するが、新旧関係は不明。皿状の掘り込み。平面方形、断面箱形、坑底はほぼ平坦。規模：1.73×1.04m。深さ：21cm。長軸方位：N-4°-W。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

ムを含む黒褐色土である。

〔遺物〕 縄文土器が出土したのみである。

〔時期〕 近世。

858号土坑

遺構 (第76図)

〔位置〕 F-10 グリッド。

〔構造〕 東側を攪乱に切られる。皿状の掘り込み。平面方形、断面概ね逆台形、坑底は平坦。規模：0.88×不明 m。深さ：14 cm。長軸方位：N-54°-W。覆土：2層に分層。ロームを含む黒褐色土である。

〔遺物〕 弥生土器が出土したのみである。

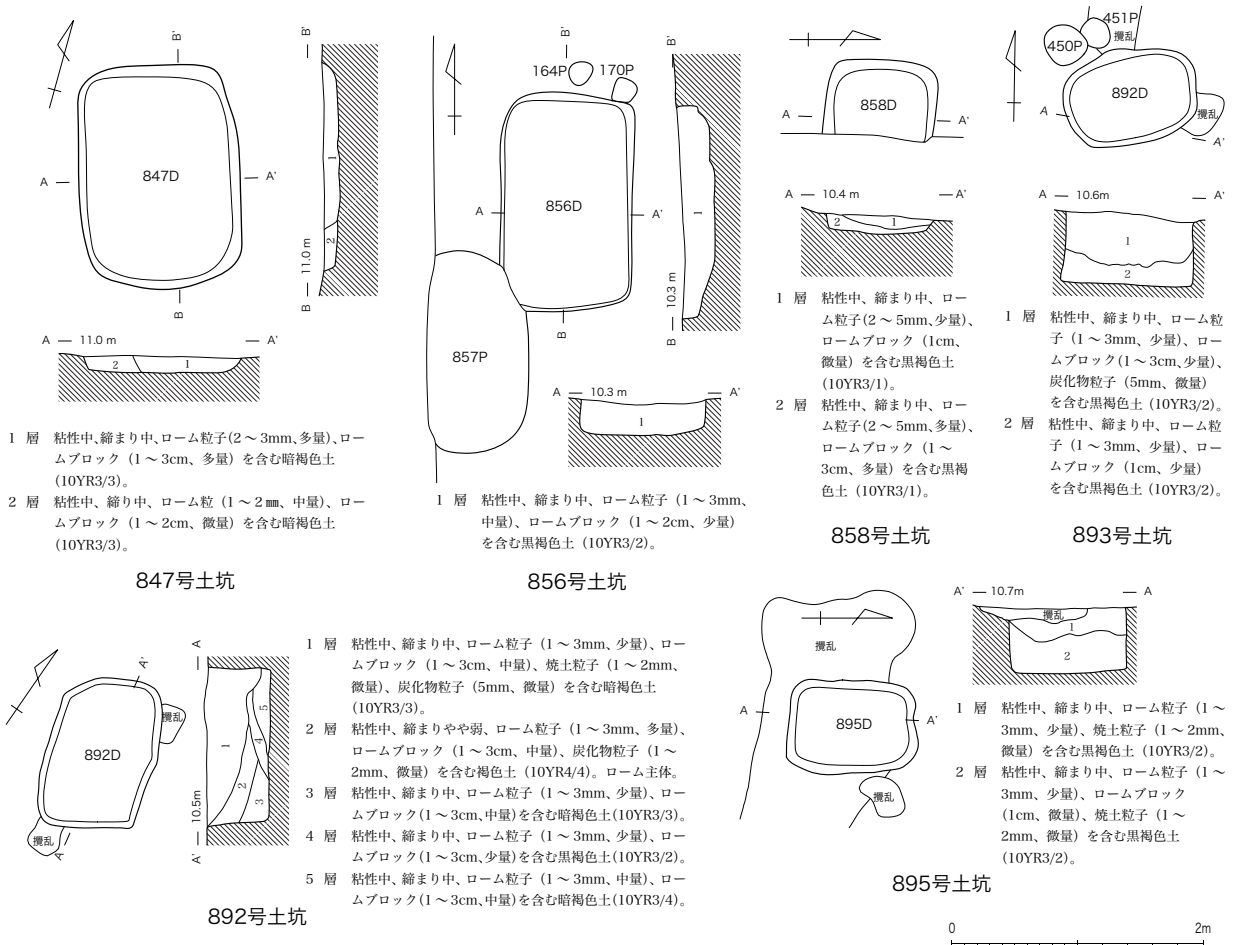
〔時期〕 近世。

892号土坑

遺構 (第76図)

〔位置〕 J-15・16 グリッド。

〔構造〕 箱状の掘り込み。893号・895号土坑と形状がやや類似する。平面方形、断面箱形、坑



第76図 土坑B群3類1 (1/60)

底は平坦。規模：1.21×0.89m。深さ：51 cm。長軸方位：N－22°－W。覆土：5層に分層。ロームを含む暗褐色土である。上層は焼土・炭化物を含む。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

893号土坑

遺構 (第76図)

[位置] J-16 グリッド。

[構造] 箱状の掘り込み。892号・895号土坑と形状がやや類似する。平面方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：1.08×0.77m。深さ：60 cm。長軸方位：N－74°－E。覆土：2層に分層。ロームを含む黒褐色土を基調とする。上層は炭化物を含む。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

895号土坑

遺構 (第76図)

[位置] I-16 グリッド。

[構造] 箱状の掘り込み。892号・893号土坑と形状がやや類似する。平面方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：1.04×m。深さ：53 cm。長軸方位：N－4°－E。覆土：2層に分層。ローム・焼土を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 磁器が出土したが図示し得なかった。

[時期] 近世。

899号土坑

遺構 (第77図)

[位置] K-12・13 グリッド。

[構造] 近世の900号土坑に切られる。平面不整長方形、断面概ね逆台形、坑底はほぼ平坦。規模：1.28×0.76m。深さ：21 cm。長軸方位：N－29°－E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

910号土坑

遺構 (第77図)

[位置] I-12 グリッド。

[構造] 近世の554号ピットを切る。皿状の浅い掘り込み。平面方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：1.57×0.87m。深さ：11 cm。長軸方位：N－70°－E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

925号土坑

遺構 (第77図)

[位置] H-14・15 グリッド。

[構造] 平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：1.83×0.87m。深さ：24 cm。長軸方位：N-5°-E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

927号土坑

遺構 (第77図)

[位置] K-13 グリッド。

[構造] 中世の819号ピットを切り、近世の900号土坑に切られる。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：1.93×0.86m。深さ：16 cm。長軸方位：N-38°-W。覆土：単層。ロームを含む褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

946号土坑

遺構 (第77図)

[位置] B-2 グリッド。

[構造] 南側は調査区外である。箱状の掘り込み。中世の949号土坑は形状が類似する。平面方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：不明×0.93m。深さ：84 cm。長軸方位：N-4°-E。覆土：2層に分層。ロームを含む黒褐色土を基調とする。上層に焼土粒が微量に含まれる。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世。

949号土坑

遺構 (第77図)

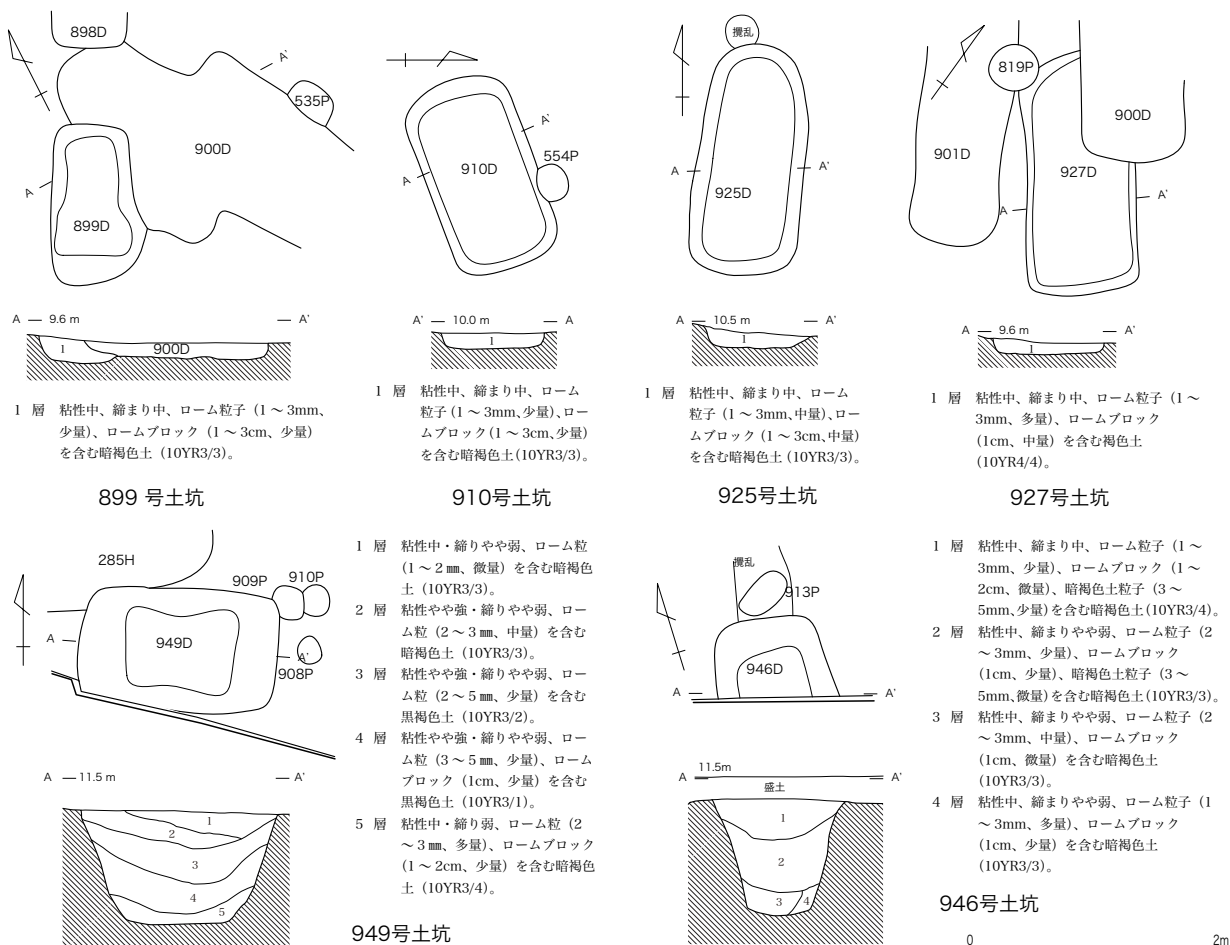
[位置] A-1・2 グリッド。

[構造] 箱状の掘り込み。中世の946号土坑と形状が類似する。奈良～平安時代の284号住居、中世の909号ピットを切る。平面長形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：1.58×0.99m。深さ：95 cm。長軸方位：N-86°-W。覆土：単層。ローム、焼土を含むにぶい赤褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世。

第3章 検出された遺構と遺物



第77図 土坑B群3類2 (1/60)

C群 円形・楕円形の土坑

838号土坑

遺構 (第78図)

[位置] F-11 グリッド。

[構造] 中世の58号溝跡を切り、北側と南側の一部を攪乱に壊される。平面不整楕円形、断面皿形。規模：0.99×0.48m。深さ：10cm。長軸方位：N-87°-E。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

848号土坑

遺構 (第78図)

[位置] F・G-16 グリッド。

[構造] 皿状の掘り込み。平面不整円形、断面皿形。規模：1.24×1.08m。深さ：17cm。長軸方位：N-74°-E。覆土：2層に分層。ロームを含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

853号土坑

遺構 (第78図)

[位置] E・F-11 グリッド。

[構造] 南側を近世の854号土坑に切られる。北側は近世の地下室834号土坑と重複するが、新旧関係は不明。皿状の掘り込み。平面円形、断面皿形、坑底は凹凸著しい。規模：1.28×不明m。深さ：22cm。長軸方位：不明。覆土：3層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

855号土坑

遺構 (第78図)

[位置] F・G-12 グリッド。

[構造] 北側に53×42cm、深さ40cmの隅丸方形のピットを検出。東側を攪乱に壊される。皿状の掘り込み。平面隅丸方形、断面皿形、坑底は凹凸著しい。規模：不明×1.79m。深さ：42cm。長軸方位：不明。覆土：4層に分層。ロームを含むにぶい黄褐色土を基調とする。

[遺物] 陶器が出土した。

[時期] 近世。

遺物 (第83図、第40表)

瀬戸・美濃産陶器 (小碗か) 底部 (1) である。

857号土坑

遺構 (第78図)

[位置] E・F-10 グリッド。

[構造] 西側を攪乱に壊される。近世の856号土坑と重複するが、新旧関係は不明。皿状の掘り込み。平面楕円形、断面皿形。規模：1.61×不明m。深さ：32cm。長軸方位：N-1°-W。覆土：3層に分層。ロームを含む黒褐色土を基調とする。上層南側に礫が混入する。

[遺物] 土師器が出土したのみである。

[時期] 近世。

872号土坑

遺構 (第78図)

[位置] G-4 グリッド。

[構造] 皿状の掘り込み。西側は調査区外である。平面円形、断面皿形。規模：1.12×不明m。深さ：17cm。長軸方位：N-8°-E。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。下層は焼土を含む。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

876号土坑

遺 構 (第78図)

[位 置] G-5 グリッド。

[構 造] 近世の880号土坑、341号ピットを切り、近世の875号・877号土坑に切られる。皿状の掘り込み。平面円形、断面箱形、坑底は平坦。規模：1.15×1.0m。深さ：38cm。長軸方位：N-46°-W。覆土：3層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 近世。

888号土坑

遺 構 (第78図)

[位 置] K・L-9 グリッド。

[構 造] 近世の658号・875号ピットを切り、近世の407号・408号・409号ピットに切られる。875号・407号・408号ピットは当遺構に伴う掘り込みの可能施がある。大型の皿状の掘り込み。平面円形、断面概ね皿形、坑底は中央が円形に窪む。規模：1.1×0.97m。深さ：45cm。長軸方位：N-27°-E。覆土：3層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。上層は炭化物を含む。

[遺 物] 磁器が出土した。

[時 期] 近世。

遺 物 (第83図、第40表)

磁器口縁部(1)である。

897号土坑

遺 構 (第78図)

[位 置] J・K-12 グリッド。

[構 造] 近世の914号土坑を切る。西側は調査区外である。皿状の掘り込み。平面楕円形、断面皿形、坑底は凹凸著しい。規模：不明×1.77m。深さ：37cm。長軸方位：不明。覆土：4層に分層。ロームと暗褐色土の混合層が見られる。上層は焼土を含む。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 近世。

908号土坑

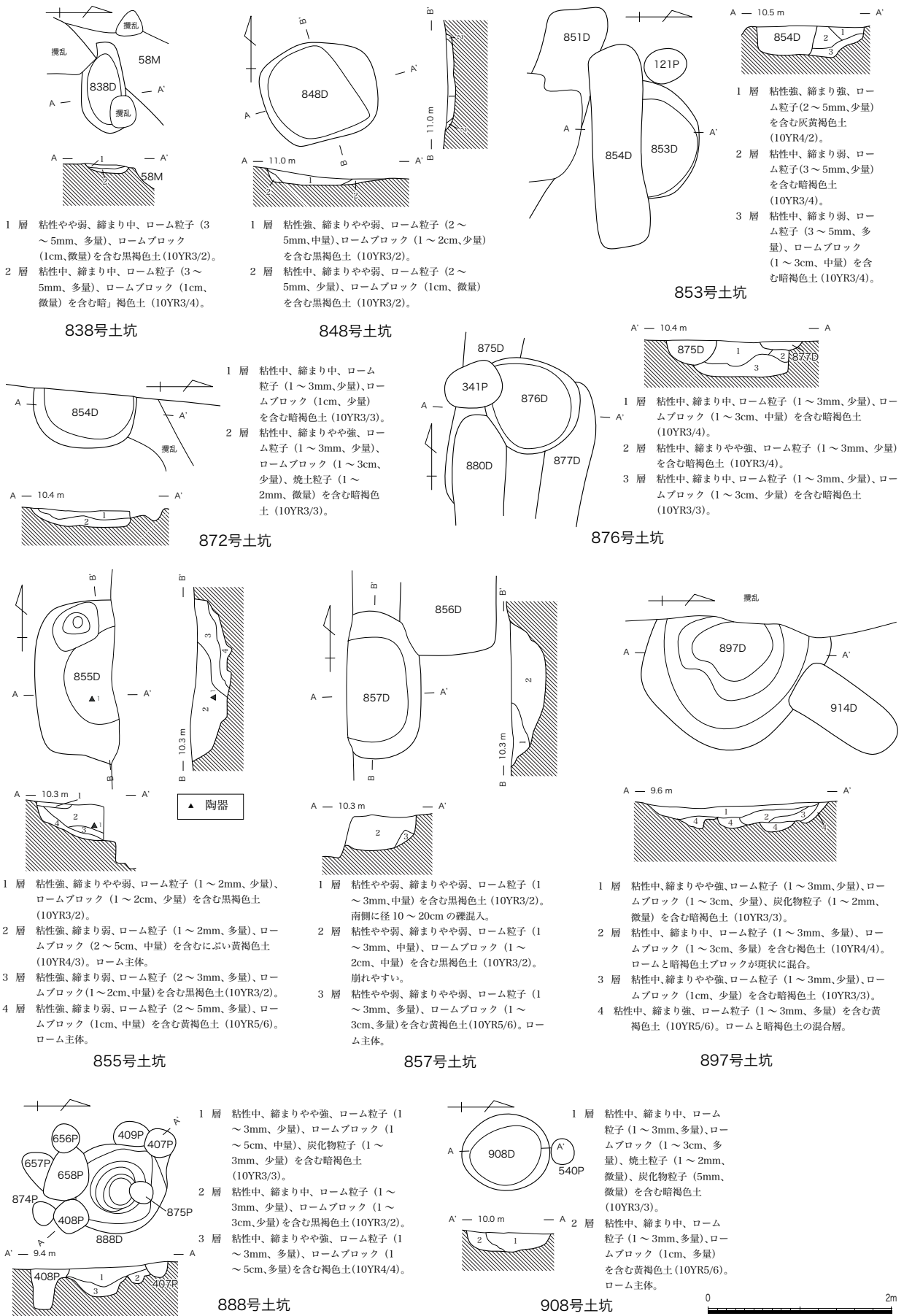
遺 構 (第78図)

[位 置] J-13 グリッド。

[構 造] 皿状の掘り込み。平面円形、断面皿形、坑底はほぼ平坦。規模：0.96×0.84m。深さ：19cm。長軸方位：N-3°-W。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。焼土・炭化物が含まれる。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 近世。



第78図 土坑C群1 (1/60)

909号土坑

遺 構 (第79図)

[位 置] J-13 グリッド。

[構 造] 東側は攪乱に切られる。皿状の掘り込み。平面円形、断面箱形、坑底は平坦。規模:0.75×0.67m。深さ:31 cm。長軸方位:N-33°-E。覆土:2層に分層。上層はローム・焼土を含む暗褐色土、下層はロームを含む褐色土でローム粒子がブロック状に混入する。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 近世。

919号土坑

遺 構 (第79図)

[位 置] K・L-11 グリッド。

[構 造] 中世の805号・806号・807号ピット・近世の652号ピットを切る。平面隅丸方形、断面概ね皿状。規模:1.32×1.28m。深さ:17 cm。長軸方位:N-65°-E。覆土:単層。焼土粒子、灰白色粘土粒子を含む黒褐色土である。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 近代以降。

920号土坑

遺 構 (第79図)

[位 置] K-11 グリッド。

[構 造] 中世の820号ピット、近世の921号・922号土坑を切る。平面隅丸方形、断面概ね皿状。規模:1.63×1.59m。深さ:20 cm。長軸方位:N-60°-W。覆土:2層に分層。ローム粒子、褐灰色粘土粒子を含む黒褐色土である。

[遺 物] 陶器が出土した。

[時 期] 近代以降。

遺 物 (第83図、第40表)

陶器口縁部(1)である。

941号土坑

遺 構 (第79図)

[位 置] K・L-12 グリッド。

[構 造] 皿状の窪み。焼土が集中する範囲。人為的な掘り込み稼動かは不明。平面楕円形、断面概ね皿形。規模:0.82×0.53m。深さ:9 cm。長軸方位:N-76°-W。覆土:6層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 中世。

943号土坑

遺構 (第79図)

[位置] L-12 グリッド。

[構造] 近世の918号土坑に切られる。東側の一部は調査区外である。一部皿状の掘り込み。平面円形、断面箱形、坑底は平坦。規模:不明×1.12m。深さ:23cm。長軸方位:不明。覆土:2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世。

945号土坑

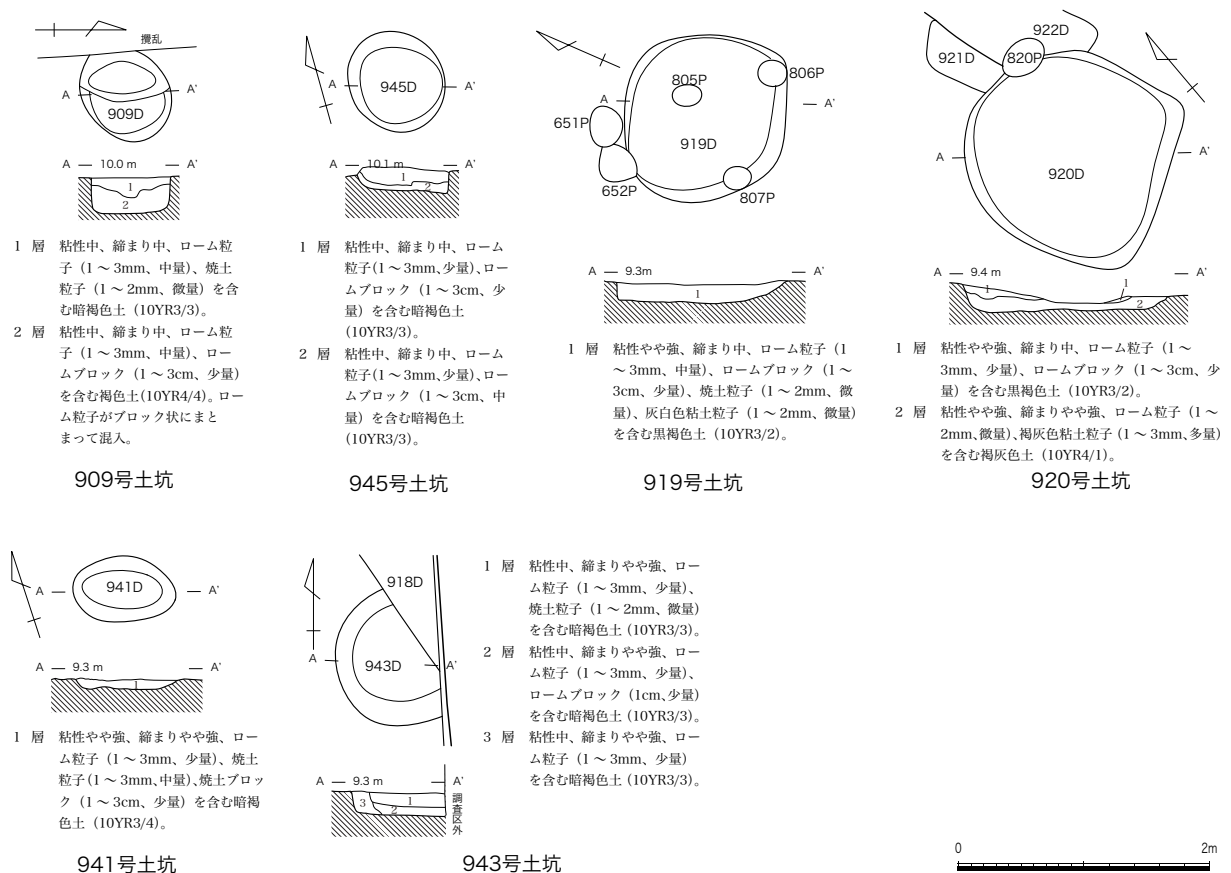
遺構 (第79図)

[位置] H-10・11 グリッド。

[構造] 皿状の掘り込み。平面円形、断面概ね皿形。規模:0.83×0.75m。深さ:17cm。長軸方位:N-4°-W。覆土:2層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。



第79図 土坑C群2 (1/60)

D群 不整形の土坑

849号土坑

遺 構 (第80図)

[位 置] F-13 グリッド。

[構 造] 西側を攪乱に壊される。柱穴か。平面不整形、断面柱穴状。規模：不明×0.63m。深さ：88 cm。長軸方位：不明。覆土：4層に分層。ロームを含むにぶい黄褐色土を基調とする。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 近世。

859号土坑

遺 構 (第80図)

[位 置] F-9 グリッド。

[構 造] 近世の198号・257号ピットを切る。東側を攪乱に壊される。皿状の掘り込み。平面不整形、断面皿形。規模：1.19×不明 m。深さ：22 cm。長軸方位：不明。覆土：3層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺 物] 鉄製品が出土した。

[時 期] 近世。

遺 物 (第83図、第43表)

鉄製の鋌(1)と考えられる。

861号土坑

遺 構 (第82図)

[位 置] F-7・8・9、G-8 グリッド。

[構 造] 平面不整形、断面不整形。規模：8.89×不明 m。深さ：17～41 cm。長軸方位：N-8°-E。覆土：7層に分層。ローム粒子、ロームブロックを含む褐色土を基調とする。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 近世。

865号土坑

遺 構 (第81図)

[位 置] G-15 グリッド。

[構 造] 弥生時代の6号住居を切る。横穴が40 cmほど掘削され途切れる。地下室作成時に放棄か。平面方断面箱形、坑底は平坦。規模：0.98×0.75m。深さ：138 cm。長軸方位：N-23°-E。覆土：3層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とするが、掘り込み部はローム主体層である。

[遺 物] 中世のかわらけが出土したのみである。

[時 期] 近世。

867号土坑

遺構 (第80図)

[位置] G・H-10 グリッド。

[構造] 近世の264号ピットを切り、近世の870号土坑に切られる。複数のピット状の掘り込みの集合体。平面不整形、断面不整形、坑底は凹凸著しい。規模：0.84×0.38m。深さ：59cm。長軸方位：N-36°-E。覆土：6層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

869号土坑

遺構 (第82図)

[位置] G-14 グリッド。

[構造] 中世の46号ピットに切られる。平面円形、断面柱穴状。規模：1.08×0.91m。深さ：158cm。長軸方位：N-2°-W。覆土：12層に分層。焼土・炭化物を含み、下層では灰白色粘土物も含まれる。

[遺物] 縄文土器片が出土したのみ。

[時期] 中世。

883号土坑

遺構 (第80図)

[位置] D-10 グリッド。

[構造] 中世の59号溝跡に切れ、西側は調査区外である。59号溝跡西側拡張調査時に検出。大型の掘り込み。井戸か。平面円形、断面不明。規模：3.06×3.08m。深さ：99cm。長軸方位：不明。覆土：4層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 常滑産甕が出土したが図示し得なかった。

[時期] 近世。

886号土坑

遺構 (第80図)

[位置] L-9 グリッド。

[構造] 中世の58号溝跡、840号ピット、近世の399号ピットを切る。東側は調査区外である。平面楕円形、断面皿形。規模：不明×1.02m。深さ：31cm。長軸方位：不明。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

887号土坑

遺構 (第80図)

[位置] K-9 グリッド。

[構造] 近世の 876 号・877 号・880 号ピットを切る。大型の掘り込み。平面不整形円形、断面柱穴状。規模：0.97×0.67m。深さ：102 cm。長軸方位：N－38°－W。覆土：3層に分層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

889 号土坑

遺構 (第 80 図)

[位置] G-7 グリッド。

[構造] 皿状の掘り込み。平面不整形楕円形、断面概ね皿形、坑底は中央が窪む。規模：1.08×0.64m。深さ：26 cm。長軸方位：N－19°－E。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

894 号土坑

遺構 (第 80 図)

[位置] I-16 グリッド。

[構造] 南側は調査区外である。平面不整形、断面箱形、坑底はほぼ平坦。規模：不明×0.97m。深さ：50 cm。長軸方位：N－7°－W。覆土：3層に分層。ロームを含む黒褐色土である。上層は焼土・炭化物を含む。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

913 号土坑

遺構 (第 80 図)

[位置] K-12 グリッド。

[構造] 中世の 817 号ピットを切る。皿状の大型の掘り込み。平面不整形楕円形、断面不整形、坑底はほぼ平坦。規模：2.47×0.77m。深さ：12 cm。長軸方位：N－21°－W。覆土：2層に分層。上層はロームを含む暗褐色土、下層は黄褐色土のローム主体である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

931 号土坑

遺構 (第 81 図)

[位置] K-9・10 グリッド。

[構造] 近世の 935 号・936 号土坑を切り、近世の 418 号ピットに切られる。皿状の掘り込み。底部に円形に窪みを複数有する。平面隅丸方形、断面皿形。規模：1.76×1.73m。深さ：41 cm。長軸方位：

N-89°-E。覆土：4層に分層。ローム・焼土・炭化物を含む褐灰色土を基調とする。

[遺物] 磁器・陶器・炆器（甕・播鉢）が出土した。

[時期] 近世。

遺物（第83図、第40表）

染付皿（1）、染付碗（2・3）・陶器口縁部（4）・常滑産甕胴部（5）・丹波産播鉢（6）である。

933号土坑

遺構（第80図）

[位置] I-11・12グリッド。

[構造] 中世の61号溝跡、縄文時代の947号土坑を切る。平面不整形、断面皿形。規模：1.50×1.06m。深さ：11cm。長軸方位：N-18°-W。覆土：2層に分層。ロームを含む黒褐色土を基調とする。焼土を含む。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 近世。

935号土坑

遺構（第81図）

[位置] K-10グリッド。

[構造] 近世の673号・674号ピットを切り、近世の931号土坑に切られる。皿状の掘り込み。平面不整楕円形、断面不明。規模：0.92×不明m。深さ：32cm。長軸方位：N-52°-E。覆土：3層に分層。上層はローム・焼土・炭化物を含む暗褐色土、下層はロームを含む褐色土である。

[遺物] 縄文土器が出土したのみである。

[時期] 近世。

936号土坑

遺構（第81図）

[位置] K-9・10グリッド。

[構造] 近世の931号土坑に切られる。皿状の掘り込み。平面楕円形、断面概ね皿形、坑底は凹凸著しい。規模：1.28×0.86m。深さ：19cm。長軸方位：N-17°-E。覆土：2層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 常滑産甕が出土したが図示し得なかった。

[時期] 近世。

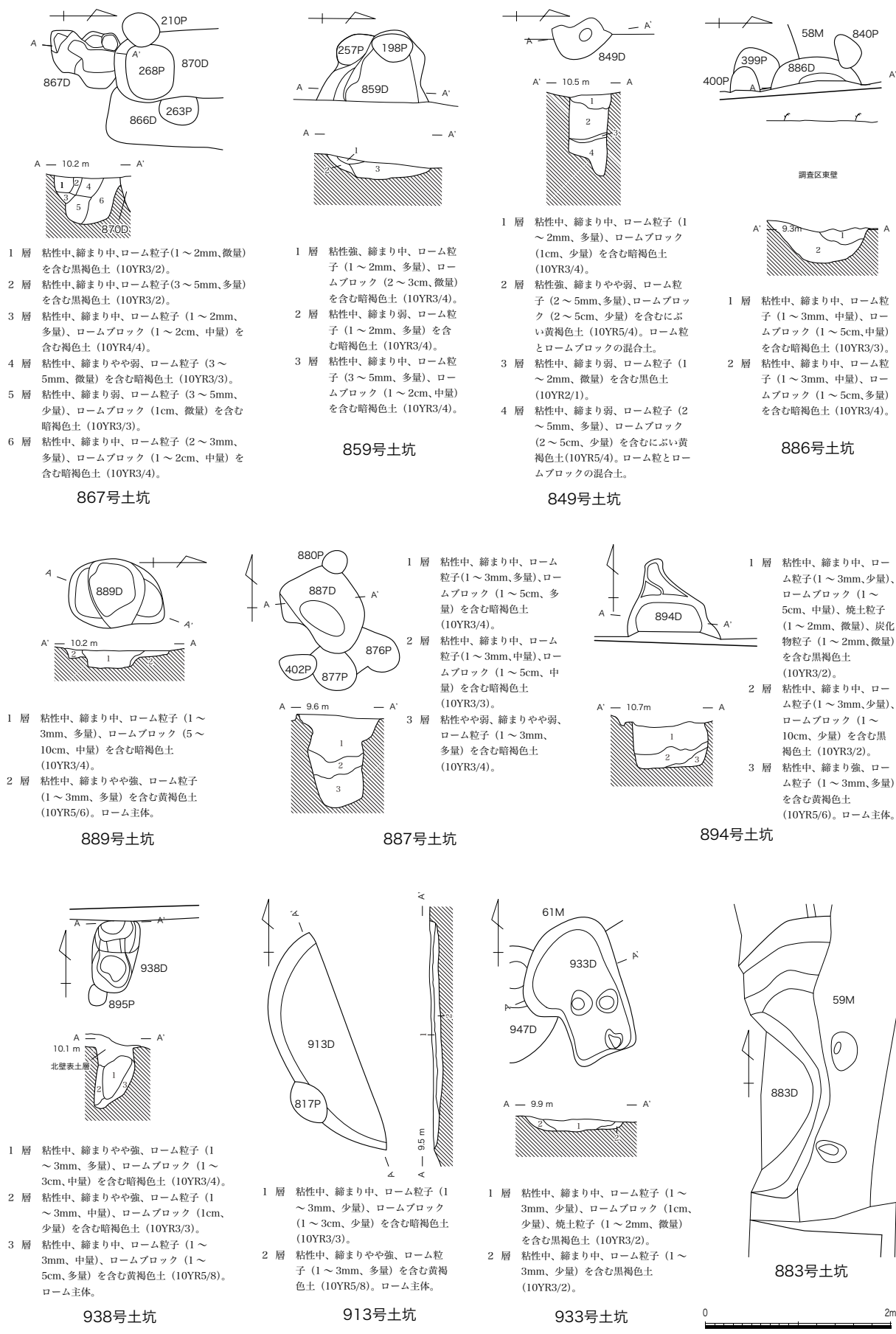
937号土坑

遺構（第81図）

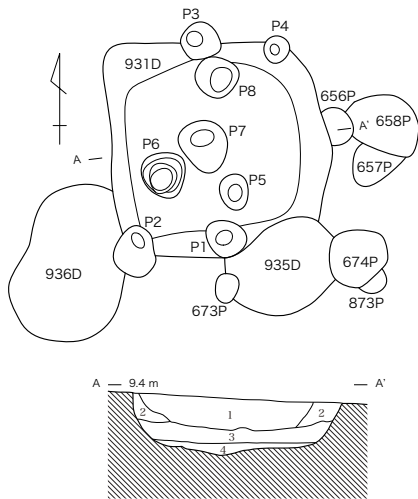
[位置] K・L-11グリッド。

[構造] 皿状の窪み。焼土が集中する範囲。平面不整形、断面皿形。規模：0.40×0.33m。深さ：5cm。長軸方位：N-31°-W。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

第3章 検出された遺構と遺物

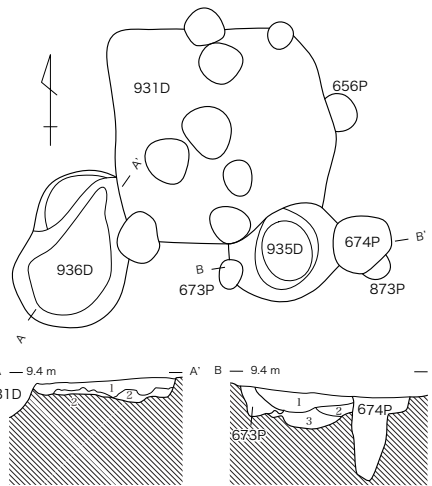


第80図 土坑D群1 (1/60)



- 931号土坑
- 1層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子(1~3mm、少量)、ロームブロック(1cm、少量)、焼土粒子(1~3mm、少量)、炭化物粒子(1~3mm、少量)を含む褐灰色土(10YR4/1)。
 - 2層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子(1~3mm、少量)、焼土粒子(1~3mm、少量)を含む褐灰色土(10YR4/1)。
 - 3層 粘性やや強、締まり中、ローム粒子(1~3mm、少量)、ロームブロック1cm、少量)、焼土粒子(1~2mm、微量)、炭化物粒子(1~5mm、少量)、を含む褐灰色土(10YR4/1)。
 - 4層 粘性やや強、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、多量)、ロームブロック(1~3cm、多量)を含む黄褐色土(10YR5/8)。ローム主体。やや赤味がかる。

931号土坑



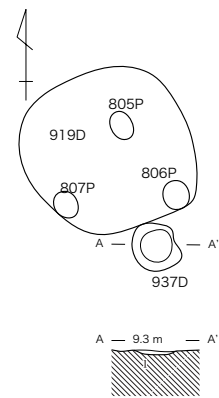
935号土坑

- 1層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、中量)、ロームブロック(1~3cm、中量)、焼土粒子(1~2mm、微量)、炭化物粒子(1~2mm、微量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 2層 粘性やや強、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、多量)、ロームブロック(1~3cm、中量)を含む褐色土(10YR4/4)。
- 3層 粘性やや強、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、多量)を含む黄褐色土(10YR5/8)。ローム主体。やや赤味がかる。

936号土坑

- 1層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、中量)、ロームブロック(1~5cm、多量)を含む暗褐色土(10YR3/4)。
- 2層 粘性やや強、締まりやや強、ローム粒子(1~3mm、多量)、ロームブロック(1~3cm、多量)を含む黄褐色土(10YR5/8)。ローム主体。

935号・936号土坑



- 937号土坑
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子(1~3mm、少量)、焼土粒子(1~3mm、中量)を含むにぶい赤褐色土(2層5YR4/4)。

[遺物] 出土しなかった。
[時期] 中世。

938号土坑

遺構(第80図)

[位置] I-9グリッド。

[構造] 近世の895号ピットを切る。北側は調査区外である。平面楕円形、断面柱穴状。規模:0.79×0.5m。深さ:65cm。長軸方位:N-12°-E。覆土:3層に分層。ロームを含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 陶器・かわらけの他、中世の陶器・常滑産甕・焙烙が出土した。

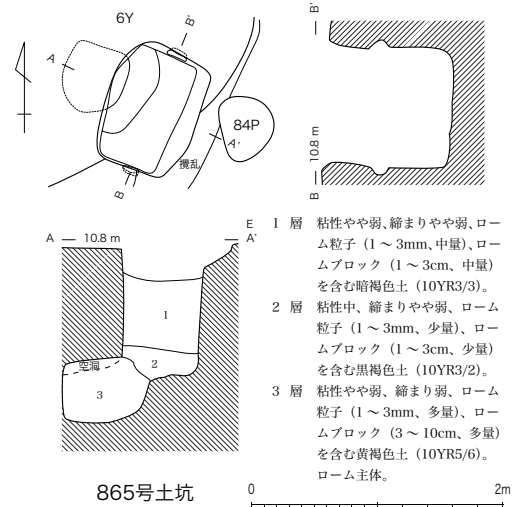
[時期] 近世。

遺物(第83図、第40表)

瀬戸・美濃産皿口縁部(1)・かわらけ口縁部(2)を図示した。

942号土坑

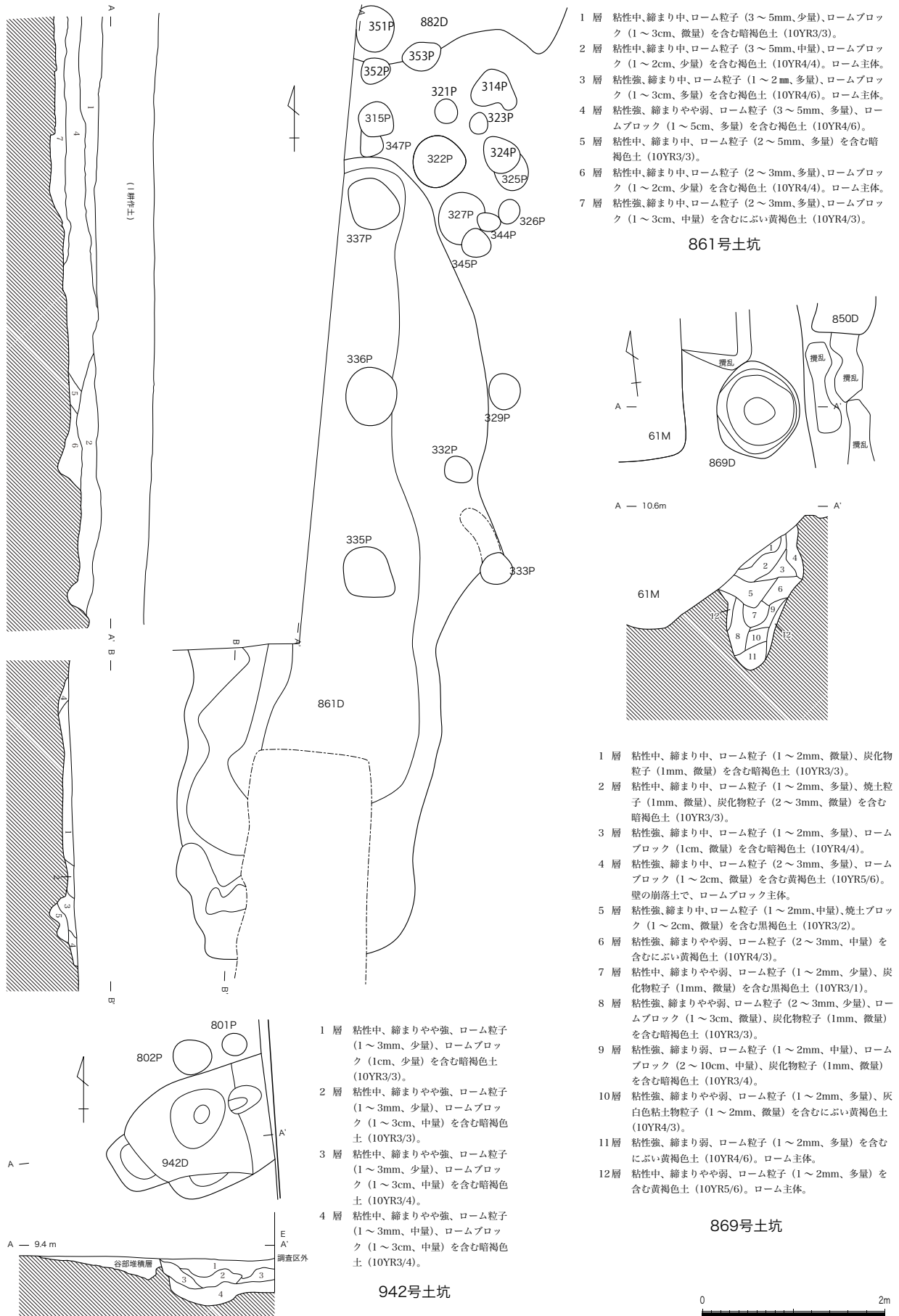
遺構(第82図)



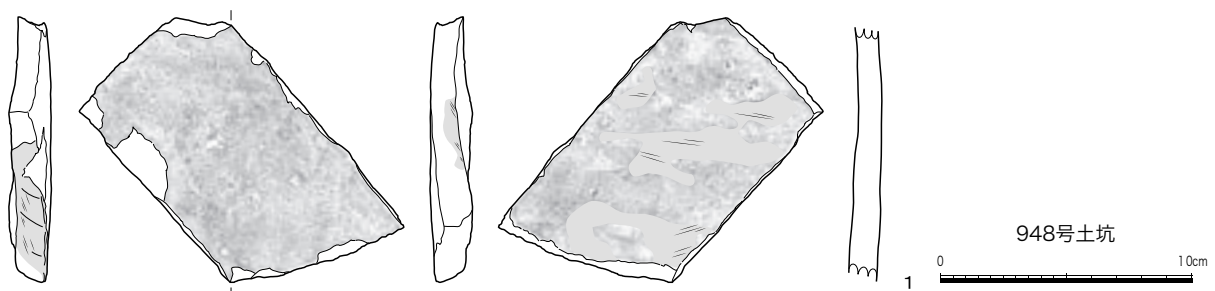
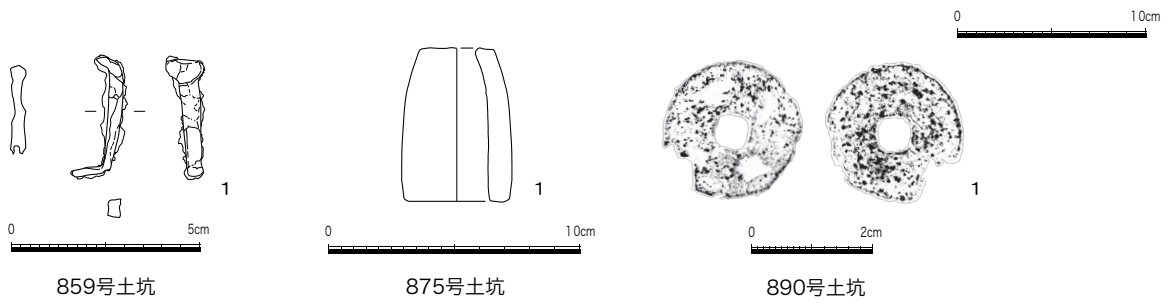
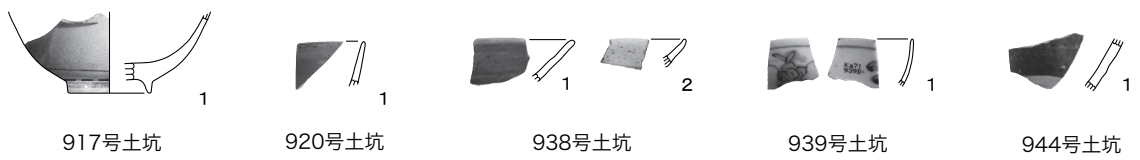
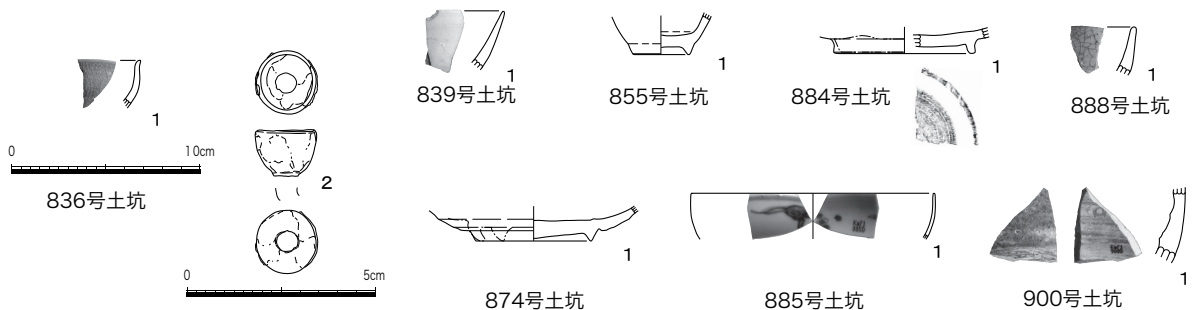
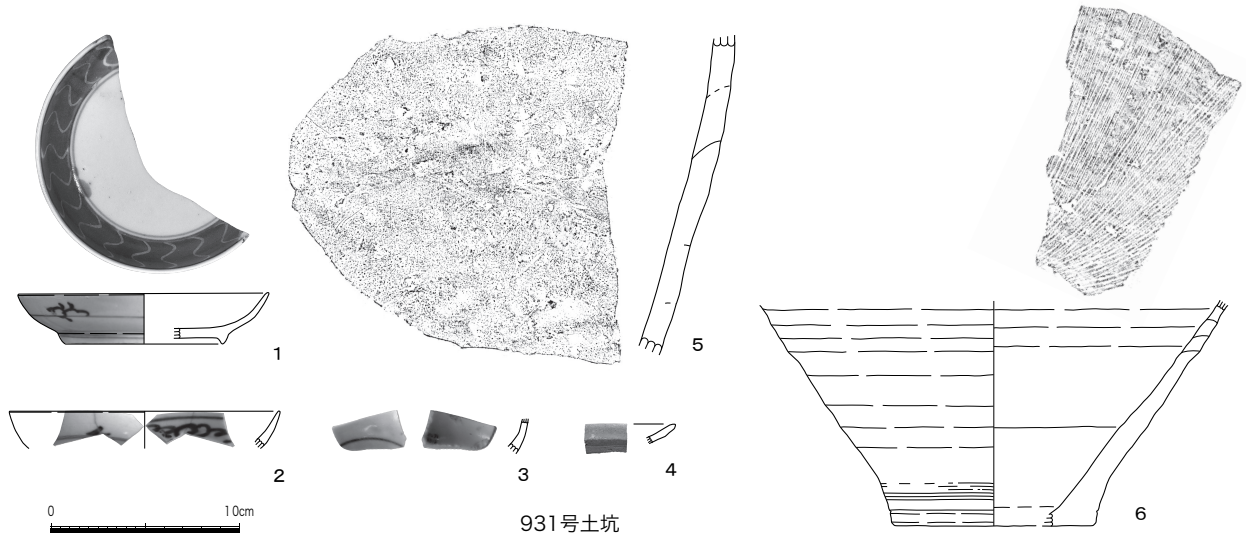
865号土坑

- 1層 粘性やや弱、締まりやや弱、ローム粒子(1~3mm、中量)、ロームブロック(1~3cm、中量)を含む暗褐色土(10YR3/3)。
- 2層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子(1~3mm、少量)、ロームブロック(1~3cm、少量)を含む黒褐色土(10YR3/2)。
- 3層 粘性やや弱、締まり弱、ローム粒子(1~3mm、多量)、ロームブロック(3~10cm、多量)を含む黄褐色土(10YR5/6)。ローム主体。

第81図 土坑D群2(1/60)



第82図 土坑D群3 (1/60)



第83图 B群・C群・D群土坑出土遺物 (1 / 2 · 1 / 3 · 1 / 4 · 4 / 5)

[位置] K・L-11 グリッド。

[構造] 皿状の掘り込み。谷の落ち込みに伴う自然の落ち込みか。70×56 cm、深さ 17 cmの楕円形、38×27 cm、深さ 23 cmの楕円形の凹みを検出。平面不整形、断面概ね皿形、坑底は凹凸著しい。規模：不明×1.29m。深さ：43 cm。長軸方位：N－66°－E。覆土：単層。ロームを含む暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世。

E群 地下室・地下坑

1類 1 豎坑1 主体部タイプ

834 号土坑

遺構 (第 84 図)

[位置] E-11、F-11・12 グリッド。

[構造] 中世の 58 号溝跡を切る。近世の 840 号土坑・9 号ピット、中世の 122 号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。122 号ピットは天井部より検出された。入口豎坑部：開口部は隅丸方形を呈し、1.24×1.21m を測る。坑底面はほぼ平坦で、方形を呈し、0.81×0.77m を測る。主体部との連絡スロープ状で、主体部との比高差 21 cm を測る。坑底面深さは 177～250 cm を測る。主体部：底面は平坦で方形を呈し、2.45×2.21m・天井部までの高さは 1.36～1.91m を測る。側壁面はやや内傾して立ち上がり、天井部はアーチ形を呈すと推測される。長軸方位：N－79°－W。覆土：ローム粒を含む暗褐色土。上層の一部で天井部、下層の一部で豎坑覆土が室内へ崩落した土が確認された。

[遺物] 鉄製品が出土した他、縄文土器が出土したのみであった。

[時期] 時期を推定できる遺物は確認できなかったが、当地の土地利用の歴史的環境から近世と推測される。

遺物 (第 85 図、第 43 表)

鉄製刀子の一部 (1) と考えられる。

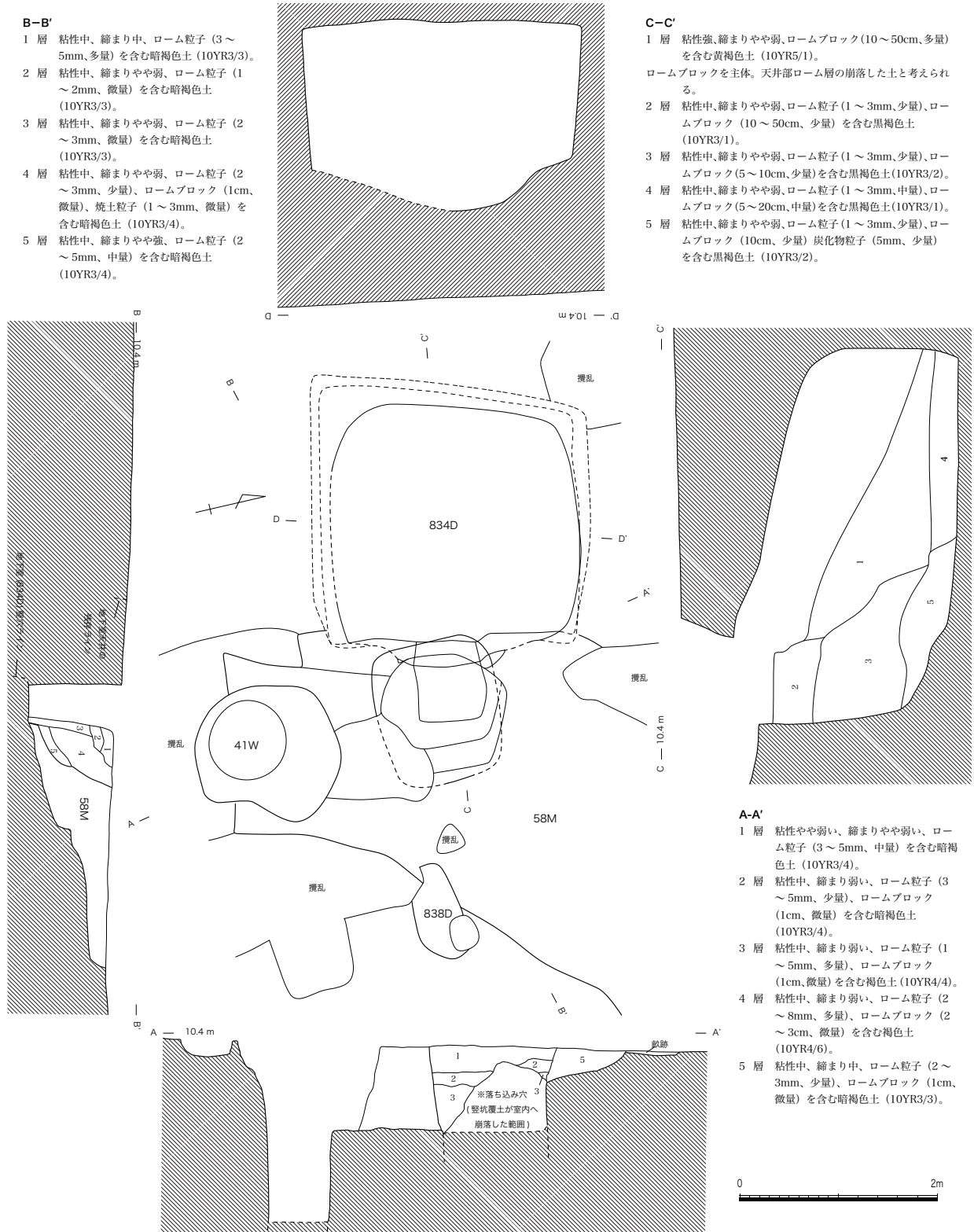
845 号土坑

遺構 (第 86 図)

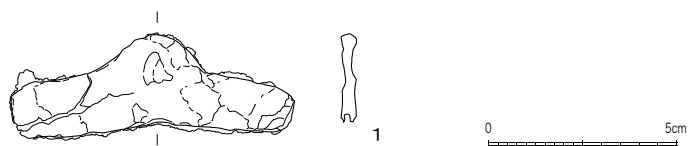
[位置] D・E-14・15 グリッド。

[構造] 中世の 59 号溝跡を切り、近代の 60 号溝跡に切られる。西側は調査区外である。入口豎坑部：開口部・坑底面の詳細は不明。坑底面深さは 326 cm を測る。残存部の上端の形状は調整が粗い不整楕円形で、地下の長軸に対し概ね垂直方向に長軸をとる。主体部：底面残存部は平坦で不整楕円形を呈し、3.36×26.9m・天井部まで高さは残存部で 2.03m を測る。南側は崩落防止のため未掘削。壁面は四方とも上方に向けて広がる。天井部はアーチ形を呈すと推測される。壁面には足掛け穴と思われる小横穴が 8 か所確認できた。長軸方位：(下端) N－86°－W、(上端) N－3°－E。覆土：上層はローム粒子とロームブロックを含む暗褐色土を基調とし、黒色土粒子を含む場合もある。下層はローム粒子とロームブロックの混合土が主体となる。備考：59 号溝跡から流れこんだと考えられる砂利が確認された。

[遺物] 陶器、砥石、板碑、二枚貝が出土した他、中世の陶器、かわらけも出土したが、重複す



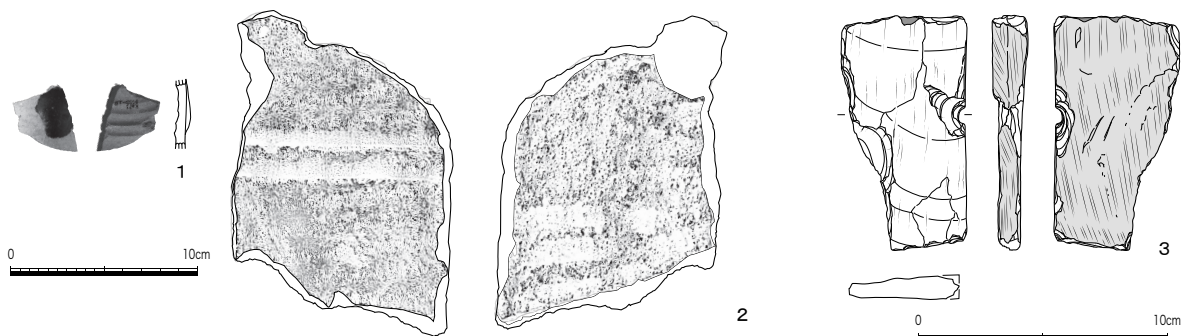
第84図 土坑E群1類834号土坑 (1/60)



第85図 土坑E群1類834号土坑出土遺物 (1/2)



第86図 土坑E群1類845号土坑1 (1/60)



第87図 土坑E群1類845号土坑出土遺物 (1/3・1/4)

- 1層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2～3mm、微量)、黒色土粒子 (2～3mm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。耕作による攪乱を受けている。
- 2層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1～3mm、少量)、黒色土粒子 (2～5mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 3層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (3～5mm、微量)、ロームブロック (1cm、微量)、黒色土粒子 (2～5mm、少量)、小礫 (2～5cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～3mm、微量)、ロームブロック (1～2cm、微量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (3～5mm、多量)、ロームブロック (1～2cm、少量)、黒色土粒子 (2～5mm、少量)、小礫 (2～5cm、微量) を含む褐色土 (10YR4/4)。ローム主体。
- 6層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (3～5mm、少量)、ロームブロック (1～2cm、少量)、黒色土粒子 (2～5mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 7層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1～2mm、少量)、ロームブロック (1～2cm、微量)、黒色土粒子 (2～5mm、少量) を含む黒褐色土 (7層 5YR2/3)。
- 8層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (3～5mm、多量)、ロームブロック (1～4cm、中量)、黒色土粒子 (2～5mm、少量) を含む褐色土 (10YR4/6)。ローム主体。
- 9層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～3mm、少量)、小礫 (1～2cm、微量)、黒色土粒子 (2～5mm、少量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 10層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2～3mm、多量)、ロームブロック (2～5cm、少量)、黒色土粒子 (2～5mm、少量) を含む暗褐色土 (7層 5YR3/3)。
- 11層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2～5mm、少量)、褐色土粒子 (2～5mm、少量) を含む黒褐色土 (7層 5YR3/1)。
- 12層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (3～5mm、少量)、ロームブロック (1～3cm、微量)、小砂利 (1～3cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 13層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2～3mm、微量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。
- 14層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (3～5mm、少量)、ロームブロック (1～2cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。
- 15層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2～5mm、中量) を含む黒褐色土 (7層 5YR3/1)。
- 16層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2～5mm、多量)、ロームブロック (2～3cm、少量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。
- 17層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2～3mm、多量)、ロームブロック (1cm、微量)、黒色土ブロック (2～3cm、微量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。
- 18層 粘性強、締まり弱、ローム粒子 (2～5mm、多量)、ロームブロック (1～2cm、微量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。ローム土を主体とする黒色土との混合土。
- 19層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2～3mm、多量)、ロームブロック (5～30cm、多量) を含む暗褐色土 (10YR3/3)。ロームブロックは天井の崩落土で、ローム土を主体とし黒色土が少量混じる。
- 20層 粘性強、締まり弱、ローム粒子 (1～2mm、多量)、ロームブロック (5～20cm、多量) を含む暗褐色土 (10YR5/6)。天井の崩落土で、ロームブロックとローム土との混合した土層。
- 21層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (2～3mm、多量)、ロームブロック (1～2cm、微量)、黒色土ブロック (2～5cm、多量) を含む黄褐色土 (10YR5/4)。ローム土主体で黒色土がブロックに混入した土層。
- 22層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2～3mm、多量)、ロームブロック (1～2cm、微量) を含む暗褐色土 (7層 5YR3/3)。
- 23層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (2～5mm、多量)、ロームブロック (2～3cm、少量) を含む暗褐色土 (7層 5YR3/3)。ローム土主体で少量の黒色土が層状に混入した土層。
- 24層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2～3mm、多量)、ロームブロック (5～20cm、中量) を含む黄褐色土 (10YR5/4)。ローム主体。
- 25層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (3～5mm、少量)、ロームブロック (2～3cm、微量)、小砂利 (1～2cm、微量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。
- 26層 粘性強、締まり弱、ローム粒子 (1～2mm、少量)、ロームブロック (1cm、微量) を含む暗褐色土 (10YR3/4)。
- 27層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (3～5mm、多量)、ロームブロック (1cm、少量) を含む黒褐色土 (7層 5YR3/2)。ローム土と黒色土の混合土層。
- 28層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2～5mm、多量)、ロームブロック (1～2cm、中量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。ローム主体。
- 29層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (2～3mm、多量) を含む黄褐色土 (10YR5/8)。ローム主体。
- 30層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1～2mm、微量)、灰色粘土粒子 (1～2mm、中量)、小砂利 (0.5～2cm、多量) を含む褐色土 (10YR5/8)。
- 31層 粘性強、締まり弱、ローム粒子 (1～2mm、多量)、ロームブロック (1～2cm、微量) を含む褐色土 (10YR4/6)。ローム主体。
- 32層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2～3mm、微量)、ロームブロック (1～2cm、微量) を含む黄褐色土 (10YR4/3)。
- 33層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2～3mm、多量)、ロームブロック (1cm、中量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。ローム土と黒色土の混合層。
- 34層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、少量)、小砂利 (1～2cm、多量) を含む黒褐色土 (10YR3/2)。小砂利を多量に含む。当初は礫床と考えたが、天井崩落ロームの上層となるため、埋没時の流れ込みである。他の層と同様に、西側から東に向かって傾いており、人為的に戻してある。
- 35層 粘性強、締まりやや弱、ローム粒子 (3～5mm、多量)、ロームブロック (1cm、多量) を含む暗褐色土 (10YR4/4)。ローム主体。
- 36層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2～3mm、多量) を含む黄褐色土 (10YR5/4)。
- 37層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2～3mm、多量) を含む黄褐色土 (10YR3/1)。
- 38層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2～3mm、多量)、ロームブロック (1～3cm、多量) を含む黄褐色土 (10YR5/6)。ローム粒とロームブロックの混合土。
- 39層 粘性強、締まり強、ローム粒子 (2～3mm、多量)、ロームブロック (5～30cm、多量) を含む褐色土 (10YR4/6)。ローム粒とロームブロックの混合土。
- 40層 粘性強、締まりやや強、ローム粒子 (2～3mm、多量)、ロームブロック (1～3cm、多量) を含む褐色土 (10YR4/6)。
- 41層 粘性強、締まり強、ローム粒子 (3～5mm、多量)、ロームブロック (1～3cm、多量) を含む褐色土 (10YR5/6)。ローム粒とロームブロックの混合土。
- 42層 粘性強、締まりやや強、ローム粒子 (2～3mm、少量)、ロームブロック (2～3cm、中量) を含む褐色土 (10YR4/1)。ローム粒とロームブロックの混合土。
- 43層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2～3mm、多量)、ロームブロック (1～2cm、中量) を含む褐色土 (10YR4/6)。ローム主体。
- 44層 粘性強、締まりやや強、ローム粒子 (1～2mm、少量) を含む褐色土 (10YR4/1)。ローム主体。

第88図 土坑E群1類845号土坑2

る59号溝跡の流れ込みと考えられる。

【時期】 時期を推定できる遺物は確認できなかったが、当地の土地利用の歴史的環境から近世と推測される。

遺物 (第87図、第40・44表)

陶器(瓶か)胴部(1)、板碑上半部(2)、緑泥片岩製の砥石(硯か)(3)である。砥石の表面には細く平坦な砥面が残るが、この面に対して細い工具で敲打することで一部に凹部が作り出されている。

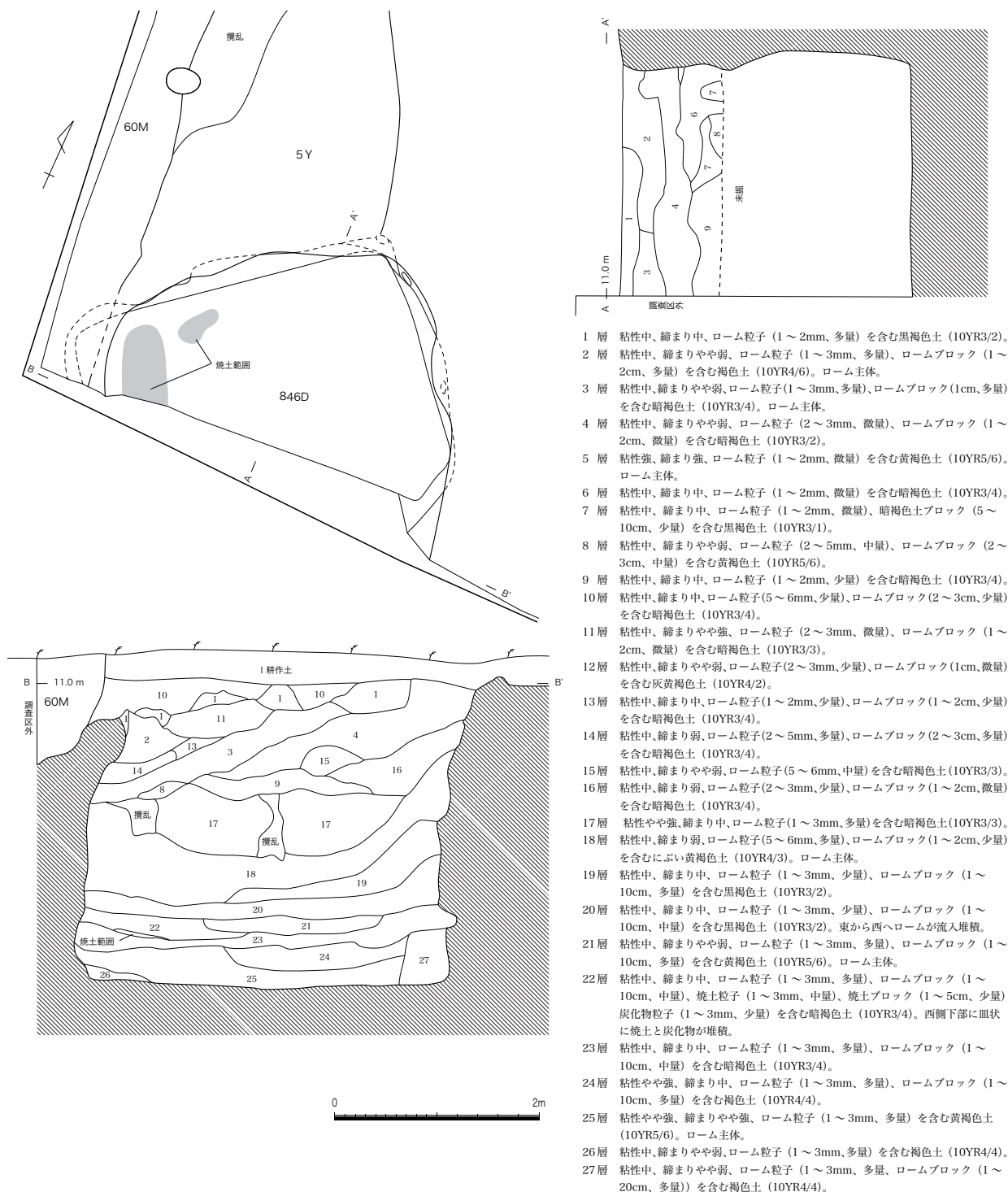
846号土坑

遺構 (第89図)

【位置】 E・F-16グリッド。

【構造】 弥生時代の6号住居を切り、近代の60号溝跡に切られる。南側は調査区外である。入口竪坑部：開口部・坑底面の詳細は不明。坑底面深さは324cmを測る。残存部の上端の形状は調整が粗い不整形。主体部：底面残存部は平坦で不整形を呈し、3.25×2.53mを測る。南側は崩落防止のため未掘削。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。西側で焼土の堆積が確認された。壁面には足掛け穴と思われる小横穴が2カ所確認できた。長軸方位：不明。覆土：ローム粒子とロームブロックを含む暗褐色土を基調とし、西側下層に皿状に焼土と炭化物が堆積。

【遺物】 中世のかわらけ、灰釉陶器、須恵器、土師器などが出土したのみであった。



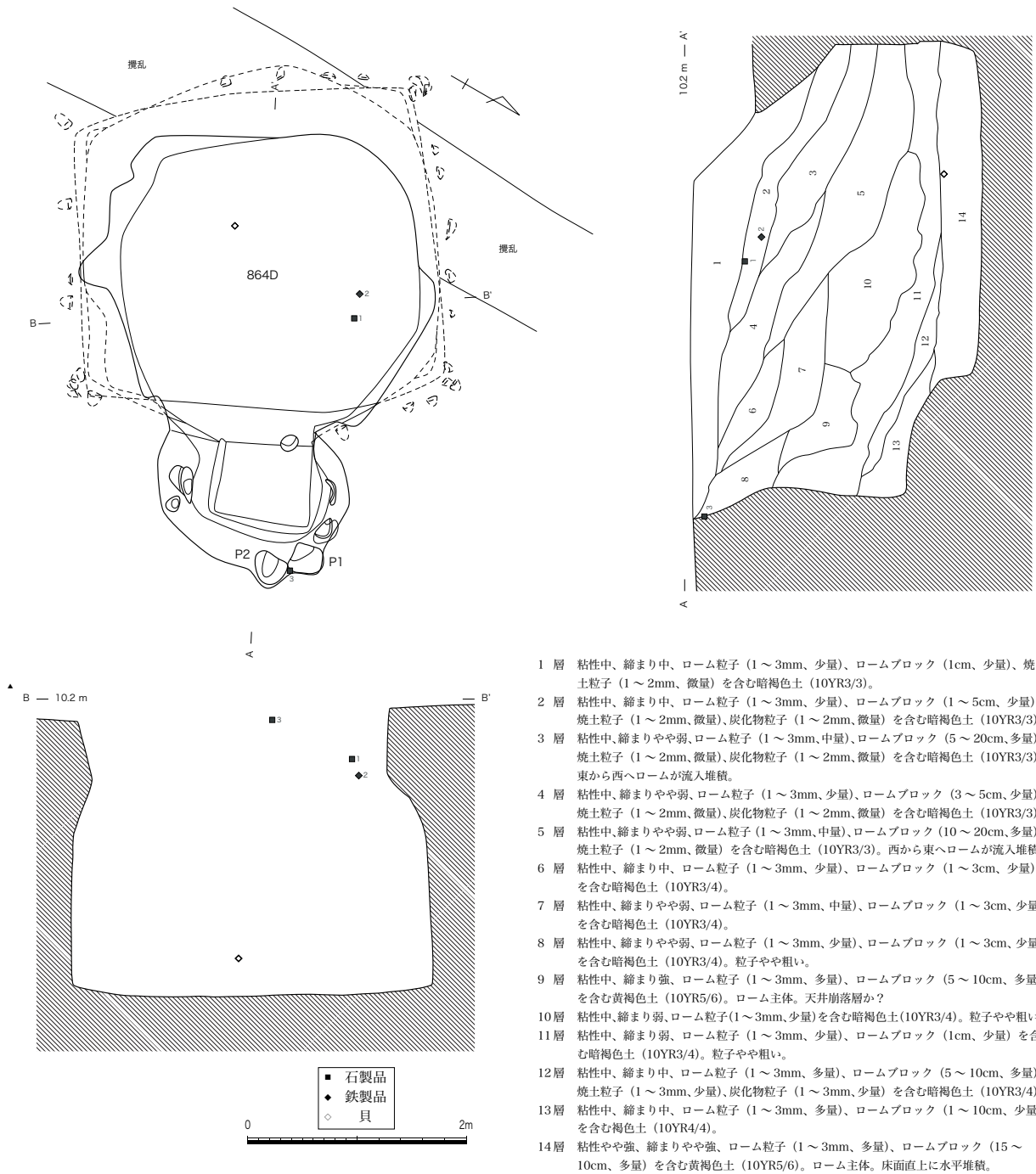
第89図 土坑E群1類846号土坑 (1/60)

【時期】 時期を推定できる遺物は確認できなかったが、当地の土地利用の歴史的環境から近世と推測される。

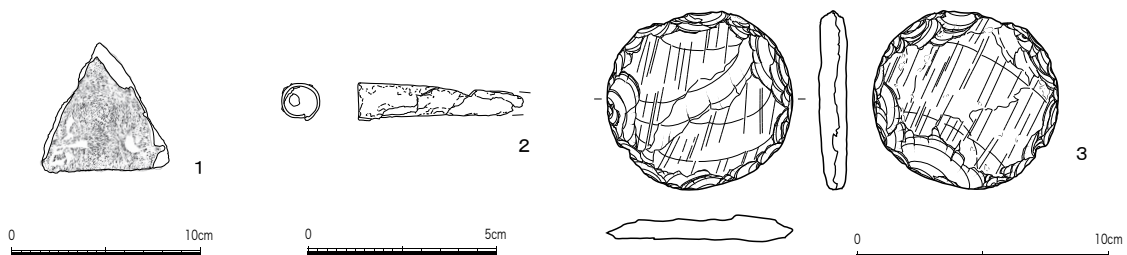
864号土坑

遺構 (第90図)

【位置】 F・G-9・10グリッド。



第90図 土坑E群1類864号土坑 (1/60)



第91図 土坑E群1類864号土坑出土遺物 (1/2・1/3・1/4)

【構造】 中世の145号ピットを切り、近世の173号ピットに切られる。入口竪坑部：開口部の詳細は不明。坑底面はほぼ平坦で、長方形を呈し、0.87×0.74mを測る。主体部との連絡奥に向けて緩やかに下降し35cmの段差を持つ。坑底面深さは2.04mを測る。壁面には足掛け穴と思われる小横穴が5カ所確認できた。上端で0.34×0.31m深さ52cm、0.31×0.26m深さ52cmのピットを検出。**主体部**：底面は平坦で方形を呈し、3.29×2.94m・天井部までの高さは壁面際の残存部で1.83mを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。天井部はアーチ状と推測される。壁面には足掛け穴と思われる小横穴が26カ所確認できた。**長軸方位**：N-88°-W。**覆土**：上層はローム粒子、ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む暗褐色土を基調とする。床面直上でローム主体層が水平に堆積する。

【遺物】 石製品・金属製品・板碑・鉄滓が出土した。

【時期】 時期を推定できる遺物は確認できなかったが、当地の土地利用の歴史的環境から近世と推測される。

遺物 (第91図、第43・44表)

板碑片(1)、真鍮製煙管の吸口付近(2)、緑泥片岩製の円盤形石製品(3)である。板碑の様子は花瓶の一部と考えられる。石製品は円形に成形されたもので、表裏面には暗褐色～黒褐色を呈する付着物が広く付着している。

878号土坑

遺構 (第92図)

【位置】 F・G-14・15グリッド。

【構造】 弥生時代の6号住居を切る。入口竪坑部：開口部の詳細は不明。坑底面はほぼ平坦で、方形を呈し、1.05×1.04mを測る。主体部との連絡スロープ状で、主体部との比高差35cmを測る。坑底面深さは218～230cmを測る。壁面には足掛け穴と思われる小横穴が4カ所確認できた。**主体部**：底面は平坦で方形を呈し、2.84×2.83m・天井部までの高さは壁面際の残存部で1.96mを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。壁面には足掛け穴と思われる小横穴が13カ所確認できた。底面では0.85×0.42m・深さ44cm、0.78×0.37m・深さ47cm、1.1×0.61m・深さ50cmの楕円あるいは長方形のピットを北東を除く各隅で検出。奥壁・側壁沿いに幅0.43m、深さ0.32mの周溝を検出。**長軸方位**：N-3°-E。**覆土**：ローム粒子とロームブロックを含む暗褐色土を基調とし、竪坑覆土は焼土粒子、炭化物粒子も含む。

【遺物】 縄文土器が出土したのみであった。

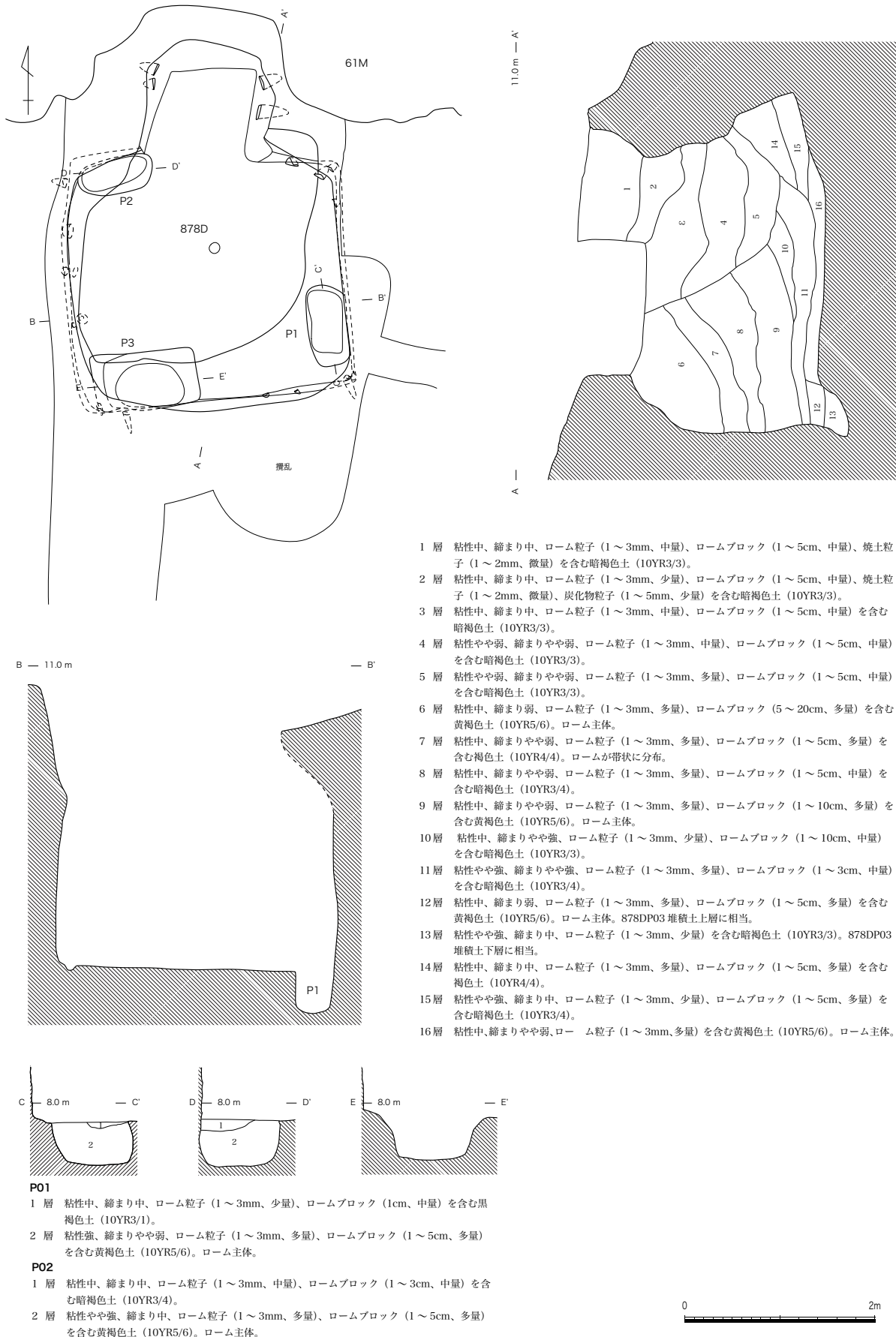
【時期】 時期を推定できる遺物は確認できなかったが、当地の土地利用の歴史的環境から近世と推測される。

904号土坑

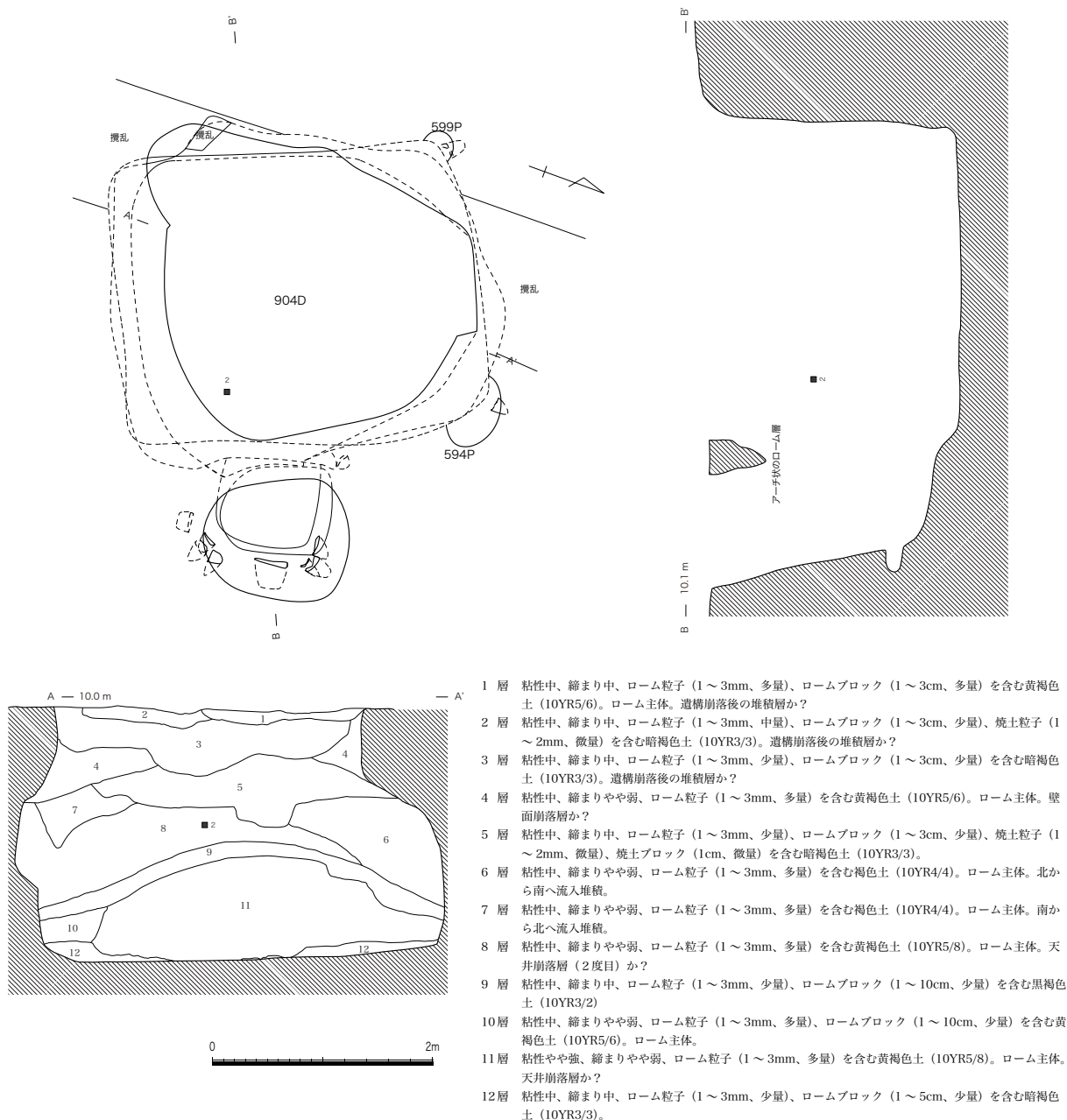
遺構 (第93図)

【位置】 I-12・13グリッド。

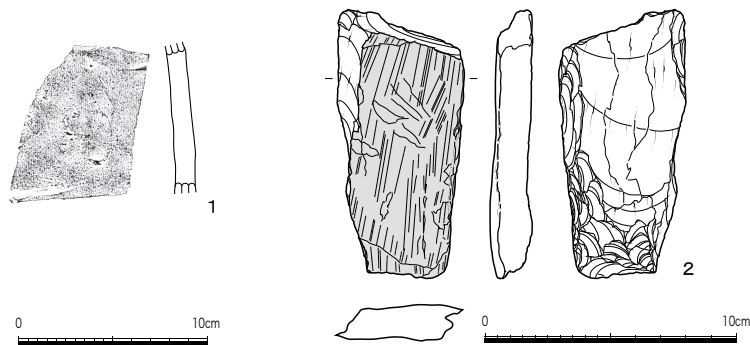
【構造】 入口竪坑部：開口部は楕円を呈し、1.32×1.11mを測る。坑底面はほぼ平坦で、隅丸方形を呈し、0.88×0.81mを測る。主体部との連絡ほぼ平坦で奥に向けて緩やかに下降し27cmの段差を持つ。坑底面深さは204cmを測る。壁面には足掛け穴と思われる小横穴が9カ所確認できた。**主体部**：



第92図 土坑E群1類878号土坑 (1/60)



第93図 土坑E群1類904号土坑 (1/60)



第94図 土坑E群1類904号土坑出土遺物 (1/3・1/4)

底面は平坦で主軸に対して横長の長方形を呈し、2.69×3.27m・壁面際の残存部とアーチ状に残ったロームから天井部まで高さ 1.83m を測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。天井部はアーチ状と推測される。壁面には足掛け穴と思われる小横穴が 2カ所確認できた。長軸方位：N－66°－E。覆土：ローム主体層が多く確認でき、天井崩落層や壁面崩落層と考えられる。

〔遺物〕 炆器（甕）、石製品その他、中世の陶器、かわらけ、焙烙が出土した。

〔時期〕 時期を推定できる遺物は確認できなかったが、当地の土地利用の歴史的環境から近世と推測される。

遺物（第94図、第40・44表）

常滑産甕胴部（1）、緑泥片岩製の砥石（2）である。砥石は、表面は緩やかな湾曲をもち一部に凹状の砥面を形成する。

（5）掘立柱建築遺構

本調査区で検出したピットで規則的な配列を抽出した結果、2基の建物跡が推測できた。そのうち1基は1列の柱跡のみのため、柵列の可能性もある。遺構の帰属時期については、中世の出土遺物も含まれるが、当時の土地利用状況から近世に建築されたものであると推測される。

9号掘立柱建築遺構

遺構（第95・96図）

〔位置〕 I・J-15・16 グリッド。

〔構造〕 427号・491号・492号・493号・494号・509号・435号・453号・456号・504号・478号・461号ピットによって成立する。また補助柱が存在した可能性もある。他遺構との重複はほとんど確認されなかった。規模：桁行5間×梁行1間型（面積約49㎡）。桁行の柱間2.1m。主軸方位：N－80°－W。

〔遺物〕 453号ピットから古銭、492号ピットから土師質土器が出土した。

〔時期〕 時期を推定できる遺物は確認できなかったが、当地の土地利用の歴史的環境から近世と推測される。

遺物（第97図、第41・45表）

建蓋窯産天目茶碗模倣の土師質土器碗（1）、寛永連寶（2）である。

柱穴列跡

遺構（第98図）

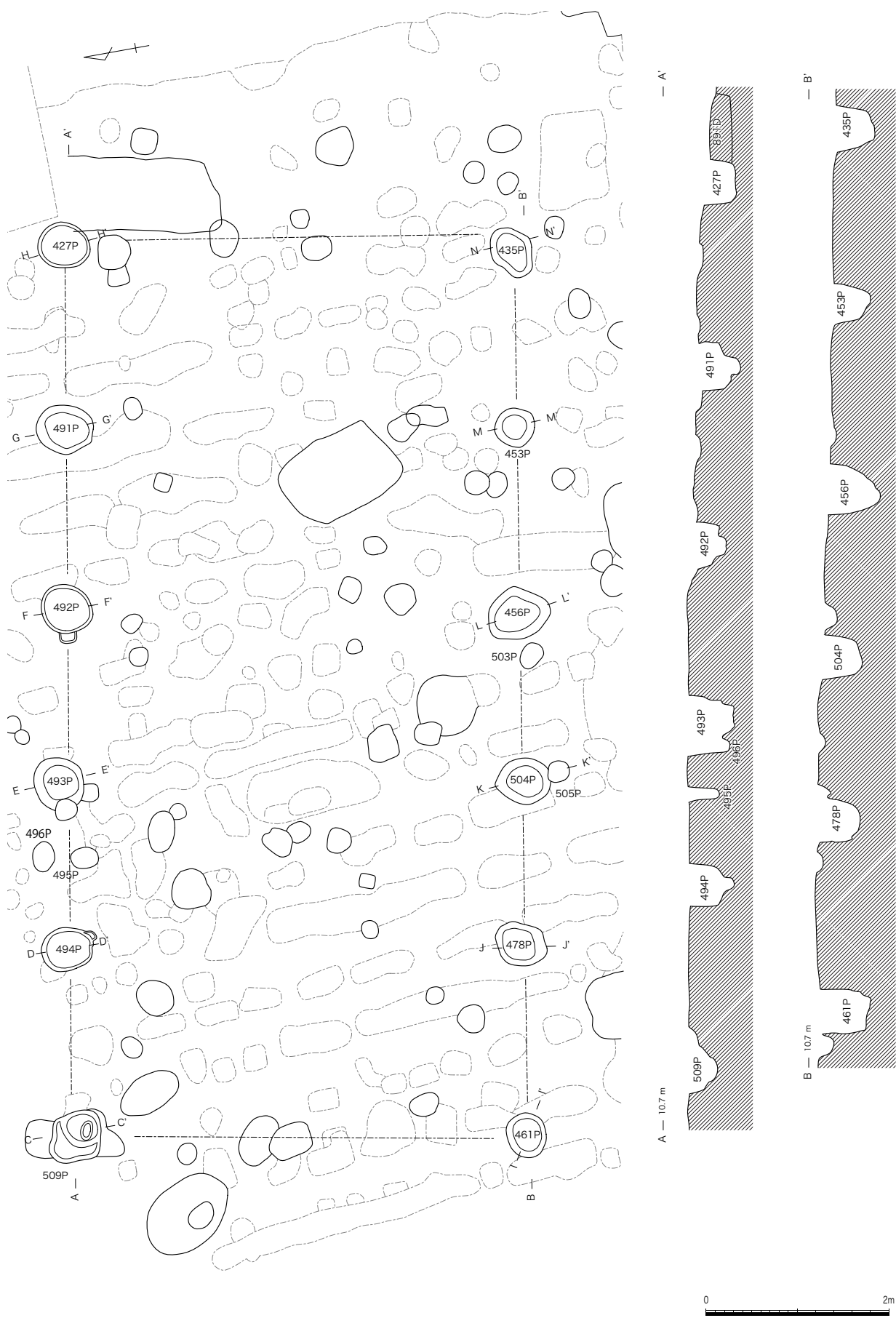
〔位置〕 H・I-16 グリッド。

〔構造〕 460号・468号・469号・470号・471号ピットによって成立する。規模：東西方向に2間の柱穴列が検出されたのみで柵列の可能性もある。柱間約2m。

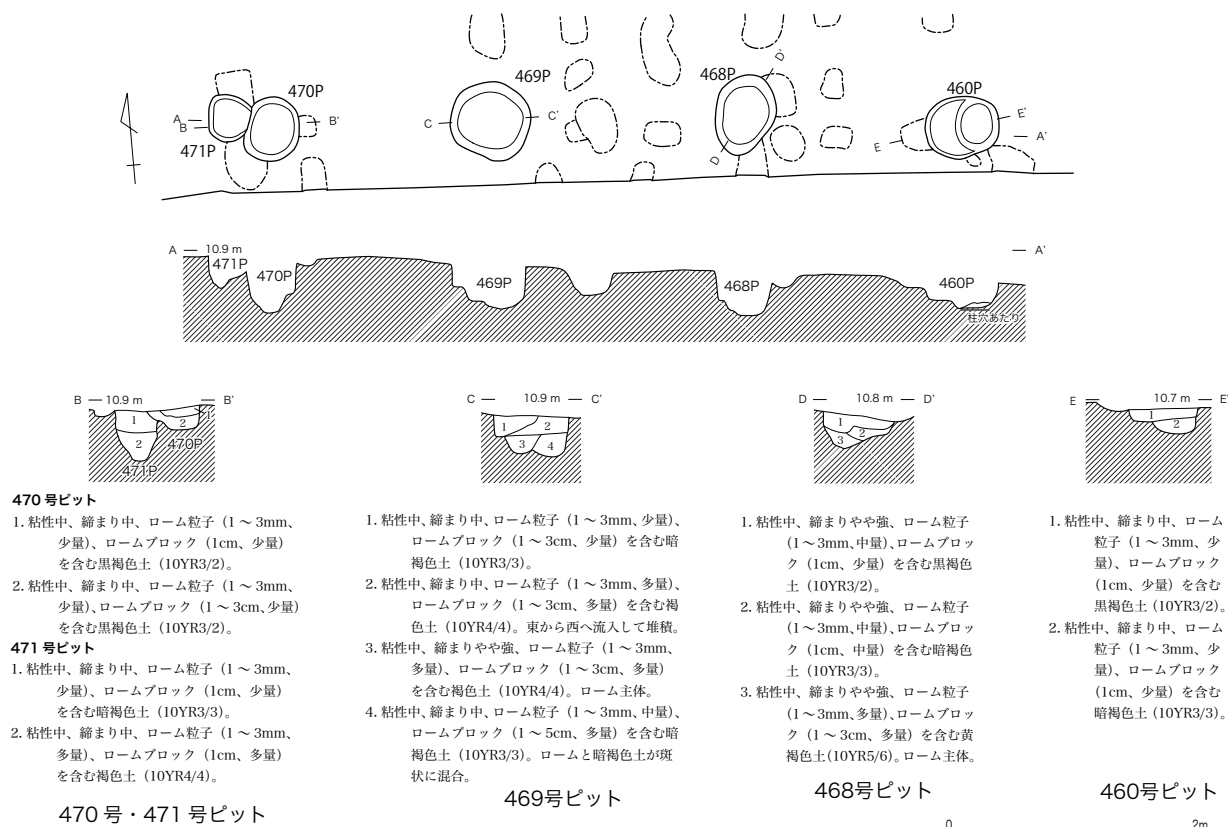
〔遺物〕 469ピットから転用砥石が出土した。

〔時期〕 時期を推定できる遺物は確認できなかったが、当地の土地利用の歴史的環境から近世と推測される。

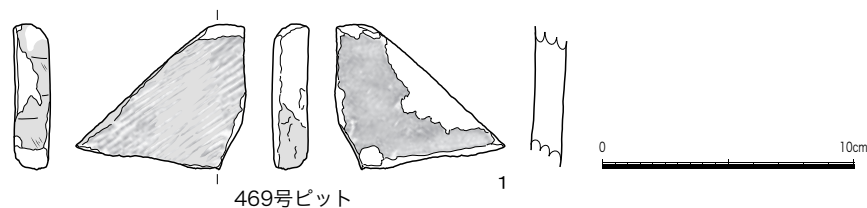
遺物（第99図、第42表）



第95図 9号掘立柱建築遺構1 (1/60)



第98図 柱穴列跡 (1/60)



第99図 柱穴列跡出土遺物 (1/3)

須恵器甕胴部の転用砥石 (1) である。主に外面と側面を使用したと推測される。

(6) ピット

遺物が出土したピットを中心に報告する。その他のピットの分布・計測値等は第103~109図、第34~39表に記載する。

32号ピット

遺構 (第100図)

[位置] F-14グリッド。

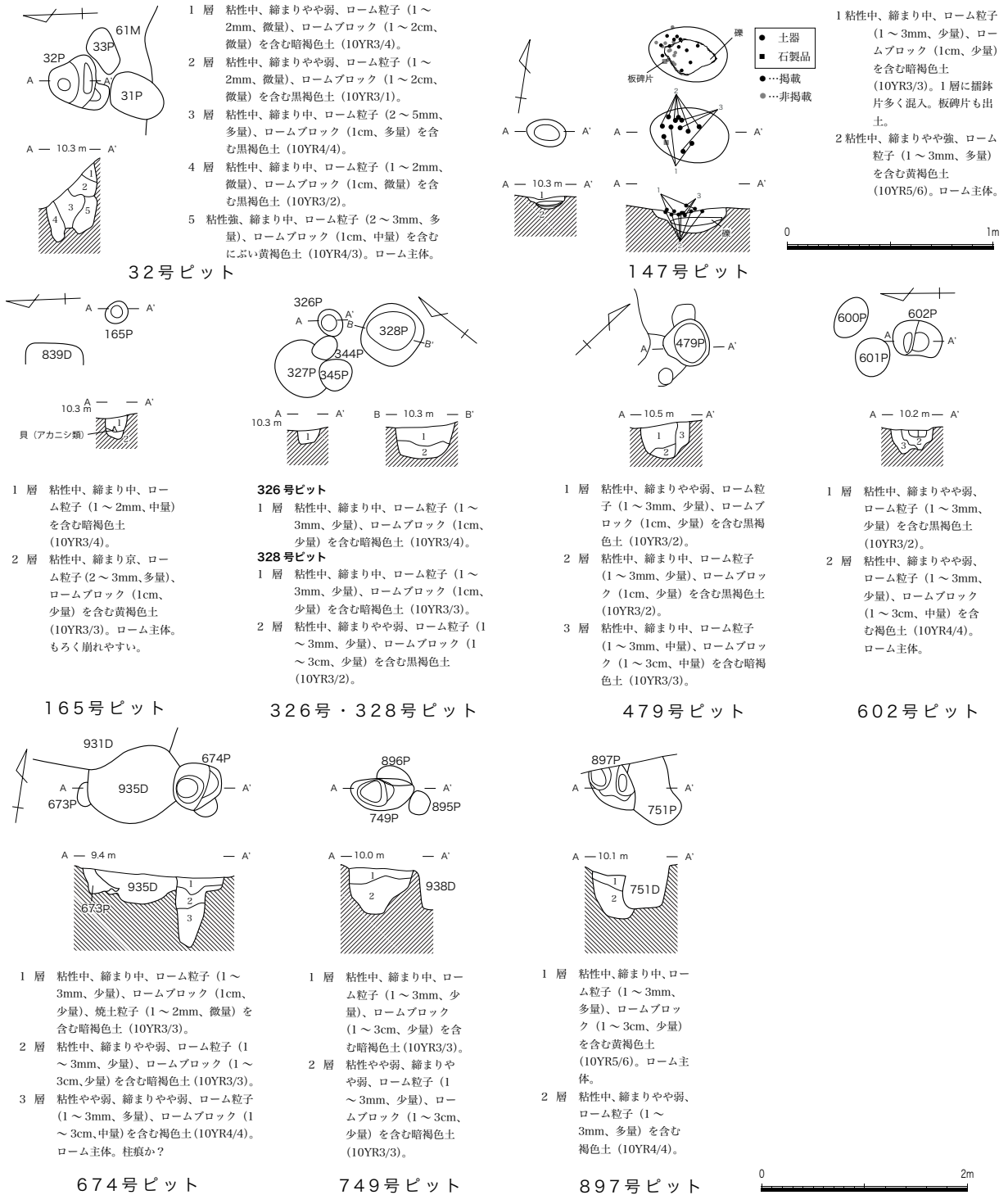
遺物 (第101図、第41表)

常滑産甕胴部 (1) が出土した。

147号ピット

遺構 (第100図)

[位置] G-10グリッド。



第100図 中世以降遺物出土ピット (1/30・1/60)

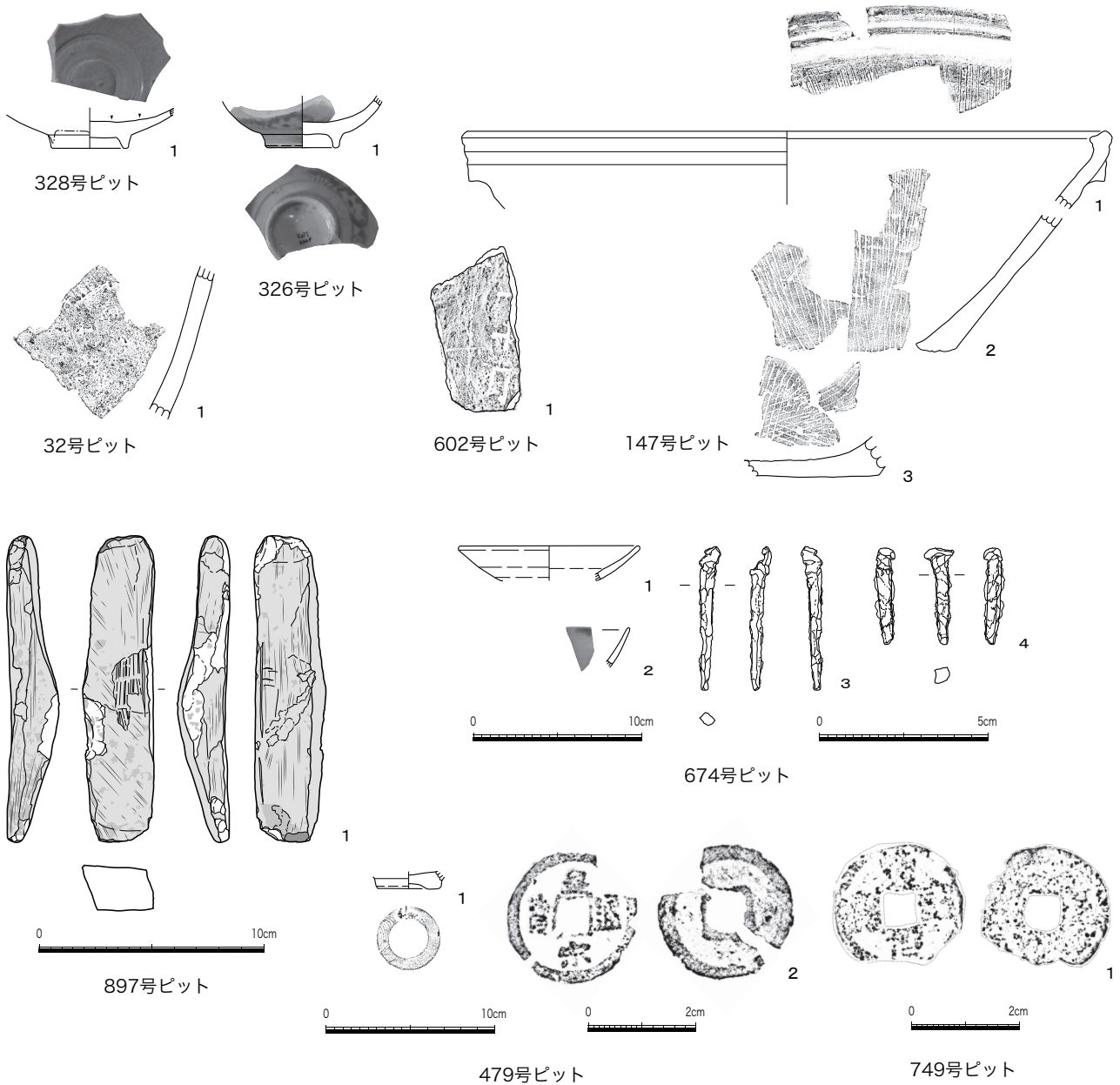
[所見] ピットの底に台座状の礫が出土し、その上層から鏝鉢と板碑の破片が出土。完形に接合はしなかったが、ほぼ1個体分の同一個体であると考えられる。

遺物 (第101図、第41表)

堺・明石産鏝鉢 (1~3) である。

165号ピット

遺構 (第100図)



第101図 中世以降ピット出土遺物（1／2・1／3・1／4・4／5）

[位置] F-9 グリッド。

[所見] 1層と2層の間からアカニシが出土した。

326号ピット

遺構 (第100図)

[位置] G-8 グリッド。

遺物 (第101図、第41表)

染付碗底部 (1) である。

328号ピット

遺構 (第100図)

[位置] G-8 グリッド。

遺物 (第101図、第41表)

瀬戸・美濃産陶器皿底部(1)である。

479号ピット

遺構 (第100図)

[位置] I-15、J-15 グリッド。

遺物 (第101図、第41・45表)

瀬戸産天目茶碗底部(1)、皇宋通宝(2)である。

602号ピット

遺構 (第100図)

[位置] H-13 グリッド。

遺物 (第101図、第44表)

板碑片(1)である。

674号ピット

遺構 (第100図)

[位置] K-10 グリッド。

遺物 (第101図、第41・43表)

染付碗口縁部(1)、かわらけ口縁部(2)、鉄製釘(3・4)と考えられる。

749号ピット

遺構 (第100図)

[位置] H・I-9 グリッド。

遺物 (第101図、第45表)

天聖元寶(1)である。

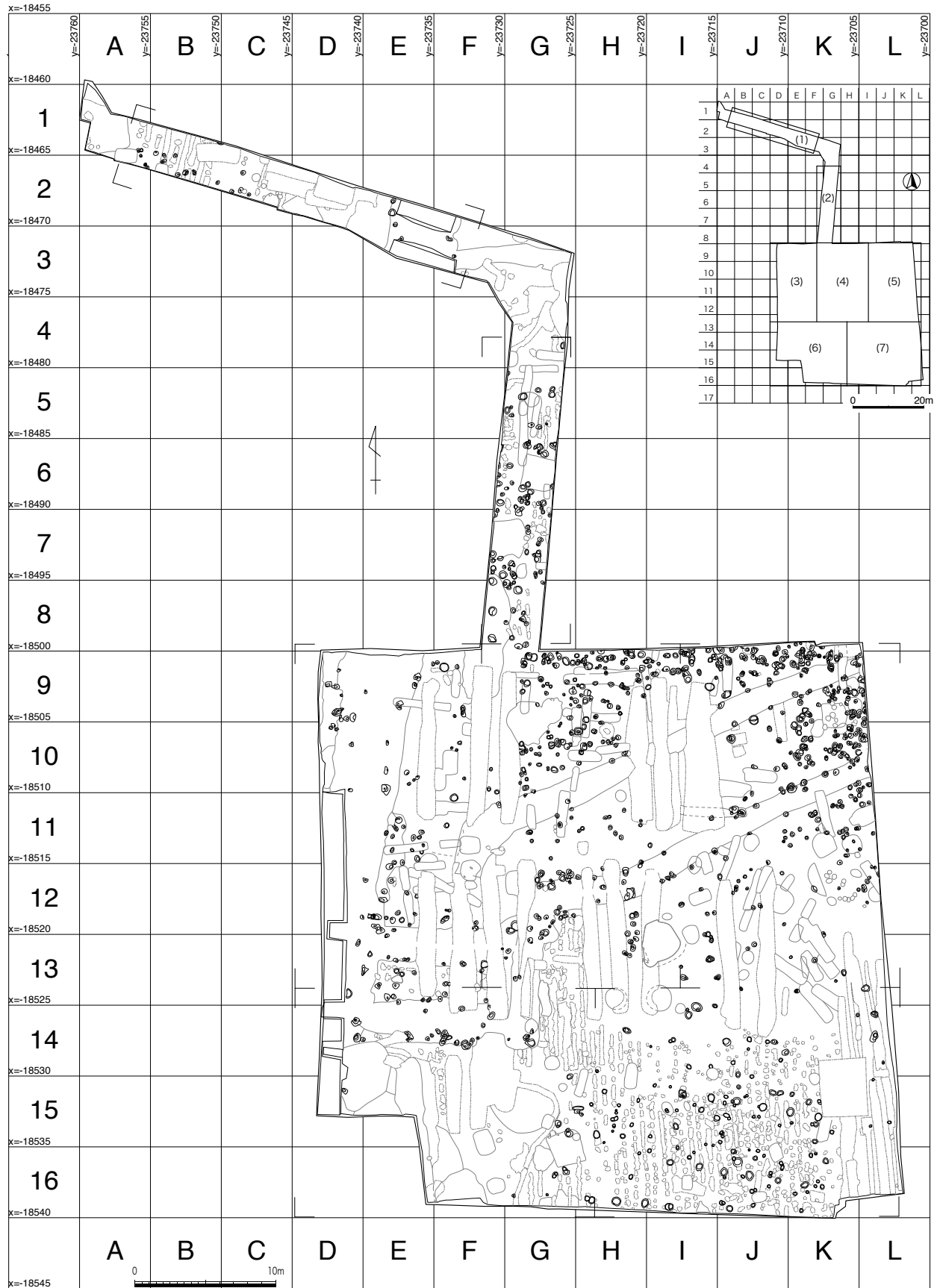
897号ピット

遺構 (第100図)

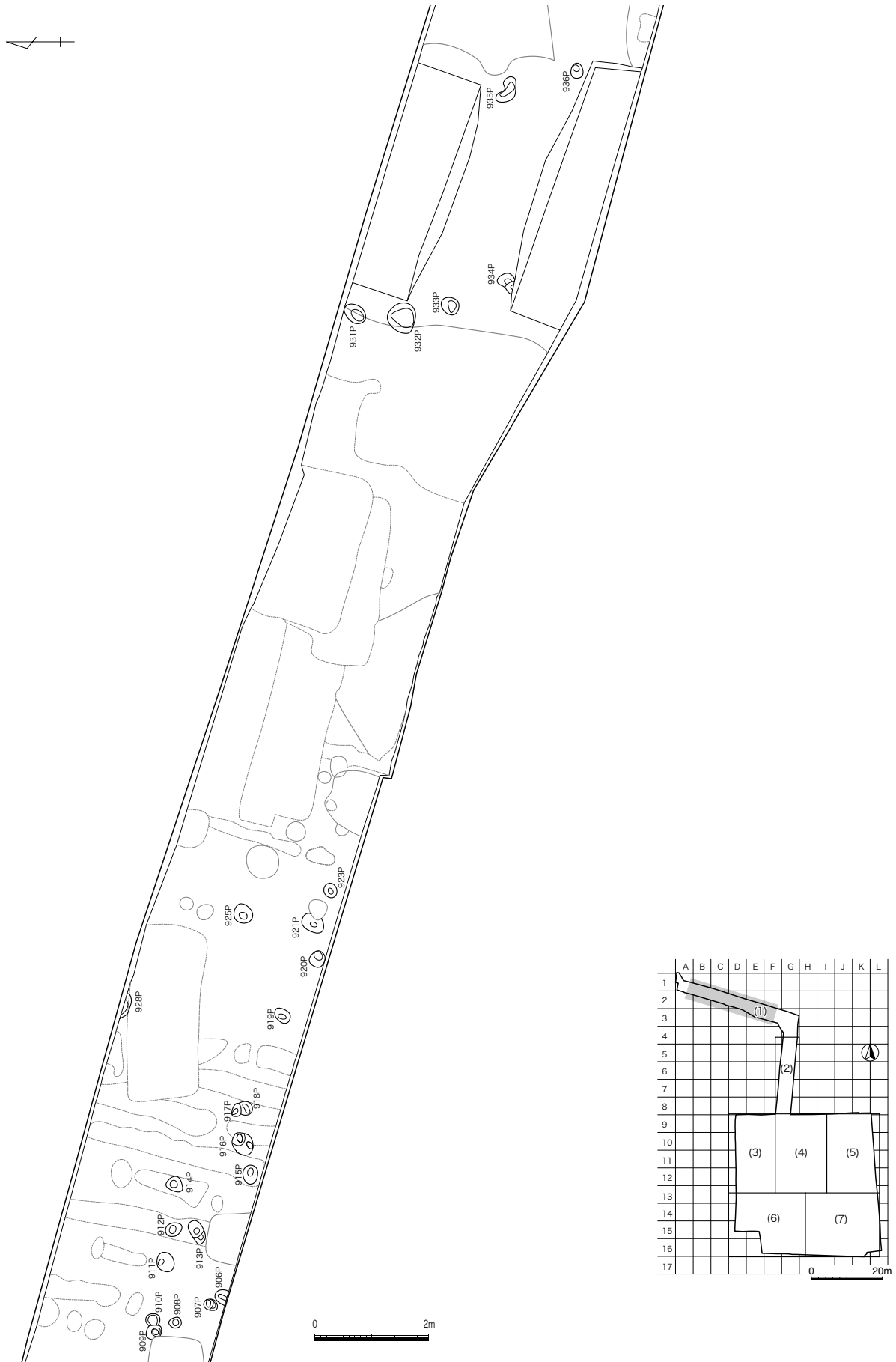
[位置] H-8・9 グリッド。

遺物 (第101図、第44表)

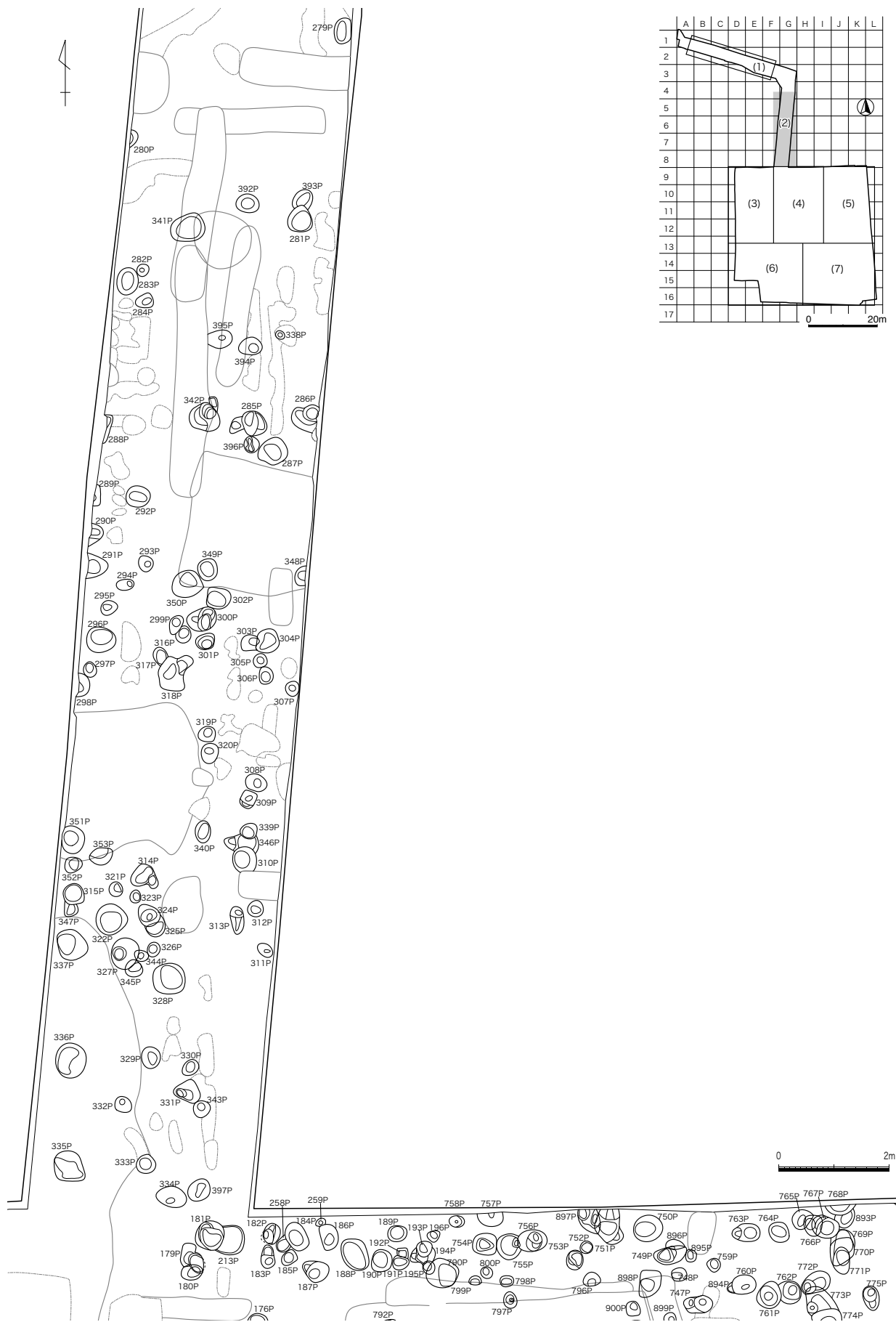
凝灰岩製の砥石(1)である。砥面は全面にわたる。表面以外は平坦な砥面をなし、長軸方向の擦痕が認められる。



第102図 中世以降ピット全体図（1／400）



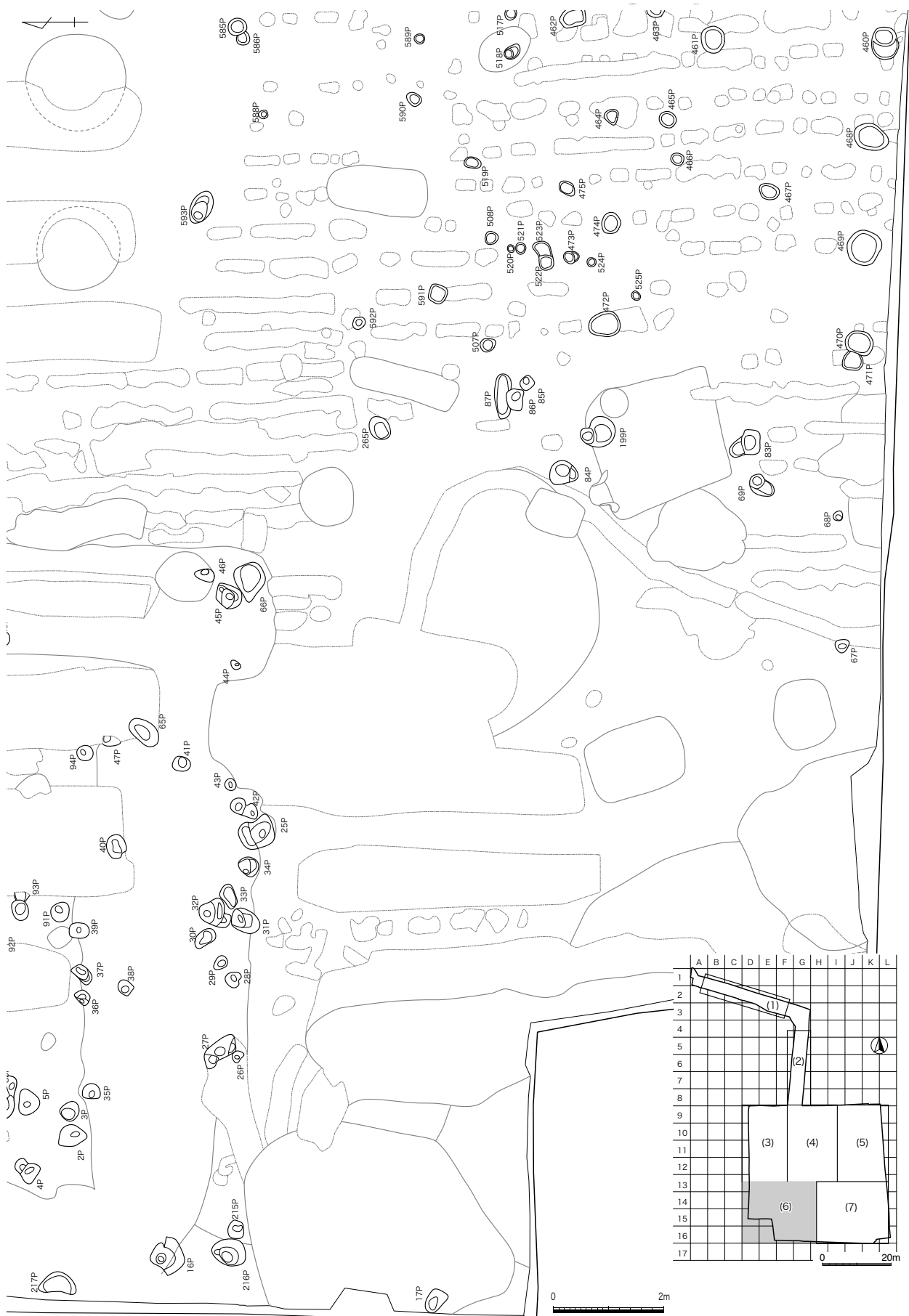
第103図 中世以降ピット1 (1/100)



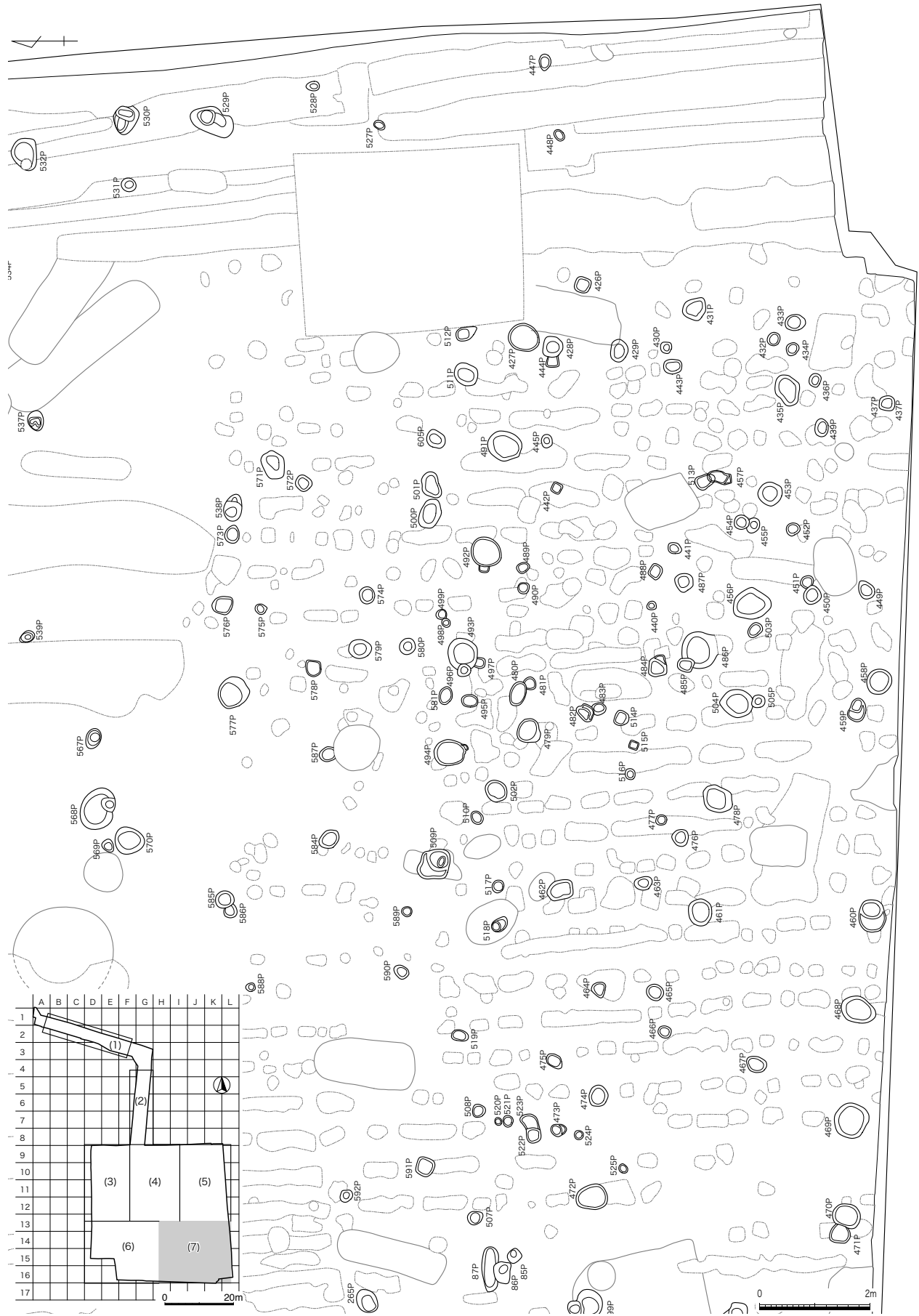
第104図 中世以降ピット2 (1/100)



第105図 中世以降ピット3 (1/100)



第108図 中世以降ピット6 (1/100)



第109図 中世以降ピット7 (1/100)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
1P	E-12	円形	42	40	70	4層	近世	
2P	E-13	不整形	53	40	71	2層	近世	
3P	E-13	不整形	37	41	55	2層	近世	
4P	E-13	不整形	45	38	68	2層	近世	
5P	E-13	隅丸三角形	47	37	40	2層	近世	
6P	E-13	楕円形	41	35	59	2層	近世	
7P	E-13	円形	36	33	19	1層	近世	
8P	E-13	円形	32	27	75	2層	近世	
9P	F-11	円形	34	34	31	2層	近世	
10P	F-11	不整形楕円形	42	26	40	1層	近世	
11P	G-11	円形	28	22	7	1層	近世	
12P	G-11	不整形	32	28	45	2層	近世	
13P	G-11	円形	34	31	59	1層	中世	
14P	G-10・11	不整形	31	26	19	1層	近世	
15P	G-11	不整形	24	22	27	1層	中世	
16P	D-14	不整形	70	63	97	7層	中世	
17P	D-15	不整形楕円形	46	32	85	3層	近世	
18P	G-12	円形	37	32	44	3層	近世	
19P	G-12	円形	47	43	42	3層	近世	
20P	G-12	不整形	34	30	34	3層	近世	
21P	G-12	不整形楕円形	56	40	36	3層	近世	
22P	G-12	楕円形	43	40	20	2層	近世	
23P	G-12	楕円形	36	27	15	1層	近世	
24P	F・G-13	楕円形	37	30	64	1層	中世	62号溝と併存か
25P	F-14	不整形	71	49	81	4層	近世	
26P	E-14	不整形楕円形	22	17	17	1層	中世	
27P	E-14	不整形	62	33	49	3層	中世	
28P	E-14	不整形	29	28	54	2層	中世	
29P	E-14	不整形楕円形	29	22	23	2層	中世	
30P	F-14	不整形楕円形	43	24	41	2層	中世	
31P	F-14	不整形楕円形	55	38	44	4層	中世	
32P	F-14	不整形	61	50	86	5層	中世	
33P	F-14	不整形楕円形	40	28	18	2層	中世	
34P	F-14	不整形	38	32	71	2層	中世	
35P	E-13	不整形	32	27	65	3層	中世	
36P	E-13	不整形	29	21	27	1層	中世	
37P	E-13	不整形楕円形	41	23	54	2層	中世	
38P	E-14	不整形	28	24	34	1層	中世	
39P	F-13	楕円形	37	28	48	4層	中世	
40P	F-14	不整形楕円形	43	35	46	4層	中世	
41P	F-14	不整形楕円形	32	26	31	2層	中世	
42P	F-14	不整形	53	28	47	1層	中世	
43P	F-14	円形	22	20	29	1層	中世	
44P	F・G-14	不整形楕円形	20	14	42	2層	中世	
45P	G-14	不整形	47	42	41	3層	中世	
46P	G-14	不整形楕円形	36	23	43	3層	中世	
47P	F-14・13	楕円形	34	不明	47	3層	中世	
48P	G-13	不整形楕円形	33	27	56	2層	中世	
49P	G-13	楕円形	27	22	42	3層	中世	
50P	F-13	不整形楕円形	23	19	16	2層	中世	
51P	G-13	隅丸三角形	33	28	63	4層	中世	
52P	G-12・13	不整形	68	47	68	4層	中世	
53P	G-12	楕円形	不明	29	61	2層	中世	
54P	G-12	不整形	35	33	58	1層	中世	
55P	G-12	楕円形	34	28	57	3層	中世	
56P	G-12	円形	31	31	84	2層	中世	
57P	G-12	不整形楕円形	27	18	15	1層	中世	
58P	G-12	隅丸方形	46	38	83	3層	中世	61号溝と併存か
59P	G-12	不整形	69	59	80	7層	中世	
60P	G-12	楕円形	不明	29	86	2層	中世	
61P	G-12	不整形楕円形	24	18	41	2層	中世	
62P	G-12	不整形	40	不明	21	2層	中世	
63P	G-13	不整形	43	36	78	3層	中世	
64P	G-12	不整形	39	34	53	3層	中世	
65P	F-14	楕円形	63	37	84	3層	中世	
66P	G-14	隅丸方形	64	53	41	5層	中世	
67P	G-16	隅丸三角形	26	24	36	3層	中世	
68P	G-16	不整形	19	17	25	1層	中世	
69P	G-16	不整形	50	34	29	3層	中世	
70P	F・G-12	楕円形	63	44	50	3層	中世	
71P	G-12	楕円形	73	不明	27	2層	中世	
72P	E-13	楕円形	27	19	32	2層	中世	
73P	E-13	楕円形	37	26	42	1層	中世	
74P	E-13	不整形	24	21	20	1層	中世	
75P	E-13	楕円形	29	21	33	2層	中世	
76P	F-13	隅丸三角形	25	21	15	1層	中世	
77P	F-13	不整形	53	不明	21	2層	中世	

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
78P	F-12	円形	不明	36	13	1層	中世	
79P	F-12	不整形楕円形	不明	30	75	3層	中世	
80P	E-12	楕円形	31	23	48	2層	中世	
81P	E-12・13	隅丸三角形	35	25	22	1層	中世	
82P	F-13	円形	17	16	15	1層	中世	62号溝と併存か
83P	G-16	不整形	64	47	32	3層	近世	
84P	G-15	不整形楕円形	52	45	33	3層	近世	
85P	H-15	隅丸方形	25	23	40	2層	近世	
86P	G・H-15	不整形	38	31	48	4層	近世	
87P	G・H-15	楕円形	82	31	16	1層	近世	
91P	F-13	不整形	38	34	52	2層	中世	
92P	F-13	楕円形	38	29	57	4層	中世	
93P	F-13	楕円形	不明	不明	31	1層	中世	
94P	F-13	円形	30	28	82	2層	中世	
95P	F-13	不整形楕円形	33	25	65	2層	中世	
96P	F-12	不整形	29	27	44	2層	中世	
97P	F-12	不整形	15	15	18	1層	中世	
98P	F-12	円形	25	21	23	1層	中世	
99P	F-12	不整形楕円形	73	34	69	2層	近世	
100P	E-12	楕円形	30	21	45	2層	中世	
101P	E-12	楕円形	26	21	37	2層	中世	
102P	E-12	不整形	37	36	56	4層	中世	
103P	E-12	不整形楕円形	45	37	48	2層	中世	
104P	E-12	不整形	29	25	21	1層	中世	
105P	G・H-12	不整形	37	31	51	3層	中世	61号溝と併存か
106P	H-11	円形	29	27	15	1層	中世	
107P	G・H-11	楕円形	28	23	27	2層	中世	
108P	G-11	円形	26	23	10	1層	中世	
109P	G-11	楕円形	42	34	42	3層	中世	
110P	G-11	不整形	29	24	24	1層	中世	
111P	G-11	不整形	25	25	12	2層	中世	
112P	G-11	不整形	26	25	35	1層	中世	
113P	G-12	不整形楕円形	56	43	48	4層	中世	
114P	G-12	円形	20	17	16	1層	中世	61号溝と併存か
115P	G-11	不整形楕円形	46	35	30	4層	中世	
116P	G-12	楕円形	42	36	32	2層	中世	
117P	F-13	不整形	43	34	51	3層	近世	
118P	E-12	不整形楕円形	不明	不明	28	2層	中世	
119P	E-12	楕円形	35	23	46	2層	中世	
120P	E-12	不整形楕円形	40	28	51	3層	中世	
121P	E-11	楕円形	47	37	35	3層	中世	
122P	E-11	楕円形	不明	27	30	1層	中世	
123P	G-10	円形	33	33	45	2層	中世	
124P	G-10	楕円形	53	40	42	1層	中世	
125P	G-10	不整形	28	18	16	1層	中世	
126P	G-10	楕円形	23	19	12	1層	中世	
127P	G-10	不整形楕円形	58	29	54	4層	中世	
128P	G-10	楕円形	33	24	21	2層	中世	
129P	G-10	不整形	24	20	37	1層	中世	
130P	G-10	楕円形	27	24	22	2層	中世	
131P	G-10	隅丸方形	45	35	36	3層	中世	
132P	G-10	楕円形	25	20	13	1層	中世	
133P	G-10	不整形楕円形	30	27	51	2層	中世	
134P	G-10	不整形	23	21	8	2層	中世	
135P	G-10	楕円形	22	19	13	1層	中世	
136P	G-10	不整形楕円形	46	29	68	3層	中世	
137P	G-10	隅丸三角形	51	49	35	2層	中世	
138P	G-10	隅丸三角形	30	22	16	1層	中世	
139P	G-10	楕円形	36	28	54	2層	中世	
140P	G-10	不整形	不明	42	68	4層	中世	
141P	G-10	不整形楕円形	不明	17	15	2層	中世	
142P	G-10	不整形楕円形	19	16	12	1層	中世	
143P	G-10	楕円形	27	22	20	2層	中世	
144P	G-10	不整形楕円形	34	32	34	3層	中世	
145P	G-10	不整形	38	35	35	2層	中世	
146P	G-10	不整形	不明	35	16	2層	中世	
147P	G-10	楕円形	38	26	8	2層	近世	台座状の礫と播磨出土
148P	G-10	不整形	34	30	35	2層	近世	
149P	F-10・11	不整形	35	31	40	3層	近世	
150P	F-10	楕円形	26	22	32	2層	近世	
151P	F-11	不整形	56	52	21	1層	近世	
152P	F-10	不整形	24	22	31	2層	近世	
153P	F-10	隅丸三角形	30	32	33	2層	近世	
154P	E-11	隅丸三角形	24	19	8	2層	近世	841号土坑と併存か
155P	E-11	楕円形	28	21	52	2層	近世	841号土坑と併存か
156P	E-11	不整形	39	35	42	2層	近世	
157P	E-11	楕円形	31	26	21	2層	近世	

第34表 中世以降ピット計測表1

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
158P	E-11	不整形	47	34	94	3層	近世	
159P	E-10	楕円形	21	18	25	2層	近世	
160P	E-10	楕円形	37	31	67	2層	近世	
161P	E-10	不整形	32	24	49	2層	近世	
162P	E-10	不整形楕円形	25	20	16	2層	近世	
163P	F-10	楕円形	32	26	19	2層	近世	
164P	F-10	不整形楕円形	20	17	17	1層	近世	
165P	F-9	楕円形	23	20	27	2層	近世	アカニシ出土
166P	F-9	不整形	32	26	27	2層	近世	
167P	F-9	円形	64	243	11	3層	近世	
168P	F-9	不整形円形	27	26	23	3層	近世	
169P	E・F-9	不整形楕円形	31	24	20	1層	近世	
170P	F-10	隅丸方形	20	18	14	1層	近世	
171P	G-9	不整形楕円形	39	33	33	1層	近世	
172P	G-9	不整形円形	25	22	15	1層	近世	
173P	G-9	楕円形	29	22	55	2層	近世	
174P	G-9	不整形円形	22	21	22	1層	近世	
175P	G-9	不整形円形	29	27	28	3層	近世	
176P	G-9	円形	40	38	67	2層	近世	
177P	G-9	不整形	27	26	20	2層	近世	
178P	G-9	不整形円形	24	24	17	1層	近世	
179P	G-9	不整形	44	43	43	3層	近世	
180P	G-9	不整形楕円形	40	29	27	2層	近世	
181P	G-9	不整形円形	53	50	68	4層	近世	
182P	G-9	不整形楕円形	37	31	64	3層	近世	
183P	G-9	不整形	43	25	35	3層	近世	
184P	G-9	不整形楕円形	53	37	73	2層	近世	
185P	G-9	不整形楕円形	30	23	30	1層	近世	
186P	G-9	不整形	47	31	81	3層	近世	
187P	G-9	不整形楕円形	48	40	74	3層	近世	
188P	G-9	不整形楕円形	64	47	39	3層	近世	
189P	G・H-9	不整形円形	35	29	65	1層	近世	
190P	G-9	不整形円形	41	37	47	2層	近世	
191P	H-9	不整形楕円形	30	26	17	1層	近世	
192P	H-9	方形	不明	20	21	1層	近世	
193P	H-9	不整形円形	29	29	47	2層	近世	
194P	H-9	不整形	40	35	48	1層	近世	
195P	H-9	円形	25	22	27	1層	近世	
196P	H-9	隅丸三角形	23	21	46	1層	近世	
197P	G-9	不整形円形	50	43	42	2層	近世	863号土坑と併存か
198P	F-9	不整形楕円形	44	35	101	3層	近世	
199P	G-15	不整形	64	54	21	3層	近世	
200P	H-9	不整形円形	47	46	62	3層	近世	
201P	H-9	不整形円形	26	23	33	1層	近世	
202P	H-9	不整形円形	36	36	53	1層	近世	
203P	H-9	円形	22	22	19	3層	近世	
204P	G・H-9	不整形楕円形	42	36	42	3層	近世	
205P	G-9	不整形円形	19	15	41	1層	近世	
206P	G-9	円形	20	18	50	1層	近世	
207P	G-9	方形	不明	21	11	1層	近世	
208P	G-9	不整形	54	38	63	4層	近世	
209P	G-9	円形	21	20	35	1層	近世	
210P	G-10	不整形楕円形	41	34	107	2層	近世	
211P	G-10	円形	25	23	18	1層	近世	
212P	G-10	楕円形	41	38	67	3層	近世	
213P	G-9	不整形	不明	55	15	1層	近世	
215P	D・E-14	不整形	33	29	51	3層	中世	59号溝と併存か
216P	D-14	不整形楕円形	64	49	115	3層	中世	59号溝と併存か
217P	D-13	不整形	68	36	68	3層	中世	59号溝と併存か
218P	D・E-13	不整形	74	44	56	1層	中世	59号溝と併存か
219P	E-13	不整形	41	33	33	2層	中世	59号溝と併存か
220P	D-13	不整形楕円形	50	25	39	1層	中世	59号溝と併存か
221P	E-12	不整形	66	57	71	3層	中世	59号溝と併存か
222P	E-12	不整形	38	29	44	2層	中世	59号溝と併存か
223P	E-12	不整形	52	37	77	3層	中世	59号溝と併存か
224P	E-12	不整形楕円形	72	40	75	3層	中世	59号溝と併存か
225P	D-12	不整形	32	25	67	2層	中世	59号溝と併存か
226P	E-12	楕円形	43	38	51	5層	中世	59号溝と併存か 堀の橋脚か
227P	E-12	不整形	65	38	60	5層	中世	59号溝と併存か 堀の橋脚か
228P	E-12	不整形楕円形	52	40	108	3層	中世	59号溝と併存か
229P	E-11・12	円形	33	30	44	1層	中世	59号溝と併存か
230P	E-11・12	楕円形	39	29	63	3層	中世	59号溝と併存か
231P	E-11	楕円形	39	24	20	1層	中世	59号溝と併存か
232P	E-11	楕円形	34	23	14	1層	中世	59号溝と併存か

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
233P	E-11	不整形楕円形	39	26	55	1層	中世	59号溝と併存か
234P	D・E-12	不整形	38	27	52	2層	中世	59号溝と併存か
235P	E-11	円形	28	26	49	1層	中世	59号溝と併存か
236P	E-11	不整形円形	48	46	68	4層	中世	59号溝と併存か
237P	E-10・11	不整形	74	62	90	5層	中世	59号溝と併存か
238P	E-10	不整形	56	23	43	2層	中世	59号溝と併存か
239P	E-10	楕円形	36	18	30	1層	中世	59号溝と併存か
240P	E-9	不整形	57	56	71	3層	中世	59号溝と併存か
241P	E-9	不整形楕円形	45	34	42	2層	中世	59号溝と併存か
242P	E-9	不整形	48	47	37	1層	中世	59号溝と併存か
243P	D-10	不整形	34	32	62	2層	中世	59号溝と併存か
244P	D-10	不整形	28	24	25	1層	中世	59号溝と併存か
245P	D-10	不整形円形	26	23	13	1層	中世	59号溝と併存か
246P	D-10	不整形	35	25	16	1層	中世	59号溝と併存か
247P	D-9	不整形	46	27	64	2層	中世	59号溝と併存か
248P	D-9	不整形円形	37	36	52	3層	中世	59号溝と併存か
249P	D-9	不整形楕円形	63	41	41	1層	中世	59号溝と併存か
250P	D-9	不整形	不明	52	56	5層	中世	59号溝と併存か
251P	D-9	不整形	24	19	37	1層	中世	59号溝と併存か
252P	D-9	不整形	19	24	14	1層	中世	59号溝と併存か
253P	D-9	不整形方形	44	35	38	1層	中世	59号溝と併存か
254P	D-9	不整形	36	33	60	1層	中世	59号溝と併存か
255P	D-9	不整形楕円形	26	21	23	4層	中世	59号溝と併存か
256P	E-11	楕円形	不明	26	19	1層	中世	59号溝と併存か
257P	F-9	不整形	不明	32	86	3層	近世	
258P	G-9	楕円形	不明	25	19	1層	近世	
259P	G-9	楕円形	19	不明	17	1層	近世	
260P	H-9	不整形楕円形	36	25	52	2層	近世	
261P	H-9	不整形円形	42	42	46	2層	近世	866号土坑と併存か
262P	H-9・10	不整形円形	44	43	43	3層	近世	866号土坑と併存か
263P	H-10	不整形円形	43	不明	21	2層	近世	866号土坑と併存か
264P	G-10	不整形	不明	29	31	2層	近世	
265P	G-14・15	楕円形	46	36	67	2層	中世	
266P	H-9	不整形円形	30	26	31	3層	近世	
267P	G-9	不整形円形	41	34	66	1層	近世	
268P	G・H-10	不整形円形	60	51	70	2層	近世	866号土坑と併存か
269P	G-12	円形	20	19	13	1層	中世	
270P	G-12	不整形方形	34	20	21	3層	中世	
271P	G-12	不整形楕円形	38	25	24	3層	中世	
272P	G-12	不整形	29	24	30	2層	中世	
273P	E-9	不整形楕円形	28	20	23	1層	中世	
274P	D-10	不整形楕円形	31	22	31	1層	中世	
277P	—	一形	不明	不明	不明	2層	近世	土層記録のみ
278P	—	一形	不明	不明	不明	3層	近世	土層記録のみ
279P	G-4	楕円形	48	31	25	2層	近世	
280P	G-5	楕円形	不明	不明	10	1層	近世	
281P	G-5	不整形円形	48	45	54	3層	近世	
282P	G-5	円形	23	21	21	1層	近世	
283P	G-5	楕円形	50	39	14	2層	近世	
284P	G-5	不整形	33	27	48	2層	近世	
285P	G-6	不整形円形	47	39	36	3層	近世	
286P	G-6	不整形	不明	50	78	1層	近世	
287P	G-6	不整形円形	54	47	42	2層	近世	
288P	F-6	不整形	不明	53	50	2層	近世	
289P	F-6	楕円形	不明	39	16	1層	近代	
290P	F-6	楕円形	不明	不明	44	2層	近世	
291P	F-6	楕円形	不明	46	71	2層	近世	
292P	G-6	円形	43	39	55	2層	近世	
293P	G-6	不整形円形	31	27	39	2層	近世	
294P	F・G-6	楕円形	32	20	29	2層	近世	
295P	F-6	不整形円形	31	25	34	2層	近世	
296P	F-6	不整形円形	53	47	50	2層	近世	
297P	F-6・7	不整形楕円形	28	24	40	2層	近世	
298P	G-7	楕円形	不明	43	61	3層	近世	
299P	G-6	不整形楕円形	37	20	54	2層	近世	
300P	G-6	不整形楕円形	55	41	97	2層	近世	
301P	G-6	不整形円形	35	28	52	3層	近世	
302P	G-6	不整形	43	38	18	3層	近世	
303P	G-6	不整形円形	30	29	44	2層	近世	
304P	G-6	不整形	44	37	66	2層	近世	
305P	G-6・7	円形	25	25	20	1層	近世	
306P	G-7	楕円形	32	26	53	2層	近世	
307P	G-7	楕円形	28	26	31	2層	近世	
308P	G-7	不整形楕円形	40	30	51	2層	近世	
309P	G-7	不整形方形	32	33	23	1層	近世	

第35表 中世以降ピット計測表2

第3章 検出された遺構と遺物

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
310P	G-7	楕円形	不明	43	52	1層	近世	
311P	G-8	楕円形	31	22	39	2層	近世	
312P	G-7	楕円形	30	29	47	2層	近世	
313P	G-7	不整楕円形	51	24	28	2層	近世	
314P	G-7	不整形	50	46	38	2層	近世	
315P	F-7	不整円形	41	39	26	2層	近世	
316P	G-6	楕円形	31	28	23	1層	近世	
317P	G-6・7	楕円形	不明	26	11	1層	近世	
318P	G-6・7	不整形	70	56	40	4層	近世	
319P	G-7	不整円形	32	29	70	2層	近世	
320P	G-7	楕円形	37	31	62	2層	近世	
321P	F・G-7	円形	27	19	18	2層	近世	
322P	F・G-7	不整円形	54	54	34	2層	近世	
323P	G-7	楕円形	24	21	10	1層	近世	
324P	G-7	不整楕円形	43	38	43	3層	近世	
325P	G-7	楕円形	不明	37	32	2層	近世	
326P	G-8	楕円形	27	23	16	1層	近世	
327P	F・G-8	楕円形	58	49	33	1層	近世	
328P	G-8	隅丸方形	59	56	36	2層	近世	
329P	G-8	楕円形	40	35	38	1層	近世	
330P	G-8	楕円形	34	25	28	3層	近世	
331P	G-8	不整形	48	39	54	2層	近世	
332P	G-8	不整円形	32	28	17	1層	近世	
333P	G-8	円形	35	34	39	1層	近世	
334P	G-8	楕円形	56	38	57	2層	近世	
335P	F-8	不整方形	55	53	40	2層	近世	
336P	F-8	楕円形	64	56	45	2層	近世	
337P	F-7・8	不整方形	57	51	59	3層	近世	
338P	G-5	楕円形	18	16	24	1層	近世	
339P	G-7	不整円形	31	29	39	3層	近世	
340P	G-7	楕円形	42	28	40	1層	近世	
341P	G-5	不整楕円形	64	50	61	1層	近世	
342P	G-6	不整形	58	50	84	4層	近世	
343P	G-8	円形	31	32	31	一層	近世	
344P	G-8	楕円形	26	20	38	3層	近世	
345P	G-8	不整円形	32	31	41	2層	近世	
346P	G-7	不整形	64	不明	34	2層	近世	
347P	F-7	不整形	不明	25	24	1層	近世	
348P	G-6	楕円形	36	不明	23	4層	近世	881号土坑と併存か
349P	G-6	不整楕円形	39	36	14	1層	近世	881号土坑と併存か
350P	G-6	不整円形	55	48	71	4層	近世	881号土坑と併存か
351P	F-7	楕円形	51	43	66	4層	近世	882号土坑と併存か
352P	F-7	不整楕円形	33	28	39	3層	近世	882号土坑と併存か
353P	F-7	不整楕円形	44	32	34	4層	近世	882号土坑と併存か
354P	K-9	楕円形	40	30	58	2層	近世	
355P	K-9	楕円形	不明	29	61	4層	近世	
356P	K-8・9	楕円形	不明	18	9	1層	近世	
357P	K-8	楕円形	40	不明	16	2層	近世	
358P	K-9	不整円形	不明	18	9	1層	近世	
359P	K-9	楕円形	29	21	51	2層	近世	
360P	K-9	円形	19	18	21	1層	近世	
361P	K-9	円形	31	27	29	2層	近世	
362P	K-8	円形	20	17	23	1層	近世	
363P	K-8	円形	27	25	42	2層	近世	
364P	K-9	不整形	不明	52	32	2層	近世	
365P	K-9	不整方形	55	38	23	2層	近世	
366P	K-9	不整形	67	34	59	6層	近世	
367P	K-9	円形	34	33	39	2層	近世	
368P	K-9	楕円形	不明	38	43	2層	近世	
369P	K-9	不整円形	20	19	28	1層	近世	
370P	K-9	楕円形	57	44	76	2層	近世	
371P	J-9	不整楕円形	38	29	19	1層	近世	
372P	J-9	円形	28	27	22	1層	近世	
373P	J-9	不整形	58	39	84	3層	近世	
374P	J-9	不整円形	不明	51	50	1層	近世	
375P	J-9	不整円形	不明	42	70	1層	近世	
376P	J-9	楕円形	49	40	62	3層	近世	
377P	J-9・9	不整円形	25	22	20	1層	近世	
378P	J-8・9	不整方形	38	32	36	3層	近世	
379P	J・K-9	不整円形	23	20	31	2層	近世	
380P	J-8	楕円形	36	30	17	1層	近世	
381P	J-9	不整円形	39	38	57	1層	近世	
382P	J-9	不整形	不明	33	59	1層	近世	
383P	J-9	不整形	69	45	60	2層	近世	
384P	J-9	不整円形	19	23	16	1層	近世	

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
385P	J-9	不整円形	22	20	9	1層	近世	
386P	J-8・9	不整形	48	46	68	3層	近世	
387P	J-9	楕円形	36	30	67	2層	近世	
388P	J-8・9	不整楕円形	30	25	25	1層	近世	
389P	J-8	不整形	不明	不明	39	2層	近世	
390P	J-9	楕円形	45	31	45	1層	近世	
391P	J-9	楕円形	42	34	38	2層	近世	
392P	G-5	楕円形	46	34	25	2層	近世	
393P	G-5	楕円形	不明	33	21	1層	近世	
394P	G-5	楕円形	43	32	65	3層	近世	
395P	G-5	楕円形	不明	33	23	1層	近世	
396P	G-6	円形	29	28	27	1層	近世	
397P	G-8	楕円形	43	36	27	1層	近世	
399P	K・L-9	不整形	不明	51	32	2層	近世	
400P	L-9	楕円形	不明	不明	36	1層	近世	
401P	K-9	楕円形	27	22	25	2層	近世	
402P	K-9	不整楕円形	40	27	73	2層	近世	
403P	L-9	楕円形	28	17	20	1層	近世	
404P	L-9	楕円形	不明	22	49	2層	近世	
405P	L-9	楕円形	不明	不明	37	3層	近世	
406P	L-9	楕円形	不明	不明	31	2層	近世	
407P	K-9	不整円形	33	32	38	2層	近世	888号土坑と併存か
408P	K・L-9	不整方形	35	34	44	2層	近世	888号土坑と併存か
409P	K-9	楕円形	不明	不明	20	1層	近世	
410P	K-9	楕円形	22	18	15	1層	近世	
411P	K-9	不整円形	21	20	21	1層	近世	
412P	K-9	不整楕円形	28	25	32	2層	近世	
413P	K-9	不整円形	19	16	6	1層	近世	
414P	K-9	楕円形	不明	43	54	2層	近世	
415P	K-9	不整楕円形	36	30	76	3層	近世	
416P	K-9	楕円形	41	35	57	3層	近世	
417P	K-9	円形	28	27	24	2層	近世	
418P	K-9	円形	23	26	32	1層	近世	
419P	K-9	楕円形	45	38	32	2層	近世	
420P	K-9	不整楕円形	31	27	33	1層	近世	
421P	J-9	楕円形	20	不明	13	1層	近世	
422P	J-9	不整楕円形	32	27	34	2層	近世	
423P	J-9	不整形	25	18	30	1層	近世	
424P	J-9	不整楕円形	42	29	48	3層	近世	
425P	J-8・9	不整形	不明	不明	35	4層	近世	
426P	K-15	隅丸方形	29	27	25	2層	中世	
427P	K-15	楕円形	57	50	29	2層	近世	建物跡か
428P	K-15	不整円形	38	36	38	2層	中世	
429P	K-15	不整楕円形	41	31	37	2層	中世	
430P	K-16	不整円形	21	20	17	1層	中世	
431P	K-16	不整形	43	40	31	2層	中世	
432P	K-16	円形	24	24	27	1層	中世	
433P	K-16	不整楕円形	37	29	30	3層	中世	
434P	K-16	不整楕円形	25	22	17	1層	中世	
435P	K-16	不整形	59	44	40	2層	近世	建物跡か
436P	K-16	楕円形	24	21	20	1層	中世	
437P	K-16	不整円形	28	27	30	1層	近世	
439P	K-16	不整楕円形	33	24	42	3層	中世	
440P	J-16	不整円形	17	16	25	1層	中世	
441P	J-16	不整楕円形	26	21	29	1層	中世	
442P	J-15	方形	19	19	26	一層	中世	
443P	K-16	楕円形	33	27	30	一層	中世	
444P	K-15	方形	不明	25	14	一層	中世	
445P	K-15	不整楕円形	25	20	30	一層	中世	
447P	L-15	不整楕円形	30	22	34	2層	中世	
448P	L-15	楕円形	23	17	17	1層	中世	
449P	J-16	不整楕円形	36	28	26	2層	中世	
450P	J-16	不整円形	33	31	18	3層	中世	
451P	J-16	不整円形	24	23	27	1層	中世	
452P	J-16	不整円形	25	22	30	1層	中世	
453P	J-16	不整円形	42	41	43	4層	近世	建物跡か
454P	J-16	円形	28	26	38	1層	中世	
455P	J-16	楕円形	29	22	18	1層	中世	
456P	J-16	不整形	70	57	60	3層	近世	建物跡か
457P	J-16	不整形	46	21	26	1層	中世	
458P	J-16	円形	48	44	46	3層	中世	
459P	J-16	不整形	44	32	16	2層	中世	
460P	I-16	不整楕円形	59	50	23	2層	近世	柱穴列か
461P	I-16	円形	49	43	23	3層	近世	建物跡か
462P	I-15	不整楕円形	48	35	34	3層	中世	

第36表 中世以降ピット計測表3

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
463P	I-15・16	不整楕円形	33	24	36	2層	中世	
464P	I-15	不整円形	28	25	36	2層	中世	
465P	I-16	円形	32	28	18	1層	中世	
466P	H-16	円形	24	22	30	1層	中世	
467P	H-16	不整楕円形	38	29	16	2層	中世	
468P	H・I-16	不整楕円形	65	48	31	3層	近世	柱穴跡か
469P	H-16	不整円形	62	59	33	4層	近世	柱穴跡か
470P	H-16	不整楕円形	51	43	39	2層	近世	柱穴跡か
471P	H-16	不整円形	不明	37	23	2層	近世	柱穴跡か
472P	H-15	不整楕円形	57	46	27	2層	中世	
473P	H-15	不整楕円形	29	22	36	1層	中世	
474P	H-15	不整円形	38	32	19	1層	中世	
475P	H-15	不整楕円形	33	23	34	2層	中世	
476P	I-16	不整円形	30	30	35	2層	中世	
477P	I-16	不整円形	22	19	32	3層	中世	
478P	I-16	不整形	59	46	47	3層	近世	建物跡か
479P	I・J-15	不整円形	45	45	41	3層	中世	
480P	J-15	楕円形	46	29	30	1層	中世	
481P	J-15	不整楕円形	24	23	33	1層	中世	
482P	J-15	不整形	35	27	25	2層	中世	
483P	J-15	不整楕円形	24	22	26	1層	中世	
484P	J-16	不整形	43	38	30	3層	中世	
485P	J-16	不整楕円形	29	26	36	2層	中世	
486P	J-16	不整円形	67	65	17	2層	中世	
487P	J-16	不整円形	35	34	39	2層	中世	
488P	J-16	方形	26	23	32	1層	中世	
489P	J-15	楕円形	23	19	30	2層	中世	
490P	J-15	円形	22	21	40	1層	中世	
491P	J・K-15	不整楕円形	62	54	46	3層	近世	建物跡か
492P	J-15	不整円形	65	55	32	3層	近世	建物跡か
493P	J-15	円形	60	55	54	3層	近世	建物跡か
494P	I-15	不整楕円形	63	47	48	4層	近世	建物跡か
495P	J-15	楕円形	31	22	25	1層	中世	
496P	J-15	円形	26	23	42	2層	中世	
497P	J-15	不整楕円形	不明	20	23	1層	中世	
498P	J-15	円形	16	15	18	1層	中世	
499P	J-15	円形	20	19	34	1層	中世	
500P	J-15	不整形	55	37	32	2層	中世	
501P	J-15	不整形	50	32	36	2層	中世	
502P	I-15	不整楕円形	42	37	46	4層	中世	
503P	J-16	楕円形	30	21	22	2層	中世	
504P	J-16	不整楕円形	61	51	40	3層	近世	建物跡か
505P	J-16	不整円形	26	19	18	1層	中世	
507P	H-15	不整円形	29	24	14	1層	中世	
508P	H-15	不整円形	24	24	17	1層	中世	
509P	I-15	不整方形	67	57	31	3層	近世	建物跡か
510P	I-15	楕円形	25	21	32	2層	中世	
511P	K-15	楕円形	44	38	40	3層	中世	
512P	K-15	不整楕円形	41	24	40	1層	中世	
513P	J-16	不整楕円形	不明	26	50	1層	中世	
514P	J-15	不整円形	27	26	38	1層	中世	
515P	I-15	方形	17	15	15	1層	中世	
516P	I-15	円形	21	18	30	1層	中世	
517P	I-15	円形	24	21	34	1層	中世	
518P	I-15	不整楕円形	32	23	40	1層	中世	
519P	H-15	不整楕円形	31	20	34	1層	中世	
520P	H-15	円形	15	13	17	1層	中世	
521P	H-15	円形	21	19	31	1層	中世	
522P	H-15	不整円形	28	27	42	1層	中世	
523P	H-15	不整楕円形	不明	30	27	1層	中世	
524P	H-15	円形	17	17	12	1層	中世	
525P	H-15	円形	18	15	30	1層	中世	
527P	L-15	楕円形	21	16	22	2層	中世	
528P	L-14	楕円形	24	17	18	2層	中世	
529P	L-14	不整形	82	48	81	3層	中世	
530P	L-14	不整形	54	43	53	3層	近世	
531P	K・L-14	円形	27	25	19	1層	近世	
532P	L-13	不整形	60	47	18	3層	近世	
533P	K-13	不整形	45	36	25	2層	近世	
534P	K-13	不整円形	20	19	17	1層	近世	
535P	K-12・13	方形	不明	39	35	2層	近世	
536P	K-13	楕円形	24	19	18	1層	近世	
537P	K-13	楕円形	36	29	68	2層	近世	
538P	J-14	楕円形	50	33	16	2層	近世	
539P	J-13	楕円形	29	20	28	2層	近世	

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
540P	J-13	円形	28	25	26	1層	近世	
541P	J-13	円形	36	35	30	2層	近世	
542P	J-12	楕円形	不明	25	37	3層	近世	
543P	J-12	楕円形	不明	27	47	1層	近世	
544P	J-12	円形	27	25	26	2層	近世	
545P	J-12	不整円形	25	22	32	1層	近世	
546P	J-12	円形	26	26	26	2層	近世	
547P	J-12	楕円形	21	17	24	2層	近世	
548P	J-12	楕円形	24	19	33	1層	近世	
549P	J-11・12	不整楕円形	31	26	40	2層	近世	
550P	J-12	楕円形	33	29	45	2層	近世	
551P	J-12	楕円形	不明	27	44	3層	近世	
552P	J-12	不整楕円形	47	32	34	2層	近世	
553P	I-12	楕円形	35	28	64	1層	近世	
554P	I-12	楕円形	30	25	33	2層	近世	
555P	I-12	楕円形	41	35	54	2層	近世	
556P	I-12	円形	30	27	43	3層	近世	
557P	I-12	円形	30	26	29	2層	近世	
558P	I-12・13	円形	30	30	48	2層	近世	
559P	I-12・13	不整形	44	36	20	1層	近世	
560P	I-13	不整形	40	26	38	1層	近世	
561P	I-13	不整楕円形	37	29	23	1層	近世	
562P	I-13	不整形	61	46	66	2層	近世	
563P	I-13	不整円形	26	24	25	2層	近世	
564P	I-13	不整楕円形	56	39	62	3層	近世	
565P	I-13	楕円形	不明	25	38	1層	近世	
566P	I・J-13	楕円形	40	31	32	2層	近世	
567P	I-13・14	楕円形	38	27	48	2層	近世	
568P	I-13・14	不整楕円形	79	63	23	2層	近世	
569P	I-14	不整円形	24	20	15	2層	近世	
570P	I-14	不整楕円形	54	48	25	2層	近世	
571P	J-14	不整形	53	40	23	2層	中世	
572P	J-14	隅丸方形	25	27	21	2層	中世	
573P	J-14	不整円形	33	33	46	2層	中世	
574P	J-14・15	円形	31	27	22	2層	中世	
575P	J-14	不整円形	22	22	19	2層	中世	
576P	J-14	不整形	36	33	38	2層	中世	
577P	J-14	不整円形	55	52	45	2層	中世	
578P	J-14	不整円形	29	27	37	2層	中世	
579P	J-14・15	楕円形	42	35	32	2層	近世	
580P	J-15	円形	29	28	15	1層	近世	
581P	J-15	楕円形	33	28	45	1層	中世	
584P	I-14	不整楕円形	39	30	29	3層	中世	
585P	I-14	円形	34	31	32	3層	中世	
586P	I-14	円形	26	24	11	1層	中世	
587P	I-14	不整楕円形	不明	26	25	2層	中世	
588P	I-14	不整円形	17	15	19	1層	中世	
589P	I-15	円形	20	19	24	1層	中世	
590P	I-15	不整楕円形	28	22	28	3層	中世	
591P	H-15	隅丸方形	33	34	38	3層	中世	
592P	H-14	不整楕円形	25	22	26	2層	中世	
593P	H-14	楕円形	63	38	79	2層	中世	
595P	H-12	円形	44	42	26	2層	近世	
596P	H-12	楕円形	43	32	32	2層	近世	
597P	H-12	楕円形	39	33	61	2層	近世	
598P	H-12・13	円形	39	39	28	3層	近世	
599P	H-12	円形	35	30	63	2層	近世	
600P	H-13	楕円形	43	29	65	1層	近世	
601P	H-13	円形	38	34	89	2層	近世	
602P	H-13	不整楕円形	48	34	27	2層	近世	
603P	H-13	楕円形	31	28	67	2層	近世	
604P	H-13	楕円形	44	28	75	3層	近世	
605P	K-15	不整楕円形	36	30	31	2層	近世	
606P	J-11	楕円形	不明	32	43	2層	近世	
607P	J-11	円形	29	26	26	2層	近世	
608P	J-11	不整円形	27	24	148	2層	近世	
609P	J-11	不整円形	20	21	21	2層	近世	
610P	K-11	不整方形	33	32	19	2層	近世	
611P	K-11	楕円形	31	26	154	2層	近世	
612P	K-11	円形	26	26	16	2層	近世	
613P	J・K-11	不整円形	30	28	47	2層	近世	
614P	J-12	不整円形	26	26	53	1層	近世	
615P	K-11	楕円形	42	31	22	2層	近世	
616P	K-11	不整楕円形	60	36	59	3層	近世	
617P	K-11	円形	42	39	48	4層	近世	

第37表 中世以降ピット計測表4

第3章 検出された遺構と遺物

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
618P	K-11	不整形	23	22	44	2層	近世	
625P	K-12	楕円形	21	20	22	2層	中世	
633P	L-12	楕円形	22	18	14	2層	中世	
634P	K・L-11	円形	31	30	27	1層	近世	
635P	L-10	不整形楕円形	40	32	46	3層	近世	
636P	K・L-10	不整形楕円形	38	30	61	3層	近世	
637P	K-10	不整形楕円形	30	26	28	2層	近世	
638P	L-10	円形	21	19	15	2層	近世	
639P	K・L-10	円形	41	36	47	2層	近世	
640P	K・L-11	円形	33	32	69	2層	近世	
641P	K-10	楕円形	37	31	24	2層	近世	
642P	K-11	円形	31	27	47	2層	近世	
643P	K-11	楕円形	39	30	30	3層	近世	
644P	K-11	不整形	33	27	24	2層	近世	
645P	K-11	不整形	33	31	29	4層	近世	
646P	K-11	楕円形	34	20	11	2層	近世	
647P	K-11	楕円形	35	27	33	2層	近世	
648P	K-11	不整形楕円形	38	32	13	1層	近世	
649P	K-11	不整形	33	28	26	2層	近世	
650P	K-11	円形	31	30	42	3層	近世	
651P	K-11	楕円形	32	26	67	3層	近世	
652P	K-11	不整形楕円形	36	29	20	2層	近世	
653P	J-10・11	楕円形	38	23	30	1層	近世	
654P	J-11	楕円形	35	24	42	1層	近世	
655P	I-11	不整形	37	32	52	4層	近世	
656P	K-9	円形	31	30	26	2層	近世	
657P	K-9	不整形楕円形	49	32	33	3層	近世	
658P	K-9	不整形楕円形	62	45	37	2層	近世	
659P	L-9	楕円形	不明	31	35	2層	近世	
660P	K-9・10	不整形	不明	51	72	3層	近世	
661P	K-10	円形	32	32	49	1層	近世	
662P	K・L-10	楕円形	45	36	60	2層	近世	
663P	K・L-10	不整形	50	不明	36	2層	近世	
664P	K・L-10	不整形	62	43	55	3層	近世	
665P	L-10	楕円形	52	45	71	3層	近世	
666P	K-10	不整形	51	33	84	3層	近世	
667P	K・L-10	隅丸三角形	49	27	60	3層	近世	
668P	K-10	楕円形	不明	28	31	1層	近世	
669P	K-10	不整形楕円形	25	21	28	2層	近世	
670P	K-10	楕円形	36	30	35	1層	近世	
671P	K-10	円形	38	38	31	3層	近世	
672P	K-10	円形	23	22	51	2層	近世	
673P	K-10	楕円形	23	18	26	2層	近世	
674P	K-10	不整形	46	45	68	3層	近世	磁器片が出土
675P	K-10	楕円形	45	35	52	2層	近世	
676P	K-10	不整形	71	不明	60	2層	近世	
677P	K-10	不整形楕円形	41	26	52	2層	近世	
678P	K-10	楕円形	不明	30	22	2層	近世	
679P	K-10	不整形	不明	26	20	1層	近世	
680P	K-10	不整形	不明	33	25	2層	近世	
681P	K-10	円形	25	22	24	1層	近世	
682P	K-10	楕円形	38	31	26	2層	近世	
683P	K-10	方形	37	39	20	2層	近世	
684P	K-10	楕円形	35	25	28	1層	近世	
685P	K-10	楕円形	46	37	18	2層	近世	
686P	K-10	楕円形	41	33	39	3層	近世	
687P	K-10	不整形	32	30	49	2層	近世	
688P	K-10	不整形	26	24	39	2層	近世	
689P	K-10	円形	27	27	25	2層	近世	
690P	K-10	円形	23	23	12	1層	近世	
691P	K-10	不整形楕円形	46	35	64	4層	近世	
692P	K-10	不整形楕円形	55	37	38	2層	近世	
693P	K-10	不整形	不明	46	52	2層	近世	
694P	K-10	楕円形	41	54	59	4層	近世	
695P	K-10	楕円形	64	46	58	3層	近世	
696P	K-10	楕円形	28	20	30	2層	近世	
697P	K-10	不整形楕円形	57	52	53	2層	近世	
698P	K-10	不整形	不明	43	30	2層	近世	
699P	K-10	楕円形	40	34	41	3層	近世	
700P	K-10	楕円形	32	28	28	2層	近世	
701P	K-9・10	円形	33	32	36	3層	近世	
702P	K-9	不整形	55	45	27	1層	近世	
703P	K-9	楕円形	44	38	43	2層	近世	
704P	K-9	不整形	不明	20	50	1層	近世	
705P	K-9・10	円形	53	50	38	2層	近世	

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
706P	K-9	不整形	不明	41	36	2層	近世	
707P	J-10	楕円形	42	37	32	3層	近世	
708P	J-10	楕円形	41	32	47	3層	近世	
709P	J-9・10	円形	66	63	70	4層	近世	
710P	J-9	不整形	71	49	39	2層	近世	890号土坑と併存か
711P	J-10	不整形	61	58	57	3層	近世	
712P	J-10	楕円形	42	34	36	2層	近世	
713P	J-10	不整形	49	29	24	4層	近世	
714P	J-10	不整形楕円形	45	26	44	2層	近世	
715P	J-11	円形	38	36	31	3層	近世	
716P	J-11	円形	39	35	38	2層	近世	
717P	I-11	楕円形	37	31	15	2層	近世	
718P	H-11	円形	26	23	20	1層	近世	
719P	H-11	円形	22	20	29	2層	近世	
720P	H-12	楕円形	不明	不明	62	4層	近世	
721P	H-11	楕円形	35	29	23	2層	近世	
722P	H-11	不整形楕円形	33	26	41	2層	近世	
723P	H-11	楕円形	34	28	36	3層	近世	
724P	H-11	不整形	29	25	66	2層	近世	
725P	H-11	不整形	29	24	24	2層	近世	
726P	H-11	楕円形	31	25	28	2層	近世	
727P	H-10	楕円形	34	31	23	2層	近世	
728P	H-10	隅丸方形	53	44	74	3層	近世	
729P	H-10	不整形	39	38	56	3層	近世	
730P	H-10	隅丸方形	40	32	26	3層	近世	
731P	H-10	円形	28	27	28	3層	近世	
732P	H-10	不整形楕円形	34	26	24	3層	近世	
733P	H-10	不整形	23	21	24	2層	近世	
734P	H-10	不整形	34	29	48	3層	近世	
735P	H-10	円形	25	24	19	1層	近世	
736P	H-10	円形	38	33	54	2層	近世	
737P	H-9	楕円形	37	25	29	2層	近世	942号土坑と併存か
738P	H-9・10	楕円形	35	30	45	1層	近世	
739P	H-9	円形	38	37	42	3層	近世	
740P	H-9	不整形	28	32	41	1層	近世	
741P	H-9	楕円形	29	24	71	1層	近世	
742P	H-9	楕円形	27	25	18	2層	近世	
743P	H-9	不整形	不明	27	69	2層	近世	
744P	H-9	円形	24	23	17	1層	近世	
745P	H-9	楕円形	不明	不明	50	4層	近世	
746P	H・I-9	楕円形	40	37	28	3層	近世	939号土坑と併存か
747P	I-9	不整形楕円形	53	29	61	4層	近世	
748P	I-9	不整形	27	24	36	3層	近世	
749P	H・I-9	不整形楕円形	61	31	47	2層	近世	
750P	H-9	円形	54	48	46	4層	近世	
751P	H-8・9	不整形	不明	45	44	5層	近世	
752P	H-8・9	円形	23	23	18	2層	近世	
753P	H-9	楕円形	36	30	23	2層	近世	
754P	H-9	不整形	43	40	23	2層	近世	
755P	H-9	楕円形	48	46	35	2層	近世	
756P	H-9	楕円形	54	40	66	5層	近世	
757P	H-8・9	楕円形	不明	46	38	2層	近世	
758P	H-9	楕円形	28	21	41	1層	近世	
759P	I-9	不整形	24	23	15	2層	近世	
760P	I-9	楕円形	44	35	72	3層	近世	
761P	I-9	不整形楕円形	50	44	74	6層	近世	
762P	I-9	円形	46	42	69	4層	近世	
763P	I-9	不整形楕円形	51	33	37	3層	近世	
764P	I-9	不整形	37	33	21	2層	近世	
765P	I-9	不整形楕円形	37	31	24	2層	近世	
766P	I-9	楕円形	38	不明	73	2層	近世	
767P	I-9	不整形楕円形	51	39	38	1層	近世	
768P	I-8・9	楕円形	不明	不明	77	3層	近世	
769P	I-9	楕円形	不明	45	46	2層	近世	
770P	I-9	不整形	59	44	55	3層	近世	
771P	I-9	楕円形	50	31	60	4層	近世	
772P	I-9	不整形楕円形	57	37	56	2層	近世	
773P	I-9	不整形楕円形	不明	51	29	3層	近世	
774P	I-9	不整形	53	50	23	2層	近世	
775P	I-9	楕円形	45	29	31	3層	近世	
776P	I-8・9	不整形	不明	37	26	4層	近世	
777P	I-9	不整形	34	32	23	2層	近世	
778P	I-9	楕円形	42	36	61	2層	近世	
779P	I・J-8・9	楕円形	不明	不明	76	3層	近世	
780P	J-8・9	楕円形	不明	42	76	4層	近世	

第38表 中世以降ピット計測表5

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
781P	J-9	不整楕円形	不明	30	27	1層	近世	
782P	I・J-9	不整円形	34	27	48	3層	近世	
783P	I・J-9	不整形	不明	49	55	2層	近世	
784P	J-9	楕円形	不明	44	20	4層	近世	
785P	J-9	不整円形	25	23	17	2層	近世	
786P	J-9	楕円形	20	25	19	3層	近世	
787P	J-9	円形	38	37	58	4層	近世	
788P	J-9	不整楕円形	24	17	15	1層	近世	
789P	H-10	不整楕円形	不明	34	61	3層	近世	943号土坑と併存か
790P	H-9	隅丸方形	55	52	59	4層	近世	
791P	G-9	円形	35	33	44	1層	近世	
792P	G・H-9	方形	27	26	21	2層	近世	
793P	H-9	楕円形	39	27	60	2層	近世	
794P	H-9	不整形	43	35	53	2層	近世	
795P	H-9	不整形	不明	40	64	4層	近世	
796P	H-9	不整円形	32	25	16	1層	近世	
797P	H-9	楕円形	30	24	40	2層	近世	
798P	H-9	不整円形	25	19	28	2層	近世	
799P	H-9	楕円形	17	23	59	2層	近世	
800P	H-9	円形	22	21	25	1層	近世	
801P	L-11	円形	27	25	36	1層	中世	
802P	L-11	円形	42	38	46	1層	中世	
803P	K-11	不整円形	25	23	45	1層	中世	
804P	L-11	不整円形	25	24	43	1層	中世	
805P	K-11	楕円形	22	17	46	1層	中世	
806P	K・L-11	円形	24	21	62	1層	中世	
807P	K-11	円形	22	19	33	1層	中世	
808P	K-11	不整楕円形	39	25	71	2層	中世	
809P	K-11・12	楕円形	38	32	23	1層	中世	
810P	K-12	円形	26	23	22	1層	中世	
811P	L-12	不整形	55	36	40	3層	中世	
812P	L-12	楕円形	35	26	27	2層	中世	
813P	L-12	楕円形	24	20	60	1層	中世	
814P	L-12	不整楕円形	24	19	80	1層	中世	
815P	L-12	円形	19	18	28	1層	中世	
816P	L-12	楕円形	29	不明	72	1層	中世	
817P	K-12	楕円形	53	34	10	2層	中世	
818P	J-12	不整楕円形	27	22	24	1層	中世	
819P	K-13	円形	38	37	35	1層	中世	
820P	K-11	楕円形	38	26	26	1層	中世	
821P	H-12	不整形	不明	不明	93	3層	近世	
822P	H-12	楕円形	37	30	47	2層	中世	61号溝と併存か
823P	J-9・10	楕円形	40	38	42	2層	中世	
824P	K-9	不整楕円形	30	26	40	1層	中世	
825P	K-9	楕円形	64	45	68	3層	中世	
826P	K-9	不整形	45	46	61	3層	中世	
827P	K-9	不整楕円形	26	20	36	3層	中世	
828P	J-9	不整円形	29	28	28	2層	中世	
829P	J-9	楕円形	36	26	20	3層	中世	
830P	J-9	不整形	59	37	59	3層	中世	
831P	H-10	不整楕円形	不明	不明	25	2層	中世	
832P	H-10	円形	38	36	36	2層	中世	
833P	J-9	楕円形	33	26	18	2層	中世	
834P	K-9	不整円形	40	38	68	2層	中世	
835P	K-9	不整楕円形	33	26	30	3層	中世	
836P	K-9	不整形	46	28	49	3層	中世	
837P	K-9	不整楕円形	42	26	58	3層	中世	
838P	K-9	不整楕円形	29	不明	42	3層	中世	
839P	K-9	不整円形	43	41	28	3層	中世	
840P	K・L-9	不整楕円形	37	26	24	2層	中世	
841P	K・L-9	楕円形	不明	31	39	2層	中世	
842P	J-9	不整形	不明	44	49	3層	中世	
843P	K-10	楕円形	40	33	33	2層	中世	61号溝と併存か
844P	K-10	円形	34	32	29	3層	中世	61号溝と併存か
845P	K-10	楕円形	23	18	23	2層	中世	61号溝と併存か
846P	K-10	隅丸方形	22	22	25	1層	中世	61号溝と併存か
847P	K-10	楕円形	45	38	68	3層	中世	61号溝と併存か
848P	K-10	円形	46	42	49	2層	中世	61号溝と併存か
849P	K-10	不整楕円形	55	41	67	3層	中世	61号溝と併存か
850P	K-10	楕円形	40	32	33	3層	中世	61号溝と併存か
851P	J・K-10	不整形	71	73	73	6層	中世	61号溝と併存か
852P	J-10	不整円形	32	28	37	3層	中世	61号溝と併存か
853P	J-10・11	楕円形	36	34	37	3層	中世	61号溝と併存か
854P	J-11	楕円形	42	34	61	3層	中世	61号溝と併存か
855P	J-11	不整楕円形	34	21	42	2層	中世	61号溝と併存か

遺構	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	覆土	時期	備考
856P	I-11	円形	30	30	32	2層	中世	61号溝と併存か
857P	H-11・12	不整楕円形	31	25	21	2層	中世	61号溝と併存か
858P	H-12	楕円形	34	26	14	1層	中世	61号溝と併存か
859P	H-12	不整楕円形	63	42	59	3層	中世	61号溝と併存か
860P	H-12	楕円形	44	30	59	2層	中世	61号溝と併存か
861P	H-12	楕円形	不明	37	26	2層	中世	61号溝と併存か
862P	H-12	楕円形	29	25	27	2層	中世	61号溝と併存か
863P	H-12	方形	72	54	130	6層	中世	61号溝と併存か
864P	I-12	楕円形	不明	28	53	2層	中世	61号溝と併存か
865P	I-12	三角形	41	25	28	2層	中世	61号溝と併存か
866P	I-12	不整楕円形	47	36	64	3層	中世	61号溝と併存か
867P	I-11	楕円形	51	37	97	3層	中世	61号溝と併存か
868P	J-11	不整楕円形	58	46	71	-層	中世	61号溝と併存か
869P	L-10	不整形	不明	40	58	3層	中世	61号溝と併存か
870P	K・L-10	円形	45	43	58	3層	中世	
871P	K-10	不整楕円形	25	21	19	1層	近世	
872P	K-10	円形	不明	22	13	1層	近世	
873P	K-10	円形	不明	24	18	3層	近世	
874P	K・L-9	不整円形	27	25	19	2層	近世	
875P	K-9	円形	40	36	52	3層	近世	888号土坑と併存か
876P	K・L-9	不整形	不明	39	88	4層	近世	
877P	K-9	不整楕円形	54	43	43	4層	近世	
878P	K-9	楕円形	23	19	33	1層	近世	
879P	K-9	楕円形	32	25	25	2層	近世	
880P	K-9	円形	25	25	46	3層	近世	
881P	L-8・9	形	0	0	0	3層	中世	
882P	K-9	楕円形	33	25	23	1層	近世	
883P	K-9	不整形	不明	不明	59	3層	近世	
884P	K-9	楕円形	不明	不明	65	3層	近世	
885P	K-9	不整楕円形	48	29	33	3層	近世	
886P	K-8・9	楕円形	46	36	58	2層	近世	
887P	K-9	不整円形	不明	33	46	3層	近世	
888P	K-8・9	楕円形	40	31	52	2層	近世	
889P	K-9	楕円形	46	33	34	5層	近世	
890P	J-9	不整楕円形	56	44	59	3層	近世	890号土坑と併存か
891P	I・J-9	隅丸方形	23	20	27	2層	近世	
892P	I-9	不整楕円形	69	56	62	5層	近世	
893P	I-8・9	楕円形	不明	34	35	2層	近世	
894P	I-9	楕円形	不明	不明	26	2層	近世	
895P	I-9	不整楕円形	23	22	31	1層	近世	
896P	I-9	楕円形	不明	不明	37	3層	近世	
897P	H-8・9	不整形	不明	48	65	2層	近世	
898P	H-9	不整形	50	38	67	2層	近世	939号土坑と併存か
899P	H・I-9	楕円形	26	22	16	1層	近世	
900P	H-9	不整円形	27	25	29	2層	近世	
901P	H-9	楕円形	43	34	42	3層	近世	
902P	H-9	不整形	37	26	35	2層	近世	
903P	H-9	楕円形	20	15	38	2層	近世	
904P	J-9	隅丸三角形	30	26	32	2層	近世	
905P	J-11	不整円形	64	50	75	2層	近世	
906P	A-2	楕円形	不明	26	31	3層	中世	
907P	A-2	楕円形	不明	20	24	2層	中世	
908P	A-1・2	不整楕円形	22	19	20	2層	中世	
909P	A-1	隅丸方形	26	26	40	2層	中世	
910P	A-1	円形	25	25	11	1層	中世	
911P	B-1	楕円形	36	31	78	4層	中世	
912P	B-1・2	楕円形	30	24	32	1層	中世	
913P	B-2	不整楕円形	42	22	38	2層	中世	
914P	B-1・2	隅丸三角形	29	28	33	2層	中世	
915P	B-2	楕円形	34	26	36	2層	中世	
916P	B-2	不整円形	40	37	52	4層	中世	
917P	B-2	不整楕円形	23	17	20	2層	中世	
918P	B-2	楕円形	不明	25	20	1層	中世	
919P	B-2	楕円形	31	22	44	2層	中世	
920P	C-2	不整円形	29	26	43	2層	中世	
921P	C-2	楕円形	41	26	33	2層	中世	
923P	C-2	円形	26	23	44	3層	中世	
925P	C-2	円形	34	33	29	2層	中世	
928P	B・C-1	楕円形	不明	不明	46	2層	中世	
931P	E-2	楕円形	42	30	62	3層	中世	
932P	E-2	円形	52	49	75	3層	中世	
933P	E-2・3	円形	32	29	45	2層	中世	
934P	E-3	不整形	不明	28	55	3層	中世	
935P	F-3	不整形	43	32	59	3層	中世	
936P	F-3	楕円形	27	21	34	2層	中世	

第39表 中世以降ピット計測表6

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土遺構	材質分類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形状・特徴	成形・調整	施釉・装飾	胎土色調	備考	胎土	推定産地	時期
第65図1	59M	磁器	皿	口縁部	-	-	-	尖頭・外反	轆轤	透明釉・染付, [外面] 口縁部一重罫線・体部草花 [内面] 口縁部二重罫線・見込み二重罫線・他	10Y8/1 (灰白)		緻密	明	16C
第65図2	59M	磁器	碗	口縁部一部	(15.4)	(5.8)	-	門頭・直立・口唇部やや外反		内外面青磁釉, 片切風の鋳蓮弁文	10Y7/1 (灰白)		緻密		14C(B-1' 段階)
第65図3	59M	陶器	平碗	口縁部-底部	(15.0)	6.0	5.0	[口縁] 尖頭直立, [底部] 削出高台	轆轤→回転系切→高台削出, [調整] 体部外面・高台脇ケズリ	内面 - 外面体部上半灰釉	25Y7/3 (浅黄)	見込みこねね焼き痕	密	瀬戸	15C 前半 (古瀬戸後期)
第65図4	59M	陶器	平碗	底部	-	(3.4)	5.1	貼付高台	轆轤→回転系切→周縁ヘケズリ→高台貼付, [調整] 高台端部ケズリ→脇ナデ	内面灰釉	25Y8/4 (淡黄)	見込みこねね焼き痕	密	瀬戸	15C
第65図5	59M	焼締	甕	口縁部	-	-	-	外反・内側にまみ直角に折れる		外面自然釉	75YR4/3 (褐)		密	常滑	13C(常滑5段階)
第65図6	59M	土師質土器	かわいナ	口縁部-底部	9.9	3.1	5.6	[口縁] 門頭内反, [底部] 平底	轆轤(右回り)→回転系切, [調整] 横位ナデ		75YR7/4 (こぶ, 橙)	底部糸抜痕残存, 内面煤付着	密		16C
第65図1	61M	陶器	花瓶	胴部	-	-	(3.8)		轆轤	外面灰釉	5Y6/3 (オリーブ黄)	肩部こね溜まり	密	瀬戸	14C 後半
第65図2	61M	土師質土器	かわいナ	底部	-	(1.1)	(8.2)	やや上り底	轆轤(左回り)→回転ヘラ切		75YR7/6 (橙)		密		
第65図3	61M	焼締	甕	胴部	-	-	-		タタキ調整/内面ナデ	外面自然釉	10YR5/6 (黄褐)	タタキ目こね溜り	密	常滑	16C 以前 (常滑5~6段階か)
第65図4	61M	土師質土器	-	底部	-	(0.8)	(3.2)	平底	外面離材痕(チチ目)/内面ナデ		25Y5/2 (暗灰黄)		やや密		
第65図1	62M	焼締	甕	胴部	-	-	-		斜位ナデ/内面横位ナデ	外面自然釉	5YR3/6 (暗赤褐)		密	常滑	16C 以前 (常滑5~6段階か)
第65図2	62M	土師質土器	かわいナ	底部	-	(1.1)	(6.4)	平底	轆轤(右回り)→回転系切, [調整] 体部下端回転ナデ/内面横位ナデ		10YR4/2 (灰黄褐)	内面・外面煤	密		
第83図1	836D	磁器	-	口縁部	-	-	-	尖頭・外反	轆轤	内外面透明釉	25Y8/3 (灰白)		緻密	肥前系	
第83図1	839D	磁器	-	口縁部	-	-	-	尖頭・直立	轆轤	内外面透明釉	25Y8/4 (灰白)		緻密	肥前系	
第87図1	845D	陶器	瓶か	胴部	-	-	-		轆轤/内面轆轤残存	内外面灰釉	25Y6/3 (こぶ, 黄)	頸部, 釉塊付着	密		
第83図1	855D	陶器	小碗か	底部	-	(2.2)	(3.0)	削出高台か	轆轤	内外面透明釉	25Y8/2 (灰白)	高台研み積み痕・高台両脇釉溜まり	緻密	瀬戸・美濃	
第83図1	874D	陶器	皿	底部	-	(1.9)	(6.0)	削出高台(断面三角形)	轆轤(右回りか)→削出高台, [調整] 高台内全面ケズリ・体部下端ケズリ→高台際ケズリ	内面 - 外面体部下半灰釉	25Y7/2 (灰黄)	見込みこねね焼き痕(高台重ね焼痕か)	密	瀬戸・美濃	17C
第83図1	884D	陶器	-	底部	-	(1.4)	(7.4)	貼付高台	轆轤(右回りか)→全面ヘケズリ→高台貼付, [調整] 高台両脇ナデ	内面 - 外面体部灰釉	25Y8/1 (灰白)	見込みこね溜り	密	瀬戸・美濃	
第83図1	885D	磁器	碗	口縁部	(12.8)	(2.4)	-	門頭・直立	轆轤(右回りか)	透明釉・染付, [外面] 口縁部一重罫線(太)・草花 [内面] 口縁部二重罫線・草花	N8/ (灰白)		緻密	肥前系	17C 以降
第83図1	888D	磁器	-	口縁部	-	-	-	門頭・直立	轆轤(右回りか)	内外面灰釉か	25Y8/2 (淡黄)		密		
第83図1	900D	陶器	徳利	胴部	-	-	-		轆轤/内面轆轤残存	鉛釉(珪毛塗)	25Y8/3 (淡黄)		密		
第94図1	904D	焼締	甕	胴部	-	-	-		[調整] 斜位ナデ	外面自然釉	5YR4/4 (こぶ, 赤褐)		密	常滑	
第83図1	917D	磁器	碗	底部-体部	-	(4.3)	(4.1)	貼付高台	轆轤	透明釉・染付, [外面] 体部・体部下端一重罫線・高台際二重罫線	5Y7/2 (灰白)	高台研み積み痕・高台両脇釉溜まり	緻密	肥前系	17C 以降
第83図1	920D	陶器	-	口縁部	-	-	-	門頭・直立	轆轤	透明釉・外面青磁釉	5Y6/2 (灰オリーブ)		緻密		
第83図1	931D	磁器	皿	口縁-底部	13.2	2.7	8.3	[口縁] 門頭内反, [底部] 高台貼付	轆轤	透明釉・染付, [外面] 口縁部一重罫線・他・体部下端一重罫線・高台二重罫線・高台内一重罫線, [内面]	5Y8/1 (灰白)	高台研み積み痕・高台両脇釉溜まり	緻密	肥前系か	
第83図2	931D	磁器	碗	口縁部	(14.1)	(2.0)	-	尖頭・内反	轆轤	透明釉・染付, [外面] 体部二重罫線・他, [内面] 口縁部一重罫線・螺旋か	5Y8/1 (灰白)		緻密	肥前系か	
第83図3	931D	磁器	碗	体部	-	-	-		轆轤	透明釉・染付, [外面] 体部一重罫線	N8/ (灰白)		緻密	肥前系	17C 以降
第83図4	931D	陶器	-	口縁部	-	-	-	尖頭・直立	轆轤, 口縁部下ケズリで後か形に成される	内面 - 外面口縁部透明釉	5Y7/2 (灰白)		密		
第83図5	931D	焼締	甕	胴部	-	-	-			-	75YR5/4 (こぶ, 褐)		密	常滑	
第83図6	931D	焼締	挿鉢	底部-体部	-	(11.8)	(10.4)	平底	轆轤(左回り)→掃目8本以上		10YR5/6 (黄褐)		密	丹波	17C 以降
第83図1	938D	陶器	皿	口縁部	-	-	-	門頭・やや内反	轆轤	内外面灰釉	25Y8/4 (淡黄)		密	瀬戸・美濃	
第83図2	938D	土師質土器	かわいナ	口縁部	-	-	-	門頭・直立	轆轤	-	75YR5/6 (明褐)	内面煤	密		
第83図1	939D	磁器	碗	口縁部	-	-	-	門頭・直立	轆轤	透明釉・染付, [外面] 口縁部一重罫線・草花 [内面] 口縁部一重罫線・草花	10Y8/1 (灰白)		緻密	肥前系	

第40表 中世以降遺構内出土土器・陶磁器1

挿図番号	出土遺構	材質分類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形状・特徴	成形・調整	施釉・装飾	胎土色調	備考	胎土	推定産地	時期
第83図1	944D	陶器	碗	体部	-	-	-		轆轤	内面 - 外面体部下半鉄釉	25Y7/4 (淡黄)		密	瀬戸	
第101図1	32P	焼締	甌	胴部	-	-	-		縦位ナデ/内面斜ナデ	外面自然釉	25YR4/8 (赤褐)		密	常滑	13C (常滑5~6段階)
第101図1	147P	土器	搦鉢	口縁	(37.8)	-	-	[口縁] 円頭・直立・内面に突起・[底部] 平底	轆轤 (右回) → 外面に沈線2本		25YR3/4 (暗赤褐)	同一個体か	やや密	堺・明石	
第101図2	147P	土器	搦鉢	胴部	-	-	-		轆轤 (右回) → 搦目10本		25YR3/4 (暗赤褐)	同一個体か	やや密	堺・明石	
第101図3	147P	土器	搦鉢	底部	-	(4.6)	-		轆轤 (右回) → 底部敷材痕		25YR3/4 (暗赤褐)	同一個体か	やや密	堺・明石	
第101図1	326P	磁器	碗	体部・底部	-	(3.1)	(4.2)		轆轤	透明釉・染付, [外面] 体部草花・体部下端一重園線・高台際二重園線	N8/ (灰白)	高台破目積み痕	緻密	肥前系	17C 以降
第101図1	328P	陶器	皿	底部	-	(2.3)	(2.6)	高台	轆轤 (左回) → 推出高台, [調整] 高台内全面ケズリ	内面 - 外面体部透明釉薬	5Y7/1 (灰白)	見込み蛇の目剥ぎ・高台内に破目積み痕か	緻密	瀬戸・美濃	
第101図1	479P	陶器	天目茶碗	底部	-	-	3.7		轆轤 (左回) → 回転糸切 → 高台割出, [調整] 高台端部外側を面取	内面 - 外面体部鉄釉, 化粧か	25Y8/3 (淡黄)		密	瀬戸	16C 前半 (大窯2~3段階)
第97図1	492P	土師質土器	碗	体部・底部	-	(4.1)	(3.4)	割出高台	轆轤 (右回) → 高台割出, [調整] 高台外側横位ケズリ → 縦位ケズリ, 体部下端横位ケズリ → 全面ナデ	建窯の天目模倣, 垂れる釉薬が表現される	25Y6/4 (にぶ黄)		密		14C ~ 16C 前半
第101図1	674P	磁器	碗	口縁部	-	-	-	尖頭・直立	轆轤 (左回)	透明釉・染付, [外面]	25Y8/2 (灰白)		緻密	肥前系	17C 以降
第101図2	674P	土師質土器	かわい	口縁部	(10.6)	(2.1)	(5.5)	円頭・直立	轆轤 (左回), [調整] 横位ナデ		10YR5/4 (にぶ黄褐)	内面・外面煤	やや密		18C 以降

第41表 中世以降遺構内出土土器・陶磁器2

掲載No.	遺構名	遺物種別	長さ (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
第65図5	61M	平瓦	7.9	8.5	14.1	96.8	土師質。布目
第65図6	61M	平瓦	8.3	7.5	2.0	150.1	須恵質。布目
第83図1	875D	環状土錘	6.3	4.2	10.3	35.9	近世
第83図1	948D	転用砥石	12.5	6.8	12.6	156.3	常滑甌
第99図1	469P	転用砥石	8.0	4.5	12.0	48.6	須恵器甌

第42表 中世以降遺構内出土土製品

掲載No.	遺構名	材質	遺物種別	長さ (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
第65図59	61M	鉄	釘	(45.0)	6.5	5.1	2.4	頭部欠損
第85図11	834D	鉄	刀子	(74.8)	23.8	3.5	20.0	
第83図13	836D	真鍮	煙管	12.1	16.0	16.6	2.3	雁首
第83図11	859D	鉄	鋸	(31.5)	5.4	3.7	2.4	
第91図2	864D	真鍮	煙管	(43.6)	10.3	9.0	1.9	吸口。銅板の厚さ 0.9 mm
第101図3	674P	鉄	釘か	(42.3)	4.1	3.7	0.9	
第101図4	674P	鉄	釘	(28.6)	8.7	(5.5)	1.1	

第43表 中世以降遺構内出土金属製品

掲載番号	出土遺構	遺物種別	石材	長さ (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
第65図7	59M	板碑	緑泥片岩	11.0	8.9	0.7	85.2	薄い破片・粗い工具痕・根部か
第65図7	61M	砥石	凝灰岩	9.1	4.3	2.6	121.6	裏面、上下面を欠損。残る面はすべてが砥面
第65図8	61M	砥石	砂岩	8.8	5.0	4.2	186.1	
第87図2	845D	板碑	緑泥片岩	17.2	11.8	2.2	744.4	二条線・種子キリークIとaHの上部か・業研彫り・裏面工具痕
第87図3	845D	砥石 (硯か)	緑泥片岩	9.4	5.0	1.4	83.0	砥面は折れ面以外の全面
第91図1	864D	板碑	緑泥片岩	6.9	6.8	1.3	69.7	花瓶か・裏面平滑
第91図3	864D	円形周縁敲打石器か	緑泥片岩	7.1	7.4	1.1	98.6	裏面・上下面・左側面を欠損
第94図2	904D	砥石	緑泥片岩	10.7	5.0	1.7	136.5	裏面、上下面、左側面を欠損。
第67図1	43W	板碑	緑泥片岩	20.0	8.7	1.6	468.9	二条線・種子キリーク右半・蓮座・業研彫り・右端に垂線か・裏面平滑
第67図2	43W	板碑	緑泥片岩	13.5	10.8	2.4	555.4	種子キリーク・蓮座・業研彫り・裏面工具痕
第67図3	43W	板碑	緑泥片岩	16.7	14.4	2.6	791.4	一辺加工か
第67図4	43W	板碑	緑泥片岩	10.3	6.1	1.3	144.8	工具痕か
第101図1	602P	板碑	緑泥片岩	10.0	5.1	0.9	78.5	工具痕・裏面やや平滑
第101図1	897P	砥石	凝灰岩	13.6	3.2	2.3	108.4	砥面は全面。上下面ともに大きな凹状の面。

第44表 中世以降遺構内出土石器・石製品

掲載番号	出土遺構	遺物種別	銭貨名	国名	初铸年	銭径長 (mm)	銭径幅 (mm)	内径長 (mm)	内径幅 (mm)	銭厚 (mm)	重量 (g)	備考
第83図1	890D	銭貨	不明			23.05	23.37	5.7	5.74	1.6	2.0	凹みあり
第97図2	453P	銭貨	寛永通宝	日本	1668	25.48	25.42	5.65	5.65	1.47	3.2	背文「天」
第101図2	479P	銭貨	皇宋通宝	北宋	1038	24.87	25.12	6.36	6.33	1.41	2.2	裏面平坦
第101図1	749P	銭貨	天聖元宝	北宋	1023	-	-	6.6	6.88	1.83	2.1	裏面平坦。銭文不明瞭

第45表 中世以降遺構内出土銭貨

第7節 遺構外出土遺物

表土や攪乱、他時期の混入品と考えられる遺物をここで報告する。58号・59号・61号・62号溝跡出土の遺物については、主に機能していたと推測される中世以外の遺物を全て遺構外として報告する。

1 縄文時代以降の石器（第110～115図、第46表）

遺構外出土石器のうち縄文時代以降に帰属すると考えられる石器は51点である（中世溝覆土中から弱い敲打痕が認められる礫180点が抽出されたが、痕跡が希薄であるためここに含めなかった）。

1～51は縄文時代に帰属すると考えられる石器である。

1は黒曜石製の石鏃である。寸詰りの形状（長幅比0.99）を示し、側縁形状は直線状、基部は弱い抉り状となる（凹基無茎）。側縁を構成する剥離は表面で粗いものの、裏面では細かい剥離が安定して認められる。

2は凝灰岩製の小型打製石斧と考えられる。表面に原礫面を残す剥片の打面部と末端部に潰れと剥離が認められる。潰れが顕著な面の対応する辺には剥離が顕著な辺が構成される傾向が認められる。両側縁は並行する形態となる。

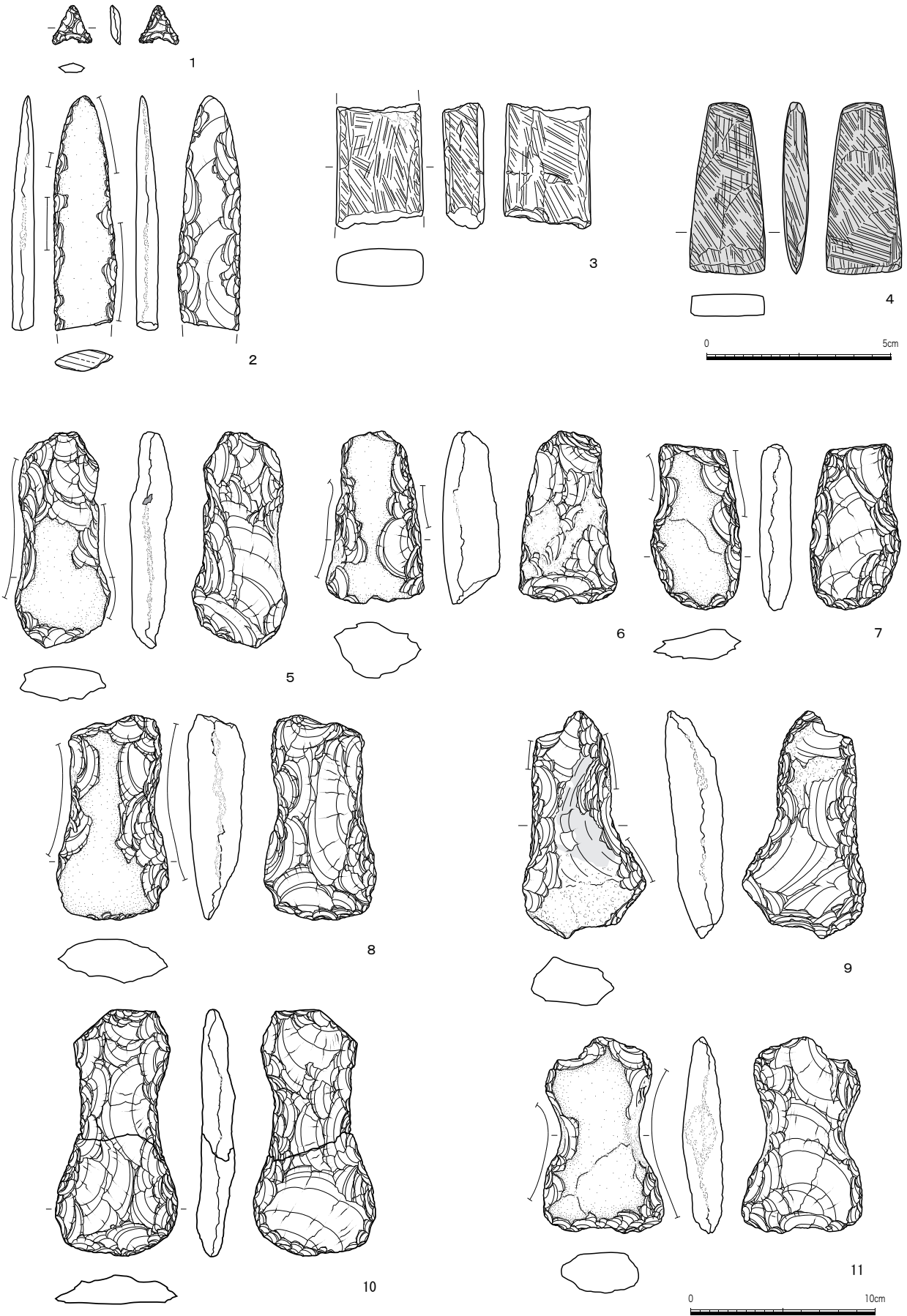
3・4は小型磨製石斧である。3は砂岩製で、上下両端を欠損するため、全体形状は不明である。全体的に左上→右下の擦痕が観察され、角面がはっきりと作り出されている（定角式）。4は透閃石岩製で、やや末広がりとなる。全体的に左上→右下の擦痕が観察され、角面がはっきりと作り出されている（定角式）。

5～19は打製石斧である。5～12が砂岩製（10点）、13～16・19がホルンフェルス製（5点）、17が凝灰岩製、18が緑泥片岩製である。5～7・19は、側縁が並行かやや末広がりとなる（短冊・撥形）。両側縁は潰れと剥離を伴う粗い潰れで構成される。6は特に裏面側の中央部に粗い敲打が認められ、分厚い器体を減じようとする意図がうかがえる。8・9は、5～7に類似するものの、片縁に弱い抉り状の縁辺が形成されている（撥形）。抉りの部分はより顕著な潰れが認められる。10～13は、両側縁の中央部に抉りが認められる（分銅形）。抉り部は特に顕著な潰れが認められる。器体の長さが短いほど、側縁の潰れも顕著となる傾向も認められる。14・16は、中央部に抉りが認められる形態の刃部片である。やはり、抉り部に顕著な潰れが認められる。18は、表面・刃部に磨痕を残す磨製石斧の破損からの転用あるいは再生途中と考えられるものである。両側縁が潰れと剥離を伴う粗い潰れで構成されることから打製石斧としてとらえた。17は、両縁辺が不整形となるが、潰れと剥離を伴う粗い潰れで構成されることから打製石斧としてとらえた。15は非常に大型の打製石斧の刃部片、19は大型の打製石斧である。いずれも両側縁が並行する形態をなす。

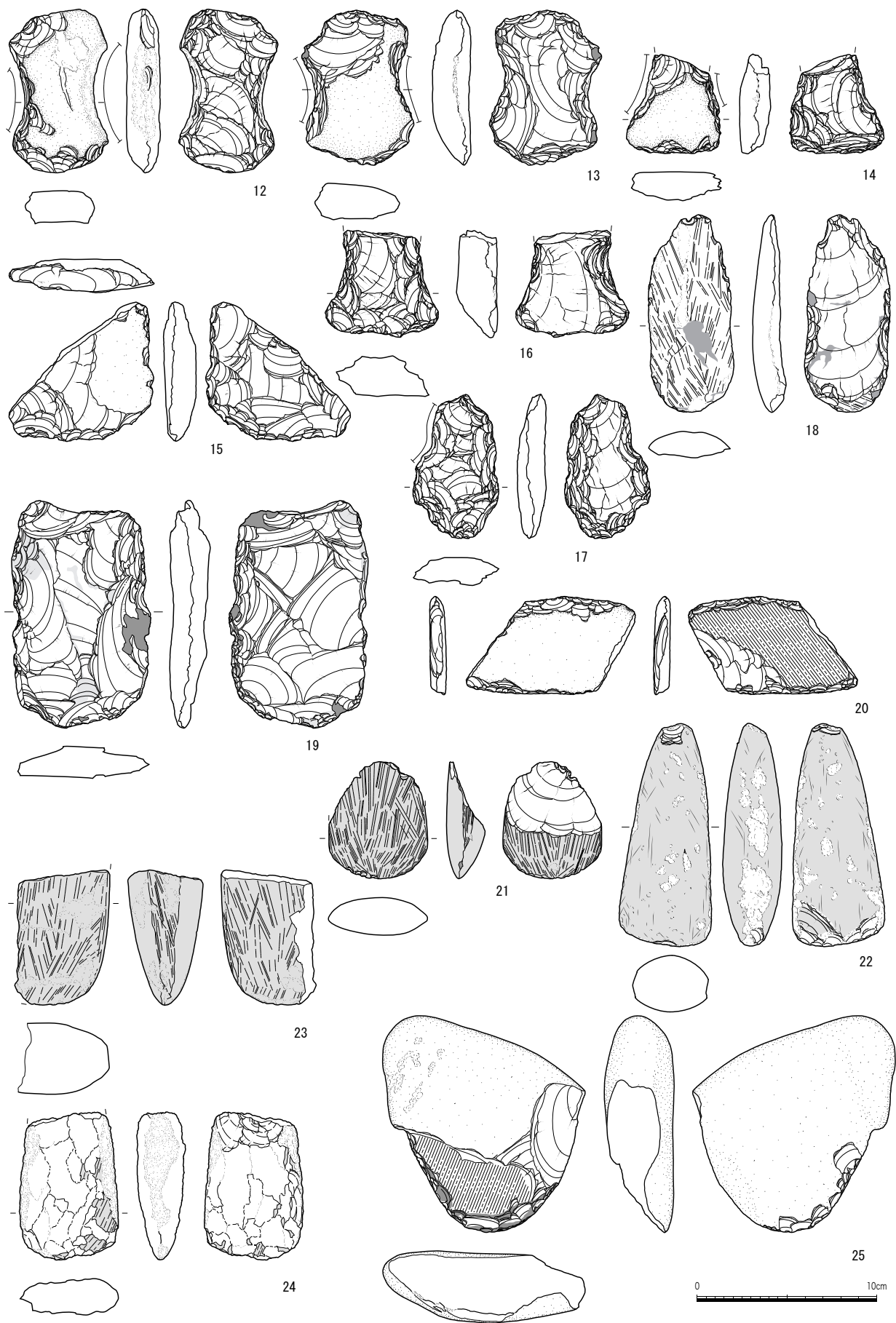
20は砂質片岩製の削器とした。薄い剥片あるいは碎片が素材となる。上下面は弱い潰れを伴いつつ表裏面側に小規模な剥離が連続して生じた直線的な辺で構成される。

21～24はいずれも凝灰岩製の磨製石斧の破損品あるいは転用品である。21は刃部の破損品である。両側に側面が形成される（定角式）。22は明確な側面をもたない乳棒状の磨製石斧である。刃部付近は顕著に潰れている。また側縁の一部は楕円形に潰れ痕が認められる。敲石への転用が考えられる。23は刃部付近の破片資料である。残存する右側には側面が形成される。刃部の稜に顕著な敲打痕が認

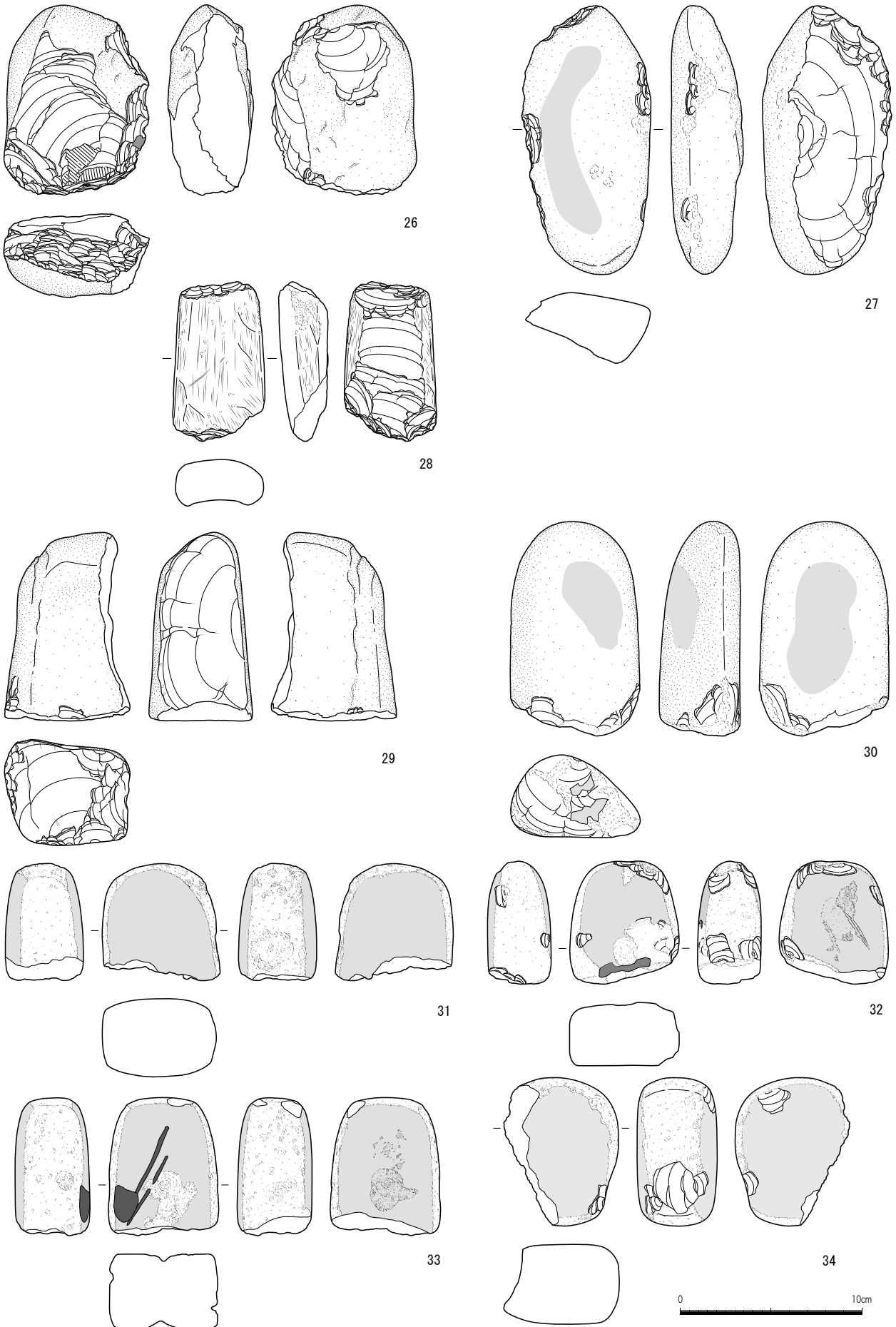
縄文時代以降の石器



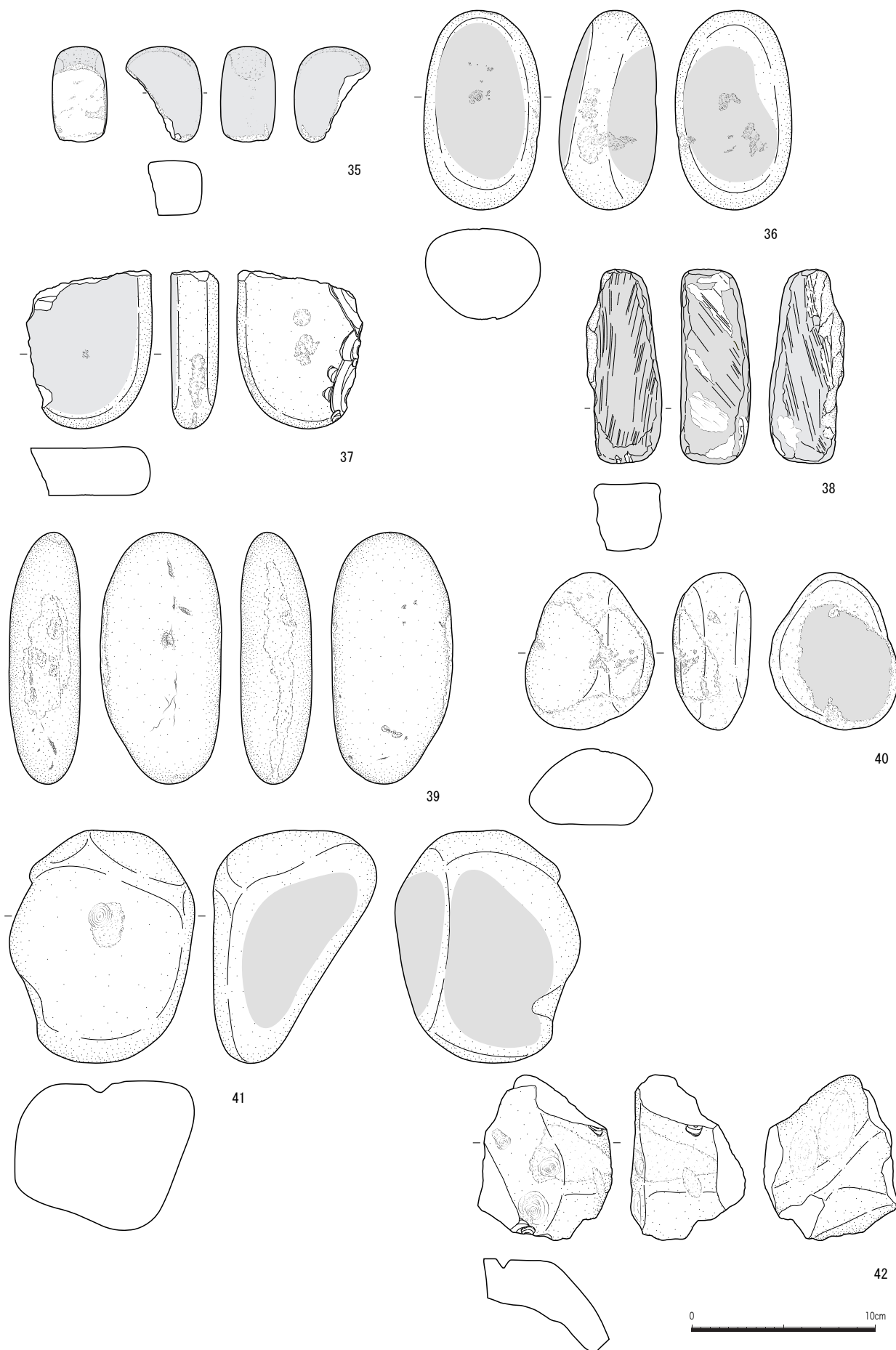
第110図 遺構外出土石器1 (2/3・1/3)



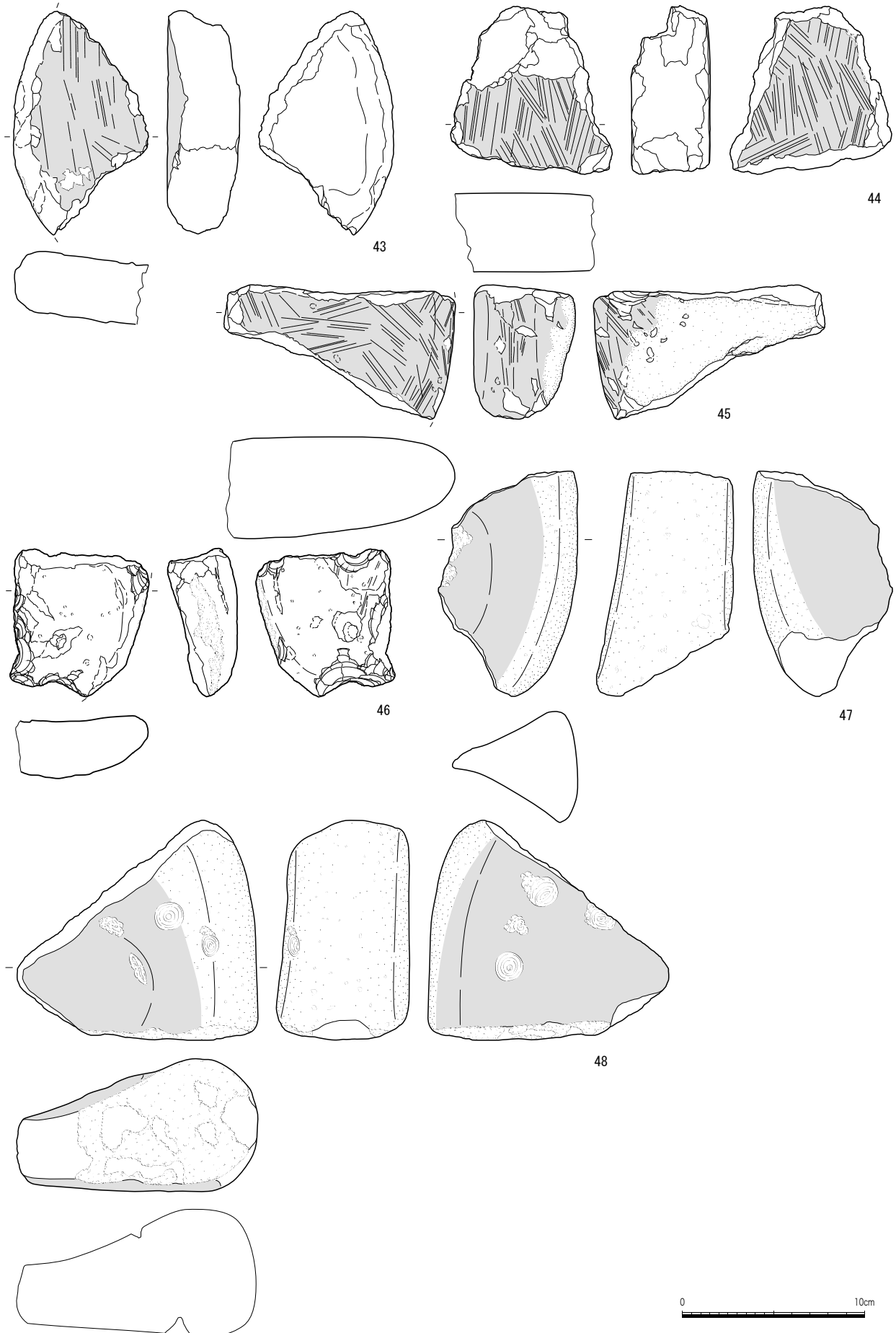
第 111 図 遺構外出土石器 2 (1/3)



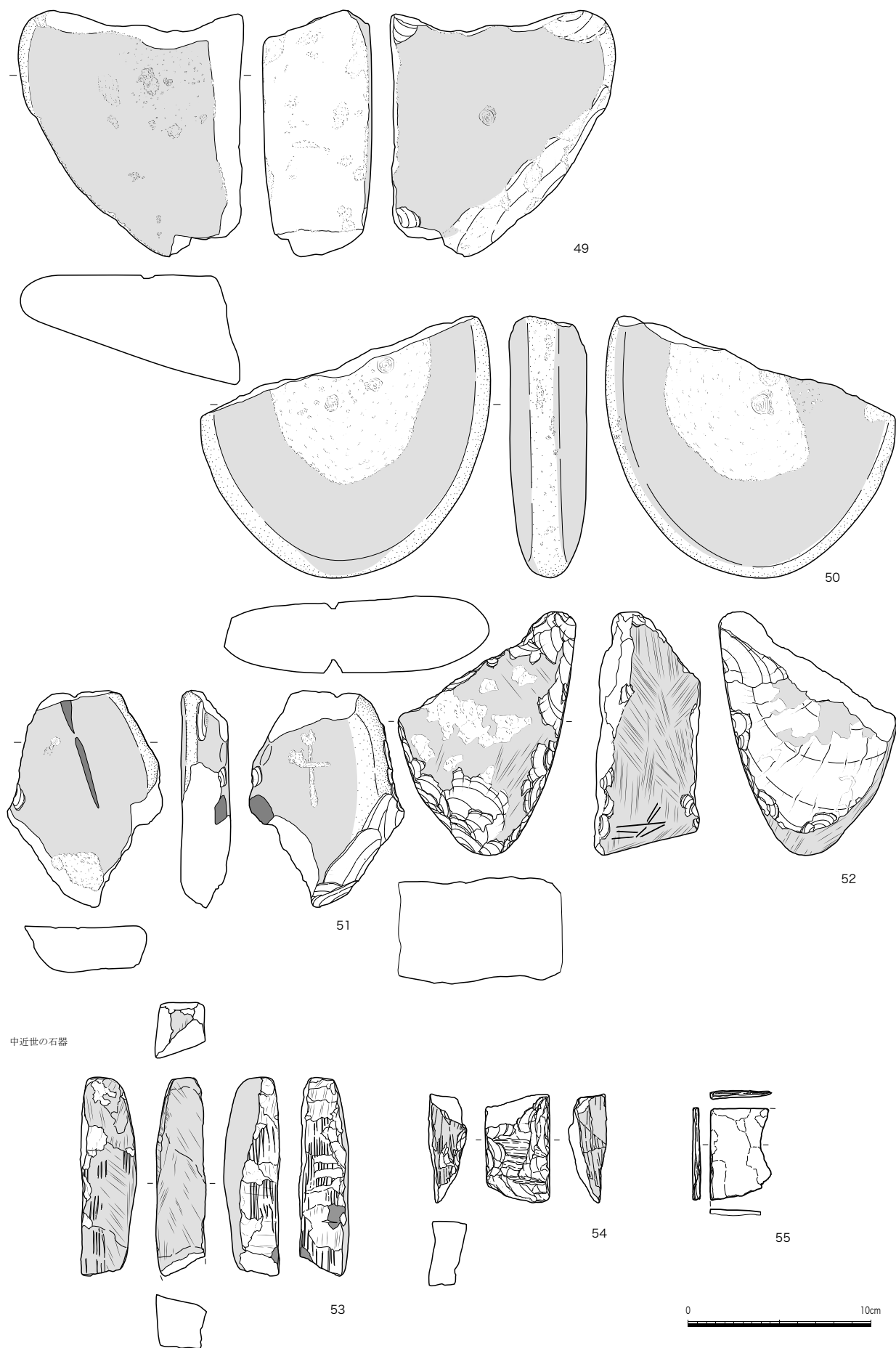
第112図 遺構外出土石器3 (1/3)



第113図 遺構外出土石器4 (1/3)



第114図 遺構外出土石器5 (1/3)



第115図 遺構外出土石器6 (1/3)

められる。24は、器体中央での折損後に、剥離と敲打によって再生を試みている可能性が考えられる。表裏面の多くは剥落によって観察困難である。

25・26は礫器である。25は凝灰岩製で、やや扁平な礫の端部に大きな二次的剥離を加えて片刃が作られている。この部位の縁辺には、剥離を伴う潰れが認められる。26はホルンフェルス製で、分厚な礫の端部に25と同様に片刃が作られている。この部位は、剥離が多重的に重なることで刃先角114°前後の非常に急角度の縁辺が形成されている。

27～30は敲打石類である。27は砂岩製で、右側面は部分的な面敲打、左側縁は剥離縁辺を用いた稜敲打が認められる。28は凝灰岩製で、磨製石斧の転用品である、上下の折れ面に対していずれも稜敲打が認められる。29はホルンフェルス製で、下面の平坦面と剥離の状態、下面の平坦面からの剥離の状態からスタンプ形石器に類似するものであると考えられる。潰れの痕跡は不明瞭である。30は砂岩製で下面の状態と下面からの剥離面の状態から29と同様にスタンプ形石器であると考えられる。下面で特に面的な潰れが顕著である。

31～40は磨石類である。31・32・35・37が閃緑岩製、33・34・38が安山岩製、36・39・40が砂岩製である。31～35はいわゆる「石鹼状」で、32・33は敲打による浅い椀状の凹みが認められる。32は折損後の折れ面にやや顕著な敲打痕が認められる。この部位は、生じている剥離痕などから、29・30の下面との類似性が指摘される。36は表面に非常に顕著な磨痕、裏面に磨痕が認められる。表裏面、右側面に部分的な敲打痕が認められる。37は扁平な礫の表面に平坦な磨面が形成されている。裏面には敲打に伴う痘痕状の痕跡が認められる。38は、表裏面、右側面に磨面が認められる。表面が最も顕著で平坦面が形成され、裏面は凸面状となる。左側面は節理で欠損する。39は磨面が認められないものの、両側面に面的敲打が顕著である。いわゆる特殊磨石の痕跡と類似する。40は裏面に平坦な磨面が認められる。その他の面のほとんどは面的敲打痕で覆われている。

41・42は凹石である。41が砂岩製で、表面にやや円錐状の凹みが認められる。凹みの底面は椀状となる。42が安山岩製で、表面に3つの凹みが認められる。いずれも風化が進んでいるため詳細は不明であるが、深い椀状の凹みであると考えられる。

43～50は石皿である。43・44・46～49が安山岩製、45が砂岩製、50が閃緑岩製である。43・46は明確な縁をもたないものの、表面が中央に向かって緩く凹んだ形状をなす。46は裏面に椀状の凹みが認められる。47・48は、表裏両面が中央に向かって緩く凹んだ形状をなす。47は両面の湾曲がやや顕著で、中央でほぼ接する。48は両面ともに深い椀状の凹みが複数形成されている。44・45・49は、両面が平面あるいは緩い凸面で形成される（いわゆる「扁平石皿」）。44は両面が赤化、49は表面が黒化している。また、表裏面に敲打による痘痕状の痕跡が残されている。50は表裏両面の中央が敲打によって痘痕状となり、両面ともに小さな椀状の凹みがいくつか形成されている。

51・52は砥石である。51は緑泥片岩製で、表面に磨痕をともなう凹面、裏面に希薄な磨痕を伴う平坦面、左側面に顕著な磨痕で形成される凹面が観察される。52は安山岩製で、礫の破断面に顕著な磨痕が観察される。破断面の凹凸の高い部分に磨痕は顕著であるが、低い部分に向かっても薄く磨痕が乗っている（磨痕部位にも凹凸がある）。

53～55は中近世に帰属すると考えられる石器である。

53・54は砥石である。53は乳白色を呈する凝灰岩製で、表面以外の3面に切り出し時の櫛歯タガ

ネ痕が残る（近世以降と考えられる）。表面の使用が頻繁で変形度が高いため原形を推測することは難しいが、他の3面の関係から立方体であった可能性が高い。表面は上端付近で大きく湾曲し、下に向かっていくつかの緩い湾曲が連続すると考えられる。54は灰色を呈する粘板岩製で、大きく欠損する破片資料である。表面は非常に緩い湾曲をもつ砥面で、裏面は平坦な節理面に若干の磨痕が乗っている。55は薄灰色を呈する粘板岩製の硯の破片である。薄く剥離した破片資料であるため全体形状は不明で、硯面も不明である。左面と上面が左上で交差し角が形成されている。

2 縄文時代の土器（第116～118図、第47・48表）

1・2は早期条痕文系土器である。いずれも貝殻条痕文が両面に施文される。

3～6は前期関山式土器である。4は関山1式、3・5・6は関山2式であると考えられる。

7～18は前期黒浜式土器である。14・15は比較的新しい段階のものであると考えられる。

19～39は前期諸磯式土器である。20～26・28・29・31・32は諸磯a式、19・27・30・33は諸磯b式、34～37は諸磯c式である。38・39は諸磯a～b式の浅鉢と考えられる。

40は前期浮島式土器で、浮島3式である。

41～47は中期加曾利E式土器である。41は加曾利EⅠ式、42は加曾利EⅡ式、43は加曾利EⅢ式、44～46は加曾利EⅢ新～Ⅳ式、47は加曾利EⅣ式であると考えられる。

48～54は後期称名寺式土器である。48～52は称名寺Ⅰ式、53は漸位段階と考えられ、54は称名寺Ⅱ式である。

55～69は後期堀之内式土器である。55～62・68は比較的古い段階のものと考えられる。61・62は粗製土器である。

70・71・73～77は後期加曾利B式土器で、70・71は比較的古い段階ものと考えられる。

72は縄文時代後期の土器底部である。

77は晩期安行式土器であると考えられる。

3 弥生時代から平安時代の土器（第119・120図、第49～51表）

78～81・86～89は弥生土器である。いずれも弥生時代後期のものと考えられる。78・87には赤彩が施される。

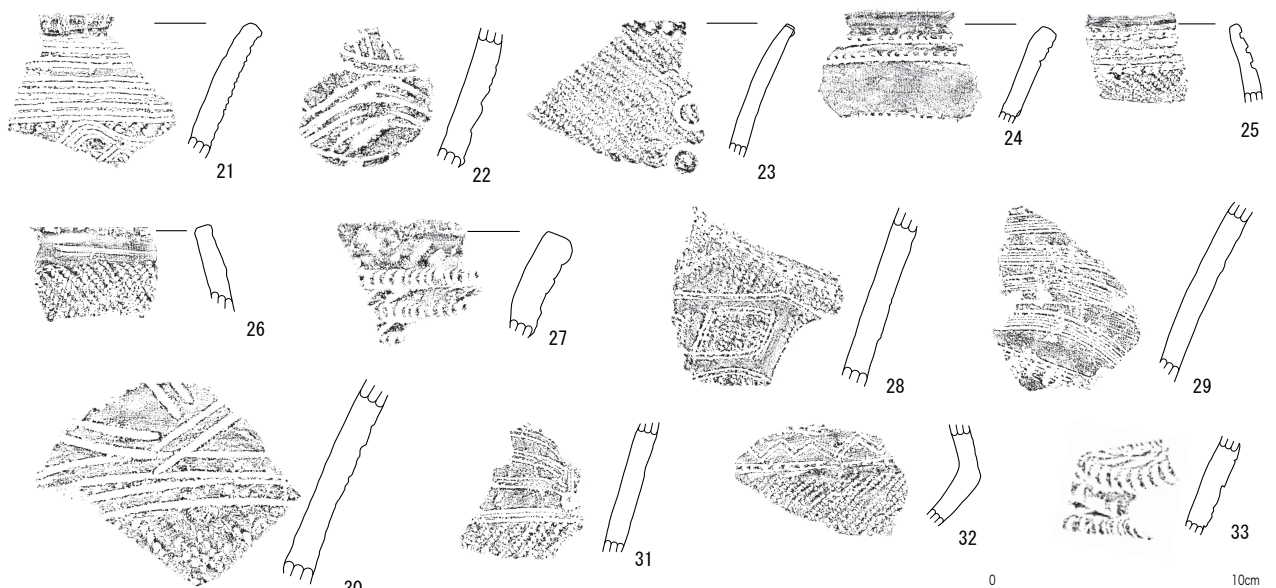
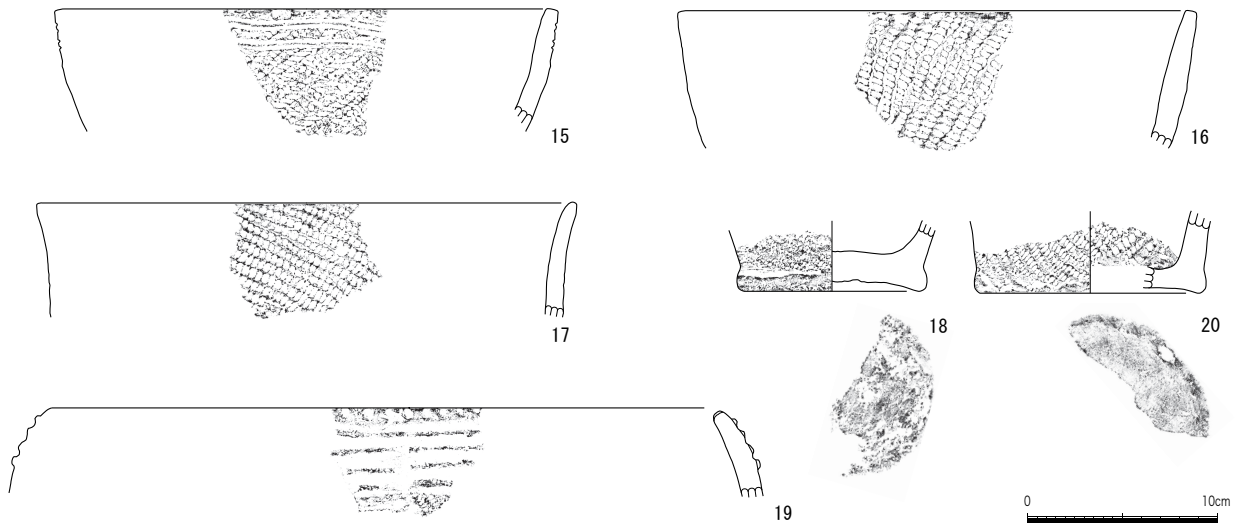
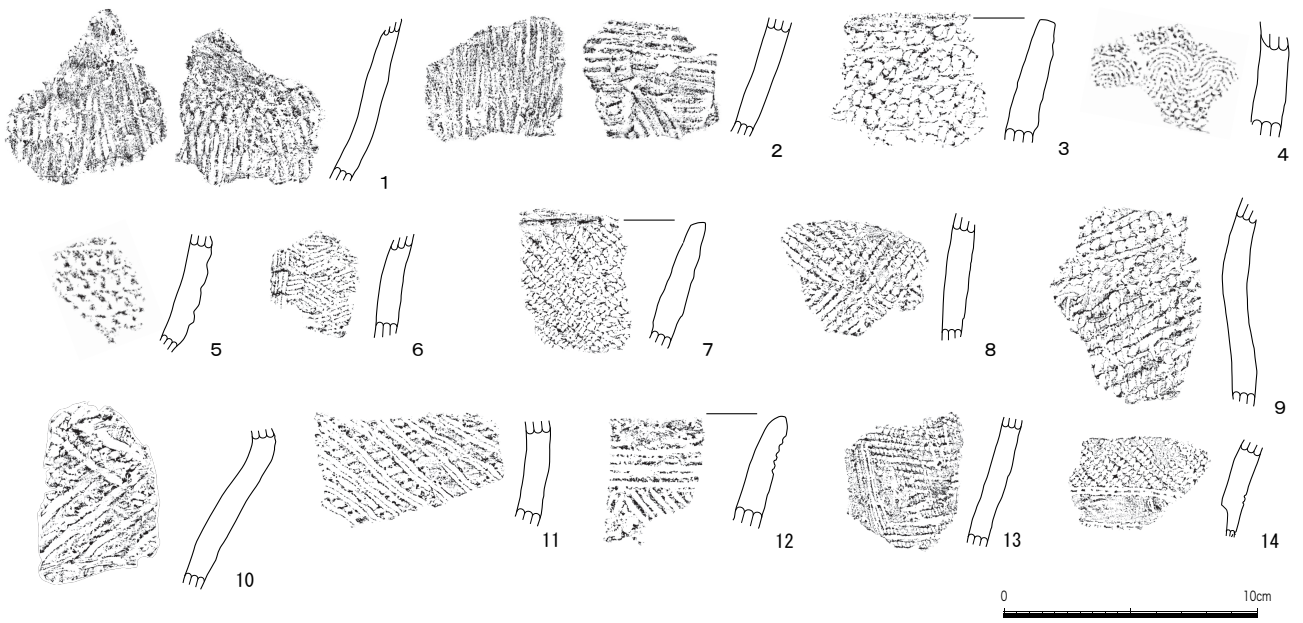
82～85は古墳時代の土師器である。82・85には赤彩が施される。

90～92は奈良～平安時代の土師器である。91・92には内面が黒色処理されている。

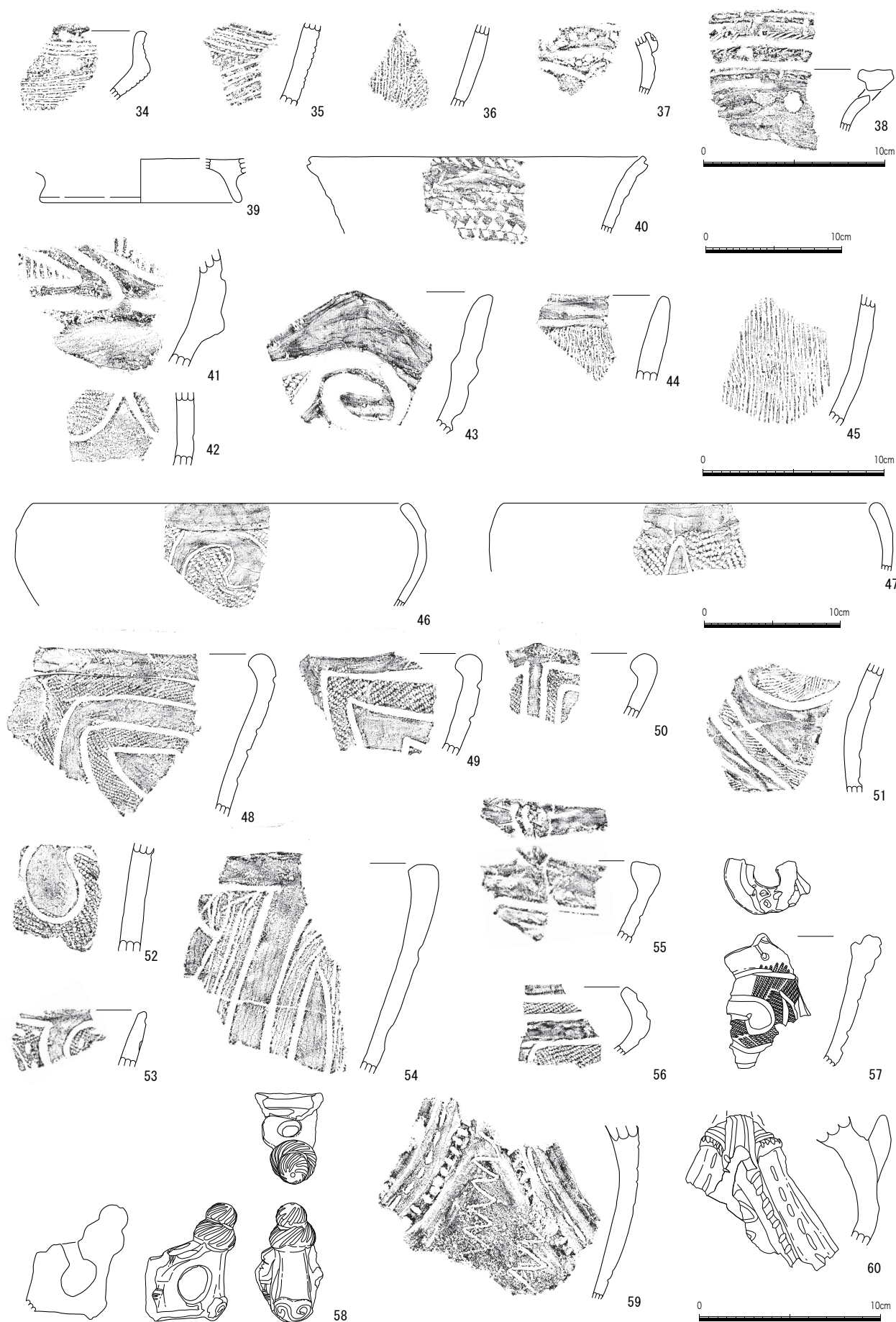
93～102は須恵器、103は灰釉陶器、104は平安末～中世初頭の在地産土器と考えられる。須恵器の産地については、282号住居では南比企産の須恵器が確認されており、93・100・101はそれと異なる産地であると考えらるが、その他大半は9世紀代の東金子産である。

4 中世以降の遺物（第119～123図、第52～58表）

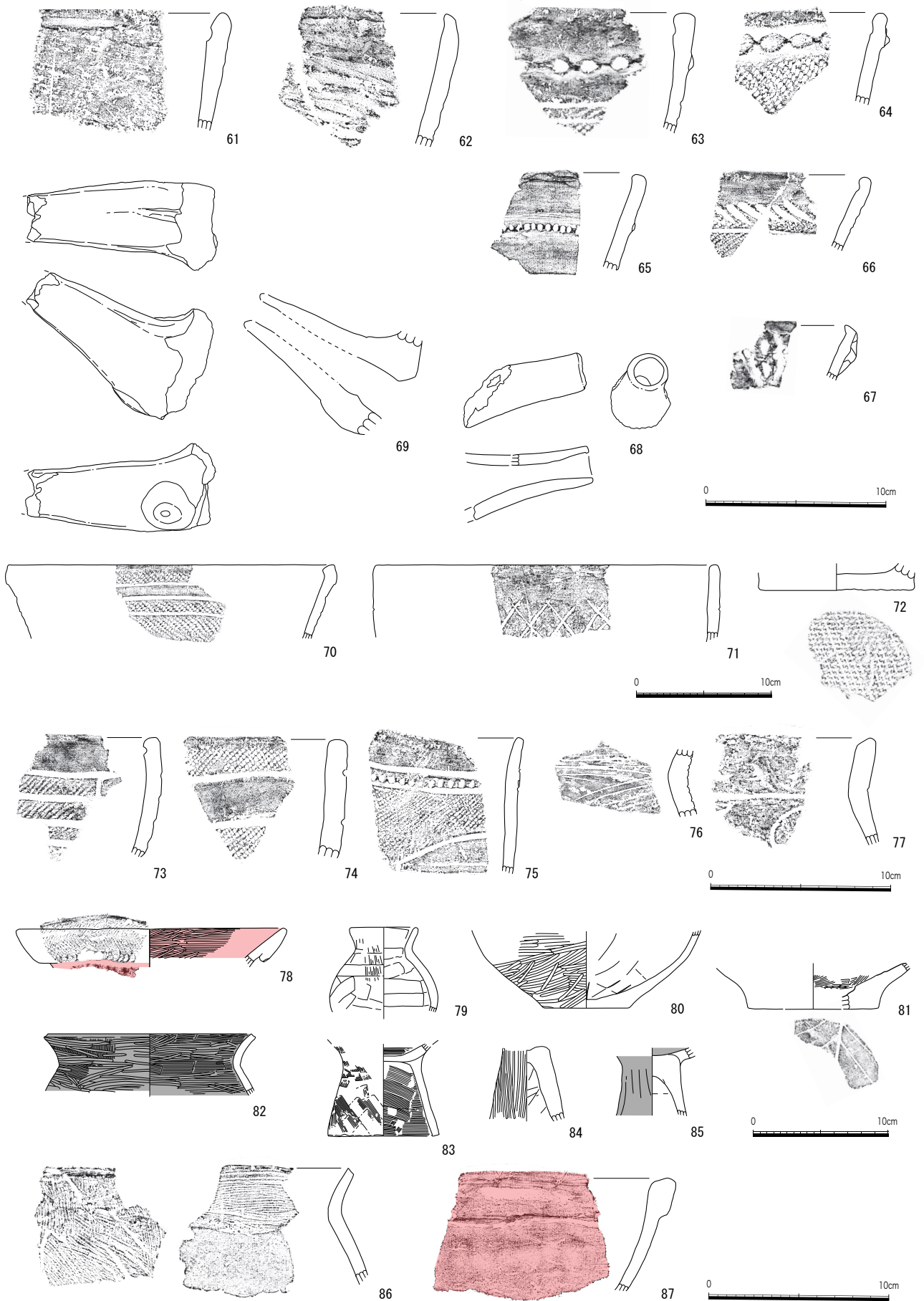
105～133は中世の遺物と考えられる。陶器は皿・碗・播鉢が出土し、主な産地は瀬戸・美濃産である。土師質土器はかわらけ・焙烙・火鉢、炆器は常滑産甕・捏鉢、また白磁の合子が出土した。時期は、常滑・かわらけ・播鉢・白磁は比較的古い段階ものも含まれると考えられ、皿・碗は大窯第3～4段階が中



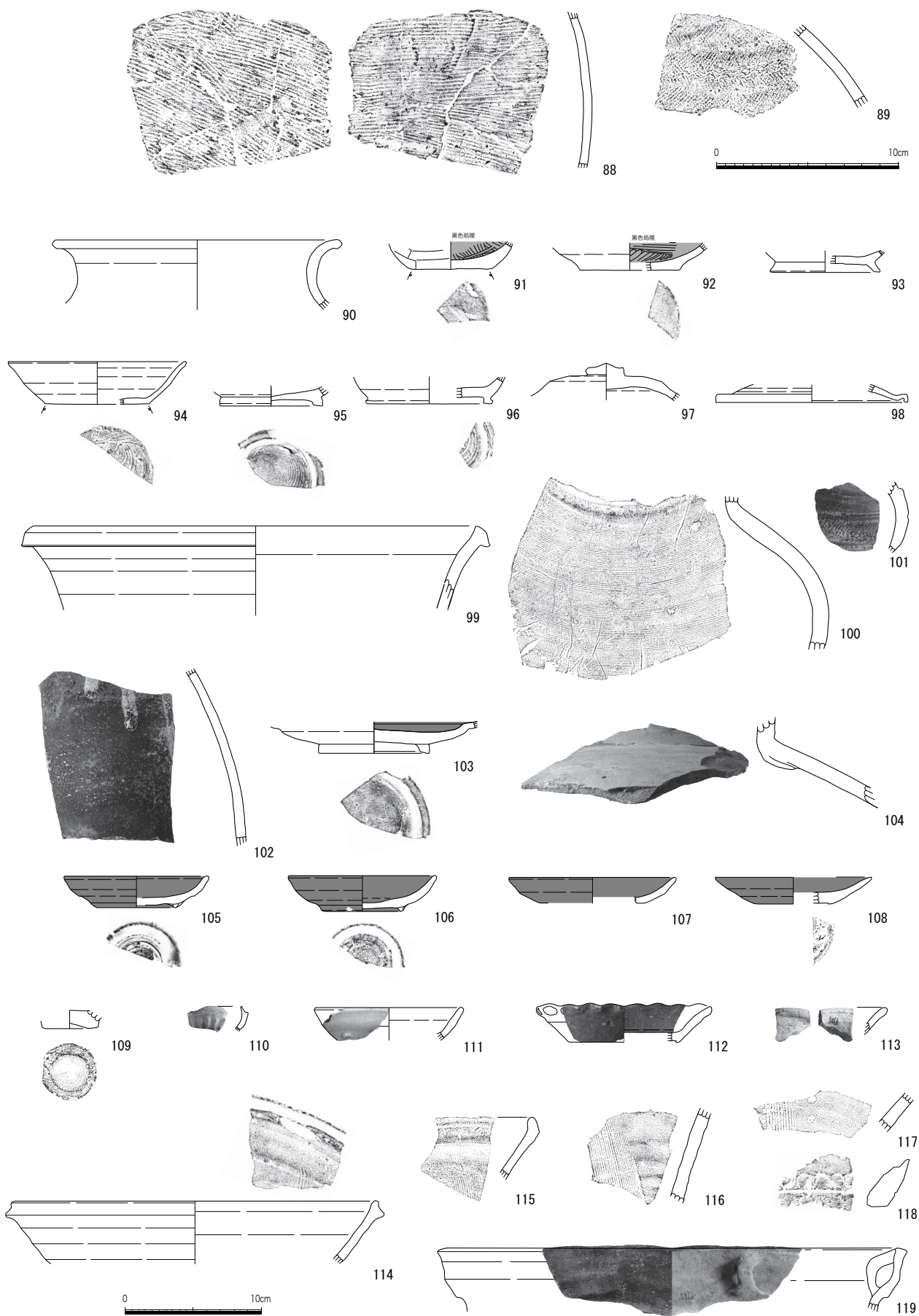
第 116 図 遺構外出土繩文土器 1 (1 / 3 · 1 / 4)



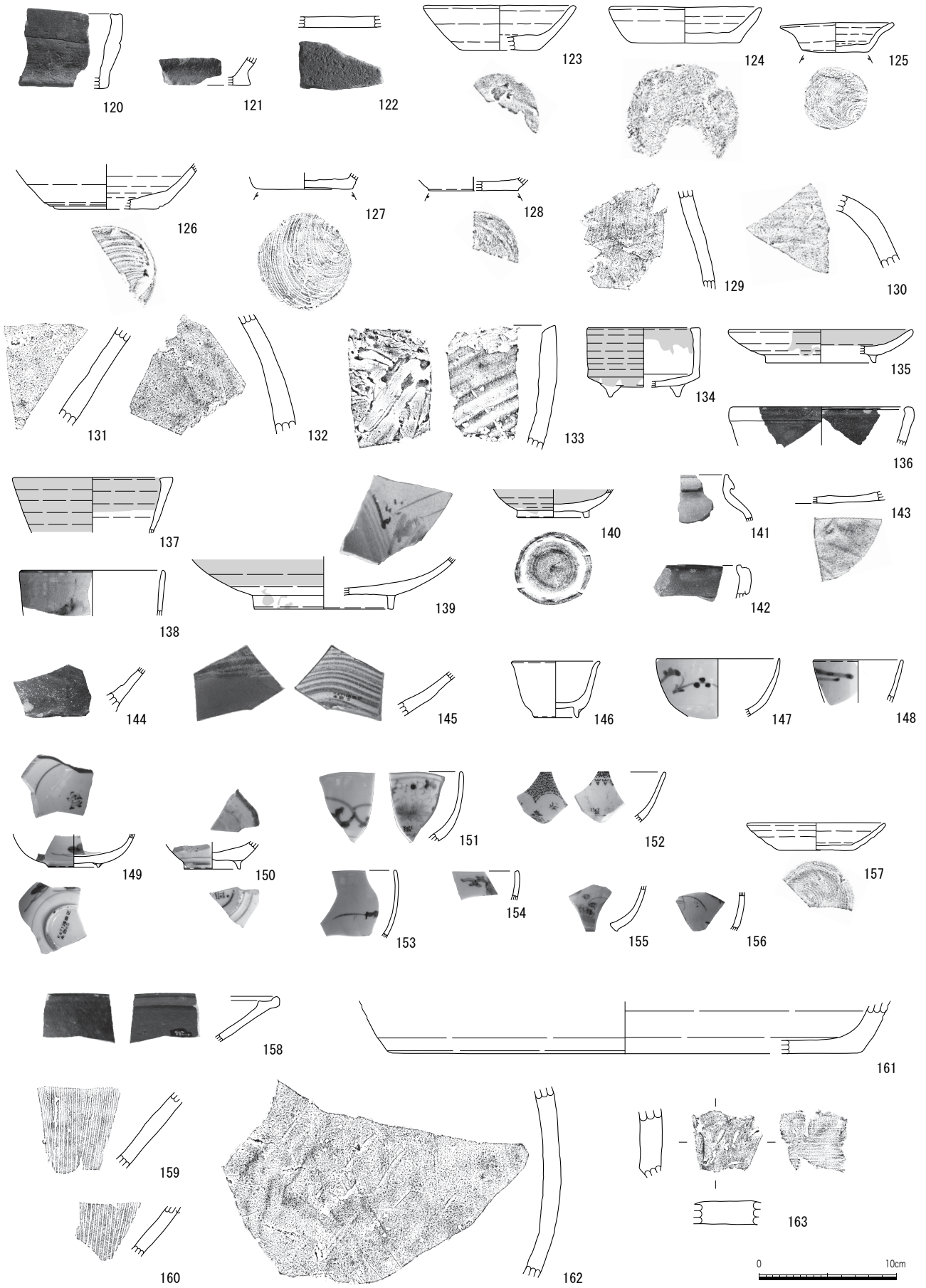
第117図 遺構外出土縄文土器2 (1/3・1/4)



第 118 図 遺構外出土繩文土器 3・弥生～古墳時代土器 1 (1/3・1/4)



第119図 遺構外出土弥生～古墳時代土器2・奈良～平安時代土器・中世以降土器・陶磁器1 (1/3・1/4)



第120図 遺構外出土中世以降土器・陶磁器2・土製品(1/4)

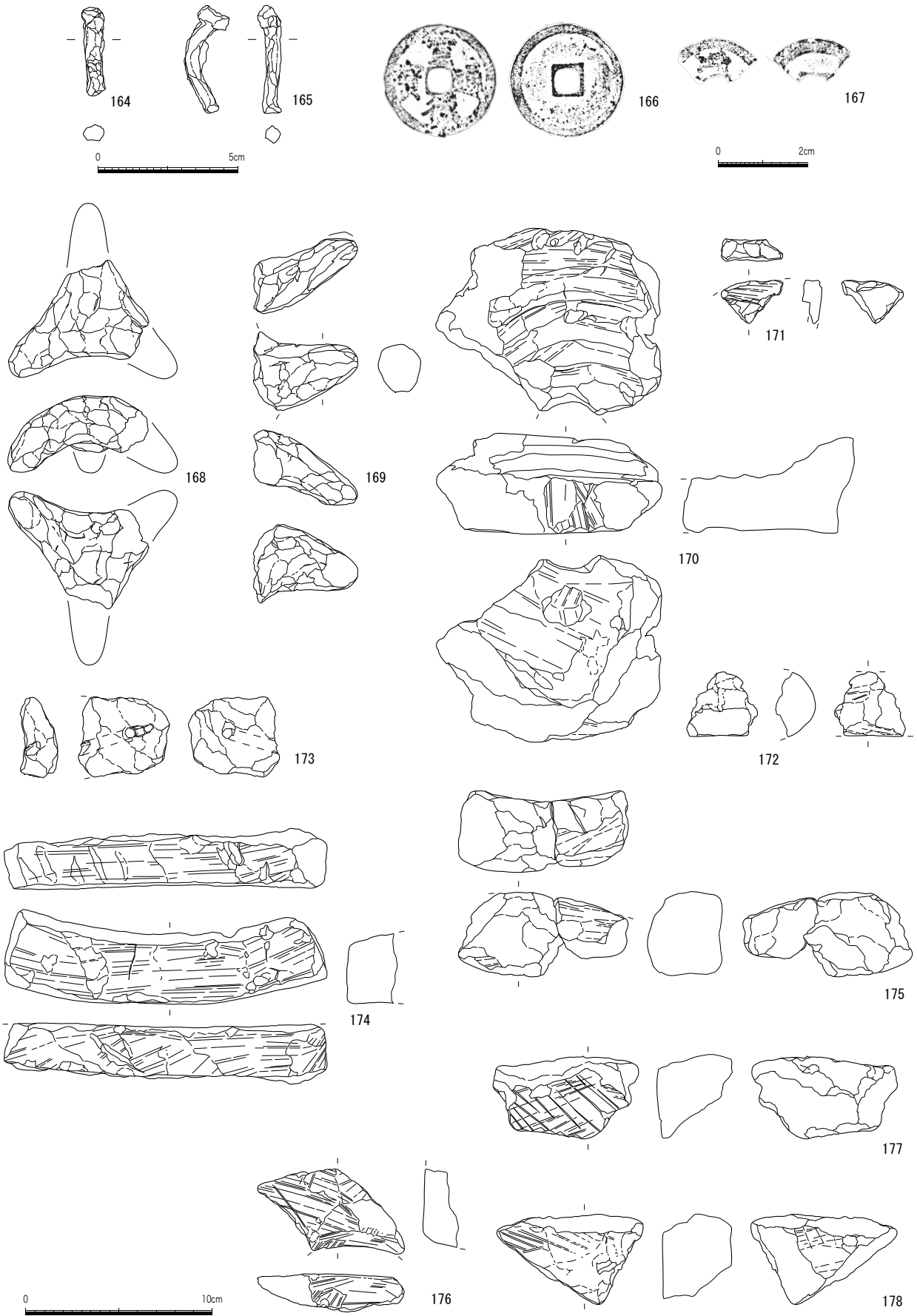
心である。

134～162は近世の遺物と考えられる。134～146が陶器、147～156が磁器である。陶器は瀬戸・美濃産、磁器は肥前系が中心である。土師質土器はかわらけ・火鉢、炆器は常滑産、堺・明石産播鉢が出土した。

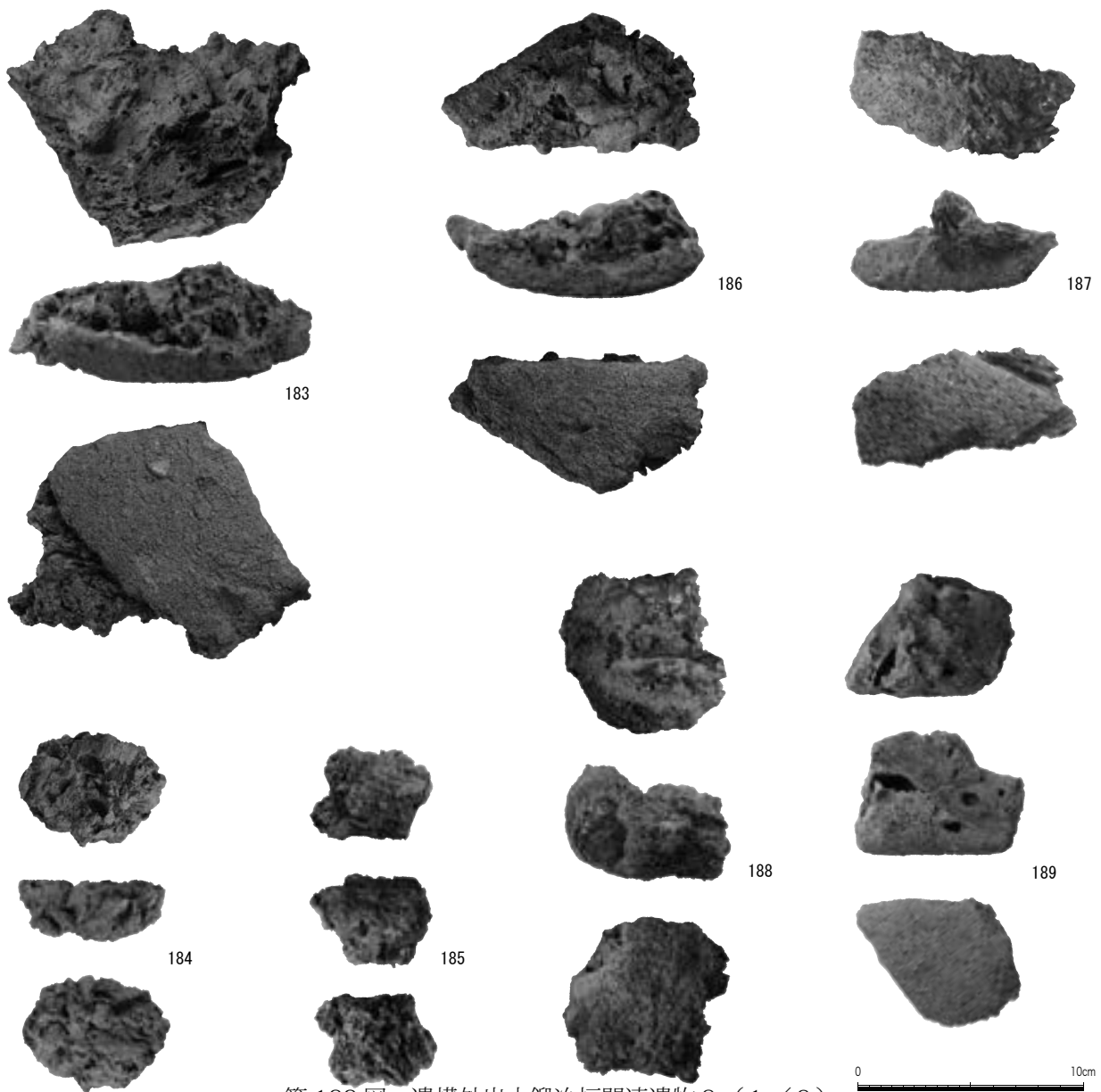
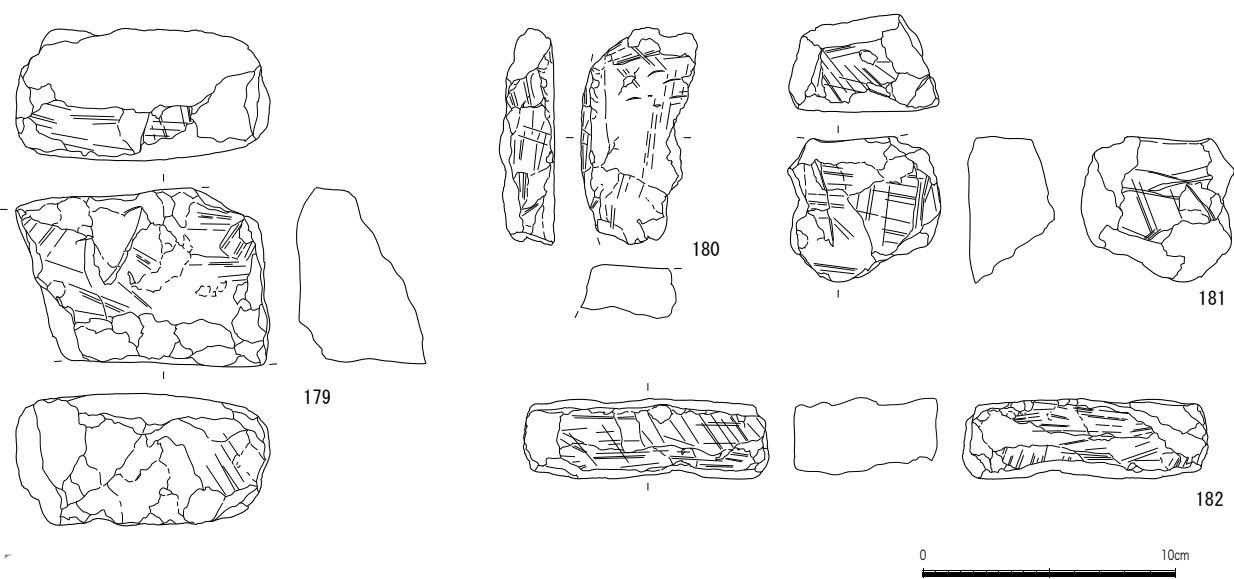
163は須恵質の平瓦である。

164・165は鉄製の釘、166は宣徳通寶、167は銭貨の破片である。

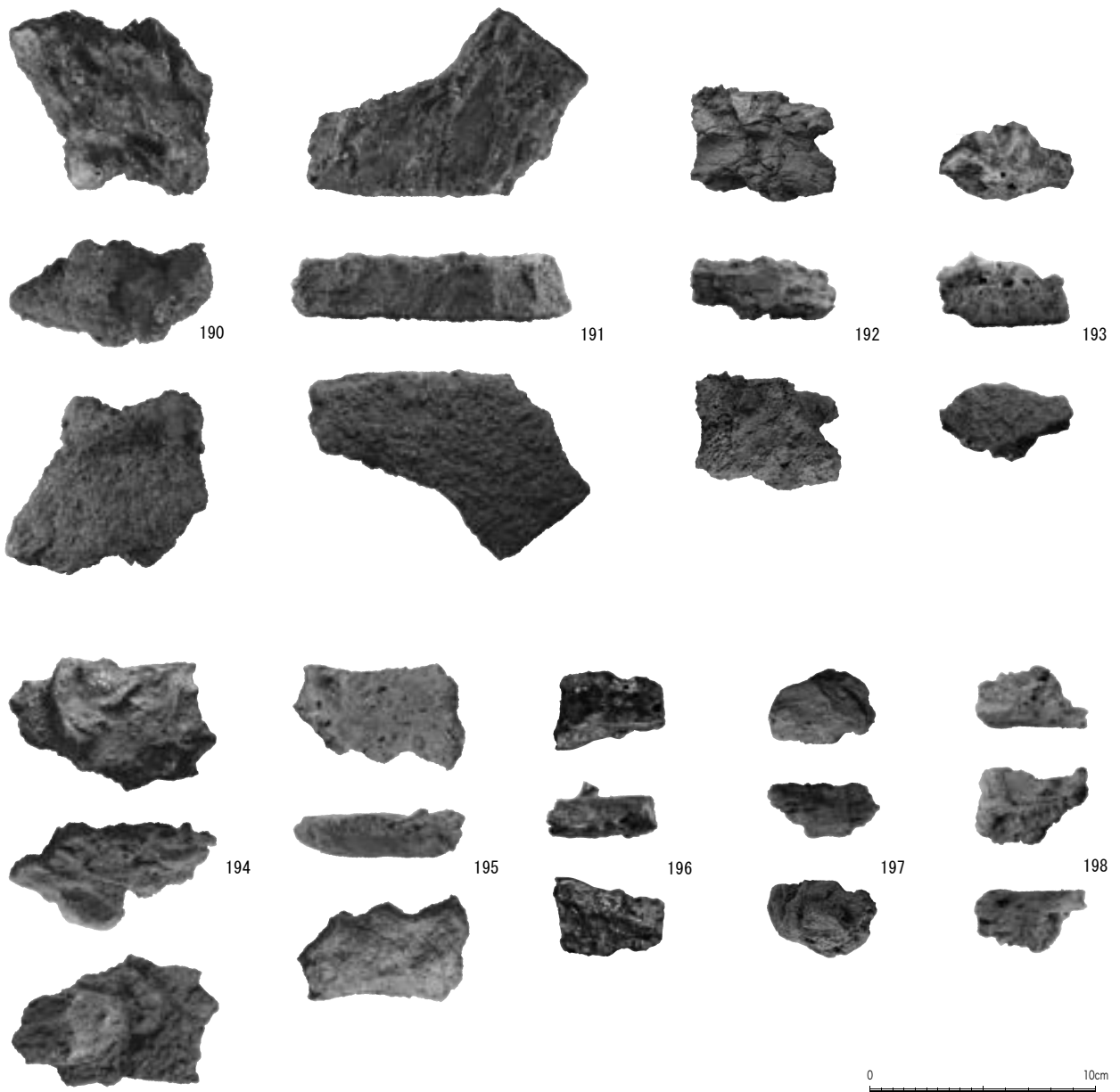
168～198は鍛冶関連遺物である。破片も多く出土したが接合資料はほとんど無く、大形の破片の他、成形された部分が確認できるものを中心に図示した。168～182が鋳型・定盤など土製品、183～198が鉄滓である。168・169は三叉状土製品（サル）と考えられ、指頭による成形痕が顕著である。定盤と考えられる土製品は、上・下・内・外面が水平に成形され工具痕が残るものが大半であるが、手捏ねで成形されたようなものも見受けられる。鉄滓は、大形の資料と、特徴的な形状・含有物があるものを中心に掲載した。183・185～187は磁鉄鉱と考えられるものを含有する。184の中心部には炭化材も含まれている。186・187～190は砂状の炉材と流状鉄滓の界面が確認できる。191・192は炉材が主体の資料である。194・195は被熱した土製品の一部が付着している。科学的な分析については付編で報告する。



第 121 図 遺構外出土金属製品・錢貨・鍛冶炉関連遺物 1 (1/2・1/3・1/4・4/5)



第 122 図 遺構外出土鍛冶炉関連遺物 2 (1 / 3)



第123図 遺構外出土鍛冶炉関連遺物3 (1/3)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土遺構	石材	器種	詳細	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	残存	部位
110 図 1	451P	黒曜石	石鏃		10.54	10.68	2.79	0.20	1	完形
2	938P	凝灰岩	小型石斧 (打製)		63.53	17.17	6.07	8.66	0.75	先端～体部
3	1 区	砂岩	小型石斧 (磨製)		33.90	23.66	11.42	17.02	0.25	体部
4	878D	透閃石岩	小型石斧 (磨製)		46.52	20.43	7.07	12.11	1	完形
5	61M	砂岩	打製石斧		117.02	51.55	22.84	149.82	1	完形
6	61M	砂岩	打製石斧		93.52	53.17	31.02	188.62	1	完形
7	62M	砂岩	打製石斧		89.79	48.98	17.31	101.48	1	完形
8	61M	砂岩	打製石斧		111.03	60.75	31.15	247.58	1	完形
9	845D	砂岩	打製石斧		123.26	66.69	31.35	227.34	0.75	先端～末端
10	61M	砂岩	打製石斧	a・b 2片が接合	133.47	66.03	20.86	184.86	1	完形
10-a	61M	砂岩	打製石斧		82.32	52.21	18.34	99.48	0.5	末端
10-b	61M	砂岩	打製石斧		66.79	66.09	20.70	85.38	0.5	先端
11	61M	砂岩	打製石斧		106.44	65.22	21.97	168.61	1	完形
111 図 12	61M	砂岩	打製石斧		90.76	54.99	18.97	130.04	1	完形
13	1-15	ホルンフェルス	打製石斧		86.01	62.23	21.36	136.22	1	完形
14	61M	ホルンフェルス	打製石斧		54.94	52.40	17.21	60.18	0.5	末端
15	61M	ホルンフェルス	打製石斧	大型	77.31	80.23	18.10	112.69	0.25	末端
16	61M	ホルンフェルス	打製石斧		59.30	62.79	22.79	100.74	0.5	末端
17	61M	緑泥片岩	打製石斧		79.93	47.53	16.08	72.80	1	完形
18	61M	凝灰岩	打製石斧	磨製石斧転用打製石斧	109.55	47.53	18.52	122.42	1	完形
19	43W	ホルンフェルス	打製石斧		126.27	77.26	22.47	253.98	1	完形
20	58M	砂質片岩	削器		54.39	93.84	9.39	58.67	0.5	先端～末端
21	61M	凝灰岩	磨製石斧		65.00	54.79	21.38	82.15	0.25	末端
22	4号トレンチ	凝灰岩	磨製石斧	乳棒状・側縁に楕円形の敲打痕	125.04	52.29	33.05	321.48	1	完形
23	61M	凝灰岩	磨製石斧		74.90	52.79	41.72	267.79	0.25	末端
24	61M	凝灰岩	磨製石斧	再生 (磨面を敲打がきる)	82.05	54.95	27.05	204.56	1	完形
25	61M	凝灰岩	礫器		120.19	112.35	38.74	594.99	1	完形
112 図 26	61M	ホルンフェルス	礫器		104.36	79.52	47.08	541.79	1	完形
27	61M	砂岩	敲石類		147.62	71.03	39.70	447.24	1	完形
28	調査区南西部	凝灰岩	敲石類	磨製石斧転用敲石	87.71	50.65	27.15	205.00	1	完形
29	58M	ホルンフェルス	敲石類	スタンプ状石器	103.55	68.74	56.83	613.21	1	完形
30	61M	砂岩	敲石類	スタンプ状石器	117.72	71.18	44.58	539.70	1	完形
31	61M	閃緑岩	磨石類	石鏃状	64.27	64.79	42.94	292.99	0.5	先端
32	61M	閃緑岩	磨石類	石鏃状 / 敲打腕状凹	67.59	60.02	34.93	243.47	1	完形
33	61M	安山岩	磨石類	石鏃状 / 敲打腕状凹	75.80	60.59	41.12	333.27	0.5	先端
34	61M	安山岩	磨石類	石鏃状	81.49	62.94	44.01	366.12	0.75	先端～末端
113 図 35	61M	閃緑岩	磨石類		51.86	41.13	29.77	692.75	0.5	先端～体部
36	61M	砂岩	磨石類		108.19	63.20	53.00	530.69	1	完形
37	61M	閃緑岩	磨石類		85.92	68.14	25.97	264.98	0.25	先端～体部
38	282H	安山岩	磨石類		105.40	40.88	38.07	272.50	1	完形
39	61M	砂岩	磨石類	特殊磨石	136.57	65.83	38.63	555.74	1	完形
40	53M	砂岩	磨石類		85.34	69.94	42.39	224.93	1	完形
41	878D	砂岩	凹石		126.37	100.51	88.68	1307.52	1	完形
42	25P	安山岩	凹石	多孔	89.76	72.81	62.17	255.11	0.25	破片
114 図 43	調査区南西部	安山岩	石皿		122.31	73.86	39.93	377.71	0.25	破片
44	61M	安山岩	石皿		91.87	88.44	43.44	454.54	0.25	破片
45	58M	砂岩	石皿		73.53	126.64	55.63	565.10	0.25	破片
46	61M	安山岩	石皿		123.12	76.25	74.91	487.47	0.25	破片
47	61M	安山岩	石皿		80.82	76.07	38.11	232.34	0.25	破片
48	61M	安山岩	石皿		120.30	131.71	72.89	1286.55	0.25	破片
115 図 49	61M	安山岩	石皿		67.23	61.56	29.87	1339.47	0.25	破片
50	944D	閃緑岩	石皿	凹み (多孔)	143.15	158.37	42.51	1248.82	0.5	体部～末端
51	61M	緑泥片岩	砥石		118.35	84.67	27.21	343.84	0.5	体部
52	61M	安山岩	砥石	破断面	133.16	97.12	57.86	933.60	0.5	体部～末端
53	63M	凝灰岩	砥石		108.48	27.40	30.82	124.24	0.75	先端～体部
54	63M	粘板岩	砥石		59.48	20.90	35.43	51.50	0.25	破片
55	63M	粘板岩	硯		4.71	33.35	50.13	8.72	0.25	破片

第 46 表 遺構外出土縄文時代以降石器

挿図No.	出土遺構	部位	時期	型式	文様・特徴	形状・特徴	色調	胎土								備考	
								角閃石	雲母	長石	石英	橙粒	砂粒	礫	他		
116図1	58M	胴部	早期後半	条痕文系	内外面具殻条痕文→外面ナデ		7.5YR4/6(褐)	○		○							
2	61M	胴部	早期後半	条痕文系	内外面具殻条痕文		7.5YR4/6(褐)	○		○							
3	61M	口縁部	前前半	関12	縄文 RL ループ文	平頭・直立・平口縁	10YR4/4(褐)							○		繊維	
4	62M	胴部	前前半	関11	縄文 RL 横方向→櫛描沈線のコンパス文/内面横位ミガキ		10YR6/6(明黄褐)							○		繊維	
5	61M	胴部	前前半	関12	縄文 RL ループ文横方向		10YR4/6(褐)			○				○		繊維	
6	攪乱	胴部	前前半	関12	櫛描沈線の鋸歯状文による菱形状・押引文		10YR4/6(褐)							○		繊維	
7	61M	口縁部	前前半	黒浜2	羽状縄文(上段 RL 縦方向→下段 LR 横方向)	尖頭(口唇部面取り)・直立・平口縁	2.5Y4/3(オリーブ褐)									繊維	
8	58M	胴部	前前半	黒浜1	菱形文(左側上段 RI 横方向→下段 Lr 横方向→右側上段 Lr 横方向→下段 RI 横方向)		2.5Y5/6(黄褐)							○		繊維	
9	5Y	胴部	前前半	黒浜2	上段附加条縄文 LR+Lr(順) 横方向→下段縄文 LL 横方向		2.5Y5/4(黄褐)							○		繊維	
10	864D	胴部	前前半	黒浜2	羽状縄文(上段附加条縄文 Lr+r(交) 横方向→下段附加条縄文 Lr+l(順) 横方向)→1 結節押捺		7.5YR5/6(明褐)			○						繊維	
11	846D	胴部	前前半	黒浜2	附加条縄文 Lr+l 横方向		10YR4/6(褐)							○		繊維	
12	58M	口縁部	前前半	黒浜3	平行沈線の菱形文	円頭・直立・平口縁	10YR5/4(にぶい黄褐)							○		繊維	
13	61M	胴部	前前半	黒浜3	合然縄文 R [Lr+r 斜方向		2.5Y3/3(暗オリーブ褐)							○		繊維	
14	表土	胴部	前前半	黒浜3	縄文 RL 横方向→平行沈線の押引文/内面化粧土→縦位ミガキ		10YR5/4(にぶい黄褐)							○		繊維	
15	5Y	口縁部	前前半	黒浜2	附加条縄文 RL+RI(順) 縦方向→平行沈線/内面化粧土→横位ミガキ	尖頭・直立・平口縁	2.5Y5/6(黄褐)							○		繊維	
16	59M	口縁部	前前半	黒浜2	縄文 LR 縦方向	平頭(口端部面取り)・直立・平口縁	10YR4/6(褐)							○		繊維	
17	846D	口縁部	前前半	黒浜2	縄文 RL 横方向	円頭・外反・平口縁	10YR4/6(褐)							○		繊維	胴部最大径>口縁部径
18	846D	底部	前前半	黒浜2	縄文 RL 横方向	上げ底状	10YR4/6(褐)							○		繊維	
19	表土	口縁部	前前半	諸磯 b	縄文 LR 縦方向→横位浮線文貼付→縦位浮線文貼付(剥落)	円頭→キザミ・内反・平口縁	2.5Y4/6(オリーブ褐)							○			
20	58M	底部	前前半	諸磯 a	羽状縄文(左側 LR 横方向→右側 RL 横方向) / 内面横位ミガキ	上げ底状	10YR4/6(褐)							○			
21	表土	口縁部	前前半	諸磯 a	縄文 RL 縦方向→水平櫛描沈線→波状櫛描沈線	平頭・外反・平口縁	10YR5/4(にぶい黄褐)							○			
22	61M	胴部	前前半	諸磯 a	平行沈線の肋骨文		2.5Y4/6(オリーブ褐)	○									
23	61M	口縁部	前前半	諸磯 a	縄文 RL 横方向→円形刺突文	平頭→キザミ・外反・平口縁	10YR6/6(明黄褐)							○			外面煤付着
24	846D	口縁部	前前半	諸磯 a	平行沈線の押引文	平頭・直立・平口縁	2.5Y5/4(黄褐)			○				○			重心が偏った押引文
25	61M	口縁部	前前半	諸磯 a	LR 縦方向→平行沈線の押引文	平頭・直立・平口縁	10YR4/4(褐)	○		○				○			
26	6Y	口縁部	前前半	諸磯 a	縄文 RL 横方向/内面横位ミガキ	平頭・直立・平口縁	5YR4/6(赤褐)	○						○			
27	61M	口縁部	前前半	諸磯 b	爪形文→沈線区画→無文部沈線充填	平頭・直立・平口縁	10YR6/4(にぶい黄橙)	○		○				○			
28	856D	胴部	前前半	諸磯 a	縄文 LR 横方向→平行沈線区画・押引文→磨消		10YR4/3(にぶい黄褐)	○		○				○			
29	5Y	胴部	前前半	諸磯 a	櫛描沈線の肋骨文・押引文		5YR4/3(にぶい赤褐)	○		○	○			○			
30	表土	胴部	前前半	諸磯 b	附加条縄文 RL+RI(交) 横方向→平行沈線の肋骨文か		7.5YR5/6(明褐)	○		○				○			
31	845D	胴部	前前半	諸磯 a	縄文 RL → 櫛描沈線の肋骨文→円形刺突		5YR4/4(にぶい赤褐)			○				○	○		
32	表土	胴部	前前半	諸磯 a	上段平行沈線の押引文→鋸歯文・下段縄文 RL 横方向		2.5Y4/6(オリーブ褐)			○				○			頭部
33	6Y	胴部	前前半	諸磯 b	爪形文→沈線区画→無文部沈線充填		10YR6/4(にぶい黄橙)	○		○				○			
117図34	攪乱	口縁部	前前半	諸磯 c	櫛描沈線による集合沈線	尖頭→キザミ・内反・平口縁か	10YR4/4(褐)	○		○				○			
35	58M	胴部	前前半	諸磯 c	櫛描沈線による集合沈線		7.5YR5/8(明褐)	○		○				○	○		
36	61M	胴部	前前半	諸磯 c	櫛描沈線による集合沈線		10YR5/4(にぶい黄褐)			○				○			
37	表土	胴部	前前半	諸磯 c	突帯貼付→沈線区画→刺突/内面縦位ミガキ		10YR4/3(にぶい黄褐)							○			
38	表土	口縁部	前前半	諸磯 a-b	口唇部内面とかえり部にキザミ	平頭・外反・平口縁・かえり付	10YR4/6(褐)		○	○	○	○	○	○			浅鉢
39	58M	底部	前前半	諸磯 a-b		高台付	10YR5/3(にぶい黄褐)							○			浅鉢

第47表 遺構外出土縄文土器1

第3章 検出された遺構と遺物

挿図 No.	出土 遺構	部位	時期	型式	文様・特徴	形状・特徴	色調	胎土							備考		
								角閃石	雲母	長石	石英	橙粒	砂粒	礫		他	
117 図 40	59M	口縁部	前期後半	浮島3	三角文	平頭→キザミ・外反	2.5Y4/4 (オリーブ褐)	○		○							
41	61M	胴部	中期後半	加曽利 E1	隆帯貼付→平行沈線充填→隆帯幅沈線区画→無文部横位ミガキ		7.5YR6/6 (橙)	○		○							口縁部付近
42	61M	胴部	中期後半	加曽利 E2	(弧状沈線区画)→縄文 RL 充填→弧状沈線区画		10YR4/3 (にぶい黄褐)										
43	61M	口縁部	中期後半	加曽利 E3	渦巻文隆帯貼付→縄文 RL 縦方向区画磨消→無文部横位ミガキ/内面横位ミガキ	尖頭・直立・波状口縁	2.5Y5/4 (黄褐)	○									
44	6Y	口縁部	中期後半	加曽利 E3-4	縦位櫛描条線の肋骨文か/内面横位ミガキ	円頭・直立・平口縁	2.5Y4/2 (暗灰黄)										
45	61M	胴部	中期後半	加曽利 E3-4	縦位櫛描条線の肋骨文か/内面横位ミガキ		2.5Y4/4 (オリーブ褐)										
46	43W	口縁部	中期後半	加曽利 E4	縄文 LR → J 字文磨消→沈線区画→無文部横位ミガキ/内面横位ミガキ	円頭・内反・平口縁	7.5YR4/4 (褐)	○		○							
47	58M	口縁部	中期後半	加曽利 E4	縄文 LR 縦・斜方向→沈線区画→磨消→磨消部縦位ミガキ	円頭・内反・平口縁	2.5Y4/6 (オリーブ褐)										
48	62M	口縁部	後期前半	称名寺 1	(M 字文沈線区画) → 縄文 LR 充填→沈線区画→無文部ミガキ	肥厚・くびれ・内反・平口縁	10YR5/3 (にぶい黄褐)										
49	61M	口縁部	後期前半	称名寺 1	(M 字文沈線区画) → 縄文 LR 充填→沈線区画→無文部ミガキ	肥厚・くびれ・内反・平口縁	7.5YR4/3 (褐色)										
50	61M	口縁部	後期前半	称名寺 1	(M 字文沈線区画) → 縄文 LR 充填→沈線区画→無文部ミガキ/内面横位ミガキ	肥厚・くびれ・内反・突起	7.5YR6/6 (橙)	○		○							
51	61M	胴部	後期前半	称名寺 1	(J 字文沈線区画) → 縄文 LR 充填→沈線区画→無文部ミガキ		7.5YR6/6 (橙)			○							
52	61M	胴部	後期前半	称名寺 1	(J 字文沈線区画) → 縄文 LR 充填→沈線区画→無文部ミガキ		10YR4/3 (にぶい黄褐)			○							
53	460P	口縁部	後期前半	称名寺 II	M 字文か沈線区画→縄文 RL 充填→沈線区画→施文部雨垂状突起		10YR5/4 (にぶい黄褐)	○									肥厚した口縁部が輪積みて剥落
54	59M	口縁部	後期前半	称名寺 2	M 字文沈線区画→沈線充填	肥厚・直立・くびれ無・平口縁	7.5YR5/6 (明褐)			○							
55	E-10	口縁部	後期前半	堀之内 1	突起貼付・沈線	有段・直立・波状口縁(突起)	10YR5/4 (にぶい黄褐)										
56	6Y	口縁部	後期前半	堀之内 1	隆帯貼付→(沈線区画)→縄文 LR 横方向→沈線区画→無文部ミガキ/内面横位ミガキ	平頭・内反・平口縁か	7.5YR5/6 (明褐)										内外面赤彩か
57	調査区 南西	把手部	後期前半	堀之内 1	(J 字文沈線区画) → 縄文 LR 充填→沈線区画・突起→無文部ミガキ/内面縦位ミガキ	-	2.5Y4/2 (暗灰黄)										
58	61M	把手部	後期前半	堀之内 1	凸帯部・先端部貼付→接合部ナデ→ミガキ	-	10YR6/4 (にぶい黄橙)										
59	61M	口縁部	後期前半	堀之内 1	縦位隆帯貼付→接合部ナデ→隆帯キザミ・沈線	有段・内反・波状口縁	10YR6/3 (にぶい黄橙)			○							
60	61M	口縁部	後期前半	堀之内 1	縦位隆帯貼付→横位隆帯貼付→接合部ナデ→隆帯キザミ・沈線	有段・内反・波状口縁	10YR6/3 (にぶい黄橙)				○						
118 図 61	61M	口縁部	後期前半	堀之内 1	横位ヘラケズリ→横位ナデ	円頭・直立・平口縁	10YR6/4 (にぶい黄橙)	○		○							粗製 口縁部内面に沈線
62	61M	口縁部	後期前半	堀之内 1	横位ヘラケズリ→横位ナデ	尖頭・内反か・平口縁	10YR5/3 (にぶい黄橙)			○							粗製
63	61M	口縁部	後期前半	堀之内 2	縄文 LR 横方向・隆帯貼付→接合部ナデ→沈線・隆帯押圧→無文部ミガキ	平頭・直立・平口縁	7.5YR5/6 (明褐)										口縁部内面に沈線
64	58M	口縁部	後期前半	堀之内 2	縄文 RL 横方向→隆帯貼付→接合部ナデ→隆帯押圧	円頭・直立・平口縁	10YR5/4 (にぶい黄橙)	○		○							口縁部内面に沈線
65	894D	口縁部	後期前半	堀之内 2	隆帯貼付→隆帯突起→無文部ミガキ/内面横位ミガキ	平頭(内面肥厚)・直立・平口縁	7.5YR4/4 (褐)	○		○							
66	61M	口縁部	後期前半	堀之内 2	縄文 LR 横方向→口縁部横位ナデ→沈線	円頭・直立・平口縁・口唇部内反	7.5YR5/3 (にぶい黄)										
67	460P	口縁部	後期前半	堀之内 2	隆帯貼付→隆帯突起(ハの字文)→無文部ミガキ/内面ミガキ	有段・外反・平口縁か・口唇部内反	10YR4/3 (にぶい黄褐)										口縁部内面に沈線
68	58M	注口部	後期前半	堀之内 1	横位ミガキ		7.5YR4/4 (褐)	○		○							
69	61M	注口部	後期前半	堀之内 2	横位ミガキ		10YR4/3 (にぶい黄橙)	○			○						
70	61M	口縁部	後期後半	加曽利 B1	(沈線区画) → 縄文 RL 横方向→磨消→沈線区画/内面横位ミガキ	円頭・内反・くびれ・平口縁	7.5YR4/3 (褐)	○			○						
71	61M	口縁部	後期後半	加曽利 B2	格子状沈線	円頭・直立・平口縁	10YR6/6 (明黄褐)	○		○							
72	調査区 南西	底部	後期	-	網代痕	平底	10YR5/6 (黄褐)	○		○							
73	61M	口縁部	後期後半	加曽利 B1	隆帯貼付→隆帯縄文 RL 縦方向→沈線区画→無文部ミガキ	平頭・内反・平口縁	10YR4/2 (灰黄褐)	○		○							口縁部内面に沈線
74	846D	口縁部	後期後半	加曽利 B1	(沈線区画) → 縄文 LR 横方向→磨消	平頭・直立・平口縁	7.5YR5/6 (明褐)										
75	61M	口縁部	後期後半	加曽利 B2	(対弧文?沈線区画) → 突起・縄文 LR 横方向→磨消→沈線区画→無文部ミガキ	円頭・直立・波状口縁	10YR5/3 (にぶい黄褐)	○									
76	61M	頸部	後期後半	加曽利 B2	羽状?櫛描沈線		10YR5/4 (にぶい黄褐)										頸部
77	61M	口縁部	晩期前半	晩期安行	横位ヘラナデ→沈線	尖頭・外反・水平	10YR5/4 (にぶい黄褐)			○							

第 48 表 遺構外出土縄文土器 2

挿図番号	出土遺構	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形状・特徴	装飾・特徴	外面調整	内面調整	色調	胎土								備考
												角閃石	雲母	長石	石英	橙粒	砂粒	礫	他	
118図78	61M	壺	口縁部	19.6	-	2.9	有段・縁折返・外反	羽状縦文(上段RL横方向→下段LL横方向)→下端部キザミ、外面頭部口端部～内面赤彩	[調整]横位ナデ[器面調整]横位ナデ	[器面調整]横位ミガキ→斜位ミガキ	10YR5/4 (にぶ、黄褐)									
79	調査区南西	小型甕	口縁-胴部	4.8	-	6.1	円頭・外反		[調整]横位ナデ[器面調整]横・斜位ミガキ	[調整]横位ナデ	10YR6/4 (にぶ、黄橙)									
80	864D	壺	底部	-	6.3	5.7	平底		[器面調整]下半斜位ミガキ→上半横位ミガキ・底部1方ミガキ	[調整]放射状ナデ	10YR5/4 (にぶ、黄褐)									
81	60M	壺	底部	-	5.6	3.4	平底	底部木葉痕	[調整]横位ナデ	[調整]放射状ハケ	10YR6/4 (にぶ、黄橙)									
82	845D	甕	口縁部	15.0		4.6	平頭・外反	内外面赤彩	[調整]口縁部縦位ハケ→胴部横位ハケ→横位ナデ、[器面調整]横位ミガキ	[調整]口縁部横位ハケ→横位ナデ、[器面調整]横位ミガキ	25YR4/8 (赤褐)									
83	846D	台付甕	台部	-	8.2	6.8	やや内湾して開		[調整]台部縦・斜位ハケ→接合部横位ナデ	[調整]横位ハケ	10YR4/3 (にぶ、黄褐)									
84	58M	高杯	脚部	-	-	5.4	ほぼ直線的に開	外面赤彩	[調整]縦位ナデ[器面調整]縦位ミガキ	[調整]横位ハケズリ(右回)	5YR4/8 (赤褐)									
85	61M	高杯	脚部	-	-	5.0	ほぼ直線的に開	外面・杯部内面赤彩	[調整]縦位ナデ→横位ナデ	[調整]横位ハケズリ(右回)	25YR4/8 (赤褐)									
86	845D	カメ	口縁部	-	-	-	平頭・外反		[調整]口縁部縦位ハケ→口端部横位ハケ・胴部斜位ハケ	[調整]口縁部横位ハケ→胴部横位ナデ	10YR3/4 (暗褐)									
87	61M	カメ	口縁部	-	-	-	有段・縁折返・外反	外面赤彩	[調整]横位ナデ[器面調整]横位ミガキ	[調整]横位ナデ、[器面調整]横位ミガキ	5YR4/4 (にぶ、赤褐)									
119図88	61M	甕	胴部	-	-	-			[調整]斜位ハケ	[調整]横位ハケ	10YR8/6 (黄橙)									
89	864D	壺	胴部	-	-	-		羽状縦文(LR横方向→RL→LR横方向)→RS-2	[器面調整]横位ミガキ	[調整]横位ナデ	10YR3/1 (黒褐)									

第49表 遺構外出土弥生・古墳時代土器

挿図番号	出土遺構	土器	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	時期	形状・特徴	成形外面調整	内面調整	色調	胎土								備考
													角閃石	雲母	長石	石英	橙粒	砂粒	礫	他	
119図90	61M	土師器	甕	口縁部	(20.4)	-	(5.1)		円頭・外反・口唇部外反	[調整]横位ナデ	[調整]横位ナデ	5YR6/6 (橙)									
91	表土	土師器	杯	底部	-	(6.0)	(2.0)		平底	轆轤成形→回転系切、[調整]体部ナデ	[器面調整]縦位ミガキ	75YR7/6 (橙)								内面黒色処理	
92	846D	土師器	杯	底部	-	(7.2)	(2.0)	9C後～10C前	平底	轆轤成形→回転系切、[調整]底部1方向手持ちヘラケズリ・体部横位ナデ	[器面調整]底部放射状ミガキ→体部横位ミガキ	75YR4/2 (灰褐)								内面黒色処理。下総産・茨城西部産か	
93	1区攪乱	須恵器	高台杯	底部	-	(8.2)	(1.6)		貼付高台	轆轤(右回り)→回転系切、[調整]底部周縁ヘラケズリ→高台貼付→接合部回転ナデ		25Y5/1 (黄灰)								白色粒子	
94	調査区南西	須恵器	杯	口縁-底部	(12.9)	(7.6)	3.1	9C半ばより古	[口縁部]尖頭外反、[底部]平底	轆轤(右回り)→回転系切、[調整]無調整		5Y5/2 (灰オーブ)								東金子。底部糸抜き痕残存	
95	61M	須恵器	高台杯	底部	-	(7.4)	(1.4)	9C代	削出高台	轆轤(右回り)→回転系切、[調整]無調整→高台削出		5Y6/3 (オーブ黄)								東金子産	
96	61M	須恵器	高台杯	底部	-	(9.0)	(2.0)	9C代	貼付高台	轆轤(右回り)→回転系切、[調整]底部周縁ヘラケズリ→高台貼付→接合部回転ナデ		10YR5/3 (にぶ、黄褐)								東金子産。酸化炎焼成	
97	62M	須恵器	蓋	宝珠-体部	-	-	(2.7)	8C末～9C初		轆轤(右回り)→回転系切、[調整]全面回転ヘラケズリ→回転ナデ→宝珠貼付		5Y6/2 (灰オーブ)								黒色粒子 東金子産	
98	表土	須恵器	蓋	口縁	(14.0)	-	(1.3)	9C代	平頭・口唇部の内側に折れる	轆轤(右回り)		25Y6/4 (にぶ、黄)								黒色粒子 東金子産	

第50表 遺構外出土奈良・平安時代土器1

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土遺構	土器	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	時期	形状・特徴	成形・外面調整	内面調整	色調	胎土							備考
													角閃石	雲母	長石	石英	橙粒	砂粒	礫	
119図99	61M	須恵器	甕	口縁	(32.2)	-	(6.1)	9C代	有段(折返)・外反	横位ナデ	横位ナデ	5Y4/1 (灰)								東金子産
100	61M	須恵器	甕	胴部	-	-	-	7C代か		横位ナデ→横位櫛描沈線	横位ナデ	5Y5/1 (灰)			○	○				肩部
101	65P	須恵器	甕	胴部	-	-	-	7C代か	沈線区画→櫛状の連続刺突	轆轤(右回り)		5Y3/1 (オリーブ黒)								外面自然釉
102	59M	須恵器	甕	胴部	-	-	-	9C代		斜位ナデ	横位ナデ	25Y3/2 (黒褐)					○	○		外面自然釉、東金子産
103	調査区南西	灰釉陶器	段皿	底部	-	(8.0)	(2.3)	10C代	貼付高台	轆轤(左回り)〔調整〕底部全面ケズリ→高台貼付→高台内側ナデ・外側ケズリ		25Y7/2 (灰黄)						○		白色粒子 猿投窯、内面灰釉
104	61M	須恵質	甕	胴部	-	-	-	10C~11C	頸部直立	横位ナデ	横位ナデ	5Y7/2 (灰白)						○	○	頸部、在地産か

第51表 遺構外出土奈良・平安時代土器2

挿図番号	出土遺構	材質分類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形状・特徴	成形・外面調整	施釉・装飾	色調	備考	胎土	推定産地	時期
119図105	表土	陶器	皿	口縁-底部	(10.4)	2.3	(5.8)	円頭・やや外反・口唇部外反	轆轤→貼付高台〔調整〕高台内ケズリ	内外面灰釉	5Y7/1 (灰白)	高台内重ね焼き痕(輪チカ)・見込みと高台両脇に釉溜り	密	瀬戸・美濃系	16C(大窯3段階)
106	表土	陶器	皿	口縁-底部	(10.6)	2.6	(6.0)	円頭・やや外反	轆轤→底部全面ケズリ→貼付高台	内外面灰釉	5Y2/1 (黒)	高台内重ね焼き痕(輪チカ)・見込みと高台両脇に釉溜り。被熱が著しい。	密	瀬戸・美濃系	16C(大窯3段階)
107	調査区南西	陶器	志野丸皿	口縁-体部	(12.0)	(1.9)	-	[口縁] 円頭・外反、[底部] 碁笥底	轆轤(左回り)	内外面長石釉	25Y6/4 (にぶ黄)		密		17C(大窯末)
108	939D	陶器	皿	口縁-底部	-	-	-	[口縁] 尖頭・直立、[底部] 碁笥底	轆轤	内面～外面体部灰釉	25Y6/1 (黄灰)	940D出土の破片と接合	密		16C(大窯3段階)
109	7号トレンチ	陶器	天目茶碗	底部(高台)	-	-	-	削出高台	轆轤	鉄釉			密		16C～17C(大窯中期)
110	864D	磁器	合子身	口縁部	-	-	-	かえり付	轆轤	内外面(かえり部除く)に工磁釉、体部に縦位刻み	25Y8/1 (灰白)		緻密		13～14C
111	845D	陶器	平碗	口縁部	(10.8)	(2.4)	-	尖頭・直立	轆轤	内外面灰釉	25Y8/3 (淡黄)		密	瀬戸	16C後半(大窯3～4)
112	845D	陶器	椀皿	口縁-体部	(12.8)	(2.6)	-	[口縁] 尖頭・外反・直立を繰返してヒダを形成、[底部] 碁笥底	轆轤	内外面鉄釉	25Y7/3 (浅黄)		密	瀬戸	16CZ(大窯3段階後半)
113	895D	陶器	皿	口縁部	-	-	-	円頭・外反	轆轤	緑釉皿、内面～外面口縁部灰釉薬	25Y8/3 (淡黄)		密	瀬戸・美濃系	16C
114	864D	陶器	播鉢	口縁部	(27.6)	(4.6)	-	円頭・内反・外面に断面三角形の突起を成形	ロクロ(左回り)、播目4本以上	内外面錆釉	10YR6/6 (橙)		密	瀬戸・美濃系	15C後～16C(大窯1後半)
115	904D	陶器	播鉢	口縁部	-	-	-	円頭・内反・外面に突起貼付→剥落	ロクロ、播目13本以上	内外面錆釉	25Y8/4 (淡黄)		密	瀬戸	15C末～16C(古瀬戸後期末)
116	845D	陶器	播鉢	体部	-	-	-		ロクロ、播目9本以上	内外面錆釉	7.5YR4/2 (灰褐)		密	瀬戸・美濃系	15C後半～17C(大窯3～4段階)
117	864D	陶器	播鉢	胴部	-	-	-		ロクロ、播目11本以上	内外面錆釉	10YR7/4 (にぶ黄橙)		密	瀬戸・美濃系	15C後(大窯1～2段階)
118	試掘	土師質土器	火鉢	体部	-	-	-		円形文刺突・押菊花文	10YR6/1 (褐灰)			やや粗		15～16C
119	904D	土師質土器	焙烙	口縁-体部	(34.0)	(4.6)	-	平頭・やや内反	横位ナデ/内面横位ナデ→内耳貼付		25Y5/3 (黄褐)	内耳・断面楕円形、外面煤付着		やや粗	16C後半
120図120	906D	土師質土器	焙烙	口縁-底部	-	-	-	平頭・直立	ロクロ、〔調整〕縦位ケズリ→横位ナデ		10YR3/1 (黒褐)	内面・外面煤	やや密		
121	918D	土師質土器	焙烙	底部	-	-	-		体部下端・底部離材痕(チチレ目)		25Y3/3 (暗オリーブ褐)	内面・外面煤	やや密		
122	938D	土師質土器	焙烙	底部	-	-	-		離材痕(チチレ目)		10YR5/3 (にぶ黄褐)		やや密		
123	864D	土師質土器	かわらけ	口縁部-底部	(11.1)	3.2	(2.9)	[口縁] 円頭・直立、[底部] 平底	轆轤→回転糸切、〔調整〕体部斜位ナデ→底部多方向ナデ/内面横位ナデ		7.5YR7/4 (にぶ橙)		密		15C後～16C前
124	845D	土師質土器	かわらけ	口縁-底部	11.0	2.6	8.0	[口縁] 平頭・直立、[底部] 平底	轆轤→回転糸切、〔調整〕体部横位ナデ→底部多方向ナデ/内面横位ナデ		7.5YR7/6 (橙)		密		14C後

第52表 遺構外出土中世以降土器・陶磁器1

挿図番号	出土遺構	材質分類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形状・特徴	成形・外面調整	施釉・装飾	色調	備考	胎土	推定産地	時期
120 図125	845D	土師質土器	かわいけ	口縁-底部	8.2	2.2	4.8	[口縁] 平頭-外反、 [底部] 平底	轆轤(右回り)→回転糸切、[調整] 体部下端回転ヘラケズリ→横位ナデ		75YR6/6 (橙)	内面煤付着	密		16C
126	841D	土師質土器	かわいけ	底部-体部	-	(3.3)	7.6	平底	轆轤(右回り)→回転糸切/内面横位ナデ		10YR6/6 (明黄褐)		やや粗		15C
127	845D	土師質土器	かわいけ	底部	-	(1.2)	7.0	平底	轆轤(右回り)→回転糸切		75YR6/6 (橙)		密		
128	904D	土師質土器	かわいけ	底部	-	6.4	-	平底	轆轤(右回り)→回転糸切、[調整] 周縁ヘラケズリ		75YR6/6 (橙)		密		
129	948D	焼締	甕	胴部	-	-	-		[調整] 縦位ケズリ	外面自然釉	5YR5/4 (にぶ、赤褐)		密	常滑	
130	756P	焼締	甕	胴部	-	-	-		[調整] 横位ナデ	-	5YR4/2 (灰褐)		密	常滑	
131	931D	焼締	捏鉢か	胴部	-	-	-			外面自然釉	5YR3/3 (暗赤褐)		密	常滑	
132	167P	焼締	甕	胴部	-	-	-		縦位ナデ/内面斜位ナデ→横位ナデ	内外面自然釉	25YR3/1 (暗赤灰)		密	常滑	13C(常滑5~6段階)
133	調査区南西	土師質土器	火鉢か	口縁部か	-	-	-	尖頭・直立	斜位ナデ/内面斜位ナデ		10YR5/3 (にぶ、黄褐)	内面・外面煤	やや粗		
134	K-9	陶器	香炉	口縁-底部	(8.0)	5.0	(8.0)	[口縁] 平頭・直立、 [底部] 脚部(楕円錐形)	轆轤→底部全面ケズリ→外周ケズリ→脚部貼付	内面口縁部-外面体部鉄釉	25Y8/2 (灰黄)	脚部先端に釉付着、内面体部被熱	密	瀬戸・美濃系	
135	調査区南西 E15	陶器	皿	口縁-底部	(13.2)	2.4	(8.0)	[口縁] 円頭・直立、 [底部] 貼付高台	轆轤(左回り)→高台貼付、[調整] 高台脇ケズリ	内面-外面体部上半灰釉	25Y8/4 (淡黄)	見込みに重ね焼き痕(高台痕か)	密	瀬戸・美濃系	17C初(連房初期)
136	E-13	陶器	碗か	口縁部	(13.0)	(2.8)	-	有段口縁・平頭	轆轤→内外面段部貼付	内面-外面鉄釉	10YR8/4 (浅黄橙)		密		
137	3区表土	陶器		口縁部	(11.6)	(4.0)	-	平頭・直立	轆轤	内面体部上半-外面透明釉か	5Y7/2 (灰白)	外面に釉の継ぎ目	緻密	瀬戸・美濃系	
138	調査区南西	陶器	碗か	口縁部	(10.2)	(3.3)	-	尖頭・やや外反	轆轤	内面-外面透明釉・鉄釉	25Y6/5 (にぶ、黄)		密	瀬戸・美濃系か	
139	G-8	陶器	皿	底部-体部	-	(3.8)	(10.0)		轆轤(左回り)→底部全面ケズリ→高台貼付、[調整] 高台脇・高台ケズリ	内面-外面体部下 半透明釉・鉄釉、見込み椀脚山水図	5Y7/2 (灰白)		緻密	肥前か	
140	調査区南西	陶器	碗	底部	-	(2.1)	5.2	貼付高台	轆轤(左回り)→底部全面ケズリ→高台貼付、[調整] 高台両脇ナデ	内面-外面体部灰釉	25Y8/4 (淡黄)	見込みに重ね焼き痕	密	瀬戸・美濃系	
141	G-14	陶器	小壺	口縁部	-	-	-	有段	轆轤・口唇部沈線→段部圧着	内面体部上半-外面灰釉	5Y7/1 (灰白)		緻密	瀬戸・美濃系	
142	調査区南西	陶器		口縁部	-	-	-	有段口縁・円頭	轆轤・段部貼付→端部沈線→段部圧着	内面-外面鉄釉	25Y6/4 (にぶ、黄)	口縁部沈線釉溜まり	密		
143	8号トレンチ	焼締			-	-	-		全面回転ヘラケズリ	自然釉か	25YR4/1 (赤灰)		緻密		
144	8号トレンチ	陶器		体部	-	-	-		轆轤	鉄釉	25Y6/2 (灰黄)		密	瀬戸・美濃系	
145	調査区南西	焼締	刷毛目鉢	胴部	-	-	-		轆轤	内面-体部上半灰釉→泥刷毛塗	75YR4/2 (灰褐)		緻密	肥前系	
146	3区	磁器	碗	口縁-体部	(8.2)	4.1	3.5	円頭・直立・口唇部外反	轆轤	透明釉・外面青磁	N9/ (灰白)	高台際に釉溜まり	緻密		
147	3区	磁器	碗	口縁-体部	(8.8)	(4.2)	-	尖頭・直立	轆轤	透明釉・染付、体部草花	N8/ (灰白)		緻密	肥前系	
148	調査区南西	磁器	碗	口縁部	(6.4)	(3.1)	-	円頭・直立	轆轤	透明釉染付、[外面] 口縁部	5Y7/2 (灰白)		緻密	肥前系	
149	調査区南西	磁器	鉢か	底部-体部	-	(2.4)	(3.6)	貼付高台	轆轤→全面ケズリ→高台貼付	透明釉染付、[外面] 体部草花・体部下端一重罫線・高台際二重罫線、[内面] 見込み五弁花・体部下端一重罫線	5Y7/1 (灰白)	高台両脇に釉溜まり・高台砂目積み痕	緻密	肥前系	
150	F-13	磁器	碗	底部	-	(2.0)	(4.0)	貼付高台	轆轤→高台張付	透明釉染付、[外面] 体部下端部一重罫線・高台際二重罫線・高台内一重罫線	5Y8/2 (灰白)	見込み蛇の目剥ぎ	緻密	肥前系	
151	63M	磁器	皿	口縁部	-	-	-	円頭・直立	轆轤	透明釉染付、[外面] 体部唐草文・体部下端一重罫線、[内面] 口縁部一重罫線・体部草花	N8/ (灰白)	菊皿か	緻密	肥前系	
152	3区	磁器	碗	口縁部	-	-	-		轆轤	透明釉・人口喫須・染付、[外面] 口縁部連続弧文・体部蝶・草花他、[内面] 見込み一重罫線	N8/ (灰白)		緻密	肥前か	18C後~19C初
153	3区	磁器	碗	口縁-体部	-	-	-	円頭・内反	轆轤	透明釉染付、[外面] 体部草花	N8/ (灰白)		緻密	肥前系	
154	調査区南西	磁器	碗	口縁部	-	-	-	平頭・内反	轆轤	透明釉染付、[外面] 口縁部草花	N8/ (灰白)		緻密	肥前系	

第53表 遺構外出土中世以降土器・陶磁器2

第3章 検出された遺構と遺物

挿入 番号	出土 遺構	材質 分類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形状・特徴	成形・外面調整	施釉・装飾	色調	備考	胎土	推定産地	時期
120図 155	調査区 南西	磁器	碗	体部	-	-	-		轆轤	透明釉染付, [外面] 体部草花	75Y8/1 (灰白)	底部との接合面か	緻密	肥前系	
156	調査区 南西	磁器	碗	体部	-	-	-		轆轤	透明釉染付, [外面] 体部草花	N9/ (灰白)		緻密	肥前系	
157	6号ト レンチ	土師質 土器	かわ いね	口縁部 - 底部	(10.0)	2.0	5.6	[口縁] 円頭・直立 [底部] 平底	轆轤(左回)→回転 糸切		10YR6/6 (明黄褐)	口縁部・外面煤付 着, 灯明皿	密		17C~18C
158	8号ト レンチ	陶器	播鉢	口縁部	-	-	-		轆轤	鉄釉	25Y7/3 (浅黄)		密		連総小期か
159	63M	土器	播鉢	体部	-	-	-		轆轤(左回)→揃目 9本以上	内外面自然釉	25YR4/3 (いぶ 赤褐)		やや 密	堺・明石	
160	63M	土器	播鉢	体部	-	-	-		轆轤(左回)→揃目 8本以上		25YR5/6 (明赤褐)		やや 密	堺・明石	
161	4号ト レンチ	土師質 土器	火鉢	底部 - 体部	-	(3.8)	(34.4)		底部離材痕		10YR6/6 (明黄褐)		密		
162	E-11	焼締	甕	胴部	-	-	-		斜てナデ/内面横位 ナデ	外面自然釉	25YR4/4 (いぶ 赤褐)		密	常滑	

第54表 遺構外出土中世以降土器・陶磁器3

挿入番号	遺構名	遺物種別	長さ(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
120図 163	3区	平瓦	5.2	5.3	1.6	68.4	須恵質。布目

第55表 遺構外出土土製品

掲載番号	遺構名	材質	遺物種別	長さ(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
121図 164	攪乱	鉄	釘	(3.1)	0.8	0.5	2.9	頭・先端部欠損
121図 165	60M	鉄	釘	(3.9)	1.1	0.6	2.9	

第56表 遺構外出土金属製品

掲載No.	出土遺構	銭貨名	国名	初鋳年	銭径長(mm)	銭径幅(mm)	内径長(mm)	内径幅(mm)	銭厚(mm)	重量(g)	備考
121図 166	1区	宣徳通宝	明	1433	25.57	25.36	5.51	5.48	1.45	2.8	背文なし
121図 167	1区	□□□宝			-	-	-	-	1.19	0.6	裏面平坦。破片

第57表 遺構外出土銭貨

掲載番号	出土遺構	遺物種別	長さ(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
121図168	調査区南西	三叉状土製品	7.8	5.3	2.6	68.4	脚部1本が欠存。他2本の接部が欠存
169	調査区南西	三叉状土製品	6.2	4.4	2.7	45.6	脚部の接合部から先端と考えられ、167よりも大形のものと考えられる。
170	3号レンチ	土製品	-	-	5.4~2.9	349.3	上・下・内面・外面の一部が欠存。内面に同心円状の溝が残り、中央部に穿孔された皿状の土製品か
171	調査区南西	鋳型	-	-	1.2	5.6	外枠の一部か。肥厚部34mm
172	表土4区	土製品	-	-	2.2	20.3	湾曲した外面と平坦な内面の一部が欠存。アーチ状の土製品か
173	表土K9	土製品	-	-	1.5	21.8	不整な板状の土製品に水平方向の穿孔。他の土製品に比べ被熱が著しく、胎土が濃い。
174	調査区南西	定盤	-	3.9	2.8	217.9	上・内・外面が欠存。下部は粘土帯の接合部と考えられる。
175	3号レンチ	定盤か	-	4.0	-	109.2	上面・内・外面の一部が欠存。他の破片に比べ成形が不整形
176	E13	定盤か	-	-	-	40.3	上・内面の一部が欠存
177	南西部	定盤か	-	-	4.3	92.1	内・外面の一部が欠存。上部は粘土帯の接合部と考えられる
178	3号レンチ	定盤	-	4.0	-	97.1	内・外面の一部が欠存。下部は粘土帯の接合部と考えられる
122図179	調査区南西	定盤か	-	-	6.7	321.5	上・下・外面が欠存。内面は一部欠存か。174と同類と考えられる
180	調査区南西	定盤か	-	-	-	63.0	上・外面の一部が欠存
181	3号レンチ	定盤	-	-	4.0~2.6	106.9	上面・内・外面の一部が欠存
182	調査区南西	定盤	-	4.7	3.0	177.1	内・外面の一部が欠存。上・下面は粘土帯の接合部と考えられる
183	調査区南西	鉄滓	13.0	10.5	4.5	410.6	スラグ主体。磁鉄鉱・錆化した鉄片を含む。やや湾曲した炉材が薄く付着
184	調査区南西	鉄滓	6.7	5.2	2.8	66.7	磁鉄鉱を含む。不整の塊状で、中央に炭化材を含む
185	調査区南西	鉄滓	6.0	4.0	4.0	61.8	磁鉄鉱を含む。スラグ・鉄錆が主体で炉材との界面が確認できる
186	調査区南西	鉄滓	11.0	7.9	4.6	217.6	やや湾曲した炉材と流状滓で界面が明確に確認できる。磁鉄鉱を含む
187	調査区南西	鉄滓	10.0	5.1	4.6	119.2	炉材と流状滓。界面が明確に確認できる
188	調査区南西	鉄滓	8.0	7.0	4.5	182.4	筒状の炉材か。流状滓との界面が明確に確認できる。
189	調査区南西	鉄滓	8.5	6.0	4.1	100.7	平坦な炉材と流状滓。界面が確認できる
123図190	3号レンチ	鉄滓	11.3	8.4	5.3	200.2	発砲したスラグと流状滓。炉材との界面が確認でき、炉材が筒状に付着する
191	3号レンチ	鉄滓	13.7	8.2	3.1	203.5	炉材主体。形状は平坦で、内面側が溶けてガラス化したものか
192	南西部	鉄滓	7.1	5.3	2.8	64.4	炉材主体。他の材質が異なり、緻密
193	南西部	鉄滓	6.0	3.5	3.0	41.6	白色化したスラグ。錆化した鉄塊を含む
194	3号レンチ	鉄滓	9.8	6.3	4.9	139.5	土製品付着。溶けてガラス化した平坦な炉材が付着か
195	南西部	鉄滓	7.8	4.9	2.4	64.8	土製品付着。形状は平坦で溶けてガラス化した炉材が薄く付着か
196	南西部	鉄滓	5.0	3.9	2.6	33.6	流状滓。錆化物を含む
197	南西部	鉄滓	4.9	3.4	2.4	32.1	磁鉄鉱の一部か
198	南西部	鉄滓	5.2	3.8	2.4	30.7	磁鉄鉱の一部か。錆化物を含む

第58表 遺構外出土鍛冶炉関連遺物

第4章 調査のまとめ

『館村旧記』「屋敷割の図」による柏城の構造

『館村旧記』は、近世館村の名主宮原仲右衛門仲恒なぬしみやはらなかえもんなかつねによって享保12から14年（1727-29）の間に書かれた、館村に関する地誌である。後述する「柏之城落城後の屋敷割の図」（以下「屋敷割の図」）や「館柏之城軍の事」たてかしのじょういくさのことなどの記載があり、柏城に関する基本資料となっている。ただし、「屋敷割の図」に「宝暦（1751-64）」の文字が見えるので、後日の書込みや、写しが行われた可能性がある。

「屋敷割の図」は、永禄4年（1561）柏城落城後に宮原氏を中心とした旧家臣一族が、柏城「三之丸」に新たに屋敷割をして移り住んで以後（『志木市史』では天正年間（1573-1592）のこととしている）、『館村旧記』が執筆されるまでの宅地変遷図である。廃城後百数十年以上を経てはいるが、柏城の構造を視覚的に伺える唯一の資料である。

以下、「屋敷割の図」によって柏城の構造を確認する。読み下された「屋敷割の図」は『城山遺跡第61地点』（2008年、第23図参照）を参考にされたい。

なお、図中では柏城を「館柏之城」たてかしのじょうと称しているが、本稿では「柏城」を使用する。

- (1) 「本丸」の北、南、東は、土塁（図中「(大)土手通り」とある）で囲まれていた。「土手通り」とあるので、「屋敷割の図」作成の頃は通路に使用されていたと考えられる。
- (2) 「本丸」の東には、(1)の土塁を挟んで「二之丸」が続いている。
- (3) 「本丸」と「二之丸」の間には、「二之丸」側に張り出した角馬出状の虎口があり、「本丸入口」とみなされていた。
- (4) 「二之丸」の南側は、土塁（図中「大土手」）が築かれていた。
- (5) 「本丸」と「二之丸」の周囲に、空堀（図中「(本丸之)大堀り」とある）が廻っていた。
- (6) 「本丸」の北側、土塁と空堀の外側は、元々は林だったが、宝暦の頃（1751-64）に開墾された。
- (7) 「二之丸」の北側、空堀の外側には、「八幡宮」がある。
- (8) 「本丸」と「二之丸」を囲む空堀は、「二之丸」の北東角で分岐北進し、「八幡宮」の東側を廻っていた。
- (9) 「本丸」の西側、空堀の外側には、「西之丸」が続く。
- (10) 「西之丸」の西は、土塁が築かれていたようである。土塁の西側に、「業平卿亭台」があった。『館村旧記』のには、「亭（ちん）の有りたる所は長勝院の西ノはげ、今墓場より北の方へ幅二間長さ拾間余の亭だいあり」（『志木市史通史編1』「室町・戦国時代」）とある。土塁の外側に松の絵が描かれている（「業平松」）。
- (11) 「西之丸」の南側は、土塁と南に突き出した角馬出が描かれている。『志木市史』中世資料編には、長勝院南側に「鍵手状地割」が存在するとあるが、この馬出を示しているのであろうか。
- (12) 「西之丸」「本丸」「二之丸」の南側には、「三之丸」が続く。図中には、「三之丸」の記載はないが、図中「三ノ大堀」の記載や、『館村旧記』「館村再始芝分屋舗取の次第」に、旧大石氏家臣の宮原氏らが柏城落城後に新たに移り住んだ場所が、「城の三の郭の北側」とあるので、「本丸」他の曲輪名称にならって「三之丸」とする。

- (13) 「三之丸」は、「二之丸」の東側で北へ折れ曲がり、「二之丸」や「八幡宮」の東側を取り囲むように存在した。『埋蔵文化財調査報告書 3』（2002年）「第4章まとめ」には「西之丸に対する東之丸」という表現で、この区域を示している。
- (14) 「三之丸」の西側は、「長者はけ通り」で区画され、その「長者はけ通り」を北に延長すると、「西之丸」の西をめぐる(10)の土塁につながっていた。
- (15) 「三之丸」の南側には、土塁(図中「土手通」「大土手(通り)」とある)が築かれていた。「本丸」にあった土塁と同様に、「土手通」とあるので、「屋敷割の図」作成の頃は通路に使用されていたと考えられる。
- (16) 「三之丸」南側の土塁の南には、大きな空堀(図中「外側三之大堀」「三ノ大堀通り」とある)があった。この空堀は、図中「本丸」や「二之丸」の「大堀」より幅広に描かれている。また、「大堀通り」とあるので、堀の東半分は、「屋敷割の図」作成の頃は通路に使用されていたと考えられる。
- (17) 「三之丸」南側中央に角馬出状の虎口が描かれ、「大手入口」とみなされていた。「屋敷割の図」作成の頃は、馬出状の虎口を通り、「三ノ大堀」に架かる橋を渡って、城外側から「三之丸」へ進入していた。
- (18) また、「三之丸」から「二之丸」へ入る場合も、角馬出状の虎口を進み、空堀に架かる橋を渡っていたことが伺える。
- (19) 「三之丸」南側の空堀は、「三之丸」の東側で曲輪に沿って北に折れ、自然谷(図中「昔城の要害の大沼通」とある)へとつながっていた。
- (20) 「三之丸」中央に東西に延びる道が走り、道に沿って西から「上宿」「中宿」「下宿」と呼称されていた。宮原氏以下旧家臣団が柏城落城後に住みついた場所である。
- (21) 上宿の西側、「三之丸」を区画する「長者はけ通り」の外側に門が描かれている。
- (22) 下宿の東側、道が空堀を横切る手前には、門が描かれていて「東門」とある。さらに、空堀の上には橋が架かっていた。
- (23) 道が空堀を渡った先、南側には、簸川(氷川)神社があった。
- (24) 氷川神社の先で道は三方に分れ、北は「不動坂」、東は「大道」と呼ばれていた。南に続く道は、途中で「宿通」を分岐する。

「屋敷割の図」によれば、柏城は、空堀と土塁で曲輪を防御した、中世城郭であることが分る。その城の正面は南にあった。

現在の地図上では、「屋敷割の図」下宿の東に続く道の屈曲や、「大道」等の形状から、(20)の道が志木第三小学校南側の道に比定されている。これにより、館氷川神社の北側の道が(15)(16)の土塁や空堀のラインに沿い、氷川神社南の参道側の道が、(24)の南に続く道に対応すると考えられる。

柏城の「本丸」は、志木第三小学校敷地の北半分、「二之丸」はその東一帯、「西之丸」は長勝院旗桜一帯に比定されるのではないかと考えられる。

なお、柏城の北側の一部((1)の北側の土塁付近)は、志木中学校の校庭を建設する際に、台地斜面部分を掘削しているようである(国土地理院ホームページ「国土変遷アーカイブ」/「空中写真閲覧」/「1948年1月18日GHQ所属のアメリカ軍によって撮影された空中写真」

<http://archive.gsi.go.jp/airphoto/ViewPhotoServlet?workname=USA&courseno=M738&photonno=16> 参照)。

(第128図)

空中写真によると、現在の小学校校舎の北側に、かなりの広さの方形の空間が存在していたことが分る。さらに北側には、城跡の台地端を囲むように西に向けて土塁が存在していた。現在、校舎の北側は、ほぼ削平され市立志木中学校の校庭となっている。

その他、空中写真からは、土塁の内側の堀状の窪みや、城跡西側から南に廻り込む帯状の土地区画などが観察できる。今後、空中写真の分析と「屋敷割の図」、発掘成果の対照により、柏城の縄張りが推定できるかもしれない。

発掘された溝と堀

城山遺跡内は、1974年のA地点から、本報告書の71地点（2011年）まで各地点で発掘調査が実施され、その成果が順次刊行されている。

発掘調査の過程において認識された溝は63本。報告書等によって、その規模や形状が確認できた溝状遺構を別表にまとめた。なお、断面形は、報告書表記の通りとしたが、「箱薬研」は「箱薬研（逆台形）」に改めた。

中世城郭は、主に空堀と土塁によって構成されるが、土塁は、廃城後の土地改変等により削平されると、その痕跡を伺うことが困難になる。しかし、空堀は、発掘により遺構として検出される可能性が高い。

この表で、深さが1mを超える溝を柏城に係る堀関連遺構と想定し、気づいた点をまとめてみる。

1号溝跡

1号溝跡は、「三之丸」の南側に廻る空堀と考えられている（「屋敷割の図」（16）に対応。以下同じ）。C地点の断面図によれば、南側の法面が緩やかである。また、C地点の西側42地点では、北側の堀上部に犬走り状の平坦面があり、法面にはピットが検出されている。42地点西隅の部分では、上記の平坦部分は幅広になっている。42地点31溝の北への屈曲と関連して、1号溝跡も北西方向へ屈曲している可能性が考えられる。また、C地点より東に位置する61地点1溝の南側断面形状には、C地点の南側断面との類似性が伺える。12地点の断面形状を見る限り、法面の角度は柏城の堀の中で一番きつい。

8号溝跡

斜面際で「三之丸」とその東の城外を区画する堀であろうか。西側から東側に傾斜している地山を削って築かれている。（19）の空堀と「三之丸」の間に位置する。9号溝跡との関連も伺える。

12号溝跡

15地点で検出された。南北方向の走行を持ち、「本丸」と「西之丸」を区画する堀跡と考えられる。（5）の西側の空堀であり、（9）の「西之丸」との境と考えられる。

16号溝跡

18地点で検出された16～20溝は、東西方向の走行を持つ溝である。16溝と17溝の断面形状は、北側法面が急で南側法面にふくらみが見られるなどの類似性が伺える。発掘範囲からは、複数の溝の

役割は不明である

16 溝よりも北側の 18 溝、18 溝よりもその北側の 20 溝と底面の標高が段々に高くなっていることが伺える。「屋敷割の図」では、この付近は、本丸部分に比定されるが、この溝列よりも北側に本丸の主要部分が存在していたのだろうか。(5) の「本丸」の南を区画する空堀(群)と想定される。

59 号溝跡

71 地点で検出された。南北方向に走行を持ち、「二之丸」と「三之丸」の東側屈曲部分(「東之丸」)を区画する(5)の東側の堀跡と考えられる。堀の北端は西側に屈曲すると考えられる。

堀の北半分では、西側にあった土塁を崩して堀を埋めた痕跡が確認されている。ただし「屋敷割の図」では、この部分に土塁は認識されていない。

1 号道路状遺構

46 地点、58・60 地点で検出されている、東西方向の走行を持つ遺構。側溝を持つ道とされている。58 地点北側で検出された 34 溝もこの遺構に関連があるのであろうか。また、61 地点 47 溝、63 地点 53 溝も走行が同方向で、断面形状が似通っており、関連性が伺える。これらの遺構は、現在の氷川神社裏側の道路に沿って検出されている。61 地点は、「屋敷割の図」で三上氏が屋敷を移した新屋敷(あらかしき)の敷地内と比定されているので、その南側の敷地に沿った屋敷割の痕跡の可能性も考えられる。

35、36 号溝跡

58・60 地点で検出された、東西方向に走行を持つ溝。「屋敷割の図」では、「三之丸」南側の城外に当たる。改変された痕が伺える。

58、61 号溝跡

71 地点で検出された。16 地点で検出されている 14 溝、15 溝につながると考えられるが、その性格は不明である。

城は築城からそのままの姿で廃城を迎え、そのままの姿で風化して現在に至って発掘されるのではない。政治的、軍事的な意味合いを持つ城は、築城後もその存在意味や、城の管理者(城主)の意向によって縄張り(城の構造)を変遷するし、廃城後は大きな敷地を擁するが上に、分割され、再利用され、開発される。

柏城においても、平安時代の^{たのものがんじながかつ}田面郡司長勝の築城伝承から、大石信濃守の居城、永禄 4 年(1561)の長尾輝虎(上杉謙信)の攻城・落城、天正期(1573-1592)における宮原氏以下の旧家臣による開発と、城の土地変遷に大きな影響を与えたであろう事象が挙げられる。これらは、必ずしも資料的な裏付けがなく、精確な時代変遷がなし得ない状態であるが、今後柏城の構造を論ずるにあたり、意識すべきことであろう。

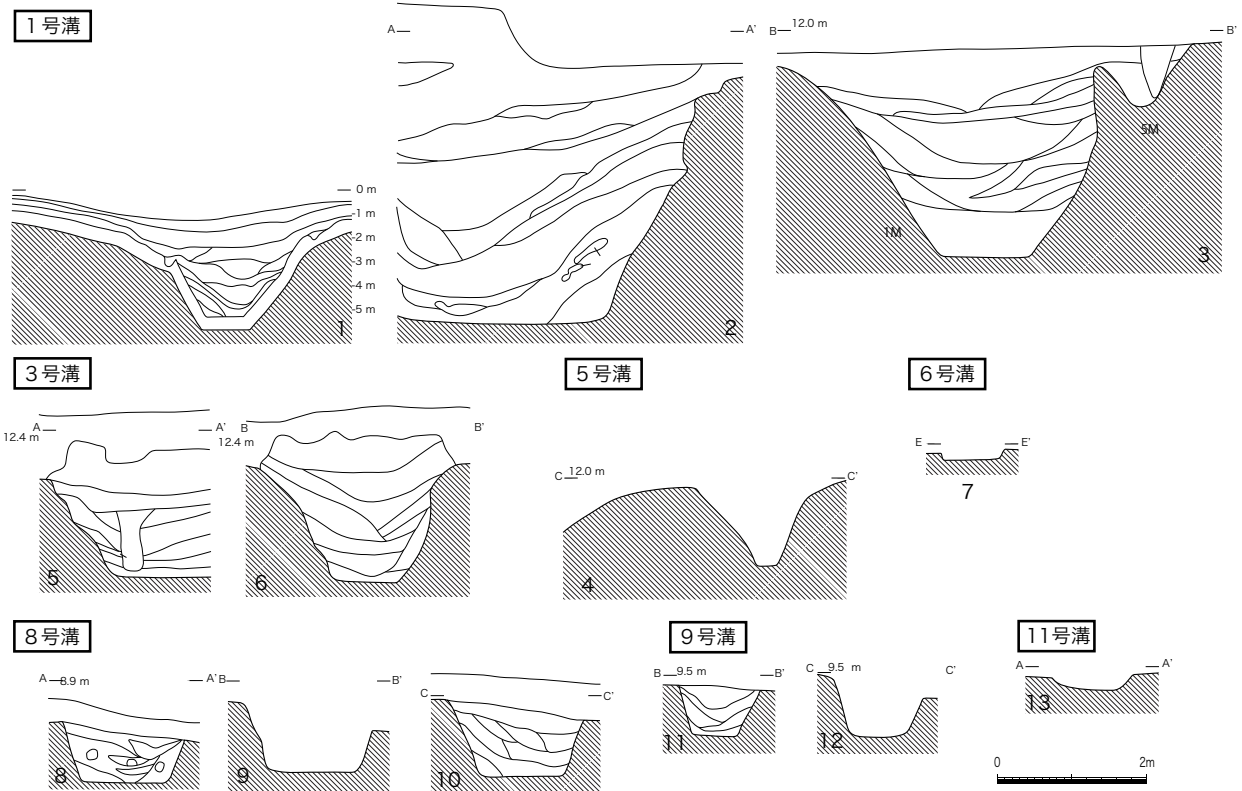
挿図番号	地点	対応	溝名	走行方向	断面形	底形	北壁角度(°)	南壁角度(°)	土層堆積	上幅(m)	底幅(m)	深さ(m)	底標高(m)	特徴	報告書名	
	A		溝	南北						1.8	0.9	1.1				
	B		溝													
1	C	(16)堀	1溝	東西	箱葉研(逆台形)	平坦	48	63	北側から短期間に埋め戻しか	12.2	1.6	4.7		南から二段傾斜、北壁頂部に幅0.5、深さ0.2mの溝あり。北側に土塁か。15m長のレンガにおいて確認。	『志木市史』中世資料編	
2・3	1・2	(16)堀	1溝	東西	箱葉研(逆台形)	平坦						3.2・2.64・3.6・4.0	8.25・9.05・7.88	屈曲。北壁が急斜面。1,35号溝は同時期か。幅が狭まっている部分あり。橋状の施設があったか。馬出状の虎口周辺。	『城山遺跡発掘調査報告書』	
	1・2		2溝	南北										19住居跡に切られる。	『城山遺跡発掘調査報告書』	
	1・2		4溝	東西										1溝に重複。	『城山遺跡発掘調査報告書』	
2・4	1・2		5溝	東西	V字					1.2~1.9	0.2			1溝の北に沿う。1,3,5号溝は同時期か。	『城山遺跡発掘調査報告書』	
5・6	1・2	(17)堀	3溝	屈曲	箱葉研(逆台形)	平坦			埋め戻されたか	2.6	1.0~1.4	2.4	10.3	1,3,5号溝は同時期か。虎口部分。	『城山遺跡発掘調査報告書』	
7	3		6溝	東西		平坦								0.7~1.0	0.1	『城山遺跡長勝院地点発掘調査報告書』
	3		7溝	南北		平坦								0.75~1.1	0.4	『城山遺跡長勝院地点発掘調査報告書』
8~10	12	堀	8溝	斜め	箱葉研(逆台形)	平坦			埋め戻されたか	1.75	1.15	1				『志木市の文化財』第24集
11・12	12		9溝	斜め、屈曲	箱葉研(逆台形)	平坦			埋め戻されたか	1.2	0.8	0.7				『志木市の文化財』第24集
13	12		11溝	東西	皿状	平坦				0.65	0.45	0.15				『志木市の文化財』第24集
	12		10溝	東西												『志木市の文化財』第24集
14	15	(5)堀	12溝	南北	箱葉研(逆台形)	平坦			江戸期に埋め戻されたか		1	3.7				『埋蔵文化財調査報告書3』
15・16	15		13溝	南北						0.55~0.65	0.16~0.20	0.34~0.38		12溝と同方向、関連遺構か	『埋蔵文化財調査報告書3』	
17~20	16		14溝	東西から北に屈曲	箱葉研(逆台形)				埋め戻されたか	2.4~2.8、2.8~3.2	0.8~1.0、0.7~1.0	0.84~1.24、1.15~1.33	9.8~8.6、8.7~8.2			『埋蔵文化財調査報告書3』
21・22	16		15溝	東西	V字					0.54~1.28	0.1~0.32	0.15~0.44				『埋蔵文化財調査報告書3』
23~26	18	(18)堀	16溝	東西、屈曲	箱葉研(逆台形)	平坦	62	45		3.74	1.3	1.83~2.1 GL~2.6		北壁が急斜面	『埋蔵文化財調査報告書4』	
26・27	18	(18)	18溝	東西	V字					1.8	0.36	1.47~1.54		16溝に西で重複	『埋蔵文化財調査報告書4』	
28	18	(18)	19溝	東西							0.48	1.55		16溝に東で重複	『埋蔵文化財調査報告書4』	
29・30	18	(5)堀	17溝	東西	箱葉研(逆台形)	平坦	50	55		4.28	1.22	2.1・GL~2.8		南壁が急斜面	『埋蔵文化財調査報告書4』	
31・32	18	堀	20溝	東西	箱葉研(逆台形)	平坦	70・55	70・55		1.74	0.72	1.16~1.21				『埋蔵文化財調査報告書4』
33	18	堀	21溝	東西	箱葉研(逆台形)	平坦	70~60	70~60		2.1	1.08	1.1~1.25		段差あり	『埋蔵文化財調査報告書4』	
	25		22溝	南北	皿状	平坦				1.3~1.58	1.12~1.3	0.15~0.21		近現代	『志木市遺跡群 VII』	
	26		溝	東西												
	29		29溝	南北、東に屈曲	丸い皿状					0.9~1.85	0.17~0.85	0.12~0.24		近世	『志木市遺跡群 VIII』	
34~38	42	(16)堀	1溝	東西	箱葉研									北側ピロ列を伴う、ピロ列の北側は犬走り部分か。西側では堀の平面が広がる。堀の北への屈曲を暗示しているか。31溝の屈曲も反映しているのか。	『城山遺跡第42地点』	
	42		30溝	東西						2.0	0.2	0.6				『城山遺跡第42地点』
	42		31溝	東西、北に屈曲						0.5	0.15	0.1		1号溝と関係性あるか	『城山遺跡第42地点』	
	42		32溝	東西						2.6・3.4	0.8・0.4~1.4	0.47・0.5~0.3		2本の溝が重複か、1号溝と関係性ある	『城山遺跡第42地点』	
39	46		33溝	東西		平坦				0.65~0.8	0.4~0.57	0.15~0.32		古代(平安時代)	『志木市遺跡群 16』	
40~42	55		33溝	東西						0.6~0.83	0.35~0.5	0.6~0.20		古代(平安時代)	『志木市遺跡群 16』	
43~45	46		1号道路状遺構	東西												『志木市遺跡群 16』
46	58,60		34溝	東西	箱							0.29		硬化面無し	『城山遺跡第58・60地点』	
47・48	58,60		35溝	東西	箱葉研(逆台形)+箱				埋め戻されたか	3.33~3.63	0.21~0.33	1.37~1.38		17世紀中前半に築かれる	『城山遺跡第58・60地点』	
49・50	58,60		36溝	東西	葉研(V字)					2.68~3.33	0.18~0.21	0.90~1.16		箱葉研から葉研の溝に改修か	『城山遺跡第58・60地点』	
51~53	58,60		37溝	斜め	U字					0.72~0.96	0.18~0.45	0.24~0.33		南壁が急	『城山遺跡第58・60地点』	
54	58,60		39溝	東西	箱(逆台形)	平坦			埋め戻されたか			1.36				『城山遺跡第58・60地点』

第59表 城山遺跡検出溝状遺構1

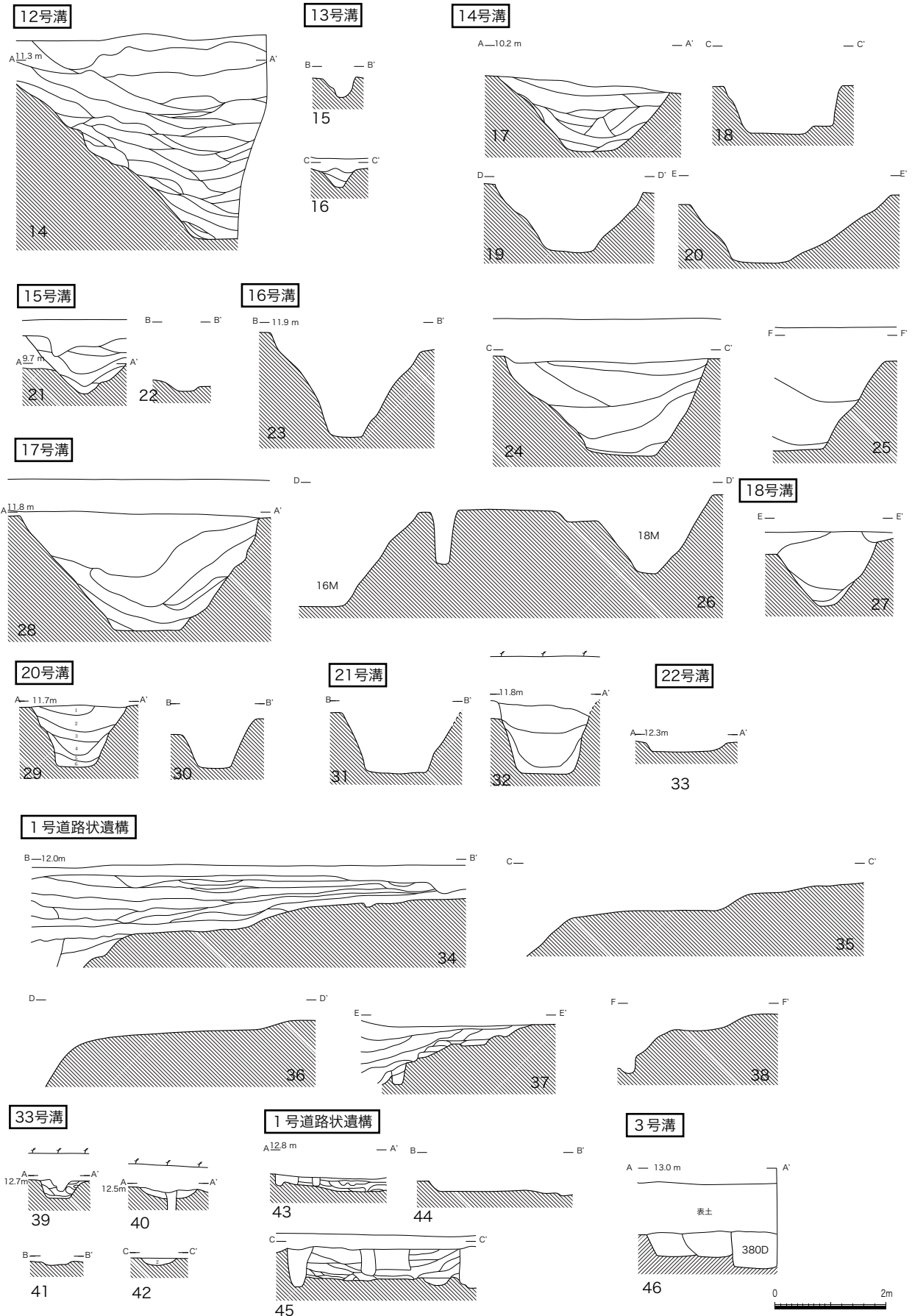
第4章 調査のまとめ

挿図番号	地点	対応	溝名	走行方向	断面形	底形	北壁角度(°)	南壁角度(°)	土層堆積	上幅(m)	底幅(m)	深さ(m)	底標高(m)	特徴	報告書名
55~62	58,60		40 溝	コの字	箱葉研(逆台形)、U字					2.21~0.69	0.45~0.05	0.21~0.56		(10m四方の)区画溝	『城山遺跡第58・60地点』
63・64	58,60		41 溝	斜め	皿U字					1.09~0.53	0.42~0.1	0.12~0.35			『城山遺跡第58・60地点』
65	58,60		42 溝	南北	U字					0.82~1.85		0.11			『城山遺跡第58・60地点』
66	58,60		43 溝	南北	箱					0.87~1.6	0.59~1.43	0.33			『城山遺跡第58・60地点』
67	58,60		44 溝	南北	箱					0.41~0.6	0.33~0.46	0.13			『城山遺跡第58・60地点』
68	58,60		45 溝	南北	箱					1.94~2.15	0.10~0.18	0.08			『城山遺跡第58・60地点』
69	58,60		46 溝	東西、北に屈曲						1.32~4.37	0.10~0.35	0.47			『城山遺跡第58・60地点』
70・71	58,60		1号道路状遺構											緑に側溝状の窪みあり	『城山遺跡第58・60地点』
72・73	61	(16) 溝	1 溝	東西											『城山遺跡第61地点』
74~76	61		47 溝	東西		平坦				2.0	1.25~1.5	0.35~0.42		底部に貼床状の覆土あり、北壁に水付きあり、水路か	『城山遺跡第61地点』
77~79	63	(16) 溝	1号溝	東西											『城山遺跡第63地点』
80~83	63		53号溝	東西	箱葉研(逆台形)+箱	平坦			北側では、西側土塁の埋め戻しか	2.25	1.8	0.44~0.56	10.3・10.9	東にかけて傾斜、道路として使用か、47溝と似ている	『城山遺跡第63地点』
	71		59 溝	南北	逆台形					5.04~7.03	1.31~1.94	2.2~2.4			本報告書
	71		60 溝	南北						1.98~1.48	0.77	0.23~0.58		近代以降、境界根切り溝	本報告書
	71		61 溝	斜め、屈曲	V字					1.5~3.3	0.06~0.47	1.13~1.23		15溝につながる	本報告書
	71		62 溝	東西	V字					2.43~2.78	0.2	0.79~1.0			本報告書
	71		58 溝	斜め、南に屈曲、南西~北東	箱、U字から皿状					1.08~1.26		0.6~0.66		14溝につながる	本報告書
	71		63 溝	東西	逆台形					1.09~1.57	1.02~0.35	0.22~0.36			本報告書

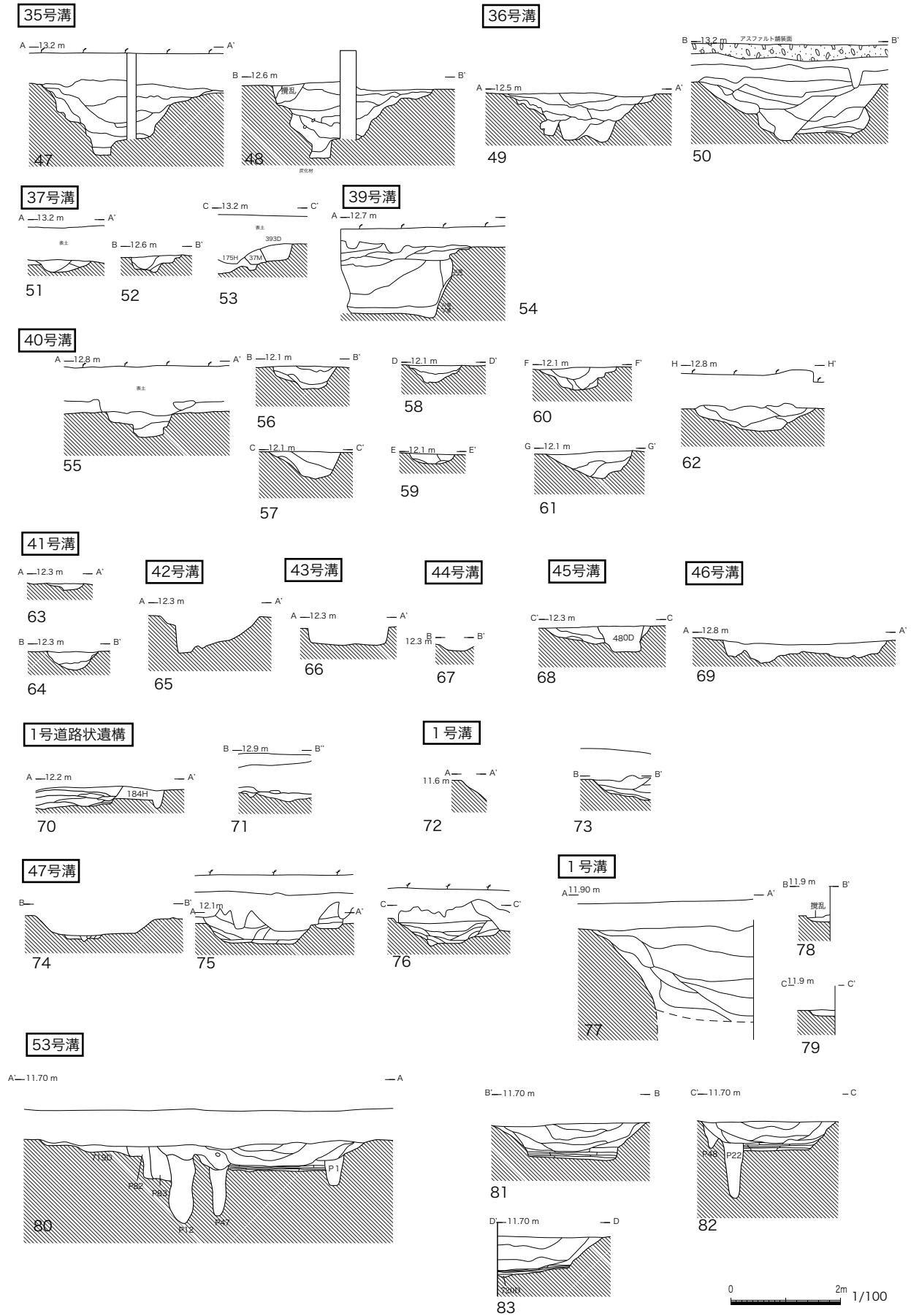
第60表 城山遺跡検出溝状遺構2



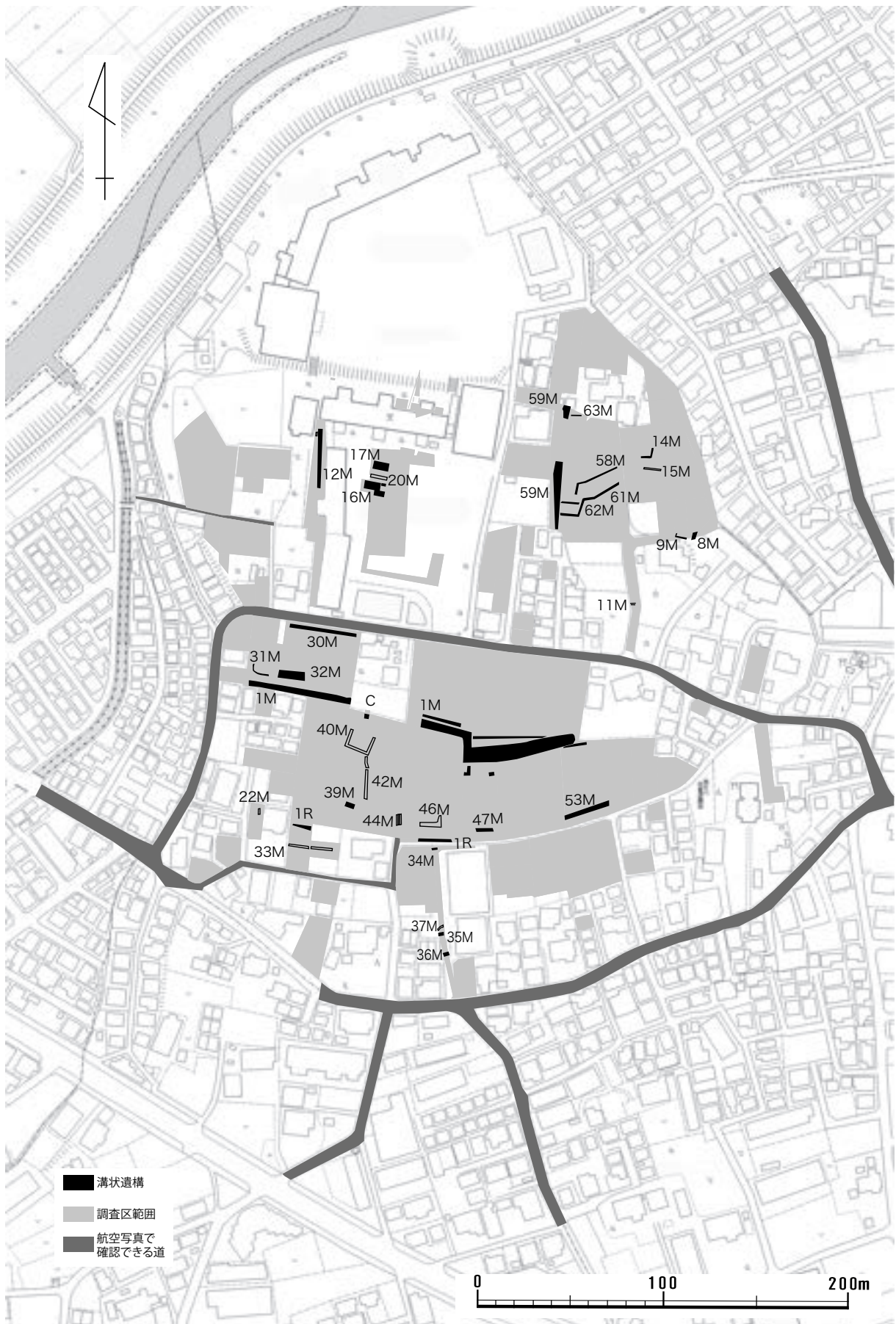
第124図 城山遺跡検出溝状遺構断面図1 (1/60)



第 125 図 城山遺跡検出溝状遺構断面図 2 (1 / 60)



第 126 図 城山遺跡検出溝状遺構断面図 3 (1 / 60)



第 127 図 城山遺跡検出溝状遺構位置図 (1 / 3000)



国土地理院所蔵 UM 738 1948年1月18日米軍撮影

第128図 城山遺跡周辺の航空写真と溝状遺構

[引用・参考文献]

- 赤熊浩一 2006 「新羅建郡と古代武蔵国の鉄生産」『埼玉の考古学Ⅱ-埼玉考古 第41号-』埼玉考古学会
- 浅野晴樹 1991 「東国における中世在地系土器について-主に関東を中心にして-」『国立歴史民俗博物館研究報告 第31集』国立歴史民俗博物館
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会
- 江戸遺跡研究会編 2001 『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
- 尾形則敏 1999 「いわゆる「比企型坏」の編年基準の要点-小地域を対象とした編年の確率に向け-」『あらかわ』第2号あらかわ考古談話会
- 尾形則敏 2000 「志木市における古墳時代の土師器の編年(1)-5世紀から7世紀の坏形土器の変遷-」『あらかわ』第3号あらかわ考古談話会
- 尾形則敏 2006 「七世紀における「在地系土師器」の出現と歴史的意義-武蔵野台地北西部の無彩系・黒色系土師器の一事例-」『埼玉の考古学Ⅱ-埼玉考古 第41号-』埼玉考古学会
- 尾形則敏 2008 「古墳時代後期の土師器研究の再認識-(仮称)「人間系土師器」の実態と生産地推定を例として-」『埼玉考古』第43号埼玉考古会
- 古代生産史研究会 1997 『東国の須恵器-関東地方における歴史時代須恵器の系譜-』古代生産史研究会
- 小林達雄編 2008 『総覧 縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会・株式会社アム・プロモーション
- (財) 瀬戸市文化振興財団 2006 『江戸時代のやきもの-生産と流通-』記念講演会・シンポジウム資料集財団法人瀬戸市文化振興財団
- 新宿区内遺跡調査会 1992 『内藤町遺跡-放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書-』東京都建設局・新宿区内藤町遺跡調査会
- 志木市史編さん室 1986 『志木市史 中世資料編』
- 志木市史編さん室 1990 『志木市史 通史編上』
- 瀬戸市歴史民俗資料館 1986 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要5』瀬戸市歴史民俗資料館
- 高崎直成 2005 『東台製鉄遺跡-東台遺跡Ⅳ(第15・18地点)-』文化財調査報告書第35集埼玉県大井町教育委員会・埼玉県大井町遺跡調査会
- 永井久美男 2002 『中世出土銭の分類図版』高志書院
- 藤澤良祐 1997 「中世瀬戸窯の動態」『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第5輯 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤澤良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 (財) 瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 三芳町教育委員会 2009 『藤久保東遺跡Ⅱ-藤久保第一土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』三芳町教育委員会
- 両角まり 1996 「内耳鍋から焙烙へ-近世江戸在地系焙烙の成立-」『考古学研究』第42巻第4号考古学研究会
- 和田哲・馬橋利行・佐々木克典 2000 『東京都国立市関跡物跡遺跡』国立市文化財調査報告第43集 国立市遺跡調査会

※ 引用・参考とした城山遺跡の報告書については第59・60表に記載した。

[付 編]

自然科学分析

[付 編] 城山遺跡 71 地点の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

城山遺跡(埼玉県志木市柏町に所在)は、柳瀬川右岸の台地上に位置し、旧石器時代～近世にわたる遺構、遺物が検出されている。特に中世では、台地縁辺部の地形を利用して中世の城館が構築されており、今回の調査区は城の東側の郭内に位置すると考えられている。

今回、調査区内から出土した骨貝類の種類を明らかにした。また、調査区内から出土した鉄滓について外観観察を行い、製鉄に関する情報を得ることにした。

I. 骨貝試料状況

1. 試料

試料は、地下室 845 号土坑から出土した貝殻、地下室 864 号土坑から出土した貝殻、165 号ピットから出土した貝殻、58 号溝跡から出土した骨、61 号溝跡から出土した貝殻と骨 2 試料、44 号井戸跡から出土した貝殻である。

なお、地下室 845 号土坑から出土した貝殻は土壌中に複数の破片がみられ、貝殻の保存状態が悪い。それ以外の貝類は、貝類のみが抽出されているが、土壌が付着する状態である。また、61 号溝跡から出土した貝殻は 390g、44 号溝跡から出土した貝殻は土嚢袋計 8 袋の内から選択された 1 袋 (6.5kg) である。時期的には、地下室 845・864 号土坑、165 号ピット、44 号溝跡が近世、他が中世とされている。

2. 分析方法

地下室 845 号土坑の貝殻(第 86 図)は、保存状態が悪いために水洗クリーニングを行うと貝殻の形質を壊す可能性があったため、乾燥状態のまま貝殻を抽出する。地下室 864 号土坑の貝殻(第 90 図)、165 号土坑の貝殻については、乾燥した状態で筆等を用いて土壌を除去する。61 号溝跡の貝殻(第 62 図)と 44 号井戸跡の貝殻(第 66 図)は、0.5 mm の篩上で水洗クリーニングして土壌を除去する。また、骨試料は、乾燥した状態で筆等を用いて土壌を除去する。骨の一部については、一般工作用接着剤を用いて接合を行う。

試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。

軟体動物門 Phylum Mollusca
 腹足綱 Class Gastropoda
 前鰓亜綱 Subclass Prosobranchia
 盤足目 Order Discopoda
 カワニナ科 Family Pleuroceridae
 チリメンカワニナ *Semisulcospira reiniana*
 新腹足目 Order Neogastropoda
 アッキガイ科 Family Muricidae
 レインガイ亜科 Subfamily Rapaninae
 アカニシ類 *Rapana sp.*
 原始紐舌目 Order Architaenioglossa
 タニシ科 Family Vivipariidae
 マルタニシ *Cipangopaludina chinensis malleata*
 二枚貝綱 Class Bivalvia
 古異歯亜綱 Suborder Palaeoheterodonta
 イシガイ目 Order Unionoida
 イシガイ科 Family Unionidae
 マツカサガイ *Inversidens japonensis*
 脊椎動物門 Phylum Vertebrata
 哺乳綱 Class Mammalia
 ウマ目(奇蹄目) Order Perissodactyla
 ウマ科 Family Equidae
 ウマ *Equus caballus*
 第 61 表 検出動物分類群一覧

3. 結果

検出された種類は、腹足綱 3 種類 (チリメンカワニナ・アカニシ類・マルタニシ)、二枚貝 1 種類 (マツカサガイ)、哺乳綱 1 種類 (ウマ) である (表 1)。

同定結果を表 2 に示す。以下、試料ごとに結果を示す。

<地下室 845 号土坑・第 86 図>

二枚貝綱の破片である。保存状態は極めて悪い。マツカサガイの可能性もあるが、詳細不明である。

<地下室 864 号土坑・第 90 図>

アカニシ類とみられる殻柱部の破片である

<165P 号ピット・第 100 図>

アカニシ類の破片である。保存状態は悪い。一部発泡しており、焼けている可能性がある。殻頂部、体層部が破損する。

<59 号溝跡・第 55 図>

ウマの歯牙である。左右上顎第 1～3 乳臼歯、左右下顎第 1～3 乳臼歯、歯牙片、顎骨等の破片がみられる。

<61 号溝跡・第 62 図>

大半がマルタニシであり、他にチリメンカワニナ 1 点、マツカサガイ左殻 1 点、マツカサガイ右殻の可能性のある破片 1 点が検出される。

<61 号溝跡・第 62 図>

ウマの歯牙である。形質を残すものが 3 点あり、その他に破片がみられる。形質を残す歯牙は左上顎の歯牙である。

<61 号溝跡・第 62 図>

ウマの上顎歯牙片である。

<44 号井戸跡・第 66 図>

大半がマルタニシであり、他にチリメンカワニナ 1 点とマツカサガイ左殻 1 点が検出される。

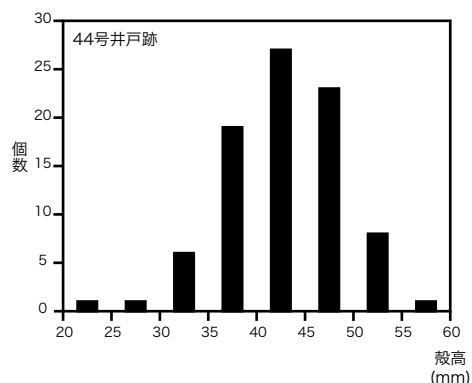
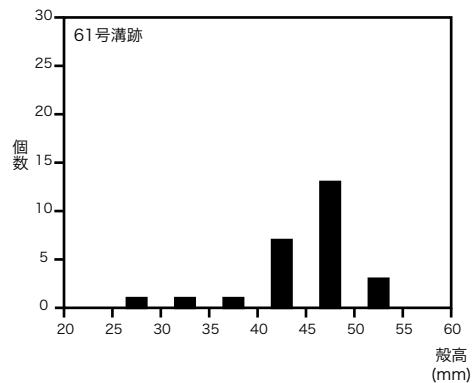
4. 考察

61 号溝跡から出土した貝類は、マルタニシを主体として、チリメンカワニナ、マツカサガイが含まれる。これらは、田や沼、河川の砂礫底などに棲息する淡水生の貝類である。主体となるマルタニシの成貝で完存するものは殻高 25～55 mm の範囲にあるが、40～50 mm の殻が多い (第 129 図)。ただし、貝高数 mm 程度の幼貝も含まれていることを考慮すると、繁殖集団として溝内等に棲息していたと考えられる。一方、44 号井戸跡で出土した貝類も 61 号溝跡と同様な種類構成を示し、主体となるマルタニシも 61 号溝跡とほぼ同じ殻高であるが (第 129 図)、幼貝も含まれている。これらは、井戸内に生育していたと考えるより、井戸が使用されなくなった後に混入したと考えられる。主体となるマルタニシは食用されることがあるため食物残渣が廃棄されたとも考えられるが、今回の場合は食用に適さない幼貝も多く検出されていることから、井戸を埋め戻す際に溝堆積物などが用いられた、あるいは台地下を流れる河川流域の堆積物を用いたなどのことも考えられ、遺構の埋積状況、さらには両堆積物の珪藻化石の産状や鉱物などの比較なども行う必要がある。

一方、165 号ピット、864 号土坑で出土した貝殻は、破損した状態であるが、アカニシ類とみられる。

アカニシ類は、水深 30m 以浅の砂泥底に棲息する海産生の貝類である。食料資源として流通していたと考えられる。殻が破損しているが、身を取り出す際に打ち割ったことも考えられる。

また、59 号溝跡、61 号溝跡からは、ウマが出土する。59 号溝跡で出土したウマは、上下左右の歯牙がみられることから溝内に頭蓋骨が存在していたことがわかる。検出された上下左右の歯牙がいずれも乳臼歯であること、さらに歯牙に咬耗がほとんど見られないから、本ウマは 2.5 歳以下の幼獣とみられる。61 号溝跡から出土したウマは、詳細な部位等が不明であるため年齢に関して情報が得られないが、少なくとも上顎歯牙の永久歯であることから、成獣とみられる。松井 (1997) は、ウマ・ウシの出土状況について整理分類し、自然死・事故死、屠殺、犠牲などに分けられるとしている。今回出土したウマは、四肢骨など他の主要部位がみられないことから、意図的に頭蓋のみを埋納した祭祀・儀礼等といった犠牲による可能性もある。ただし、この点に関しては、出土状況や遺構の埋積過程なども含めて再検討する必要があるだろう。



第 129 図 マルタニシ殻高分布

引用文献

松井 章, 1997, 考古学から見た動物利用. 部落解放なら, 8, 奈良県部落解放研究所, 2-31.

出土遺構	遺構番号	掲載図版	時期	種類	部位	左	右	部分	数量	備考
地下室	845D	No.40	近世	二枚貝	殻			破片	7	+
				貝類	殻			破片	23	
地下室	864D	No.26	近世	アカニシ類?	殻柱			破片	1	
ピット	165P	一括	近世	アカニシ類	殻			破片	1	
溝	58M	No.8	中世	ウマ	上顎第 1 乳臼歯	左		破損	1	
					上顎第 2 乳臼歯	左		破損	1	
					上顎第 3 乳臼歯	左		破損	1	
					上顎第 1 乳臼歯		右	破損	1	
					上顎第 2 乳臼歯		右	破損	1	
					上顎第 3 乳臼歯		右	破損	1	
					下顎骨	左		破片	1	dml-2 植立
					下顎第 3 乳臼歯	左		破損	1	
					下顎骨		右	破片	1	dml-3 植立
					歯牙			破片	39	+
					顎骨等			破片	60	+
溝	61M	No.1	中世	チリメンカワニナ	殻			破損	1	
				マルタニシ (成貝)	殻			ほぼ完存	26	
				マルタニシ (幼貝)	殻			ほぼ完存	13	
				マルタニシ	殻			破損	15	
								破片	71.68	g
				マツカサガイ	殻	左		破損	1	
				マツカサガイ?	殻		右?	破片	1	
				貝類	殻			微細片	3.77	g マルタニシが主体
溝	61M	No.495	中世	ウマ	上顎歯牙	左?		破片	3	
					歯牙			破片	15	
溝	61M	No.652	中世	ウマ	上顎歯牙			破片	1	+
井戸	44W	サンプル	近世	チリメンカワニナ	殻			破損	1	h31.8
				マルタニシ (成貝)	殻			ほぼ完存	86	
				マルタニシ (幼貝)	殻			ほぼ完存	447	幼貝
				マルタニシ	殻			破損	125	
								破片	322.6	g
				マツカサガイ	殻	左		破損	1	
				貝類	殻			微細片	404.88	g マルタニシが主体

第 62 表 骨貝類同定結果

II . 鉄滓の成分分析

1. 試料

試料は、調査区南西部から出土した鉄滓である。外観の状態から掲載番号 No.183・No.185・No.188・No.193 の 4 試料を選択した。

2. 分析方法

試料の外観観察および表面マクロ観察を行う。なお、観察は、株式会社日鐵テクノリサーチの協力を得た。

3. 結果

結果を第 130 ～ 133 図に示す。以下、試料ごとに記載する。

<試料①>

大きさ 130×105×45 mm、重さ 410.6g を計る。全体的に茶褐色を呈し、塊前面に砂粒が固着している。底部は砂粒が厚さ 4 ～ 5 mm の層となり固く焼き付いている。なお、黒褐色のスラグが主体であるが、中央部には厚さ 1 ～ 2 mm の板状物質が幾重にも重なって存在する。同部には磁力があり、おそらくは磁鉄鉱であろうと思われる。また、一部には錆化した破片 (数mm) を巻き込んでいる。

<試料③>

大きさ 80×70×45 mm、重さ 182.4g を計る。黒色で光沢ある流状滓と砂粒が合体したものであると思われる。なお、一部には発泡したスラグおよび 2 ～ 10 mm の鉄錆粒子が存在する。また、底部は試料①と同様に数mm厚さで砂粒層が焼き付いている。

<試料⑤>

大きさ 60×40×40 mm、重さ 61.8g を計る。茶褐色で大きな空孔を有しており、スラグと数mmの鉄錆、板状物質などが合体したものであると思われる。なお、この板状物質は試料①中に存在した磁鉄鉱と同様の物質であると思われる。

<試料⑧>

大きさ 60×35×30 mm、重さ 41.6g を計る。灰色～茶褐色を呈し、底部は焼き付いた砂粒が 3 ～ 4 mm の厚さの層を形成しており、生成したスラグが炉の周辺に流れ出て固化したものであると思われる。

4. まとめ

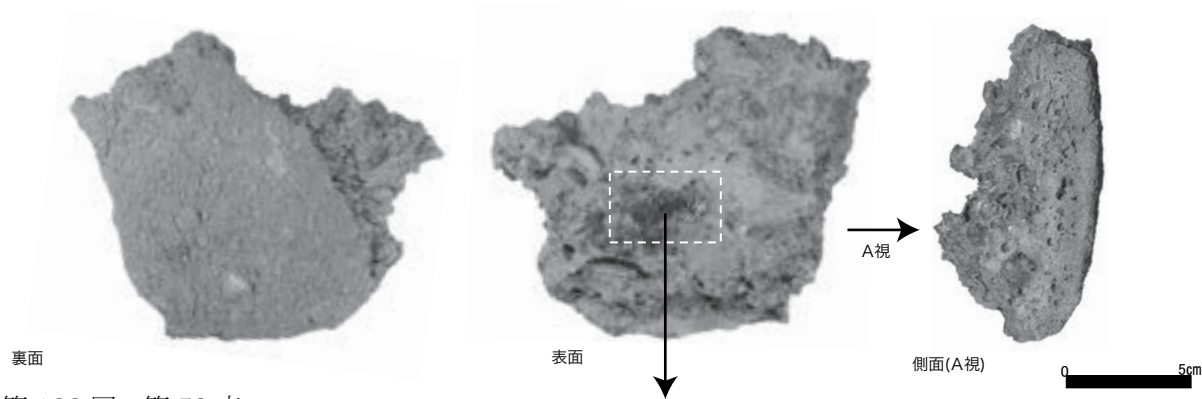
上記の結果から今回分析を行った鉄滓についてまとめを述べる。

No.183 の裏面、No.188 の側面～裏面、No.193 の裏面には砂粒の層が固く焼き付いた状態で観察された。これらは炉材の痕跡であると思われ、これらの鉄滓は炉壁に付着した状態で生成、遺存していた可能性を指摘できる。このことから本遺跡および周辺において精錬もしくは鍛冶が行われており、それに伴う炉などの遺構が存在した可能性が指摘される。

また、No.183、185 では、磁鉄鉱の可能性のある板状の物質が確認された。板状に層を成す形状から、これらが磁鉄鉱であれば、製鉄の原料である原石が溶解せずに残存したものと考えられ、本遺跡および周辺において精錬が行われていた可能性を示すものとして注目される。今回分析を行った鉄滓が精

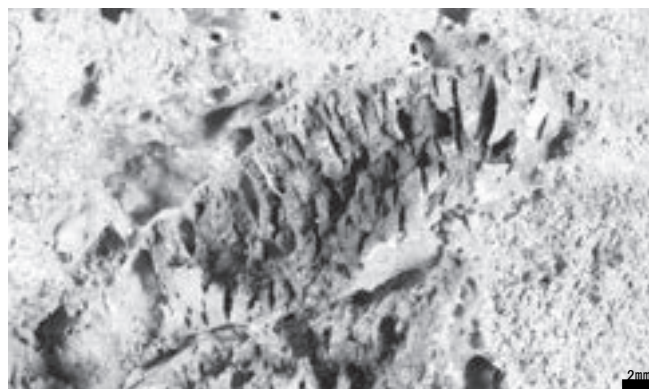
錬滓か鍛冶滓かをさらに検討するためには断面組織観察や化学分析を行うことが必要である。

今回分析を行った鉄滓は全て遺物包含層からの出土であるため、その帰属する時期については不明であるが、本発掘調査地点は中世の城館である「柏の城」の範囲に含まれており、城館内で精錬や鍛冶が行われていた可能性が指摘される。



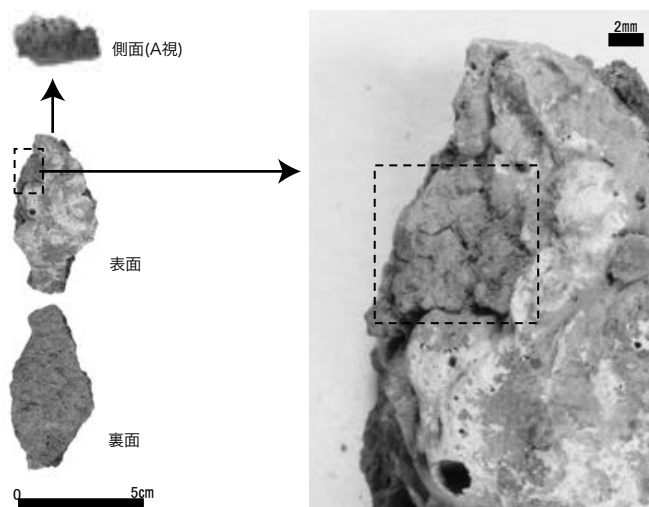
第 122 図、第 58 表

- ・ 130×105×45 mm、重さ 410.6g を計る。
- ・ 全体的に茶褐色を呈し、塊全面に砂粒が固着している。底部は砂粒が厚さ 4～5 mm の層となり固く焼き付いている。
- ・ 黒褐色のスラグが主体であるが、中央部には厚さ 1～2 mm の板状物質が幾重にも重なって存在する。なお、同部は磁力があり、おそらく磁鉄鉱であると思われる。また、一部には錆化した鉄片 (数mm) を巻き込んでいる。



表面の拡大: 板状に存在する物質(磁鉄鉱?)磁力有。

第 130 図 鉄滓 No.183 の外観および表面マクロ

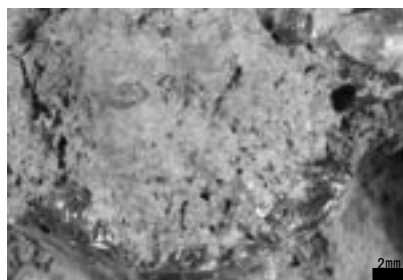
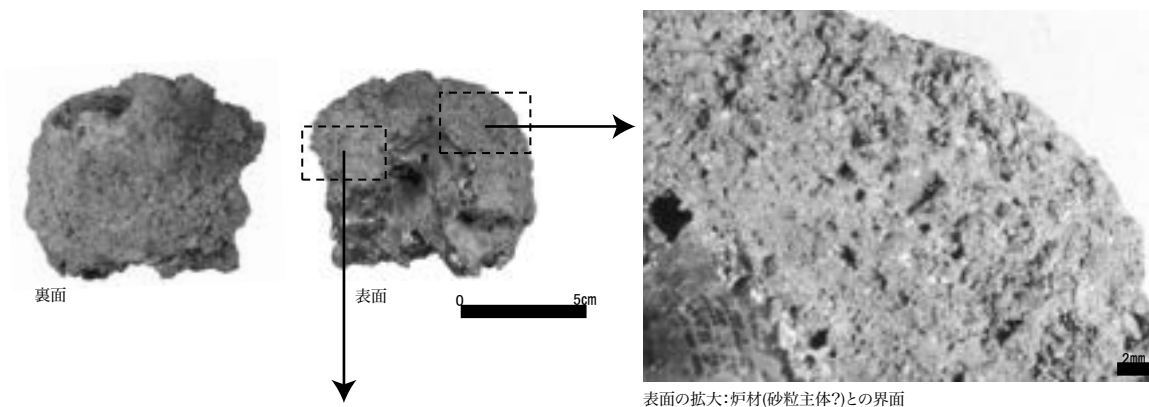


表面の拡大: 錆化した小鉄塊

第 123 図、第 58 表

- ・ 60×35×30 mm、重さ 41.6g を計る。
- ・ 灰色～茶褐色を呈し、底部は焼き付いた
- ・ 砂粒が 3～4 mm の厚さの層を形成している。
- ・ 生成したスラグが炉の周辺に流れ出て固化したものであると思われる。

第 131 図 鉄滓 No.193 の外観および表面マクロ

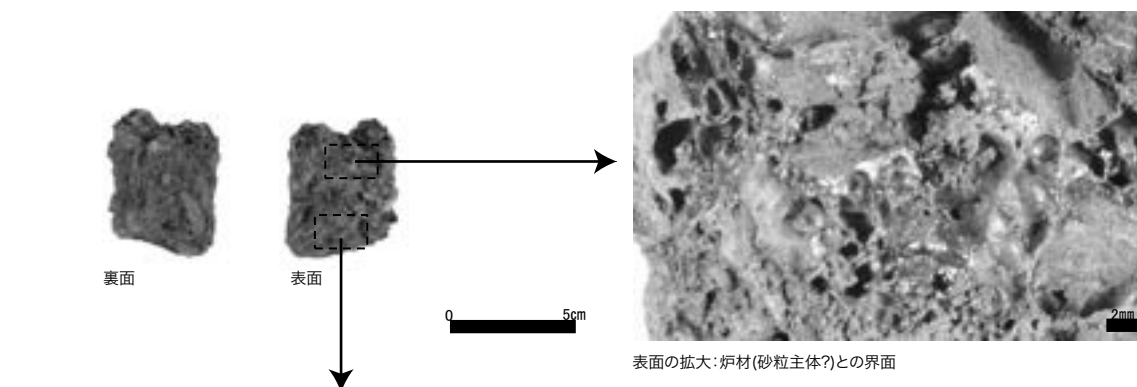


表面の拡大:鉄錆粒子(2~3mm)

第 122 図、第 58 表

- 80×70×45 mm、重さは 182.4g を計る。
- 黒色で光沢ある流状滓と砂粒が合体したものであると思われる。
- 一部には発泡したスラグおよび 2 ~ 10 mm の鉄錆粒子が存在する。
- 底部は No.183 と同様に数mm厚さで砂粒層が焼き付いている。

第 132 図 鉄滓 No.188 の外観および表面マクロ



表面の拡大:鉄錆粒子(2~3mm)

第 122 図、第 58 表

- 60×40×40 mm、重さ 61.8g を計る。
- 茶褐色で大きな空孔を有しており、スラグと数mmの鉄錆、板状物質などが合体したものであると思われる。
- この板状物質は No.183 試料中に存在した磁鉄鉱と同様の物質であると思われる。

第 133 図 鉄滓 No.185 の外観および表面マクロ



版



調査区全景



1.1区全景（北より）



2.2区全景（北より）



1. 4区全景（南より）



2. 施行前全景（北より）



3. 基本層序1（南北南側）



4. 基本層序1（南北北側）



5. 基本層序1（東西）



6. 基本層序2（東西）



7. 基本層序2（南北北側）



8. 基本層序2（南北南側）



1. 基本層序 5 (東西北側)



2. 基本層序 5 (東西南側)



3. 基本層序 5 (南北)



4. 基本層序 3 (南北)



5. 基本層序 3 (東西東側)



6. 基本層序 3 (東西西側)



1. 基本層序4 (東西南側)



2. 基本層序4 (南北南側)



3. 基本層序4 (南北北側)



4. 基本層序4 (東西北側)



5. 旧石器礫群1 (西より)



6. 旧石器礫群1 (北より)



7. 旧石器礫群2 (1面西より)



8. 旧石器礫群2 (2面西より)



1. 868号土坑（南より）



2. 871号土坑（西より）



3. 896号土坑（南より）



4. 924号土坑（北より）



5. 947号土坑（東より）



6. 5号住居跡（北より）



7. 5号住居跡遺物出土状況（東より）



8. 6号住居跡（南より）



1. 6号住居跡粘土板炉 (東より)



2. 6号住居跡粘土板炉 sec (南より)



3. 6号住居跡粘土板炉完掘 (西より)



4. 6号住居跡掘り方 (南より)



5. 285号住居跡遺物出土状況1 (北より)



6. 285号住居跡遺物出土状況2 (北より)



7. 285号住居跡 (北より)



8. 281号住居跡 (南より) .JPG



1. 282号住居跡遺物出土状況（南より）



2. 282号住居跡カマド袖（南より）



3. 282号住居跡（南より）



4. 283号住居跡（南より）



5. 283号住居跡カマドsec（西より）



6. 283号住居跡カマド掘り方（南より）



7. 284号住居跡（東より）



8. 58号溝跡遺物出土状況（東より）



1. 58号溝跡東側（西より）



2. 58号溝跡西側（東より）



3. 59号溝跡北側（南より）



4. 59号溝跡南側（南より）



5. 59号溝跡南側 sec（東より）



6. 61号溝跡遺物出土状況1（南より）



7. 61号溝跡遺物出土状況2（南より）



8. 62号溝跡遺物出土状況



1. 61・62号溝跡（西より）



2. 61・62号溝跡（東より）



3. 60号溝跡（北より）



4. 63号溝跡（西より）



5. 41号井戸跡（北より）



6. 41号井戸跡足掛け穴（北より）



7. 42号井戸跡（西より）



8. 43号井戸跡（西より）



1. 44号井戸跡貝検出状況（東より）



2. 44号井戸跡（東より）



3. 45号井戸跡（西より）



4. 46号井戸跡（西より）



5. 47号井戸跡（西より）



6. 47号井戸跡足掛け穴（西より）



7. A群2類881号土坑（南より）



8. A群2類882号土坑（東より）



1. B群2類 835号土坑 (東より)



2. B群2類 836号土坑 (東より)



3. B群2類 837号土坑 (東より)



4. B群2類 839号土坑 (東より)



5. B群2類 841号土坑 (西より)



6. B群2類 842号土坑 (西より)



7. B群2類 843号土坑 (南より)



8. B群2類 850号土坑 (南より)



1. B群2類866号土坑(西より)



2. B群2類880号土坑(南より)



3. B群2類885号土坑(南より)



4. B群2類891号土坑(南より)



5. B群2類898号土坑(南より)



6. B群2類912号土坑(東より)



7. B群2類917号土坑(南より)



8. B群2類920・921・922号土坑(西より)



1. B群3類847号土坑(南より)



2. B群3類856号土坑(南より)



3. B群3類858号土坑(東より)



4. B群3類893号土坑(南より)



5. B群3類895号土坑(西より)



6. B群3類925号土坑(北より)



7. B群3類927号土坑(東より)



8. B群3類949号土坑(北より)



1. C群 853号土坑 (西より)



2. C群 855号土坑 (南より)



3. C群 876号土坑 (北より)



4. C群 888号土坑 (西より)



5. C群 897号土坑 (西より)



6. C群 908号土坑 (西より)



7. C群 909号土坑 (西より)



8. C群 941号土坑 (南より)



1. C群 943号土坑 (南より)



2. C群 945号土坑 (南より)



3. D群 849号土坑 (西より)



4. D群 859号土坑 (東より)



5. D群 865号土坑 (東より)



6. D群 865号土坑 (南より)



7. D群 867号土坑 (西より)



8. D群 869号土坑 (南より)



1. D群 861 号土坑北側（南より）



2. D群 861 号土坑南側（北より）



3. D群 887 号土坑（西より）



4. D群 889 号土坑（西より）



5. D群 913 号土坑（西より）



6. D群 931 号土坑（南より）



1. E群1類834号土坑(西より)



2. E群1類834号土坑(北より)



3. E群1類834号土坑坑底(西より)



4. E群1類834号土坑竪坑検出(北より)



5. E群1類845号土坑砂利検出状況(西より)



6. E群1類845号土坑(西より)



7. E群1類845号土坑(南より)



8. E群1類845号土坑(北より)



1. E群1類846号土坑(東より)



2. E群1類846号土坑(北より)



3. E群1類864号土坑(西より)



4. E群1類864号土坑(南より)



5. E群1類864号土坑坑底(南より)



6. E群1類864号土坑竖坑(南より)



7. E群1類878号土坑(南より)



8. E群1類878号土坑(北より)



1. E群1類878号土坑(西より)



2. E群1類878号土坑(東より)



3. E群1類878号土坑坑底(西より)



4. E群1類878号土坑坑底(東より)



5. E群1類904号土坑(西より)



6. E群1類904号土坑(北より)



7. E群1類904号土坑竪坑(西より)



8. E群1類904号土坑竪坑(北より)



1. 147号ピット遺物出土状況上層（南より）



2. 147号ピット遺物出土状況中層（南より）



3. 147号ピット遺物出土状況下層（南より）



4. 147号ピット（南より）



5. 165号ピット貝出土状況（西より）



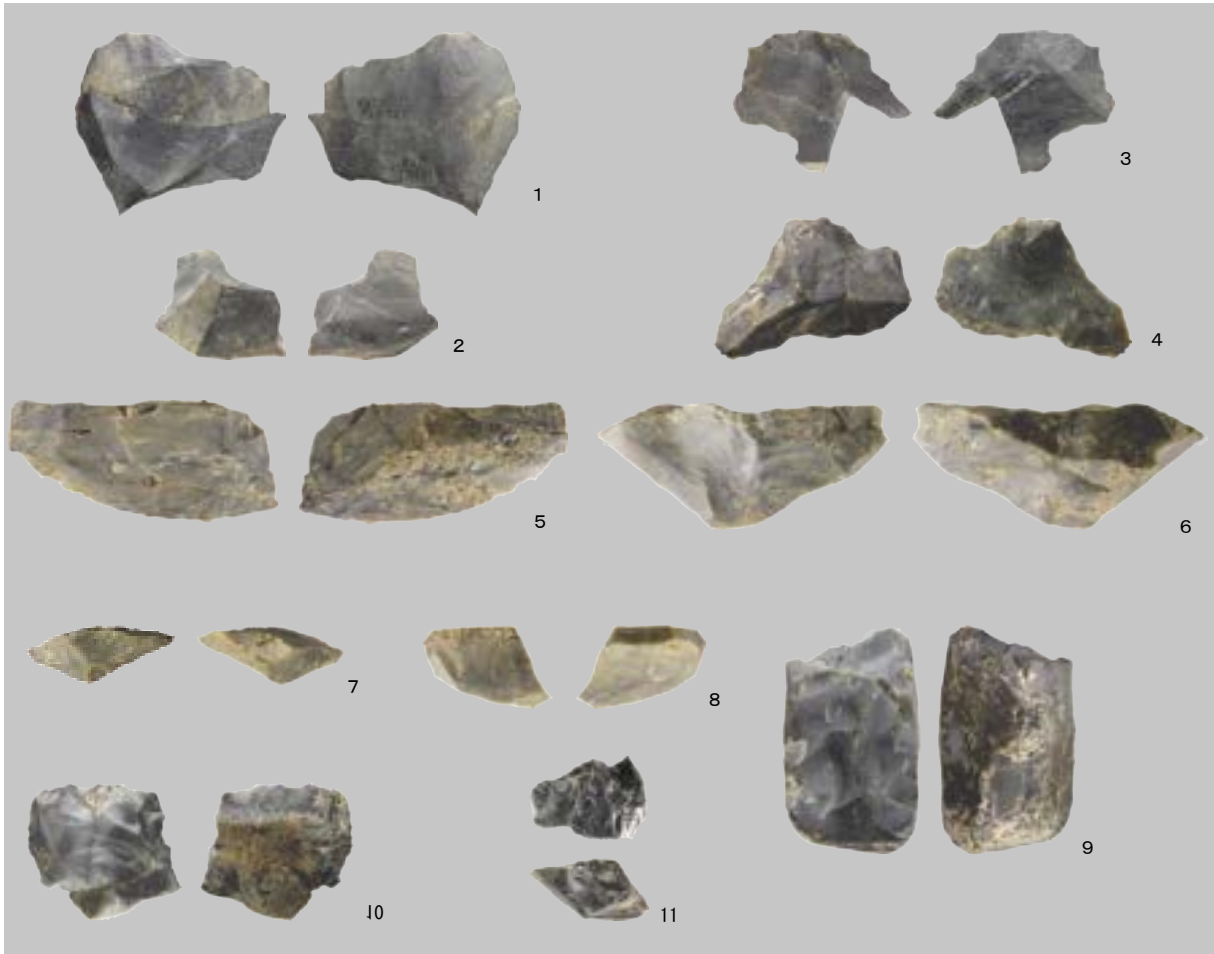
6. 165号ピット（西より）



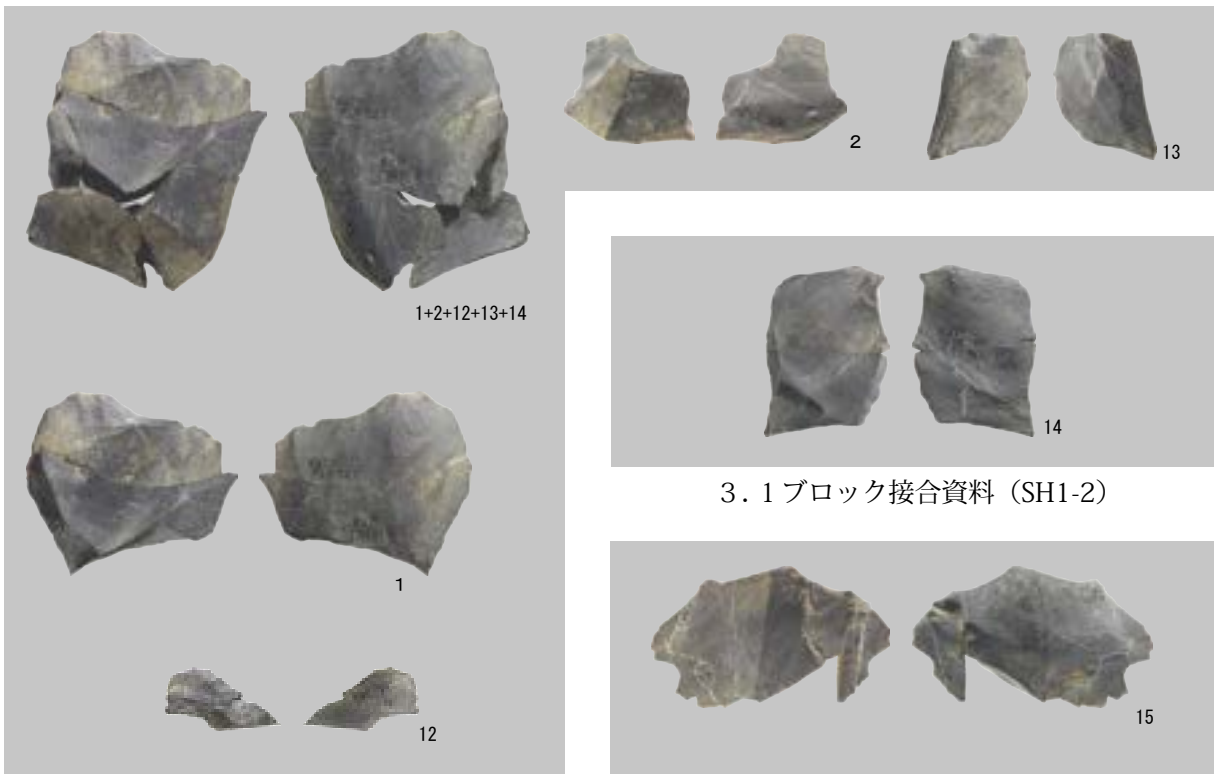
7. 作業風景



8. 現地中学生の現場見学

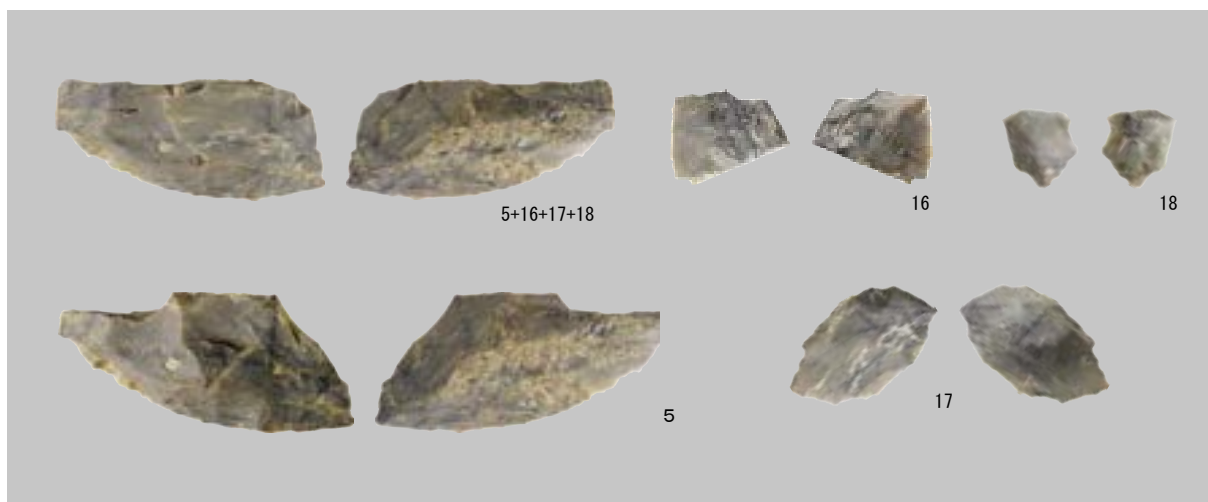


1. 1ブロック出土遺物

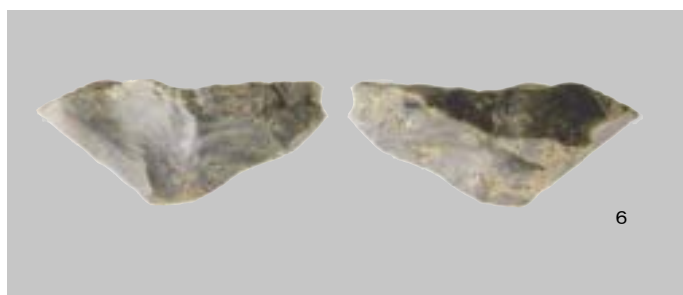


2. 1ブロック接合資料 (SH1-1)

4. 1ブロック接合資料 (SH1-3)



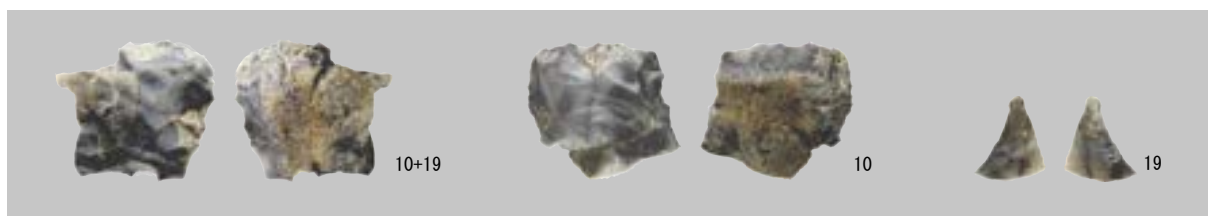
1. 1 ブロック接合資料 (CH1-1)



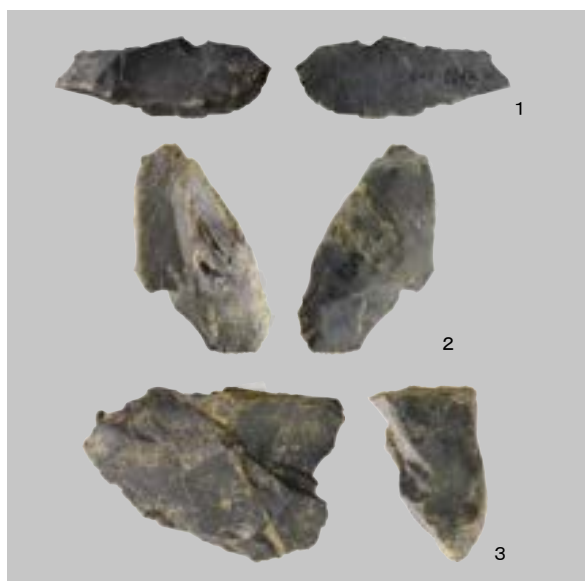
2. 1 ブロック接合資料 (CH1-2)



3. 1 ブロック接合資料 (CH2-1)



4. 1 ブロック接合資料 (CH3-1)



5. 2 ブロック出土遺物



6. 遺構外出土旧石器時代遺物



1. 868号土坑



2. 871号土坑



3. 924号土坑



4. 214号ピット



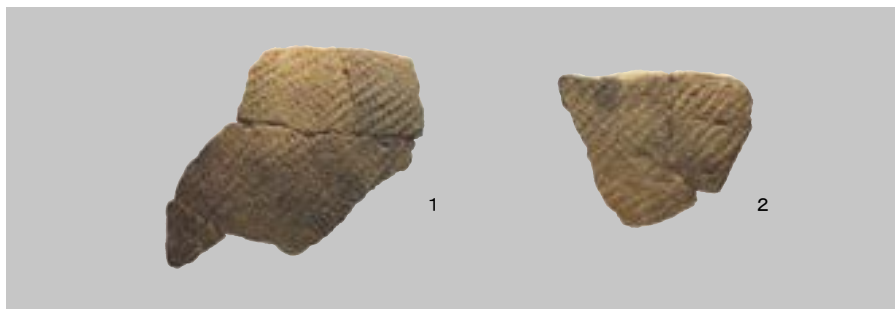
5. 526号ピット



6. 621号ピット



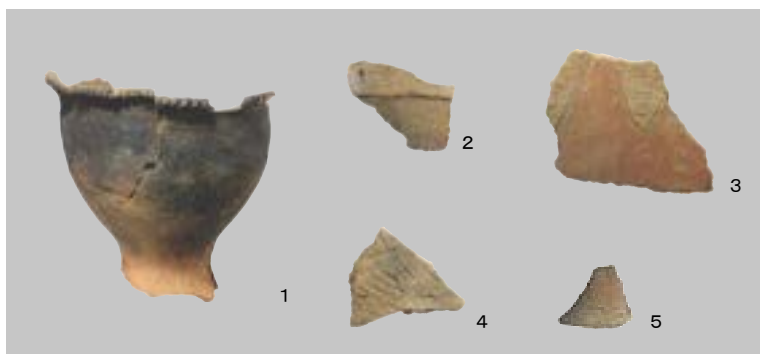
7. 924号ピット



8. 929号ピット



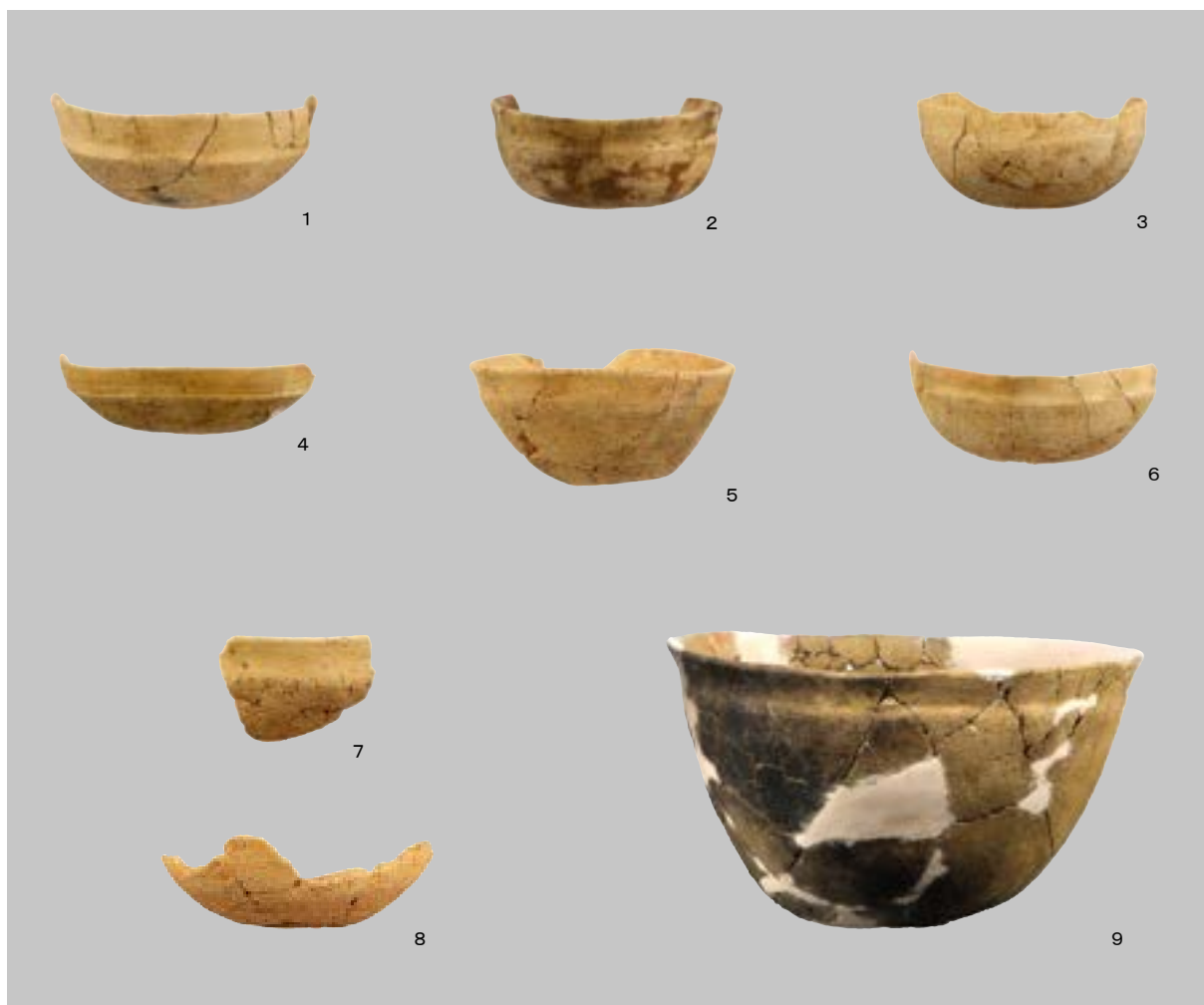
9. 594号ピット



10. 5号住居跡



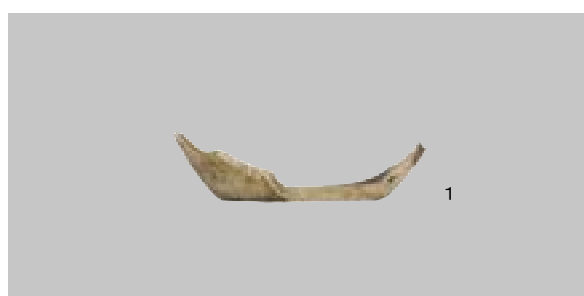
11. 6号住居跡



1. 285 号住居跡



2. 281 号住居跡



3. 283 号住居跡



4. 284 号住居跡



5. 282 号住居跡



1. 59号沟迹



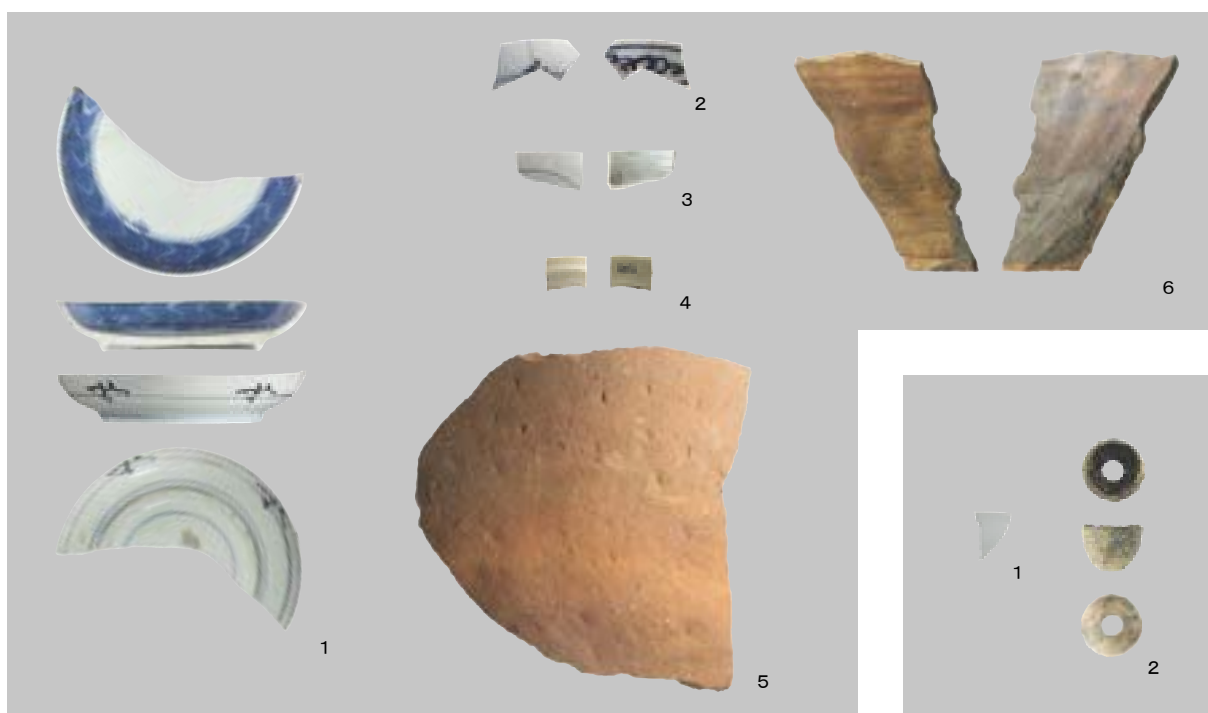
2. 61号沟迹



3. 62号沟迹



1. 43号井戸跡



2. D群931号土坑

3. B群2類836号土坑



4. B群2類839号土坑



5. C群855号土坑



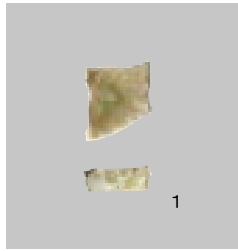
6. D群859号土坑



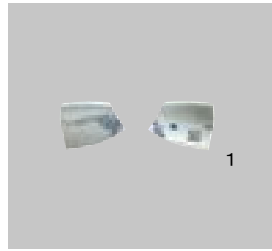
7. B群2類874号土坑



1. B群2類 875号土坑



2. B群2類 884号土坑



3. B群2類 885号土坑



4. C群 888号土坑



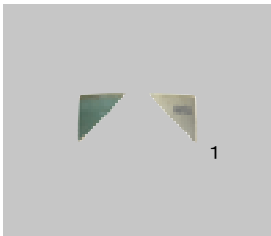
5. B群2類 890号土坑



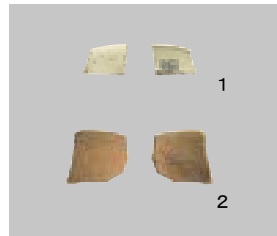
6. B群2類 900号土坑



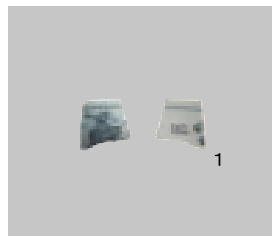
7. B群2類 917号土坑



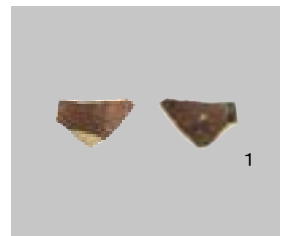
8. C群 920号土坑



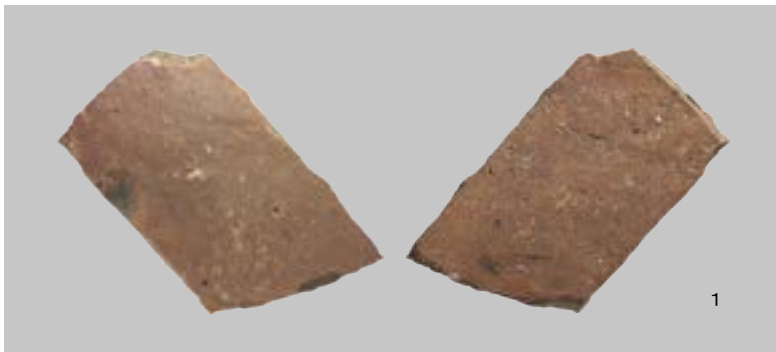
9. D群 938号土坑



10. B群2類 939号土坑



11. B群2類 944号土坑



12. B群2類 948号土坑



13. E群1類 834号土坑



14. E群1類 845号土坑



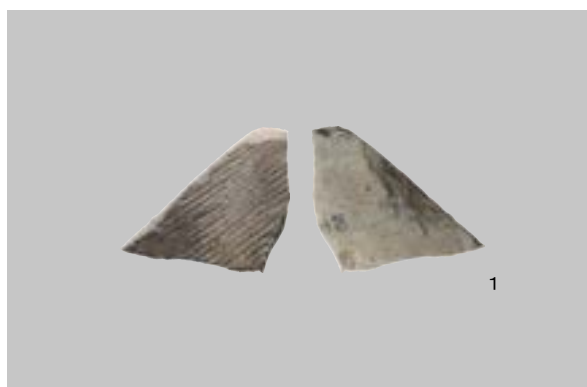
1. E群1類 864号土坑



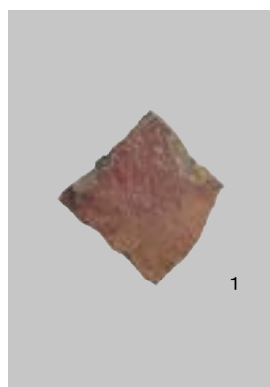
2. E群1類 904号土坑



3. 9号掘立柱建築遺構



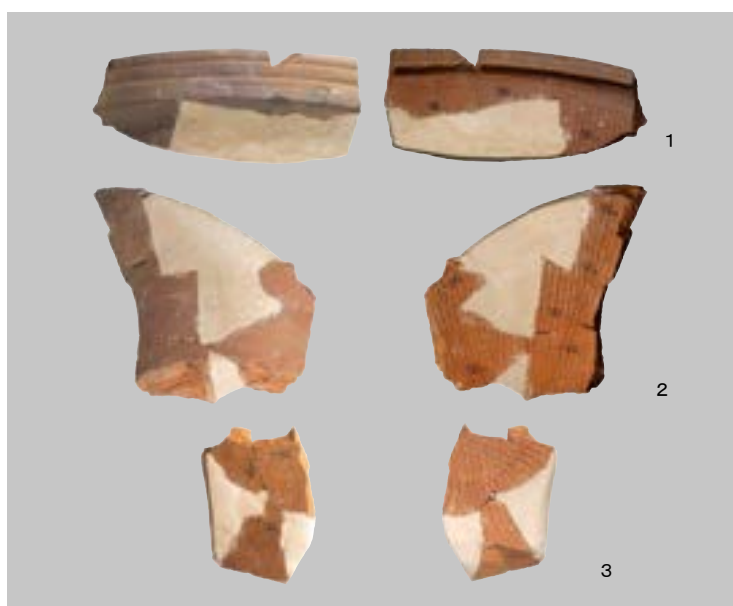
4. 柱穴列跡



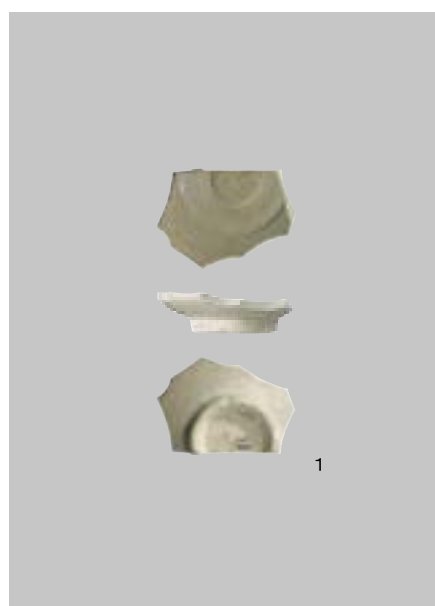
5. 32号ピット



6. 326号ピット



7. 147号ピット



8. 328号ピット



1. 479号ピット



2. 602号ピット



3. 674号ピット



4. 749号ピット



5. 897号ピット



6. 遺構外出土石器 1



遺構外出土石器 2



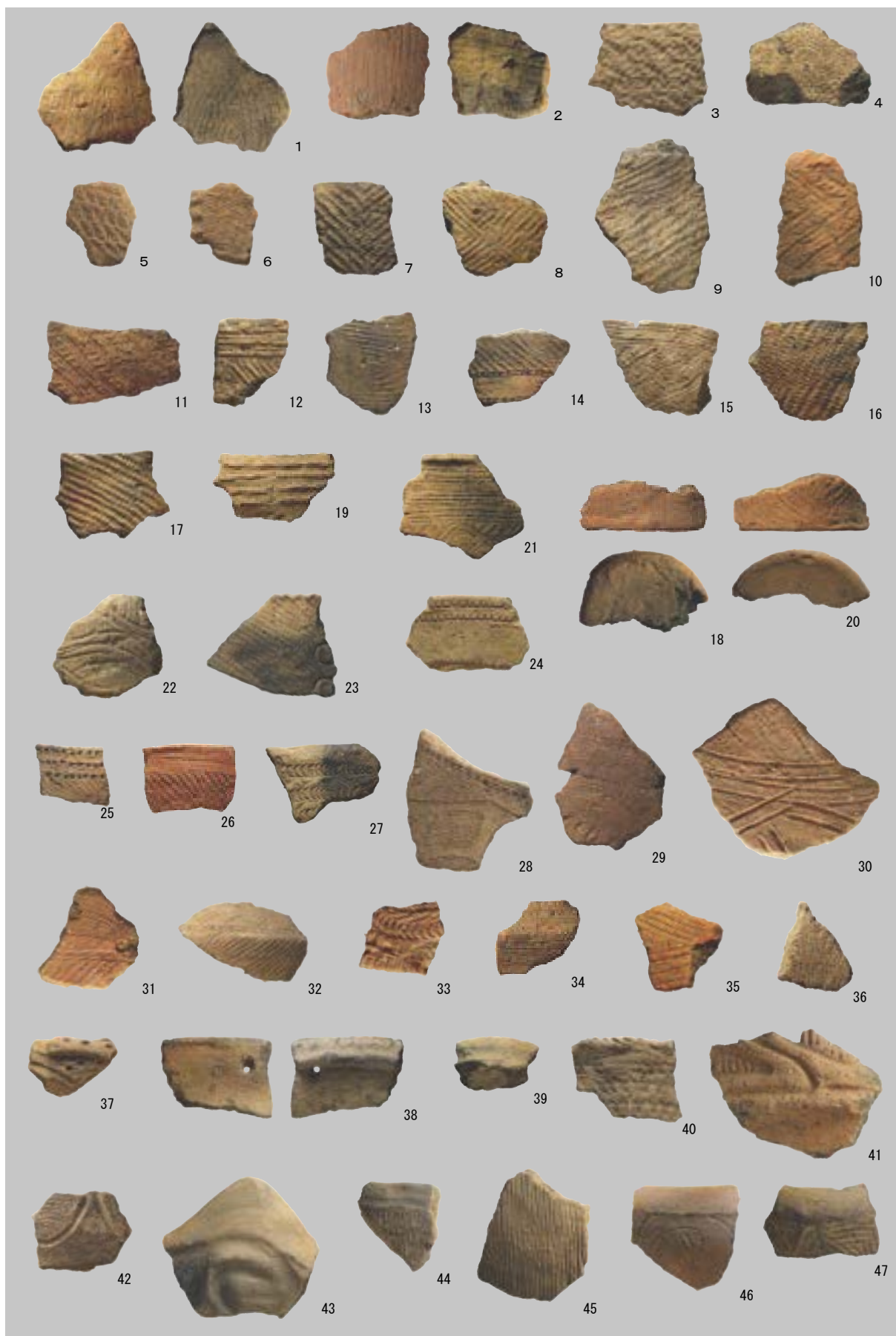
遺構外出土石器 3



遺構外出土石器 4



遺構外出土石器 5



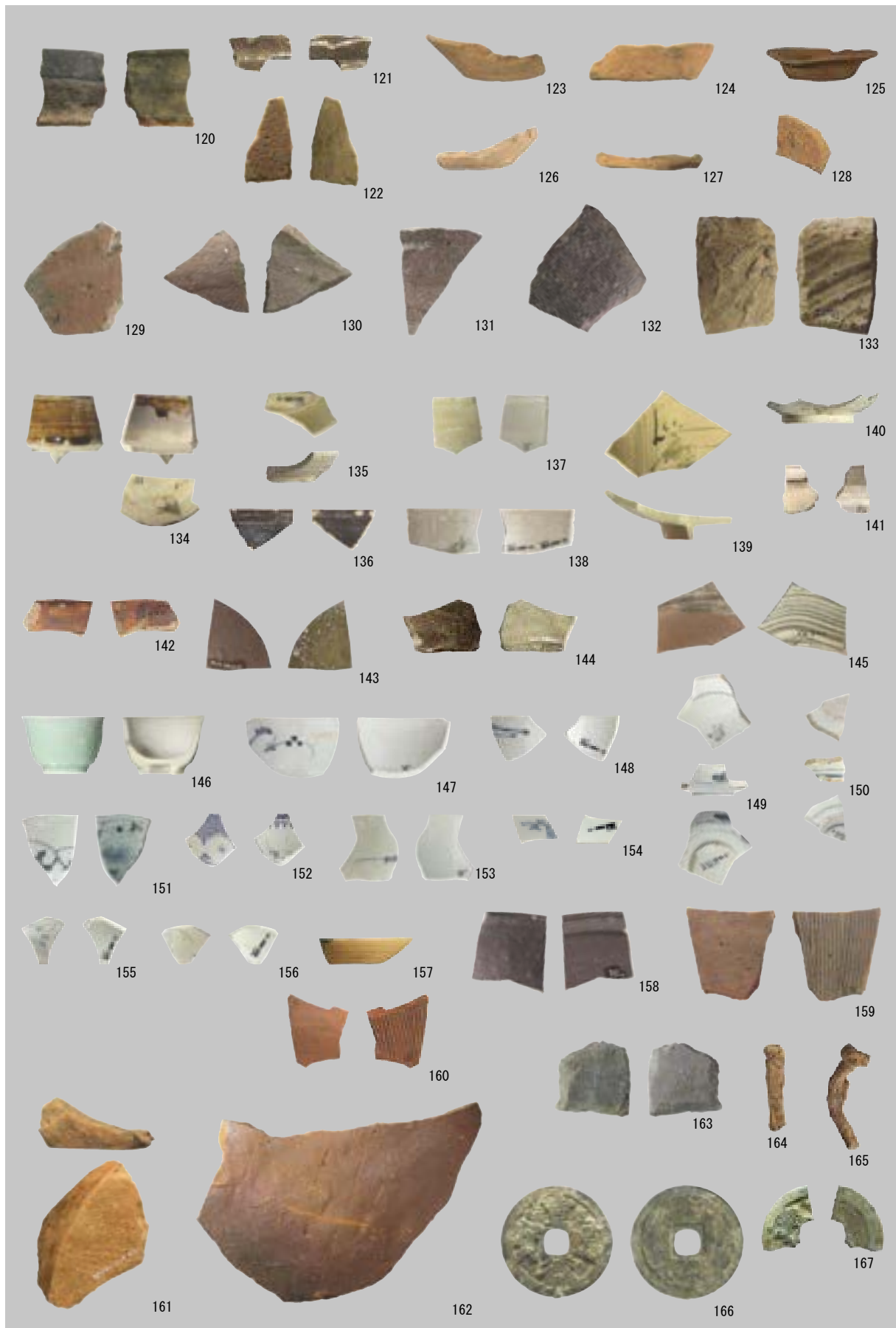
遺構外出土繩文土器 1



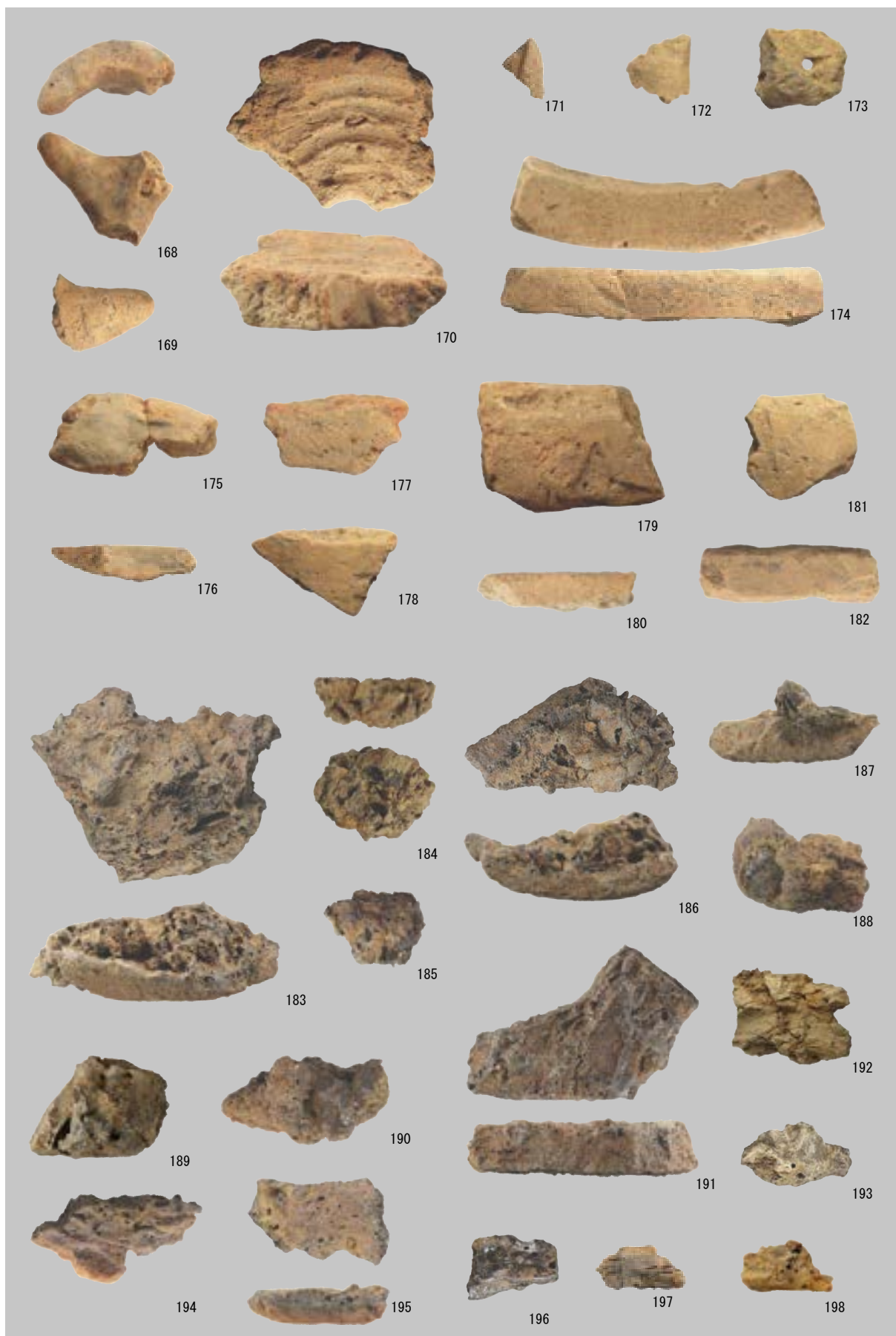
遺構外出土縄文土器 2・弥生～古墳時代土器 1



遺構外出土弥生~古墳時代土器 2・奈良~平安時代土器・中世以降土器・陶磁器 1



遺構外出土中世以降土器・陶磁器 2・土製品・金属製品・錢貨



遺構外出土鍛冶炉関連遺物



- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1.二枚貝類 (地下室845号土坑・第86図) | 2.アカニシ類 (地下室864845号土坑・第90図) |
| 3.アカニシ類 (165号ピット・第100図) | 4.チリメンカワニナ (61号溝跡・第62図) |
| 5.マルタニシ幼貝 (61号溝跡・第62図) | 6.マルタニシ (61号溝跡・第62図) |
| 7.マツカサガイ左殻 (61号溝跡・第62図) | 8.マツカサガイ右殻? (61号溝跡・第62図) |
| 9.チリメンカワニナ (44号井戸跡・第66図) | 10.マルタニシ幼貝 (44号井戸跡・第66図) |
| 11.マルタニシ (44号井戸跡・第66図) | 12.マツカサガイ左殻 (44号井戸跡・第66図) |
| 13.左上顎第1～3乳臼歯 (59号溝跡・第55図) | 14.右上顎第1～3乳臼歯 (59号溝跡・第55図) |
| 15.左下顎第1～3乳臼歯 (59号溝跡・第55図) | 16.右下顎第1～3乳臼歯 (59号溝跡・第55図) |
| 17.ウマ左上顎歯 (61号溝跡・第62図) | 18.ウマ上顎歯 (61号溝跡・第62図) |

報告書抄録

ふりがな	しろやまいせきだい71ちてんまいぞうぶんかざいはくつちようさほうこくしょ							
書名	城山遺跡第71地点埋蔵文化財発掘調査報告書							
副書名								
シリーズ名	志木市の文化財	巻次	第54集					
編著者	尾形則敏・大久保聡・中山哲也・二瓶秀幸・稲村太郎・加藤夏姫							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号 TEL 048(473)1111							
発行年月日	平成25(2013)年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 (° ' ")	東経 (° ' ")	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
城山遺跡 (第71地点)	志木市柏町 3丁目2603の 一部、2611、 2613-1・2・6	11228	09-003	35°49'58"	139°34'15"	20110808 ～ 20111222	1971.84	宅地造成 を伴う住 宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
しろやま 城山遺跡 (第71地点)		旧石器時代 縄文時代 早期～晩期 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世以降	石器ブロック 2基 礫群 9基 土坑 5基 ピット 30基 住居 2軒 住居 1軒 住居 4軒 ピット 5基 溝跡 6本 井戸 7基 土坑 105基 地下室 6基 ピット 903基 掘立柱建築 1棟	石器・礫 土器・石器 土器 土器 土器・石製品 土器・炆器・磁器・ 鉄製品・板碑・骨・ 貝・鍛冶炉関連遺物	旧石器時代の遺構は石器ブロック・礫群が確認された。調査区南西部に遺物の集中区が確認でき、鍛冶関連と考えられる土製品・鉄滓が大量に出土した。			
要約	<p>今回の調査では、旧石器時代～近世に亘る遺構・遺物が発見された。特に調査区西側で発見された南北に延びる堀跡は、上幅約6m、下幅約1.5m、深さは地表面から約3.2mと規模が大きいため、第15地点で発見された堀跡と共に「柏の城」の内堀と考えられる。</p> <p>遺物は、旧石器時代の剥片・礫、縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器、古墳時代～奈良・平安時代の土師器・須恵器、中世～近世の磁器・陶器・カワラケなどが出土した。</p> <p>また、調査区南西部で出土した鉄滓は炉壁に付着した状態で生成、遺存していた可能性を指摘できる。このことから本遺跡および周辺において精錬もしくは鍛冶が行われており、それに伴う炉などの遺構が存在した可能性が指摘される。</p>							

志木市の文化財 第 54 集

城山遺跡第 71 地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発 行 埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡 1 丁目 1 番 1 号

発行日 平成 25 (2013) 年 3 月 31 日

印 刷

